授業名	**ブッダの教えｕａ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Teaching of Buddha	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**伊藤　茂樹**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」という４つのテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。				
学習成果到達目標	１）建学の理念を理解する。 ２）仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解する。 ３）仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解する。				
評価方法	定期試験（ 100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用能力　　）　□（　　）				
テキスト	『仏教入門－釈尊と法然上人の教え』佛教大学仏教学科編				
参考書	使用しない				
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。				
オフィスアワー	講義にて指示します。				

授　業　名	**ブッダの教えｕａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	（内　　容）宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	（内　　容）仏教を学ぶ目的と意義について概説します。華頂学園は、浄土宗総本山知恩院のもとにあります。宗教、仏教を学ぶ意義について学びましょう。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第3回	「仏教とは何か」	（内　　容）私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。仏教を通じて、インドの習俗は、私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第4回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアーリア人のインド侵入の時期までを概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第5回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）アーリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想（業・輪廻）について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと
第6回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第7回	「ブッダの生涯」	（内　　容）仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第8回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの出家の経緯（四門出遊）について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第9回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの出家・修業時代から悟りへの道を概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第10回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの「さとり」を中心に概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第11回	「ブッダの教え」	（内　　容）縁起説について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第12回	「ブッダの教え」	（内　　容）四諦説と八正道について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第13回	「ブッダの教え」	（内　　容）釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第14回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第15回	講義総括	（内　　容）講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。

授業名	**ブッダの教えｕｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Teaching of Buddha	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**南　宏信**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」という４つのテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。				
学習成果到達目標	１）建学の理念を理解する。 ２）仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解する。 ３）仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解する。				
評価方法	定期試験（ 100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用能力　　）　□（　　）			
テキスト	なし。				
参考書	使用しない。				
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。				
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。				

授　業　名	ブッダの教えｕｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	（内　　容）日本人の宗教観について共に考える。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「宗教とは何か」	（内　　容）宗教の目的と意義について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第3回	「宗教とは何か」	（内　　容）宗教の分類と「仏教」の位置付けについて概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第4回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアーリア人のインド侵入の時期までを概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第5回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）アーリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想（業・輪廻）について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第6回	「仏教成立の時代背景」	（内　　容）仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第7回	「ブッダの生涯」	（内　　容）仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第8回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの出家の経緯について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第9回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの出家の経緯について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第10回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの「さとり」を中心として種々なエピソードを含めつつ概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第11回	「ブッダの教え」	（内　　容）ブッダの教説「四諦説」の苦聖諦・苦集聖諦を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第12回	「ブッダの教え」	（内　　容）「四諦説」の苦滅聖諦・苦滅道聖諦と八正道について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第13回	「ブッダの教え」	（内　　容）「縁起説」について概説し、ブッダの教説が現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第14回	「ブッダの生涯」	（内　　容）ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第15回	講義総括	（内　　容）講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （必要な準備）全14回授業のノートを読み返しておくこと。(90分)

授業名	**法然上人の思想と生涯ｕａ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Saint Honen's Thought and His Life	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**伊藤　茂樹**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という４つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。
学習成果到達目標	1）建学の理念を理解する。 2）法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3）法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。
評価方法	定期試験（100 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ %）：□筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用能力 ） □（ ）
テキスト	『仏教入門－釈尊と法然上人の教え』佛教大学仏教学科編
参考書	使用しない
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。
オフィスアワー	講義にて指示します。

授　業　名	法然上人の思想と生涯ｕａ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「浄土教とは」	（内　　容）ブッダ亡き後の仏教教団の形成について概説します。 （必要な準備）ブッダの教えのノートを読み返しておくこと。
第2回	「浄土教とは」	（内　　容）大乗仏教の成立について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第3回	「浄土教とは」	（内　　容）浄土教思想の誕生と形成を概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第4回	「浄土教とは」	（内　　容）中国での浄土教思想の発展を概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第5回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）日本への仏教伝来から奈良仏教までを概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第6回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）平安時代の仏教を概説します。法然上人の生きた時代の背景を学びます。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第7回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）末法思想の流布。日本での浄土教思想の展開を概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第8回	「法然上人の生涯」	（内　　容）誕生から出家・修学時代を概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第9回	「法然上人の生涯」	（内　　容）求道の遍歴から浄土宗開宗について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第10回	「法然上人の教え」	（内　　容）阿弥陀仏の本願について概説します。往生と成仏について理解します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第11回	「法然上人の教え」	（内　　容）法然上人の教え「選択本願念仏」について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第12回	「法然上人の教え」	（内　　容）法然上人の信者、弟子たちについて概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第13回	「法然上人の教え」	（内　　容）東大寺講説、大原問答等について概説します。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第14回	「法然上人の生涯」	（内　　容）念仏の興隆と法難、法然上人の入滅。専修念仏教団の展開について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。
第15回	講義総括	（内　　容）講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。

授業名	**法然上人の思想と生涯ｕｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Saint Honen's Thought and His Life	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**南　宏信**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という４つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。				
学習成果到達目標	１）建学の理念を理解する。 ２）法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 ３）法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。				
評価方法	定期試験（ 100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用能力　　）　□（　　）			
テキスト	なし。				
参考書	使用しない。				
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。				
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。				

授　業　名	**法然上人の思想と生涯ｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「浄土教とは」	（内　　容）ブッダ亡き後の仏教教団の形成について概説する。 （必要な準備）ブッダの教えのノートを読み返しておくこと。(60分)
第2回	「浄土教とは」	（内　　容）部派仏教から大乗仏教成立までを概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第3回	「浄土教とは」	（内　　容）浄土教思想の誕生と形成を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第4回	「浄土教とは」	（内　　容）中国での浄土教思想の発展を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第5回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）日本への仏教伝来から奈良仏教までを概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第6回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）平安時代の仏教を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第7回	「法然上人の生きた時代」	（内　　容）日本での浄土教思想の展開を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第8回	「法然上人の生涯」	（内　　容）誕生から出家・修学時代を概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第9回	「法然上人の生涯」	（内　　容）求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第10回	「法然上人の教え」	（内　　容）阿弥陀仏の本願について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第11回	「法然上人の教え」	（内　　容）往生と成仏について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第12回	「法然上人の教え」	（内　　容）本願念仏から選択本願念仏について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第13回	「法然上人の教え」	（内　　容）念仏のこころ、愚者の自覚について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第14回	「法然上人の生涯」	（内　　容）念仏の興隆と法難、法然上人以後の展開について概説する。 （必要な準備）前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第15回	講義総括	（内　　容）講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （必要な準備）全14回授業のノートを読み返しておくこと。(90分)

授業名	**総合基礎演習Ｉｓａ・Ｉｓｂ・Ｉｓｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**斧出　節子・藤井　伸生・山川　宏和**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを交流し相互理解を深めながら、各学生の学びの方向性を明確にする。
学習成果到達目標	1）コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2）プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3）マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見し、必要な資料を収集することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社
参考書	適宜参考書を紹介する。
留意事項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りをしたいので、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。

授　業　名	**総合基礎演習Ｉｓａ・Ｉｓｂ・Ｉｓｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）春学期の授業の進め方について （必要な準備）テキストを購入しておく
第2回	文章の書き方の基本ルールを学ぶ	（内　　容）文章の基本的な表記法について （必要な準備）テキストの第1章を読んでおく
第3回	自分で調べる方法を学ぶ	（内　　容）インターネットや学術書等からの情報収集方法 （必要な準備）パソコン操作を確認しておく
第4回	レポート提出の方法を学ぶ	（内　　容）ファイルを添付してメールを送る方法 （必要な準備）パソコン操作を確認しておく
第5回	プレゼンテーション	（内　　容）プレゼンテーションの実施手順について （必要な準備）パソコン操作を確認しておく
第6回	個人別プレゼンにむけた情報検索①インターネット検索実践演習	（内　　容）インターネットでの資料検索方法の実践 （必要な準備）テキストの第３章を読んでおくこと
第7回	個人別プレゼンにむけた情報検索②資料(紙媒体)検索実践演習	（内　　容）学術書等紙媒体からの資料検索の実践 （必要な準備）テキストの第３章を読んでおくこと。
第8回	個人別プレゼンにむけた情報検索③資料検索実践総合演習	（内　　容）インターネットを含む資料検索の総合実践演習 （必要な準備）個人発表の内容を具体的に考えてくること。
第9回	個人別プレゼンテーションと討論①　第１グループ	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第10回	個人別プレゼンテーションと討論②　第２グループ	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第11回	個人別プレゼンテーションと討論③　第３グループ	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第12回	個人別プレゼンテーションと討論④　第４グループ	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第13回	1回生ゼミ連絡会	（内　　容）(夏期休暇中のレポート課題発表・夏期ボランティア等紹介) （必要な準備）進路を見据えた夏期休暇中の計画の事前準備
第14回	レポート・文章の書き方(基本)まとめ	（内　　容）発表を終えての文章の書き方・1200字程度のレポート作成について （必要な準備）春学期の振り返りをしておくこと。
第15回	春学期到達度確認・まとめ	（内　　容）秋学期に向けて課題を考える。 （必要な準備）秋学期に向けての課題を考えておくこと。

授業名	**総合基礎演習Ｉｔａ・Ｉｔｂ・Ｉｔｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**竹市　仁美・猿渡　綾子・岩佐　真代**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを共有し、相互理解を深めるとともに、これから大学で学んでいくにあたっての基礎力を身につける。
学習成果到達目標	1）コミュニケーション能力の基礎力を身につける。 2）プレゼンテーション能力の基礎力を身につける。 3）マネージメント能力の基礎力を身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	『図解　栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人 『生物基礎　基礎をしっかり固めるトレーニングノートα』受験研究社 『化学基礎　基礎をしっかり固めるトレーニングノートα』受験研究社
参考書	適宜参考書を紹介する。
留意事項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りをしたいので、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。

授　業　名	**総合基礎演習Ｉｔａ・Ｉｔｂ・Ｉｔｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）春学期の授業の進め方について （必要な準備）テキストを購入しておく シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておく（３０分）
第2回	大学でのノートの取り方・レポートの書き方	（内　　容）大学でのノート作成方法・レポートの書き方について学ぶ （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく（３０分）
第3回	プレゼンテーションの仕方	（内　　容）プレゼンテーションの意味・実施手順について学ぶ （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく（３０分）
第4回	資料の探し方	（内　　容）図書館において資料の探し方を学ぶ （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく（３０分）
第5回	グループプレゼン実践・Ａグループ	（内　　容）Ａグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第6回	グループプレゼン実践・Ｂグループ	（内　　容）Ｂグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第7回	グループプレゼン実践・Ｃグループ	（内　　容）Ｃグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第8回	グループプレゼン実践・Ｄグループ	（内　　容）Ｄグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第9回	グループプレゼン実践・Ｅグループ	（内　　容）Ｅグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第10回	グループプレゼン実践・Ｆグループ	（内　　容）Ｆグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第11回	グループプレゼン実践・Ｇグループ	（内　　容）Ｇグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第12回	グループプレゼン実践・Ｈグループ	（内　　容）Ｈグループが与えられた課題のプレゼンを行う （必要な準備）問題集の指定箇所を解いておく 発表グループは発表準備をしておく（３０分）
第13回	管理栄養士の仕事内容と役割	（内　　容）４グループに分かれて各グループ１つのテーマについてプレゼンをおこなう （必要な準備）配布資料を準備しておく（３０分）
第14回	グループプレゼン前半のまとめ	（内　　容）前半のプレゼンの振り返りを行う（小テスト） （必要な準備）問題集の該当箇所を復習しておく（３０分）
第15回	グループプレゼン後半のまとめ 夏休みの課題について	（内　　容）後半のプレゼンの振り返りを行う（小テスト） 夏休みの課題についての説明 （必要な準備）問題集の該当箇所を復習しておく（３０分）

授業名	**総合基礎演習Ⅱｓａ・Ⅱｓｂ・Ⅱｓｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**斧出　節子・藤井　伸生・山川　宏和**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	グループで企画を立て実践し、省察する。また、２回生以降の学びの目標をどこにおくかを考え、自分自身の課題設定を行う。				
学習成果到達目標	１）資料を収集し、レポートを作成する能力を身につけ、他の学生へプレゼンテーションすることができる。 ２）４年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・マネージメント能力が身に付く。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。発表の形式は各ゼミの運営によって変更することがある。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。				

授　業　名	総合基礎演習Ⅱｓａ・Ⅱｓｂ・Ⅱｓｃ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	夏季レポートのプレゼンテーション①	（内　　容）レポートにもとづいたプレゼン （必要な準備）プレゼン資料
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション②	（内　　容）レポートにもとづいたプレゼン （必要な準備）プレゼン資料
第3回	夏季レポートのプレゼンテーション③	（内　　容）レポートにもとづいたプレゼン （必要な準備）プレゼン資料
第4回	企画に基づいたグループ活動①企画	（内　　容）企画に基づいた活動。 （必要な準備）企画実施に必要なことを考えておくこと。
第5回	企画に基づいたグループ活動②実践	（内　　容）企画に基づいた活動。 （必要な準備）企画実施に必要なことを考えておくこと。
第6回	プレゼンにむけた情報検索①インターネット検索実践演習	（内　　容）ネットでの資料検索方法の実践 （必要な準備）テキストの第２章を読んでおくこと
第7回	プレゼンにむけた情報検索②資料(紙媒体)検索実践演習	（内　　容）学術書等紙媒体からの資料検索の実践 （必要な準備）テキストの第２章を読んでおくこと。
第8回	プレゼンにむけた情報検索③資料検索実践総合演習	（内　　容）ネットを含む資料検索の総合実践演習 （必要な準備）発表の内容を具体的に考えてくること。
第9回	個人プレゼンテーションと討論①	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第10回	個人プレゼンテーションと討論②	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第11回	個人プレゼンテーションと討論③	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第12回	個人プレゼンテーションと討論④	（内　　容）個人発表をする。 （必要な準備）発表内容の資料をつくってくること。
第13回	レポート・文章の書き方　(応用)まとめ	（内　　容）個人発表を踏まえたレポート作成 （必要な準備）個人発表の資料を持参すること。
第14回	秋学期の到達度確認	（内　　容）春学期・秋学期の自己到達点を考える。 （必要な準備）１年間の振り返りをしておくこと。
第15回	まとめ	（内　　容）２回生に向けての課題を考える。 （必要な準備）課題を考えてくること。

授業名	**総合基礎演習Ⅱｔａ・Ⅱｔｂ・Ⅱｔｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**竹市　仁美・猿渡　綾子・岩佐　真代**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰに引き続きこれからの大学での学びの基礎力を身につけるとともに、２回生以降の学びの目標をどこにおくかを考え、自分自身の課題設定を行う。				
学習成果到達目標	1）資料を収集し、レポートを作成する能力を身につけ、他の学生へプレゼンテーションすることができる。 2）４年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・マネージメント能力を身に付ける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	『図解　栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	総合基礎演習Ⅱｔａ・Ⅱｔｂ・Ⅱｔｃ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）秋学期の授業の進め方について （必要な準備）夏季課題を忘れずに持参すること シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておく（３０分）
第2回	プレゼンテーションの企画・準備（推薦図書）	（内　　容）各自が夏休みの間に選んだ図書についてプレゼンテーションの企画、準備をおこなう。 （必要な準備）夏休みの間に選んだ図書の内容を振り返っておく（３０分） またその図書を持参すること
第3回	レポートの書き方・説明	（内　　容）レポートの書き方の基本を学ぶ （必要な準備）テキストの該当部分を読んでおく（３０分）
第4回	レポートの書き方・実践	（内　　容）実際にレポートを作成してみる （必要な準備）データをまとめておく（３０分）
第5回	個人別プレゼンテーション・図書の紹介（前半）	（内　　容）前半のメンバーが各自夏休みの間に選んだ図書についてプレゼンをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第6回	個人別プレゼンテーション・図書の紹介（後半）	（内　　容）後半のメンバーが各自夏休みの間に選んだ図書についてプレゼンをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第7回	夏季課題のプレゼンテーション・グループA	（内　　容）グループAによる夏季課題にもとづいたプレゼンテーション （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第8回	夏季課題のプレゼンテーション・グループB	（内　　容）グループBによる夏季課題にもとづいたプレゼンテーション （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第9回	夏季課題のプレゼンテーション・グループC	（内　　容）グループCによる夏季課題にもとづいたプレゼンテーション （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第10回	夏季課題のプレゼンテーション・グループD	（内　　容）グループDによる夏季課題にもとづいたプレゼンテーション （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第11回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ１のプレゼン	（内　　容）グループ１が個人別にプレゼンテーションをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第12回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ2のプレゼン	（内　　容）グループ2が個人別にプレゼンテーションをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第13回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ3のプレゼン	（内　　容）グループ3が個人別にプレゼンテーションをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第14回	個人別プレゼンテーションと討論・グループ4のプレゼン	（内　　容）グループ4が個人別にプレゼンテーションをおこなう （必要な準備）プレゼンの準備をしておく（３０分）
第15回	２回生に向けて	（内　　容）1回生の1年間を振り返り、２回生に向けての課題を考える （必要な準備）課題を考えてくること（３０分）

授業名	**英語Ⅰua**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**奥　尚子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	1）英語基本５文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2）テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	Ghost- ニューヨークの幻、角山照彦著(センゲージラーニング)
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(13時40分～14時40分)

授　業　名	**英語Ｉｕａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 The Lost	（内　　容）pp. 8～13 （必要な準備）pp. 8～13の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第3回	Unit 2 Unchained Melody	（内　　容）pp. 14～19 （必要な準備）pp. 14～19の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第4回	Unit 3 Life After Death	（内　　容）pp. 20～25 （必要な準備）pp. 20～25の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第5回	Unit 4 Willy Lopez	（内　　容）pp. 26～31 （必要な準備）pp. 26～31の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第6回	Unit 5 Spiritual Adviser	（内　　容）pp. 32～37 （必要な準備）pp. 32～37の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第7回	Unit 6 The Truth	（内　　容）pp. 38～43 （必要な準備）pp. 38～43 の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第8回	Review1	（内　　容）Unit 1～6の復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第9回	Unit 7 The Police	（内　　容）pp. 44～49 （必要な準備）pp. 44～49の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第10回	Unit 8 Subway Ghost	（内　　容）pp. 50～55 （必要な準備）pp. 50～55の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第11回	Unit 9 Rita Miller	（内　　容）pp. 56～61 （必要な準備）pp. 56～61の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第12回	Unit 10 Revenge	（内　　容）pp. 62～67 （必要な準備）pp. 62～67の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第13回	Unit 11 The Penny	（内　　容）pp. 68～73 （必要な準備）pp. 68～73の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第14回	Unit 12 Last Chance	（内　　容）pp. 74～79 （必要な準備）pp. 74～79の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第15回	Review 2	（内　　容）Review　Unit 7～12までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習

授業名	**英語Ⅰub**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	『Notting Hill』神谷久美子（松柏社）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**英語Ｉｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill &'She'	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	（内　　容）Review　Unit1～3までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	（内　　容）Review　Unit4～5までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語調べ本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	（内　　容）Review　Unit6～8までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	（内　　容）Review　Unit9～10までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習

授業名	**英語Ⅰｕｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。				
学習成果到達目標	1）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3）英語四技能を段階的に修得することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■（語彙力 ） □（ ）				
テキスト	『Notting Hill』神谷久美子（松柏社）				
参考書	使用しない。				
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**英語Ｉｕｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill &'She'	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	（内　　容）Review　Unit1～3までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	（内　　容）Review　Unit4～5までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	（内　　容）Review　Unit6～8までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	（内　　容）Review　Unit9～10までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習

授業名	**英語Ⅰud**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	『Notting Hill』神谷久美子（松柏社）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**英語Ｉｕｄ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 William's Notting Hill &'She'	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Surreal, But Nice	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 A Goddess Is A Movie Star	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	（内　　容）Review　Unit1～3までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Birthday Party	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 A Date With Anna	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	（内　　容）Review　Unit4～5までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 She's Gone	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 She's Back	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Rude Awakening - Ain't No Sunshine	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Transcript	（内　　容）Review　Unit6～8までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第13回	Unit9 Like Me Again	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit10 The Right Decision - The Meaning of My Life Is She	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Transcript	（内　　容）Review　Unit9～10までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習

授業名	**英語Ⅱｕａ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	EnglishⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**奥　尚子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	1）英語基本５文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2）テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	American History in Focus、穐山 浩美/濱田 真由美（マクミランランゲージ）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(13時40分～14時40分)

授　業　名	**英語Ⅱｕａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。
第2回	Unit 1 The Ku Klux Klan	（内　　容）pp. 1～6 （必要な準備）pp. 1～6の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第3回	Unit 2 Elvis Presley	（内　　容）pp. 7～12 （必要な準備）pp. 7～12の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第4回	Unit 3 John F. Kennedy	（内　　容）pp. 13～18 （必要な準備）pp. 13～18の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第5回	Unit 4 The Folk Song Movement	（内　　容）pp. 19～24 （必要な準備）pp. 19～24の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第6回	Unit 5 The Vietnam War	（内　　容）pp. 25～30 （必要な準備）pp. 25～30の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第7回	Unit 6 Vietnam War Veterans and PTSD	（内　　容）pp. 31～36 （必要な準備）pp. 31～36の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第8回	Review1	（内　　容）Review 1 Unit1-6の復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習
第9回	Unit 7 Hippies	（内　　容）pp. 37～42 （必要な準備）pp. 37～42の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第10回	Unit 8 John Lennon	（内　　容）pp. 43～48 （必要な準備）pp. 43～48の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第11回	Unit 9 Watergate	（内　　容）pp. 49～54 （必要な準備）pp. 49～54の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第12回	Unit 10 Apple Computer	（内　　容）pp. 55～60 （必要な準備）pp. 55～60の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第13回	Unit 11 Bicentennial Celebrations	（内　　容）pp. 61～66 （必要な準備）pp. 61～66の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第14回	Unit 12 AIDS	（内　　容）pp. 67～72 （必要な準備）pp. 67～72の中にある分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第15回	Review2	（内　　容）Review　Unit7～12の復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習

授業名	**英語Ⅱｕｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	『GHOST』　Teruhiko Kadoyama　（センゲージラーニング株式会社）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**英語Ⅱｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	The Loft	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unchained Melody	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Life After Death	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Willy Lopez	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Spiritual Adviser	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Review	（内　　容）Review　2回～6回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。
第8回	The Truth	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第9回	The Police	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Subway Ghost	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Rita Miller	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Revenge	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	The Penny	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Last Chance	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review	（内　　容）Review２　　8回～14回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。

授業名	**英語Ⅱｕｃ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	EnglishII	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（語彙力　　）　□（　　）
テキスト	『GHOST』　Teruhiko Kadoyama　（センゲージラーニング株式会社）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**英語Ⅱｕｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	The Loft	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unchained Melody	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Life After Death	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Willy Lopez	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Spiritual Adviser	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Review	（内　　容）Review　2回～6回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。
第8回	The Truth	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第9回	The Police	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Subway Ghost	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Rita Miller	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Revenge	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	The Penny	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Last Chance	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review	（内　　容）Review２　　8回～14回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。

授業名	**英語Ⅱｕｄ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	EnglishII	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**和田　未穂子**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	リーディング.リスニング.スピーキング.ライティングの４領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。
学習成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（語彙力　）　□（　）
テキスト	『GHOST』　Teruhiko Kadoyama　（センゲージラーニング株式会社）
参考書	使用しない。
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	英語Ⅱｕｄ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction to the course	（内　　容）授業の学習計画を立てる。 （必要な準備）本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	The Loft	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unchained Melody	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Life After Death	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Willy Lopez	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Spiritual Adviser	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Review	（内　　容）Review　2回～6回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。
第8回	The Truth	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第9回	The Police	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Subway Ghost	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Rita Miller	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Revenge	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	The Penny	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Last Chance	（内　　容）該当する箇所を読みすすめる。 （必要な準備）該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review	（内　　容）Review２　8回～14回までの復習をする。 （必要な準備）小テストのための家庭学習。

授業名	**英語コミュニケーションⅠua・Ⅰub**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Communication Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**松尾　章子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC（Test of English for International Communication）テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。				
学習成果到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2）読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解することができる。 3）TOEICと保育英語用の単語（使用テキストに準ずる）の意味を250以上知っている。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社　2017年				
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社　1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブックⅢ（保育英語検定3級問題集）』本の泉社　1,363円＋税				
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。				
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。				

授業名	英語コミュニケーションⅠua・Ⅰub

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	（内　　容）到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 （必要な準備）本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 1〈人〉または〈物〉は/が～する	（内　　容）多読、pp. 4-8 （必要な準備）①本読み5冊以上、②pp. 4-8の問題
第3回	Unit 2〈人〉に〈物〉を～する	（内　　容）多読、pp. 10-13 （必要な準備）①本読み500単語以上、②pp. 10-13の問題
第4回	保育英語を使ったワークショップ （時間割等の都合により実施回が前後することがある）	（内　　容）保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する （必要な準備）①本読み500単語以上、②ワークショップで使用する物の準備
第5回	Quiz 1 街路・交通に関する語句 Unit 3 人や物を説明する：第2文型をとる動詞	（内　　容）Lesson 1小テスト、多読、pp. 16-20 （必要な準備）①Lesson 1単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 16-20の問題
第6回	Quiz 2 旅行に関する語句 Unit 4 人や物を説明する：第5文型をとる動詞	（内　　容）Lesson 2小テスト、多読、pp. 22-25 （必要な準備）①Lesson 2単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 22-25の問題
第7回	Quiz 3 人物の外見・動作に関する語句 Unit 5 「いつも～している」と「～した」	（内　　容）Lesson 3小テスト、多読、pp. 28-32 （必要な準備）①Lesson 3単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 28-32の問題
第8回	Quiz 4 住宅・不動産に関する語句 Unit 6 「これから～するつもりだ」	（内　　容）Lesson 4小テスト、多読、pp. 34-38 （必要な準備）①Lesson 4単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 34-38の問題
第9回	Quiz 5 買い物・値段に関する語句 Unit 7 「今～している」と「その時～していた」	（内　　容）Lesson 5小テスト、多読、pp. 40-44 （必要な準備）①Lesson 5単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 40-44の問題
第10回	Quiz 6 商売・取引に関する語句 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	（内　　容）Lesson 6小テスト、多読、pp. 46-50 （必要な準備）①Lesson 6単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 46-50の問題
第11回	Quiz 7 注文・運送に関する語句 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	（内　　容）Lesson 7小テスト、多読、pp. 52-56 （必要な準備）①Lesson 7単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 52-56の問題
第12回	Quiz 8 営業・宣伝・クレーム・保険に関する語句 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	（内　　容）Lesson 8小テスト、多読、pp. 58-62 （必要な準備）①Lesson 8単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 58-62の問題
第13回	Quiz 9 ビジネス・会社の経営に関する語句 Unit 11 「～すること」を表す2種類の形	（内　　容）Lesson 9小テスト、多読、pp. 64-68 （必要な準備）①Lesson 9単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 64-68の問題
第14回	Quiz 10 会社の組織に関する語句 Unit 12 2種類の「～すること」の形を区別する方法	（内　　容）Lesson 10小テスト、多読、pp. 70-74 （必要な準備）①Lesson 10単語練習、②本読み1,500単語以上、②pp. 70-74の問題
第15回	Review	（内　　容）多読、復習 （必要な準備）①本読み1,500単語以上、②既習事項で復習が必要な箇所に○を付ける

授業名	英語コミュニケーションⅠuc・Ⅰud	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Communication Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**松尾　章子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC（Test of English for International Communication）テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。				
学習成果到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2）読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解することができる。 3）TOEICと保育英語用の単語（使用テキストに準ずる）の意味を250以上知っている。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %）：■筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社　2017年				
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社　1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブックⅢ（保育英語検定3級問題集）』本の泉社　1,363円＋税				
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。				
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。				

授業名	英語コミュニケーションⅠuc・Ⅰud

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	（内　　容）到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 （必要な準備）本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 1 〈人〉または〈物〉は/が～する	（内　　容）多読、pp. 4-8 （必要な準備）①本読み5冊以上、②pp. 4-8の問題
第3回	Unit2 〈人〉に〈物〉を～する	（内　　容）多読、pp. 10-13 （必要な準備）①本読み500単語以上、②pp. 10-13の問題
第4回	Interview（時間割等の都合により実施回が前後することがある）	（内　　容）街に出て外国人に英語でインタビューを行う （必要な準備）①本読み500単語以上、②インタビュー項目作成
第5回	Quiz 1 街路・交通に関する語句 Unit 3 人や物を説明する：第2文型をとる動詞	（内　　容）Lesson 1小テスト、多読、pp. 16-20 （必要な準備）①Lesson 1単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 16-20の問題
第6回	Quiz 2 旅行に関する語句 Unit 4 人や物を説明する：第5文型をとる動詞	（内　　容）Lesson 2小テスト、多読、pp. 22-25 （必要な準備）①Lesson 2単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 22-25の問題
第7回	Quiz 3 人物の外見・動作に関する語句 Unit 5 「いつも～している」と「～した」	（内　　容）Lesson 3小テスト、多読、pp. 28-32 （必要な準備）①Lesson 3単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 28-32の問題
第8回	Quiz 4 住宅・不動産に関する語句 Unit 6 「これから～するつもりだ」	（内　　容）Lesson 4小テスト、多読、pp. 34-38 （必要な準備）①Lesson 4単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 34-38の問題
第9回	Quiz 5 買い物・値段に関する語句 Unit 7 「今からしている」と「その時～していた」	（内　　容）Lesson 5小テスト、多読、pp. 40-44 （必要な準備）①Lesson 5単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 40-44の問題
第10回	Quiz 6 商売・取引に関する語句 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	（内　　容）Lesson 6小テスト、多読、pp. 46-50 （必要な準備）①Lesson 6単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 46-50の問題
第11回	Quiz 7 注文・運送に関する語句 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	（内　　容）Lesson 7小テスト、多読、pp. 52-56 （必要な準備）①Lesson 7単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 52-56の問題
第12回	Quiz 8 営業・宣伝・クレーム・保険に関する語句 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	（内　　容）Lesson 8小テスト、多読、pp. 58-62 （必要な準備）①Lesson 8単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 58-62の問題
第13回	Quiz 9 ビジネス・会社の経営に関する語句 Unit 11 「～すること」を表す表現	（内　　容）Lesson 9小テスト、多読、pp. 64-68 （必要な準備）①Lesson 9単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 64-68の問題
第14回	Quiz 10 会社の組織に関する語句 Unit 12 2種類の「～すること」の形を区別する方法	（内　　容）Lesson 10小テスト、多読、pp. 70-74 （必要な準備）①Lesson 10単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 70-74の問題
第15回	Review	（内　　容）多読、復習 （必要な準備）①本読み1,500単語以上、②既習事項で復習が必要な箇所に○を付ける

授業名	**英語コミュニケーションⅡua・Ⅱub**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Communication Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**松尾　章子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC（Test of English for International Communication）テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。
学習成果到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。 2）Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8～1.1程度の英語本を英語のまま理解することができる。 3）TOEICと保育英語用の単語（使用テキストに準ずる）の意味を400以上知っている。

評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）

テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社　2017年
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社　1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブックⅢ（保育英語検定3級問題集）』本の泉社　1,363円＋税
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。

授業名	英語コミュニケーションⅡua・Ⅱub

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	（内　　容）多読、pp. 76-80 （必要な準備）①pp. 76-80の問題
第2回	Quiz 11 雇用・人事に関する語句 Unit 14 「～するための」と「～するという」	（内　　容）Lesson 11小テスト、多読、pp. 82-86 （必要な準備）①Lesson 11単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 82-86の問題
第3回	Quiz 12 勤務条件・労務管理に関する語句 Unit 15 「～される」	（内　　容）Lesson 12小テスト、多読、pp. 88-92 （必要な準備）①Lesson 12単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 88-92の問題
第4回	Quiz 13 事務・オフィスに関する語句 Unit 16 「～している」	（内　　容）Lesson 13小テスト、多読、pp. 94-98 （必要な準備）①Lesson 13単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 94-98の問題
第5回	Quiz 14 通信・連絡に関する語句 Unit 17 「～された」	（内　　容）Lesson 14小テスト、多読、pp. 100-104 （必要な準備）①Lesson 14単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 100-104の問題
第6回	Interview（時間割等の都合により実施回が前後することがある－華頂祭の次週に実施予定）	（内　　容）街に出て外国人に英語でインタビューを行う （必要な準備）①本読み1,500単語以上、②インタビュー項目作成
第7回	Quiz 15 財務・会計に関する語句 Unit 18 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の主格と目的格	（内　　容）Lesson 15小テスト、多読、pp. 106-109 （必要な準備）①Lesson 15単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 106-109の問題
第8回	Quiz 16 契約・交渉に関する語句 Unit 19 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の所有格とwhat	（内　　容）Lesson 16小テスト、多読、pp. 112-115、Secret Santa 1枚目提出 （必要な準備）①Lesson 16単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 112-115の問題、④Secret Santa 1枚目作成
第9回	Quiz 17 会議・議論に関する語句 Unit 20 2つのものをつないでみよう	（内　　容）Lesson 17小テスト、多読、pp. 118-122、Secret Santa 2枚目提出 （必要な準備）①Lesson 17単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 118-122の問題、④Secret Santa 2枚目作成
第10回	Quiz 18 マスコミ・大学に関する語句 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	（内　　容）Lesson 18小テスト、多読、pp. 124-128、Secret Santa 3枚目提出 （必要な準備）①Lesson 18単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 124-128の問題、④Secret Santa 3枚目作成
第11回	Quiz 19 製造・研究・品質に関する語句 Unit 22 「現実離れしたこと」を表す形	（内　　容）Lesson19小テスト、多読、pp. 130-134、Secret Santa 4枚目提出 （必要な準備）①Lesson 19単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 130-134の問題、④Secret Santa 4枚目作成
第12回	Quiz 20 時間・地理・位置関係に関する語句 Secret Santa（時間割等の都合により実施回が前後することがある－12月最終週の授業日に実施予定）	（内　　容）Lesson20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 （必要な準備）①Lesson 20単語練習、②本読み2,000単語以上、③Secret Santa 5枚目作成
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	（内　　容）多読、pp. 136-140 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②pp. 136-140の問題
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	（内　　容）多読、pp. 142-146 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②pp. 142-146の問題
第15回	Review	（内　　容）多読、復習、本読み推薦文提出 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②既習事項で復習が必要な箇所に○を付ける、③多読キャンペーンの推薦文（200～500文字）作成

授業名	**英語コミュニケーションⅡuc・Ⅱud**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	English Communication Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**松尾　章子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC（Test of English for International Communication）テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。				
学習成果到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。 2）Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8～1.1程度の英語本を英語のまま理解することができる。 3）TOEICと保育英語用の単語（使用テキストに準ずる）の意味を400以上知っている。				
評価方法	定期試験（60 %）：■筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（40 %）：■筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（　　） □（　　）				
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社　2017年				
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』本の泉社　1,900円＋税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブックⅢ（保育英語検定3級問題集）』本の泉社　1,363円＋税				
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。				
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。				

授業名	英語コミュニケーションⅡuc・Ⅱud

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	（内　　容）多読、pp. 76-80 （必要な準備）①pp. 76-80の問題
第2回	Quiz 11 雇用・人事に関する語句 Unit 14 「～するための」と「～するという」	（内　　容）Lesson 11小テスト、多読、pp. 82-86 （必要な準備）①Lesson 11単語練習、②本読み500単語以上、③pp. 82-86の問題
第3回	Quiz 12 勤務条件・労務管理に関する語句 Unit 15 「～される」	（内　　容）Lesson 12小テスト、多読、pp. 88-92 （必要な準備）①Lesson 12単語練習、②本読み1,000単語以上、③pp. 88-92の問題
第4回	Quiz 13 事務・オフィスに関する語句 Unit 16 「～している」	（内　　容）Lesson 13小テスト、多読、pp. 94-98 （必要な準備）①Lesson 13単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 94-98の問題
第5回	Quiz 14 通信・連絡に関する語句 Unit 17 「～された」	（内　　容）Lesson 14小テスト、多読、pp. 100-104 （必要な準備）①Lesson 14単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 100-104の問題
第6回	Interview（時間割等の都合により実施回が前後することがある－華頂祭の次週に実施予定）	（内　　容）街に出て外国人に英語でインタビューを行う （必要な準備）①本読み1,500単語以上、②インタビュー項目作成
第7回	Quiz 15 財務・会計に関する語句 Unit 18 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の主格と目的格	（内　　容）Lesson 15小テスト、多読、pp. 106-109 （必要な準備）①Lesson 15単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 106-109の問題
第8回	Quiz　16 契約・交渉に関する語句 Unit 19 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の所有格とwhat	（内　　容）Lesson 16小テスト、多読、pp. 112-115、Secret Santa 1枚目提出 （必要な準備）①Lesson 16単語練習、②本読み1,500単語以上、③pp. 112-115の問題、④Secret Santa 1枚目作成
第9回	Quiz 17 会議・議論に関する語句 Unit 20 2つのものをつないでみよう	（内　　容）Lesson 17小テスト、多読、pp. 118-122、Secret Santa 2枚目提出 （必要な準備）①Lesson 17単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 118-122の問題、④Secret Santa 2枚目作成
第10回	Quiz 18 マスコミ・大学に関する語句 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	（内　　容）Lesson 18小テスト、多読、pp. 124-128、Secret Santa 3枚目提出 （必要な準備）①Lesson 18単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 124-128の問題、④Secret Santa 3枚目作成
第11回	Quiz 19 製造・研究・品質に関する語句 Unit 22 「現実離れしたこと」を表す形	（内　　容）Lesson19小テスト、多読、pp. 130-134、Secret Santa 4枚目提出 （必要な準備）①Lesson 19単語練習、②本読み2,000単語以上、③pp. 130-134の問題、④Secret Santa 4枚目作成
第12回	Quiz 20 時間・地理・位置関係に関する語句 Secret Santa（時間割等の都合により実施回が前後することがある－12月最終週の授業日に実施予定）	（内　　容）Lesson20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 （必要な準備）①Lesson 20単語練習、②本読み2,000単語以上、③Secret Santa 5枚目作成
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	（内　　容）多読、pp. 136-140 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②pp. 136-140の問題
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	（内　　容）多読、pp. 142-146 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②pp. 142-146の問題
第15回	Review	（内　　容）多読、復習、本読み推薦文提出 （必要な準備）①本読み2,000単語以上、②既習事項で復習が必要な箇所に○を付ける、③多読キャンペーンの推薦文（200～500文字）作成

授業名	**健康スポーツ科学Ⅰua・Ⅰub**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Health and Sports ScienceⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**石倉　忠夫**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。				
学習成果到達目標	1）体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2）運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技	平常試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（協調性　　）　■（リーダーシップ　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書	「健康スポーツの心理学」　竹中　晃二　編（大修館書店）				
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。				
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で行う。				

授　業　名	**健康スポーツ科学Ｉｕａ・Ｉｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）本講に関するオリエンテーション （必要な準備）筆記用具、顔写真（3㎝×3㎝）
第2回	講義１	（内　　容）運動・スポーツ活動が心身の健康に及ぼす影響 （必要な準備）筆記用具、プリントを配付する
第3回	講義２	（内　　容）運動・スポーツ活動の継続法 （必要な準備）筆記用具、プリントを配付する
第4回	体力測定１	（内　　容）文部科学省新体力テスト （必要な準備）体調管理
第5回	体力測定２	（内　　容）文部科学省新体力テスト （必要な準備）体調管理
第6回	バドミントン１	（内　　容）フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ （必要な準備）バドミントンの基本技術を調べる
第7回	バドミントン２	（内　　容）バドミントンの試合 （必要な準備）バドミントンのルールを調べる
第8回	バドミントン３	（内　　容）バドミントンの試合 （必要な準備）バドミントンの戦術を調べる
第9回	バドミントン４	（内　　容）バドミントンの試合 （必要な準備）バドミントンの戦術を調べる
第10回	ソフトバレーボール１	（内　　容）パス、サーブ、レシーブ、スパイク （必要な準備）ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール２	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールのルールを調べる
第12回	ソフトバレーボール３	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール４	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義３	（内　　容）体力測定の結果を検討、評価 （必要な準備）筆記用具
第15回	まとめ	（内　　容）レポート作成、提出 （必要な準備）筆記用具

授業名	**健康スポーツ科学Ⅰuc・Ⅰud**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Health and Sports ScienceⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**山本　武司**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。
学習成果到達目標	1）体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2）運動が身体に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（協調性　　）　■（リーダーシップ　　）
テキスト	使用しない。
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村　慎一　監修（杏林書院）
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（体育準備室）

授　業　名	健康スポーツ科学Ｉｕｃ・Ｉｕｄ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）本講に関するオリエンテーション （必要な準備）プリントを配布する
第2回	バドミントン１	（内　　容）フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ （必要な準備）バドミントン基本技術を調べる
第3回	バドミントン２	（内　　容）バドミントン・ダブルスの試合 （必要な準備）バドミントンのルールを調べる
第4回	バドミントン３	（内　　容）バドミントン・ダブルスの試合 （必要な準備）バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第5回	バドミントン４	（内　　容）バドミントン・ダブルスの試合 （必要な準備）バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第6回	バドミントン５	（内　　容）バドミントン・ダブルスの試合 （必要な準備）バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第7回	講義１	（内　　容）健康と体力、運動とトレーニング （必要な準備）配布したプリントを読んでおく
第8回	体力測定1	（内　　容）文部科学省新体力テスト （必要な準備）
第9回	体力測定２	（内　　容）文部科学省新体力テスト （必要な準備）
第10回	ソフトバレーボール１	（内　　容）パス、サーブ、レシーブ、スパイク （必要な準備）ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール２	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールの戦術を調べる
第12回	ソフトバレーボール３	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール４	（内　　容）ソフトバレーボールの試合 （必要な準備）ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義2	（内　　容）体力測定の結果を検討、評価 （必要な準備）体力測定について振り返りをしておく
第15回	まとめ	（内　　容）レポート作成、提出 （必要な準備）

授業名	**健康スポーツ科学Ⅱua・Ⅱub**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Health and Sports ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**石倉　忠夫**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	講義受講時と各種スポーツ実践時における気分と心拍数の変化を測定し、考察を加えレポートにまとめる。また、後半週には各種スポーツを実践する。
学習成果到達目標	1）講義受講時と各種スポーツ実践時の気分と心拍数を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 2）健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯に亘り実践する意義について理解する。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（協調性　）　■（リーダーシップ　）
テキスト	使用しない。
参考書	「健康スポーツの心理学」　竹中　晃二　編（大修館書店）
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で行う。

授　業　名	**健康スポーツ科学Ⅱｕａ・Ⅱｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）本講に関するオリエンテーション （必要な準備）筆記用具
第2回	講義１	（内　　容）運動・スポーツ活動の継続法の事例 （必要な準備）筆記用具、プリントを配付する
第3回	運動時の気分と心拍数の測定１	（内　　容）ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 （必要な準備）体調管理
第4回	運動時の気分と心拍数の測定２	（内　　容）ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 （必要な準備）体調管理
第5回	運動時の気分と心拍数の測定３	（内　　容）ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 （必要な準備）体調管理
第6回	各種スポーツの実践１	（内　　容）縄跳び （必要な準備）体調管理
第7回	各種スポーツの実践２	（内　　容）ドッジボール （必要な準備）体調管理
第8回	バスケットボール１	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールのルールを調べる
第9回	バスケットボール２	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールの戦術を調べる
第10回	バスケットボール３	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールの戦術を調べる
第11回	卓球１	（内　　容）卓球の試合 （必要な準備）卓球のルールを調べる
第12回	卓球２	（内　　容）卓球の試合 （必要な準備）卓球の戦術を調べる
第13回	卓球３	（内　　容）卓球の試合 （必要な準備）卓球の戦術を調べる
第14回	講義２	（内　　容）測定資料の整理、検討、考察 （必要な準備）筆記用具
第15回	まとめ	（内　　容）レポート作成、提出 （必要な準備）筆記用具

授業名	**健康スポーツ科学Ⅱｕｃ・Ⅱｕｄ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Health and Sports ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**山本　武司**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	運動実践時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の運動強度を調査し、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種スポーツの実践を通して日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。				
学習成果到達目標	1）運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について検討する。 2）健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解する。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技	平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（協調性　　）　■（リーダーシップ　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村　慎一　監修（杏林書院）				
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。 ウォーキング時は運動靴を使用すること。				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（体育準備室）				

授　業　名	健康スポーツ科学Ⅱｕｃ・Ⅱｕｄ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）本講に関するオリエンテーション （必要な準備）
第2回	講義１	（内　　容）健康を維持増進するための運動 （必要な準備）配布したプリントを読んでおく
第3回	運動時心拍数の測定１	（内　　容）ウォーキング時の心拍数測定 （必要な準備）正しい歩き方と適正強度を調べる
第4回	運動時心拍数の測定２	（内　　容）ウォーキング時の心拍数測定 （必要な準備）正しい歩き方と適正強度の確認
第5回	運動時心拍数の測定３	（内　　容）ウォーキング時の心拍数測定 （必要な準備）正しい歩き方と適正強度の確認
第6回	運動時心拍数の測定４	（内　　容）ウォーキング時の心拍数測定 （必要な準備）正しい歩き方と適正強度の確認
第7回	各種スポーツの実践1	（内　　容）綱引き （必要な準備）綱引きについて調べる
第8回	各種スポーツの実践２	（内　　容）大縄跳び （必要な準備）大縄跳びについて調べる
第9回	各種スポーツの実践３	（内　　容）ドッジボール （必要な準備）ドッジボールのルールを調べる
第10回	バスケットボール1	（内　　容）ドリブル、パス、シュート （必要な準備）バスケットボールの基本技術を調べる
第11回	バスケットボール２	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールの戦術を調べる
第12回	バスケットボール３	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールの戦術を調べる
第13回	バスケットボール４	（内　　容）バスケットボールの試合 （必要な準備）バスケットボールの戦術を調べる
第14回	講義２	（内　　容）測定資料の検討、考察 （必要な準備）測定資料を整理しておく
第15回	まとめ	（内　　容）レポート作成、提出 （必要な準備）

授業名	**人権と社会u**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Human Rights and Society	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	本授業では、まず、差別と偏見の捉え方から始まり、ジェンダーの視点から、女性労働における人権の問題を中心に考察していくことを目指している。目に見える差別を観察し、その背後にある目に見えない心の闇や偏見を考えるにあたって、いくつかの研究成果を踏まえながら、現代の人権問題を考察していく。
学習成果到達目標	1）人権を視点に現代の女性労働の問題を捉えることができる。 2）差別と偏見の問題を捉えることができる。 3）日常生活の中で人権尊重の意識・態度を自己点検する姿勢を持つことができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	適時適切に資料を配布
参考書	適宜紹介する
留意事項	覚える学びでなく調べ考える学びを重視する
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**人権と社会u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の概要を理解する。 （必要な準備）
第2回	人に備わる利他性	（内　　容）心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきたのか考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第3回	差別と偏見Ⅰ－－「行動」から「心」を探る	（内　　容）我々が普段行う選択と選好の問題に関して考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第4回	差別と偏見Ⅱ－－市場理論からの分析	（内　　容）市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第5回	差別と偏見Ⅲ－－住民の独立意向を考察する。	（内　　容）スコットランドやカナダのケベック州の独立運動について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第6回	ジェンダーの視点について	（内　　容）ジェンダーの視点について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第7回	男女の行動の違いについてⅠ－－リスクの取り方に性差あり？	（内　　容）リスクの取り方の性差について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第8回	男女の行動の違いについてⅡ－－性差の刷り込みの影響	（内　　容）性差の刷り込みの影響について考察します。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第9回	男女の行動の違いについてⅢ－－社会環境が性差を生む？	（内　　容）社会環境により性差を生む側面について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第10回	男女の行動の違いについてⅣ－－女性は交渉を避ける傾向あり？	（内　　容）女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第11回	男女の行動の違いについてⅤ－－性差を超えた取り組みを	（内　　容）人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第12回	女性労働の問題Ⅰ－－女性の社会進出の現状	（内　　容）国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第13回	女性労働の問題Ⅱ－－女性労働の壁について	（内　　容）女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第14回	女性労働の問題についてⅢ－－社会保障のありかた	（内　　容）女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 （必要な準備）前講の復習（60分）。
第15回	まとめ	（内　　容）本講義のポイント整理。 （必要な準備）これまでの復習（60分）。

授業名	**情報処理ｕａ・ｕｅ**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**猿渡　綾子**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		

授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（実践力　）　□（　）
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布
参考書	使用しない。
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。

授業名	情報処理ｕａ・ｕｅ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Windowsの基本操作	（内　　容）フォルダ作成、Gメールの送受信など （必要な準備）IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話（スマートフォン等）の契約内容（データ通信量、料金形態等）確認しておく シラバスの内容を確認する（30分）
第2回	Word 1（基本操作）	（内　　容）USBメモリ使用上の注意 コピー＆貼り付け、書式設定、文字カウントなど （必要な準備）USBメモリの準備 前回の復習（30分）
第3回	Word 2（文書作成と整形）	（内　　容）文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど （必要な準備）前回の復習（30分）
第4回	Word 3（図入りの文書の作成）	（内　　容）図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Tool の使い方など （必要な準備）前回の復習（30分）
第5回	Word 4（表作成）	（内　　容）単純な表、複雑な表の作成 （必要な準備）前回の復習（30分） 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5（総復習）	（内　　容）習得したテクニックを用いて課題作成 （必要な準備）前回までの復習（30分）
第7回	Excel 1（基本操作）	（内　　容）セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など （必要な準備）前回の復習（30分）
第8回	Excel 2（表計算）	（内　　容）合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー （必要な準備）前回の復習（30分）
第9回	Excel 3（作表と印刷設定）	（内　　容）罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など （必要な準備）前回の復習（30分）
第10回	Excel 4（グラフ）	（内　　容）棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク （必要な準備）前回の復習（30分）
第11回	Excel 5（総復習）	（内　　容）分析とグラフ作成の実践 （必要な準備）前回の復習（30分）
第12回	PowerPoint 1（基本操作）	（内　　容）スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 （必要な準備）前回の復習（30分）
第13回	PowerPoint 2（Word、Excelとの連携）	（内　　容）グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 （必要な準備）前回までの復習（30分）
第14回	PowerPoint 3（総復習） インターネット・リテラシー	（内　　容）習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する （必要な準備）前回の復習（30分）
第15回	PowerPoint 4（プレゼンテーション）	（内　　容）PowerPoint を使用したプレゼンテーションの実際 （必要な準備）プレゼンテーションの準備 前回の復習（30分）

授業名	**情報処理ｕｂ・ｕｄ**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**岩佐　真代**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		

授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。また、インターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（実践力　）　□（　）
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布
参考書	使用しない。
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。

授業名	情報処理ｕｂ・ｕｄ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Windowsの基本操作	（内　　容）フォルダ作成、Gメールの送受信など （必要な準備）IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話（スマートフォン等）の契約内容（データ通信量、料金形態等）を確認しておく シラバスの内容を確認する（30分）
第2回	Word 1（基本操作）	（内　　容）USBメモリ使用上の注意 コピー＆貼り付け、書式設定、文字カウントなど （必要な準備）USBメモリの準備 前回の復習（30分）
第3回	Word 2（文書作成と整形）	（内　　容）文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど （必要な準備）前回の復習（30分）
第4回	Word 3（図入りの文書の作成）	（内　　容）図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Toolの使い方など （必要な準備）前回の復習（30分）
第5回	Word 4（表作成）	（内　　容）単純な表、複雑な表の作成 （必要な準備）前回の復習（30分） 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5（総復習）	（内　　容）習得したテクニックを用いて課題作成 （必要な準備）前回の復習（30分）
第7回	Excel 1（基本操作）	（内　　容）セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など （必要な準備）前回の復習（30分）
第8回	Excel 2（表計算）	（内　　容）合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー （必要な準備）前回の復習（30分）
第9回	Excel 3（作表と印刷設定）	（内　　容）罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など （必要な準備）前回の復習（30分）
第10回	Excel 4（グラフ）	（内　　容）棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク （必要な準備）前回の復習（30分）
第11回	Excel 5（総復習）	（内　　容）分析とグラフ作成の実践 （必要な準備）前回の復習（30分）
第12回	PowerPoint 1（基本操作）	（内　　容）スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 （必要な準備）前回の復習（30分）
第13回	PowerPoint 2（Word、Excelとの連携）	（内　　容）グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 （必要な準備）前回の復習（30分）
第14回	PowerPoint 3（総復習） インターネット・リテラシー	（内　　容）習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する （必要な準備）前回の復習（30分）
第15回	PowerPoint 4（プレゼンテーション）	（内　　容）PowerPointを使用したプレゼンテーションの実際 （必要な準備）プレゼンテーションの準備 前回の復習（30分）

授業名	**日本語表現法ｓａ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Writing	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	大学でのレポートや卒業論文、実習先での学習、就職活動などで必要な正しい日本語や文章表現力を修得するための訓練を行う。				
学習成果到達目標	日本語の基礎的な知識、表現方法を理解し、使うことができる。 日本語能力を高め鍛える方法を修得し、生活の中で実践できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	文章表現の基礎技法　八千代出版　\2,000＋税				
参考書	随時紹介する。				
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むこと。毎回、国語辞典またはそれに類するものを持参すること。 漢字や熟語について自由に使いこなすための練習もおこないます。私語・飲食(ガム・のど飴も含む)の一切禁止				
オフィスアワー	授業初回に提示する。				

授　業　名	**日本語表現法ｓａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	自己紹介（句読点と記号の使い方） 原稿用紙の使い方	（内　　容）演習問題を通して、正しい方法を確認する。 （必要な準備）３分程度の自己紹介を準備しておく
第2回	文体（書き言葉と話言葉）	（内　　容）普通体、丁寧体、論文体など文章の種類と注意点について学ぶ。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第3回	言葉の選択	（内　　容）最適な言葉を引き出す練習をする。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第4回	文の構成	（内　　容）修飾、被修飾による相関関係を学習する。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第5回	説明の仕方	（内　　容）自分以外の人に的確に伝わる説明の仕方について練習する。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第6回	要約文の作り方	（内　　容）レポートを書く、学会や研修の報告をする時の、文章内容の要約のポイントについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第7回	意見文(1)	（内　　容）自分の考えを述べるだけにとどまらず、考慮する客観的な根拠や判断について学ぶ。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第8回	意見文(2)	（内　　容）賛成か反対かという意見分とは違った択一問題ではない要件に関する意見文について考える。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第9回	敬語(待遇表現) 敬語を用いた表現	（内　　容）日常行う会話やメール以外に、敬語について学ぶ。 実際に敬語を使う練習をする。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第10回	実用文書の書き方	（内　　容）履歴書や報告書など、実用分としての体裁や表現方法を学ぶ。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第11回	小論文の書き方(文章の構成) 小論文作成	（内　　容）小論文の文章校正のポイントについて学ぶ。 課題について小論文を作成する。 （必要な準備）テキスト適用箇所を読んでおく
第12回	手紙の書き方	（内　　容）必要事項以外の文章の膨らませ方について学ぶ。 （必要な準備）お世話になった方への手紙を持参する
第13回	ディベート(準備)	（内　　容）提示課題について、班に分かれて準備する （必要な準備）課題について情報を集めておく。
第14回	ディベート(実践)	（内　　容）実際のディベートを体験する。 （必要な準備）
第15回	まとめ	（内　　容）授業内容のまとめと各自の学びを確認する。 （必要な準備）

授業名	**日本語表現法ｓｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Writing	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**竹市　仁美**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	大学でのレポートや卒業論文、実習先での学習、就職活動などで必要な正しい日本語や文章表現力を修得するための訓練を行う。				
学習成果到達目標	日本語の基礎的な知識、表現方法を理解し、使うことができる。 日本語能力を高め鍛える方法を修得し、生活の中で実践できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（自由表現能力　）　□（　）			
テキスト	文章表現の基礎技法　八千代出版　\2,080				
参考書	随時紹介する。				
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むこと。毎回、国語辞典またはそれに類するものを持参すること。漢字や熟語について自由に使いこなすための練習も行う。				
オフィスアワー	授業初回に提示する。				

授　業　名	**日本語表現法ｓｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	自己紹介（句読点と記号の使い方） 原稿用紙の使い方	（内　　容）演習問題を通して、正しい方法を確認する。 （必要な準備）３分程度の自己紹介を準備しておく
第2回	文体（書き言葉と話言葉）	（内　　容）普通体、丁寧体、論文体など文章の種類と注意点について学ぶ。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第3回	言葉の選択	（内　　容）最適な言葉を引き出す練習をする。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第4回	文の構成	（内　　容）修飾、被修飾による相関関係を学習する。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第5回	説明の仕方	（内　　容）自分以外の人に的確に伝わる説明の仕方について練習する。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第6回	要約文の作り方	（内　　容）レポートを書く、学会や研修の報告をする時の、文章内容の要約のポイントについて学ぶ。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第7回	意見文(1)	（内　　容）自分の考えを述べるだけにとどまらず、考慮する客観的な根拠や判断について学ぶ。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第8回	意見文(2)	（内　　容）賛成か反対かという意見分とは違った択一問題ではない要件に関する意見文について考える。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第9回	敬語(待遇表現) 敬語を用いた表現	（内　　容）日常行う会話やメール以外に、敬語について学ぶ。 実際に敬語を使う練習をする。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第10回	実用文書の書き方	（内　　容）履歴書や報告書など、実用分としての体裁や表現方法を学ぶ。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第11回	小論文の書き方(文章の構成) 小論文作成	（内　　容）小論文の文章校正のポイントについて学ぶ。 課題について小論文を作成する。 （必要な準備）適用箇所を読んでおく
第12回	手紙の書き方	（内　　容）必要事項以外の文章の膨らませ方について学ぶ。 （必要な準備）お世話になった方への手紙を持参する
第13回	ディベート(準備)	（内　　容）提示課題について、班に分かれて準備する。 （必要な準備）課題について情報を集めておく。
第14回	ディベート(実践)	（内　　容）実際のディベートを体験する。 （必要な準備）
第15回	まとめ	（内　　容）授業内容のまとめと各自の学びを確認する。 （必要な準備）

授業名	**日本語表現法ｔａ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Writing	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岩佐　真代**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	文章表現の基礎を学び、管理栄養士として必要な文章読解能力、プレゼン技術を習得する。 また、実験や実習にむけて基礎となる、論理的な記述について学習する。				
学習成果到達目標	・論理的な記述ができる ・読解力を身につける ・プレゼン能力を身につける ・語彙を増やす				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『図解　栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人				
参考書	なし				
留意事項	国語辞書の使用を推奨します。電子辞書の使用も可とします。ただし、授業中のスマートフォン使用は辞書機能であっても不可とします。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	日本語表現法ｔａ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 自己紹介	（内　　容）授業の進め方や準備物についての説明 自己紹介 （必要な準備）シラバスを読んでくる（30分）
第2回	新聞記事を使った文章のまとめ1	（内　　容）新聞記事を使って要約を作成する （必要な準備）新聞を読み興味のある記事を集めておく（30分）
第3回	新聞記事を使った文章のまとめ2	（内　　容）前回の復習 選んできた新聞記事の切り抜きを使って要約をする （必要な準備）新聞を読み興味のある記事を集めておく（30分）
第4回	新聞記事を使った文章のまとめ3	（内　　容）前回の復習 選んできた新聞記事の切り抜きを使って要約をする 選書方法についての説明 （必要な準備）ワークシートを完成させておく（30分）
第5回	本のプレゼン準備1	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する1 本に書かれている語句を理解する 選書の理由をまとめる （必要な準備）本を選んで読んでおく（120分） 付箋（小）を持ってくる
第6回	本のプレゼン準備2	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する2 本に書かれている主題を理解する （必要な準備）ワークシートに沿って本をもう一度読んでおく（30分）
第7回	本のプレゼン準備3	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する3 参考文献の選び方、書き方を理解する （必要な準備）本を補足する資料を用意する（30分）
第8回	本のプレゼン準備4	（内　　容）発表原稿を作成する （必要な準備）7.5㎝×7.5㎝の付箋を持ってくる 発表原稿の組み立てを考えておく（30分）
第9回	本のプレゼン準備5	（内　　容）発表レジメを作成する （必要な準備）7.5㎝×7.5㎝の付箋を持ってくる 発表原稿を完成させておく（30分）
第10回	本のプレゼン1	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第11回	本のプレゼン2	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第12回	本のプレゼン3	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第13回	本のプレゼン4	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第14回	レポートの書き方1	（内　　容）実験ノートの取り方 簡易実験を実施し、実験ノートを取る （必要な準備）教科書第2章を読んでくる（30分）
第15回	レポートの書き方2	（内　　容）実験ノートをもとに実験レポートを作成する （必要な準備）レポートの考察に必要な資料を集めて次回の授業に持ってくる（30分） A4サイズのレポート用紙を持ってくる

授業名	**日本語表現法ｔｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Writing	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**猿渡　綾子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	文章表現の基礎を学び、管理栄養士として必要な文章読解能力、プレゼン技術を習得する。 また、実験や実習にむけて基礎となる、論理的な記述について学習する。				
学習成果到達目標	・論理的な記述ができる ・読解力を身につける ・プレゼン能力を身につける ・語彙を増やす				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『図解　栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人				
参考書					
留意事項	国語辞書の使用を推奨します。電子辞書の使用も可とします。ただし、授業中のスマートフォン使用は辞書機能であっても不可とします。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	日本語表現法ｔｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 自己紹介	（内　　容）授業の進め方や準備物についての説明 自己紹介 （必要な準備）シラバスを読んでくる（30分）
第2回	新聞記事を使った文章のまとめ　1	（内　　容）新聞記事を使って要約を作成する （必要な準備）新聞を読み興味のある記事を集めておく（30分）
第3回	新聞記事を使った文章のまとめ　2	（内　　容）前回の復習 選んできた新聞記事の切り抜きを使って要約をする （必要な準備）新聞を読み興味のある記事を集めておく（30分）
第4回	新聞記事を使った文章のまとめ　3	（内　　容）前回の復習 選んできた新聞記事の切り抜きを使って要約をする 選書方法についての説明 （必要な準備）ワークシートを完成させておく（30分）
第5回	本のプレゼン準備　1	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する　1 本に書かれている語句を理解する 選書の理由をまとめる （必要な準備）本を選んで読んでおく（120分） 付箋（小）を持ってくる
第6回	本のプレゼン準備　2	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する　2 本に書かれている主題を理解する （必要な準備）ワークシートに沿って本をもう一度読んでおく（30分）
第7回	本のプレゼン準備　3	（内　　容）選んできた本を使って発表に向けて考察する　3 参考文献の選び方、書き方を理解する （必要な準備）本を補足する資料を用意する（30分）
第8回	本のプレゼン準備　4	（内　　容）発表原稿を作成する （必要な準備）7.5㎝×7.5㎝の付箋を持ってくる 発表原稿の組み立てを考えておく（30分）
第9回	本のプレゼン準備　5	（内　　容）発表レジメを作成する （必要な準備）7.5㎝×7.5㎝の付箋を持ってくる 発表原稿を完成させておく（30分）
第10回	本のプレゼン　1	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第11回	本のプレゼン　2	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第12回	本のプレゼン　3	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第13回	本のプレゼン　4	（内　　容）自分が選書した本についてプレゼンを実施する 他の人のプレゼンを聞いて講評する （必要な準備）完成させたレジメを指定された日までに提出 プレゼンの準備をしておく（30分）
第14回	レポートの書き方　1	（内　　容）実験ノートの取り方 簡易実験を実施し、実験ノートを取る （必要な準備）教科書第2章を読んでくる（30分）
第15回	レポートの書き方　2	（内　　容）実験ノートをもとに実験レポートを作成する （必要な準備）レポートの考察に必要な資料を集めて次回の授業に持ってくる（30分） A4サイズのレポート用紙を持ってくる

授業名	**いのちの科学ｕａ**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Life Science	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山本　明美**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生		

授業の概要	生命進化を生化学的に概観するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。 １．生命の科学的定義　２．生命進化　３．地球の環境変化 ４．個体発生　５．発生過程の生化学的変化
学習成果到達目標	１）生命に対する科学的概念が確立できる。 ２）生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。 ３）個体発生過程を理解できる。 ４）最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　）　□（　）
テキスト	プリント
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス「生物図鑑」鈴木孝仁監修　数研出版、NHKプロジェクト『地球大進化』（NHK出版）。
留意事項	生物学、化学、地学などの学問領域にこだわることなく、 最新の知見に基づき総合的に思考、理解して欲しい。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。

授　業　名	**いのちの科学ｕａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生命とは	（内　　容）生命の科学的定義 （必要な準備）生命とは何かについて考えてみる（６０分）
第2回	進化とたん白質	（内　　容）たん白質に残された進化の化学的痕跡 （必要な準備）たん白質について調べておく（６０分）
第3回	進化とＤＮＡ	（内　　容）DNAに残された進化の化学的痕跡 （必要な準備）DNAについて調べておく（６０分）
第4回	地球の歴史	（内　　容）地球および生命の誕生過程 （必要な準備）地球の歴史について調べておく（６０分）
第5回	大陸移動	（内　　容）大陸の移動およびそのエネルギー源 （必要な準備）大陸移動について調べておく（６０分）
第6回	全球凍結	（内　　容）全球凍結による大量絶滅 （必要な準備）地球の凍結について調べておく（６０分）
第7回	生物進化	（内　　容）大量絶滅による生物進化の推進 （必要な準備）生物の進化について調べておく（６０分）
第8回	ヒトの起源	（内　　容）哺乳類およびヒトの誕生 （必要な準備）ヒトの誕生・起源について調べておく（６０分）
第9回	出アフリカ	（内　　容）ヒトが地球上に拡散した過程 （必要な準備）出アフリカについて調べておく（６０分）
第10回	日本人の起源	（内　　容）日本人の構成 （必要な準備）日本人の起源について調べておく（６０分）
第11回	南北モンゴロイド	（内　　容）南北モンゴロイドの移動 （必要な準備）南北モンゴロイドについて調べておく（６０分）
第12回	受精	（内　　容）受精の過程 （必要な準備）受精の過程について調べておく（６０分）
第13回	個体発生	（内　　容）妊娠の過程 （必要な準備）妊娠の過程について調べておく（６０分）
第14回	バイオテクノロジー	（内　　容）クローン羊の意義 （必要な準備）バイオテクノロジーについて調べておく（６０分）
第15回	再生医療	（内　　容）ES細胞、iPS細胞の意義 （必要な準備）再生医療について調べておく（６０分）

授業名	**いのちの科学ｕｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Life Science	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武曾　恵理**	対象学生	食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	生命を科学的に考察する。生命誕生からヒトの起源と種の進化を生化学的に分析するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する. １．生命の科学的定義　２．生命進化　３．地球の環境変化　４．個体発生　５．発生過程の生化学的変化　６．遺伝子医療やiPS細胞も含めた再生医療についても学ぶ.				
学習成果到達目標	１）生命に対する科学的概念が確立できる. ２）生命進化に対する地球環境の影響を理解できる. ３）個体発生過程を理解できる。 ４）最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる.				
評価方法	定期試験　■筆記試験　□レポート　□制作物 （ 100　%）　□口述　□実習　□実技		平常試験　□筆記試験　□レポート　□制作物 （　　%）　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（ウィルスを含めた生物全体の生命科学の理解）　□（　　）			
テキスト	「現代生命科学」　東京大学生命科学教科書編集委員会／編　羊土社				
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス「生物図鑑」鈴木孝仁監修　数研出版				
留意事項	医学・科学の進歩についていける最低の知識を持てるようになること.				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	**いのちの科学ｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生命科学と現代社会のかかわり	（内　　容）生命の科学的定義、ヒトの起源と進化、生命とは何かについて考えてみる. （必要な準備）テキスト第１章を読んでおく
第2回	生命はどのように設計されているか	（内　　容）細胞のなりたちや遺伝について （必要な準備）テキスト第２章を読んでおく
第3回	ゲノム情報はどのように発現するのか	（内　　容）個人差・遺伝はどのような仕組みによるのか （必要な準備）テキスト第３章を読んでおく
第4回	生命の仕組み	（内　　容）動物の発生・進化から成長と老化について．再生医療について （必要な準備）テキスト第４章を読んでおく
第5回	脳について	（内　　容）ヒトの脳の構造と生命活動とのかかわり．認知症について （必要な準備）テキスト第５章を読んでおく
第6回	がんにつて	（内　　容）がんとはどのような現象か．診断・治療も含めて． （必要な準備）テキスト第６章を読んでおく
第7回	食と健康の関係	（内　　容）ヒトの体の代謝経路、生命活動に大事なエネルギーについて （必要な準備）テキスト第７章を読んでおく
第8回	ヒトと病原体	（内　　容）感染症と免疫について （必要な準備）テキスト第８章を読んでおく
第9回	環境と生物のかかわり	（内　　容）生物と環境の相互作用について （必要な準備）テキスト第９章を読んでおく
第10回	生命科学技術の進歩について	（内　　容）バイオ技術による新しい医薬品生産 （必要な準備）テキスト第10章を読んでおく
第11回	生命倫理について	（内　　容）生命倫理・医療に対する宗教の介入、人権の問題など （必要な準備）テキスト第11章を読んでおく
第12回	生命や生物の不思議を理解	（内　　容）生命を科学的にみる （必要な準備）テキスト第12章を読んでおく
第13回	受精・妊娠について	（内　　容）妊娠の過程 （必要な準備）受精卵について調べておく
第14回	バイオテクノロジー、再生医療	（内　　容）医学への応用、ES細胞・iPS細胞の意義 （必要な準備）バイオテクノロジー・再生医療について調べておく
第15回	まとめ	（内　　容）全体的なまとめを行い、理解度をみる （必要な準備）科目（テキスト第1章から12章）の復習

授業名	**京都の歴史u**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	History of Kyoto	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	京都の歴史について、政治・宗教・文化・建築・景観・観光などをキーワードにして、解読をおこなう。授業内容に関心・興味をもたせるために、フィールドワークとして、歴史的空間を実地見学し、空間体験をおこなう。各自が掘り起こした京都の歴史を発表する。				
学習成果到達目標	京都の歴史についての内容理解をおこなう。また現在遺構として残る建造物や道、川などの地形から歴史を読み取ることを目標とする。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（講義中に行う小テスト ） ■（講義に対する意欲 ）			
テキスト	教員配布資料				
参考書	『京都観光文化検定試験公式テキストブック』				
留意事項	私語・飲食(ガム・のど飴も含む)の一切禁止				
オフィスアワー	第１回講義にて指示する。				

授　業　名	**京都の歴史u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）半年間のオリエンテーション （必要な準備）内容をしっかりと聞くこと
第2回	京都の歴史の通史・政治史	（内　　容）京都の通史を政治史の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第3回	京都の宗教史・祭礼史	（内　　容）京都の歴史を宗教や祭礼の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第4回	京都の文化史・空間史	（内　　容）京都の歴史を花街や町家の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第5回	フィールドワーク（1）	（内　　容）祇園界隈と路地空間の現地見学 （必要な準備）当該地域の事前学習
第6回	京都の建築史・住居史	（内　　容）京都の歴史を建築や住居の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第7回	京都の景観史・都市史	（内　　容）京都の歴史を景観や都市の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第8回	フィールドワーク（2）	（内　　容）円山公園界隈と寺院の現地見学 （必要な準備）当該地域の事前学習
第9回	京都の観光史	（内　　容）京都の歴史を観光の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第10回	京都の教育史・学校史	（内　　容）京都の歴史を教育や学校の観点から説明 （必要な準備）教員配布資料を事前学習
第11回	フィールドワーク（3）	（内　　容）歴史的建造物の校舎を有する小学校の現地見学 （必要な準備）当該建物の事前学習
第12回	フィールドワーク（4）	（内　　容）岡崎公園界隈の現地見学 （必要な準備）当該地域の事前学習
第13回	フィールドワーク（5）	（内　　容）京町家の現地見学 （必要な準備）当該建物の事前学習
第14回	プレゼンテーション	（内　　容）各自が掘り起こした京都の歴史の発表 （必要な準備）プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第15回	レポートの提出	（内　　容）京都の歴史についてのレポートの提出 （必要な準備）レポートの用意

授業名	**こころの科学u**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Mental Science	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**小川　徳子**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		

授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説する。視聴覚教材や配付資料を用い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた知見を取り上げて紹介する。
学習成果到達目標	1）心理学の基礎領域について、全体像を把握する。 2）心にはどのような働きがあるのか、理解する。 3）人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できるようになる。
評価方法	定期試験（80 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（20 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■（論理的な記述力 ） □（ ）
テキスト	心理学―心のはたらきを知る― 第2版（コンパクト新心理学ライブラリ）
参考書	北尾　倫彦、中島　実、他（1997）グラフィック心理学　サイエンス社
留意事項	ほぼ毎回、授業時間内に提出を求めるショートレポート課題あり。
オフィスアワー	担当授業の開始前か終了後。

授　業　名	こころの科学u

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	心理学とは	（内　　容）心理学の基礎領域 （必要な準備）
第2回	感覚・知覚・認知	（内　　容）情報を取り入れる働き （必要な準備）五感と心の関係とは？説明してみよう
第3回	記憶（１）	（内　　容）「覚える」・「忘れる」働き （必要な準備）記憶にはどんな種類がある？考えておこう
第4回	記憶（２）	（内　　容）記憶の発達 （必要な準備）記憶の何が変わると発達？考えておこう
第5回	言語（１）	（内　　容）ことばの働き （必要な準備）ことばの働きとは何？考えておこう
第6回	言語（２）	（内　　容）ことばの発達過程 （必要な準備）ことばの習得に必要な力は？考えておこう
第7回	思考（１）	（内　　容）「考える」働き （必要な準備）「考える」とは何すること？説明してみよう
第8回	思考（２）	（内　　容）思考の発達 （必要な準備）言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	（内　　容）学習と動機づけ （必要な準備）人の行動を変える要因とは？考えておこう
第10回	感情	（内　　容）感情と他の心の働きの関係 （必要な準備）「感情」はどんな働き？説明してみよう
第11回	自己の認知	（内　　容）「自分」という存在に気づく （必要な準備）自分を知る手がかりとは？考えておこう
第12回	知能	（内　　容）知的な能力とは何か （必要な準備）「知能」について説明してみよう
第13回	パーソナリティ	（内　　容）個性の捉え方 （必要な準備）自分や友人の性格を説明してみよう
第14回	社会的認知	（内　　容）他者の捉え方 （必要な準備）他者の印象を左右するのは？考えておこう
第15回	社会的行動	（内　　容）他者との関り （必要な準備）集団で行動する時の傾向とは？考えておこう

授業名	**自然科学Ⅰ（生物）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Natural Science I (Biology)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	この講義では、生命活動の構造の単位である細胞、その活動である代謝および体内環境の維持など生物に関する基礎的知識について学ぶことにより、生体について深く理解していく。				
学習成果到達目標	1）生物に関する基礎的事項について理解できる 2）日常生活における生命科学における情報を理解できる 3）生きていることについて考えることができる				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	プリントを配布します。				
参考書					
留意事項	高校生物を履修していない者を対象とし、今後の学びの土台となるように講義を進めていく				
オフィスアワー	掲示によりお知らせします				

授　業　名	**自然科学Ⅰ（生物）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）生物学を学ぶ意義について （必要な準備）
第2回	細胞の構造	（内　　容）原核細胞と真核細胞について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第3回	細胞の機能	（内　　容）生体膜の構造と物質輸送の仕組みについて （必要な準備）配布資料に目を通しておく 前回までの復習をして小テストに備える
第4回	生体を構成する分子Ⅰ	（内　　容）タンパク質について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第5回	生体を構成する成分Ⅱ	（内　　容）核酸について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第6回	生体を構成する成分Ⅲ	（内　　容）炭水化物、脂質について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第7回	組織と器官	（内　　容）組織と器官について （必要な準備）配布資料に目を通しておく 生体を構成する成分について復習し小テストに備える
第8回	代謝について	（内　　容）異化と同化について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第9回	酵素の働き	（内　　容）酵素の種類や働きおよび働きに関係する因子について （必要な準備）配布資料に目を通しておく 代謝に関わる内容をまとめておく
第10回	免疫のしくみⅠ	（内　　容）自然免疫について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第11回	免疫のしくみⅡ	（内　　容）獲得免疫とアレルギー （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第12回	体内環境の維持Ⅰ	（内　　容）体液と循環器および体循環について （必要な準備）配布資料について目を通しておく 免疫についての小テストに備えまとめておく
第13回	体内環境の維持Ⅱ	（内　　容）ホルモンによる調節とホルモンの分泌について （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第14回	体内環境の維持Ⅲ	（内　　容）神経系の働きについて （必要な準備）配布資料に目を通しておく
第15回	遺伝情報とその発現	（内　　容）遺伝のしくみと遺伝子発現の制御について （必要な準備）配布資料に目を通しておく 体内環境の維持に関する小テストのための復習を行っておく

授業名	**自然科学Ⅱ（化学）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Natural Science II (Chemistry)	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**三上　文三**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	化学は自然科学の基礎であり、化学の基礎的な知識を修得することによって、関連する生化学、栄養学、食品学等の科目の学習が容易になる。本講義では高校の化学の復習から始めて、化学の概念、化学結合、無機化学、有機化学、タンパク質やその他の生体高分子までの化学の基礎的な知識を説明する。 授業では講義だけではなく、化学計算や分子モデルの作製も行う。毎回、問題を記した出席票を配布する。授業評価は出席（出席票の解答を含む）と期末試験によって行う。
学習成果到達目標	一般的な化学の概念（モル、状態変化、化学反応、熱量変化、化学平衡、原子構造、化学結合）等が理解でき、具体的な計算ができるようになる。有機化学やタンパク質、脂質、核酸、糖等の生体高分子の化学構造が理解できるようになる。
評価方法	定期試験（ 50 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	特に使用しない、授業中にプリントを配布する。前半の講義では高校の教科書を持参すること
参考書	授業中に適宜紹介する
留意事項	毎回の予習と復習を行うこと
オフィスアワー	特に設けない。 質問等、必要な場合は、mikami@kais.kyoto-u.ac.jpにメールで連絡すること

授　業　名	**自然科学Ⅱ（化学）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	化学の基礎１	（内　　容）質量、圧力、温度、単位の話 （必要な準備）高校の化学の復習
第2回	化学の基礎２	（内　　容）モルの概念 （必要な準備）高校の化学の復習
第3回	化学の基礎３	（内　　容）化学平衡、酸塩基平行 （必要な準備）高校の化学の復習
第4回	化学の基礎４	（内　　容）化学反応 （必要な準備）高校の化学の復習
第5回	化学の基礎５	（内　　容）電気化学 （必要な準備）高校の化学の復習
第6回	原子の構造	（内　　容）電子の軌道と原子の電子配置 （必要な準備）
第7回	周期表	（内　　容）典型元素と遷移元素 （必要な準備）
第8回	化学結合１	（内　　容）共有結合 （必要な準備）
第9回	化学結合２	（内　　容）無機化合物 （必要な準備）
第10回	化学結合３	（内　　容）有機化合物 （必要な準備）
第11回	化学結合４	（内　　容）配位結合 （必要な準備）
第12回	非共有結合	（内　　容）ファンデアワールス相互作用、イオン結合、水素結合 疎水性効果 （必要な準備）
第13回	生体高分子：アミノ酸、ペプチド	（内　　容）アミノ酸の種類と性質 （必要な準備）
第14回	生体高分子：タンパク質の構造	（内　　容）タンパク質の折り畳み （必要な準備）
第15回	生体高分子：核酸、脂質、糖	（内　　容）核酸、脂質、糖の構造 （必要な準備）

授業名	**くらしと法律（日本国憲法）**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Law and Our living (The Constitution of Japan)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**渡辺　暁彦**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	近年、日本国憲法に関する注目・関心が高まっています。選挙権年齢も18歳に引き下げられました。本講義では、小・中学校や高等学校などでの憲法学習で得られた知識をもとに、より体系的に日本国憲法の全体像を理解することを目的としています。特に、私たちの人権をめぐる問題を中心に、あらためて憲法の意義や役割について皆で考え直してみたいと思います。				
学習成果到達目標	1）日本国憲法、特に人権に関する基本問題や概念を分かりやすく説明することができる。 2）日本国憲法とその運用について、私たちの身近な生活と結びつけて理解できる。 3）市民としての私たちの責務を自覚できる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	吉田仁美編『スタート憲法〔第2版補訂版〕』（成文堂、2016年）　＊詳細については、参考文献のことも含めて初回に説明します。				
参考書	芦部信喜『憲法［第六版］』（岩波書店、2015年）、吉田仁美・渡辺暁彦『憲法判例クロニクル』（ナカニシヤ出版、2016年）、その他、授業中に指示します。				
留意事項	日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを心がけて下さい。それら日々の出来事・事件などから「人権」についての理解につとめていただきます。時事的な話題を適宜取り上げますので、その関連で授業計画を一部変更することもあります。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	くらしと法律（日本国憲法）

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	法とは何か、そして憲法とは？	（内　　容）社会規範としての法、法の体系、憲法の意味などについて学ぶ。 （必要な準備）シラバス及びテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。（30分）
第2回	比較のなかの日本国憲法	（内　　容）憲法の歴史、諸外国の憲法との比較、最高法規としての憲法。 （必要な準備）「憲法とは何か」について復習しておくこと。（30分）
第3回	日本国憲法の成立過程を振り返る	（内　　容）日本国憲法の成立過程を振り返りながら、憲法の意義及び目的について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「日本国憲法の成立」に目を通しておくこと。（30分）
第4回	人権とは何かを考える	（内　　容）人権の観念、私人間効力をめぐる問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「基本的人権総論」に目を通しておくこと。（30分）
第5回	人権は誰のもの？	（内　　容）外国人の人権など、人権の享有主体性について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第2章に目を通しておくこと。（30分）
第6回	人権保障の現在（１）包括的基本権、自己決定権、プライバシー	（内　　容）個人の尊重と公共の福祉について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第3章に目を通しておくこと。（30分）
第7回	人権保障の現在（２）法の下の平等	（内　　容）男女平等をめぐる問題などを中心に、私たちの社会のなかの「自由と平等」について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第4章に目を通しておくこと。また、皆さんの身のまわりで「これは平等に反するのではないか」と考えたことを箇条書きにしておくこと。（1時間）
第8回	人権保障の現在（３）精神的自由、思想・良心の自由、表現の自由	（内　　容）表現の自由の現代的意義について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第5章、第6章、第7章の「考えてみよう」の部分について目を通しておくこと。（30分）
第9回	人権保障の現在（４）経済的自由、二重の基準	（内　　容）経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第8章に目を通しておくこと。（30分）
第10回	人権保障の現在（５）社会権ほか	（内　　容）教育を受ける権利を中心に、社会権の保障について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第9章、第10章に目を通しておくこと。（30分）
第11回	人権保障と権力分立	（内　　容）人権保障とそのための制度的基盤や政党の役割について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「統治機構総論」に目を通しておくこと。（30分）
第12回	民主政治のしくみ（１）国会	（内　　容）国会の地位と構成、国会の権能などについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト第11章、第12章に目を通しておくこと。（30分）
第13回	民主政治のしくみ（２）内閣	（内　　容）議院内閣制、行政の民主的コントロールなどについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト第13章に目を通しておくこと。（30分）
第14回	民主政治のしくみ（３）裁判所	（内　　容）裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第14章に目を通しておくこと。（30分）
第15回	まとめ　～憲法改正論議と私たち～	（内　　容）昨今の憲法改正論に言及しながら、いま日本国憲法を学ぶ意味について考える。 （必要な準備）テキスト「エピローグ」。憲法改正の是非について、これまでの講義内容を振り返りながら、まとめておくこと。（1時間）

授業名	**社会学概論**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Sociology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか？」という日常生活の身近な問題を出発点として、映像資料を用いながら、次のように授業を進めていきます。まず、人の間で生じる相互作用についての考察から初めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えていきます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。				
学習成果到達目標	1）物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができるようになる。 2）人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができるようになる。 3）自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができるようになる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	授業時に資料を配布します。				
参考書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年.				
留意事項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニッツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。				

授　業　名	**社会学概論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の内容と進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	現代の社会問題について	（内　　容）人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 （必要な準備）日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してください(60分)。
第3回	人間の相互作用について	（内　　容）日常生活における分析に適用・応用できる人の間で生じる相互作用のありかたの類型について説明する。 （必要な準備）自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください(60分)。
第4回	相互作用の類型について	（内　　容）「人間の相互作用Ⅰ」を踏まえた上で、映像資料を通じて、人間の感情の動きを考察して行きます。 （必要な準備）日常における自分の人間関係を分析し、整理してみてください(60分)。
第5回	人間関係の変化について	（内　　容）「人間の相互作用Ⅰ、Ⅱ」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える人間関係を分析してみてください(60分)。
第6回	人間の絆について	（内　　容）現代の社会において「人間の絆」はどのように捉えられるのかについて考察して行きます。 （必要な準備）自分の身の周りに存在する「人間の絆」について整理してみてください(60分)。
第7回	人間の絆についての分析	（内　　容）映像資料を用いて、「人間の絆」についての考察を深めて行きます。 （必要な準備）日常生活における「人間の絆」について、その純粋性とは何かを考察してみてください(60分)。
第8回	人間の絆とは何か	（内　　容）「人間の絆についてⅠ、Ⅱ」を踏まえた上で、「純粋な人間関係」について考察を進めて行きます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、映像資料を素材に「純粋な人間の絆」について考察してみてください(60分)。
第9回	組織と個人について	（内　　容）人間は、どのようにすれば「一致団結＝まとまる」ことができるのか。ここでは「組織」を捉える枠組みについて考察して行きます。 （必要な準備）自分が、これまで所属している・してきた組織（クラブなど）は、どのように運営されていたのか、整理してみてください(60分)。
第10回	組織と個人についての分析	（内　　容）ここでは「組織と個人についてⅠ」を踏まえて、映像資料も参考にしながら、組織のありかたについて考察して行きます。 （必要な準備）組織に関する分析組みを用いて、自分が所属していた・している組織を分析してみてください（60分）。
第11回	組織と個人の関係とは	（内　　容）クラブ活動などの経験を事例に、人間は、どうすれば、一致団結し、まとまるのか、を考察して行きます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える「組織と個人のありかた」について分析してみてください(60分)。
第12回	グローバル化について	（内　　容）グローバル化の進展により、どのような社会問題が生じているのか、説明して行きます。 （必要な準備）食や衣服など、自分の身の周りの商品が、どこで作られているのか、注意深く観察してみてください(60分)。
第13回	グローバル化の現状	（内　　容）グローバル化が進展していく中で、必要となる異文化の理解について考察して行きます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える「グローバル化」という現象を分析してみてください(60分)。
第14回	日常生活を振り返って－ 人間関係	（内　　容）日常の身近な生活の問題に振り返って、コミュニケーションの問題について検討して行きます。 （必要な準備）仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーは、それぞれ、どのような役割を果たしているのか考察してみてください(60分)。
第15回	日常生活を振り返って－　コミュニケーション	（内　　容）人間がいかに他者との関係のなかで自己を表現しようとしているか、いかに他者の存在を理解しようとしているか、そのなかで生じる相互作用について考察して行きます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、映像資料を素材に、「コミュニケーションのありかた」を考察してみてください(60分)。

授業名	**消費者教育**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Consumer Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**大谷　和海**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	消費者教育は、2012年の「消費者教育の推進に関する法律」が制定されて以来、その在り方も変化しつつあります。 ところで、私たちの多くは労働者として働いて賃金収入を得て、それを貯蓄や支出に利用しています。支出の多くは生活に必要な商品やサービスの購入にあてています。 しかし、仮に高収入を得ても、商品等の価値が分からなかったり、騙されたりしては商品等の購入に使ったお金の値打ちを減少させることになりかねません。 そこで、消費生活に関わる知識を習得し、これを適切な行動に結びつける実践的能力の育成や、主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与できる資質を育むことが重要になっています。 本講座では消費者教育の意義と課題について考えつつ、具体的な事例を通して、消費者教育についての理解を深め、その力量を形成することを目指します。
学習成果到達目標	1）消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要を理解することができる。 2）自らが、賢い消費者として、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考えることができ、また行動することができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（授業での質疑応答による理解力と回答力　）　□（　）
テキスト	神山久美・中村年春・細川幸一編著『新しい消費者教育』慶應義塾大学出版会。
参考書	授業内で適宜紹介します。
留意事項	消費者教育に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q＆Aの力や、プレゼンテーション能力を身に着けてもらいます。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。

授　業　名	**消費者教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス：新しい消費者教育の推進に向けて	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	消費者教育とはー理念と目的（第１章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	消費者教育の歴史と体系（第２章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	経済社会の発展と消費者問題の発生（第３章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	消費者政策の展開（第４章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	国・地方の消費者行政（第５章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	商品の安全性（第６章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	契約と消費者トラブル（第７章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	生活設計（第８章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	消費者信用（第９章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	情報化社会と消費者（第10章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	幼児期・小学生期（第11章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	中学生期・高校生期（第12章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	成人期（若者・成人一般・高齢者）（第13章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	消費者市民社会の構築に向けて（第14章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授業名	**日本の文学u**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Literature	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**土井　哲治**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	普段読まない、日本の有名な古典作品を味読することで、古い時代の日本人の姿に関する知識を増やし、優れた古人のいろいろな感性やものの考え方に接していただき、それらを通して、日常あまり考えないことを考える手懸かりともしていただきたい。具体的には、慎ましやかに生きた平安時代後期の一女性の自伝、『更級日記』を取り上げる。				
学習成果到達目標	1）『更級日記』について語ることができる。 2）平安時代の生活の一端を語れる。 3）普段考えない方面のことを十分考えることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（文章による論理展開能力　）　□（　）				
テキスト	『更級日記　現代語訳付き』（角川ソフィア文庫)原岡文子・訳注（角川書店）				
参考書	随時紹介する。				
留意事項	レポート作成時に欠席した場合は、必ず次の授業までに授業内容を確認の上作成して提出すること。				
オフィスアワー	初回授業時に提示する。				

授　業　名	**日本の文学u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	（内　　容）授業進め方の説明と冒頭の味読 （必要な準備）シラバスを読んでくる。
第2回	日記文学と作者について	（内　　容）日記文学と作者についての講義 （必要な準備）テキストの伝記部分をを読んでくる。
第3回	帰京の旅・旅立ち	（内　　容）父親の赴任先から京に帰る旅の出立部分の精読と小レポートの作成 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第4回	帰京の旅・足柄山	（内　　容）「あそびめ」についての説明と旅の途中の足柄山での遊女との出会いの部分の精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第5回	帰京の旅・都到着	（内　　容）都に到着したところの精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第6回	物語入手	（内　　容）源氏物語等を入手して歓喜雀躍し耽読するさまの精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第7回	継母との別れ	（内　　容）心通わした継母との別れの精読と作者の和歌の味読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第8回	侍従の大納言の娘の死と猫	（内　　容）「夢」ついての説明と猫にまつわる出来事の精読及び小レポート作成 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第9回	姉の死	（内　　容）苦悩の日々のひとつ姉の死の箇所の精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第10回	文学少女の妄想	（内　　容）物語の世界とは裏腹な現実の中での妄想の精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第11回	父の赴任	（内　　容）苦悩の日々のひとこま父の赴任の場面の精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第12回	清水初瀬の夢告げ	（内　　容）信仰生活の中の夢語りの精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第13回	一家の大黒柱	（内　　容）「おとな」としての日々の精読 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第14回	出仕	（内　　容）宮仕えと恋模様の精読と小レポート作成 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。
第15回	初瀬詣でとまとめ	（内　　容）初瀬詣での精読及び総括と定期試験の課題についての説明 （必要な準備）現代語訳を読んでくる。

授業名	**比較文化論u**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Comparative Culture	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**有井　晴香**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。 文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。				
学習成果到達目標	1）価値観の多様性や文化的偏見について理解を深める。 2）文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3）多様な物差しがあることを意識したうえで価値判断ができるようになる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	指定しない。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	座席は指定することがある。小グループでのディスカッションを重視する。				
オフィスアワー	授業終了後に連絡する。				

授　業　名	**比較文化論ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション　文化とは何か	（内　　容）講義スケジュール、文化の定義 （必要な準備）シラバスを読んでくる（5分）
第2回	人間の行動と文化	（内　　容）人間の行動と文化の関係 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第3回	言語と文化	（内　　容）言語と文化の関係 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第4回	名付けの文化	（内　　容）名付けのバリエーションと変化について、諸外国との比較 （必要な準備）自分の名前の由来を確認しておく（30分）
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ	（内　　容）性別の捉え方 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第6回	大人と子ども	（内　　容）通過儀礼 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第7回	親族と婚姻	（内　　容）多様な家族形態、近親相姦のタブー （必要な準備）キーワード予習（30分）
第8回	出産	（内　　容）出産環境、女性の身体 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第9回	医療と文化	（内　　容）人間にとっての病気・医療とは何か （必要な準備）キーワード予習（30分）
第10回	信仰・信念体系	（内　　容）宗教、呪術、神話 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第11回	食文化	（内　　容）食文化と風土、食のタブー （必要な準備）キーワード予習（30分）
第12回	文化の画一化	（内　　容）アメリカニゼーション （必要な準備）キーワード予習（30分）
第13回	海外文化とステレオタイプ	（内　　容）文化的偏見 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第14回	混ざり合う文化	（内　　容）現代日本文化＜から／へ＞の影響 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第15回	異文化理解	（内　　容）異文化コミュニケーション （必要な準備）キーワード予習（30分）

授業名	**ジェンダー論u**	開講学年	2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Gender Studies	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**斧出　節子**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		

授業の概要	「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。
学習成果到達目標	1）現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2）自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。
評価方法	定期試験（ 80 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 20 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（積極的な授業態度 ） □（ ）
テキスト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか（有斐閣アルマ）
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著（有斐閣）、『未来をひらく男女共同参画－ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）
留意事項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められます。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください

授　業　名	ジェンダー論u

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	セックスとジェンダーの違い	（内　　容）概念説明 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	「らしさ」とは何か	（内　　容）男らしさ、女らしさについて考える。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第3回	男女二分法について	（内　　容）二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 （必要な準備）前回の講義について復習すること。(30分)
第4回	性における多様性：性の複数の次元	（内　　容）性の複数の次元について学ぶ。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第5回	性における多様性：性の少数派	（内　　容）性の少数派について理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第6回	文化とジェンダー	（内　　容）文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第7回	幼児期の性の社会化	（内　　容）親と子どもの相互作用について学ぶ。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第8回	シンデレラとジェンダー	（内　　容）映像を分析する。 （必要な準備）グリム童話について調べておくこと。(30分)
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	（内　　容）メディアが与える影響について考える。 （必要な準備）課題レポートを作成しておくこと。（30分）
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	（内　　容）隠れたカリキュラムについて理解する。 （必要な準備）前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	（内　　容）自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第12回	デートDVとジェンダー	（内　　容）デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 （必要な準備）前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第13回	就労とジェンダー	（内　　容）就労に関してどのようなジェンダー差があるか学ぶ。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく。（30分）
第14回	子育てとジェンダー	（内　　容）ジェンダーの視点からみた子育ての現状と課題について学ぶ。 （必要な準備）前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第15回	まとめ	（内　　容）これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。 （必要な準備）疑問点をまとめておくこと。(30分)

授業名	**世界の経済**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	World Economy	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**足立　正樹**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		
授業の概要	私たちはさまざまな経済現象のなかで暮らしている。経済現象の中には自分の生活と無関係と思われるものもあるが、国境を越えての経済活動が急速に広がっている中では、思わざるところで関係している場合も多い。たとえば通貨危機、IT不況、同時多発テロなどは私たちの日常や経済現象に大きな影響を与えている。経済とは何かを理解するために、現実に起こっている経済現象、諸問題を検討していく。授業は講義形式で行う。				
学習成果到達目標	1）世界経済の歴史と現状についての基本的知識を習得する。 2）自分のくらしと世界経済の結びつきを理解する。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	担当授業の前後に行う。				

授　業　名	**世界の経済**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）講義の基本方針 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	日常生活における世界経済Ⅰ	（内　　容）身の回りの外国製品、円相場、海外旅行 （必要な準備）身の回りの外国製品を調べてみる。
第3回	日常生活における世界経済Ⅱ	（内　　容）日本の経済構造と世界経済 （必要な準備）日本経済と世界経済の違いについて知っていることをまとめておく。
第4回	世界経済の成立	（内　　容）新大陸の発見と世界経済 （必要な準備）大航海の時代について調べる。
第5回	近代社会の原理と国民国家	（内　　容）近代社会の精神的特徴と国家体制 （必要な準備）近代の特徴を調べておく。
第6回	自由貿易の理論的基礎Ⅰ	（内　　容）自由主義思想と経済学の誕生 （必要な準備）自由貿易とは何か、調べておく。
第7回	自由貿易の理論的基礎Ⅱ	（内　　容）貿易の利益の基礎理論 （必要な準備）比較優位を調べておく。
第8回	日本と世界経済Ⅰ	（内　　容）古代と中世における外国貿易 （必要な準備）古代～中世の貿易について調べておく。
第9回	日本と世界経済Ⅱ	（内　　容）近世における外国貿易 （必要な準備）近世の貿易について調べておく。
第10回	世界経済の発展Ⅰ	（内　　容）植民地獲得競争と日本の開国 （必要な準備）非ヨーロッパの植民地化について調べておく。
第11回	世界経済の発展Ⅱ	（内　　容）世界大恐慌と資本主義の崩壊 （必要な準備）世界大恐慌について調べておく。
第12回	破局からの復興Ⅰ	（内　　容）国内体制の整備、福祉国家体制 （必要な準備）経済再建の原則を理解しておく。
第13回	破局からの復興Ⅱ	（内　　容）国際体制、自由貿易体制の確立 （必要な準備）IMF・ブレトンウッズについて調べておく。
第14回	ソ連体制の崩壊とグローバル化	（内　　容）世界単一市場の成立 （必要な準備）価格破壊の実態について調べておく。
第15回	世界経済の展望	（内　　容）続発する通貨危機と新たな秩序の試み （必要な準備）過去に世帯で起こった通貨危機について調べる。

授業名	**国際理解**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	International Understanding	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**有井　晴香**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		

授業の概要	本講義では、学校教育に注目し、それぞれの国家・地域における共通点と独自性を概観することによって、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。
学習成果到達目標	1）世界の諸国・諸地域の学校教育の歴史と現状を知ることを通して、教育とそれぞれの風土・社会・文化・経済とのつながりを理解する。 2）様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
留意事項	諸外国・地域について知的好奇心がある人にすすめます。毎回の予習と最後のグループワークに積極的に取り組むことが必要です。
オフィスアワー	授業終了後に連絡をとる。

授　業　名	**国際理解**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション：国家と地域	（内　　容）「国家」と複数の国家を含む「地域」について （必要な準備）シラバスを読んでおくこと（10分）
第2回	学校教育の歴史	（内　　容）学校教育の歴史とさまざまな教育形態 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第3回	東アジア	（内　　容）東アジア地域の学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第4回	東南アジア	（内　　容）東南アジア地域の学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第5回	インド	（内　　容）インドの学校教育の現状と課題 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第6回	中東	（内　　容）中東地域の特徴と学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第7回	アフリカ１	（内　　容）アフリカの学校教育の歴史 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第8回	アフリカ２	（内　　容）現代のアフリカの多様性と学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第9回	中南米	（内　　容）中南米地域の特徴と学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第10回	オセアニア	（内　　容）オセアニア地域の特徴と学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第11回	北米	（内　　容）北米地域の学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第12回	ヨーロッパ１	（内　　容）現代ヨーロッパの学校教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第13回	ヨーロッパ２	（内　　容）北欧地域の特徴と教育システム （必要な準備）キーワード予習（30分）
第14回	グループワーク	（内　　容）独自のテーマで特定の国家・地域について調べる （必要な準備）調べたいテーマと地域について考えてくる（30分）
第15回	グループワーク発表会	（内　　容）グループ研究の発表 （必要な準備）発表準備（２時間）

授業名	**産官学連携実践Ⅰua・Ⅰub**	開講学年	1･2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Practice of society cooperation Ⅰ	開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生		

授業の概要	大学生として学ぶことと実社会との結びつきを低学年のうちから実感し、学びを深めると共に大学生としてのキャリア形成のスタートを図る。地域の企業や学校への関心を涵養し、進路選択の選択肢としての視野を広げることを意識する。具体的には事前学習を行い、実践体験先である企業や学校の現場に入り、現場で「仕事とは何か」「働くこととは何か」を考え、仕事をする上での必要な能力を修得することをねらいとする。そして実践体験からの気づきと課題などを整理し、今後の目標を明らかにすることを目指す。 講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。
学習成果到達目標	1）社会に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 2）社会人に必要な基礎的な能力を身に付けることができる。 3）自分の将来を明確にすることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（チームワーク力　）　□（　）
テキスト	なし
参考書	受講生は自らも新聞などを読み、調べていく過程でテーマを見つけること。
留意事項	本授業は、学びと実社会のつながりを認識しながら、学びを深めるという目的から、意欲のある学生の受講を求める。大学での事前授業・事後授業に加えて、スクールボランティアやインターンシップに主体的に参加することが単位の条件となる。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯1回目の授業で広報を行う。

授　業　名	**産官学連携実践Ｉｕａ・Ｉｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の計画・内容・注意事項等。 （必要な準備）シラバスを事前に読んでおく。（10分）
第2回	大学と高校の学びの相違点	（内　　容）大学とは何か、高校までとの違いを考える。 （必要な準備）自分自身の考えをまとめておく。（30分）
第3回	産官学連携実践の意義と目的	（内　　容）大学と社会の違い、つながりを考える。産官学連携実践の意義や現状等について学ぶ。 （必要な準備）前講の復習（30分）
第4回	実践体験先の探し方 実践体験に向けた目的の設定	（内　　容）実践体験先の探し方、目的・実施形態・現状等について学び、実践の目的・目標について考える。 （必要な準備）前講の復習（30分）
第5回	ビジネスマナーの基本：挨拶と訪問、心構え	（内　　容）事前の連絡・事前の訪問・挨拶・打ち合わせ等の心構えを学び、自己紹介・挨拶の仕方等の演習を行う。 （必要な準備）前講の復習（30分）
第6回	企業・学校の現場を知る　Ⅰ	（内　　容）現場での実践 （必要な準備）前講の復習（30分）
第7回	企業・学校の現場を知る　Ⅱ	（内　　容）現場での実践 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第8回	企業・学校の現場を知る　Ⅲ	（内　　容）現場での実践 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第9回	企業・学校の現場を知る　Ⅳ	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第10回	企業・学校の現場を知る　Ⅴ	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第11回	企業・学校の現場を知る　Ⅵ	（内　　容）現場での実践 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第12回	企業・学校の現場を知る　Ⅶ	（内　　容）現場での実践 （必要な準備）常にメモをとる。（随時）
第13回	実践体験の成果の振り返り	（内　　容）実践体験の成果を振り返り、経験の共有、成長点の認識などをグループで話し合う。 （必要な準備）ノート・メモの整理（１時間）
第14回	実践体験報告をまとめる	（内　　容）実践体験からの気づきと課題などを整理し、今後の目標を明確にするとともに、実践体験報告書をまとめ。 （必要な準備）レポートを書く準備をする（１時間）
第15回	実践体験の報告会での発表	（内　　容）最終のまとめとして、実践体験報告会を行う。 （必要な準備）発表の事前準備とリハーサルをしておく。（１時間）

授業名	**産官学連携実践Ⅱｕａ・Ⅱｕｂ**	開講学年	2･3･4回生	単位数	2単位
英文名	Practice of society cooperation Ⅰ	開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	**野田　隆生**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	本講では、自らキャリアを形成したいという意欲を高めるために、他者とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を取り込みながら「社会人」として必要な資質・技能を習得していくことを目的とする。スクールボランティアやコンソーシアム京都が行うインターンシップに参加することを通して、社会で生きていくために必要な力を身に付けていく。				
学習成果到達目標	1）自主的・主体的に行動する力を習得する。 2）課題を発見し、解決に向け提案する力を習得する。 3）わかりやすく書く・話す自己表現力を身に付ける。 4）他者と力を合わせて取り組むことのできるチームワーク力を身に付ける。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　■実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	適宜資料を配布する。				
参考書	講義内に紹介する。				
留意事項	学生のみなさんの自主的・主体的活動を理論と実践の両側面から支援するための講座です。 スクールボランティアやコンソーシアム京都が行うインターンシップなどへの積極的な参加を求めます。				
オフィスアワー	講義初回時にお知らせします。 基本的には研究室に在室していれば対応をします。 また、急な質問等については学内Ｅ－ｍａｉｌを利用して下さい。				

授　業　名	産官学連携実践Ⅱｕａ・Ⅱｕｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）自らの進路・就職イメージについて考えておく。（45分）
第2回	キャリアプランニング	（内　　容）キャリアプランニングと進路決定に必要な要素とプロセス理解を深める。 （必要な準備）キャリアプランニングについて調べておくこと(60分)。
第3回	自分の動機づけ	（内　　容）自分を動機づけてきたものは何か、言語表現で明らかにする。 （必要な準備）キャリアプランニングに必要な動機づけについて考え、まとめておくこと(60分)。
第4回	働く意味を考える	（内　　容）働く意味を考え、自分が形成したいキャリアの形を見出す。 （必要な準備）働くことに対して自分がもつイメージをまとめておく(40分)。
第5回	産官学連携とは	（内　　容）産官学連携について捉える。 （必要な準備）前講までの復習をしておく(60分)。
第6回	企業・学校の現場を知る①	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第7回	企業・学校の現場を知る②	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第8回	企業・学校の現場を知る③	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第9回	企業・学校の現場を知る④	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第10回	企業・学校の現場を知る⑤	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第11回	企業・学校の現場を知る⑥	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第12回	企業・学校の現場を知る⑦	（内　　容）現場での実践。 （必要な準備）実習の事前準備をおこなう(30分)。
第13回	資料をまとめる①	（内　　容）収集した資料を整理する。 （必要な準備）実習で得た資料をまとめる(60分)。
第14回	資料をまとめる②	（内　　容）レポートを書く準備をする。 （必要な準備）実習で得た資料をまとめる(60分)。
第15回	レポートにまとめる	（内　　容）レポートにまとめる。 （必要な準備）前講までのまとめをする(60分)。

授業名	**和食学**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Food	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**堀越　昌子**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		

授業の概要	ヒトは生きていくために、食物を獲得し、安全でおいしく食べられるように調理・加工するなど、工夫と努力を重ねて、食文化を発展させてきた。ここでは、現代の私たちの食生活、食嗜好がどのように形成されてきたのかを、生活を営むヒトの視点から検討していく。また、京都を中心に地域ごとの郷土食とその暮らしについて、歴史的変遷や社会的背景とともに特徴を把握していく。和食は日本人の体質に合い、健康的であると実証されつつある。欧米化の進む日本の食生活において、和食を見直し、継承し、健康な食生活の維持・増進に役立てる能力を養うことを目指す。
学習成果到達目標	1）和食の特徴を食材、調理法、食べ方などの側面から捉えることができる。 2）和食の優れた点を、ユネスコ世界遺産に登録された要因とともに考察することができる。 3）世界の食文化と比較しながら、和食の継承について考えることができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	奥村彪生監修『和食の基本がわかる本』農文協
参考書	
留意事項	
オフィスアワー	毎週１回（休業期間を除く）オフィスアワーを設けます。

授　業　名	**和食学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	和食の特徴	（内　　容）ユネスコの世界遺産に登録された要因を探る。 （必要な準備）世界の食文化と和食を比較しておく。
第2回	世界の食文化と和食	（内　　容）世界の食文化と和食 （必要な準備）資料を読んでおく。
第3回	気候風土と主食文化	（内　　容）気候風土と主食文化の関連と食文化圏の形成をみていく。 （必要な準備）資料を読んでおく。
第4回	日本の風土と和食の形成	（内　　容）アジアモンスーン圏における日本の風土と和食の形成 （必要な準備）資料を読んでおく。
第5回	縄文時代の狩猟・採集生活と食、雑穀と芋、半栽培から農業への移行と食の確保	（内　　容）縄文時代の狩猟・採集生活はどのような食事構成であったかを探る。雑穀と芋、半栽培から農業への移行と食の確保 （必要な準備）資料を読んでおく。
第6回	弥生時代の水田稲作の発展と「米と魚」食の形成	（内　　容）弥生時代の水田稲作の発展が「米と魚」の和食の柱の成立要因となる。 （必要な準備）資料を読んでおく。
第7回	奈良時代律令国家の成立と食、精進料理の発展、平安時代の公家文化と宮廷料理	（内　　容）奈良時代律令国家の成立と獣肉食の後退、精進料理の発展、平安時代の公家文化、宮廷料理の特徴を探る。 （必要な準備）資料、テキストを読んでおく。
第8回	鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の湯文化の発展と懐石料理	（内　　容）鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の湯文化の発展と懐石料理など、和食独自の発展を学ぶ。 （必要な準備）資料、テキストを読んでおく。
第9回	戦国時代と江戸時代の食、庶民文化の隆盛と飢饉時の食	（内　　容）戦国時代と江戸時代の食、庶民文化の隆盛をとらえるとともに、江戸時代に多かった飢饉時の食について学ぶ。 （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第10回	明治以降の暮らしと食の変遷	（内　　容）明治維新以降の暮らしと食生活の変遷過程を学ぶ。 （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第11回	郷土に根ざした和食の体系 季節と食材、和食のスタイル	（内　　容）郷土に根ざした和食の体系 季節と食材、和食のスタイル、食具、食構成の特徴を捉える （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第12回	日常の郷土料理と京都のおばんざい	（内　　容）日常の郷土料理と京都のおばんざいは、和食の中での柱となる重要な位置づけであることを学んでいく。 （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第13回	祝いと行事の郷土料理、正月の料理と節料理、ハレ食文化	（内　　容）祝いと行事の郷土料理、正月の料理と節料理など、ハレ食文化の継承と発展を学ぶ。 （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第14回	食生活の欧米化と和食のあり方	（内　　容）食生活の欧米化とともに、生活習慣病が増加している実態を捉えて、和食と健康とのあり方を考えていく。 （必要な準備）担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。
第15回	和食文化の継承の課題	（内　　容）和食文化を継承していくための課題を考え、まとめていく。 （必要な準備）和食文化のまとめをしておく。

授業名	**ライフステージ栄養学**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Nutrition of Life	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**富安　広幸**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		
授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的変化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても学ぶ。				
学習成果到達目標	1）栄養状態の評価・判定について理解できる。 2）ライフステージ各期の栄養および食事に関する諸問題について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　　）　□（　　）			
テキスト	サクセス管理栄養士講座　応用栄養学　ライフステージ別　全国栄養士養成施設協会監修（第一出版）				
参考書					
留意事項	専門用語について充分理解しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**ライフステージ栄養学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	1、オリエンテーション 栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解	（内　　容）１、授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、食事摂取基準の基礎について学ぶ （必要な準備）シラバスと教科書を予習しておくこと。（３０分）
第2回	2、成長・発達・加齢の概念と栄養	（内　　容）２、誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達・加齢における影響と栄養について学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第3回	3、妊娠期の栄養	（内　　容）３、妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第4回	4、授乳期の栄養	（内　　容）４、授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第5回	5、新生児期の栄養	（内　　容）５、新生児期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第6回	6、乳児期・離乳期の栄養	（内　　容）６、乳児期及び離乳期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第7回	7、幼児期の栄養	（内　　容）７、幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第8回	8、学童期の栄養	（内　　容）８、学童期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第9回	9、思春期の栄養	（内　　容）９、思春期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第10回	１０、成人期の栄養	（内　　容）１０、成人期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第11回	１１、更年期の栄養	（内　　容）１１、更年期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第12回	１２、高齢期の栄養	（内　　容）１２、高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第13回	１３、運動・スポーツと栄養	（内　　容）１３、運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第14回	１４、環境と栄養	（内　　容）１４、ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（３０分）
第15回	１５、まとめと評価（到達度の確認）	（内　　容）１５、まとめと総合評価 （必要な準備）全体の復習をしておくこと。（１時間）

授業名	**TOEICI**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	TOEICI	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**松尾　章子**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。TOEIC400点又はTOEIC Bridge130点取得を目指す。				
学習成果到達目標	1）TOEICテスト形式に慣れ、試験受験時には問題に集中することができる。 2）Part 2とPart 5の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3）TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より150個多く知っている。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	妻鳥千鶴子＆田平真澄著　『はじめてのTOEIC受験徹底対策　改訂版』センゲージラーニング株式会社　2016年				
参考書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。				
留意事項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施します。				
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。				

授業名	TOEICI

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	（内　　容）到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト （必要な準備）本授業のシラバスを読む
第2回	Quiz 1 頻出語句リスト「A」テスト Unit 1 Shopping	（内　　容）小テスト1、Unit 1の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「A」の単語練習、②Unit 1の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第3回	Quiz 2 頻出語句リスト「B-C」テスト Unit 2 Daily Life	（内　　容）小テスト2、Unit 2の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「B-C」の単語練習、②Unit 2の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第4回	Quiz 3 頻出語句リスト「D-E」テスト Unit 3 Transportation	（内　　容）小テスト3、Unit 3の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「D-E」の単語練習、②Unit 3の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第5回	Quiz 4 頻出語句リスト「F-H」テスト Unit 4 Jobs	（内　　容）小テスト4、Unit 4の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「F-H」の単語練習、②Unit 4の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第6回	Quiz 5 頻出語句リスト「I-K」テスト Unit 5 Meals	（内　　容）小テスト5、Unit 5の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「I-K」の単語練習、②Unit 5の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第7回	Quiz 6 頻出語句リスト「L-O」テスト Unit 6 Communication	（内　　容）小テスト6、Unit 6の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「L-O」の単語練習、②Unit 6の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第8回	Quiz 7 頻出語句リスト「P-Q」テスト Unit 7 Fun	（内　　容）小テスト7、Unit 7の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「P-Q」の単語練習、②Unit 7の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第9回	Quiz 8 頻出語句リスト「R」テスト Unit 8 Office Work	（内　　容）小テスト8、Unit 8の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「R」の単語練習、②Unit 8の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第10回	Quiz 9 頻出語句リスト「S」テスト Unit 9 Meeting	（内　　容）小テスト9、Unit 9の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「S」の単語練習、②Unit 9の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第11回	Quiz 10 頻出語句リスト「T-W」テスト Unit 10 Travel	（内　　容）小テスト10、Unit 10の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「T-W」の単語練習、②Unit 10の問題を解き答え合わせをして復習をする、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第12回	Unit 11 Finance	（内　　容）Unit 11の内容確認、練習問題 （必要な準備）①Unit 11の問題を解き答え合わせをして復習をする、②授業中に確認したい箇所に印をつける
第13回	Unit 12 Business	（内　　容）Unit 12の内容確認、練習問題 （必要な準備）①Unit 12の問題を解き答え合わせをして復習をする、②授業中に確認したい箇所に印をつける
第14回	Post-test（日程が前後することがある）	（内　　容）学習後テスト （必要な準備）①Units 1-12の復習、②頻出語句リストの復習
第15回	Review	（内　　容）復習 （必要な準備）①Units 1-12とPre- & Post-testの復習、②頻出語句リストの復習

授業名	**TOEICⅡ**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	TOEICⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松尾　章子**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。TOEIC450点又はTOEIC Bridge150点取得を目指す。				
学習成果到達目標	1）TOEICテスト形式に慣れ、試験受験時には問題に集中することができる。 2）Parts 1, 2, 5, 6の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3）TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より150個多く知っている。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	横山綾子＆Tony Cook著　『TOEIC TEST解答力アップ徹底トレーニング　改訂版』センゲージラーニング株式会社　2016年				
参考書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。				
留意事項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施します。				
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。				

授業名	TOEICⅡ	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	（内　　容）到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト （必要な準備）本授業のシラバスを読む
第2回	Quiz 1 頻出語句リスト「A」テスト Unit 1 テスト形式を知る	（内　　容）小テスト1、Unit 1の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「A」の単語練習、②Unit 1の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第3回	Quiz 2 頻出語句リスト「B & D」テスト Unit 2 基本戦略①〈人〉〈物〉〈風景〉のチェックポイント	（内　　容）小テスト2、Unit 2の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「B & D」の単語練習、②Unit 2の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第4回	Quiz 3 頻出語句リスト「C」テスト Unit 3 基本戦略②聞いてわかる生活語彙を増やす！	（内　　容）小テスト3、Unit 3の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「C」の単語練習、②Unit 3の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第5回	Quiz 4 頻出語句リスト「E-F」テスト Unit 4 英文の基本構造を見抜く	（内　　容）小テスト4、Unit 4の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「E-F」の単語練習、②Unit 4の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第6回	Quiz 5 頻出語句リスト「G-I」テスト Unit 5 解答根拠の登場順	（内　　容）小テスト5、Unit 5の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「G-I」の単語練習、②Unit 5の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第7回	Quiz 6 頻出語句リスト「K-N」テスト Unit 6 正解の言い換えパターンを知る	（内　　容）小テスト6、Unit 6の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「K-N」の単語練習、②Unit 6の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第8回	Quiz 7 頻出語句リスト「O-P」テスト Unit 7 機能疑問文を聞き取る	（内　　容）小テスト7、Unit 7の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「O-P」の単語練習、②Unit 7の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第9回	Quiz 8 頻出語句リスト「Q-R」テスト Unit 8 動詞の時制を見極める	（内　　容）小テスト8、Unit 8の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「Q-R」の単語練習、②Unit 8の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第10回	Quiz 9 頻出語句リスト「S」テスト Unit 9 接続詞 VS. 前置詞	（内　　容）小テスト9、Unit 9の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「S」の単語練習、②Unit 9の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第11回	Quiz 10 頻出語句リスト「T-Y」テスト Unit 10 複数パッセージの攻略	（内　　容）小テスト10、Unit 10の内容確認、練習問題 （必要な準備）①頻出語句リスト「T-Y」の単語練習、②Unit 10の問題を解き答え合わせをして復習する、③授業中に確認したい箇所に印をつける
第12回	Unit 11 接続副詞に強くなる	（内　　容）Unit 11の内容確認、練習問題 （必要な準備）①Unit 11の問題を解き答え合わせをして復習する、②授業中に確認したい箇所に印をつける
第13回	Unit 12 NOT型設問のコツ	（内　　容）Unit 12の内容確認、練習問題 （必要な準備）①Unit 12の問題を解き答え合わせをして復習する、②授業中に確認したい箇所に印をつける
第14回	Post-test（日程が前後することがある）	（内　　容）学習後テスト （必要な準備）①Units 1-12の復習、②頻出語句リストの復習
第15回	Review	（内　　容）復習 （必要な準備）①Units 1-12とPre- & Post-testの復習、②頻出語句リストの復習

授業名	**中国語Ⅰu**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	ChineseⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**中尾　弥継**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。				
学習成果到達目標	1）正確な中国語の発音ができる。 2）基本的な単語や文法が理解できる。 3）自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 ■実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	『初級テキスト　カンフー中国語』（坂井有・中尾弥継・楊韜　著、ブックウェイ）				
参考書	『プログレッシブ中国語辞典　第２版』（小学館）				
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりやること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**中国語Ｉｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス　「発音」（声調、単母音）	（内　　容）講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」（子音、複母音）	（内　　容）中国語の基本的な発音を習得する。 （必要な準備）「第１回」の復習。
第3回	「発音」（声調変化、よく使う表現　など）	（内　　容）中国語の基本的な発音を習得する。 （必要な準備）「第２回」の復習。
第4回	「第一課」（人称代名詞、疑問文　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第３回」の復習。
第5回	「第二課」（いろいろな動詞、語気助詞“？”“？”　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第４回」の復習。
第6回	復習①「第一課」「第二課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第一課」「第二課」の復習。
第7回	「第三課」（形容詞述語文、疑問詞“什？”“？”など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第６回」の復習。
第8回	「第四課」（数詞、量詞　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第７回」の復習。
第9回	復習②「第三課」「第四課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第三課」「第四課」の復習。
第10回	「第五課」（方位詞、存在を表す“在”　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第９回」の復習。
第11回	「第六課」（時間の言い方、連動文　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１０回」の復習。
第12回	復習③「第五課」「第六課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第五課」「第六課」の復習。
第13回	「第七課」（完了、変化“了”　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１２回」の復習。
第14回	総復習①	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「発音」から「第３課」の復習。
第15回	総復習②	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第４課」から「第７課」の復習。

授業名	**中国語Ⅱu**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	ChineseⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**中尾　弥継**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	本授業は中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、やや複雑なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。				
学習成果到達目標	1）より正確な中国語の発音ができる。 2）より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 3）自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。				
評価方法	定期試験（ 50 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 50 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 ■実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『初級テキスト　カンフー中国語』（坂井有・中尾弥継・楊韜　著、ブックウェイ） ※中国語Ⅰで購入したテキストを継続して使用				
参考書	『プログレッシブ中国語辞典　第２版』（小学館）				
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりやること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**中国語Ⅱｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス　中国語Ｉの復習	（内　　容）講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）中国語Ｉで学習した部分を復習しておく。
第2回	「第八課」（助動詞、“会”“能”“可以”　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１回」の復習。
第3回	「第九課」（進行“正在～？”、持続　“～着”　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第２回」の復習。
第4回	復習①「第八課」「第九課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第八課」「第九課」の復習。
第5回	「第十課」（補語①　結果補語、比較　A“比”B～　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第４回」の復習。
第6回	「第十一課」（“是～的”構文、二重目的語　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第５回」の復習。
第7回	復習②「第十課」「第十一課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第十課」「第十一課」の復習。
第8回	「第十二課」（補語③　方向補語“来”“去”、“把”処置式の文　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第７回」の復習。
第9回	「第十三課」（主述述語文、存現文　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第８回」の復習。
第10回	復習③「第十二課」「第十三課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第十二課」「第十三課」の復習。
第11回	「第十四課」（受身、使役　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１０回」の復習。
第12回	「第十五課」（複文、動詞Ａ＋也＋動詞Ａ＋可能補語の否定形　など）	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１１回」の復習。
第13回	復習④「第十四課」「第十五課」	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第十四課」「第十五課」の復習。
第14回	総復習①	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第８課」から「第１１課」の復習。
第15回	総復習②	（内　　容）基本的な単語や文法を習得していく。 （必要な準備）「第１２課」から「第１５課」の復習。

授業名	**ハングルⅠu**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	Hangul Ⅰ u	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**韓　亨模**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。				
学習成果到達目標	1．ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2．韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　　）　■（積極性　　）			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版』 木内明　著（国書刊行会）				
参考書	随時指示する。				
留意事項	特になし。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**ハングルⅠu**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）講義の進め方、韓国語について、あいさつ （必要な準備）
第2回	基礎・第２課　基本母音	（内　　容）１０の基本母音、あいさつ （必要な準備）前回の復習
第3回	基礎・第３課　基本子音	（内　　容）平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 （必要な準備）前回の復習
第4回	基礎・第４課　複合母音	（内　　容）１１の複合母音、自己紹介 （必要な準備）前回の復習
第5回	基礎・第５課　パッチム	（内　　容）代表子音、実用表現 （必要な準備）前回の復習
第6回	基礎・第６課　発音の変化	（内　　容）有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 （必要な準備）前回の復習
第7回	基礎・第６課　発音の変化	（内　　容）hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 （必要な準備）前回の復習
第8回	復習	（内　　容）文字（ハングル）と発音のまとめ （必要な準備）これまでの復習
第9回	第１課　私は浅井ゆかりです	（内　　容）～は　/ ～です （必要な準備）これまでの復習
第10回	第２課　出身はソウルですか	（内　　容）～が　/ ～ですか （必要な準備）前回の復習
第11回	第３課　図書館ではありません	（内　　容）～ではありません / ～ではありませんか （必要な準備）前回の復習
第12回	第４課　時間がありますか	（内　　容）います・あります / いません・ありません （必要な準備）前回の復習
第13回	第５課　インターネットをします	（内　　容）します・しますか　/ 何 （必要な準備）前回の復習
第14回	第６課　貿易会社で働いています	（内　　容）（打ちとけた）します・しますか/います・いません （必要な準備）前回の復習
第15回	まとめ	（内　　容）春学期のまとめ （必要な準備）これまでの復習

授業名	**ハングルⅡu**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	HangulⅡu	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**韓　亨模**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。				
学習成果到達目標	1．ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる 2．韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　　）　■（積極性　　）			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版』 木内明　著（国書刊行会）				
参考書	随時指示する。				
留意事項	ハングルが読めることが望ましい。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	ハングルⅡu

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 （必要な準備）
第2回	第７課　東大門市場に行きます	（内　　容）（かしこまった）です・ます （必要な準備）前回の復習
第3回	第８課　しょっちゅうスーパーで買います	（内　　容）ヨ体、（打ちとけた）丁寧 / ～しに （必要な準備）前回の復習
第4回	第８課　しょっちゅうスーパーで買います	（内　　容）母音の縮約　/ 変則用言の丁寧形 （必要な準備）前回の復習
第5回	第９課　それは１万ウォンです	（内　　容）漢数詞 （必要な準備）前回の復習
第6回	第１０課　今、何時ですか	（内　　容）時間 （必要な準備）前回の復習
第7回	第１０課　今、何時ですか	（内　　容）固有数詞、助数詞 （必要な準備）前回の復習
第8回	第１１課　日本語を話されますか	（内　　容）尊敬語 （必要な準備）前回の復習
第9回	第１２課　そんなに遠くありません	（内　　容）用言の否定 （必要な準備）前回の復習
第10回	第１２課　そんなに遠くありません	（内　　容）～するといいです （必要な準備）前回の復習
第11回	復習	（内　　容）敬語（丁寧語・尊敬語）の復習 （必要な準備）これまでの復習
第12回	第１３課　いつ韓国に来ましたか	（内　　容）過去形 （必要な準備）これまでの復習
第13回	第１３課　いつ韓国に来ましたか	（内　　容）変則用言の過去形 （必要な準備）前回の復習
第14回	第１４課　民俗村に一緒に行きましょう	（内　　容）勧誘の表現（～しましょう / ～しよう） （必要な準備）前回の復習
第15回	まとめ	（内　　容）秋学期のまとめ （必要な準備）これまでの復習

授業名	**健康スポーツ科学Ⅲ**	開講学年	2･3･4回生	単位数	1単位
英文名	Health and Sports ScienceⅢ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山本　武司**	対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生		
授業の概要	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎知識を基に、その応用として生涯に亘るスポーツ活動と健康活動を実現できるよう積極的にスポーツ活動を実践する。本授業での実施種目は卓球とバドミントンで試合を中心に授業を展開する。				
学習成果到達目標	卓球、バドミントンを通して生涯に亘り積極的にスポーツを楽しむことができる理論と技術を身につける。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技	平常試験（ 50 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（協調性　）　■（健康への理解　）			
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	随時紹介する。				
留意事項	運動にふさわしい服装と上履きを用意すること。				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（体育準備室）				

授　業　名	**健康スポーツ科学Ⅲ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	（内　　容）本講に関するオリエンテーション （必要な準備）
第2回	卓球・バドミントン１	（内　　容）基本練習、試合 （必要な準備）ルールを調べる
第3回	卓球・バドミントン２	（内　　容）基本練習、試合 （必要な準備）戦術を調べる
第4回	卓球・バドミントン３	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第5回	卓球・バドミントン４	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第6回	卓球・バドミントン５	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第7回	卓球・バドミントン６	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第8回	卓球・バドミントン７	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第9回	卓球・バドミントン８	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第10回	卓球・バドミントン９	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第11回	卓球・バドミントン１０	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第12回	卓球・バドミントン１１	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第13回	卓球・バドミントン１２	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第14回	卓球・バドミントン１３	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる
第15回	卓球・バドミントン１４	（内　　容）試合 （必要な準備）戦術を調べる

授業名	**現代家政学論Ⅰ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Contemporary Home Economics Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**吉田　博子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	現代の「人間」「家族・家庭」「地域」「社会」のそれぞれをめぐる問題を見据えて、人間生活の幸福なあり方、真の生活の豊かさに関わる学習課題・研究課題の把握をめざす。具体的には、子育て、家族、家庭、地域、社会における人間としての広範な関わりに目を向けて、過去・歴史を振り返り、＜今・現在＞を考える。さらに、＜未来＞を探求する創造力を養い、問題解決に必要な行動力・実践力につなげる。
学習成果到達目標	1)現代日本の家族・家庭・地域・社会の現状を理解する。 2)家族・家庭・地域・社会を中心とした「人間生活の幸福なあり方」「真の生活の豊かさ」を探求できるようになる。 3)「何のために学ぶのか」「自分には何ができるのか」について考えることを通して「自らのテーマ」を見つけることができる。 4)未来を切り拓くための自らの学習課題・研究課題を見つけることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『イギリスのいい子　日本のいい子～自己主張とがまんの教育学～』佐藤淑子（中公新書）
参考書	『オイコノミコスー家政について』クセノフォン（リーベル出版） 『人間発達と生涯学習の課題』小口忠彦編（明治図書）
留意事項	テキスト・配付資料をしっかり読み込むこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**現代家政学論Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代家政学とは、家政学とは、ホームエコノミクスとは	（内　　容）授業計画について （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく（10分）
第2回	ホームエコノミクスの歩み：アメリカにおける家政学の歩み	（内　　容）「ホームエコノミクス」の歩みを学び、その意義を考える （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第3回	ホームエコノミクスの歩み：アメリカから日本へ	（内　　容）「家政学」「ホームエコノミクス」の歩み、その意義 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第4回	ホームエコノミクスの歩み：日本における家政学の歩み	（内　　容）日本における「家政学」「ホームエコノミクス」の歩み、その意義 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第5回	ホームエコノミクスの歩み：ホームエコノミクスと現代家政学	（内　　容）ホームエコノミクスと現代家政学、その意義 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第6回	「世界の中の日本」について：日本の家族・家庭、日本の親と子	（内　　容）日本の家族・家庭、日本の親と子について （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分） テキスト（まえがき・第２章）を読んでおく
第7回	「世界の中の日本」について：日本・イギリス・アメリカの家族・親子	（内　　容）日本・イギリス・アメリカの家族・親子について （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分） テキスト（第３・４章）を読んでおく
第8回	「世界の中の日本」について：自己主張・自己抑制・自己評価・自己肯定感	（内　　容）自己主張・自己抑制・自己評価・自己肯定感について （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分） テキスト（第５・６章）を読んでおく
第9回	「学ぶ」ということ：何のために学ぶのか	（内　　容）「学ぶということ」について考える （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第10回	「学ぶ」ということ：意見交換	（内　　容）「何のために」学ぶのかについての事例検討・意見交換 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分） 配付資料を読み、課題に取り組む
第11回	「働く」ということ：何のために働くのか	（内　　容）「働くということ」について事例検討 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第12回	「生きる」ということ：何のために生きるのか	（内　　容）「生きるということ」について事例検討 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第13回	「愛する」ということ：愛するとは、愛されるとは	（内　　容）「愛するということ」について事例検討 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）
第14回	「愛する」ということ：意見交換	（内　　容）「愛するということ」についての事例検討・意見交換 （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分） 配付資料を読み、課題に取り組む
第15回	授業のまとめ	（内　　容）「人間生活の幸福なあり方」「人間生活の真に豊かなあり方」を探求する （必要な準備）前回のまとめをしておく（30分）

授業名	**現代家政学論Ⅱ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Contemporary Home EconomicsⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**流石　智子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	現代の家庭生活実態について考える。私たちの生活は、多く人たちに支えられ、またいろいろな生活環境で生活する人がいる。本授業では、日本においてはどのような家庭があり、地域社会での家庭はどのような状況なのか。これらのことについて考えたい。 家庭生活の変遷と現代の家庭、家族、地域、社会についてグループ討議などを通して互いの考えを理解し、討論しながら「現代社会」について理解を深めたい。				
学習成果到達目標	1）日本の現代社会を理解する。 2）日本の社会、地域、家庭、家族の現状を理解できる。そこでの問題を明らかにする。 3）問題の発見から、どのようにしていくと人間が生活しやすくなるか、幸せに日々を過ごせるかについて考察できるようになる。特に子どもたちが幸せになるための生活保障について考えることができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考力　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料を参考にすることがある。				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	グループでの討議、意見の発表も行います。資料を読み込み、自分の考えをしっかり記述できるようにしてください。				
オフィスアワー	火曜日の11時～12時半・学生演習室にて掲示。研究室に在室している時は、時間があれば対応。				

授　業　名	**現代家政学論Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション　現代社会とは何か	（内　　容）本科目の進め方、現代社会について （必要な準備）シラバスを読んでくる（5分）
第2回	家庭・家族の理解	（内　　容）現代の家庭はどのような家庭なのか （必要な準備）「家庭が記事になっている資料を持参」気になることをまとめる（30分）
第3回	家庭、家族の生活	（内　　容）家庭生活の実態 （必要な準備）家庭生活の実態について、一つ問題点をあげる（30分）
第4回	家庭は今。家庭をもつことは、結婚すること。	（内　　容）結婚について考え、現代の結婚観について理解する （必要な準備）結婚する人、しない人について、調べる。（あなたは結婚しますか）（30分）
第5回	子どもを育てること	（内　　容）子どもを育てるために必要な家庭・家庭は子どもを育てるのに必要か （必要な準備）子どもは家庭で育つのか。調べてみる。（30分）
第6回	食べることと家庭生活	（内　　容）朝ごはんを食べることとは （必要な準備）何を食べているのか。食べられない理由。子どもにとっての食事とはを考える（30分）
第7回	子どもを育てるのは、親。	（内　　容）親のいない子どもは、親が育てられない子どもは、どう育つのか。 （必要な準備）親以外の子育てについて調べる（30分）
第8回	ひとり親家庭、ふたり親家庭	（内　　容）家庭の実態といろいろな家庭像 （必要な準備）現代、どのような家庭があるのか（30分）
第9回	貧困家庭の理解	（内　　容）子どもが育つ家庭の貧困について考える （必要な準備）貧困について調べる。貧困とはどのようなことか。（30分）
第10回	子ども食堂・子どもの居場所	（内　　容）日本の子ども食堂について考える （必要な準備）あなたは、子ども食堂にいったことはあるか。どのような役割をしているか調べる（30分）
第11回	地域で生活する子どもを守るには	（内　　容）どのようにすれば、地域で生活する子どもの生活を守れるのか。 （必要な準備）地域で生活する子どもの不安とは、どのようなことがあるか調べる。（30分）
第12回	児童養護施設、母子生活支援施設、（乳児院）等で生活する子どもたち	（内　　容）大人の都合で、子どもの生活実態は変わる （必要な準備）施設で生活する子どもと地域で生活する子どもの実態を知る（30分）
第13回	現代の少子社会について	（内　　容）女性が家庭で子育てをすれば、少子社会は解消するか （必要な準備）「あなたは、働き続けるか。」男性には問われないこのフレーズ。どのように考えるか。（30分）
第14回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらう。（1）	（内　　容）発表を中心にする。（1）授業の状況で変更あり。 （必要な準備）今までの時間での学びをまとめておく。自分の考えをしっかりと持ち、レポートにする。（30分）
第15回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらう。（2）	（内　　容）発表を中心にする。（2）授業の状況で変更あり。 （必要な準備）今までの時間での学びをまとめておく。自分の考えをしっかりと持ち、レポートにする。（30分）

授業名	**生活構造論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Living Structure	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		

授業の概要	生活の基礎単位は世帯（家族・家庭）にあるが、この世帯の現状と変化をまず検討したい。そして生活の場である地域の現状と変化を検討しながら生活の実情を考えていきたい。さらに生活は身近な地域を超えた社会の仕組みとの関係によって成り立っているといえ、この社会の仕組みの現状と変化から生活を考えていきたい。以上は生活の広がりという視点で述べたが、一方、今日の生活の中身は、①くらしの基盤である労働、②日常的な交流と連帯、③生活の社会化によって規定されているといえる。講義形式の授業によって、これらのことについて実態調査等をもとに構造的な分析・把握をしていきたい。
学習成果到達目標	1）生活に対して、健康問題、世帯の変化、地域の変化等を押さえながら認識できる。 2）人間らしい生活（くらし）には、くらしの基盤である仕事、日常的な協力・共同といったヨコのつながり、社会政策・公共一般施策・社会福祉といった生活の社会化の発展・拡充が欠かせないことを認識できる。

評価方法	定期試験 （ 100 %）	■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
	平常試験 （ %）	□筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的な展開力 ） □（ ）

テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。
参考書	授業時に紹介する
留意事項	くらしについて家族と一緒に考える
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。

授　業　名	**生活構造論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生活とは？－いのちとくらしは一体－	（内　　容）生活をとらえる視点について （必要な準備）自らの生活を振り返る(30分)
第2回	くらしの実態把握－視点と枠組み－	（内　　容）生活問題の視点と枠組み （必要な準備）くらし・地域について考察する（30分）
第3回	くらしの実態把握－くらしの中身－	（内　　容）くらしの中身について （必要な準備）くらしの中身について考察する（30分）
第4回	くらしの実態把握－健康状態－	（内　　容）くらしと健康状態について （必要な準備）くらしと健康について考察する（30分）
第5回	くらしの実態把握－くらしの単位－	（内　　容）くらしの単位について （必要な準備）家族・家庭について考察する（30分）
第6回	くらしの実態把握－世帯構成の変化－	（内　　容）世帯構成の変化について （必要な準備）わが家の歴史を振り返る（30分）
第7回	くらしの実態把握－くらしの場－	（内　　容）くらしの場について （必要な準備）地域とくらしの関係性を考察する(30分)
第8回	くらしの実態把握－地域の変化－	（内　　容）地域の変化について （必要な準備）地域の変化を考える（30分）
第9回	くらしの実態把握－くらしの基盤・しごと－	（内　　容）くらしの基盤について （必要な準備）しごととくらしの関係性を考察する（30分）
第10回	くらしの実態把握－ヨコのつながり－	（内　　容）ヨコのつながりについて （必要な準備）ヨコのつながりとくらしについて考察する（30分）
第11回	くらしの実態把握－日常的協力・共同－	（内　　容）日常的な協力・共同について （必要な準備）日常的な協力・共同とくらしについて考察する（30分）
第12回	くらしの実態把握－生活の社会化－	（内　　容）生活の社会化について （必要な準備）くらしを支える制度について考察する（30分）
第13回	くらしの実態把握－社会政策とくらし－	（内　　容）生活の社会化・社会政策について （必要な準備）くらしを支える制度・社会政策の考察する（30分）
第14回	くらしの実態把握－公共一般施策とくらし－	（内　　容）生活の社会化・公共一般施策について （必要な準備）くらしを支える制度・公共一般施策の考察する（30分）
第15回	くらしの実態把握－社会福祉とくらし－	（内　　容）生活の社会化・社会福祉について （必要な準備）くらしを支える制度・社会福祉の考察する（30分）

授業名	**ライフデザイン論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Life Design	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**斧出　節子**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、新しい社会に向けたライフデザインを考えていく。				
学習成果到達目標	1）現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2）自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（積極的な調査の実施　　）　□（　　）				
テキスト	適宜資料を配布する。				
参考書	『ライフストーリー分析ー質的調査入門』大久保孝治（学文社）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編（光文社新書）、『働く女子のキャリア格差』国保祥子（ちくま新書）				
留意事項	講義だけでなく半期間で大きな課題（インタビュー調査）に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授業名	ライフデザイン論

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画について （必要な準備）シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	社会変動と人生：ライフコースの変化	（内　　容）ライフストーリーを学ぶ意義について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第3回	社会変動と人生：高度経済成長期の人生	（内　　容）人生と社会変動の関連性について理解する （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第4回	インタビュー調査について	（内　　容）インタビュー調査の目的について理解する （必要な準備）自分の出生から現在までの社会の出来事を調べておく(30分)
第5回	インタビュー調査の方法	（内　　容）インタビューの方法について理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第6回	仕事と自己実現	（内　　容）自己実現と仕事の関係について考える （必要な準備）仕事をする意味について考えておく(30分)
第7回	女性と就労：事例からみる実態	（内　　容）日本女性の就労の実態について、事例から学ぶ （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第8回	女性と就労：統計からみる実態	（内　　容）日本女性の就労の実態について、時計資料から読み解く （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第9回	女性と就労：課題	（内　　容）日本女性の就労の問題点について学ぶ （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第10回	インタビュー調査のケース報告書作成	（内　　容）インタビューデータの整理をする （必要な準備）データをまとめておく(30分)
第11回	ケーススタディ１：グループワーク	（内　　容）インタビューケースを紹介する （必要な準備）発表の準備をしておく(30分)
第12回	ケーススタディ２：さまざまな就労の実態	（内　　容）現在の男女の就労の様々なケースをインタビュー調査のデータから理解する （必要な準備）発表の準備をしておく(30分)
第13回	ライフデザインと政策：ライフコースと政策	（内　　容）仕事と家庭生活を支える政策について （必要な準備）女性の就労に関係する政策について調べておく(30分)
第14回	ライフデザインと政策：外国の政策とライフコース	（内　　容）外国のケースを例に考える （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第15回	まとめ	（内　　容）授業の振り返りをする （必要な準備）半期間のまとめをしておく(30分)

授業名	**現代家政学演習Ｉｓａ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**秋山　裕之**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	現代日本におけるソーシャル・キャピタルについて、テキストの輪読と討論を通じて考える。輪読の担当者は発表資料を必ず事前に提出する。また、地域のさまざまな取り組みから１つを選んで、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。夏休みから取り組む個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的問題や、日本社会が現在直面している課題への地域・コミュニティでみられる対処について学ぶ。
学習成果到達目標	1） テキストの輪読と討論を通じて、現代日本における人と人の絆について理解と考えを深める。 2） 調査・研究の適切な方法について、実践と討論を繰り返しながら習得することを目指す。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門　孤立から絆へ』[中公新書] 2011年
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]
留意事項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｓａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	（内　　容）オリエンテーション、輪読の担当者決め （必要な準備）「はじめに」を読んでおく（10分）
第2回	テキスト輪読１	（内　　容）第１章、輪読の発表資料の作り方 （必要な準備）第１章を読んでおく（１時間）
第3回	テキスト輪読２	（内　　容）第２章 （必要な準備）第２章を読んでおく（１時間）
第4回	テキスト輪読３	（内　　容）第３章 （必要な準備）第３章を読んでおく（１時間）
第5回	テキスト輪読４	（内　　容）第４章 （必要な準備）第４章を読んでおく（１時間）
第6回	テキスト輪読５	（内　　容）第５章 （必要な準備）第５章を読んでおく（１時間）
第7回	テキスト輪読５	（内　　容）第６章 （必要な準備）第６章を読んでおく（１時間）
第8回	テキスト輪読５	（内　　容）第７章前半 （必要な準備）第７章前半を読んでおく（１時間）
第9回	テキスト輪読５	（内　　容）第７章後半 （必要な準備）第７章後半を読んでおく（１時間）
第10回	テキスト輪読５	（内　　容）第８章 （必要な準備）第８章を読んでおく（１時間）
第11回	テキスト輪読５	（内　　容）第９章、結語 （必要な準備）第９章と結語を読んでおく（１時間）
第12回	地域の取り組み１	（内　　容）調べ学習の発表（PowerPoint） （必要な準備）担当者は発表準備・他は資料を読んでおく（１時間）
第13回	地域の取り組み２	（内　　容）調べ学習の発表（PowerPoint） （必要な準備）担当者は発表準備・他は資料を読んでおく（１時間）
第14回	地域の取り組み３	（内　　容）調べ学習の発表（PowerPoint） （必要な準備）担当者は発表準備・他は資料を読んでおく（１時間）
第15回	研究テーマと調査方法	（内　　容）個人研究のテーマ・方法 （必要な準備）研究テーマと調査方法を考えてくる（１時間）

授業名	**現代家政学演習Ｉｓｃ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	松田道雄著『私は女性にしか期待しない』（岩波新書）を使って、その内容について順番に発表してもらい討論し、女性・家族・社会のあり方を見つめていきたいと思います。女性がおかれていた過去のことも知り、これからの女性のあり方、女性をめぐる社会のあり方について、話し合いたいと思います。家族などからも情報を得て、実りある話し合いをしていきたいと思います。				
学習成果到達目標	1）書かれていることの内容を正確に把握することができる。 2）自分の意見をまとめ人に伝えることができる。 3）話し合いに積極的に参加することができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	松田道雄著『私は女性にしか期待しない』岩波新書				
参考書	使用しない。				
留意事項	積極的に取り組むことが重要。多くの発言を期待しています。				
オフィスアワー	設定はしますが、研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｓｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方について （必要な準備）シラバスに目を通し、準備する（３０分）
第2回	発表・ディスカッション①　嫁のつとめ他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第3回	発表・ディスカッション②　個人他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第4回	発表・ディスカッション③　ヨメ・シュウトメ他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第5回	発表・ディスカッション④　プライバシー他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第6回	発表・ディスカッション⑤　企業としきたり他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第7回	発表・ディスカッション⑥　結婚式幻想他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第8回	発表・ディスカッション⑦　シングル他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第9回	発表・ディスカッション⑧　病院企業他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第10回	発表・ディスカッション⑨　テレビ学校他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第11回	発表・ディスカッション⑩　マザコン他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第12回	発表・ディスカッション⑪　新人類他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第13回	発表・ディスカッション⑫　タバコテスト他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第14回	発表・ディスカッション⑬　女の三重苦他	（内　　容）指定された項目について学生がレジメを用意し、ディスカッションする。 （必要な準備）指定された箇所を読み、論点を整理しておく。（４５分）
第15回	春学期のまとめ	（内　　容）春学期を振り返り、今後の課題検討を行う。 （必要な準備）レポートの準備を行い、わからない点について明らかにしておく。（６０分）

授業名	**現代家政学演習Ｉｓｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学では、①女性は、生活者としてまた職業人としてどのような生活設計が考えられ、どのような課題があるのか、②衣食住や家族関係など現代生活をとりまく事象にどのような問題が生じているのか、を究明することが重要な課題となる。本演習では、テーマを設定しグループワークを行う。各自が資料を集めて考えを述べ、グループでの意見をまとめて発表する。グループでの発表や議論を行うことにより、多様な視点、考え方があることを学ぶ。最後に、様々な意見をふまえたうえで、各自の考えをレポートにまとめる。				
学習成果到達目標	1. 現代家政学で取り組む課題を認識することができる。 2. 課題に対して人と議論し、自分の意見を説明することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書					
留意事項	積極的に取り組むことが重要。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。				

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｓｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の進め方。 （必要な準備）シラバスを読み、課題について考える。（30分）
第2回	生活を取り巻く課題について考える	（内　　容）生活に関する課題について検討する。 （必要な準備）各自の意見をまとめてくる。（30分）
第3回	課題に対する資料収集－新聞記事	（内　　容）新聞記事から課題に関する意見を集める。 （必要な準備）新聞を読んでくる。（30分）
第4回	課題に関する資料収集－図書	（内　　容）課題に関する図書を読む。 （必要な準備）図書を検索しておく。（30分）
第5回	課題に関する資料収集－論文	（内　　容）課題に関する論文を読む。 （必要な準備）論文を検索しておく。（30分）
第6回	課題に対してグループで議論する	（内　　容）各自が収集した資料で課題に対する考えを発表し、議論する。 （必要な準備）各自が収集した資料を整理する。（30分）
第7回	課題に対するグループの意見を集約する	（内　　容）各自の意見をまとめて、議論する。 （必要な準備）自分の意見をまとめてくる。（30分）
第8回	発表準備	（内　　容）発表のためのパワーポイントの作成。 （必要な準備）パワーポイントに用いる資料を整理する。（30分）
第9回	グループ発表とディスカッション－A・Bグループ	（内　　容）グループ発表を行い、議論する。 （必要な準備）発表の準備。（30分）
第10回	グループ発表とディスカッション－C・Dグループ	（内　　容）グループ発表を行い、議論する。 （必要な準備）発表の準備。（30分）
第11回	課題に対する考察を深める	（内　　容）ディスカッションをうけて、さらに資料を収集し読む。 （必要な準備）資料を収集する。（30分）
第12回	課題に対する考えをまとめる	（内　　容）資料を読み、自分の考えをまとめる。 （必要な準備）資料を読む。（30分）
第13回	まとめと発表－A・Bグループ	（内　　容）課題に対する意見を発表する。 （必要な準備）課題に対する各自の意見をまとめておく。（30分）
第14回	まとめと発表－C・Dグループ	（内　　容）課題に対する意見を発表する。 （必要な準備）課題に対する各自の意見をまとめておく。（30分）
第15回	総括	（内　　容）意見交換と総括。 （必要な準備）各自が取り組みに対する総括を考えてくる。（30分）

授業名	**現代家政学演習Ｉｔａ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ⅰでは管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。				
学習成果到達目標	1）健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2）管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社				
参考書	適宜参考書を紹介する				
留意事項	積極的に発言・発表する。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｔａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ｉの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	春休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第3回	春休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第4回	春休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第5回	文献検索・発表資料の作り方	（内　　容）文献検索・発表資料の作り方について （必要な準備）テキストp.63～104を読んでおく（1時間）
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	（内　　容）文献検索・発表資料の準備 （必要な準備）前回の内容を復習しておく（1時間）
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）文献検索・発表資料の準備（1時間）
第8回	「食品」についての学び	（内　　容）「食品」についての学び、意見交換 （必要な準備）グループ発表の準備（1時間）
第9回	グループプレゼンテーション（グループA）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）前回の学びのレポート作成、発表の準備（1時間）
第10回	グループプレゼンテーション（グループB）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備（1時間）
第11回	グループプレゼンテーション（グループC）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備（1時間）
第12回	「健康」についての学び	（内　　容）「健康」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びの内容を復習しておく（30分）
第13回	「栄養」についての学び	（内　　容）「栄養」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成（30分）
第14回	「管理栄養士」についての学び	（内　　容）「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成（30分）
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	（内　　容）春学期の振り返りと秋学期の取り組み （必要な準備）前回の学びのレポート作成（1時間） 秋学期に向けての課題を考えておく（30分）

授業名	**現代家政学演習Ｉｔｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ｉでは管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。				
学習成果到達目標	1）健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2）管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社				
参考書	適宜参考書を紹介する				
留意事項	積極的に発言・発表する。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｔｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ｉの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	春休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第3回	春休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第4回	春休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第5回	文献検索・発表資料の作り方	（内　　容）文献検索・発表資料の作り方について （必要な準備）テキストp.63～104を読んでおく（1時間）
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	（内　　容）文献検索・発表資料の準備 （必要な準備）前回の内容を復習しておく（1時間）
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）文献検索・発表資料の準備　（1時間）
第8回	「食品」についての学び	（内　　容）「食品」についての学び、意見交換 （必要な準備）グループ発表の準備　（1時間）
第9回	グループプレゼンテーション（グループA）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）前回の学びのレポート作成、発表の準備（1時間）
第10回	グループプレゼンテーション（グループB）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備（1時間）
第11回	グループプレゼンテーション（グループC）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備（1時間）
第12回	「健康」についての学び	（内　　容）「健康」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びの内容を復習しておく(30分)
第13回	「栄養」についての学び	（内　　容）「栄養」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成（1時間）
第14回	「管理栄養士」についての学び	（内　　容）「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成（1時間）
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	（内　　容）春学期の振り返りと秋学期の取り組み （必要な準備）前回の学びのレポート作成（1時間） 秋学期に向けての課題を考えておく（30分）

授業名	**現代家政学演習Ｉｔｃ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅠ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ｉでは管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。				
学習成果到達目標	1）健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2）管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社				
参考書	適宜参考書を紹介する				
留意事項	積極的に発言・発表する。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**現代家政学演習Ｉｔｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ｉの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと。
第2回	春休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備を行い臨むこと。
第3回	春休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備を行い臨むこと。
第4回	春休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）春休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備を行い臨むこと。
第5回	文献検索・発表資料の作り方	（内　　容）文献検索・発表資料の作り方について （必要な準備）テキストの対象範囲を熟読のこと。
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	（内　　容）文献検索・発表資料の準備 （必要な準備）前回の内容を必ず復習しておくこと。
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）文献検索・発表資料の準備をして臨むこと。
第8回	「食品」についての学び	（内　　容）「食品」についての学び、意見交換 （必要な準備）グループ発表の準備をして臨むこと。
第9回	グループプレゼンテーション（グループA）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）前回の学びのレポート作成、発表の準備をして臨むこと。
第10回	グループプレゼンテーション（グループB）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備をして臨むこと。
第11回	グループプレゼンテーション（グループC）	（内　　容）グループプレゼンテーション （必要な準備）発表の準備をして臨むこと。
第12回	「健康」についての学び	（内　　容）「健康」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びの内容を復習しておこと。
第13回	「栄養」についての学び	（内　　容）「栄養」についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成をして臨むこと。
第14回	「管理栄養士」についての学び	（内　　容）「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 （必要な準備）前回の学びのレポート作成をして臨むこと。
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	（内　　容）春学期の振り返りと秋学期の取り組み （必要な準備）前回の学びのレポート作成（1時間） 秋学期に向けての課題を考えておくこと。

授業名	**現代家政学演習Ⅱｓａ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**秋山　裕之**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	現代家政学演習Ⅰをふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。
学習成果到達目標	1）調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことがらを身につける。 2）自身や他の学生たちの発表を通して「地域社会・コミュニティ」について新たな知見を得る。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	使用しない。
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]
留意事項	学生の発表そのものが学びのための資料となります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｓａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	参考文献の見つけ方	（内　　容）学術論文の検索方法について （必要な準備）読みたい論文のキーワードを考えてくる（30分）
第2回	発表資料の作り方	（内　　容）発表資料の作り方について （必要な準備）個人研究の概要を話す用意をしておく（30分）
第3回	文献発表１	（内　　容）読んだ論文の内容をプレゼンする （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（30分）
第4回	文献発表２	（内　　容）読んだ論文の内容をプレゼンする （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（30分）
第5回	文献発表３	（内　　容）読んだ論文の内容をプレゼンする （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（30分）
第6回	パソコンでの資料作成	（内　　容）地図やExcelの図表を発表資料に用いる （必要な準備）個人研究のデータ（１時間）
第7回	調査研究発表１-１	（内　　容）学生の調査研究発表１回目 （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（１時間）
第8回	調査研究発表１-２	（内　　容）学生の調査研究発表１回目 （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（１時間）
第9回	調査研究発表１-３	（内　　容）学生の調査研究発表１回目 （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（１時間）
第10回	調査研究発表１-４	（内　　容）学生の調査研究発表１回目) （必要な準備）発表準備（Word資料提出）（１時間）
第11回	調査研究発表２-１	（内　　容）学生の調査研究発表２回目 （必要な準備）発表準備（PowerPoint提出）（１時間）
第12回	調査研究発表２-２	（内　　容）学生の調査研究発表２回目 （必要な準備）発表準備（PowerPoint提出）（１時間）
第13回	調査研究発表２-３	（内　　容）学生の調査研究発表２回目 （必要な準備）発表準備（PowerPoint提出）（１時間）
第14回	調査研究発表２-４	（内　　容）学生の調査研究発表２回目 （必要な準備）発表準備（PowerPoint提出）（１時間）
第15回	振り返り	（内　　容）卒論ゼミへ向けて （必要な準備）研究成果をWordにまとめる（２時間）

授業名	**現代家政学演習Ⅱｓｃ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	各自の問題意識（テーマは現代家政学に関すること）に基づき、レジメを作成し発表をしてもらい、討論します。家族・家庭の実態を踏まえ、家庭の力・子育て力を強めていくには何が必要かについて、労働者保護制度や保育制度等の社会的な仕組みのあり方を含めて一緒に考えていきましょう。				
学習成果到達目標	1）基本的な調査研究の手法が身についている。 2）聞く人を意識したわかりやすい発表ができる。 3）発表を聞き要点を把握し疑問点を明らかにすることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない				
参考書	使用しない。				
留意事項	積極的な取り組みが重要。				
オフィスアワー	設定しますが、それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｓｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）秋学期の進め方について （必要な準備）春学期のレポートを読み直しておく（１５分）
第2回	個人発表・ディスカッション　①	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第3回	個人発表・ディスカッション　②	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第4回	個人発表・ディスカッション　③	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第5回	個人発表・ディスカッション　④	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第6回	個人発表・ディスカッション　⑤	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第7回	個人発表・ディスカッション　⑥	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第8回	個人発表・ディスカッション　⑦	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第9回	個人発表・ディスカッション　⑧	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第10回	個人発表・ディスカッション　⑨	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第11回	個人発表・ディスカッション　⑩	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第12回	個人発表・ディスカッション　⑪	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第13回	個人発表・ディスカッション　⑫	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第14回	個人発表・ディスカッション　⑬	（内　　容）各人の問題意識に基づきレジメをもとに個人発表。その後、ディスカッション。（３０分） （必要な準備）発表内容の準備をする。（３０分）
第15回	秋学期のまとめ	（内　　容）これまでの学習の振り返りと卒論ゼミにむけた検討 （必要な準備）レポートの準備と振り返り（６０分）

授業名	**現代家政学演習Ⅱｓｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ⅰでの考察をふまえて、各自が秋学期に取り組む課題を設定する。課題に関する文献資料やデータを収集し、考えをまとめて発表する。発表、議論の過程で多角的な視点を得、さらに考えを深めてレポートにまとめる。一つの課題に主体的に取り組むことにより、問題意識を深め、卒論での研究テーマの設定につなげる。				
学習成果到達目標	1. 論文作成に必要な文献資料や情報の収集ができる。 2. 課題に対して自分の意見をまとめることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	使用しない。				
参考書					
留意事項	積極的に研究に取り組むことが重要。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。				

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｓｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の進め方。 （必要な準備）シラバスを読み、課題について考える。（30分）
第2回	課題について考える	（内　　容）どのような課題にするか考えをまとめる。 （必要な準備）課題について考えてくる。（30分）
第3回	各自が設定した課題について発表する	（内　　容）探究したい課題について説明する。 （必要な準備）課題について説明する資料を準備する。（30分）
第4回	課題に対する先行研究を読む	（内　　容）課題に対する先行研究を検索し、読む。 （必要な準備）先行研究のリストを作成する。
第5回	課題に対するデータを収集する	（内　　容）データ収集のための手法を学ぶ。 （必要な準備）必要なデータについて考える。（30分）
第6回	課題に対する図書を読む	（内　　容）課題に対する図書を検索して読む。 （必要な準備）図書検索の準備を行う。
第7回	課題に対する論文を検索する	（内　　容）論文を検索し論文リストを作成する。 （必要な準備）論文検索の準備を行う。（30分）
第8回	課題に対する論文資料を読んでまとめる	（内　　容）論文を読み内容を理解してまとめる。 （必要な準備）論文を準備する。（30分）
第9回	発表準備	（内　　容）パワーポイントの作成。 （必要な準備）資料を整理する。（30分）
第10回	発表とディスカッション　Aグループ	（内　　容）課題について発表する。 （必要な準備）発表準備を行う。（30分）
第11回	発表とディスカッション　Bグループ	（内　　容）課題について発表する。 （必要な準備）発表準備を行う。（30分）
第12回	発表とディスカッション　Cグループ	（内　　容）課題について発表する。 （必要な準備）発表準備を行う。（30分）
第13回	発表とディスカッション　Dグループ	（内　　容）課題について発表する。 （必要な準備）発表準備を行う。（30分）
第14回	発表とディスカッション　Eグループ	（内　　容）課題について発表する。 （必要な準備）発表準備を行う。（30分）
第15回	総括	（内　　容）意見交換と総括。 （必要な準備）各自が取り組みに対する総括を考えてくる。（30分）

授業名	**現代家政学演習Ⅱｔａ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、2回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。
学習成果到達目標	1）テーマに適した論文を収集し、論文作成・まとめ方を理解する。 2）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3）食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社
参考書	適宜参考書を紹介する。
留意事項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｔａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ⅱの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	夏休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第3回	夏休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第4回	夏休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	（内　　容）研究テーマの決め方・資料について （必要な準備）テキストp.105～132を読んでおく（1時間）
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	（内　　容）研究テーマと研究資料収集の個別相談 （必要な準備）研究テーマを考えてくる（1時間）
第7回	個人研究の発表テーマの決定	（内　　容）研究テーマを決定する （必要な準備）研究発表テーマの準備（1時間）
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	（内　　容）先行研究の収集 （必要な準備）発表資料の準備（1時間）
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）発表資料の準備（1時間）
第10回	食育活動の企画・準備	（内　　容）食育活動の準備 （必要な準備）事前に自分の役割について考えておく（30分）
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマA）	（内　　容）食育活動の振り返り、個人研究の発表 （必要な準備）食育活動を振り返り、発表の準備（1時間）
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマB）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマC）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマD）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	（内　　容）秋学期の振り返りと次年度の取り組み （必要な準備）次年度に向けての課題を考えておく（30分）

授業名	**現代家政学演習Ⅱｔｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、２回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。
学習成果到達目標	1）テーマに適した論文を収集し、論文構成・まとめ方を理解する。 2）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3）食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社
参考書	適宜参考書を紹介する。
留意事項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。
オフィスアワー	研究室に日時を添付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｔｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ⅱの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	夏休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第3回	夏休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第4回	夏休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備（30分）
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	（内　　容）研究テーマの決め方・資料について （必要な準備）テキストp.105～132を読んでおく（1時間）
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	（内　　容）研究テーマと研究資料収集の個別相談 （必要な準備）研究テーマを考えてくる（1時間）
第7回	個人研究の発表テーマの決定	（内　　容）研究テーマを決定する （必要な準備）研究発表テーマの準備（1時間）
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	（内　　容）先行研究の収集 （必要な準備）発表資料の準備（1時間）
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）発表資料の準備（1時間）
第10回	食育活動の企画・準備	（内　　容）食育活動の準備 （必要な準備）事前に自分の役割について考えておく（30分）
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマA）	（内　　容）食育活動の振り返り、個人研究の発表 （必要な準備）食育活動を振り返り、発表の準備（1時間）
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換　（研究テーマB）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換　（研究テーマC）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換　（研究テーマD）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備（1時間）
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	（内　　容）秋学期の振り返りと次年度の取り組み （必要な準備）次年度に向けての課題を考えておく（30分）

授業名	**現代家政学演習Ⅱｔｃ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、2回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。
学習成果到達目標	1）テーマに適した論文を収集し、論文構成・まとめ方を理解する。 2）プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3）食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『新版　大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著　講談社
参考書	適宜参考書を紹介する。
留意事項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。

授　業　名	**現代家政学演習Ⅱｔｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）現代家政学演習Ⅱの進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと。
第2回	夏休み課題の振り返り　（課題Aのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備をして臨むこと。
第3回	夏休み課題の振り返り　（課題Bのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備をして臨むこと。
第4回	夏休み課題の振り返り　（課題Cのプレゼンテーション）	（内　　容）夏休み課題の個人別プレゼンテーション （必要な準備）プレゼンテーションの準備をして臨むこと。
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	（内　　容）研究テーマの決め方・資料について （必要な準備）テキストの対象範囲を熟読をして臨むこと。
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	（内　　容）研究テーマと研究資料収集の個別相談 （必要な準備）研究テーマを考えて（準備して）臨むこと。
第7回	個人研究の発表テーマの決定	（内　　容）研究テーマを決定する （必要な準備）研究発表テーマの準備をして臨むこと。
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	（内　　容）先行研究の収集 （必要な準備）発表資料の準備をして臨むこと。
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	（内　　容）発表資料を作る （必要な準備）発表資料の準備をして臨むこと。
第10回	食育活動の企画・準備	（内　　容）食育活動の準備 （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマA）	（内　　容）食育活動の振り返り、個人研究の発表 （必要な準備）食育活動を振り返り、発表の準備をして臨むこと。
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマB）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備をして臨むこと。
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマC）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備をして臨むこと。
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換（研究テーマD）	（内　　容）個人研究の発表 （必要な準備）発表の準備をして臨むこと。
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	（内　　容）秋学期の振り返りと次年度の取り組み （必要な準備）次年度に向けての課題を考えておくこと。

授業名	**キャリア教育**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Career Design Including Internship	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		

授業の概要	現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。 自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。インターンシップ、就職活動、労働契約を取り扱う回には、ゲスト・スピーカーを招く。
学習成果到達目標	1）働く意味、キャリア開発の重要性を理解することができる。 2）自分の大学生活の送り方について明確な意識を持つことができる。 3）インターンシップの意義と心構えを理解することができる。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	授業時の説明やワークで必ず使用するため、購入すること。 石田 眞,? 浅倉 むつ子,? 上西 充子『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』旬報社
参考書	授業時に随時指示する。
留意事項	インターンシップに向けて、職場で求められる対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこなう。いつも一緒にいるメンバーとグループワークを行ってばかりでは、上記の力はのばせないため、多くの受講生と対話できるワークを実施していく。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。次の授業時に提出すること。このシートは最終課題のレポートの内容とも関係しているため、毎回の授業への取組が成績評価に大きな影響を与える。
オフィスアワー	月曜日の昼休み

授　業　名	キャリア教育

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画・内容・注意事項等。 （必要な準備）シラバスを一読しておく。
第2回	実践：過去、現実、未来へ…はじめの一歩としての自己分析 知識：「キャリア」の定義	（内　　容）自己理解を深めることができる 「キャリア」の定義を説明できる （必要な準備）ふりかえりシートの作成と提出
第3回	実践：あなたの未来をイメージしよう 知識：「キャリア教育」と「職業教育」	（内　　容）大学卒業の進路をイメージし目標を設定することができる 「キャリア教育」と「職業教育」の違いを説明することができる （必要な準備）ふりかえりシートの作成と提出
第4回	実践：他者理解を深めるコミュニケーション 知識：変動社会と労働	（内　　容）他者理解を促進する方法を習得できる 変化の激しい社会・経済状況で起こる雇用問題を説明することができる （必要な準備）ふりかえりシートの作成と提出
第5回	実践：みんなの未来を共有し、自分のイメージを明確にしよう 知識：Work-Life Balance	（内　　容）ワールドカフェ形式のワークを通して、意見交換する中で、自己理解と他者理解を深め、自らの将来像を修正することができる 「仕事」、「家庭」、「趣味」、より善く人生を生きるためには自分は何を大切にするかを考えることができる （必要な準備）ふりかえりシートの作成と提出
第6回	実践：自分の思いを表現する 知識：労働経験としてのアルバイト	（内　　容）アサーティブな自己表現を実践できる 大学生がアルバイトする意味を理解する （必要な準備）テキストを一読してくる 第1章 アルバイト 1～7 ふりかえりシートの作成と提出
第7回	実践：組織の中でのコミュニケーションを学ぶ 知識：アルバイトのトラブル事例	（内　　容）インターンシップにむけて、職場での挨拶、仕事の基本姿勢、「報・連・相」を理解し、実践にうつすことができる アルバイトのトラブル事例から事前に予防する手立てを学ぶ （必要な準備）テキストを一読してくる　第1章 アルバイト 8～14 ふりかえりシートの作成と提出
第8回	実践：「組織の一員として働く」を考える 知識：インターンシップの意義	（内　　容）組織の一員としてどう行動すればよいか、説明できる 学生時代のインターンシップの意義について説明できる （必要な準備）ふりかえりシートの作成と提出
第9回	実践：話し言葉と書き言葉の使い分け 知識：インターンシップに向けた準備	（内　　容）職場で求められる文章表現や対話の基本的なルールを理解し、実践することができる インターンシップに向けた心構えや注意することを説明できる （必要な準備）テキストを一読してくる（第2章 インターンシップ 15～20） ふりかえりシートの作成と提出
第10回	実践：漢字の使い分け、読点・接続詞・表記上の注意点 知識：就職活動に向けて	（内　　容）間違いやすい漢字や注意すべき文章表現について理解し、実践できる インターンシップについて自分の考えをまとめることができる （必要な準備）テキストを一読してくる（第3章 就職活動 21-28） ふりかえりシートの作成と提出
第11回	実践：正しい敬語の使い方：基本編 知識：内定と内定後	（内　　容）基本的な敬語の使い方について説明できる 内定とは、内定を受けたあとについて説明できる （必要な準備）テキストを一読してくる（第4章 内定と内定後 29-33） ふりかえりシートの作成と提出
第12回	実践：正しい敬語の使い方：実践編 知識：労働契約と入社後	（内　　容）応用的な敬語の使い方について説明できる 労働契約について説明できる （必要な準備）テキストを一読してくる（第5章 34-38） ふりかえりシートの作成と提出
第13回	実践：履歴書で「私」を伝えよう 知識：職務中のトラブル	（内　　容）自己紹介文をまとめることができる 職務上のトラブルや予防策を説明することができる （必要な準備）テキストを一読してくる（第5章 39-43） ふりかえりシートの作成と提出
第14回	実践：履歴書も面接もプレゼンテーション力 知識：働く上での悩み	（内　　容）自己ＰＲを情報機器などを使ってまとめることができる 働く上での悩みに対して各相談機関が設置されていることを説明できる （必要な準備）テキストを一読してくる（巻末　一人で悩まず相談しよう・相談機関一覧/参考文献/参考情報/）ふりかえりシートの作成と提出
第15回	実践：自己ＰＲの発表 知識：生き方の軸（アンカー）	（内　　容）自己ＰＲをプレゼンテーションすることができる 生涯発達の視点から生涯学び成長を続けることができる、仕事を通して自らの軸（キャリア・アンカー）が確立されることを説明できる （必要な準備）自己ＰＲ資料を準備してくる

授業名	**文献講読ａ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	現代私たちの生活を取り巻く社会がどのように形成され、現在どのような状態にあるのかを知ることは重要である。テキストを精読することにより、現代の教育・仕事・家族が直面している課題について学ぶ。 授業では、テキストの内容を分担して発表し、質疑応答することにより理解を深める。
学習成果到達目標	1）文献内容を理解し、説明することができる。。 2）自分が理解したこと、疑問に思ったことを説明することができる。 3）問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	本田由紀『社会を結びなおす－教育・仕事・家族の連携へ』岩波書店（岩波ブックレット899）2014年
参考書	授業で随時紹介する。
留意事項	初回に授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。

授　業　名	**文献講読ａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業進め方。 （必要な準備）シラバスに目を通しておく。（10分）
第2回	文献の「読み方」	（内　　容）文献の読み方を理解する。 （必要な準備）テキストに目を通す。（30分）
第3回	テキストの序章を読む	（内　　容）テキストが明らかにしようとする課題を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第4回	テキストP.5-8の購読	（内　　容）社会指標の推移を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第5回	テキストP.8-9の購読	（内　　容）戦後社会の時代区分を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第6回	テキストP.9-13の購読	（内　　容）戦後世代のライフコースを理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第7回	テキストP.14-17の購読	（内　　容）戦後日本の「かたち」を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第8回	テキストP.17-21の購読	（内　　容）戦後日本型循環モデルについて理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第9回	テキストP.21-24の購読	（内　　容）戦後モデルの問題点を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第10回	テキストP.25-31の購読	（内　　容）戦後モデルが成立した背景を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第11回	テキストP.31-34の購読	（内　　容）戦後モデルの成立を支えた要因を理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第12回	テキストP.38-44の購読	（内　　容）戦後モデルの破綻について理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第13回	テキスト45-53の購読	（内　　容）新しい社会モデルについて理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第14回	テキストP.35-37の購読	（内　　容）戦後モデルの学説史的な位置づけを知る。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読む。（30分）
第15回	まとめと今後の課題	（内　　容）テキストの内容全体を整理し、理解する。 （必要な準備）これまでに学んだことをまとめる。（30分）

授業名	**文献講読b**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	現代の家族・家庭の実態を把握すると同時に、そこで発生している諸問題を明確にし、その解決方法を探っていきたい。 そのために、スウェーデンでの実情を把握する文献を購読することで、国際的な観点からわが国の課題を考察していきたい。私たちの暮らしを客観的にみつめ、これからの方向性を明らかにしていきたい。				
学習成果到達目標	1）文章の内容を正確に理解できるようになる。 2）文章の論理構造を把握し、何が提起されているかを認識できるようになる。 3）自分が理解した内容を、他者に適切に伝えられるようになる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	三瓶恵子著『女も男も生きやすい国、スウェーデン』岩波書店、2017年、880円＋税				
参考書	なし				
留意事項	しっかり読んで、しっかり考えよう。				
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室しているときはいつでもOKです。				

授　業　名	**文献講読ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の内容と進め方について説明する （必要な準備）シラバスを読んでおく（１０分）
第2回	テキスト　はじめに、２－１９頁	（内　　容）テキスト　はじめに、２－１９頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　はじめに、２－１９頁を考察（３０分）
第3回	テキスト　２０－３８頁	（内　　容）テキスト　２０－３８頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　２０－３９頁を考察（３０分）
第4回	テキスト　３８－５７頁	（内　　容）テキスト　３８－５７頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　３８－５７頁を考察（３０分）
第5回	テキスト　５８－７３頁	（内　　容）テキスト　５８－７３頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　５８－７３頁を考察（３０分）
第6回	テキスト　７４－９５頁	（内　　容）テキスト　７４－９５頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　７４－９５頁を考察（３０分）
第7回	テキスト　９５－１１２頁	（内　　容）テキスト　９５－１１２頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　９５－１１２頁を考察（３０分）
第8回	テキスト　１１２－１３０頁	（内　　容）テキスト　１１２－１３０頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　１１２－１３０頁を考察（３０分）
第9回	テキスト　１３１－１４４頁	（内　　容）テキスト　１３１－１４４頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　１３１－１４４頁を考察（３０分）
第10回	テキスト　１４４－１６５頁	（内　　容）テキスト　１４４－１６５頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　１４４－１６５頁を考察（３０分）
第11回	テキスト　１６５－１８１頁	（内　　容）テキスト　１６５－１８１頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　１６５－１８１頁を考察（３０分）
第12回	テキスト　１８４－２０５頁	（内　　容）テキスト　１８４-２０５頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　１８４-２０５頁を考察（３０分）
第13回	テキスト　２０５－２１２頁	（内　　容）テキスト　２０５-２１２頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　２０５-２０１２頁を考察（３０分）
第14回	テキスト　２１３－２１９頁	（内　　容）テキスト　２１３－２１９頁を学ぶ （必要な準備）テキスト　２１３－２１９を考察（３０分）
第15回	テキストのまとめ	（内　　容）テキスト全体からの学びを振り返る （必要な準備）テキストを通して何を学んだかをまとめておく（４５分）

授業名	**文献講読ｃ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**豊原　容子**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	文献を精読することにより、汎用な読解力を養うとともに、自らがもつ疑問がどこまで明らかにされており残されている 課題がどこにあるのかについて考えていく力をつけていくことを目指す。				
学習成果到達目標	1）図表を正しく読み取ることができる 2）文献内容を理解し説明することができる 3）問題点を明確にしていくことができる				
評価方法	定期試験　□筆記試験　■レポート　□制作物 （　50　%）　□口述　□実習　□実技		平常試験　□筆記試験　□レポート　□制作物 （　50　%）　■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	プリントを使用。各自で対象の文献をプリントアウトして用意してもらうこともあります。				
参考書					
留意事項	しっかりと自分で読んでいくことが大切ですので、授業時間中、ランダムに指名し質問をしていきます。				
オフィスアワー	週に２コマ設定し掲示にてお知らせします。				

授　業　名	**文献講読ｃ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方と資料についての説明 （必要な準備）
第2回	論文を読む　1	（内　　容）論文の選択方法、形式等について （必要な準備）論文検索の方法について復習しておく
第3回	論文を読む　2	（内　　容）諸言、方法について読んでいく （必要な準備）わからない言葉、参考文献を調べておく
第4回	論文を読む　3	（内　　容）図表の読み方について （必要な準備）論文中の図表に目を通しておく
第5回	論文を読む　4	（内　　容）考察について読んでいく （必要な準備）わからない言葉について調べておく
第6回	論文を読む　5	（内　　容）問題点について考える （必要な準備）論文のわからない事項について書き出しておく
第7回	論文を読む　6	（内　　容）要点をまとめる （必要な準備）要旨を読んでおく
第8回	論文を読む　7	（内　　容）英文論文の検索 （必要な準備）
第9回	論文を読む　8	（内　　容）英文論文の要旨を読んで理解する （必要な準備）与えられた英文論文を訳しておく
第10回	白書を読む　１食育白書について	（内　　容）２８年度食育白書　内容について （必要な準備）
第11回	白書を読む　2　第１部　第１節	（内　　容）データを読み取る （必要な準備）白書を読んでおく 理解できない語句を調べておく
第12回	白書を読む　3　第１部　第２節	（内　　容）データを読み取る （必要な準備）白書を読んでおく 理解できない語句を調べておく
第13回	白書を読む　4　第２部　第２章　第１～３節	（内　　容）データを読み取る （必要な準備）白書を読んでおく 理解できない語句を調べておく
第14回	白書を読む　5　第２部　第２章　第４節	（内　　容）データを読み取る （必要な準備）白書を読んでおく 理解できない語句を調べておく
第15回	白書を読む　6　食育白書概要　英字版	（内　　容）食育白書　英字版　ｐ６－７を読んで理解する （必要な準備）白書を読んでおく 理解できない語句を調べておく

授業名	**卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｆ**	開講学年	3回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**斧出　節子・川島　智生・西川　由紀子・馬場　まみ・藤井　伸生・松浦　真理**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して，卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目ざす。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。				
学習成果到達目標	1）卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定する。 2）学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につける。				
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）			
テキスト	ゼミ担当者より指示する。				
参考書	ゼミ担当者より指示する。				
留意事項	３回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに，積極的に先行研究や関連資料にあたる。3回生春学期に卒業演習プレゼミを実施することもある。 研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心をもち，意見交換・考察・討議する習慣をもつ。 主体的積極的に研究を進める。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。				

授　業　名	**卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｆ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	３回生秋学期ガイダンス　自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	（内　　容）３回秋～４回秋（１年半）のスケジュール、卒業論文作成要項、３回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 （必要な準備）プレゼミ課題・夏期課題の提出(1時間以上)
第2回	研究発表１－①（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第3回	研究発表１－②（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第4回	研究発表１－③（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第8回	研究発表２－①（先行研究・資料の研究）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第9回	研究発表２－②（先行研究・資料の研究）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備((1時間以上)
第10回	研究発表２－③（先行研究・資料の研究）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第11回	個別指導（面談）２－①（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第12回	個別指導（面談）２－②（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第13回	個別指導（面談）２－③（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）(1時間以上)
第14回	研究発表３－①（研究テーマの確定）（３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握）	（内　　容）研究テーマの確定・３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第15回	研究発表３－②（研究テーマの確定）（３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握）	（内　　容）研究テーマの確定・３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)

授業名	**卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ**	開講学年	3回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**堀越　昌子・坂本　裕子・竹市　仁美・豊原　容子・塩田　二三子**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	3回生秋学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、卒業論文のテーマを決めるために、関心が高い分野の先行研究や関連資料を収集して、課題を整理し、研究方法、調査法、分析法、結果の出し方と考察法を学んでいく。ゼミの中で、関連文献を紹介し、意見交換し、卒論研究のテーマを絞っていく。課題探究力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めていく。4回生春学期6月末に「論文題目」を提出。秋学期10月末に「卒業論文」を提出し、「口頭試問」に臨む。				
学習成果到達目標	1)　先行研究から学び、明らかにしたい課題を絞っていき、卒業研究テーマを自ら決定することができる。 2)　研究目的を明らかにし、そのための研究方法を検討し、決めていくことができる。 3)　学士論文としてふさわしい卒業論文を仕上げていくことができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	ゼミ担当者より指示する。				
参考書	ゼミ担当者より指示する。				
留意事項	3回生春学期までの学習を通して、関心の幅を広げて、卒論研究のテーマを自ら決めていき、関連の先行研究や資料を集め、学んでおく。				
オフィスアワー	ゼミ担当者より指示する。				

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	夏季休暇課題の提出、卒論研究の概要	（内　　容）卒業演習のスケジュールと進め方、卒業論文作成要領 （必要な準備）夏季課題レポートの提出
第2回	研究発表1-1（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第3回	研究発表1-2（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第4回	研究発表1-3（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（内　　容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1-1（研究進捗状況の確認）	（内　　容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する。 （必要な準備）面談資料の提出
第6回	個別指導（面談）1-2（研究進捗状況の確認）	（内　　容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する。 （必要な準備）面談資料の提出
第7回	研究発表2-1（先行研究・資料の紹介）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第8回	研究発表2-2（先行研究・資料の紹介）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第9回	研究発表2-3（先行研究・資料の紹介）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第10回	個別指導（面談）2-1（研究進捗状況の確認）	（内　　容）研究進捗状況の報告レポートの作成 （必要な準備）面談資料の提出
第11回	個別指導（面談）2-2（研究進捗状況の確認）	（内　　容）研究進捗状況の報告レポートの作成 （必要な準備）面談資料の提出
第12回	研究発表3-1（研究方法・分析方法の検討）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第13回	研究発表3-2（研究方法・分析方法の検討）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第14回	研究発表3-3（研究方法・分析方法の検討）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （必要な準備）発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第15回	3回生秋学期の卒論演習の振り返り	（内　　容）3回生秋学期の卒論演習の振り返り、卒論研究テーマを絞る。研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる。 （必要な準備）卒論研究進捗状況の報告と研究方法、研究計画を提出。

授業名	**卒業演習（論文を含む。）a～i**	開講学年	4回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**弁出　節子・川島　智生・西川　由紀子・馬場　まみ・藤井　伸生・松浦　真理・秋山　裕之・湯浅　俊郎・豊原　容子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目ざす。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」 を提出。2月に「口頭試問」に臨む。				
学習成果到達目標	1）卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進める。 2）各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表する。				
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	ゼミ担当者より指示する。				
参考書	ゼミ担当者より指示する。				
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。				

授　業　名	卒業演習（論文を含む。）ａ～ｉ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（内　　容）研究の目的、研究進捗状況の確認をする （必要な準備）先行研究を読み込んでおく（30分～１時間）
第2回	研究発表１－①（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内　　容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジュメ、討論テーマの準備（30分～1時間）
第3回	研究発表１－②（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内　　容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジュメ、討論テーマの準備（30分～1時間）
第4回	研究発表１－③（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内　　容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジュメ、討論テーマの準備（30分～1時間）
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第8回	個別指導（面談）１－④（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第9回	個別指導（面談）１－⑤（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第10回	研究発表２－①（研究進捗状況の発表）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（30分～１時間）
第11回	研究発表２－②（研究進捗状況の発表）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（30分～1時間）
第12回	研究発表２－③（研究進捗状況の発表）	（内　　容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（30分～1時間）
第13回	個別指導（面談）２－①（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第14回	個別指導（面談）２－②（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）
第15回	個別指導（面談）２－③（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）（30分～1時間）

授業名	卒業演習（論文を含む。）a～i	開講学年	4回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	斧出　節子・川島　智生・西川　由紀子・馬場　まみ・藤井　伸生・松浦　真理・秋山　裕之・湯浅　俊郎・豊原　容子	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。
学習成果到達目標	1）自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進める。 2）学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させる。
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。

授　業　名	**卒業演習（論文を含む。）ａ～ｉ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（内　　容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 （必要な準備）先行研究を読み込んでおく（1時間以上）
第2回	研究発表１－①（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内　　容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）
第3回	研究発表１－②（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内　　容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）
第4回	研究発表１－③（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内　　容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）
第8回	個別指導（面談）１－④（研究進捗状況の確認と検討）	（内　　容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）
第9回	研究発表２－①（研究進捗状況の発表）	（内　　容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（1時間以上）
第10回	研究発表２－②（研究進捗状況の発表）	（内　　容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（1時間以上）
第11回	個別指導（面談）２－①（卒論の仕上げ）	（内　　容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）
第12回	個別指導（面談）２－②（卒論の仕上げ）	（内　　容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）
第13回	個別指導（面談）２－③（卒論の仕上げ）	（内　　容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）
第14回	口頭試問準備	（内　　容）口頭試問に向けての準備 （必要な準備）口頭試問の質疑応答準備（１時間以上）
第15回	口頭試問準備	（内　　容）口頭試問に向けての準備 （必要な準備）口頭試問の質疑応答準備（1時間以上）

授業名	未来につなぐ生活学	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Life Science for the Future	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	流石　智子・秋山　裕之	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	現代家政学を広い範囲の領域から学ぶ。各先生の専門分野の授業を受け、 現代社会の現状や問題の発見、その対策を考察する手がかりになる学びをする。				
学習成果到達目標	1、現代社会の現状を把握することができる。 2，生活に関する現状、課題、その解決方法について自分なりの考えをまとめることができる。 3，各先生からの学びのヒントをしっかりと理解し、これからの専門分野の学びに活かすことができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（文章作成力　　）　□（　　）			
テキスト	授業にて資料を配布する。				
参考書	授業担当より、提示する。				
留意事項	・この授業は、ゲストスピーカーの先生から授業をしていただく。（詳しくは1回目の授業で説明する） ・授業で印象に残った点等を、授業ごとにノートを整理しておくと、定期試験の時に役立つ。 ・自分のノート作成に工夫をして取り組むことが必要。				
オフィスアワー	先生方のオフィスアワーを各自で確認する。演習室等に掲示している。				

授　業　名	**未来につなぐ生活学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	（内　　容）これからの授業について説明を行う。 （必要な準備）シラバスを読み、授業の内容について考えておく。（30分） ＊私たちの生活状況で、気になることについて、400字程度にまとめておく。1回目の授業終了後、提出する。
第2回	環境学の基礎	（内　　容）持続可能性、ＭＳＹ理論、宇宙船地球号 （必要な準備）「持続可能な社会」について考える（30分）
第3回	地球温暖化のメカニズムと環境	（内　　容）地球温暖化、炭素循環 （必要な準備）地球温暖化について調べておく（30分）
第4回	地球温暖化への取り組み	（内　　容）脱炭素社会、家庭生活 （必要な準備）家庭生活でできることを考える（30分）
第5回	経済活動との関係	（内　　容）モノと現金、交換・配分、産業化 （必要な準備）現金とモノとの違いを考えてくる（30分）
第6回	すまうことの意味と歴史	（内　　容）住居の意味、住居の歴史 （必要な準備）事前に配布した資料を読む（30分）
第7回	事例として京町家・団地・マンション	（内　　容）京町家・団地・マンションについての説明 （必要な準備）事前に配布した資料を読むこと（30分）
第8回	服装を通して社会と生活を考えるー日本編	（内　　容）19世紀から現代の日本の服装を通して考える （必要な準備）19世紀の日本の服装について調べる（30分）
第9回	服装を通して社会と生活を考えるー西洋編	（内　　容）19世紀から現代の西洋の服装を通して考える （必要な準備）19世紀の西洋の服装について調べる（30分）
第10回	生活における食	（内　　容）生活の中でどれくらいの時間やお金などを食に費やしているか （必要な準備）自分の生活時間の中での食に関わる時間について考えておく（30分）
第11回	食の重要性	（内　　容）生きるためだけではない食の役割と重要性について考える （必要な準備）食べることで自分が最も大切にしていることについて考えておく（30分）
第12回	多様な家族の形	（内　　容）里親・養子縁組について （必要な準備）特別養子縁組について調べてくる（45分）
第13回	社会的養護の国際比較	（内　　容）先進国の社会的養護制度について （必要な準備）G7諸国について調べてくる（45分）
第14回	現代社会の現状	（内　　容）現代社会の現状、日本はどのような社会か考える （必要な準備）自分が考えるこれからの日本について400字程度にまとめておく（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）14回の授業からの学びについて考える （必要な準備）自分が興味関心をもった授業について800字程度にまとめておくこと。授業終了後、提出する。（45分）

授業名	**からだのしくみu**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Mechanism of Human Body	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武曾　恵理**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	人体の構造と機能および疾病のなりたちについて学んでいく。さらに、健康の概念について学び、豊かな生活を送るための健康の重要性について考えていく。				
学習成果到達目標	1）人体の構造と機能の基礎的事項が理解できる。 2）疾病のなりたちについて理解し予防する力を養う 3）健康の概念を理解し生活に活かしていくことができる				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　）　□（　）				
テキスト	人体の構造と機能及び疾病、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規				
参考書	使用しない。				
留意事項	日常メディアや、雑誌などでつかわれている 健康や疾病に関する医学用語に親しみがもてるように、これらに興味をもって接することに留意する。未知の用語なども多いので、毎回の予習および復習が必要である。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	**からだのしくみu**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	人の成長・発達	（内　　容）成長・発達について （必要な準備）教科書p1～13を一読しておく事
第2回	老化について、人体の構造	（内　　容）心臓の構造と機能、血液およびリンパ液の成分と循環について （必要な準備）教科書p14～33を一読しておく事
第3回	各臓器の構造と働き－1	（内　　容）腎臓、呼吸器、神経 （必要な準備）教科書p34～43を一読しておく事
第4回	各臓器の構造と働き－2　　疾病の概要	（内　　容）内分泌、生殖器、運動器官、感覚器 （必要な準備）教科書p44～60を一読しておく事
第5回	脳血管疾患、高血圧、糖尿病	（内　　容）生活習慣との関連についても学ぶ （必要な準備）教科書p61～75を一読しておく事
第6回	臓器疾患－1	（内　　容）呼吸器、消化器、血液疾患、泌尿器系疾患 （必要な準備）教科書p76～94を一読しておく事
第7回	臓器疾患－2	（内　　容）骨、感覚器。感染症、神経疾患・難病 （必要な準備）教科書p95～112を一読しておく事
第8回	その他疾患	（内　　容）先天性疾患、高齢者に多い疾患 （必要な準備）教科書p113～128を一読しておく事
第9回	障害－1	（内　　容）障害の概要：視覚・聴覚障害 （必要な準備）教科書p129～145を一読しておく事
第10回	障害－2	（内　　容）内部障害、知的障害、認知症 （必要な準備）教科書p145～161を一読しておく事
第11回	障害－3	（内　　容）高次脳機能障害、精神障害、廃用症候群 （必要な準備）教科書p162～186を一読しておく事
第12回	リハビリテーション	（内　　容）リハビリテーションの4つの側面 （必要な準備）教科書p187～203を一読しておく事
第13回	健康とは？	（内　　容）健康増進の概念と変遷 （必要な準備）教科書p205～221を一読しておく事
第14回	感染症、保健	（内　　容）感染症対策、労働衛生。歯科保健、環境保健、学校保健 （必要な準備）教科書p222～238を一読しておく事
第15回	まとめ	（内　　容）授業内容が理解できているかどうか （必要な準備）教科書全般を一読しておく事

授業名	**食生活論u**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Dietary Life	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	食に関するさまざまな資料を通して、食にまつわる問題が生じる原因について考える。また理想的な食生活をめざしていくための指針となる事項について学んでいく。
学習成果到達目標	1）食の問題点とその原因について理解できる。 2）自らの食と環境との関連性について理解できる。 3）理想的な食生活を営むために、情報を取捨選択し正しい判断基準をもち行動することができる。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　）　□（　）
テキスト	食生活ー健康に暮らすために一　第２版　　市川朝子、下坂智恵編著、八千代出版
参考書	使用しない。
留意事項	自分で考えることが大切です。自分の身の回りではどうか、常に意識してください。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。

授　業　名	**食生活論ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「食べる」とは	（内　　容）なぜ食べなくてはいけないのかについて考える （必要な準備）シラバスを読んでおく、食事の役割について考えておく（３０分）
第2回	若年者の食生活の問題点１　欠食	（内　　容）若年者の欠食の状況とその弊害について概説 （必要な準備）自分の食生活を振り返っておく（３０分）
第3回	若年者の食生活の問題点２　肥満	（内　　容）肥満の定義、肥満と疾病との関連性について （必要な準備）理想的な体型について考えておく（３０分）
第4回	若年者の食生活の問題点３　やせ	（内　　容）やせの定義、やせと疾病との関連性について （必要な準備）若年者の食の問題についてまとめる（６０分）
第5回	乳幼児・学童期の食生活の問題点	（内　　容）ライフステージ別の食生活の問題点について知る （必要な準備）教科書p61-86を読んでおく（３０分）
第6回	成人・高齢期の食生活の問題点	（内　　容）ライフステージ別の食生活の問題点について知る （必要な準備）教科書p86-98を読んでおく（３０分）
第7回	食事の評価方法１　食事バランスガイド	（内　　容）食事バランスガイドを用いた１日の食事の評価方法について （必要な準備）教科書p30-33を読んでおく（３０分）
第8回	食事の評価方法２　六つの基礎食品群・食生活指針	（内　　容）六つの基礎食品群や食生活指針を用いた食生活の評価方法について （必要な準備）教科書p1-17を読んでおく（３０分）
第9回	食に関する情報①誤った情報	（内　　容）フードファディズム、食の流行などを生む食の情報について （必要な準備）誤った食の情報を集めてみる（６０分）
第10回	食に関する情報②情報の取捨選択	（内　　容）食品を選択する場合、信頼できる情報をどこから得るのかについて （必要な準備）自分は食の情報を主にどこから得ているのかについて考えておく（３０分）
第11回	目に見えない食の危険について	（内　　容）食べ物に含まれる危害物質やさまざまなリスクの除去について （必要な準備）教科書p33-39を読んでおく（３０分）
第12回	飢餓と食糧輸入	（内　　容）世界の食糧事情についておよび日本の食との関連性について概説する （必要な準備）日常用いられている外国の食品について調べておく（３０分）
第13回	世界の食	（内　　容）世界各地の食事内容や食のタブーなどについて宗教や環境から考察する （必要な準備）日本の食のタブーについて調べておく（３０分）
第14回	環境問題と食	（内　　容）環境にやさしい食生活を目指して各自ができることについて考える （必要な準備）各自家庭の食糧購入状況について調べておく（６０分）
第15回	まとめ	（内　　容）自らの食生活をどのように営んでいったらよいのかについて考えていく （必要な準備）講義内容を復習しておく（６０分）

授業名	**小児保健Ⅰu**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Health Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**中村　洋子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子どもは未来へつながり、子どもは将来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期の体や心を健康に保つために、育てる大人、保護者、親、専門職は知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。				
学習成果到達目標	1）胎児期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2）どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を学ぶ。 3）医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	最新版　子どもの保健（診断と治療社）				
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ」（健帛社）「大人が知らない子どもの身体の不思議」（講談社）				
留意事項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。				
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいる時は対応します。				

授　業　名	**小児保健Ｉｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の目的と意義	（内　　容）本講義の目的と意義を理解し、学習にのぞむ （必要な準備）
第2回	小児保健における基本となるもの	（内　　容）基本となる小児の特徴やからだの仕組みについて （必要な準備）該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと（30分）
第3回	胎児の成長と母体の健康	（内　　容）胎児の成長と発達と母体の健康について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第4回	身体発育と影響する因子	（内　　容）身体発育の仕方、影響する因子について （必要な準備）母子手帳持参のこと（自身のを見てくること20分）
第5回	身体発育と評価方法	（内　　容）身体発育と計測の仕方、評価方法について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第6回	小児の生理機能（ホメオスタシス等基本的生理機能）	（内　　容）小児の体温、水分等基本となる生理機能について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第7回	小児の生理機能（呼吸器・循環器）	（内　　容）小児の呼吸器、循環器の仕組みについて （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第8回	小児の生理機能（感覚器・排泄器官）	（内　　容）小児の感覚器、排泄器官の仕組みについて （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第9回	小児の運動機能（新生児期・乳児期）	（内　　容）新生児期・乳児期の運動発達について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第10回	小児の運動機能（幼児期・学童期）	（内　　容）幼児期、学童期の運動発達について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第11回	子どもの精神発達（神経系）	（内　　容）新生児期からの神経系の発達について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第12回	子どもの精神発達（ことばと情緒）	（内　　容）言葉と情緒面での発達について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第13回	子どもの食生活（消化器官・母乳と乳児期）	（内　　容）消化器官の仕組みと母乳・乳児期について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第14回	子どもの食生活（幼児期・学童期）	（内　　容）幼児期、学童期の食事について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第15回	母子保健の役割・全体的なまとめ	（内　　容）母子保健について、およびこれまでの総復習をする （必要な準備）教科書・配布資料を見直す（40分）

授業名	**栄養学**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Dietetics	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）五大栄養素の基礎知識が理解できる。 2）栄養素の代謝について理解できる。 3）健康に対する栄養素の重要性が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力 ） □（ ）				
テキスト	①　三訂　栄養と健康　日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 ②　食物学Ⅰー食品の成分と機能ー、日本フードスペシャリスト協会編、建帛社				
参考書	使用しない。				
留意事項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。				
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	**栄養学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	栄養とは	（内　　容）栄養の定義、からだのしくみについて （必要な準備）教科書①p1-10を一読しておく（３０分）
第2回	糖質について	（内　　容）糖質の種類と構造 （必要な準備）教科書①p40-47,教科書②p29-55を一読しておく（３０分）
第3回	糖質の働き	（内　　容）糖質の機能について （必要な準備）前回の復習をしておく（３０分）
第4回	脂質について	（内　　容）脂質の種類と構造について （必要な準備）教科書①p48-55,教科書②p74-84を一読しておく（３０分）
第5回	脂質の働き	（内　　容）脂質の機能について （必要な準備）前回の復習をしておく(３０分）
第6回	タンパク質について	（内　　容）タンパク質の種類と構造 （必要な準備）教科書①p55-64,教科書②p56-70を一読しておく（３０分）
第7回	タンパク質の働き	（内　　容）タンパク質の機能 （必要な準備）前回の復習をしておく(３０分）
第8回	ビタミンについて	（内　　容）ビタミンの種類と機能 （必要な準備）教科書①p76-96,教科書②p90-100を一読しておく事（３０分）
第9回	ミネラルについて	（内　　容）ミネラルの種類と機能 （必要な準備）教科書①p68ー74,97-106,教科書②p101-106を一読しておく（３０分）
第10回	消化のしくみ	（内　　容）消化器系の構造及び消化の流れについて （必要な準備）教科書①p27-33を一読しておく、栄養素について復習しておく(６０分）
第11回	吸収のしくみ	（内　　容）上皮細胞膜通過の仕組み （必要な準備）教科書①p10-14を一読しておく(３０分）
第12回	エネルギー代謝	（内　　容）三大栄養素とエネルギー産生、基礎代謝量に関わる因子など （必要な準備）教科書①p20-27,45-47,64-65を一読しておく（３０分）
第13回	食事摂取基準について	（内　　容）食事摂取基準の解説 （必要な準備）教科書①p76-99を一読しておく（３０分）
第14回	ライフステージと栄養	（内　　容）各ステージにおける栄養の注意点について （必要な準備）教科書①p129-148を一読しておく（３０分）
第15回	生活習慣病と栄養	（内　　容）生活習慣病の予防と食事との関連について （必要な準備）教科書①p149-168を一読しておく（３０分）

授業名	**食生活実習**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Dietary Life Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山本　明美**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識の習得も目指す。				
学習成果到達目標	1）基本的な調理技術の習得。 2）調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3）中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（基本的な調理技術の習得　　）　■（主体性　　）			
テキスト	「これからの調理学実習　―基本手法から各国料理、行事食まで―」新調理研究会編　（オーム社）				
参考書	使用しない。				
留意事項	4～5名を１グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。				
オフィスアワー	初回の授業で指示します。				

授　業　名	**食生活実習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）諸注意、計量、包丁法 （必要な準備）テキストp.2～6をよく読んでおくこと。（15分）
第2回	米粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出	（内　　容）電子レンジを利用した和菓子制作 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（20分）
第3回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出	（内　　容）炊飯、青茹で、みそ汁の調理 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第4回	小麦粉の膨化調理（イースト発酵）、 野菜の調理（カロテンの理解）	（内　　容）パン生地、野菜の煮物 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第5回	加熱調理の科学Ⅰ（揚げ物、炒め物）、 和え物の調理	（内　　容）揚げ物（炸菜）、炒め物（炒菜）、和え物（拌菜） （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第6回	米飯調理（すし飯）の基本、 卵の熱凝固性（希釈卵液）	（内　　容）すし飯、希釈卵液の蒸し物 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第7回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルションの科学	（内　　容）コンソメスープ、ひき肉料理、サラダ （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第8回	米飯調理（炒飯）の基本、 中華食材（干貝柱等）の理解	（内　　容）炒飯（点心）、湯菜 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第9回	魚の調理、ゲル化剤（ゼラチン）を用いた調理	（内　　容）ムニエル、サラダ、ゼリー （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第10回	加熱調理の科学Ⅱ（焼き物、蒸し物）、 ゲル化剤（寒天）を用いた調理	（内　　容）焼き物、蒸し物、寒天 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第11回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	（内　　容）天ぷら、和え物、汁物 （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第12回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性	（内　　容）パスタ、クッキー （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第13回	加熱調理の科学Ⅲ（あんかけ物）、卵の起泡性	（内　　容）あんかけ物（溜菜）、蒸しカステラ （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第14回	もち米の調理、煮物調理の基本	（内　　容）もてなし料理（赤飯、炊き合わせ　等） （必要な準備）事前に作り方を把握しておくこと。（30分）
第15回	テーブルセッティングとマナー	（内　　容）和洋の基本的なセッティングとマナー （必要な準備）テキストをよく読んでおくこと。（20分） p.34～37,72～73,110～113

授業名	**子どもと運動**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and Exercise	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西村　誠**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	健康（体育）は身体そのものの学習指導であり、あわせて身体活動を通しての心のあり方の学習である。本科目では、その指導の方法論の実際を学習・研究する。この大切な学習指導を進めるためには、子どもの心身の発育・発達の状況の十分な把握と子ども一人ひとりの実態をふまえた展開が重要である。また、この年齢期に将来にわたって不可欠な健康の保持促進、コミュニケーション、レクリエーション等の諸資質を培う。また、その際、教材として児童文化財にかかわる機会を設定するなどし、言語表現を交えた身体表現のあり方を考えていく。
学習成果到達目標	体育は応用科学の代表的な分野だといわれています。そのために多様な視点からの学習・研究が求められます。 学習・研究の要点として、次にあげた諸点を大切にしながら取り組んでください。 ・子どもが積極的に取り組むであろう遊びの種類とその展開の方法について。 ・子どもがいろいろな場所、場面でどの様な行動の仕方をするかを理解し、安全に気をつけて行動するようになるための指導上の留意点について。 ・体育（運動）ぎらいを生みださない学習指導のあり方の研究は大切です。 ・体育実技（健康）を指導する者として、ぜひ身につけておきたい考え方や資質とはどのようなことなのだろうかを常に念頭においておきたい。 ・教師自身の立居振舞・服装等は直ちに幼児に伝授するものである事を心しておく必要がある。 ・子どもはこの時期に健康で安全な生活を送り、日常の生活の中で基本的な習慣や態度を身につけさせることが大切である。 ・子どもは一般に種々な感染症にかかりやすい。それを防ぐには、子ども一人ひとりのどのような点に留意して観察する必要があるのかについて理解する必要がある。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（授業参加への意欲　）　■（グループによる研究とその成果　）
テキスト	『伝承遊びのアラカルト辞典』　西村誠 ほか監修　昭和堂
参考書	『体育あそびアラカルト』　桝岡義明　西村誠　編著　朱鷺書房
留意事項	実技を中心として集中的に展開することになるので、受講にあたっては体育遊びの実体験に耐えられる体力を培っておいてください。「毎回の学習内容・課題」で提示された内容について、事前に調べておくこと。 <準備物> 運動するのに適した服装（トレーニングズボン、トレーニングシャツ）、体育館シューズ（上履きと下履きの区別をしておく）。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**子どもと運動**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）幼児期の心身の実態。幼児の喜ぶ運動の分類。 （必要な準備）
第2回	体つくり運動	（内　　容）多様な動きをつくる運動遊びを行い、体力の基礎を培う。 （必要な準備）多様な動きとはどんな動きかを調べておく
第3回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび	（内　　容）何も使わずに出来る伝承あそびを行う。 （必要な準備）伝承あそびを調べておく。
第4回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび・ゲーム	（内　　容）鬼ごっこ、だるまさんが転んだ等の伝承あそび・ゲームを行う。 （必要な準備）伝承あそび・ゲームを調べておく。
第5回	ボール遊び	（内　　容）ボールの特性について知る。ボールの扱いになれる。少人数でのボール遊びを行う。 （必要な準備）ボールの特性について調べる。
第6回	ボールでゲーム遊び	（内　　容）ボールを使ったゲーム遊びを行う。 （必要な準備）子どもの頃に行ったゲームを調べておく。
第7回	フープ遊び	（内　　容）フープの特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを行う。 （必要な準備）簡単な遊びを考えておく 。
第8回	フープでゲーム遊び	（内　　容）フープを使ってゲーム遊びを行う。ゲーム遊びを考える。発表する。 （必要な準備）グループでゲーム遊びを考えておく
第9回	マット遊び	（内　　容）マットを使った運動遊びとマット運動に必要な基本的な動きを行う。 （必要な準備）腕を使った動物遊びを考えておく
第10回	マット運動	（内　　容）横転・前転・後転・側転・倒立を行う。補助の方法を学ぶ。（二人組で補助の練習） （必要な準備）補助の仕方を調べておく。
第11回	とび箱遊び	（内　　容）とび箱に慣れる遊びから、跳び越える遊びに発展させる。跳び越えるためのポイントはどこなのかを考える。 （必要な準備）とび箱を跳ぶには何が大切なのか考えておく。
第12回	とび箱遊び・ゲーム	（内　　容）とび箱を使った遊びを行う。ゲーム遊びを考え発表する。 （必要な準備）グループでゲーム遊びを考えておく。
第13回	縄遊び	（内　　容）短い縄を使っての遊び。１人で遊ぶ・２人で遊ぶ・色々な方法で跳ぶ。長縄を使って皆で跳んでみる。 （必要な準備）色々な跳び方を考えておく。
第14回	体操を考える	（内　　容）子ども達が積極的に取り組みたくなるような、ウォーミングアップの方法を考える。グループでまとめる。 （必要な準備）体操を考えておく
第15回	まとめ	（内　　容）本授業を振り返りながら、学びや課題等について話し合う。 （必要な準備）運動を生涯継続していくための良き方法をまとめておく。

授業名	**子どもの食と栄養u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant Nutrition	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、正しい小児の食生活を理解する。小児が正しい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。				
学習成果到達目標	1）栄養に関する基礎的事項について理解できる。 2）小児の食生活のありかたについて正しく理解できる。 3）子どもたちに食育していくことのできる力をもつ。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　　）　□（　　）			
テキスト	『子どもの食と栄養演習』　第４版　小川雄二編著　建帛社				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	子どもの食と栄養u

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食の重要性について	（内　　容）授業の進め方についての説明および「食べる」ことの重要性について （必要な準備）自分の食生活を振り返っておく（３０分）
第2回	子どもの健康と食生活	（内　　容）子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について （必要な準備）大人と子どもの食の違いについて考えておく教科書p1-2を読んでおく（３０分）
第3回	栄養の基礎知識①糖質、脂質、タンパク質	（内　　容）糖質、脂質、タンパク質の種類とその役割について （必要な準備）教科書p11-16を読んでおく
第4回	栄養の基礎知識②ビタミン、ミネラル	（内　　容）ビタミン、ミネラルの種類とその役割について （必要な準備）教科書p16-21を読んでおく
第5回	栄養の基礎知識③食事摂取基準、食構成、献立作成	（内　　容）必要な栄養素をどのように満たすかについて （必要な準備）栄養素について復習しておく、教科書p34-40を読んでおく（６０分）
第6回	乳児期の栄養の特性	（内　　容）乳児期の食生活の留意点などについて （必要な準備）教科書p41-60を読んでおく（３０分）
第7回	乳汁栄養の特徴（実習含む）	（内　　容）母乳栄養、人工栄養の特徴について （必要な準備）教科書p72-92を読んでおく、市販の育児用ミルクの情報を集めておく（３０分）
第8回	離乳の進め方	（内　　容）離乳の必要性と授乳・離乳の支援ガイドの概説 （必要な準備）教科書p92-114を読んでおく（３０分）
第9回	離乳食の実際（実習含む）	（内　　容）離乳食の進め方と留意点について （必要な準備）教科書p199-202を読んでおく、市販のベビーフードを観察しておく（３０分）
第10回	幼児期の栄養の特性	（内　　容）幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 （必要な準備）教科書p114-126を読んでおく（３０分）
第11回	幼児期の食生活の実際（実習含む）	（内　　容）幼児期の食生活の留意点などについて （必要な準備）教科書p122,128の演習をやってみる（６０分）
第12回	幼児期の食生活上の問題点、学童期の食生活	（内　　容）幼児期の偏食、遊び食べなどの問題行動および学童期の食の注意点について （必要な準備）教科書p126-134を読んで幼児期の問題行動の原因について、さらに教科書p140-143を読んで学童期の注意点について考えておく（６０分）
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	（内　　容）食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について （必要な準備）教科書p183-198を読んで食物アレルギーを持つ子供への対応について考えておく（３０分）
第14回	児童福祉施設における食事	（内　　容）児童福祉施設で提供される食事について （必要な準備）教科書p172-182を読んでおく(３０分)
第15回	食育計画	（内　　容）幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる （必要な準備）教科書p154-164、保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく（６０分）

授業名	**健康マネジメント**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Health Management	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**竹市　仁美**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	生涯を通じて健康なからだとこころを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。 講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因についての理解を広めた上で、健康を管理するための思考やスキルを身に付ける。加えて、健康保持・増進に関する国の施策を学ぶことで、それらを自らの実生活の中で実践し、自身や周りの健康長寿を目指せることを目標とする。
学習成果到達目標	1）健康の定義を理解する。 2）生活習慣病の背景要因を理解する。 3）若年女性の健康問題について理解する。 4）健康増進の実践方法を修得する。
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力 ） □（ ）
テキスト	日本健康マスター検定 公式テキスト（NHK出版）
参考書	使用しない。
留意事項	予習、復習を必ず行うこと。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。

授　業　名	**健康マネジメント**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「健康」とは何か	（内　　容）WHOの健康の定義を基に、健康について改めて考えます （必要な準備）
第2回	「健康リテラシー」を高めよう	（内　　容）日本人の健康事情、健康日本２１、健康増進法を学ぶ 健康情報の信頼性について考える （必要な準備）テキストP.8～16を読んでおくこと
第3回	食生活と健康① 「塩分について」 「食品の種類について」	（内　　容）適切な塩分についての理解を深める 特定保健用食品など、市場に出回る食品のただし表示の見方を学ぶ （必要な準備）テキストP.18～25を読んでおくこと
第4回	食生活と健康② 「エネルギー摂取について」	（内　　容）気になる食事のエネルギーのポイントを学ぶ （必要な準備）テキストp.26～37を読んでおくこと
第5回	食生活と健康③ 「どのように食べますか」	（内　　容）必要な食事量と栄養素の関係について学ぶ 野菜や果物の役割について学ぶ （必要な準備）テキストp.38～54を読んでおくこと
第6回	嗜好を見直す 「飲酒や喫煙」	（内　　容）人の嗜好の実態について考える （必要な準備）テキストP.56～62を読んでおくこと
第7回	身体活動と健康	（内　　容）日常動作が健康に及ぼす影響について考えます （必要な準備）テキストP.64～92を読んでおくこと 動きやすい服装
第8回	運動と健康づくり	（内　　容）健康づくりに役立つ運動について学ぶ （必要な準備）テキストP.80～93を読んでおくこと 動きやすい服装
第9回	睡眠と心の健康	（内　　容）ストレスについて考え、リラックス法について体験する。 睡眠が持つ重要な意味を学び、良い睡眠を実践できるようにする （必要な準備）テキストP.94～105を読んでおくこと
第10回	心の健康と栄養	（内　　容）ライフステージ別に気を付けたい病気について考え、ストレスに負けにくい体をつくる要点を学ぶ （必要な準備）テキストP.106～118を読んでおくこと
第11回	疾病の予防	（内　　容）疾病の1次予防から３次予防について学ぶ （必要な準備）テキストP.120～132、186～190を読んでおくこと
第12回	女性の健康	（内　　容）月経、出産、更年期などライフステージの変化に伴う女性の健康と生活の工夫について学ぶ （必要な準備）テキストP.152～168を読んでおくこと
第13回	高齢者・家族の健康	（内　　容）ロコモ、低栄養など家族を見守る視点について学ぶ 災害への備えについて考る （必要な準備）テキストP.134～150、214～215を読んでおくこと
第14回	口の健康	（内　　容）むし歯と関連疾患から全身の健康を考える （必要な準備）テキストP.170～184を読んでおくこと
第15回	まとめと発表	（内　　容）授業から得た知識をもとに、気になる記事を持ち寄り、自らの健康を支える方法について討論する （必要な準備）身の回りの健康問題を収集しておくこと

授業名	**道徳教育論（家庭）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Moral Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**毛利　豊和**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	学校教育の中で、今まで以上に重視されることになった道徳教育。基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。 授業内容 ○　道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 ○　実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 ○　指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。 学習方法 ○　講義　　○　議論（全体・グループ）　　○　演習（全体・グループ） ○　模擬授業（考察・実習）　　○　授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） ○　一人学習
学習成果到達目標	到達目標 ①　道徳教育の意義と魅力を実感する。 ②　生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 ③　道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 ④　社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。

評価方法	定期試験　■筆記試験　□レポート　□制作物 （　60　%）　□口述　□実習　□実技	平常試験　□筆記試験　■レポート　■制作物 （　40　%）　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	「中学校学習指導要領解説・ 特別の教科　道徳編」文部科学省（平成２７年７月）
参考書	柴原弘志『中学校　新指導要領の展開　　特別の教科　道徳編』明治図書 永田繁雄『小学校　新指導要領の展開　　特別の教科　道徳編』明治図書
留意事項	資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。 授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。 今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。
オフィスアワー	担当授業終了後に、実施します。

授　業　名	**道徳教育論（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	（内　　容）オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等） 理　論：道徳教育に求められること 実践例：「もしも私が神様に」「幸せの瞬間フォトコンテスト」 技　術：終末（まとめ）自己を見つめるひとり学習 （必要な準備）なし
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科　道徳	（内　　容）理　論：道徳教育・道徳科の目標と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「１こでも100このりんご」 クイズで学ぶ「できますか？」 技　術：多様なものの見方 （必要な準備）前時のプリント
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	（内　　容）理　論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん（僕の生まれた日）」他 先人に学ぶ「妖怪に学ぶ（ゲゲゲの鬼太郎）」 技　術：教材収集・選択 （必要な準備）前時のプリント
第4回	現代的な課題　豊かな心① 指導技術　　中心教材・補助教材	（内　　容）理　論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」他 漢字で学ぶ「辛・優」 技　術：教材収集・選択　　導入 （必要な準備）前時のプリント
第5回	現代的な課題　豊かな心② 指導技術　　1時間の流れ	（内　　容）理　論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「ＣＭ（お～いお茶！）」 ポスターで学ぶ「ごめんですんだら警察いらんわ」 技　術：教材分析・提示　　大まかな展開 （必要な準備）前時のプリント
第6回	現代的な課題　豊かな心③ 指導案の書き方①　主題	（内　　容）理　論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 オルゴールに学ぶ「次の方のために」 技　術：主題・教材・中心発問 （必要な準備）前時のプリント
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方②　中心発問・導入・終末	（内　　容）理　論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 技　術：導入・終末・板書 一人学習 （必要な準備）前時のプリント・指導案
第8回	道徳教育における発達段階 スピーチ学習（チームザ～～）	（内　　容）理　論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンタで学ぶ「数字送り」 技　術：声・板書の使い方 一人学習 （必要な準備）前時のプリント・指導案
第9回	道徳教育における評価 スピーチ学習（リーダーシップ）	（内　　容）理　論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 技　術：指導者の立ち位置・机間巡視 一人学習 （必要な準備）前時のプリント・指導案
第10回	道徳教育の内容　Ａの領域 スピーチ学習（フォロアーシップ）	（内　　容）理　論：Ａの領域 実践例：ＴＰＯに学ぶ「謙虚・寛容」 技　術：主題設定の理由 （必要な準備）前時のプリント・指導案・教材
第11回	道徳教育の内容　Ｂの領域 模擬授業①グループ	（内　　容）理　論：Ｂの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 指導者の明るさ・声・立ち位置 グループ協議の進め方 （必要な準備）前時のプリント・指導案・教材
第12回	道徳教育の内容　Ｃの領域 模擬授業②グループ	（内　　容）理　論：Ｃの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 教材の魅力・教材提示の工夫・板書 グループ協議の進め方 （必要な準備）前時のプリント・指導案・教材
第13回	道徳教育の内容　Ｄの領域 模擬授業③全体	（内　　容）理　論：Ｄの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 発問の工夫（中心発問・意図的指名） 全体協議の進め方 （必要な準備）前時のプリント・指導案・教材
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業④全体	（内　　容）理　論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 教材の力 全体協議の在り方 （必要な準備）前時のプリント・指導案・教材
第15回	まとめ	（内　　容）・指導者の研究（指導力向上への意欲と自己研鑽） ・教育指導者としてのプラス思考 ・テストについて （必要な準備）１～１４回の授業プリント

授業名	**道徳教育論（小）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Moral Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**三宅　康夫**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。 また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。 ○適宜、授業資料、参考資料、レポート課題等の提示を行う。 ○指名発問も実施する。 ○演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。 1） 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。 2） 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。 3） ほぼ毎回、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れる。コミュニケーション力を高める。 4） レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。 代表者はプレゼンテーション力を、出席者はコメントを通して分析力、思考力を養う。
学習成果到達目標	小学校・幼稚園における道徳教育を進めるにあたって、講義や演習を通して指導方法など教員として必要な資質・能力を修得することを目標とする。また、社会人として社会における道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持たせる。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（興味・関心・意欲　）　□（　）
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・ 道徳編」東洋館出版社　(現在　未刊)	
参考書	赤堀博行『道徳授業で大切なこと』『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社2013. 横山利弘『道徳教育、画餅からの脱却・道徳をどう説く』暁教育図書 2007.	
留意事項	教職を志望する学生の履修を望む。授業資料（新学習指導要領道徳　平成27年3月告示）や学習指導要領解説を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。	

授　業　名	**道徳教育論（小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の実際	（内　　容）オリエンテーション　（授業の役割、授業の展開、評価の方法、マナーなどについて）。道徳教育の実際を知る。 （必要な準備）筆記用具
第2回	「特別の教科　道徳」の概要　改訂の背景	（内　　容）「特別の教科　道徳」の設置に当たっての経過を含めたその概要を理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第3回	道徳教育と「特別の教科　道徳」	（内　　容）道徳教育と「特別の教科　道徳」のそれぞれの特質について理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第4回	道徳教育の「内容」「指導」「評価」	（内　　容）道徳教育の目標やその内容、指導、評価について実践的に理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第5回	道徳科の授業づくり(基本型、教材分析)について	（内　　容）道徳科の授業づくりの基本型、教材分析について学び、考える。 （必要な準備）テキスト、プリント
第6回	道徳科の授業づくり（導入、教材提示、発問）	（内　　容）授業づくりで大切な導入、教材提示と特に発問について演習を通して学ぶ。 （必要な準備）テキスト、プリント
第7回	道徳科の指導方法（話し合い、表現活動、板書）	（内　　容）指導方法の話し合い、役割演技などの表現活動、板書などについて演習を通して学ぶ。 平常試験のレポート課題を提示する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第8回	生き方を考える道徳科の授業づくり(展開後段、終末)	（内　　容）生き方を考える道徳科の授業づくりに向けて大切な展開後段の発問や終末について具体例をもとに理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第9回	道徳授業の指導案の作成（主題設定の理由、ねらい）	（内　　容）道徳授業の指導案の作成に取り組む。第１回は、主題設定の理由とねらいなど。 （必要な準備）テキスト、プリント
第10回	道徳授業の指導案の作成（教材分析）	（内　　容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第２回は、教材分析と発問など。 （必要な準備）テキスト、プリント
第11回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、発問）	（内　　容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第３回は、指導方法と発問など。 （必要な準備）テキスト、プリント
第12回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、板書）	（内　　容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第４回は、指導方法と板書など。 （必要な準備）テキスト、指導案
第13回	作成した指導案をもとに模擬授業　その１	（内　　容）次回も含めて代表３人の学生が、30分間の模擬授業を行う。 （必要な準備）テキスト、指導案
第14回	作成した指導案をもとに模擬授業　その２	（内　　容）模擬授業について感想、意見交流を行い、道徳科の授業づくりで大切にしたいことを考える。 指導案を仕上げ提出する。 （必要な準備）テキスト、指導案
第15回	道徳教育の学級経営に果たす役割について 家庭や地域社会と連携した道徳教育について	（内　　容）道徳教育の学級経営に果たす役割と家庭や地域社会と連携した道徳教育の有効性について考える。 （必要な準備）プリント

授業名	**発達心理学（家庭・栄養）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Developmental Psychology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	家庭科の一分野である保育を考える上で、子どもの発達を理解することは大変重要である。また、栄養教諭としての役割を果たす上でもそれぞれの子どもの発達の状況をとらえることは重要である。そこでこの授業では、変化の著しい乳幼児期から思春期にわたって、子どもがどんな力を獲得していくかを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。				
学習成果到達目標	1）子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2）子どもの発達を理解する。 3）子どもの発達をとらえる視点を獲得する。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	①西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 ②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**発達心理学（家庭・栄養）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（内　　容）保育における発達理解の必要性を解説する （必要な準備）テキスト①１章を読んでくる(30分)
第2回	乳児期前半	（内　　容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト①２章を読んでくる(30分)
第3回	乳児期後半	（内　　容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト①３章を読んでくる(30分)
第4回	１歳児（運動・認知）	（内　　容）1歳児の運動発達・認知発達を解説する （必要な準備）テキスト①４章を読んでくる(30分)
第5回	１歳児(言語・社会性)	（内　　容）１歳児の言語・社会性の発達を解説する （必要な準備）テキスト①４章を読んでくる(30分)
第6回	２歳児	（内　　容）2歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト②２章を読んでくる(30分)
第7回	３歳児	（内　　容）3歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト②３章を読んでくる(30分)
第8回	４歳児	（内　　容）4歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト②４章を読んでくる(30分)
第9回	５歳児	（内　　容）5歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト②５章を読んでくる(30分)
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（内　　容）乳幼児期の発達でたいせつなことをまとめる （必要な準備）ここまでの授業の振り返りをする(30分)
第11回	児童期	（内　　容）児童期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる(30分)
第12回	思春期前期	（内　　容）思春期前期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる(30分)
第13回	思春期後期	（内　　容）思春期後期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる(30分)
第14回	発達の援助のあり方①　自閉症スペクトラム	（内　　容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト②p１０８－１１９を読んでくる(30分)
第15回	発達の援助のあり方②　ADHD	（内　　容）ADHDの特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト②ｐ１０８－１１９を読んでくる(30分)

授業名	**発達心理学（幼・小）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Developmental Psychology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。				
学習成果到達目標	1）子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2）子どもの発達を理解する。 3）子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	①西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 ②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**発達心理学（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（内　　容）保育における発達理解の必要性を解説する （必要な準備）テキスト①１章を読んでくる（３０分）
第2回	乳児期前半	（内　　容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト①２章を読んでくる（３０分）
第3回	乳児期後半	（内　　容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト①３章を読んでくる（３０分）
第4回	１歳児(運動・認知)	（内　　容）１歳児の運動発達、認知発達を解説する （必要な準備）テキスト①４章を読んでくる（３０分）
第5回	１歳児（言語・社会性）	（内　　容）１歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （必要な準備）テキスト①４章を読んでくる（３０分）
第6回	２歳児	（内　　容）２歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト②２章を読んでくる（３０分）
第7回	３歳児	（内　　容）３歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト②３章を読んでくる（３０分）
第8回	４歳児	（内　　容）４歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト②４章を読んでくる（３０分）
第9回	５歳児	（内　　容）５歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト②５章を読んでくる（３０分）
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（内　　容）乳幼児期の６年間を通してたいせつなことを解説する （必要な準備）ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる（３０分）
第11回	児童期	（内　　容）児童期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（３０分）
第12回	思春期前期	（内　　容）思春期前期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（３０分）
第13回	思春期後期	（内　　容）思春期後期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（３０分）
第14回	発達の援助のあり方①　自閉症スペクトラム	（内　　容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト②p１０８－１１９を読んでくる（３０分）
第15回	発達の援助のあり方②　ADHD	（内　　容）ADHDの特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト②ｐ１０８－１１９を読んでくる（３０分）

授業名	**教育原理u（中・高・栄）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		

授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係を踏まえながら学習する。とりわけ、学校教育に大きな影響を与えたルソー、ペスタロッチ、J.ロックの思想を中心に、教育に求められる基本概念について学ぶ。また、今後の教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べる力を身につけることが本講義の目標である。
学習成果到達目標	1）諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる。 2）教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3）子どもに対する教育観について、自らの経験を踏まえながら説明できる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『やさしい教育原理』（新版補訂版）田島一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著
参考書	適宜指示する。
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うため、適宜指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって授業に臨んでもらいたい。
オフィスアワー	第１回目の授業にて告知

授　業　名	**教育原理u（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	（内　　容）進め方の説明後、教育学が扱う領域について説明する。 （必要な準備）自分が受けてきた教育について振り返っておく。
第2回	教育とは何か	（内　　容）教育とは何かについて考える。 （必要な準備）テキストpp.1-11をよく読んでおくこと
第3回	学ぶことと教えること	（内　　容）「学び」と「教え」について考察する （必要な準備）テキストpp.12-26をよく読んでおくこと
第4回	教育・教化と形成	（内　　容）教育・教化と形成の違いについて考える （必要な準備）テキストpp.27-37をよく読んでおくこと
第5回	学校とは何か	（内　　容）なぜ学校が登場したのかについて考える （必要な準備）テキストpp.39-47をよく読んでおくこと
第6回	近代学校の登場	（内　　容）なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて考える （必要な準備）テキストpp.48-55をよく読んでおくこと
第7回	我が国の教育のあゆみ	（内　　容）日本の教育の変遷について考える （必要な準備）テキストpp.68-86をよく読んでおくこと
第8回	身体の発達と道徳	（内　　容）教育と発達に関する理論について概観する （必要な準備）テキストpp.99-110をよく読んでおくこと
第9回	教育計画	（内　　容）子どもたちの学びを推進するための教育計画について学ぶ （必要な準備）テキストpp.117-132をよく読んでおくこと
第10回	教育評価を考える	（内　　容）評価の理論について概観する （必要な準備）テキストpp.133-149をよく読んでおくこと
第11回	理論と実践のつながりについて考える	（内　　容）フレイレや生活綴り方運動を概観し、理論と実践のつながりについて考える （必要な準備）テキストpp.159-168をよく読んでおくこと
第12回	青年期と教育	（内　　容）青年期における教育の課題について考える （必要な準備）テキストpp.203-218をよく読んでおくこと
第13回	社会教育と生涯学習	（内　　容）社会教育と生涯学習について考える （必要な準備）テキストpp.219-232をよく読んでおくこと
第14回	教育の権利について考える	（内　　容）知識基盤社会における子どもの権利について考える （必要な準備）テキストpp.233-248をよく読んでおくこと
第15回	教育改革の動向とまとめ	（内　　容）現行の教育改革はどのように進んでいるのか、総括をおこなう （必要な準備）これまでの授業の振り返り

授業名	**教育原理u（幼・小）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Education	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	教育とは個人が社会人として生きていけるように成長発達を支援していくものであると同時に、社会全体を維持発展させていくものである。このような教育の重要性を理解するために、学校教育、歴史、政治経済、家庭教育など多様な観点から教育を考え、今後の教育のあり方を模索していく。				
学習成果到達目標	1）個人及び社会の両方と教育とのかかわりを理解し、説明できる。 2）教育が、学校だけでなく、社会のその他の部分と関わっていることを理解し、説明できる。 3）現代の世界的な教育の流れを踏まえ、これからの教育について想定できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	適宜資料を配布する				
参考書	舞田敏彦『データで読む教育の論点』（晶文社）ほか適宜紹介する				
留意事項	欠席時には次の授業までにその時の授業内容や配布物などの確認にくること				
オフィスアワー	随時。メールでの予約が望ましい。				

授　業　名	**教育原理u（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	授業の進め方、現代社会と教育	（内　　容）進め方の説明後、自分の教育歴を振り返ると同時に、現代社会における教育の諸問題について考えてみる。 （必要な準備）シラバスを確認しておく。自分が受けてきた教育について振り返っておく。 （30分程度）
第2回	教育の意味と役割及び限界	（内　　容）教育の意味や重要性について考える。人間の特質をもとに考える。同時に教育の限界についても知る。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第3回	子どもの発達と教育で育てる「力」	（内　　容）子どもの発達についての考え方を概観し、教育が関与して育てる「力」について理解する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第4回	近代以降の日本の教育制度	（内　　容）日本の教育史について、主として明治期以降を取り扱い、教育と社会制度との関連を理解する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第5回	西洋教育思想の歩み	（内　　容）西洋における教育概念と、今日の教育内容や方法につながる、歴史上の人物の教育思想について学ぶ （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第6回	子ども理解の重要性	（内　　容）予習として課題をやっておく。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第7回	道徳教育	（内　　容）近年重視されている道徳教育について歴史的経緯や、位置づけ、方法論などについて理解し、考察する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第8回	人権と教育	（内　　容）子どもの人権、「権利条約」、近年の諸問題などについて理解する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第9回	ジェンダー問題	（内　　容）養育におけるジェンダーの問題を考える。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第10回	特別支援教育	（内　　容）特別支援教育の今日的課題について概観する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第11回	学校と地域社会	（内　　容）学校が存在する地域は、社会の変化によって「コミュニティ」へと変化していることを理解する。 （必要な準備）本時の課題について各自で調べ予習しておく。 （1時間）
第12回	子どもと学校をめぐる現代的課題	（内　　容）子どもと学校、地域、家庭そして政治経済状況をめぐる諸課題について整理する。 （必要な準備）予習としての課題をグループでやっておく。 （3時間程度）
第13回	子どもと家庭環境との関係	（内　　容）家族・家庭と子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。（グループによる発表） （必要な準備）予習としての課題をやっておく。（1時間）
第14回	子どもと社会状況との関係	（内　　容）親の家庭状況や地域社会とのつながりなどと子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。（グループによる発表） （必要な準備）予習として課題をやっておく。（1時間）
第15回	まとめ	（内　　容）教育やそれを取り巻く諸状況について、これまでの授業を振り返り、教育について自分が取り組んでいきたいことを整理する。 （必要な準備）これまでの授業を振り返っておく。（1時間）

授業名	**精神保健u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Mental Health	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	1）メンタルヘルスについて、生活スタイル、価値観の変化など、社会環境が大きく変化してきた背景となる要因を学ぶ。 2）受講者自身が自己理解・他者理解を学び、社会で暮らしていく力を身につける。 3）最近クローズアップされてきた発達障害・精神障害・認知症等についての学びを深める。				
学習成果到達目標	1）胎生期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期のメンタルヘルスの基本的知識を習得する。 2）自己理解・他者理解を学ぶことで、メンタルヘルスの実際を体験できる。 3）発達障害児・精神障害・認知症等の理解と支援方法を習得し、支援方法を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　■実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。（適宜プリントを配布する）				
参考書	使用しない。				
留意事項	ワークを通し、主体的に学ぶ事を重視するので、積極的参加すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**精神保健ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	メンタルヘルスを学ぶ目的・意義	（内　　容）ガイダンス：授業の目標、進め方など全体の流れを把握する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）
第2回	胎生期のメンタルヘルス	（内　　容）胎生期のメンタルヘルスについて、①胎生期の危機②周産期の危機を学ぶ。 （必要な準備）胎児の成長について復習し、胎生期のウェルビーイングを考える。(20分)
第3回	乳幼児期のメンタルヘルス	（内　　容）乳幼児期のメンタルヘルスについて特徴と配慮事項を学ぶ （必要な準備）マーラー、ボウルビィを中心に前回の復習をする。（60分）
第4回	ワーク①	（内　　容）自分のこれまでのメンタルヘルスについて振り返る （必要な準備）レポート提出
第5回	学童期のメンタルヘルス	（内　　容）学童期のメンタルヘルスについての特徴と配慮事項を学ぶ （必要な準備）発達の多様性を理解し、分類方法・基準についてまとめる。（40分）
第6回	思春期のメンタルヘルス	（内　　容）思春期のメンタルヘルスについての特徴・配慮事項を学ぶ。（大人になること、親離れ・子別れ） （必要な準備）思春期の基本的概念について復習する。(40分)
第7回	ワーク　②	（内　　容）自己理解を深める （必要な準備）ライフスキルについて復習をする。(40分)
第8回	成人期のメンタルヘルス	（内　　容）成人期のメンタルヘルスの特徴・配慮事項を学ぶ （必要な準備）エリクソンについて復習をする。(40分)
第9回	老年期のメンタルヘルス	（内　　容）老年期のメンタルヘルスの特徴・配慮事項を学ぶ （必要な準備）老化について、前回の復習をする。(20分)
第10回	ワーク　③	（内　　容）自己理解を深める （必要な準備）前回の復習をする。(20分)
第11回	精神科の病気１	（内　　容）うつ病・統合失調症等、精神科疾患の理解 （必要な準備）精神科の病気に関わる様々な職種の専門家（精神科医・看護師・臨床心理士・作業療法士・PSW・薬剤師）の役割を調べる。(60分)
第12回	精神科の病気２	（内　　容）認知症、ターミナルケアとメンタルヘルス （必要な準備）前々回の復習をする。(60分)
第13回	こころとからだ（ストレス反応）	（内　　容）ストレス反応 （必要な準備）自己のストレスについて知り、そのコントロール方法について考える。(20分)
第14回	メンタルヘルスについての振り返りをする ―プレゼンテーション―	（内　　容）メンタルヘルスについて振りかえる。 （必要な準備）メンタルヘルス全般について振り返り、興味を持った内容をまとめる。(40分)
第15回	まとめと振り返りをし、今後の課題を見出す	（内　　容）これまでの内容を振り返り、メンタルヘルスについての今後の課題を考察する。 （必要な準備）今までのまとめをして、質問事項を明確にしておくこと。（60分）

授業名	**教育心理学u（中・高・栄）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Educational Psychology	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　裕子**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		

授業の概要	1、幼児、児童、生徒の心身の発達の過程および特徴を理解する。 2、教育心理学の基礎的知見を学び、教育現場で心理学を応用して用いる力を養う。 3、幼児、児童・生徒の学習の過程を理解し、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について理解を深める。 4、個別の教育的支援の必要な児童・生徒への理解を深め実際的な関わりや支援についても考察する。
学習成果到達目標	1、幼児、児童、生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、教育における発達理解の意義、および教育心理学の基礎的知識を習得する。 2、乳幼児期から青年期の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達とその具体的内容を理解する。 3、主体的な学習を支える動機づけ、集団つくり、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 4、主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 50 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	特になし
参考書	子安増生編「教育心理学」有斐閣 中澤潤編「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房
留意事項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかり行うこと。
オフィスアワー	担当授業後に実施する。

授　業　名	**教育心理学u（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育とは、教育心理学とは、栄養カウンセリングとは	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育とは、教育心理学とは、教育心理学の研究領域、栄養カウンセリングの意義や概念について学ぶ。 （必要な準備）シラバスを確認しておくこと（10分）
第2回	発達理論と発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期）	（内　　容）乳幼児期から青年期に至るまでの各時期の発達段階とその特徴について学ぶ。 （必要な準備）前回のまとめ。 配布プリントを読みまとめる。
第3回	認知や知覚の発達	（内　　容）　認知や知覚の意義、その発達、言葉の獲得の過程や言葉の概念形成、子どもの思考の特徴について学ぶ。 配布プリントを読みまとめる　。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第4回	知能や学習の発達	（内　　容）幼児期から学童期、青年期の知能の発達を踏まえ、具体的内容について学ぶ。 （必要な準備） 配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第5回	情緒や性格の発達	（内　　容）情緒や性格の形成について内的要因、外的要因の相互作用を学ぶ。 各時期における具体的な特徴について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第6回	主体的な学習を支える理論（１）動機づけ	（内　　容）子どもの主体的な学習を支える理論や指導の基礎となる考え方について学ぶ。 学習の定義・問題解決について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第7回	主体的な学習を支える理論（２）集団作り、社会性の形成	（内　　容）主体的な学習を支える社会的学習理論について学ぶ。 集団つくり、仲間関係の意義を学び発達の特徴と関連付けて理解する。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第8回	適応と指導（１）幼児、児童、生徒における問題行動と支援	（内　　容）子どもの適応上の問題や行動について理解し適切な支援や指導に結びつける。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第9回	適応と指導（２）摂食障害への理解と支援	（内　　容）思春期、青年期に見られることの多い摂食障害について理解し栄養教育や栄養カウンセリングを実践する力を養う。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく。
第10回	適応と指導（３）子どもの心身症への理解と支援	（内　　容）子どもの心身症について発達的特徴を踏まえて理解し、問題解決に結びつける。 （必要な準備）C
第11回	適応と指導（４）健康教育の推進	（内　　容）子どもの健康教育の意義を学びに、主体的に健康行動を身につけることができるように発展的に理解する。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく.
第12回	適応と指導(５）栄養カウンセリングへの応用	（内　　容）子どもに見られる食行動の問題について理解し健康な生活習慣を形成するための要素や方法について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく.
第13回	関係機関との連携や協働	（内　　容）子どもを取り巻く社会的状況を理解し、必要に応じて関係機関との連携や協働が図ることができるように学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく.
第14回	学習活動を支える指導の基礎についてまとめる	（内　　容）さまざまな学習活動の在り方を知り、学習活動を支える指導の在り方について多くの側面から理解する。教師の影響や評価について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。 前回のまとめをしておく.
第15回	授業のまとめ	（内　　容）本講義全体を見直し教育心理学のまとめをする （必要な準備）ノートやファイルを整理する。

授業名	**教育心理学u（幼・小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Educational Psychology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　裕子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	1、幼児、児童、生徒の心身の発達の過程および特徴を理解する。 2、教育心理学の基礎的知見を学び、教育現場で心理学を応用して用いる力を養う。 3、幼児、児童・生徒の学習の過程を理解し、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について理解を深める。 4、個別の教育的支援の必要な児童・生徒への理解を深め実際的な関わりや支援についても考察する。
学習成果到達目標	1、幼児、児童、生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、教育における発達理解の意義、および教育心理学の基礎的知識を習得する。 2、乳幼児期から青年期の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達とその具体的内容を理解する。 3、主体的な学習を支える動機づけ、集団つくり、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 4、主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 50 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	プリント配布する
参考書	子安増生編「教育心理学」有斐閣 中澤潤編「よくわかる教育心理学」ミネルヴぁ書房
留意事項	講義を中心とするがテーマによってはグループ発表も取り入れる。理論と実践を結び付けていく。事前事後学習をすること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設ける。（曜日、時間を研究室に掲示）。 できれば事前予約が望ましい。

授　業　名	**教育心理学u（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育とは、教育心理学とは、発達とは	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 教育とは、教育心理学とは、教育心理学の研究領域、発達とは、遺伝と環境、発達の原理について学ぶ。 （必要な準備）ノートやファイルを準備する。
第2回	発達理論と発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期）	（内　　容）発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期）について学び、主な発達理論を理解する。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる。
第3回	認知の発達	（内　　容）認知の発達、概念や言葉の獲得や子どもの思考の特徴について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる
第4回	知能の発達	（内　　容）知能の種類や発達、知能の評価方法について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる
第5回	学習理論、学習の過程	（内　　容）主な学習理論を習得し、低次の学習から高次の学習への移行について理解する。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる
第6回	記憶の分類とその特徴	（内　　容）記憶の仕組みと記憶の種類を学び、記憶の歪みや忘却について理解を広げる。 （必要な準備）配布プリントを読みまとめる
第7回	外発的動機づけ、内発的動機づけ	（内　　容）学びの基本を形成する動機づけについて学ぶ。学習目標や自己効力感について理解する。 （必要な準備）配布プリントを読み演習問題を解く。
第8回	適応と指導（適応・動機づけ・葛藤）、さまざまな学習方法	（内　　容）適応・動機づけ・葛藤について学ぶ。さまざまな学習スタイルを理解する。 （必要な準備）配布プリントを読み演習問題を解く。
第9回	教育場面における評価	（内　　容）学力の評価や子どもの日常生活の評価、教員自らの教育実践の省察について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読み演習問題を解く。
第10回	子どもの学びへの支援（１）学習意欲が乏しい場合	（内　　容）さまざまな子どもの課題に向き合い理解し支援する方法を学ぶ。学習意欲の乏しい子どもへの理解と関わりを考察する。 （必要な準備）配布プリントを読み事例について考える。
第11回	子どもの学びへの支援（２）登校しぶりへの理解	（内　　容）登校しぶりや不登校の問題を理解し支援や指導について考察を深める。 （必要な準備）配布プリントを読み事例について考える。
第12回	子どもの学びへの支援（３）発達障害への理解	（内　　容）特別支援教育について理解し、発達障害や個別の教育的支援を必要とする子どもへの支援を考察する。 （必要な準備）配布プリントを読み事例について考える。
第13回	子どもの学びへの支援（４）問題行動への理解	（内　　容）問題行動や非行傾向のある子どもの背景を学び問題解決の方策を考察する。 （必要な準備）配布プリントを読み事例について考える。
第14回	教育評価（性格診断・性格検査）、教育心理学の最新のトピックス	（内　　容）性格診断・性格検査について学ぶ。最近の教育現場の問題を知り、子どもを理解し教育的支援を行う実践につなげる。 （必要な準備）配布資料を読み、演習問題を解く。
第15回	講義全体を通して振り返り まとめ	（内　　容）教育心理学のまとめをする （必要な準備）自分の考えをまとめておく。

授業名	**人間福祉論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Human Welfare	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、社会福祉の役割について考える。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象である対象・主体・方法、社会福祉制度の概要の理解をしていく。海外の社会福祉の実情も紹介し、わが国の課題を考察する。				
学習成果到達目標	1）社会事象に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2）私たち人間のくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3）くらしを支える最後の拠り所である社会福祉の重要性を理解できるようになる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（論理的な展開力　）　□（　）				
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介				
留意事項	ノートをしっかり取ること。新聞を読むこと。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。				

授　業　名	**人間福祉論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	なぜ我々は学ぶのか、どう学ぶか	（内　　容）社会福祉を学ぶ姿勢について話す （必要な準備）社会福祉の事象に思いをよせる（30分）
第2回	歴史的社会的存在としての社会福祉－慈善－	（内　　容）生活問題と生活保障の理解 （必要な準備）社会福祉の歴史を調べ考える（30分）
第3回	歴史的社会的存在としての社会福祉－慈恵・博愛・相互扶助－	（内　　容）慈恵・博愛・相互扶助について （必要な準備）社会福祉の誕生について調べ考える（30分）
第4回	社会事業・社会福祉の成立	（内　　容）社会福祉の成立について （必要な準備）社会福祉の今日の役割を調べ考える（30分）
第5回	社会福祉の動向と課題－対象－	（内　　容）社会福祉の対象理解について （必要な準備）くらしの基盤について家族と対話し考える（30分）
第6回	社会福祉の動向と課題－主体－	（内　　容）社会福祉の主体について （必要な準備）企業と社会福祉について調べ考える（30分）
第7回	社会福祉の動向と課題－方法－	（内　　容）社会福祉の方法について （必要な準備）社会福祉の方法について調べ考える（30分）
第8回	社会福祉制度の概要－社会保険－	（内　　容）社会福祉としての保険制度について （必要な準備）自らの加入している保険を調べる（30分）
第9回	社会福祉制度の概要－社会手当－	（内　　容）社会手当について （必要な準備）家族が受給している手当を家族から学ぶ（30分）
第10回	社会福祉制度の概要－生活保護－	（内　　容）生活保護制度について （必要な準備）貧困について調べ考える（30分）
第11回	社会福祉制度の概要－児童福祉－	（内　　容）児童福祉について （必要な準備）保育所をはじめ児童について考える（30分）
第12回	社会福祉制度の概要－施設・サービス－	（内　　容）施設・サービスについて （必要な準備）施設・サービスに関わっている事象を調べ考える（30分）
第13回	社会福祉の国際比較－保育－	（内　　容）社会福祉の国際比較－保育－ （必要な準備）海外の保育情報に目を向ける調べる(30分)
第14回	社会福祉の国際比較－介護－	（内　　容）社会福祉の国際比較－介護－ （必要な準備）海外の介護情報に目を向け調べる（30分）
第15回	社会福祉の今日的課題	（内　　容）社会福祉の動向と課題 （必要な準備）新聞等から今日の話題をつかむ（30分）

授業名	**生涯学習論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Lifelong Learning	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在である。学びが多ければ多いほど人は自らをより高めることができ、豊かな人生を送ることができる。生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、生涯学び続ける女性を目指すとともに、学びを支える側の立場や考え方も知り、生涯学習の意義と重要性をまなび、自らの生活に生かしていける視点を与えることを目的とする。				
学習成果到達目標	1）生涯学習の理念、現状と課題、推進方策について基本的知識を習得する。 2）だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を提示することができる。 3）教育を学校教育に限定するのではなく、成人や高齢者を対象とするインフォーマルな学習なども含めた全ての教育活動を支援・推進する方策を提示することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
留意事項	授業中に出された課題については主体的に取り組むこと。				
オフィスアワー	授業後実施する。				

授　業　名	**生涯学習論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）
第2回	生涯学習とは何か	（内　　容）生涯学習の理念について概説する。 （必要な準備）身近なところから生涯学習に関わることがないかどうかを調べておくこと。（20分）
第3回	人間形成と生涯学習	（内　　容）人間形成と学ぶことの意味について考察する。 （必要な準備）学習することの意味について考えておくこと。（30分）
第4回	生涯発達と発達課題	（内　　容）人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について考察する。 （必要な準備）人間の発達について調べておくこと。(30分)
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	（内　　容）生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について解説する。 （必要な準備）前回までの復習をしておくこと。（30分）
第6回	ラングランの生涯教育論	（内　　容）ラングランの提唱した生涯教育の理念について解説する。 （必要な準備）プリントを読んでおくこと。（30分）
第7回	ハッチンスの学習社会論	（内　　容）ハッチンスの学習社会論について解説する。 （必要な準備）プリントをよく読んでおくこと。（30分）
第8回	フォール報告にみる学習観	（内　　容）フォール報告にみる学習観、人間観について解説する。 （必要な準備）プリントをよく読んでおくこと。（30分）
第9回	OECDのリカレント教育	（内　　容）OECDのリカレント教育について解説する。 （必要な準備）プリントをよく読んでおくこと。（30分）
第10回	我が国における生涯教育論の展開	（内　　容）学習社会論や生涯教育論から生涯学習論への展開について概説する。 （必要な準備）プリントをよく読んでおくこと。（20分）
第11回	我が国における生涯学習の必要性と各種審議　会答申について	（内　　容）社会教育審議会、中央教育審議会等にみられる生涯教育の理念と具体案について整理する。 （必要な準備）プリントをよく読んでおくこと。（20分）
第12回	生涯学習社会における家庭教育について	（内　　容）生涯学習社会における家庭教育の役割について考察する。 （必要な準備）家庭教育の具体的内容について考えておくこと。（30分）
第13回	生涯学習社会における学校教育について	（内　　容）生涯学習社会における学校教育の役割について考察する。 （必要な準備）学校教育と生涯学習の関わりについて調べておくこと。（30分）
第14回	生涯学習社会における社会教育について	（内　　容）生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 （必要な準備）社会教育の具体的内容について調べておくこと。（40分）
第15回	生涯学習の事例発表	（内　　容）各地域社会の生涯学習の取り組みについて調査し、その内容を発表する。 （必要な準備）発表用資料を準備する。（60分）

授業名	**ターミナルケア論u**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Terminal Care	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**野田　隆生**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	私たちは、この世に生を受けた瞬間からすでにあの世（死）へと向かう存在となっている。本講では、現代社会における誕生と死の実態を起点に、ターミナル・ケアのありようについて学んでいく。さらに、生殖補助医療や安楽死などについて正しく理解し、それに対応できるような事例を取り上げながら、その課題について考察を深めていく。				
学習成果到達目標	1）現代社会における誕生と死の実態について説明することができる。 2）全人的な痛みの背景について説明することができる。 3）「ターミナル・ケア」「ホスピス」「ビハーラ」「ＰＣＵ」等の用語について理解し、説明ができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	使用しない。配布資料あり。				
参考書	杉本一義著『人生福祉の根本問題　苦難と援助の人間学』彩流社、小畑万里編著『地域・施設で死を看取るとき　いのちと死に向き合う支援』明石書店、垂水雄二著『生命倫理と環境倫理―生物学からのアプローチ―』八坂書房、マリ・ロイド編、若林佳史訳『緩和ケアにおける心理社会的問題』星和書店、宮川俊行著『安楽死の論理と倫理』東京大学出版局、中澤正夫著『死のメンタルヘルス　最期に向けての対話』岩波書店、香西豊子著『流通する「人体」―献体・献血・臓器提供の歴史―』勁草書房、吉武久美子著『医療倫理と合意形成―治療・ケアの現場での意思決定―』東信堂				
留意事項	安直な動機での履修は歓迎しない。問いかけに対して自ら問題意識をもつように心がけること。 グループもしくはペアワークを取り入れながら、学生の意見を基調に進めていく。				
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。				

授　業　名	**ターミナルケア論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	（内　　容）講義の進め方、成績評価の方法について解説した後、「死」に関する意識調査アンケートを行う。 （必要な準備）シラバスから学びの道筋をイメージしておく。（３０分）
第2回	現代社会における誕生と死	（内　　容）統計資料に基づく誕生と死の現状を把握し、社会とのつながりについて学ぶ。 （必要な準備）『国民の福祉と介護の動向』を閲覧しておく。（６０分）
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	（内　　容）ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学ぶ。 （必要な準備）『国民衛生の動向』を閲覧しておく。（６０分）
第4回	ターミナル・ケアの歴史① ～ホスピス・PCUの成立過程～	（内　　容）ターミナルケアの歴史をその語源よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（９０分）
第5回	ターミナル・ケアの歴史② ～ビハーラの誕生と成立過程～	（内　　容）仏教を基盤としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（９０分）
第6回	ホスピス病棟の紹介 ～遺族へのケアについて～	（内　　容）遺族へのケアについて映像を通じて理解する。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（６０分）
第7回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」① ～心理的・社会的ニード～	（内　　容）全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（６０分）
第8回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」② ～スピリチュアルニード～	（内　　容）全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（６０分）
第9回	ビハーラ病棟の紹介① ～患者からの最期のことば～	（内　　容）映像を観て、シートに記録する。 演習形式 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（４５分）
第10回	ビハーラ病棟の紹介② ～痛みからの解放～	（内　　容）映像を観て、シートに記録する。 演習形式 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（４５分）
第11回	宗教者の役割について ～ビハーラ僧の場合～	（内　　容）映像と事例を通じて解説を行う。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（４５分）
第12回	ＭＳＷの役割と機能について	（内　　容）ＭＳＷの事例紹介を通じて、ターミナル・ケア期における福祉援助の基礎について学ぶ。 （必要な準備）紹介した書籍を読む。（６０分）
第13回	生死をめぐる課題① ～生殖補助医療とその課題～	（内　　容）生殖補助医療の現状と代理出産の現実から、主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 （必要な準備）生殖補助医療や代理出産について調べておく。（６０分）
第14回	生死をめぐる課題② ～安楽死と尊厳死～	（内　　容）安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく援用できるようになることの必要性を事例を通して学ぶ。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 （必要な準備）安楽死・尊厳死・脳死・臓器移植について調べておく。（６０分）
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支えるケアとは～	（内　　容）「生ききる」ことを支えるケアについて考える。 （必要な準備）これまでの学びについて各回の要点を押さえておくことと、配布資料に目を通しておくこと。（３０分）

授業名	**家族関係論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Family Romance	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**秋山　裕之**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		

授業の概要	社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が４割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、家族を取り巻く複雑な状況をふまえ、家族関係の実態を概観しながら、望ましい家族関係について考察する。
学習成果到達目標	１）現代日本の家族の実態について先入観にとらわれずに客観的に把握するための視座を持つ。 ２）家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（思考力 ） □（ ）
テキスト	河合隼雄1980『家族関係を考える』講談社現代新書
参考書	岡田尊司2014『母という病』2015『父という病』　尾木直樹2015『親子共依存』　すべてポプラ新書
留意事項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。
オフィスアワー	週に１時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。

授　業　名	**家族関係論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）この授業のテーマと進め方について （必要な準備）シラバスを読んでくる（５分）
第2回	いま家族とは何か	（内　　容）テキスト第１章 （必要な準備）テキストの第１章を読んでくる（30分）
第3回	個人・家・社会	（内　　容）テキスト第２章 （必要な準備）テキストの第２章を読んでくる（30分）
第4回	親子であること	（内　　容）テキスト第３章 （必要な準備）テキストの第３章を読んでくる（30分）
第5回	夫婦の絆	（内　　容）テキスト第４章 （必要な準備）テキストの第４章を読んでくる（30分）
第6回	父と息子	（内　　容）テキスト第５章 （必要な準備）テキストの第５章を読んでくる（30分）
第7回	母と娘	（内　　容）テキスト第６章 （必要な準備）テキストの第６章を読んでくる（30分）
第8回	父と娘	（内　　容）テキスト第７章 （必要な準備）テキストの第７章を読んでくる（30分）
第9回	きょうだい	（内　　容）テキスト第８章 （必要な準備）テキストの第８章を読んでくる（30分）
第10回	家族の危機	（内　　容）テキスト第９章 （必要な準備）テキストの第９章を読んでくる（30分）
第11回	老人と家族	（内　　容）テキスト第10章 （必要な準備）テキストの第10章を読んでくる（30分）
第12回	家族のうち・そと	（内　　容）テキスト第11章 （必要な準備）テキストの第11章を読んでくる（30分）
第13回	これからの家族	（内　　容）テキスト第12章 （必要な準備）テキストの第12章を読んでくる（30分）
第14回	現代日本の家族　親子共依存	（内　　容）親子共依存 （必要な準備）自分の意見をまとめてくる（30分）
第15回	家族関係を考える	（内　　容）テキスト総復習 （必要な準備）自分の意見をまとめてくる（30分）

授業名	**子どもと生活u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and Life	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**斧出　節子・山川　宏和**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。
学習成果到達目標	1）子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。 2）生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　生活編』文部科学省（東洋館出版社）
参考書	適宜配布する。
留意事項	幼稚園・小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください

授　業　名	**子どもと生活u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（内　　容）子どもと生活の目標、授業方法について （必要な準備）シラバスを読んでおく
第2回	生活科の解説	（内　　容）生活科創設の経緯・変遷について説明する （必要な準備）指導要領解説を読んでおく
第3回	教育指導要領の解説	（内　　容）生活科に関する指導要領の内容を説明する （必要な準備）指導要領解説を読んでおく
第4回	季節の変化と生活①　秋を観察する	（内　　容）学外の自然観察に必要な内容を説明する （必要な準備）前回のまとめをしておく
第5回	授業計画の目的と意義について	（内　　容）生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （必要な準備）生活科の9つの領域を調べておく
第6回	グループ・セッション①	（内　　容）グループを移動しながら意見交換を行う （必要な準備）前回の内容を振り返っておく
第7回	グループ・セッション②	（内　　容）グループを移動しながら意見交換を行う （必要な準備）グループ内で出された意見をまとめておく
第8回	授業計画の策定① ねらい	（内　　容）授業計画をグループでまとめる （必要な準備）計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第9回	授業計画の策定②　方法	（内　　容）各グループ内で授業計画を完成させる （必要な準備）計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第10回	季節の変化と生活②　秋を体験する	（内　　容）学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （必要な準備）体験するための準備をしておく
第11回	ポスターセッション	（内　　容）授業計画を展示し、他グループの内容を参照する （必要な準備）展示の準備をしておく
第12回	発表①　前半グループ	（内　　容）ポスターセッションの内容を発表する （必要な準備）発表内容をまとめておく
第13回	発表②　後半グループ	（内　　容）ポスターセッションの内容を発表する （必要な準備）発表内容をまとめておく
第14回	季節の変化と生活③　秋を伝える	（内　　容）学外で体験した季節の変化について振り返る （必要な準備）観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を考えておく
第15回	まとめ	（内　　容）半期の学びを総括し、試験について説明する （必要な準備）半期間のまとめをしておく

授業名	**幼児理解**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Understanding Infants	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業を通して、生活場面の随所に見られる子どもの力を正確にとらえ、その力が弱い場面では、的確な援助が出来るようになるための基礎的な学習を行う。具体的には、保育所での保育場面のビデオを視聴したり、指導計画とその展開の実践論文を読んだりして、保育場面でみられる子どもの姿を解説してゆく。また、子どもの理解にかかせない保護者と保育者の関係づくりに有効な、カウンセリングの基礎的トレーニングもおこなう。				
学習成果到達目標	1）子どもの発達を理解する。 2）保育の中でそれがどう展開していくことができるかを考えられるようにする。				
評価方法	定期試験（ 90 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 10 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	①保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**幼児理解**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	（内　　容）子ども理解に必要なことを考える （必要な準備）
第2回	０歳児の発達と保育	（内　　容）０歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①p40から読んでくる(30分)
第3回	１歳児の発達と保育	（内　　容）１歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①p88から読んでくる（３０分）
第4回	２歳児の発達と保育（ビデオ編）	（内　　容）２歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①p126から読んでくる（30分）
第5回	２歳児の発達と保育(場面記録編)	（内　　容）２歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト②２章を読んでくる（30分）
第6回	３歳児の発達と保育（ビデオ編）	（内　　容）３歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①ｐ１４６から読んでくる（30分）
第7回	３歳児の発達と保育（場面記録編）	（内　　容）３歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ （必要な準備）テキスト②3章を読んでくる（30分）
第8回	４歳児の発達と保育（ビデオ編）	（内　　容）４歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①p200から読んでくる（30分）
第9回	４歳児の発達と保育（場面記録編）	（内　　容）４歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ （必要な準備）テキスト②4章を読んでくる（30分）
第10回	５歳児の発達と保育（ビデオ編）	（内　　容）５歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ （必要な準備）テキスト①p232から読んでくる（30分）
第11回	５歳児の発達と保育（場面記録編）	（内　　容）５歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ （必要な準備）テキスト②5章を読んでくる（30分）
第12回	保育相談の留意点	（内　　容）ロジャースの3原則を解説する。 （必要な準備）プリントを読んでくる（30分）
第13回	カウンセリングの実際（ロールプレイ）	（内　　容）ロールプレイを行う （必要な準備）前週のプリントを復習する（30分）
第14回	カウンセリングの実際（振り返り）	（内　　容）ロールプレイの振り返りを行う。 （必要な準備）ロールプレイの振り返りをしておく（30分）
第15回	子どもの問題行動のとらえ方	（内　　容）子どもの問題行動をとらえる視点を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（30分）

授業名	**家族ソーシャルワーク論**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Family Social Work	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**流石　智子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	ソーシャルワークの包括的な理解と実際的な援助活動への方法を学ぶ。家族を理解し、家族構成員の中に、障害を持っている子どもや介護の必要な高齢者、多くの問題をかかえている家族がいるなど、複雑化した家族問題があることを学ぶ。クライエントとしての家族への様々な支援が必要となるので、家族へのアプローチを検討していくことになる。その際、保育所、保健センター、児童相談所、地域包括支援センターなど多職種・多機関との連携のあり方等を学ぶ。
学習成果到達目標	1）家族が抱える問題がどのようなものかを理解することができる。 2）ソーシャルワークの包括的な理解と実際的な援助活動への方法を理解することができる。 3）特に家族をとりまく問題解決を、ソーシャルワークを通して学びを深めることができる。
評価方法	定期試験（ 90 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 10 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	喜多祐荘・小林　理編著『よくわかる　ファミリーソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
参考書	授業にて指示する
留意事項	授業で次回までに準備をしてほしい学習課題を出すので、事前の学習を積極的にしてもらいたい。アクティヴ・ラーニングを中心にして、グループでの討議を行い家族の問題を相互理解する時間を設ける。
オフィスアワー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。（時間が取れない時は、調整して連絡します。）研究室に掲示するので、確認してください。

授　業　名	**家族ソーシャルワーク論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	共同社会と家族の変容	（内　　容）変容する家族や共同社会について理解する。 （必要な準備）テキストの8～13頁を読み、理解しておく。（30分）
第2回	家族と共同社会による子育て・教育・人間形成	（内　　容）家族や共同社会での子育て・人間形成について学ぶ。 （必要な準備）テキストの24～27頁を読み、理解しておく。（30分）
第3回	家族システムの危機に対する社会による支援	（内　　容）家族の危機をどのように支援するかを学ぶ。 （必要な準備）テキストの36～39頁を読み、理解しておく。（30分）
第4回	家族の問題解決支援の事例研究	（内　　容）家族の問題解決をどのように支援していくかを理解する。 （必要な準備）テキストの40～43頁を読み、理解しておく。（30分）
第5回	家族福祉の必要性	（内　　容）家族福祉とソーシャルワークの視座について理解する。 （必要な準備）テキストの44～51頁を読み、理解しておく。（30分）
第6回	ソーシャルワークの視座と方法	（内　　容）在宅や施設におけるソーシャルワークの方法について学ぶ。 （必要な準備）テキストの52～57頁を読み、理解しておく。（30分）
第7回	子育て支援・子育ち・親育ち支援の意義と活動	（内　　容）子育て支援の意義と活動について理解する。 （必要な準備）テキストの62～65頁を読み、理解しておく。（30分）
第8回	障害児者・家族支援の意義と活動	（内　　容）障害児者・家族支援の意義と活動について学ぶ。 （必要な準備）テキストの66～69頁を読み、理解しておく。（30分）
第9回	高齢者・介護家族支援について	（内　　容）高齢者・介護家族支援の意義と活動について理解する。 （必要な準備）テキストの70～75頁を読みまとめる。（30分）
第10回	家族支援の制度・施策の現状と課題（家族・児童）	（内　　容）家族福祉サービスと児童家庭福祉サービスについて学ぶ。 （必要な準備）テキストの76～85頁について理解する。（30分）
第11回	家族支援の制度・施策の現状と課題（障害児者・高齢者）	（内　　容）障害児者福祉のサービスと高齢者福祉サービスについて理解する。 （必要な準備）テキストの86～93頁を読み、理解しておく。（30分）
第12回	家族支援の専門職とネットワーク	（内　　容）家族支援を専門的に行うことの理解とそのネットワークについて学ぶ。 （必要な準備）テキストの98～101頁を読み、理解しておく。（30分）
第13回	事例：児童福祉施設の子どもと家族への支援	（内　　容）児童福祉施設に入所している子どもの家族支援の実際を学ぶ。 （必要な準備）テキストの144～151頁を読み、理解を深める。（30分）
第14回	事例：離婚した親と子への支援	（内　　容）離婚した親と子どもへの支援について考える。 （必要な準備）テキストの164～167頁を読み、理解する。（30分）
第15回	事例：認知症の人と家族への支援	（内　　容）認知症がいる家族への支援について考える。 （必要な準備）テキストの188～193頁を読み、理解しておく。また、家族支援の必要性についてまとめておく。（1時間以上）

授業名	**衣生活論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Clothing and Human Life	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	衣服について総合的に理解する。 1. 衣服の役割について、 2. 衣服の材料・構成・衛生・管理について				
学習成果到達目標	1）衣服の機能を理解し、説明することができる。 2）快適な衣生活を営むために必要な知識を身につけ、実践することができる。				
評価方法	定期試験（ 90 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 10 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考力　）　□（　）			
テキスト	消費者の視点からの衣生活概論［井上書院］				
参考書	随時指示する。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授　業　名	**衣生活論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）講義の目的 （必要な準備）テキストに目を通す。（30分）
第2回	衣服の役割	（内　　容）衣服の役割について理解する （必要な準備）テキストの1章を読む。（30分）
第3回	衣服材料１：布の構造	（内　　容）織物と編物の構造を知る （必要な準備）テキストの25-30頁を読む。（30分）
第4回	衣服材料２：糸の種類	（内　　容）紡績糸とフィラメント糸について理解する （必要な準備）テキストの30-32頁を読む。（30分）
第5回	衣服材料３：繊維の種類	（内　　容）繊維の種類と特色を知る （必要な準備）テキストの31-32頁を読む。（30分）
第6回	衣服材料４：天然繊維	（内　　容）天然繊維の特徴を知る （必要な準備）テキストの33-34頁を読む。（30分）
第7回	衣服材料４：化学繊維	（内　　容）化学繊維の種類と特徴を知る （必要な準備）テキストの34-36頁を読む。（30分）
第8回	衣服のデザイン	（内　　容）衣服と色彩、デザインについて理解する （必要な準備）テキストの37-45を読む。（30分）
第9回	体型と衣服	（内　　容）体型と衣服の形について理解する （必要な準備）テキストの46-51を読む。（30分）
第10回	衣服のサイズ表示	（内　　容）サイズ規格と表示について知る （必要な準備）テキストの51-59を読む。（30分）
第11回	型紙の作成	（内　　容）自分にあった型紙を作成する （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第12回	型紙の完成	（内　　容）型紙を完成させる （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第13回	快適な衣服：気候と衣服	（内　　容）体温調節と衣服について理解する （必要な準備）テキストの60-73を読む。（30分）
第14回	衣服の手入れと洗濯	（内　　容）洗濯と洗剤について理解する （必要な準備）テキストの74-87を読む。（30分）
第15回	現代社会と衣服	（内　　容）高機能衣服素材・ユニバーサルデザインについて理解する （必要な準備）テキストの88-128を読む。（30分）

授業名	**衣生活実習**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Dress Making Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**乾　眞理子**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いとズボンやブラウスのデザインから型紙製作、縫製を行う。				
学習成果到達目標	1）基礎的な縫製の技術を身につける。 2）ズボンとブラウスを完成させる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（基本技術の習得　　）　□（　　）			
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	使用しない。				
留意事項	教職を志望する学生は履修すること。				
オフィスアワー	初回に提示する				

授　業　名	**衣生活実習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「ズボンの製作１」採寸、型紙作図	（内　　容）採寸と作図を行う。 （必要な準備）裁縫道具の確認をして持参する（30分）。
第2回	「ズボンの製作２」裁断・縫製	（内　　容）裁断と印付け、ミシンの使い方を理解し実践する。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（20分）。
第3回	「ズボンの製作３」縫製	（内　　容）本縫いと縫い代の始末を行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（20分）。
第4回	「ブラウス製作１」身頃の作図	（内　　容）ブラウスの身頃を作図する。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（20分）。
第5回	「ブラウス製作２」袖・襟の作図	（内　　容）ブラウスの袖・衿を製図する。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第6回	「ブラウス製作４」裁断としるしつけ	（内　　容）型紙から布を裁断し、印付けを行う。 （必要な準備）ブラウス用の布地・糸等を用意しておくこと。前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（80分）。
第7回	「ブラウス製作５」仮縫いと補正	（内　　容）仮縫い合わせ、補正を行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第8回	「ブラウス製作６」「本縫い（１）」本縫いの準備、身頃つくり①	（内　　容）縫い代を整理し、ダーツ縫い、見返しの始末を行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第9回	「ブラウス製作７」「本縫い（２）」身頃作り②	（内　　容）肩縫い合わせ、脇縫い合わせ、裾の始末を行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第10回	「ブラウス製作８」「本縫い（３）」襟作り	（内　　容）接着芯をはり、襟をつくる。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第11回	「ブラウス製作９」「本縫い（４）」袖作り	（内　　容）袖山をいせ込み、袖下・袖口を縫う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第12回	「ブラウス製作10」「本縫い（５）」衿付け	（内　　容）襟を身頃につける。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第13回	「ブラウス製作11」「本縫い（６）」袖付け	（内　　容）袖を身頃につける。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第14回	「ブラウス製作12」「本縫い（７）」ボタンホール、ボタン付け、仕上げ	（内　　容）ボタンホールを作り、ボタンを付ける。仕上げを行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。
第15回	試着とまとめ	（内　　容）試着、観察。部分縫いの製作を行う。 （必要な準備）前回までのところを完成し、レポートを作成しておく（30分）。

授業名	**カラーコーディネート論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Color Coordinates	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山部　泰司**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の中で色彩を有効に活用するため、 他者とのコミュニケーションにおいて色彩が持ち得る役割について理解を深める。				
学習成果 到達目標	1）衣食住における色彩について学ぶ。 2）科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩の理解を深める。 3）ワークシートを使って、配色や色彩計画の演習を行う。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『カラーコーディネーター入門色彩　改訂増補版』大井義雄、川崎秀昭著、（日本色研事業株式会社）				
参考書	使用しない。				
留意事項	実際に色カードや絵の具による配色演習を行なう				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**カラーコーディネート論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	色彩について１	（内　　容）導入 色彩にふれる （必要な準備）テキストに目を通しておく（15分程度）
第2回	色彩について２	（内　　容）光と色／目の働きについて理解する （必要な準備）テキストp.2～7を読む（30分程度）
第3回	色彩の体系と属性１	（内　　容）色名と表色系：色の記録と伝達について （必要な準備）テキストp.8～15を読む（30分程度）
第4回	色彩の体系と属性２	（内　　容）日本色研配色体系（PCCS）について （必要な準備）テキストp.16～19を読む（30分程度）
第5回	色彩の体系と属性３	（内　　容）マンセルシステム、オストワルトシステム他 （必要な準備）テキストp.20～27を読む（30分程度）
第6回	色彩の混合１	（内　　容）色の混合：加法混色、減法混色等を理解する （必要な準備）テキストp.28～33を読む（30分程度）
第7回	色彩の混合２	（内　　容）色の混合の実験：色彩の混合を体験する （必要な準備）今までの講義内容を確認しておく（30分程度）
第8回	照明／色彩の心理１	（内　　容）照明と色彩／色の見えの効果：見えないものが見えることについて （必要な準備）テキストp.34～39を読む（30分程度）
第9回	色彩の心理２	（内　　容）色の見えの効果：見えやすさ、見え方の変化 （必要な準備）テキストp.40～42を読む（30分程度）
第10回	色彩の心理３	（内　　容）色のイメージ：色の社会的な意味について （必要な準備）テキストp.43～47を読む（30分程度）
第11回	色彩調和の理論1	（内　　容）様々な基準に基づく色彩調和について （必要な準備）テキストp.48～53を読む（30分程度）
第12回	色彩調和の理論2	（内　　容）配色技法の体験 （必要な準備）テキストp.54～63を読む（30分程度）
第13回	色彩計画（カラープランニング）	（内　　容）配色技法の応用：日常空間の配色を考える （必要な準備）テキストp.70～71を読む（30分程度）
第14回	色彩計画（カラープランニング）	（内　　容）住空間の配色を考えてみる （必要な準備）テキストp.72～73を読む（30分程度）
第15回	まとめ	（内　　容）色彩についてのまとめ （必要な準備）ワーキングシートを完成させておく（必要な時間）

授業名	**食の科学Ⅰ（調理学）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food Science Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）調理の目的・調理理論を理解できる 2）おいしさに関する因子について理解できる 3）理論を理解し日常の調理で実践することができる				
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力 ） □（ ）				
テキスト	調理学　フードスペシャリスト協会　編　建帛社				
参考書	使用しない。				
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしておくこと				
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	**食の科学Ⅰ（調理学）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（内　　容）調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第2回	おいしさに関する要因１（食べ物の因子）	（内　　容）おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第3回	おいしさに関する要因２（食べる人の因子）	（内　　容）おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第4回	食事計画と調理	（内　　容）食事計画における調理環境などの因子についての考え方 （必要な準備）献立の立て方について復習しておく（３０分）
第5回	調理操作１（予備操作）	（内　　容）浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第6回	調理操作２（非加熱操作）	（内　　容）生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第7回	調理操作３（加熱操作）	（内　　容）湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について （必要な準備）加熱調理器具の特徴について考えてまとめておく（３０分）
第8回	調理操作４（調味）	（内　　容）調味料の特徴と調味操作について （必要な準備）家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく（３０分）
第9回	植物性食品の調理特性１（穀類）	（内　　容）米、小麦の成分と調理特性について （必要な準備）米や小麦を使った調理例について調べておく（３０分）
第10回	植物性食品の調理特性２（豆類、イモ類）	（内　　容）豆、イモ類の成分と調理特性について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第11回	植物性食品の調理特性３（野菜類、果実類など）	（内　　容）野菜、果実の成分と調理特性について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第12回	動物性食品の調理特性１（食肉）	（内　　容）牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について （必要な準備）教科書を読んでおく（６０分）
第13回	動物性食品の調理特性２（魚介類）	（内　　容）魚介類の体組織の構造と調理特性について （必要な準備）よく利用される魚と魚料理にどのようなものがあるか調べておく（３０分）
第14回	動物性食品の調理特性３（卵類、乳・乳製品）	（内　　容）卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）
第15回	調理と摂食機能	（内　　容）食べる機能と調理の工夫について （必要な準備）教科書を読んでおく（３０分）

授業名	**住生活論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Living Life Theory	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		

授業の概要	住むことと生活との関わり合いについて学ぶ。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学習する。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に考える。
学習成果到達目標	1）今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から提示できることを目標とする。 2）住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力の習得を目標とする。 3）住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得を目標とする。
評価方法	定期試験（ 50 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	未定
参考書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵　他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004
留意事項	外部の住宅見学を実施する。
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を

授　業　名	**住生活論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	住生活論を学ぶ意義	（内　　容）住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ （必要な準備）
第2回	生活空間の計画	（内　　容）生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第3回	住居の計画	（内　　容）間取りの意味・室空間の取扱 （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第4回	現代の住宅	（内　　容）和風と洋風の住まい （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第5回	日本の住宅史	（内　　容）伝統的な住まいのありよう （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第6回	住宅見学(1)	（内　　容）京都市内の名作住宅の見学 （必要な準備）方眼紙とメジャー、カメラなど
第7回	外国の住宅史	（内　　容）ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第8回	集合住宅の意義	（内　　容）共同して住む家 （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第9回	環境と住まい	（内　　容）気候風土と室内環境 （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第10回	都市と住まい	（内　　容）市街化住宅（町家と長屋）と郊外型住宅（ニュータウン） （必要な準備）テキストもしくは配布資料を事前学習
第11回	住宅見学(2)	（内　　容）京都市内の名作住宅の見学 （必要な準備）方眼紙とメジャー、カメラなど
第12回	住宅図面の読解能力(1)	（内　　容）設計図面の内容・表記方法 （必要な準備）物差しなどを用意
第13回	住宅図面の読解能力(2)	（内　　容）設計図面の内容・表記方法 （必要な準備）物差しなどを用意
第14回	名作住宅の紹介（1）	（内　　容）聴竹居・町家など京都の住宅を事例に （必要な準備）配布資料を事前学習
第15回	名作住宅の紹介（2）	（内　　容）住吉の長屋、山邑邸などの建築を事例に （必要な準備）配布資料を事前学習

授業名	**食の科学Ⅱ（食品学）**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、食品成分の特性さらにおいしさを感じさせる要因である食品の物性や機能性成分、食品中の化学変化などをよく理解し食品選択することが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について学んでいく。
学習成果到達目標	1）食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2）食品のもつ機能について理解できる。 3）食品の加工・調理による変化について理解できる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	食物学Ⅱ　フードスペシャリスト協会編　建帛社
参考書	栄養学で使用する食物学Ⅰー食品の成分と機能ーも使用しますので持参してください。
留意事項	予習、復習をしっかりすること。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。

授　業　名	**食の科学Ⅱ（食品学）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食品とは	（内　　容）食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について （必要な準備）シラバスを読んでおく。教科書Ⅰ p.1-5を読んでおく(３０分)
第2回	食品の分類	（内　　容）食品成分表の目的と概要、食品の分類法 （必要な準備）教科書Ⅰ p6-18を予習しておく（３０分）
第3回	食品中の一般成分①三大栄養素	（内　　容）炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中の働き （必要な準備）教科書Ⅰ p18-90を読んでおく（６０分）
第4回	食品中の一般成分②ビタミン、ミネラル	（内　　容）ビタミン、ミネラルの特性と働き （必要な準備）教科書Ⅰ p90-106を読んでおくこと（３０分）
第5回	食品中の一般成分③水	（内　　容）水の働き （必要な準備）教科書Ⅰ p20-29を読んでおく、一般成分について復習しておく（６０分）
第6回	食品中の嗜好成分①色、香り、テクスチャー	（内　　容）色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働き （必要な準備）教科書Ⅰ p128-156を予習しておく（６０分）
第7回	食品中のその他の成分	（内　　容）機能性成分および有毒成分の種類とその働き （必要な準備）教科書Ⅰ　p204-229を予習しておくこと（３０分）
第8回	食品の加工による変化①褐変	（内　　容）酵素的褐変と非酵素的褐変について （必要な準備）教科書教科書Ⅱ　p1-20を予習しておくこと（３０分）
第9回	食品の加工による変化②油脂	（内　　容）油脂の酸化について （必要な準備）油脂の特徴について復習しておく（３０分）
第10回	微生物・酵素を用いた食品の加工	（内　　容）微生物・酵素を用いた食品加工における食品成分の変化について （必要な準備）酵素について復習しておく（３０分）
第11回	植物性食品の特徴①穀類、芋類、豆類、種実類	（内　　容）穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について （必要な準備）教科書Ⅱ　p22-60を予習しておくこと(６０分)
第12回	植物性食品の特徴②野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	（内　　容）野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について （必要な準備）教科書Ⅱ　p62-75を予習しておくこと（６０分）
第13回	動物性食品の特徴①肉類、魚類	（内　　容）肉類と魚類の特性および加工について （必要な準備）教科書Ⅱ　p78-110を予習しておく（３０分）
第14回	動物性食品の特徴②卵類、乳類	（内　　容）卵類、乳類の特性および加工について （必要な準備）教科書Ⅱ　p111-125を予習しておく（３０分）
第15回	その他の食品の特徴	（内　　容）新規に開発された食品などの特徴について （必要な準備）遺伝子組み換え食品などについて調べておく（３０分）

授業名	**家庭経済学**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Home Economics	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**足立　正樹**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		
授業の概要	金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計というが、ここで学ぶ家庭経済はこの家計よりも広い概念である。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようになっているのかを理解する。講義形式の授業を通して、多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化も視野に入れながら、制度やシステムの課題にもアプローチしていく。				
学習成果到達目標	1）家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得する。 2）家庭経済が果たしている機能を理解する。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	担当授業の前後に行う。				

授　業　名	**家庭経済学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭経済の概念	（内　　容）家庭経済とは何か （必要な準備）家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	家庭経済と経済学	（内　　容）経済学はどのような学問か （必要な準備）経済学の考え方を理解しておく。
第3回	近代化と生活の変化	（内　　容）「近代」という時代の特徴 （必要な準備）「近代」について調べておく。
第4回	市場システムの特徴	（内　　容）市場とはいかなるシステムでどのような役割を果たしているか （必要な準備）物の価格がどのように決められているか考えてみる。
第5回	市場の機能条件	（内　　容）市場が適切に機能するためにはいかなる条件が必要か （必要な準備）完全競争について調べておく。
第6回	市場の失敗	（内　　容）市場はいかなる限界をもっているか （必要な準備）市場の失敗とはどのようなことか調べる。
第7回	消費行動の経済分析（１）	（内　　容）消費の目的は何か （必要な準備）自分が物やサービスを購入するときの目的を考えてみる。
第8回	消費行動の経済分析（２）	（内　　容）個々の財の消費はどのように決定されるか （必要な準備）自分が物やサービスの購入において考慮する項目・条件についてまとめておく。
第9回	勤労行動の経済分析（１）	（内　　容）労働供給はどのように決定されるか （必要な準備）働く目的にはどのようなものがあるかを調べる。
第10回	勤労行動の経済分析（２）	（内　　容）労働・自由時間はどのように決定されるか （必要な準備）労働時間の推移を調べる。
第11回	家庭経済と無償労働	（内　　容）無償労働は如何なる役割を果たしているか （必要な準備）無償労働にはどのようなものがあるか考えてみる。
第12回	家庭経済と少子化問題	（内　　容）無償労働としての育児活動の困難 （必要な準備）育児活動の困難を調べる。
第13回	少子化と年金問題	（内　　容）年金制度が少子化を促進する （必要な準備）少子化と年金のかかわりを調べておく。
第14回	高齢化と家庭経済	（内　　容）高齢者介護にはいかなる方式が適しているか （必要な準備）介護の諸方式を調べておく。
第15回	家庭経済の展望	（内　　容）これからの家庭経済はいかにあるべきか （必要な準備）家庭経済のあるべき姿を考えておく。

授業名	**生活経営学**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Life Management	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**斧出　節子**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養学科3回生		

授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかかわっており、それらといかにうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。
学習成果到達目標	1）自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかわっているということを理解できる。 2）どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（積極的な授業態度　）　□（　）
テキスト	『暮らしを作りかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編（朝倉書店）
参考書	『下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編（勁草書房）、『ライフコースから見た女性学・男性学』乙部由子（ミネルヴァ書房）、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編（光文社新書）、『働く女子のキャリア格差』国保祥子（ちくま新書）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』佐光紀子（光文社新書）、『平成の家族と食』品田知美編（晶文社）
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、個々のプレゼンテーションの機会を設ける。そのため、授業の順序が異なることもある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください

授　業　名	**生活経営学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方について説明する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	生活枠組みの変容と新たな生活経営主体の形成	（内　　容）家族や雇用の変化について理解する。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第3回	生活枠組み変容の事例	（内　　容）価値観の変化について理解する。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第4回	経済システムと家族・個人	（内　　容）家族や個人が経済システムの中でどのように位置づけられているのかを理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく。（30分）
第5回	家事・子育て・介護と社会保障	（内　　容）ワークショップを行い、家事・子育て・介護の社会的な位置づけについて理解する。 （必要な準備）ワークショップの準備をしておく。（30分）
第6回	女性の就業と生活経営	（内　　容）女性の就業、パートナーとの家事育児分担についての現状と課題を理解する。 （必要な準備）資料を収集し、まとめておく。（30分）
第7回	就業と法律	（内　　容）就業に関連した法律について学ぶ。 （必要な準備）前回のまとめをしておく。（30分）
第8回	就業と母性保護	（内　　容）母性保護に関連した法律について学ぶ。 （必要な準備）配布資料を読んでおく。（30分）
第9回	生活の社会化と生活資源	（内　　容）生活資源の調達について考える。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第10回	生活の社会化と生活資源をコントロールした事例研究	（内　　容）保育の社会化の事例、家庭内での生活資源について学ぶ。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第11回	参加と協働でつくる組織	（内　　容）第3セクターの実態・可能性について考える。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第12回	新しい協働のケーススタディ	（内　　容）コレクティブハウス等の事例について学ぶ。 （必要な準備）テキストを読んでおく。（30分）
第13回	福祉社会と生活保障	（内　　容）福祉レジームについて学ぶ。 （必要な準備）配布資料を読んでおく。（30分）
第14回	個人と社会を結ぶ生活保障システムの構築	（内　　容）今後の生活保障システムについて考える。 （必要な準備）前回のまとめをしておく。（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの授業のふりかえりをする。 （必要な準備）半期間の授業のまとめをしておく。（30分）

授業名	**家族社会学**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Family Sociology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**斧出　節子**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	私たちは出生から死亡までの一生を通じて、あらゆるライフステージにおいて家族とさまざまな関わりをもちながら生活している。つまり多くの人が自分自身の「家族にかかわる体験」をもつため、個々が経験したり見聞きしたりすることを一般化しがちで、相対化することが難しい。そこで本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の相対化を試みる。できるだけグループワークなどの手法を用いながら、参加型の授業にしていきたい。
学習成果到達目標	1）家族に関する現象を客観的に分析する視点をもつことにより、「家族問題」とされている事象を多角的に分析できるようになる 2）データを読み解く力がつく
評価方法	定期試験（80 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（20 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（積極的な授業参画態度 ） □（ ）
テキスト	『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著、ミネルヴァ書房　ほか配布プリント
参考書	『21世紀家族へ　第3版』落合恵美子（有斐閣）　『家族を超える社会学』牟田和恵編著（新曜社） 『未来をひらく男女共同参画』西岡正子（ミネルヴァ書房）
留意事項	3回生時に「生活経営学」を履修する人は、本授業を受講してほしい。 授業時には積極的な発言が期待されます。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください

授　業　名	**家族社会学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家族とは何かーファミリー・アイデンティティ	（内　　容）主観的家族について考える （必要な準備）シラバスを確認しておく
第2回	近代家族の成立	（内　　容）近代家族の成立過程について理解をする （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第3回	家族の変化：家族機能	（内　　容）家族機能の変化について学ぶ （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第4回	家族の自助原則	（内　　容）家族の自助原則・地域社会との関係について理解する。 （必要な準備）前回の授業をまとめておく（30分）
第5回	戦後の子育ての変化１	（内　　容）戦後から高度経済成長期までの子育てについて理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第6回	戦後の子育ての変化２	（内　　容）高度経済成長期以降の子育てについて理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第7回	家族の変化：家族形態	（内　　容）家族形態の変化について学ぶ （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第8回	結婚の動向:未婚化・晩婚化の実情	（内　　容）晩婚化・未婚化の実態について学ぶ （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第9回	結婚の動向：未婚化・晩婚化の要因	（内　　容）未婚化・晩婚化の要因について考える。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第10回	出産と少子化	（内　　容）少子化の現状とその要因・影響について学ぶ （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第11回	生殖技術と家族：技術の現状	（内　　容）生殖技術の実態について理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第12回	生殖技術と家族：課題	（内　　容）生殖技術の家族への影響について理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第13回	家族における抑圧と暴力	（内　　容）愛情規範と暴力の関係について考える。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第14回	親密性について	（内　　容）親密性とは何かについて理解する。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおく（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）半期間の学びの振り返りとまとめ （必要な準備）半期間のまとめをしておく（30分）

授業名	**比較家族論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Comparative Study of Family	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**秋山　裕之**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。
学習成果到達目標	1）文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを学び、家族の形と社会のあり方の関係を理解する。 2）子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考える。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
留意事項	受講生による討論を行います。積極的に発言してください。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。

授　業　名	**比較家族論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家族とは何か～はじめに	（内　　容）家族の定義について考える （必要な準備）「家族とは何か」について考えておく（30分）
第2回	家族の起源	（内　　容）霊長類の社会集団 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第3回	アフリカ狩猟採集民１	（内　　容）ブッシュマンの家族と親族集団１ （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第4回	アフリカ狩猟採集民２	（内　　容）ブッシュマンの家族と親族集団２ （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第5回	東アフリカ牧畜民	（内　　容）東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第6回	アフリカ農耕民	（内　　容）アフリカ農耕民の家族と親族集団 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第7回	極北インディアン	（内　　容）ヘヤー・インディアンにおける家族 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第8回	イスラム圏	（内　　容）イスラム教圏における家族 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第9回	西洋	（内　　容）西洋キリスト教社会における家族 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第10回	タイ	（内　　容）仏教圏の家族 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第11回	韓国	（内　　容）家父長制と儒教理念 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第12回	一妻多夫	（内　　容）一妻多夫性の家族 （必要な準備）資料を読んでおく（30分）
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	（内　　容）家族と社会の関係・日本の家族 （必要な準備）討論に備えて自分の考えをまとめておく（30分）
第14回	子を育てる社会的装置	（内　　容）子育ての比較文化論 （必要な準備）討論に備えて自分の考えをまとめておく（30分）
第15回	家族とは何か～おわりに	（内　　容）授業をふまえて家族について考える （必要な準備）討論に備えて自分の考えをまとめておく（30分）

授業名	**服装社会学**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Clothing Society	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダー意識などを反映して形成されてきた。近代以降、服装が社会制度や規範意識を反映してどのように変遷してきたのかを知り、服装の社会的機能について理解する。
学習成果到達目標	1）服装が歴史的にどのような役割を担っていたのか説明することができる。 2）現代の服装の多様な役割について説明することができる。
評価方法	定期試験（ 90 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 10 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（思考力 ） □（ ）
テキスト	使用しない。
参考書	授業で随時紹介する。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。

授　業　名	**服装社会学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）授業の概要。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）
第2回	近代社会と服装	（内　　容）近代化の過程について理解する。 （必要な準備）近代社会について調べる。（30分）
第3回	資料にみる近代庶民の生活と服装	（内　　容）近代化と庶民の装いについて理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第4回	近代社会と服装－近代化と庶民の服装の変化	（内　　容）庶民の装いの変化について理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第5回	近代社会と服装－上層階級の服装の変化	（内　　容）近代化と洋服の導入の過程を知る。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第6回	資料にみる上層階級の服装	（内　　容）近代化と洋服の意味づけについて理解する。（30分） （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第7回	近代社会と服装－近代化と洋服	（内　　容）洋服の定着について知る。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第8回	近代社会と服装－和服の意味づけ	（内　　容）近代の和服観について理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第9回	近代社会と服装－洋服・和服とジェンダー	（内　　容）近代の服装とジェンダーについて理解する。 （必要な準備）ジェンダーについて調べる。（30分）
第10回	近代社会と服装－近代的和服の形成	（内　　容）和服のデザインと百貨店の役割について理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第11回	ヨーロッパの服装	（内　　容）19世紀の西洋の服装を知る。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）
第12回	コルセットからの解放とデザイナーの活躍	（内　　容）20世紀の女性の生活と服装について理解する。 （必要な準備）デザイナーについて調べる。（30分）
第13回	服装と階層・ジェンダー	（内　　容）女性の生活と服装について理解する。 （必要な準備）配布資料を読んでおく。（30分）
第14回	現代の服装	（内　　容）現代ファッションについて理解する。 （必要な準備）現代ファッションの流れについて調べる。（30分）
第15回	総括	（内　　容）現代の服装と社会の関係を理解する。 （必要な準備）授業を振り返り考えたことをまとめておく。（30分）

授業名	**食文化**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Food Culture	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	人は何のために食べるのか。単に生命を長らえるためだけではなく、ともに食べることで幸せを感じたり、美味しいものを食べることで悲しみを癒されたりする。食文化とは食べ物と人との関わりにおいて構築されるものであろう。過去、変貌しながら伝承されてきた食文化について、世界的な視点から、また日本の状況について、伝承されてきたさまざまな食材や料理、調理道具、行事食などの観点から学んでいく。
学習成果到達目標	1）世界的な視野から日本の食文化を捉えることを修得する。 2）日本の食の特徴、食材、料理、行事食、人生儀礼の食などについて理解を深める。 3）郷土食と今日の食に対する課題について理解を深める。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	食文化入門　岡田哲　東京堂出版
参考書	食文化論　吉川誠次　建帛社、 日本食文化史　樋口清之　柴田書店、 食文化と日本人生活文化研究所　啓文社
留意事項	授業で配布するプリント資料について調べておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。

授　業　名	**食文化**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	世界の農耕文化の発生と伝播	（内　　容）主作物（稲、小麦、芋、トウモロコシ、その他）と伝播ルート、世界の食文化マップ （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	世界の主食類型	（内　　容）主作物（稲、小麦、芋、トウモロコシ、その他）の食べ方と地域性 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第3回	日本の稲作の歴史と米、魚、大豆の文化	（内　　容）米（飯と餅）と魚、大豆の文化について、日本型食生活への発展 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第4回	ハレとケの食事	（内　　容）共食、年中行事、通過儀礼食について （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第5回	日本のお正月文化	（内　　容）全国の雑煮の特色、おせち料理の文化的背景 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第6回	郷土料理と地産地消、京の食文化	（内　　容）地元の食についての理解を深める、京の魚、野菜の文化 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第7回	各国料理の歴史と特徴①	（内　　容）中国料理、西洋料理などの歴史と発展 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第8回	各国料理の歴史と特徴②	（内　　容）各国料理の様式と献立、調理器具 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第9回	民族による食べ方の違い（異文化の食べ物）	（内　　容）食具と食器、宗教による食物の禁忌 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第10回	自分の出身地の郷土食について発表（前半）	（内　　容）自分の故郷の郷土料理について調べ、発表する （必要な準備）発表準備（2時間）
第11回	自分の出身地の郷土食について発表（後半）	（内　　容）自分の故郷の郷土料理について調べ、発表する （必要な準備）発表準備（2時間）
第12回	日本料理の発展①	（内　　容）日本料理の歴史、様式と献立、調理器具 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第13回	日本料理の発展②	（内　　容）精進料理、茶道と茶懐石、会席料理、和食とは （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第14回	嗜好飲料とお菓子の発展	（内　　容）お酒、お茶、和菓子と洋菓子 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）
第15回	世界の発酵食品と日本の発酵食品 授業の総括	（内　　容）発酵食品と健康、保存の知恵、京の漬物 （必要な準備）テキスト、配布資料について調べておく（30分）

授業名	**服装文化**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Clothing Culture	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	「洋服」以外の衣服、民族服について、どのようにして形成されたのかについて理解する。興味をもったアジアやヨーロッパの民族服について調べ、発表する。さらに、日本の和服に関するテーマを設定して調べ、発表する。これらのことを通し、服装に関する理解を深める。				
学習成果到達目標	1）民族服について説明できる。 2）日本の服飾文化について説明することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（思考力　）　□（　）			
テキスト	指定しない				
参考書	授業で随時紹介する。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。				

授　業　名	**服装文化**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）科目ガイダンス （必要な準備）シラバスを読み、民族服について考える。（30分）
第2回	民族服とは	（内　　容）民族服について理解する。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第3回	近代化と民族服形成	（内　　容）民族服の形成について理解する。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第4回	民族服について調べる①国の歴史と服装	（内　　容）民族の歴史と着用状況について調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第5回	民族服について調べる②衣服の形	（内　　容）民族服の男女それぞれの衣服の形と特徴を調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第6回	民族服について調べる③染織技法と文様	（内　　容）民族服の染織技法と文様について調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第7回	世界の民族服について発表する	（内　　容）民族服について発表する。 （必要な準備）発表に必要な資料を作成する。（30分）
第8回	世界の民族服と洋服	（内　　容）民族服と洋服の関係について理解する。 （必要な準備）発表内容について振り返りを行う。（30分）
第9回	和服の概要	（内　　容）和服について知る。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第10回	和服について調べる①歴史	（内　　容）和服の歴史について調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第11回	和服について調べる②種類	（内　　容）和服の種類について調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第12回	和服について調べる③染織技法と文様	（内　　容）和服に用いられている染織技法とについて調べる。 （必要な準備）必要な資料を準備する。（30分）
第13回	和服について発表する	（内　　容）和服について調べたことを発表する。 （必要な準備）発表資料の作成。（30分）
第14回	現代の和服産業	（内　　容）現代の和服産業の状況について講義する。 （必要な準備）和服産業について調べてくる。（30分）
第15回	総括	（内　　容）全体のまとめ （必要な準備）これまでの振り返りを行う。（30分）

授業名	**児童文化論**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Cultural Studies of Children	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	1）近代以降、大人たちは子どもたちをいかに見、その文化を創り上げてきたのかを学ぶ。 2）遊びや玩具、児童文化財の検討を通して具体的に検証する。 3）子ども固有のものの見方、考え方、感じ方について理解できる。
学習成果到達目標	1）〈子ども〉の社会的歴史的変遷に対する理解できる。 2）〈子ども〉に対するおとなのまなざしの歴史的認識を習得する。 3）具体的な遊び、児童文化財および子どもの世界観の把握し、実際に自分の言葉で3分間のプレゼンテーションができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　■実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	使用しない。
参考書	使用しない。
留意事項	受講生の興味・関心に応じて、毎回のテーマは柔軟に対応することもある。
オフィスアワー	授業後に実施する。

授　業　名	**児童文化論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　授業の目的および詳細について	（内　　容）授業の目的や内容、取り組みについて理解する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）
第2回	〈子ども〉とは何か　1	（内　　容）〈子ども〉という存在について考える （必要な準備）〈子ども〉の定義について自分なりに考えておく。（30分）
第3回	〈子ども〉とは何か　2	（内　　容）「子どもの発見」についての考え方を理解する （必要な準備）子どもの頃の忘れられない思い出について書いてくる。（40分）
第4回	〈子ども〉とは何か　3	（内　　容）子どものものの見方、感じ方、考え方を学ぶ （必要な準備）子どもの頃どのようなことをして過ごしていたか、楽しかったこと、悲しかったことなど覚えていることを書いてくる。（40分）
第5回	〈子ども〉とは何か　4	（内　　容）子どもと大人の関係性ついて学ぶ （必要な準備）子どもと大人の関係について考える。幼少期の経験の中で印象に残った出来事を考えてくる。（40分）
第6回	〈子ども〉の遊びの種類について　1	（内　　容）遊びとは何かについて学習する。 （必要な準備）子どもの頃の楽しかった遊びについて書いてくると共に、その理由を考えてくる。（40分）
第7回	〈子ども〉の遊びの種類について　2	（内　　容）具体的な遊びの内容について知る （必要な準備）子どもの頃、ひとりで熱中した遊びの詳細について書いてくる。（40分）
第8回	〈子ども〉の遊びの種類について　3	（内　　容）具体的な遊びの内容について知る （必要な準備）子どもの頃、友達と夢中になった遊びについて書いてくる。（40分）
第9回	〈子ども〉の遊びの種類について　4	（内　　容）具体的な遊びの内容について知る （必要な準備）戸外の遊びについて調べておく。（40分）
第10回	〈子ども〉の遊びの種類について　5	（内　　容）具体的な遊びの内容について知る （必要な準備）興味のある遊びついて調べておく。（40分）
第11回	〈子ども〉の遊びの種類について　6	（内　　容）具体的な遊びの内容について知る （必要な準備）興味のある遊びついて調べておく。（40分）
第12回	〈子ども〉の遊び　まとめ	（内　　容）子どもの遊びについて考える。 （必要な準備）かつて行われていた遊びについてまとめておく。（60分）
第13回	玩具と子ども ―プレゼンテーション―	（内　　容）子ども向け玩具について考える。 （必要な準備）かつて自ら遊んだ玩具を思い出し、気に入っていた点をまとめておく。（40分）
第14回	現代の玩具 ―プレゼンテーション―	（内　　容）現代のさまざまな玩具を取り上げ、昔の玩具との違いについて考える。 （必要な準備）玩具とはなにか、自分なりに考えをまとめておく。（40分）
第15回	これまでの内容を振り返ることで気づいたこと、考えたことをまとめる。	（内　　容）授業のまとめをし、児童文化について今後の課題を考える。 （必要な準備）児童文化とは何か、考えをまとめておく。（50分）

授業名	**保育原理Ⅰu**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child Care Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**流石　智子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子どもの育ちを考えるとき、保育の問題は社会状況と深くかかわりながら行われてきた。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史にもふれ、保育の現状と課題についても考える。				
学習成果到達目標	1）現代家庭の保育事情を理解することができる。 2）保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3）保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　　）　□（　　）				
テキスト	天野珠路・北野幸子編著 『基本保育シリーズ　保育原理 第2版』中央法規　2017年				
参考書	随時指示する。				
留意事項	授業で課題を出し、レポート提出をする。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。ビデオを見ることもあり、レポート提出で考察を求めることもある。				
オフィスアワー	木曜日の12時10分～13時を基本とします。在室の時は可能です。（時間が取れない時は、あとで連絡をします。メールにより、予約も可能です。）研究室に掲示をするので、確認してください。				

授　業　名	**保育原理Ｉｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育の理念と概念	（内　　容）保育の理念、概念・子どもを育てること （必要な準備）テキストｐ2～12を読み、理解する。（30分）
第2回	保育の社会的役割	（内　　容）保育の社会的役割と責任 （必要な準備）テキストｐ14～24を読み、理解する。（30分） コラムからの学びを提出（12ページ）。以下のコラムの提出については、400字以上とする。提出は横書き、ワープロでの提出を基本とする。
第3回	保育の制度	（内　　容）保育の制度的位置づけ （必要な準備）テキストｐ26～36を読み、保育と制度を理解する。（30分） コラムからの学びを提出（24ページ）。
第4回	保育所保育指針について	（内　　容）保育所保育指針に基づく保育 （必要な準備）テキストｐ38～54を読み理解する。（30分） コラムからの学びの提出（36ページ）
第5回	３歳未満児の保育	（内　　容）３歳未満児の保育理解 （必要な準備）テキストｐ56～66を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（54ページ）
第6回	３歳以上児の保育	（内　　容）３歳以上児の保育理解 （必要な準備）テキスト68～78を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（66ページ）
第7回	子育て支援	（内　　容）子育て支援と家庭との連携 （必要な準備）テキストｐ80～90を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（78ページ）
第8回	保育の目標と方法	（内　　容）保育所保育指針にみる保育の目標と方法 （必要な準備）テキストｐ92～102を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（90ページ）
第9回	保育の計画・実践・評価	（内　　容）保育の計画の意義 （必要な準備）テキストｐ102～114を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（102ページ）
第10回	諸外国の保育・近代以前から	（内　　容）諸外国の保育の思想と歴史・ペスタロッチーなど （必要な準備）テキストｐ116～126を読み、理解する。（30分） コラムからの学びの提出（114ページ）
第11回	諸外国の保育・思想と歴史	（内　　容）諸外国の保育・イギリス・ドイツ・アメリカ （必要な準備）テキストｐ128～138を読み、理解する。（30分）
第12回	日本の保育の思想と歴史	（内　　容）保育制度の整備と思想 （必要な準備）テキストｐ140～149を読に、理解する。（30分）
第13回	日本の保育の思想と歴史・子どもの捉え方	（内　　容）日本の保育・子どもの主体性 （必要な準備）テキストｐ152～162を読み、理解する。（30分）
第14回	諸外国の保育の現状	（内　　容）諸外国の保育と現状そして課題 （必要な準備）テキストｐ164～174を読み、理解する。（30分）
第15回	日本の保育の現状・まとめ	（内　　容）日本の保育の現状そして課題 （必要な準備）テキストｐ176～185を読み、理解する。 テキストを参照して、この授業での学びについて、特に印象に残ったことをまとめる。（1時間）このまとめを提出。このまとめは、800字以上とし、ワープロでの提出を基本とする。

授業名	**児童福祉論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child Welfare	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山川　宏和**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	1．少子化・保育・虐待など児童問題について　2．現代の子どもの生活について3．諸外国の児童福祉について　4．児童福祉の法制度について				
学習成果到達目標	1）社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2）保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3）児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4）児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 65 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 35 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	新保幸男・小林理　編　「児童家庭福祉　第２版」［中央法規］				
参考書	随時指示する。				
留意事項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。積極的な発表も評価の対象となる。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授　業　名	**児童福祉論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	現代社会と子ども	（内　　容）人口減少社会 （必要な準備）テキスト１講を参照しておく
第2回	児童の権利保障	（内　　容）コルチャック、子どもの権利条約について （必要な準備）テキスト４講を参照しておく
第3回	児童福祉の歴史	（内　　容）日本・欧米の児童福祉史 （必要な準備）テキスト２講を参照しておく
第4回	児童福祉法について　児童相談所	（内　　容）児童福祉六法、行政機関について （必要な準備）テキスト５講を参照しておく
第5回	児童福祉法について　1997、2001年の改正	（内　　容）児童福祉法改正について （必要な準備）テキスト５講を参照しておく
第6回	児童福祉法について　2004～2008年の改正	（内　　容）児童福祉法と児童虐待防止法について （必要な準備）テキスト５講を参照しておく
第7回	児童福祉法について　2012～2017年の改正	（内　　容）近年の児童福祉法改正について （必要な準備）テキスト５講を参照しておく
第8回	児童虐待について　身体的虐待・ネグレクト	（内　　容）児童虐待の定義と対策 （必要な準備）テキスト10講を参照しておく
第9回	児童虐待について　心理的・性的虐待	（内　　容）児童虐待の定義と対策 （必要な準備）テキスト10講を参照しておく
第10回	児童福祉の専門職について	（内　　容）児童福祉に従事する専門職について （必要な準備）テキスト６講を参照しておく
第11回	保育支援と福祉について	（内　　容）日本と諸外国の保育政策・サービスについて （必要な準備）テキスト９・14講を参照しておく
第12回	母子保健について	（内　　容）妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について （必要な準備）テキスト８講を参照しておく
第13回	ひとり親家庭の福祉について	（内　　容）ひとり親家庭への福祉サービスについて （必要な準備）テキスト７講を参照しておく
第14回	障がい児の福祉について	（内　　容）障がい児の現状と福祉サービスについて （必要な準備）テキスト12講を参照しておく
第15回	児童の健全育成について	（内　　容）児童館・児童厚生員について （必要な準備）テキスト８・15講を参照しておく

授業名	**乳児保育ｕ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の保育の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、実際の保育所保育の見学を行う。さらに、乳児向けのおもちゃや絵本を実際にみて、乳児保育のイメージをしっかりつくり、乳児保育でたいせつにしたいことを伝える。				
学習成果到達目標	1）乳児保育の理念と保育所おける乳児保育の歩み、現状と課題について理解することができている。 2）0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解している。 3）絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになっている。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（教材の工夫力 ） □（ ）				
テキスト	①乳児保育研究会編　『改訂新版　資料でわかる乳児保育の保育新時代』（ひとなる書房） ②保育計画研究会編　『改訂版　実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方（ひとなる書房） ③西川由紀子　『子どもの思いにこころをよせて』（かもがわ出版）				
参考書					
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**乳児保育ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた	（内　　容）子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する。 （必要な準備）①第５章を読んでくる(30分)
第2回	乳児保育のあゆみ	（内　　容）乳児保育の歴史を解説する （必要な準備）①第７章を読んでくる(30分)
第3回	０歳児保育の生活とあそび	（内　　容）0歳児保育の生活とあそびについて解説する （必要な準備）①第１章２，第2章３、第３章の0歳児の部分、③の0歳児の部分を読んでくる(30分)
第4回	0歳児の保育の実際	（内　　容）０歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する （必要な準備）②の０歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく(30分)
第5回	１歳児保育の生活とあそび	（内　　容）１歳児保育の生活とあそびについて解説する （必要な準備）①第１章２，第2章３、第３章の１歳児の部分、③の１歳児の部分を読んでくる(30分)
第6回	1歳児の保育の実際	（内　　容）１歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する （必要な準備）②の１歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく(30分)
第7回	2歳児の生活とあそび	（内　　容）１歳児保育の生活とあそびについて解説する （必要な準備）①第１章２，第2章３、第３章の２歳児の部分、③の2歳児の部分を読んでくる(30分)
第8回	乳児保育の指導計画、記録と評価	（内　　容）乳児保育における指導計画、記録と評価について解説する （必要な準備）①第4章を読んでくる(30分)
第9回	乳児保育の展開	（内　　容）保育所見学に向けて、保育の留意点を解説した後、各自が見学に際しての目標を考える （必要な準備）自分なりに保育所見学のイメージをもてるよう準備をする(30分)
第10回	保育所保育の見学	（内　　容）保育所見学を実施する （必要な準備）保育所見学の目標をしっかり確認する(15分)
第11回	保育所見学から学んだこと　子どものようす・保育者連携	（内　　容）見学で学んで来て子どもの様子、保育者連携の様子を交流したのち見学から学んだきづきをまとめる （必要な準備）保育所見学で学んだことをレポートとしてまとめてくる(60分)
第12回	乳児にとっての絵本の役割	（内　　容）絵本の特性を解説した後、乳児にとっての絵本の楽しさを解説する （必要な準備）乳児向け絵本をみてくる(30分)
第13回	手遊び・ふれあいあそびの楽しさ	（内　　容）自分が練習してきた手遊び・ふれあいあそびを小グループで発表し子どもにとっての楽しさを実感する。 （必要な準備）発表する手遊び・ふれあいあそびを探し、発表の練習をする(60分)
第14回	赤ちゃん絵本の交流	（内　　容）選んできた絵本を小グループで読み、絵本を読む際の留意点を実践的に学ぶ。 （必要な準備）発表する絵本を選び、読む練習をしてくる(60分)
第15回	手作りおもちゃの交流	（内　　容）各自が作ってきた手作りおもちゃの解説を行い、さまざまな手作りおもちゃのよさを学ぶ。 （必要な準備）手作りおもちゃを作成してくる(180分)

授業名	**障害児保育ｕ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Childcare for Children with Disability	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	1）障害のある乳幼児の発達を保障する場として、保育所・幼稚園・認定こども園に求められる役割を学ぶ。 2）健常児との生活が単なる「場の共有」ではなく、どちらもが健やかに発達できる条件を考えることが出来る。 3）障害児の理念や歴史的変遷、支援の在り方についての理解を深める。 4）乳幼児としての発達を促す観点を習得し、特別なニーズを必要とする子どもの援助に活用出来る。				
学習成果到達目標	1）障害に関する基礎知識を習得する。 2）生活と集団を大切にする障害児保育を学ぶことで、実際の保育場面で理解する視点を説明できる。 3）障害児保育を通して、多様な人間発達の理解を深めることで、実際の支援方法・配慮事項について説明できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜プリントを配布する。				
留意事項	保育者として実際の現場で活用できるように、授業の復習をしっかりしておくこと。 授業内容の順番については、受講生の興味・関心に応じて柔軟に対応するので、変更することもある。				
オフィスアワー	授業後に実施する。				

授　業　名	**障害児保育ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	障害児理解と歴史的変遷	（内　　容）障害をどのように理解するか （必要な準備）障害について知りたい情報を考えておく（20分）
第2回	障害児保育の制度について	（内　　容）歴史的変遷や制度、発達保障など （必要な準備）前回の授業のポイントをまとめ、復習をしておく。(20分)
第3回	障害児保育の思想について	（内　　容）障害モデルの変遷、乳幼児健診の内容 （必要な準備）乳幼児検診の目的、時期、内容について調べておく。（50分）
第4回	障害の基礎知識と保育：発達について	（内　　容）子どもの発達の多様性を理解する （必要な準備）健常児と障害児について見極めるための視点を理解しておく。（20分）
第5回	障害の基礎知識と保育	（内　　容）知的障害・身体障害・精神障害の理解 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第6回	障害の基礎知識と保育：知的障害、 情緒障害	（内　　容）知的障害、情緒に課題のある子どもの特性 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第7回	障害の基礎知識と保育：発達障害(1)	（内　　容）発達障害①（自閉スペクトラム症） （必要な準備）発達障害者支援法について調べておく。（40分）
第8回	障害の基礎知識と保育：発達障害(2)	（内　　容）発達障害②（ADHD、LD） （必要な準備）前回のポイントをまとめておく。（40分）
第9回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト①	（内　　容）今までの授業の理解を確認する。 （必要な準備）発達障害について、今までの授業内容を復習しておく。（40分）
第10回	障害の基礎知識と保育：発達の理解 （脳・体・心）	（内　　容）発達課題、発達の理解（脳・体・心） （必要な準備）発達課題について調べておく。（40分）
第11回	障害に関する基礎知識と保育：視覚・聴覚	（内　　容）視覚障害・聴覚障害 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第12回	障害に関する基礎知識と保育：言語	（内　　容）言語障害 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第13回	障害に関する基礎知識と保育：運動障害	（内　　容）運動障害、重度重複障害児 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第14回	障害のある子どもの保育の現状と課題	（内　　容）保護者、きょうだいに対する援助 （必要な準備）前回の復習をしておく。（20分）
第15回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト②	（内　　容）今までの授業の理解を振り返り、基本的知識を確認する （必要な準備）今までの授業内容を復習しておく（60分）

授業名	**子育て支援論u**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child-care Support	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**流石　智子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策の検討が必要である。 現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。				
学習成果到達目標	1）家庭における様々な子育ての問題点を理解できるようになる。 2）家庭における子育て支援策を具体化することができる。 3）自分の子育て観の確認ができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	新保幸男・小林理編集『基本保育シリーズ　家庭支援論　第２版』中央法規　2017年				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	２回程度のレポート提出、ミニレポート（数回）を行う予定である。				
オフィスアワー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。（時間が取れない時は、調整して連絡します。）研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授　業　名	**子育て支援論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭の意義と機能	（内　　容）家族の定義の変化と家庭機能の変化 （必要な準備）テキスト2頁から12頁を読み、理解しておく。（30分）
第2回	家庭支援の必要性	（内　　容）家庭における生活課題を理解し、生活の主体である家庭について学ぶ。 （必要な準備）テキスト14頁から24頁までを読み、理解しておく。（30分）
第3回	保育士等が行う家庭支援の原理	（内　　容）保育所、幼稚園における家庭支援を理解する。 （必要な準備）テキスト26頁から36頁までを読み、理解しておく。（30分）
第4回	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化	（内　　容）家庭と子育て家庭の貧困について学ぶ。 （必要な準備）テキスト38頁から48頁までを読み、理解しておく。（30分）
第5回	地域社会の変容と家庭支援	（内　　容）地域社会の変容と家庭支援の必要性を学ぶ。 （必要な準備）テキスト50頁から61頁までを読み、理解しておく。（30分）
第6回	現代の家庭における人間関係	（内　　容）現代の家族、家庭の変容と家庭における人間関係について学ぶ。 （必要な準備）テキスト64頁から73頁までを読み、理解しておく。（30分）
第7回	男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス	（内　　容）男女共同参画社会について理解し、子どもの生活とワーク・ライフ・バランスについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト76頁から86頁までを読み、理解しておく。（30分）
第8回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	（内　　容）児童家庭福祉の施策体系と社会資源とその関係機関を理解する。 （必要な準備）テキスト88頁から98頁を読み、理解しておく。（30分）
第9回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	（内　　容）子ども・子育て関連３法の成立過程と新制度について学ぶ。 （必要な準備）テキスト100頁から110頁までを読み、理解しておく。（30分）
第10回	多様な子育て支援サービスの概要	（内　　容）子育て支援を必要とする家庭のための保育等のサービスを理解する。 （必要な準備）テキスト112頁から124頁までを読み、理解しておく。（30分）
第11回	保育所入所児童の家庭への支援	（内　　容）保育所の役割と入所している子どもの保護者への支援について学ぶ。 （必要な準備）テキスト126頁から138頁までを読み、理解しておく。（30分）
第12回	地域の子育て家庭への支援	（内　　容）地域の子育て家庭への支援とは何かについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト140頁から149頁までを読み、理解しておく。（30分）
第13回	要保護児童およびその家庭に対する支援	（内　　容）要保護児童とその家庭に対する支援のあり方について理解し、親子関係の再構築支援について学ぶ。 （必要な準備）テキスト152頁から162頁までを読み、理解しておく。（30分）
第14回	子育て支援における関係機関との連携	（内　　容）子育て支援における関係機関と連携する意味や方法、技術について学ぶ。 （必要な準備）テキスト164頁から173頁までを読み、理解しておく。（30分）
第15回	子育て支援サービスの課題	（内　　容）子育て支援の意味を理解し、この授業で学んだ子育て支援についてまとめる。 （必要な準備）テキスト176頁から185頁までを読み、理解しておく。 授業で印象に残った子育て支援について具体例をあげてまとめておく。（1時間）

授業名	**生徒指導論（中・高・栄）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Student Guidance	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**岡田　敏之**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに，実際に学校で生起している具体的な問題について考え，生徒指導の理論と方法を習得する。				
学習成果到達目標	1）生徒指導の全体像が理解できる。 2）それを具現するために教員として不可欠な内容・方法を認識できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　■実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	「生徒指導提要」（文部科学省）				
参考書					
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視する。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**生徒指導論（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　教育を取り巻く社会の状況	（内　　容）本講義の概要。 教育を取り巻く社会の状況を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の準備
第2回	生徒指導の基礎概念	（内　　容）生徒指導の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第3回	教育相談と生徒指導Ⅰ－教育相談の概要－	（内　　容）教育相談の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第4回	学級経営と生徒指導Ⅱ－教育相談の基本的な考え方－	（内　　容）教育相談の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第5回	学級経営と生徒指導	（内　　容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第6回	望ましい集団づくりⅠ－実習ＣＨＲ－	（内　　容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 （必要な準備）前講の復習
第7回	望ましい集団づくりⅡ－生徒会活動を考える－	（内　　容）生徒会活動の実践例について考察する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第8回	学校不適応と問題行動	（内　　容）生徒の問題行動について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第9回	子どもの規範意識を育てる－非行防止教室－	（内　　容）非行防止教室の実践を体験する。 （必要な準備）前講の復習
第10回	いじめ問題の理解と対応Ⅰ－いじめの原因－	（内　　容）いじめ問題について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習
第11回	いじめ問題の理解と対応Ⅱ－未然防止に向けて－	（内　　容）いじめ問題の対応について考える。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習
第12回	不登校の理解と対応	（内　　容）不登校の現状について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第13回	保護者対応	（内　　容）保護者との連携の在り方について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第14回	子どもの意欲を育てる－コーチングスキルより－	（内　　容）コーチングスキルの基本を身につける。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（内　　容）本講義のポイントを整理して理解する。 （必要な準備）前講の復習

授業名	**生徒指導論（小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Student Guidance	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**岡田　敏之**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに，実際に学校で生起している具体的な問題について考え，生徒指導の理論と方法を習得する。				
学習成果到達目標	1）生徒指導の全体像が理解できる。 2）それを具現するために教員として不可欠な内容・方法を認識できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 ■実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	「生徒指導提要」（文部科学省）				
参考書					
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視する。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**生徒指導論（小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　教育を取り巻く社会の状況	（内　　容）本講義の概要。 教育を取り巻く社会の状況を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の準備
第2回	生徒指導の基礎概念	（内　　容）生徒指導の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第3回	教育相談と生徒指導Ⅰ－教育相談の概要－	（内　　容）教育相談の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第4回	学級経営と生徒指導Ⅱ－教育相談の基本的な考え方－	（内　　容）教育相談の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第5回	学級経営と生徒指導	（内　　容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第6回	望ましい集団づくりⅠ－実習ＣＨＲ－	（内　　容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 （必要な準備）前講の復習
第7回	望ましい集団づくりⅡ－児童会活動を考える－	（内　　容）児童会活動の実践例について考察する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第8回	学校不適応と問題行動	（内　　容）児童の問題行動について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第9回	子どもの規範意識を育てる－非行防止教室－	（内　　容）非行防止教室の実践を体験する。 （必要な準備）前講の復習
第10回	いじめ問題の理解と対応Ⅰ－いじめの原因－	（内　　容）いじめ問題について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習。
第11回	いじめ問題の理解と対応Ⅱ－未然防止に向けて－	（内　　容）いじめ問題の対応について考える。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習
第12回	不登校の理解と対応	（内　　容）不登校の現状について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第13回	保護者対応	（内　　容）保護者との連携の在り方について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第14回	子どもの意欲を育てる－コーチングスキルより－	（内　　容）コーチングスキルの基本を身につける。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（内　　容）本講義のポイントを整理して理解する。 （必要な準備）前講の復習

授業名	**教育相談（中・高）**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	School Counseling	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**吉田　博子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」とアルフレッド・アドラーが述べているように、対人関係の悩みを抱えている人はきわめて多い。相談・援助・カウンセリングの必要性も増している。教育者・保育者はもちろん、親として、家族として、指導者として、友人・仲間として、同僚として、相談・援助・カウンセリングに関わる考え方を理解し、基礎的基本的なスキルを身に付けることができれば、問題や悩みをこじらせることなく、軽減させたり解決することが可能になるであろう。 この授業では、教育相談やカウンセリングの理論・歴史・問題領域について学ぶとともに、予防的開発的技法のSGE（構成的グループエンカンター）やSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）等を体験を通して学ぶ。さらに、相談・カウンセリングの専門家ではなくとも、誰もが身につけておきたい相談・カウンセリングの考え方を理解し、基礎的基本的スキルを身につけて、日常生活で役立てられるようになること、コミュニケーション力やピアヘルピング力を高めるられるようになることをめざす。
学習成果到達目標	1)教育相談・カウンセリングにかかわる理論・人間観を理解する。 2)教育相談・カウンセリングの基本技法を身につけて教育・保育に役立てる。 3)教育相談・カウンセリングの考え方や基本技法をピアヘルピング・日常生活に役立てることができる。 4)「一人ひとりの心を育てる（個別対応）」「集団を育てる（集団対応）」ができるようになる。
評価方法	定期試験（60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（　　） □（　　）
テキスト	『ピアヘルパーハンドブック』日本教育カウンセラー協会編(図書文化社)
参考書	『ピアヘルパーワークブック』日本教育カウンセラー協会編(図書文化社) 『カウンセリングの理論』『カウンセリングの技法』國分康孝(誠信書房)
留意事項	事前学習・事後学習を行い日常生活に役立てる
オフィスアワー	担当授業後に実施する。

授　業　名	**教育相談（中・高）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）シラバスを確認しておくこと（10分）
第2回	教育相談・カウンセリングとは	（内　　容）教育相談・カウンセリングについて （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第3回	教育相談・カウンセリング・ピアヘルピング：概論	（内　　容）教育相談・カウンセリング・ピアヘルピングの定義・歴史・必要性について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第4回	教育相談・カウンセリング・ピアヘルピング：動向	（内　　容）教育相談・カウンセリング・ピアヘルピングの種類・関係領域・最近の動向について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第5回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：自己理論	（内　　容）自己理論・パーソンセンタードアプローチについて （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第6回	教育相談・カウンセリングのスキル：リレーション・受容	（内　　容）リレーション・受容について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第7回	教育相談・カウンセリングのスキル：繰り返し・質問	（内　　容）繰り返し・質問について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第8回	教育相談・カウンセリングのスキル：支持・明確化	（内　　容）支持・明確化について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第9回	教育相談・カウンセリングのスキル：基本技法の総合	（内　　容）基本技法の総合・ロールプレイ （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第10回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：精神分析理論	（内　　容）精神分析理論とその系譜について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第11回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：行動理論	（内　　容）行動理論・行動療法について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第12回	教育相談・カウンセリングの理論：アドラー心理学	（内　　容）アドラー心理学について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第13回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：論理療法	（内　　容）論理療法について （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第14回	教育相談・カウンセリングの理論と人間観：いろいろな理論	（内　　容）いろいろな理論・構成的グループエンカウンターほか （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)
第15回	授業のまとめ	（内　　容）事例研究、授業のまとめ （必要な準備）前回のまとめをしておく(30分)

授業名	**教育相談（幼・小）**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	School Counseling	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　裕子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	1、教育現場における教育相談の意義と理論を理解する。 2、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識も含む）を理解し、児童・生徒の問題解決に取り組む。 3、教育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取組みや専門機関との連携について理解を深める。 4、教育現場で応用できる心理学の知識や概念、方法を理解している。
学習成果到達目標	1、学校教育における教育相談の意義や役割について理解できる。 2、子どもの成長を促すカウンセリングや保護者や教員コンサルテーションを実践できる力を養う 3、学校臨床のさまざまな問題について対応できる教員の専門性を高める。 4、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 5、いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
評価方法	定期試験（ 50 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	配付資料
参考書	春日井敏之・伊藤美奈子編「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房、 大石史博ほか編「発達臨床心理学ハンドブック」ナカニシヤ出版
留意事項	積極的な授業への参画を求める。講義を中心とするが、ロールプレイやグループワークも適宜取り入れるので積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設ける（曜日・時間を研究室に掲示）。できれば事前予約が望ましい。

授　業　名	**教育相談（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリングとその人間観、教育相談の意義と役割	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。教育相談・カウンセリングの歴史・定義・人間観、折衷主義・育てるカウンセリングについて理解する。 （必要な準備）ノート、ファイルを用意する。
第2回	教育相談の基本的知識、その現状と課題	（内　　容）学校における教育相談の意義や役割を学ぶ。現状における問題や課題について理解する。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第3回	カウンセリングの基礎知識（１）基本的な応答技法	（内　　容）カウンセリングマインド、基本的な応答技法、共感的理解、受容、支持的応答などについて学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第4回	カウンセリングの基礎知識（２）コミュニケーション力を高める	（内　　容）非言語的コミュニケーション、明確化・質問方法、介入し仕方について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第5回	教育相談と生徒指導、コンサルテーションの方法	（内　　容）教育相談と生徒指導の共通点と異なる方法を理解し、子どもへの効果的な支援について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第6回	保健室・養護教諭との連携	（内　　容）保健室の養護教諭との連携、校内ネットワークのあり方を学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第7回	教育相談の実際（１）子どもの成長を促す	（内　　容）子どもの問題行動について理解を深め、成長を促す取り組みについて考えを深める。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第8回	教育相談の実際（２）いじめ問題への対応	（内　　容）いじめの問題について多面的に理解し、解決への方策を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第9回	教育相談の実際（3）不登校への理解育	（内　　容）登校しぶりや不登校の問題について理解し、支援や指導について方策を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第10回	教育相談の実際（４）非行問題への理解	（内　　容）問題行動、非行の問題について多面的に理解し、解決への糸口を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第11回	教育相談の実際（5）精神保健の向上、子ども、教員、保護者も含めたメンタルヘルスについて学ぶ。	（内　　容）子ども、教員、保護者のメンタルヘルスが向上するようにストレスの問題やその解決への手立てについて理解を深める。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第12回	保護者対応への理解と支援	（内　　容）保護者自身の問題について理解し、支援や信頼関係の構築を深める （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第13回	専門機関との連携	（内　　容）医療機関、教育相談機関、児童相談所などの役割や意義、連携について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第14回	緊急支援における教育相談	（内　　容）事故や災害時における教育相談の役割を理解し適切な支援ができるようになる。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第15回	振り返りとまとめ	（内　　容）講義全体を通して振り返り、資料をまとめ学んだことを確認する。 （必要な準備）配付資料やノートを整理する。

授業名	**ボランティア論u**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Volunteer	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**名賀　亨**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	人間性豊かな福祉社会を創出するためには市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。そうした視点から注目されているボランティア・市民活動について、理論と実践事例などを交えながらその全体像を理解する。				
学習成果到達目標	1）ボランティア活動の根本にあるボランタリズムの原理を理解し説明できる。 2）ボランティア・市民活動の歴史的変遷を理解することができる。 3）ボランティア・市民活動の基本を理解することで、専門職と市民との協同のあり方、それに伴うボランティアコーディネートの必要性とその方法について具体的に理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	ボランティア論ー「広がり」から「深まり」へー　編著者：柴田謙治・原田正樹・名賀亨 出版社：株式会社みらい				
参考書	学生のためのボランティア論　岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子　編　大阪ボランティア協会出版部　発行				
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し必要に応じてプレゼンテーションできるようにする。				
オフィスアワー	水曜日　昼休み				

授　業　名	**ボランティア論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明 （必要な準備）シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。（30分）
第2回	ボランティア活動の基本　自発性・社会性	（内　　容）ボランティア活動の基本としてある、自発性、社会性、開拓性などの意義について学ぶ。 （必要な準備）さまざまな実践を事例としてボランティア活動の根本の意味を整理しておく。（30分）
第3回	ボランティア活動の基本　根本にある思想	（内　　容）ボランティア活動の原点にある「ボランタリズム」の精神について、その考え方や意味、社会との関係性について学ぶ。 （必要な準備）ボランティア活動の基本である自発性・主体性の意味を整理しておく。（30分）
第4回	ボランティア活動の基本　活動の歴史	（内　　容）ボランティア・市民活動の歴史的な移り変わりを、社会の変遷と対比しながら学ぶ。 （必要な準備）社会状況の変化とボランティア活動の変遷についてボランタリズムとの関係性から整理しておく。（30分）
第5回	ボランティア活動の変遷　活動支援の広がり　1	（内　　容）全国各地にある社会福祉協議会に設置されているボランティアセンターでのボランティア活動支援の始まりと事業の変遷について学ぶ。 （必要な準備）徳島県で始まった善意銀行について整理しておく。（30分）
第6回	ボランティア活動の変遷　活動支援の広がり　2	（内　　容）社会福祉協議会とは別に、全国各地にある民間のボランティア活動支援センターの変遷について学ぶ。 （必要な準備）大阪ボランティア協会など、社会福祉協議会とは違う位置からのボランティア活動支援について整理しておく。（30分）
第7回	ボランティア活動の変遷　ボランティア元年といわれた1995年以降	（内　　容）ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災でのボランティア活動が、NPO法の成立につながるなど一つの大きな転換期になったことについて、その具体的な内容と意味について学ぶ。 （必要な準備）阪神淡路大震災時にボランティアがどのような活動を実践したのか整理しておく。（30分）
第8回	災害とボランティア活動　災害ボランティア支援	（内　　容）災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの役割と意義について学ぶ （必要な準備）阪神淡路大震災・東日本大震災など大災害時にボランティア活動支援がどのように行われたのか整理しておく。（30分）
第9回	ボランティア学習の理解　ワークキャンプ運動	（内　　容）国内外で様々な形で実践されているワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性と可能性について学ぶ。 （必要な準備）ワークキャンプの意味について整理しておく。（30分）
第10回	ボランティア学習の理解　活動と学び	（内　　容）ボランティア活動に内在する学びに関して、ボランティア学習という観点からその意味について学ぶ。 （必要な準備）ボランティア学習の概念を整理しておく。（30分）
第11回	ボランティア学習の理解　学びの実践事例	（内　　容）ボランティア活動に内在する学びに関して、DVDなどの教材視聴を通して理解し、それぞれの可能性や学習効果について学ぶ。 （必要な準備）ボランティア活動を通した学びについて、実践事例からその実践学習の現状を整理しておく。（30分）
第12回	ボランティアコーディネート　つなぐ仕組み	（内　　容）ボランティア活動実践に不可欠なボランティアコーディネートの意味やその方法などの基本を学ぶ。 （必要な準備）ボランティアコーディネート意味を整理しておく。（30分）
第13回	ボランティアコーディネート　役割とその内容	（内　　容）ボランティアコーディネートを実践するボランティアコーディネーターの役割や活動の特徴について学ぶ。 （必要な準備）ボランティアコーディネートの専門性について整理しておく。（30分）
第14回	ボランティアの可能性と展望　福祉の原点	（内　　容）ボランティア・市民活動さらにNPOなどの今後の社会的な可能性について学ぶ。 （必要な準備）これまでの授業内容を振り返り、これからのボランティア活動の在り方について整理しておく。（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）全体の総括をしながら、今後のボランティア・市民活動の在り方を考えていく。 （必要な準備）授業全体を踏まえて今後の展望について整理利しておく。（30分）

授業名	**地域福祉論Ⅰ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Community Welfare Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	私たちのくらしは、地域福祉の存在で成り立っている。地域ごとでくらしの問題、生活問題は異なる。高齢者の多い地域、子どもの多い地域、低所得者の多い地域などでくらしの課題は違ってくる。生活問題の地域性に注目して、誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて地域福祉の果たすべき役割と課題を考えていきたい。特に地域住民の課題と専門機関である社会福祉協議会及び行政の課題、両方に視点を当てて考えていきたい。
学習成果到達目標	1）地域福祉とは何かを理解できるようになる。 2）地域福祉は生活問題の地域性を対象にした総合的体系的な社会制度であることを理解できるようになる。 3）社会保障の一環であること、まちづくりの一環であることの認識ができるようになる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（論理的な展開力　）　□（　）
テキスト	適宜、プリントなどを配布する。
参考書	授業時に紹介する。
留意事項	地域における地域福祉活動の実際に触れる努力をして欲しい。
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室しているときは対応します、どうしてもというときは、事前にEメールをしてください。

授　業　名	**地域福祉論Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	私たちのくらしと地域福祉	（内　　容）私たちのくらしと地域福祉について解説する。 （必要な準備）シラバスを確認し、地域福祉のイメージづくりをする（30分）
第2回	地域福祉の対象	（内　　容）地域福祉の対象について、各地の状況を踏まえ紹介する。 （必要な準備）自分の地域に目を向け特性を理解してみる（30分）
第3回	社会保障の一環としての地域福祉	（内　　容）社会保障と地域福祉の関係性について解説する。 （必要な準備）くらしを支える制度を調べ考察する（30分）
第4回	まちづくりの一環としての地域福祉	（内　　容）まちづくりと地域福祉の関係性について解説する。 （必要な準備）自分のまちの課題は何かについて調べる（30分）
第5回	地域福祉活動の実際－鹿児島の事例－	（内　　容）鹿児島の地域活動を紹介する。 （必要な準備）自分のまちの地域福祉活動を調べる（30分）
第6回	地域福祉活動の実際－豊中市の事例－	（内　　容）豊中市の地域福祉活動を紹介する （必要な準備）自分のまちの地域福祉活動にふれる（30分）
第7回	地域福祉活動の実際－滋賀県日野町の事例－	（内　　容）滋賀県日野町の地域福祉活動を紹介する。 （必要な準備）自分のまちの地域福祉活動について住民の声を聞く(30分)
第8回	地域福祉の実際－京都市の事例－	（内　　容）京都市の地域福祉活動を紹介する （必要な準備）自分のまちの地域福祉活動の課題を考える（30分）
第9回	地域福祉活動の実際－私の実践事例－	（内　　容）私が実践している地域福祉活動を紹介する。 （必要な準備）自分が実践できそうな地域福祉活動を考える（30分）
第10回	地域福祉と社会福祉協議会	（内　　容）社会福祉協議会の役割と現状について紹介する。 （必要な準備）社会福祉協議会について調べ、役割を考える（30分）
第11回	地域福祉と地区社協	（内　　容）地区社協の役割と現状を解説する。 （必要な準備）地区社協の存在を調べる（30分）
第12回	地域福祉と民生・児童委員	（内　　容）民生・児童委員が果たしている役割と現状について解説する。 （必要な準備）民生・児童委員の存在を調べる（30分）
第13回	地域福祉活動の事業と運動	（内　　容）地域福祉活動がめざすべき目的について考察する。 （必要な準備）よりよい地域づくりには何が必要か考える（30分）
第14回	地域福祉活動と地域福祉	（内　　容）地域福祉活動と地域福祉の関係を考察する。 （必要な準備）地域福祉とは何かについて調べ考える（30分）
第15回	住民自治と地域福祉	（内　　容）住民自治と地域福祉の関係性を考察する。 （必要な準備）住民自治について調べ考える（30分）

授業名	**高齢者福祉論Ⅰ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Elderly People Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	高齢者を支援する専門職として、高齢期の身体的・心理的・社会的特性を学び、生活実態と取り巻く諸問題、これからの高齢社会を生き抜く高齢者のありかたについて考えることを目的とします。そのために、我が国における高齢者福祉制度展過程や法律や制度を整理します。				
学習成果到達目標	1）高齢者の特性を多角的に捉え、説明できる 2）高齢者を取り巻く社会的問題や高齢者保健福祉に関わる法制度の概要を説明できる 3）これからの高齢者福祉の在り方について考えることができる				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的思考力 ） □（ ）				
テキスト	適宜、プリントを配布する				
参考書	随時指示する				
留意事項	シラバスをみて、学ぶ内容を確認し予習しておくこと。				
オフィスアワー	第1回目の授業で紹介する				

授　業　名	**高齢者福祉論Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）講義のねらいと計画 （必要な準備）シラバスを読んでおく
第2回	高齢者の特性 身体的特性　感覚器、呼吸器等	（内　　容）高齢者によくみられる身体的特性を理解する （必要な準備）高齢者がなりやすい感覚器、呼吸器の疾病についてプリント作成
第3回	高齢者の特性 身体的特性　消化器、循環器等	（内　　容）高齢者によくみられる身体的特性を理解する （必要な準備）高齢者がなりやすい消化器、循環器の疾病についてプリント作成
第4回	高齢者の特性 精神的特性　知能、意欲	（内　　容）高齢者によく見られる精神的特徴を理解する 知能の老化や意欲の減退について学ぶ （必要な準備）高齢者の知能や意欲低下についてプリント作成
第5回	高齢者の特性 精神的特性　脳の機能と委縮	（内　　容）高齢者によく見られる精神的特徴を理解する 脳の委縮からくる病気について学ぶ （必要な準備）脳の委縮からくる病気についてプリント作成
第6回	高齢者の特性 精神的特性　認知症	（内　　容）認知症の人の心理について学ぶ （必要な準備）配布資料を読んでおく
第7回	高齢者の特性 老年期の心の病気	（内　　容）老年期の心の病気であるうつ病やせん妄について学ぶ （必要な準備）高齢期に発病しやすいせん妄についてプリント作成
第8回	高齢者の総合的理解	（内　　容）高齢者のライフサイクルを知るとともに、世代背景を理解する （必要な準備）高齢者に世代背景とともにその人の生き方についてインタビューし、発表できるようにしておく
第9回	少子高齢社会と社会的問題	（内　　容）少子高齢化の要因の理解と家族の状況変化について理解する （必要な準備）新聞等から少子高齢社会についての記事を抜出し持参する
第10回	高齢者を取り巻く諸問題	（内　　容）高齢者の健康・介護問題について考える （必要な準備）新聞・メディアから高齢者の健康や介護問題をひとつ抽出しまとめてくる
第11回	高齢者保健福祉の発展１ 老人福祉法の制定	（内　　容）老人福祉法制定までの高齢者保健福祉の発展 （必要な準備）老人福祉法から介護保険法までの歴史をプリント作成
第12回	高齢者保健福祉の発展２ 介護保険法の制定	（内　　容）老人福祉法制定後の高齢者保健福祉の発展 （必要な準備）社会福祉基礎構造改革についてプリント作成
第13回	高齢者支援の関係法規１	（内　　容）バリアフリー新法 （必要な準備）バリアフリー新法についてプリント作成
第14回	高齢者支援の関係法規２	（内　　容）高齢者虐待防止法 （必要な準備）高齢者虐待防止法についてプリント作成
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの学習内容の復習 （必要な準備）高齢者をとりまく諸問題についてまとめておく

授業名	**障害者福祉論**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Persons with Disability	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	障害者福祉とは、障害によって生じた生活課題を抱えながら自分の人生を生きている当事者を側面から支えていくことである。また「障害」と一口に言っても、実に多種多様のニーズが考えられる。この講義では、障害者福祉を「生活」の視点から捉えることを通して、障害をもつ人達が生活していく上で必要な援助について考えていく。				
学習成果到達目標	1）障害者福祉の歴史的展開について、社会の動向と関連づけて理解している。 2）ノーマライゼーションや自立支援、ＩＣＦといった障害者福祉の基本理念を理解している。 3）障害をもつ人を援助する制度、施策、専門職その他を体系的に理解している。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	新・社会福祉士養成講座「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第５版、中央法規				
参考書	必要に応じて紹介する。				
留意事項					
オフィスアワー	1回目の授業で広報する				

授　業　名	**障害者福祉論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	障害者福祉とは何か？（導入）	（内　　容）隣接領域と比較しながら独自性を解説する。 （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念①ノーマライゼーションと自立支援	（内　　容）障害者福祉の基本理念について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第3回	障害者福祉の基本理念②リハビリテーション	（内　　容）障害、障害者の歴史的変遷とリハビリテーションの考え方について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第4回	障害者福祉の基本理念③ＩＣＦ	（内　　容）ＩＣＩＤHからＩＣＦへの変遷とＩＣＦの考え方について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第5回	身体障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内　　容）身体障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第6回	知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内　　容）知的障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第7回	精神障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内　　容）精神障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第8回	制度とサービスの変遷	（内　　容）歴史的経過を追い、障害者福祉の動向を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第9回	障害者総合支援法の内容①法成立までの経過と経緯	（内　　容）障がい者総合支援法の離間・考え方を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第10回	障害者総合支援法の内容②支給決定のプロセスほか	（内　　容）申請から支給決定までの流れを学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第11回	害者総合支援法の内容③自立支援給付の構成	（内　　容）事業、サービス内容について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第12回	専門職の役割と実際	（内　　容）障がい者にかかわる専門職の価値・倫理について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第13回	障害者福祉の実際①多職種の専門性	（内　　容）障がい者総合支援法に基づく主な専門職について学ぶ （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第14回	障害者福祉の実際②多職種連携	（内　　容）多職種連携とネットワーキングについて学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。
第15回	障害者福祉の展望	（内　　容）講義内容を総括し、今後の在り方について考える。 （必要な準備）これまでの内容を確認しておく。

授業名	**介護概論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Nursing Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	介護と聞くと、できないことに対して代わって行うことであると思われがちですが、対象である「その人」を深く理解することで、「できない」のではなく、この方法をとれば「自分でできる」に変わります。その方法を助言することが介護です。そのためには「勘やコツ、経験」ではなく、根拠に基づいた科学的思考を用いることが必要です。対象者の環境やその人の価値観等を理解し、助言できるために必要な生活支援技術の基礎理論を習得します。
学習成果到達目標	1）介護を取り巻く社会情勢について説明できる。 2）介護の範囲とそれに関わる他職種の役割を説明できる。 3）　介護の思考過程を用いて利用者を理解することができる。 4）生活を支援する具体的方法の根拠について説明できる。
評価方法	定期試験（ 50 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	毎授業プリントを配布しながら進めます。
参考書	適宜紹介
留意事項	講義を中心に授業を行いますが、学生自身が調べ発表する機会も多くとっています。主体的且つ積極的な授業参加を期待します。
オフィスアワー	1回目の授業で紹介します

授　業　名	**介護概論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	人を理解するということと自己覚知	（内　　容）自分自身を理解する 人に与える印象と観察方法について学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでおく
第2回	社会福祉士と介護福祉士の役割	（内　　容）専門職の役割の違いを理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第3回	介護の概念と範囲	（内　　容）介護の定義や法制度の位置づけを理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第4回	専門職の倫理	（内　　容）社会福祉士及び介護福祉士の倫理要領をよみときながら それぞれの専門性について学ぶ （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第5回	介護の理念	（内　　容）介護の専門性を支える理念と価値について学ぶ （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第6回	介護過程の概要	（内　　容）介護過程とケアプランとの関係 介護過程という思考過程の考え方について理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第7回	介護過程の展開方法	（内　　容）情報収集を行う意味と利用者理解について学ぶ （必要な準備）1回目授業の宿題を仕上げて提出できるようにしておく
第8回	介護過程の展開方法	（内　　容）ニーズの捉え方と優先順位 マズローの欲求段階について学ぶ （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第9回	介護各論１　体の使い方	（内　　容）ボディメカニクスを理解する （必要な準備）ボディメカニクスの原則を説明できるようにしておく
第10回	介護各論２　食べること	（内　　容）食支援においての必要な視点を理解する （必要な準備）行事食について調べておく
第11回	介護各論３　清潔にすること	（内　　容）入浴の意義や方法について理解する （必要な準備）入浴リスクについて考えて発表できるようにしておく
第12回	介護各論４　排泄すること	（内　　容）排せつ動作や失禁について理解する （必要な準備）排せつ障害について調べておく
第13回	介護を必要とする人　認知症の身体的理解	（内　　容）認知症の原因と中核症状を理解する （必要な準備）認知症の種類と原因について調べてくること
第14回	介護を必要とする人　認知症の心理的理解	（内　　容）認知症の周辺症状の理解をする （必要な準備）認知症高齢者に関する新聞記事を持参し、内容を要約できるようにしておく
第15回	介護を必要とする人　終末期ケア	（内　　容）終末期の定義と高齢者の身体変化を理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく

授業名	**保健医療サービス**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Health and Medical Teratment Services	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するために、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。我が国の医療現状を把握したうえで保健・医療分野の知識を習得し、そこで働く社会福祉士としての仕事を理解するための授業とする。				
学習成果到達目標	1）保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。 2）保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	新・社会福祉士養成講座１７ 保健医療サービス　中央法規出版				
参考書	適宜紹介する。				
留意事項	予習は必ず行い、積極的な学習態度で授業にのぞむこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**保健医療サービス**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）保健医療サービスとは何か概略を学ぶ。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。テキストを購入できた人はテキスト第1章第１節を読む。
第2回	医療保健サービスの歴史	（内　　容）戦後の保健医療サービスの歴史を知る。 （必要な準備）テキスト第１章第２節を読み、わからない語句等を調べておく。
第3回	医療に係わる法律	（内　　容）医療法について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第１章第３節、第２章第１節を読み、わからない語句等を調べておく。
第4回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 医療保険制度	（内　　容）医療保険制度について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第５章第１節を読み、わからない語句等を調べておく。
第5回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 診療報酬	（内　　容）診療報酬と公費負担医療について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第５章第１・３節を読み、わからない語句等を調べておく。
第6回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 介護保険制度	（内　　容）介護保険制度と介護報酬について学ぶ （必要な準備）テキスト第５章第２節を読み、わからない語句等を調べておく。
第7回	「医療保健に関わる施設とシステム」 医療法に規定された医療施設	（内　　容）医療法による医療施設の機能・類型を学ぶ。 （必要な準備）テキスト第２章第１節を読み、わからない語句等を調べておく。
第8回	「医療保健に関わる施設とシステム」 診療報酬上に規定された医療施設	（内　　容）保健医療政策・診療報酬における医療施設を学ぶ。 （必要な準備）テキスト第２章第２・３節を読み、わからない語句等を調べておく。
第9回	「医療保健に関わる施設とシステム」 介護保険法による施設	（内　　容）介護保険法による施設の機能・類型を学ぶ。 （必要な準備）テキスト第２章第４・５節を読み、わからない語句等を調べておく。
第10回	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	（内　　容）医療ソーシャルワーカーの定義や歴史を知る。 （必要な準備）テキスト第３章第１節を読み、わからない語句等を調べておく。
第11回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの業務内容と倫理	（内　　容）基本的な業務内容を学ぶ。 （必要な準備）テキスト第３章第２・３・４節を読み、わからない語句等を調べておく。
第12回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの事例	（内　　容）事例を通じて具体的な業務内容を学ぶ。 （必要な準備）配布された資料に目を通しておく
第13回	保健医療サービスにおける連携	（内　　容）領域の専門職とその連携方法について学ぶ （必要な準備）テキスト４章を読み、わからない語句等を調べておく。
第14回	保健医療の専門職との連携の実際	（内　　容）事例をもとに、チームケアの実際を学ぶ （必要な準備）テキスト第６章を読み、領域の専門職の役割について説明できるようにしておく。
第15回	まとめと今後の課題	（内　　容）保健医療の課題について考察する。 （必要な準備）今までの資料、まとめノートに必要な内容を書き込み作成してくる。

授業名	**社会福祉サービス運営**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Administration of Social Welfare Service	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山西　辰雄**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	高齢者・障害者等の施設（居宅を含む）において利用者支援のみならず職員処遇の確保と施設経営の安定という課題が浮上しているが、このような動向を踏まえて社会福祉サービスの組織と経営のあり方を理解することを目的とする。講義形式の授業によって、措置制度や契約制度の内容を理解し、今日の施設経営に係る資金管理について知り、社会福祉サービスに従事する組織の運営について理解していく。社会福祉法人の理解、施設の設立、人事管理、リスクマネジメント等についても今日的なあり方を検討していきたい。
学習成果到達目標	1）社会福祉の組織と経営のあり方への疑問や意見を表明することができる。 2）福祉サービスを提供する事業所の「質」の確保の必要性やその方法について見解をもつことができる。 3）社会福祉の組織においてリーダーシップを発揮する必要性や方法について考えることができる。
評価方法	定期試験（ 80 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	使用しない
参考書	
留意事項	社会福祉士国家試験のレベルにおいて学習する必要があるが、上記について基礎的な理解を養うことを優先する。自分の目指すところに添って、努力し学修してほしい。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**社会福祉サービス運営**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス　社会福祉の「経営」への理解が必要な理由と背景	（内　　容）本講義の特徴を理解し、学習計画を立てる （必要な準備）
第2回	福祉経営の基本指針	（内　　容）事業所経営の手順について理解する （必要な準備）想像力
第3回	福祉サービスの提供に関する基礎知識　法制度	（内　　容）社会福祉法が規定する内容を理解する （必要な準備）法令への親近感
第4回	同　上 提供組織	（内　　容）法人格をもつ手続や法人間の相違を理解する （必要な準備）社会における多様な組織への親近感
第5回	福祉経営の基礎理論　組織	（内　　容）経営組織の力動性を理解する （必要な準備）想像力
第6回	同　上　意思決定	（内　　容）組織の意思決定の手法、手続過程を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第7回	同　上　リーダーシップ	（内　　容）組織の多層性と連携手法を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第8回	同　上　経営戦略	（内　　容）組織の目標や内外の状況把握と分析を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第9回	同　上　サービス・マネージメント	（内　　容）関連し影響する人・組織・機関を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第10回	サービス提供組織のマネジメント　社会福祉法人	（内　　容）社会福祉法人の特色や独自性を理解する （必要な準備）法令への親近感
第11回	同　上　ＮＰＯ法人	（内　　容）ＮＰＯ法人の特色や独自性を理解する （必要な準備）法令への親近感
第12回	同　上　株式会社等	（内　　容）株式会社等の特色や独自性を理解する （必要な準備）法令への親近感
第13回	福祉サービスの管理　苦情解決とサービス評価	（内　　容）苦情解決とサービス評価を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第14回	同　上　人材確保と職員の管理	（内　　容）人材確保と職員の業務管理を理解する （必要な準備）手順を踏むことへの親近感
第15回	まとめ　事業所における社会福祉専門職の役割	（内　　容）社会福祉専門職の位置づけと役割を考究する （必要な準備）想像力

授業名	**消費科学**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Consumption Science	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**井上　博子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	消費者市民とは、くらしの法律・経済の基礎知識、IT被害、若者をとりまくワークルール、地球環境問題など、最新の消費者問題について解説する。現実に直面するさまざまな社会問題に目を向け、法ルールの基本原理や現代経済社会の仕組みを理解し、批判的思考を働かせながら、「消費者市民」としての社会人基礎力を養う。				
学習成果到達目標	1）消費者問題の現状について、知識を身につけるだけでなく、提言やプレゼンテーションができるようになる。 2）「消費者市民」のセンス（自立性・公共性・批判的思考）を理解し、積極的に社会参画できる。 3）倫理、社会、経済、環境面を考慮した消費行動ができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：■筆記試験 ■レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	国民センター編・発行『くらしの豆知識』				
参考書	『ハンドブック消費者』消費者庁、 『18歳から考える消費者と法』法律文化社 『大学生が知っておきたい生活のなかの法律』慶應義塾大学出版会				
留意事項	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心を持つこと。予習、復習をしっかりしておくこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**消費科学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	現代社会と消費者問題（ガイダンス）	（内　　容）授業の到達目標、具体的な進め方、受講に関する諸注意 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと
第2回	「消費者市民」と消費者教育（消費者基本法と消費者庁）	（内　　容）消費者の権利と責任、消費者行政について （必要な準備）配布資料を事前学習
第3回	契約の基礎知識（消費者契約法、クーリング・オフ制度）	（内　　容）契約とは、契約をやめるには、クーリング・オフの手続き方法 （必要な準備）配布資料を事前学習
第4回	若者の消費者トラブルと消費者行政	（内　　容）消費者庁や消費生活センターによせられる若者の相談事例について （必要な準備）配布資料を事前学習
第5回	IT社会と契約トラブル（消費者関連法規）	（内　　容）消費者契約法や民法など契約に関する法ルールについて （必要な準備）発表の準備や論点を整理しておくこと。
第6回	情報をクリティカルに読み解く	（内　　容）誇大広告と景品表示法について （必要な準備）テキストをよく読み、配布資料を事前学習
第7回	金融のしくみと機能	（内　　容）銀行、クレジットカード、電子マネーについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第8回	自立のための生活経済	（内　　容）クレジットのルールと利用のポイント、金利や利息、リボルビング払いの計算について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第9回	雇用と労働問題	（内　　容）雇用契約、若者の雇用環境、ブラックバイトについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第10回	くらしの事故注意報	（内　　容）子どもの事故、リコール制度について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第11回	地球環境の現状と廃棄物問題	（内　　容）環境に関する国際会議、食料消費と環境問題、エコラベルについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第12回	大気汚染と公害	（内　　容）公害の歴史、水俣病、越境汚染について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第13回	エネルギー問題と原発	（内　　容）原発のしくみ、再生可能エネルギー問題について （必要な準備）これまでの復習、配布資料の事前学習
第14回	グローバル社会のフェアトレード事情	（内　　容）フェアトレード、絶滅危惧種（生物多様性）について （必要な準備）これまでの復習、配布資料の事前学習
第15回	CSRとエシカル消費	（内　　容）エシカル消費者とは、これまでのまとめ （必要な準備）これまでの授業内容を整理し、確認しておく

授業名	**自治体公務員論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Municipal Public Servant	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**鈴木　康久**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	主に公務員行政職を目指す学生を対象に、自治体が直面する行政課題をどのように解決していくかを、具体的な事例を挙げながら、課題解決のための最適な法的政策手法について考える。
学習成果到達目標	公務員の種類・仕事内容等地方公務員を目指すうえでの基礎的な知識を学ぶことができる。 行政が当面しているいくつかのテーマを担当する公務員が、どのような思いで業務に取り組んでいるかについての理解を深め、自己の見解を述べることができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	プリント等を配布する
参考書	外山公美編『行政学』弘文社　2016 風間規男編『行政学の基礎』一藝社　2007年
留意事項	本講義は集中講義として開講する。授業は、地方自治体でのヒアリングを中心に行う予定である。
オフィスアワー	授業の終了後に実施する

授　業　名	**自治体公務員論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）オリエンテーション（講義のねらい、概要、自己紹介、講義の進め方など） （必要な準備）新聞、雑誌等で、興味のある行政課題に関する記事（２例）を切り抜いておくこと。
第2回	日本の行政機関の機能	（内　　容）社会構造が複雑化する中で、行政機関が必要となった理由について述べる。 日本の行政機関である「国、都道府県、市町村」の役割について解説する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと
第3回	行政政策を推進する仕組み	（内　　容）行政機関が公共政策を進める「政策、施策、事業」の三段階や、法令・条例、計画策定等の基本的な事項について説明する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと
第4回	公務員の業務	（内　　容）公務員が行っている業務内容、スケジュール、規定等について説明する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと
第5回	行政機関へのヒアリング手法	（内　　容）質的調査であるヒアリング手法について説明と、実施時のマナー等の留意事項について指導する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと
第6回	地方行政機関へのヒアリングを行うための、事前ガイダンス	（内　　容）ヒアリングを行う事業について基本的事項について説明する。 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第7回	地方行政機関（京都市）へのヒアリング テーマ：市民との協働（予定）	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第8回	地方行政機関（京都市）へのヒアリング テーマ：伝統産業（予定）	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第9回	地方行政機関（京都市）へのヒアリング テーマ：観光（予定）	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第10回	地方行政機関（京都市）へのヒアリング結果についてまとめ	（内　　容）ヒアリングを行った結果についてワークショップ形式で整理する。 （必要な準備）ヒアリングを行った感想等についてまとめておくこと。
第11回	地方行政機関（京都府）へのヒアリングを行うための、事前ガイダンス	（内　　容）ヒアリングを行う事業について基本的事項について説明する。 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第12回	地方行政機関（京都府）へのヒアリング テーマ：子育て	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第13回	地方行政機関（京都府）へのヒアリング テーマ：学校教育	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第14回	地方行政機関（京都府）へのヒアリング テーマ：男女共同参画	（内　　容）地方行政機関の職員から、テーマに応じた事業の説明 （必要な準備）ヒアリングを行う事業について、質問事項を考えておくこと。
第15回	地方行政機関（京都府）へのヒアリング結果と全体についてまとめ	（内　　容）ヒアリングを行った結果についてワークショップ形式で整理する。 全体のまとめ （必要な準備）ヒアリングを行った感想等についてまとめておくこと。

授業名	**政策評価論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Policy Evaluation	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武蔵　勝宏**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	国および地方自治体の行うすべての施策について取り上げ、その上で、近年重要性が高まっている評価の概念・手法とその現状について実際に行われる政策を改善しようとするためのアプローチを広く取り上げる。評価は、行政機関にとどまらず、公共部門に属する幅広い分野に対して適用可能なものとしても扱う。
学習成果到達目標	政策評価の方法論とそれを具体的に活用して個別・具体的な政策のレビューと再編成の手法に習熟するようになる。
評価方法	定期試験（60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（　　） □（　　）
テキスト	特に指定しない
参考書	新川達郎「政策学入門」法律文化社、2013年。 八代尚宏「日本経済論・入門新版」有斐閣、2017年。 八代尚宏「働き方改革の経済学」日本評論社、2017年。
留意事項	新聞の経済、政策関係の記事を読むこと。
オフィスアワー	講義の前後に教室で質問を受け付ける。

授　業　名	**政策評価論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	政策評価とは何か。	（内　　容）政策評価の入門 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第2回	政策評価の目的	（内　　容）なぜ政策評価が必要なのか、その目的何か （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第3回	政策評価の方法	（内　　容）経済学的手法を中心に多様な手法を学ぶ （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第4回	政策の失敗・修正・変更	（内　　容）政策評価の結果が政策の見直しに反映されることを学ぶ （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第5回	日本の政策評価	（内　　容）政策評価と行政評価の違い （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第6回	小泉構造改革を政策評価する	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み1 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第7回	少子高齢化問題	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み2 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第8回	社会保障と税	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み3 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第9回	TPPと農業改革	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み4 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第10回	アベノミクスと経済成長戦略	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み5 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第11回	労働市場と解雇ルール	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み6 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第12回	同一労働同一賃金	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み7 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第13回	労働時間規制	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み8 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第14回	女性の活用はなぜ進まないのか	（内　　容）具体的事例の政策評価の試み9 （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)
第15回	講義全体のまとめ	（内　　容）全体の講義を振り返る （必要な準備）授業時に指示した文献の予習と配布した資料の復習(30分以上)

授業名	**地方自治体論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Local Government	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**鈴木　康久**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	地方自治の理念、しくみ、地方自治を取り巻く課題と地方自治体の責務、住民自治と地方財政の重要性を学ぶ。それらを通し、自分が住む市町村の地方自治の在り方を考察する。
学習成果到達目標	1）地方自治の理念について理解できる。 2）住民の生活を守るための地方自治体の責務について理解できる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	プリント等を準備する
参考書	外山公美編『行政学』弘文社　2016 風間規男編『行政学の基礎』一藝社　2007年
留意事項	
オフィスアワー	授業終了後に実施する。

授　業　名	**地方自治体論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）講義のねらい、概要、自己紹介、講義の進め方など （必要な準備）新聞、雑誌等の中で、興味のある行政課題についての切り抜き（２例）を準備しておくこと。
第2回	公共政策の基礎	（内　　容）「公共と行政政策」の違い、「行政セクター、企業セクター、市民セクターの違いと役割」など概括的な考え方を説明 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第3回	日本の行政機関の形成	（内　　容）地方自治の理念、地方自治体の歴史的変遷、国と地方自治体の役割分担について説明する （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第4回	地方行政機関の役割と機能	（内　　容）地方行政機関が果たす機能と役割に関する基本的な考え方を述べる。「国・都道府県・市町村の役割と機能」，「地方行政機関の公共サービス」などに触れる。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第5回	地方行政機関が行う政策の推進	（内　　容）地方行政機関が政策を推進するために策定する計画の内容とその実践過程を述べる。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第6回	市民協働	（内　　容）政策実現の実践過程において重視されている「市民協働」についてNPO等との協働事例を説明する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第7回	地方自治体の議会	（内　　容）議会の機能と組織、二元代表制（首長と議会）について説明する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第8回	「京都らしい」の考察（グループワーク）	（内　　容）　4～5名のグループに分かれ，「京都らしい」と考える内容をグループ内で議論し，グループとして京都が世界に伝えていきたいと考える「京都らしい」事項をまとめる。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第9回	京都の特性	（内　　容）京都市と京都府の人口構成や産業構造，地理的特性などの基本的な事項を説明した後，千年の都として育んできた京都の文化的な特性の一端について述べる （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第10回	第９回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業（予定）に関する説明	（内　　容）京都らしいを実現する事業の行政担当者からの事業内容、計画、効果等の説明。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第11回	第９回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業についてまとめ	（内　　容）4～5名のグループに分かれ，第10回の事業内容について、内容をグループ内で議論しその成果等についてまとめる。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第12回	第９回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業に関する説明	（内　　容）京都らしいを実現する事業の行政担当者からの事業内容、計画、効果等の説明。 （必要な準備）事業に関係する新聞記事等を読んでおくこと。
第13回	第９回の授業で学生が検討した「京都らしい」を実現する事業についてまとめ	（内　　容）4～5名のグループに分かれ，第１２回の事業内容について、内容をグループ内で議論しその成果等についてまとめる。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第14回	地方自治体で働く公務員	（内　　容）公務員の業務内容等について説明する。 （必要な準備）参考図書を読んでおくこと。
第15回	全体のまとめ	（内　　容）これまでの授業で感じたことについて、４～５名のグループで議論に、理解したこと等をまとめる。 （必要な準備）これまでの授業内容についてまとめておくこと

授業名	**災害と防災**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Disaster and Disaster Prevention	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	災害と防災について、東日本大震災・阪神大震災・伊勢湾台風・関西大風水害・関東大震災などの大大災害を事例に被害と復興を学ぶ。歴史・都市集落・建築・復興・対策をキーワードとして、解読をおこなう。災害と防災の学習をより身近なものにするためにフィールドワークとして、災害痕跡や地域防災拠点の見学を実地し、災害と防災についてのプレゼンテーションをおこなわせる。
学習成果到達目標	災害と防災についての内容ならびに意味を理解させ、その現状を把握させる。そして今後の防災のありようを提言することを目標とする。
評価方法	定期試験（ 50 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	河田恵昭『津波災害』岩波新書 竹村雅之『地震と防災』中公新書 の2冊
参考書	『都市と防災』『京都の歴史災害』
留意事項	居眠り・スマホいじり・私語・飲食(のど飴・ガムも含む)は一切禁止
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出すること

授　業　名	**災害と防災**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）　半年間のスケジュールならびにオリエンテーション （必要な準備）テキストに目をとおすなどの事前学習
第2回	災害の歴史	（内　　容）災害の歴史についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第3回	災害の種類	（内　　容）地震・火災・台風・水害についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第4回	構築物と災害	（内　　容）建物や橋、堤防などの構築物と災害の関わりの説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第5回	事例紹介1 東日本大震災1	（内　　容）東日本大震災と津波についての説明1 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第6回	事例紹介2東日本大震災2	（内　　容）東日本大震災と津波についての説明2 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第7回	事例紹介3 阪神大震災	（内　　容）阪神大震災と火災についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第8回	事例紹介4 関西大風水害	（内　　容）関西大風水害と建物倒壊についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第9回	事例紹介5 関東大震災	（内　　容）関東大震災と建物倒壊・火災についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第10回	フィールドワーク1	（内　　容）京都の災害の痕跡のフィールドワーク （必要な準備）当該地域の事前学習
第11回	防災と法整備	（内　　容）防災と法整備についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第12回	防災と地域社会	（内　　容）防災と地域社会についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第13回	防災と復興計画	（内　　容）防災と復興計画についての説明 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習
第14回	フィールドワーク2	（内　　容）地域防災拠点の見学 （必要な準備）当該地域の事前学習
第15回	災害と防災のプレゼンテーション	（内　　容）災害と防災についてのプレゼンテーション （必要な準備）各自パワーポイントでの発表

授業名	**地方行政論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Local Government	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	地方公共団体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する機能を有すると、憲法に定められている。この地方公共団体、具体的には基礎自治体としての市町村、広域自治体としての都道府県、さらに道州制等の行政の役割と機能について理解することが本講義の目的である。今日、住民の身近な存在である市町村行政の役割が強調されているが、その果たすべき役割と内容等についてとくに重視していきたい。また一方で広域行政の議論が登場しているが、その意味するところは何かについても論究していきたい（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）
学習成果到達目標	1）市役所や町村役場、都道府県庁、中央省庁、そこに勤める公務員と言われる人たちの活動を把握することができるようになる。 2）日常生活と行政との関わりが理解できるようになる。 3）行政について、マスコミなどが指摘する問題が起こる「しくみ」が理解できるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	新藤宗幸,2012,『新版　行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書
参考書	授業時に適宜紹介します
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**地方行政論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	行政をみる眼	（内　　容）政治と行政との関係について説明します。 （必要な準備）テキスト10～19頁を読んできてください（60分）。
第3回	行政の国家の広がりとその変化Ⅰ--福祉国家について	（内　　容）福祉国家への道とその反転について説明します。 （必要な準備）テキスト22～39頁を読んできてください(60分)。
第4回	行政の国家の広がりとその変化Ⅱ--行政国家について	（内　　容）行政国家とは何かについて説明します。 （必要な準備）テキスト39～53頁を読んできてください(60分)。
第5回	日本の行政制度の変遷と現状Ⅰ--日本国憲法 行政の国家の広がりとその変化	（内　　容）日本国憲法による原理の転換と戦前について （必要な準備）テキスト56～66頁を読んできてください(60分)。
第6回	日本の行政制度の変遷と現状Ⅱ--議員内閣制 行政の国家の広がりとその変化	（内　　容）議員内閣制と内閣の位置について （必要な準備）テキスト66～77頁を読んできてください(60分)。
第7回	日本の行政制度の変遷と現状Ⅲ--省庁	（内　　容）省庁の設置と管理について （必要な準備）テキスト78～95頁を読んできてください(60分)。
第8回	日本の行政制度の変遷と現状Ⅳ--公務員制度	（内　　容）公務員制度について （必要な準備）テキスト96～106頁を読んできてください(60分)。
第9回	日本の行政制度の変遷と現状Ⅴ--中央省庁と自治体	（内　　容）中央省庁と自治体との関係について （必要な準備）テキスト106～114頁を読んできてください(60分)。
第10回	行政の働きが変えた市民のくらしⅠ--行政の活動	（内　　容）行政の活動とその手段について （必要な準備）テキスト116～131頁を読んできてください(60分)。
第11回	行政の働きが変えた市民のくらしⅡ--政府規制	（内　　容）政府規制について。 （必要な準備）テキスト131～144頁を読んできてください(60分)。
第12回	行政の働きが変えた市民のくらしⅢ--公共事業	（内　　容）公共事業の問題について （必要な準備）テキスト145～164頁を読んできてください(60分)。
第13回	行政の働きが変えた市民のくらしⅣ--福祉政策	（内　　容）福祉政策について （必要な準備）テキスト164～182頁を読んできてください(60分)。
第14回	行政の働きが変えた市民のくらしⅤ--政府の事業	（内　　容）政府の事業について。 （必要な準備）テキスト182～200頁を読んできてください(60分)。
第15回	道州制について　--大阪都構想について	（内　　容）道州制について説明します。 （必要な準備）市町村合併について調べてきてください(60分)。

授業名	**公的扶助論**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Public Assistance	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	公的扶助制度の中心的制度である生活保護制度の仕組みについて学習する。生活保護制度の対象となる貧困問題について理解し、貧困問題が改めて社会問題となる現状を踏まえながら、貧困問題対策の在り方を考察する。				
学習成果到達目標	1）貧困・低所得問題を理解すること。 2）生活保護制度を中心とした公的扶助制度について学ぶこと。 3）公的扶助の今日の課題を考察することができるようになること。				
評価方法	定期試験（ 80 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 20 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的思考力 ） □（ ）				
テキスト	なし				
参考書	随時指示する				
留意事項					
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**公的扶助論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）本講義のねらいと計画 （必要な準備）シラバスを読んでおく（１０分）
第2回	公的扶助の概念	（内　　容）公的扶助の概念と範囲 （必要な準備）公的扶助とは何かについて考えておく（３０分）
第3回	公的扶助の歴史　①	（内　　容）公的扶助の歴史　明治期 （必要な準備）戦前の公的扶助について考えておく（３０分）
第4回	公的扶助の歴史　②	（内　　容）公的扶助の歴史　大正・昭和期 （必要な準備）大正・昭和期について公的扶助がどう展開されたかを考えておく(３０分)
第5回	社会保障体系における公的扶助の位置・役割	（内　　容）社会保障と公的扶助の関係について学ぶ （必要な準備）社会保障の世界を考えておく（３０分）
第6回	生活保護制度の解説　①	（内　　容）生活保護の原理について学ぶ （必要な準備）生活保護とは何かについて考えておく(３０分)
第7回	生活保護制度の解説　②	（内　　容）生活保護制度の原則について学ぶ （必要な準備）生活保護とは何かについて考えておく(３０分)
第8回	生活保護制度の解説　③	（内　　容）生活保護の種類と基準 （必要な準備）生活保護にはどのようなものがあるかを考えておく(３０分)
第9回	生活保護制度の解説　④	（内　　容）生活保護の施設 （必要な準備）生活保護施設について考えておく(３０分)
第10回	生活保護の実際　①	（内　　容）生活保護の実情についてデータをもとに学ぶ （必要な準備）生活保護の実際について考えておく(３０分)
第11回	生活保護の実際　②	（内　　容）生活保護の実情についてデータをもとに今日的特徴を学ぶ （必要な準備）生活保護の最近の動向を考えておく(３０分)
第12回	生活保護の実際　③	（内　　容）生活保護の実情についての変化を学ぶ （必要な準備）生活保護をめぐる話題をつかむ(３０分)
第13回	生活保護行政について	（内　　容）生活保護の運用上の問題と課題を学ぶ （必要な準備）生活保護の運用上の課題を考える(３０分)
第14回	生活保護制度のこれからの課題	（内　　容）生活保護制度改革と将来の展望 （必要な準備）関連する新聞記事を読む(３０分)
第15回	社会保障と生活保護	（内　　容）社会保障体系上における生活保護のあり方を学ぶ （必要な準備）生活保護のこれからについて考えておく(４５分)

授業名	**教育制度論（中・高・栄）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Educational Systems	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		
授業の概要	教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかかわるため、それについても考えていく。				
学習成果到達目標	1）教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2）幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3）日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	内容に応じて随時資料を配布する				
参考書	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）、教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、 尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）など。				
留意事項	教員免許取得必須科目であり、本学実習要件科目になっている課程もあるので、対象者は頑張ってほしい。				
オフィスアワー	随時。メールなどでの予約が望ましい。				

授　業　名	**教育制度論（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（内　　容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （必要な準備）シラバスを読んでおく（20分）
第2回	教育制度の基本原則	（内　　容）日本の教育制度の基本原則を理解する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第3回	諸外国の教育制度	（内　　容）諸外国の教育制度と比較して、違いと意味を考える （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第4回	学校制度の発展と現在	（内　　容）学校制度の定義、種類、系統、設置者などを把握する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第5回	義務教育制度	（内　　容）日本の義務教育制度の確認 （必要な準備）教育基本法、学習指導要領総則を読む（30分）
第6回	教職員の職務内容と義務	（内　　容）教職員の責務と学校運営の動向について把握する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第7回	教員養成と現職研修	（内　　容）教員に求められる資質能力と免許高度化の傾向を知る （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第8回	教育委員会制度	（内　　容）教育委員会の組織と権限について理解する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第9回	学校評価の導入と手法	（内　　容）学校評価の目的と手法について知る （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第10回	新しい教員評価制度の仕組み	（内　　容）新しい教員評価制度の仕組みについて把握する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（内　　容）地域住民の学校参画、学校選択制度など最近の学校を取り巻く状況を知る （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第12回	教科書制度	（内　　容）教科書検定・採択の意義と特徴について知る （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第13回	学校給食の制度	（内　　容）学校給食の具体的形態と食育について知る （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第14回	奨学金制度の行方	（内　　容）教育費負担の意義と諸課題について理解する （必要な準備）事前に出した課題をする（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの内容から教育制度の意義の再確認 （必要な準備）これまでを振り返りまとめのレポートを作成しておく（1時間）

授業名	**教育制度論（幼・小）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Educational Systems	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかかわるため、それについても考えていく。				
学習成果到達目標	1）教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2）幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3）日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	各回内容に応じて適宜資料を配布する				
参考書	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）、教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、 尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）ほか、適宜紹介する。				
留意事項	教員免許取得必須科目であり、本学実習要件科目になっている課程もあるので、対象者は頑張ってほしい。				
オフィスアワー	随時。メールなどでの予約が望ましい。				

授　業　名	**教育制度論（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（内　　容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （必要な準備）シラバスを読んでおく（20分）
第2回	教育制度の基本原則	（内　　容）日本の教育制度の基本原則と世界の制度の概略を知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第3回	学校制度の発展と現在	（内　　容）学校制度の定義、種類、系統、設置者などを把握する （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第4回	就学前教育制度	（内　　容）日本の就学前教育制度の確認 （必要な準備）教育基本法、幼稚園教育要領該当箇所を読む（30分）
第5回	義務教育制度	（内　　容）日本の義務教育制度の確認と幼小連携について理解する （必要な準備）教育基本法、学習指導要領総則を読む（30分）
第6回	教職員の職務内容と義務	（内　　容）教職員の責務と学校運営について知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第7回	教員養成と現職研修	（内　　容）教員に求められる資質能力と免許高度化の動向を把握する （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第8回	教育委員会制度	（内　　容）教育委員会の組織と権限について理解する （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第9回	学校評価の導入と手法	（内　　容）学校評価の意義と目的、手法について把握する （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第10回	新しい教員評価制度の仕組み	（内　　容）新しい教員評価制度の仕組みについて知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（内　　容）地域住民の学校参画、学校選択制度の動向について知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第12回	教科書制度	（内　　容）教科書検定の意義や採択の特徴について把握する （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第13回	学校給食の制度	（内　　容）学校給食の具体的形態と食育の動向を知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第14回	奨学金制度の行方	（内　　容）教育費負担の諸課題を知る （必要な準備）本時の内容について前週に出した課題をする（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの内容から教育制度の意義の再確認 （必要な準備）これまでの振り返りレポートを書く（1時間）

授業名	**ライフスタイルと法**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Lifestyle and Law	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡辺　暁彦**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	法（法律）と聞いて、皆さんはどのようなイメージをもちますか。皆さんのイメージを出発点に、本講義では私たちの身近な生活のなかで法がどのような働きをしているのかについて考えます。その際には、裁判（所）の役割にも目を向ける必要があります。また最近では、小・中学校における「法教育」の取組みも進んできています。本講義では、法の概念や法の体系・種類、法の解釈といった法律学上の基本事項について学ぶとともに、小・中学校における法教育のあり方等についても皆で話し合いたいと考えています。
学習成果到達目標	1）身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。 2）具体的な事件等について、法的な考え方にたって問題点と解決策を説明することができる。 3）小・中学校における法教育のあり方について学び、自分なりの実践案をまとめ、それを説明することができる。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	森本直子ほか編『法学ダイアリー』（ナカニシヤ出版、2017年4月）　＊詳細は、初回授業の際に説明します。
参考書	W・キャシディ&R・イェーツ編『小学校で法を語ろう』（成文堂、2015年）。また、可能であれば『六法』を準備していただきたいところですが、この点も含めて、初回に詳しい説明を行います。
留意事項	日々の新聞や雑誌記事の切り抜き（記録）を課題とします。日々の出来事や事件などを通して、私たちの生活のなかで、法や裁判がどのような役割を果たしているかについて考えてみてください。
オフィスアワー	担当授業終了後実施します。

授　業　名	**ライフスタイルと法**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　～法律学への誘い、法とは何か、法の解釈とは～	（内　　容）法とは何か、法を学ぶことの意味について考えます。 （必要な準備）テキストの目次及び「プロローグ」に簡単に目を通しておくこと。
第2回	誕生と法　～法の対象となるヒトとは？～	（内　　容）ヒト（人）の誕生をめぐる法的問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第1章に目を通しておくこと。（30分）
第3回	子どもと法	（内　　容）子どもや学校（小・中学校を中心に）に関する法制度について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第2章に目を通しておくこと。（30分）
第4回	市民生活と法	（内　　容）市民としての私たちの責務、特に選挙や納税をめぐる問題、そして裁判員制度等について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第3章に目を通しておくこと。（30分）
第5回	消費生活と法　～消費者の権利～	（内　　容）契約に関わる法的問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第4章に目を通しておくこと。（30分）
第6回	職業生活と法　～労働に関する法的ルール～	（内　　容）労働法の基本問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第5章に目を通しておくこと。（30分）
第7回	パートナーシップと法	（内　　容）婚姻や離婚をめぐる法的問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第6章に目を通しておくこと。（30分）
第8回	事故と法　～事故の法的責任～	（内　　容）学校事故などを例に、民法の不法行為について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第7章に目を通しておくこと。（30分）
第9回	犯罪と法	（内　　容）刑法の基礎について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第8章に目を通しておくこと。（30分）
第10回	高齢化と法	（内　　容）社会保障法の基礎について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第9章に目を通しておくこと。（30分）
第11回	終末期と法	（内　　容）安楽死・尊厳死問題等を素材に医事法の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第10章に目を通しておくこと。（30分）
第12回	人の死と法	（内　　容）民法（特に、親族・相続法）の基本を学ぶ。 （必要な準備）テキスト第11章に目を通しておくこと。（30分）
第13回	情報社会と法	（内　　容）情報公開制度や個人情報保護制度、インターネットをめぐる法的問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第12章に目を通しておくこと。（30分）
第14回	環境と法	（内　　容）環境法の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第13章に目を通しておくこと。（30分）
第15回	まとめ　～グローバル社会に生きる私たち～	（内　　容）グローバル社会のなかで、あらためて法の役割とは何かについて皆で話し合う。 （必要な準備）テキスト第14章に目を通すとともに、これまでの講義内容を振り返り、あらためて法とは何かについて自らの意見をまとめておく。（1時間）

授業名	**行政法Ⅰ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Administrative Law Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武蔵　勝宏**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	人も歩けば行政法に当たる。私たちが生まれてから亡くなるまで、身近な生活や暮らしのすべてに行政法はかかわっています。行政法の特色は、民法などと異なり「行政法」という一般法典が存在しないことにあります。そのため、行政法総論の内容は、多くの行政法規を整序し、学説・判例などを踏まえて体系化されたもので、「行政作用法」，「行政救済法」，「行政組織法」の３分野から構成されています。 講義では主に「行政作用法」と「行政組織法」を中心に取り上げ、その基本的な考え方を学びます。 講義を通じて多くの学生が行政法に関心を持ってもらえるよう、できるだけ身近な例を紹介しながら講義を進めていきます。				
学習成果到達目標	行政法の総論、行政組織に関する基礎的な知識を獲得する。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	畠山武道他「はじめての行政法第3版」三省堂、2016年。				
参考書					
留意事項	法と社会の動きは関連しています。日ごろから新聞に目を通して、裁判や政治、行政に関心を持つようにしてください。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**行政法Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	行政法とは	（内　　容）行政法を学ぶ意味とは （必要な準備）テキスト1章を読みまとめること(30分)。
第2回	法律による行政の原理	（内　　容）法律の留保について （必要な準備）テキスト2章を読みまとめること(30分)。
第3回	行政法の法源	（内　　容）法令や法律の構造を読み解く （必要な準備）テキスト3章を読みまとめること(30分)。
第4回	行政基準	（内　　容）行政運営のマニュアル （必要な準備）テキスト4章を読みまとめること(30分)。
第5回	行政上の法律関係	（内　　容）行政法上の法律関係の特徴を学ぶ （必要な準備）テキスト5章を読みまとめること(30分)。
第6回	行政組織と公務員	（内　　容）行政を支える組織と人 （必要な準備）テキスト6章を読みまとめること(30分)。
第7回	行政行為の意義	（内　　容）行政行為論1 （必要な準備）テキスト7章を読みまとめること(30分)。
第8回	行政行為の種類	（内　　容）行政行為論2 （必要な準備）テキスト8章を読みまとめること(30分)。
第9回	行政行為の効力	（内　　容）行政行為論3 （必要な準備）テキスト9章を読みまとめること(30分)。
第10回	行政行為と裁量の概念	（内　　容）行政行為論4 （必要な準備）テキスト10章を読みまとめること(30分)。
第11回	行政裁量と司法審査	（内　　容）行政に対する司法のチェック （必要な準備）テキスト11章を読みまとめること(30分)。
第12回	行政行為の取消と撤回	（内　　容）違法・不当な行政行為の是正を学ぶ （必要な準備）テキスト12章を読みまとめること(30分)。
第13回	行政行為の取消と無効	（内　　容）取消訴訟 （必要な準備）テキスト13章を読みまとめること(30分)。
第14回	義務の履行	（内　　容）行政目的の実現手段 （必要な準備）テキスト14章を読みまとめること(30分)。
第15回	行政計画・契約	（内　　容）計画と契約の手法 （必要な準備）全体の講義ノートを通読する(1時間)

授業名	**行政法Ⅱ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Administrative Law Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**武蔵　勝宏**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	行政法が民法や刑法などの科目と異なる点は、行政法という名前の法律が存在しないことです。しかし、行政法は、国や地方自治体等の組織や活動に関する法律として、現行法律の大半を占めており、日常生活と密接に関連する法分野です。たとえば、道路交通法や食品衛生法といった法律の名前は誰でも一度は聞いたことがあると思います。本講義では、こうした私たちの日常生活に身近な行政法のうち、「行政救済法」の分野を中心に、行政手続法や情報公開法についても学ぶこととします。講義では、行政法の重要性と面白さに気づいてもらえるよう説明します。				
学習成果到達目標	行政法、特に行政救済法に関する基礎的な知識を身につけることができるようになる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	畠山武道他「はじめての行政法第3版」三省堂、2016年。				
参考書					
留意事項	法と社会の動きは関連しています。日ごろから新聞に目を通して、裁判や政治、行政に関心を持つようにしてください。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**行政法Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	行政法総論の全体像	（内　　容）行政法総論の概要 （必要な準備）テキストの1章から14章のアウトラインを読みまとめること(1時間)
第2回	行政指導	（内　　容）行政指導の仕組み （必要な準備）テキストの16章を読みまとめること(30分)
第3回	行政手続	（内　　容）行政手続法 （必要な準備）テキストの17章を読みまとめること(30分)
第4回	行政による情報の収集・管理	（内　　容）情報公開等 （必要な準備）テキストの18章を読みまとめること(30分)
第5回	行政の不服申し立て	（内　　容）行政不服審査法 （必要な準備）テキストの19章を読みまとめること(30分)
第6回	国家賠償法	（内　　容）国家賠償の概要 （必要な準備）テキストの20.21章を読みまとめること(30分)
第7回	取消訴訟とそれ以外の抗告訴訟	（内　　容）行政事件訴訟の類型 （必要な準備）テキストの23章を読みまとめること(30分)
第8回	どんなときに取消訴訟を起こすことができるか1	（内　　容）行政訴訟における処分性の問題 （必要な準備）テキストの24章を読みまとめること(30分)
第9回	どんなときに取消訴訟を起こすことができるか2	（内　　容）行政訴訟における原告適格・訴えの利益の問題 （必要な準備）テキストの25章を読みまとめること(30分)
第10回	無効等確認訴訟	（内　　容）無効な法律行為 （必要な準備）テキストの27章を読みまとめること(30分)
第11回	義務付け訴訟	（内　　容）義務付け訴訟・差し止め訴訟 （必要な準備）テキストの28章を読みまとめること(30分)
第12回	損失補償	（内　　容）損失の救済 （必要な準備）テキストの22章を読みまとめること(30分)
第13回	地方自治の仕組み	（内　　容）地方自治法1 （必要な準備）テキストの29章を読みまとめること(30分)
第14回	国地方の関係	（内　　容）地方自治法2 （必要な準備）テキストの30章を読みまとめること(30分)
第15回	講義のまとめ	（内　　容）全体の講義を総復習 （必要な準備）テキストの全体を読みまとめること(30分)

授業名	**統計学Ⅰ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Statistics Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の基礎的な知識をまじえながら、基本統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、サンプリングと統計的な検定の原理や、分散、相関に関する分析手法について解説する。すべての授業を通じて、具体例を用いて作業しながら学べるよう心がける。なお、この授業内容は、秋学期に開講予定の「統計Ⅱ」と連続している。本授業で、統計の基本的なルールを理解した上で、「統計Ⅱ」においては統計を研究や仕事の場面で活用できるよう実践的な力を伸ばすため応用的な課題を自ら解決する態度がもとめられる。
学習成果到達目標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト（Excel）を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。 ふりかりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	活用事例でわかる!統計リテラシー　数学が苦手でも大丈夫！ noa出版　2014年12月10日発行　1,667円+税	
参考書	授業の進捗に合わせて、適宜、参考となる書籍や記事などを紹介する	
留意事項	毎回テキストを用いた学習が中心となる。必ずテキストを購入すること。 本授業（基礎）と秋学期開講の「統計Ⅱ」（応用）は内容は続きになっている。	
オフィスアワー	月曜日の昼休み	

授　業　名	**統計学Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	統計のイメージに出会う （テキストpp.1-14）	（内　　容）表現手法としての統計を学ぶ 「物語作りの流れ」と「統計の流れ」の比較する （必要な準備）学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第2回	統計の流れを理解する① 統計で分析するための対象、範囲、方針 （テキストpp.15-28）	（内　　容）統計で分析を行うテーマを決定する際の、対象、範囲、方針の絞り方を理解する （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第3回	統計の流れを理解する② 統計の素材となる情報収集の方法、集めた情報を見せ方 （テキストpp.29-42）	（内　　容）統計に必要な情報として全体像、関係性、事実の3つの観点を意識し収集することを理解する。図書館やインターネット上の公官庁統計、論文データの収集方法を習得する。数値、表、グラフ、図解で統計データを視覚化しまとめる方法を練習する。 （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目のテキストの範囲を一読
第4回	統計の流れを理解する③ 仮説から分析の見通しをたてる 分析結果の考察のまとめ方 （テキストpp.43-70）	（内　　容）統計による分析をおこなうための仮説のたて方を学ぶ。 統計の結果と考察の報告のまとめ方を理解する。 （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第5回	統計の活用事例に学ぶ① 平均値、中央値、標準偏差 （テキストpp.71-85）	（内　　容）顧客分析を体験する ・購入金額の平均値を調べる ・グラフからばらつきを読み取る ・平均値や標準偏差を活用し顧客をグループ化する （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目の指定テキスト範囲を一読
第6回	統計の活用事例を学ぶ② 散布図、相関関係、相関係数、近似直線、 （テキストpp.86-99）	（内　　容）天気と売上の関係から、効果的な販売・仕入れを考える ・販売個数のデータの傾向を把握する、変動の要因を考える ・気温と販売個数から相関を読み取る数値での表し方を学ぶ ・天気予報から販売個数を予想する近似直線の数式を理解をする （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目の指定テキスト範囲を一読
第7回	統計の活用事例を学ぶ③ 標本調査、標本（サンプル）、正規分布、標準偏差 （テキストpp.100-111）	（内　　容）統計的思考で商品の品質をチェック！ ・品質管理を例にサンプリングの考え方を学ぶ ・正規分布を活用し品質管理する方法や標準誤差について理解する （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第8回	統計の活用事例を学ぶ④ 代表値、ヒストグラフ、統計的検定、有意差、t検定 （テキストpp.112-12）	（内　　容）統計的検定で効果判定 ・代表値（最大値 最小値 データ幅 平均値 中央値 標準偏差） ・ヒストグラフで表し全体を把握する方法やt検定を用いて有意差を導く （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目のテキストの範囲を一読
第9回	統計の活用事例を学ぶ⑤ 分散分析、一元配置、二元配置、多元配置分散分析、分散分析表、F検定 （テキストpp.124-136）	（内　　容）統計にもとづく商品陳列で購買促進 ・分散分析をつかって3つ以上のグループの差をもとめながら、分散分析の種類を理解する （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読
第10回	統計の考え方を習得する① 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度 （テキストpp.138-147）	（内　　容）データを数値やグラフで要約する ・記述統計と推測統計の違いを説明できる ・定性データと定量データのそれぞれの尺度の違いを説明できる （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第11回	統計の方法を習得する② 分散と標準偏差、四分位範囲と四分位偏差、散布図と相関係数 （テキストpp.148-159）	（内　　容）ヒストグラフをつかってばらつきを示し、Excelの関数で散や標準偏差をもとめることができる。また、散布図や相関係数から分布や関係の理解する （必要な準備）前回授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読
第12回	統計の考え方を習得する③ 数学的確率と統計的確率、一様分布、二項分布 （テキストpp.160-173）	（内　　容）できごとを確率で考える ・トランプやサイコロの例から確率の考え方を説明できる ・さまざまな事象を表す多様な確率分布のモデルを理解する （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第13回	統計の考え方を習得する④ 推測統計、標本調査、統計的検定 （テキストpp.174-194）	（内　　容）一部から全体を推測する～標本調査と検定～ ・調査の設計と計画について、統計的検定について、正規分布の特徴や統計的検定の考え方を学ぶ （必要な準備）授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキスト範囲を一読
第14回	統計の考え方を習得する⑤ 回帰分析、無相関検定、説明（独立）変数、目的（従属）変数 （テキストpp.195-208）	（内　　容）データから関係を探る～回帰分析入門～ ・回帰分析の考え方を説明できる ・回帰分析の注意点を説明できる （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの授業の復習 最終課題の説明 「統計Ⅱ」に向けての準備事項の説明 （必要な準備）前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる

授業名	**統計学Ⅱ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Statistics Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	社会調査で得られたデータの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する授業である。特に、因果関連を明らかにするために用いる分析手法である重回帰分析と、変数を要約するために用いる分析手法である因子分析について詳しくとりあげ、データを読み解く力をつけていく。
学習成果到達目標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト（Excel）を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。 ふりかりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	活用事例でわかる!統計リテラシー　数学が苦手でも大丈夫！　noa出版　2014年12月10日発行　1,667円+税
参考書	授業の進捗状況に合わせて適宜指示する
留意事項	本授業は、春学期に開講された「統計Ⅰ」と連続した構成となっている。「統計Ⅰ」は基礎、「統計Ⅱ」は応用を学ぶ。 したがって、受講生には「統計Ⅰ」と「統計Ⅱ」の連続受講を望む。
オフィスアワー	月曜日の昼休み

授業名	**統計学Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	公的統計の活用 （テキスト:pp.210-212）	（内　　容）＜実践＞公的統計を使って都市計画に挑戦 ・人口統計の活用と読み取り方を学ぶ ・人口増減率をグラフにし分析結果を文章にまとめることができる （必要な準備）学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第2回	平均値、中央値、最大値、最小値、標準偏差 X? 検定 （テキスト:pp.213-215）	（内　　容）＜実践＞Web上の文字情報を活用した予備調査 ・意識調査の回答データから代表値をまとめることができる ・代表値からデータをグループ分けし偏りや誤差を検定する （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第3回	散布図、相関関係、近似直線、単回帰式 （テキスト:pp.216-218）	（内　　容）＜実践＞作物統計から農業の現状を把握する ・作物統計調査から日本の農業の現状把握し将来の生産予測 ・散布図で相関関係を読み取り近似直線を描き単回帰式をもとめる （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定のテキスト範囲を一読してくる
第4回	統計的意識決定論、標準偏差 （テキスト:pp.219-223）	（内　　容）＜実践＞リスク×利益で統計的な経営判断 ・さまざまな条件を仮定し、複数の選択肢の先にある結果や期待値やその実現確率を数値化し総合的に判断する手法を学ぶ （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第5回	パラメータ設計、シグナル・ノイズ比、二元配置分散分析表、Ｆ検定 （テキスト:pp.224-226）	（内　　容）＜実践＞材料の品質を見極める ・品質管理に使用する統計値やグラフを作成し、要因効果図やSN比を理解し、分散分析で2要因の影響を判断できる （必要な準備）ふりかえりシート提出、テキストの学習項目指定範囲を一読してくる
第6回	X? 検定、基本統計量 （テキスト:pp.227-230）	（内　　容）＜実践＞アンケートの統計分析で教育効果を測定 ・２つのグループでのアンケート結果から満足度に与える要因を統計的に検討することができる。 （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第7回	重回帰分析	（内　　容）単回帰と重回帰のモデルの違いが説明できる （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第8回	重回帰分析の適用方法	（内　　容）重相関係数を求めることができる （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第9回	重回帰分析の問題点	（内　　容）疑似相関について説明できる （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第10回	重回帰分析の実践	（内　　容）重回帰分析を行う課題を統計処理ソフトを用いてもとめることができる、さらに、分析結果を文章で説明することができる。 （必要な準備）ふりかえりシート提出
第11回	因子分析とは	（内　　容）共通因子と観測変数の関係を説明できる。 （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第12回	因子分析の適用方法	（内　　容）具体的な事例をもとに因子分析を分析の流れを説明できる （必要な準備）ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第13回	因子分析の実践	（内　　容）因子分析を行う課題を統計処理ソフトを用いてもとめることができる、さらに、分析結果を文章で説明することができる。 （必要な準備）ふりかえりシート提出
第14回	因子分析の実践結果の報告	（内　　容）因子分析を行う課題をまとめた結果を共有するため、受講生同士、発表する （必要な準備）ふりかえりシート提出、発表資料を作成し提出する
第15回	まとめ	（内　　容）主に重回帰分析、因子分析の特徴を説明することができる 最終課題のレポートの内容を把握する （必要な準備）発表のふりかえりシートを作成し提出

授業名	**財政学**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Public Finance	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平野　由美子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民にサービスを提供する活動のことである。政府によって提供される様々なサービスは私たちが社会で生きていくために必要なものであり、調達財源である税は私たちに日常課せられているものである。私たちの暮らしと密接な関係をもつ財政のメカニズムについて理解するために必要な財政学の基礎知識を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）財政学の基礎的な知識、用語を理解できる。 2）財政から見出される問題点を発見し、自分なりの答え、考えをまとめることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	適宜プリントを配布します。				
参考書	神野直彦『財政のしくみがわかる本』岩波書店、2017年 井手英策『財政から読みとく日本社会　君たちの未来のために』岩波書店、2017年				
留意事項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**財政学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	財政とはなにか？財政学とはなにか？	（内　　容）本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財政とは何か？、財政学とは何か？を説明する （必要な準備）財政の意味を調べる（30分）
第2回	予算(1)予算と財政民主主義	（内　　容）財政民主主義に基づく予算の原則について説明する （必要な準備）予算の意味を調べる（30分）
第3回	予算(2)日本の予算制度	（内　　容）日本の予算制度の仕組みについて説明する （必要な準備）日本の予算制度について調べる（30分）
第4回	租税(1)租税原則と租税理論	（内　　容）租税とは何か？、租税原則、基本用語を説明する （必要な準備）どんな税金があるのか、税金の種類を調べる（30分）
第5回	租税(2)所得税	（内　　容）所得税の納税義務者、所得の種類、所得控除、確定申告と年末調整制度について説明する （必要な準備）所得税について調べる（30分）
第6回	租税(3)法人税	（内　　容）法人税の仕組みと、国税における法人税の占める割合（推移）について説明する （必要な準備）法人税について調べる（30分）
第7回	租税(4)消費税（付加価値税）	（内　　容）付加価値税とは何か？、消費税税率、消費税の仕組みについて説明する （必要な準備）消費税について調べる（30分）
第8回	租税(5)資産課税	（内　　容）相続税、贈与税、固定資産税などの基本的な資産課税について説明する （必要な準備）資産課税とはどのような税を指しているのか調べる（30分）
第9回	社会保障(1)年金	（内　　容）日本の年金制度について説明する （必要な準備）年金の仕組みについて調べる（30分）
第10回	社会保障(2)医療・介護保険	（内　　容）日本の医療・介護保険制度について説明する （必要な準備）医療保険・介護保険について調べる（30分）
第11回	公債と財政赤字(1)日本の財政赤字の現状	（内　　容）日本が財政赤字となった原因と現状について説明する （必要な準備）財政赤字とはどういう状態のことかを調べる（30分）
第12回	公債と財政赤字(2)公債の基礎理論	（内　　容）日本国債に焦点をあてて説明する （必要な準備）国債とは何かを調べる（30分）
第13回	地方の財政－地方税	（内　　容）国と地方自治体との関係を説明する 地方の財源について説明する （必要な準備）地方自治体の財政について調べる（30分）
第14回	財政の問題点	（内　　容）財政の仕組みから浮き彫りになる問題点を考える （必要な準備）財政赤字となっている日本の財政上の問題点を自分なりに考える（30分）
第15回	財政の未来像	（内　　容）財政の未来像を考える （必要な準備）社会保障のあり方について自分の考えをまとめる(30分)

授業名	**労働法**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Labor Law	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**中川　直毅**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現役実務家の人事部長、社会保険労務士として、実務と理論を融合させながら、労働法の基礎知識を体系的に学ぶことで、学生の皆さんが、働く際に自分の身を自分で守っていけるよう、その知識と知恵を提供していきます。授業は教科書に沿いながらも豊富な事例を織り込みながら「明るく、楽しく、分かりやすく」、そして「役に立つ」授業内容としていきます。 昨今問題の「ブラック企業」への対抗策や、「ブラックバイト」に就業してしまった時の対処方法なども授業の中で取り上げていきます。また、キャリア開発支援などの話題についても法的視点でお話していきます。				
学習成果到達目標	1）働く際に自己の権利を守る為の、労働法の必須知識が身につく 2）手を差し伸べるべき人々に、労働法を駆使して援助できる基礎知識が身につく 3）ブラック企業について労働法視点でその特長を説明することができる				
評価方法	定期試験（100　%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（　　%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　　）　□（　　）			
テキスト	公益社団法人全国労働基準関係団体連合会　編 「知らなきゃトラブる　労働基準関係法の要点　新訂３版」 公益社団法人全国労働基準関係団体連合会　2016年刊　1800円(税別)				
参考書	必要に応じて授業で指示する				
留意事項	特になし				
オフィスアワー	毎回授業終了後に実施する。 アルバイト先などの職場で、働くルールについて疑問点がある場合の相談にも応じる。				

授　業　名	**労働法**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画について／労働法の全体像の説明と、昨今話題の働き方改革などについて （必要な準備）シラバスの内容を確認しておくこと （予習：30分）
第2回	採用と労働契約 ～労働基準法①、職業安定法、若者雇用促進法	（内　　容）新卒採用、採用内定、労働契約などについて学ぶ （必要な準備）テキストP7～P20について目を通しておくこと （予習：30分）
第3回	職場のルールブック ～労働基準法②、労働契約法①	（内　　容）就業規則、労働者代表、不利益変更の禁止、人事考課、懲戒、昇格・降格などについて学ぶ （必要な準備）テキストP22～P28について目を通しておくこと （予習：30分）
第4回	労働法を勉強して、ブラックバイトから身を守る ～労働法を総動員して	（内　　容）配布レジメにそって、ブラックバイトからの身の守り方、そして近づかない術を、数ある労働法を総動員して学ぶ （必要な準備）今までの授業を復習しておくこと （予習：30分）
第5回	勤務する時間と心休まる休日 ～労働基準法③	（内　　容）労働時間、休日、時間外労働（残業）、３６協定などについて学ぶ （必要な準備）テキストP29～P53について目を通しておくこと （予習：30分）
第6回	休む権利は保障されている ～労働基準法④、育児介護休業法①	（内　　容）年次有給休暇、育児休業、介護休業、ワークライフバランスなどについて学ぶ （必要な準備）テキストP55～P68について目を通しておくこと （予習：30分）
第7回	お給料を法的に考える ～労働基準法⑤、最低賃金法、賃金支払確保法	（内　　容）賃金の範囲・支払ルール、残業代、最低賃金の法的保護などについて学ぶ （必要な準備）テキストP69～P89について目を通しておくこと （予習：30分）
第8回	生命（いのち）を守る労働安全衛生法 ～労働安全衛生法①	（内　　容）安全配慮義務、安全衛生委員会、ヒヤリハット、健康診断、受動喫煙などについて学ぶ （必要な準備）テキストP90～P108について目を通しておくこと （予習：30分）
第9回	ブラック企業の見分け方とパワーハラスメント ～労働基準法⑥、労働安全衛生法②、労災保険法	（内　　容）過重労働、メンタル対策、パワハラ、労働災害（業務災害・通勤災害）などについて学ぶ （必要な準備）テキストP109～P120について目を通しておくこと （予習：30分）
第10回	会社はヒトを簡単に辞めさせることはできない ～労働基準法⑦、雇用保険法	（内　　容）解雇、退職と定年、リストラ、失業と雇用保険などについて学ぶ （必要な準備）テキストP121～P132について目を通しておくこと （予習：30分）
第11回	女性を守る法律 ～労働基準法⑧、男女雇用機会均等法①、育児介護休業法②	（内　　容）男女差別の禁止、女性労働者保護、女性活躍推進、未成年者などについて学ぶ （必要な準備）テキストP133～P143について目を通しておくこと （予習：30分）
第12回	セクハラとマタハラの法と実際 ～男女雇用機会均等法②、育児介護休業法③	（内　　容）配布レジメにそって、セクハラ、マタハラの事例を法的視点で学ぶ （必要な準備）テキストP144～P145について目を通しておくこと （予習：30分）
第13回	多様な雇われ方で働く人を守る ～労働契約法②、パート労働法、高年齢者雇用安定法	（内　　容）パート労働者、有期契約社員、高年齢雇用者などの法的保護などについて学ぶ （必要な準備）テキストP147～P174 、P208～P213について目を通しておくこと（予習：30分）
第14回	労働組合、団結してパワーアップ ～労働組合法	（内　　容）配布レジメにそって、労働組合の要件、労働協約、ユニオンショップ、団体交渉、不当労働行為などについて学ぶ （必要な準備）労働組合についての情報をホームページや図書館で収集しておくこと （予習：30分）
第15回	まとめ	（内　　容）授業の振り返りをする （必要な準備）テキストをもう一度通読し、期間内の授業を簡単に復習しておくこと（予習：80分）

授業名	**就労支援サービス**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Work Support Service	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**大西　雅裕**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	講義形式の授業によって、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、就労支援に係る組織、団体及び専門職や就労支援分野との連携について理解することを目的とする。講義形式の授業を通して、労働法規についての概要、雇用・就労の全般的動向、就労支援制度の概要、就労支援に係る組織・団体の役割、就労支援に関わる専門職の役割と実際、就労支援分野との連携とその実際等について教授していきたい。障害者、母子世帯、被保護者等を対象とした具体的な就労支援の実態と課題について論究していきたい。
学習成果到達目標	1）今日の就労全体について理解できる。 2）障害者に対する支援制度、サービスの状況が理解できる。 3）今日の障害者等の就労支援の状況が理解できる。
評価方法	定期試験（ 85 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 15 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	なし、資料等によって講義いたします。
参考書	新・社会福祉士養成講座１８　就労支援サービス　第４版　中央法規出版　その他適宜紹介する。
留意事項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する予定

授　業　名	**就労支援サービス**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス就労支援の実際	（内　　容）就労支援についての現状 （必要な準備）就労への支援には何が必要か考える。
第2回	働くことの意味と社会福祉士の役割	（内　　容）労働の意味 （必要な準備）働くということについて事前に考えてくる
第3回	労働法規の概要	（内　　容）労働法を中心とした関連法について理解する （必要な準備）労働法規について予習する
第4回	障害者の就労状況	（内　　容）就労の現状 （必要な準備）障害者に対する障壁について予習する
第5回	雇用施策の状況	（内　　容）現状としての雇用制度を理解する （必要な準備）就労サービス制度について予習する
第6回	障害者福祉施策としての就労状況	（内　　容）福祉施策としての就労制度を観る。 （必要な準備）事前資料を予習する
第7回	就労支援に関わる機関等	（内　　容）就労支援に関わる公的機関等 （必要な準備）ハローワークの機能について予習する
第8回	障害者就労支援の団体等	（内　　容）障害者就労支援に関わる団体 （必要な準備）就労支援団体としてどんなものがあるか予習する
第9回	障害者就労支援の現状	（内　　容）事例を通して就労支援の現状を理解する （必要な準備）事例について予習してくる
第10回	低所得者への就労支援	（内　　容）現状について （必要な準備）今なにが問題となっているか予習する
第11回	低所得者への就労支援制度	（内　　容）現状の支援制度と支援団体等 （必要な準備）制度・サービスについて予習する
第12回	低所得者への就労支援	（内　　容）専門職の役割等 （必要な準備）専門職について予習する
第13回	就労支援と連携と専門職	（内　　容）諸機関等連携の現状 （必要な準備）どんな機関、専門職が関わるか予習する
第14回	連携の実際	（内　　容）連携の実際について （必要な準備）ネットワーキングの意味を予習する 連携とは何かについて予習する。
第15回	就労支援サービスの体系についてとまとめ	（内　　容）全体の振り返りとまとめ （必要な準備）全体を通して質問を考えてくる

授業名	**社会保障論Ⅰu**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Social Security I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	社会保障は、現代社会においてすべての人が生きていく上で不可欠の貢献をしており、それに寄せられる期待はますます大きくなっている。しかしながら、人口構造の高齢化や財政難の深刻化によって様々な問題が急増しており、その将来像は決して明るいものではない。講義形式及びグループワークを通して、社会保障の必要性の根拠、それを支える基本的な思想、それを構成する主要な原則と制度を検討しながら、社会保障の将来を展望するとともに現代社会における社会保障のあるべき姿を解明する。				
学習成果到達目標	1）日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになる。 2）少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的思考力 ） □（ ）				
テキスト	適宜、紹介すると同時にプリント配布する。				
参考書	『はじめての社会保障』第13版（2016）　有斐閣 『社会保障入門』中央法規				
留意事項	学生自身が調べ学習を行いながら授業を進めていきますので、必ず予習が必要です。				
オフィスアワー	1回目の授業で紹介します				

授　業　名	**社会保障論Ｉｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）授業のねらい （必要な準備）シラバスを読んでくること
第2回	少子高齢社会	（内　　容）日本の少子・高齢化状況をグラフから読む （必要な準備）前回配布したグラフ、表を説明できるようにしておく
第3回	少子高齢社会の影響による課題	（内　　容）少子高齢社会から受ける課題について考える （必要な準備）新聞・メディアから情報を得、課題を発表できるようにしておく
第4回	社会保障の概念	（内　　容）社会保障の理解 社会保障の必要性について （必要な準備）我が国の社会保障制度の種類について調べてくること
第5回	社会保障の源流	（内　　容）中世以降の社会保障の考え方について理解を深める （必要な準備）ロックとルソーの考え方(社会契約)について調べてきてください
第6回	社会保障の誕生と普及	（内　　容）社会保障誕生の歴史と発展について理解を深める （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第7回	日本の社会保障制度の特徴	（内　　容）日本の社会保障制度の特徴を理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第8回	公的扶助 生活困窮者の状況	（内　　容）近年の生活保護受給者と社会的背景を理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第9回	公的扶助 生活保護制度	（内　　容）生活保護制度制度のしくみを理解する （必要な準備）生活保護法第1条を読んで説明できるようにしておく
第10回	公的扶助 生活保護施設と福祉事務所	（内　　容）福祉事務所とその業務を学ぶ 居宅で生活できない保護受給者のための施設の役割について学ぶ （必要な準備）生活保護に関する内容を新聞記事から抽出し要約しておく
第11回	年金制度 体系と沿革	（内　　容）年金制度の必要性と体系について学ぶ （必要な準備）年金の種類について調べてくる
第12回	年金制度 仕組みと内容	（内　　容）年金制度の仕組みについて学ぶ （必要な準備）保険者・被保険者、国の財政について調べておく
第13回	年金制度 年金制度の現状と課題	（内　　容）少子化が年金制度に与える影響について理解する （必要な準備）2016年度年金制度改革を調べてくる
第14回	雇用保険 制度の沿革と内容	（内　　容）制度の沿革を理解する （必要な準備）雇用保険制度と対象について調べてくる
第15回	雇用保険 労働災害補償	（内　　容）労働災害補償や休業補償等について学ぶ （必要な準備）労災の補償内容や対象について調べてくる

授業名	**社会福祉行政**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Social Welfare Administration	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**野田　隆生**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	1）社会福祉事業の運営を担う福祉行政の組織とそこで働く専門職の役割や専門性について学ぶ。 2）社会福祉事業に関する行政や財政の仕組み（各種社会福祉担当部局課、福祉事務所、児童相談所等）や、社会福祉計画（老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等）の意義や目的について理解することを学ぶ。 3）国・都道府県・市町村の役割を理解し、国と地方自治体との関係や組織及び団体における専門職の役割等について学ぶ。
学習成果到達目標	1）社会福祉事業に関する行政・財政の仕組みを理解できる。 2）社会福祉行政の実施体制を理解し、その現状を把握することができる。 3）社会福祉計画（老人福祉計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等）の意義や目的について理解することができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力 ） □（ ）
テキスト	磯部文雄/府川哲夫編著『概説福祉行財政と福祉計画〔改訂版〕』ミネルヴァ書房,2017,3
参考書	①山口道昭著『福祉行政の基礎』(有斐閣,2016,10)　②畑本裕介著『社会福祉行政ー行財政と福祉計画』(法律文化社,2012,4)　③神野直彦・山本隆・山本惠子編著『社会福祉行財政計画論』(法律文化社,2011,7)　④石川久著『図解福祉行政はやわかり』(学陽書房,2014,12)　⑤竹端寛・伊藤健次・望月宗一郎・上田美穂編著『自分たちで創る現場を変える地域包括ケアシステムーわがまちでも実現可能なレシピ』(ミネルヴァ書房,2016,3)
留意事項	下記について理解した上で履修されたし。 ①現代社会の動きに対応するため、新聞・雑誌等に常に目を通しておく。 ②時事問題を各自が取り上げ、それに基づきディスカッションができるようになる。 ③個別の発表内容を限られた時間に、必要な資料に基づき伝えることができるようになる。 ④筆記試験については、テキストの持ち込みを可とする。
オフィスアワー	講義初回時にお知らせします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。 また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。

授　業　名	**社会福祉行政**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～社会福祉とは～	（内　　容）本講の進め方、成績評価の方法について解説した後、「社会福祉」の理解に向けた復習を行う。 （必要な準備）テキスト第１章（pp.1-8)を読んでおく。（４５分）
第2回	福祉行政の組織と専門職について	（内　　容）福祉行政の理解ならびに社会福祉の実施体制について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第２章(pp.10-31)を読んでおく。（４５分）
第3回	福祉行政と福祉事務所について	（内　　容）福祉行政における福祉事務所の位置づけやその役割について理解を深める。 （必要な準備）テキスト第３章(pp.32-45)を読んでおく。（４５分）
第4回	社会福祉専門職の役割について	（内　　容）福祉行政や施設にいる社会福祉専門職について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第４章(pp.46-60)を読んでおく。（４５分）
第5回	「措置」から「契約」への移行について	（内　　容）社会福祉基礎構造改革について学び、措置から契約へと移行した社会背景について理解する。 （必要な準備）テキスト第６章(pp.73-87)を読んでおく。（４５分）
第6回	福祉行政と地方分権改革について	（内　　容）地方分権改革を踏まえた福祉行政について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第５章(pp.61-72)を読んでおく。（４５分）
第7回	福祉財政と社会保障① ～社会福祉の位置づけと国の福祉予算～	（内　　容）国の一般会計予算に占める「社会保障関係費」について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第７章(pp.88-106)を読んでおく。（４５分）
第8回	福祉財政と社会保障② ～地方自治体と民間社会福祉事業～	（内　　容）地方自治体や民間社会福祉事業の財政基盤について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第８章(pp.107-123)を読んでおく。（４５分）
第9回	福祉財政と社会保障③ ～市町村の福祉財源～	（内　　容）市町村の福祉財源の概況と民生費について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第９章(pp.124-137)を読んでおく。（４５分）
第10回	福祉計画の意義と目的について	（内　　容）福祉計画の意義・目的・法的位置付けについて理解する。 （必要な準備）テキスト第１０章(pp.140-153)を読んでおく。（４５分）
第11回	高齢者に関する福祉計画について	（内　　容）1980年代以降の高齢者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第１１章(pp.154-172)を読んでおく。（４５分）
第12回	障害者に関する福祉計画について	（内　　容）1980年代以降の障害児者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第１２章(pp.173-187)を読んでおく。（４５分）
第13回	地域福祉に関する福祉計画について	（内　　容）地域福祉における福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第１３章(pp.188-202)を読んでおく。（４５分）
第14回	子ども・子育てに関する福祉計画について	（内　　容）子どもや子育てに関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第１４章(pp.203-216)を読んでおく。（４５分）
第15回	まとめにかえて ～自分らしく生きることのできる社会とは？～	（内　　容）社会福祉行政の制度改革のねらいと地域住民のニーズへの対応は連動しているのかを考え、これからの展望についてディスカッションをする。 （必要な準備）テキスト第１５章（pp.217-227)を読み、自分の考えをまとめておく。（９０分）

授業名	**権利擁護の実際**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Actual Conditions of Right Protection	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**大西　雅裕**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	ソーシャルワークと法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）の概要とその実際、成年後見制度に関する権利擁護活動について理解することを目的とする。社会福祉協議会、法務局、家庭裁判所等の組織団体の役割及び関連する専門職の役割を認識する。具体的には、認知症高齢者、被虐待児・者、非行少年、ホームレス、知的障害者、精神障害者等への支援対応の実際について事例を通して学んでいく。講義形式を基本とするが、学生にも発表してもらう。
学習成果到達目標	1）相談援助活動と法制度について理解できる。 2）人権と成年後見制度について理解できる。 3）実際的事例を通して制度・支援の実際について理解できる。
評価方法	定期試験（ 85 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 15 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	資料等によって講義する。
参考書	新・社会福祉士養成講座１９ 権利擁護と成年後見制度　第４版　中央法規出版 額田洋一監修　「成年後見制度とは・・・」社会福祉法人　東京都社会福祉協議会 その他適宜紹介する
留意事項	積極的な学習態度で授業に臨むこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する等で対応します。

授　業　名	**権利擁護の実際**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンスと権利擁護	（内　　容）ガイダンスと権利擁護について （必要な準備）基本的人権について予習する
第2回	法制度についての理解を深める	（内　　容）日本の法体系について理解する （必要な準備）日本国憲法について予習する
第3回	成年後見制度はなぜ必要なのか	（内　　容）成年後見制度の背景を知る （必要な準備）身近な人権について予習する。
第4回	成年後見制度の概要（あらまし）	（内　　容）制度の概要を知る （必要な準備）制度の概要について予習する
第5回	補助制度について	（内　　容）補助制度の概要 （必要な準備）補助人等について予習する
第6回	保佐制度について	（内　　容）保佐制度の概要 （必要な準備）保佐任等について予習する
第7回	後見制度について	（内　　容）後見制度の概要を知る （必要な準備）制度についての事前学習をする
第8回	成年後見人等と成年後見監督人等	（内　　容）後見人の選任とその監督人について知る （必要な準備）後見人について予習する
第9回	制度の利用手続き	（内　　容）制度利用の流れを知る （必要な準備）機関組織について予習する
第10回	権利擁護に関わる機関	（内　　容）家庭裁判所等の機関について知る （必要な準備）機関等の役割内容を予習する
第11回	任意後見制度・日常生活自立支援事業について	（内　　容）高齢者の人権について考える。 （必要な準備）事例について予習してくる
第12回	権利擁護に関わる障害者事例の検討	（内　　容）障害者事例を通して考える （必要な準備）事例の予習をする。
第13回	権利擁護に関わる高齢者事例の検討	（内　　容）事例を通しての理解 （必要な準備）事例について事前学習する
第14回	人権侵害についての権利擁護活動の実際	（内　　容）人権侵害事例の検討 （必要な準備）事例について事前学習する
第15回	成年後見制度とそのまとめ	（内　　容）まとめ （必要な準備）全体について質問項目を考える

授業名	**男女共同参画社会論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Gender Equality	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**斧出　節子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、ポスト経済成長時代の社会形成にも重要である。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。				
学習成果到達目標	1）日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2）受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3）具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。				
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（積極的な授業への取り組み　　）　□（　　）			
テキスト	『未来をひらく男女共同参画－ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）				
参考書	『女性学・男性学　ジェンダー論入門』伊藤公男ほか（有斐閣アルマ）、『はじめて学ぶジェンダー論』伊田広行（大月書店）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか（有斐閣）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、そのほか適宜紹介する。				
留意事項	ジェンダー論を履修しておくことが望ましい。参加型の授業を目指すので、授業内での積極的な発言を求める。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授　業　名	**男女共同参画社会論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション―男女共同参画とは―	（内　　容）男女共同参画社会とは何かについてについて理解する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	ジェンダーとは何か	（内　　容）ジェンダーという概念について理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第3回	メディアのなかの男女共同参画	（内　　容）メディアが男女共同参画に与える影響について理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第4回	CM分析	（内　　容）グループごとに現在のCMについて男女共同参画の視点から分析する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第5回	CM分析のグループ発表	（内　　容）各グループごとにCM分析の結果を発表する。 （必要な準備）前回分析したことをまとめておく。(30分)
第6回	アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点からの検証	（内　　容）アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点から分析された資料を検討する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく。(30分)
第7回	教育における男女共同参画：教科書	（内　　容）教科書における男女共同参画について考える。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第8回	スウェーデンにおける中学校社会科の教科書分析	（内　　容）男女共同参画の視点からスウェーデンの中学校の教科書について分析する。 （必要な準備）配布資料を読んでおく。(30分)
第9回	日本とスウェーデンの中学校社会科の教科書の比較	（内　　容）前回の分析について発表する。 （必要な準備）発表の準備をしておく。(30分)
第10回	法律と男女共同参画	（内　　容）法律における男女共同参画の現状について学ぶ。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第11回	法律における男女共同参画の実態	（内　　容）法律における男女共同参画の課題について考える。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第12回	就業と男女共同参画	（内　　容）就業に関する男女共同参画の現状について考える。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第13回	男女共同参画と子育て：母親	（内　　容）子育てにおける母親の現状と課題について理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第14回	男女共同参画と子育て：父親	（内　　容）子育てにおける父親の現状と課題について理解する。 （必要な準備）テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第15回	全体のまとめと振り返り	（内　　容）これまでのまとめと振り返りをする。 （必要な準備）各自、授業を振り返っておく(30分)

授業名	**情報ネットワーク論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Infomation Network	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	情報ネットワークの急速な発展は、社会に様々な変化を起こすとともに、大きな可能性を秘めている。その反面、これまでにはない新たな社会問題にも直面する。授業では、情報ネットワークに対する幅広い基礎知識との活用力の育成が求められている。テキストでの学習を踏まえ、授業の後半は、グループ学習を導入して、わたしたちの暮らしと情報ネットワークの関係をケーススタディによって知識・理解を深める。その中で、情報倫理と情報の安全性を厳守し、情報ネットワークを利用できることをめざす。
学習成果到達目標	1）普段利用している情報ネットワークの基礎的な仕組みを説明できる 2）情報ネットワークの活用や安全性を考えたり、専門家に質問したりできるようになる 3）情報ネットワークを利用する場合、大学生として、社会人として求められる情報倫理が説明でき、実践できる
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	草野真一（2014）メールは届くのか―インターネットのしくみがよくわかる，講談社 草野真一（2015）SNSって面白いの？何が便利で、何が怖いのか，講談社
参考書	その他、適宜、授業中に紹介する
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、25%が授業でのグループ学習や個人学習の成果、25%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカードの内容や授業進捗への貢献で評価する。定期試験のレポート内容については、授業時に詳しく説明をするが、15回の授業を通して学んできた成果を集約したものとする。グループ学習や個人学習でまとめた資料を文章化しレポートにまとめ、各人の授業の学びの記録と気づきがわかるものとする。したがって、毎回の授業の出席および予習や復習の学修成果がレポートの出来に直結しているものとみなす。
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：１号館３階）

授　業　名	**情報ネットワーク論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	情報ネットワークの基礎① インターネットの誕生と発展を説明できる	（内　　容）インターネットの歴史を学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでくる 予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.186～204
第2回	情報ネットワークの基礎② デジタルデータの特徴を説明できる	（内　　容）デジタルデータの特徴について学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.14～29
第3回	情報ネットワークの基礎③ ネットワークのプロトコルの必要性を説明できる	（内　　容）プロトコルについて学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.30～41
第4回	情報ネットワークの仕組み① ウェブページを閲覧できる仕組みを説明できる	（内　　容）ウェブページの閲覧ができる仕組みを学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.44～58
第5回	情報ネットワークの仕組み② 電子メールの通信の仕組みを説明できる	（内　　容）電子メールが届く仕組みを学ぶ （必要な準備）予習：テキストpp.『メールはなぜ届くのか』pp.58～86
第6回	情報ネットワークの仕組み③ クラウドサービスの特徴と危険性を説明できる	（内　　容）クラウドサービスの特徴について学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.88～119
第7回	情報ネットワークの仕組み④ パケット通信とIPアドレスについて説明できる	（内　　容）パケット通信とIPアドレスについて学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.122～160
第8回	情報ネットワークの仕組み⑤ プロトコルとOSI参照モデルについて説明できる	（内　　容）OSI参照モデルについて学ぶ （必要な準備）予習：テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.160～184
第9回	情報ネットワークとネットコミュニケーション① ソーシャルメディア	（内　　容）ソーシャルメディアの「ソーシャル」の意味を理解する （必要な準備）予習：テキスト『SNSって面白い？』「ソーシャル」とはなにか を一読してくる
第10回	情報ネットワークとネットコミュニケーション② さまざまなSNS	（内　　容）各種SNSの長所と短所を理解する （必要な準備）予習：テキスト『SNSって面白い？』いろいろなSNS を一読してくる
第11回	情報ネットワークとネットコミュニケーション③ SNSを支えるテクノロジー	（内　　容）SNSの発展を支える情報テクノロジーについて理解する （必要な準備）予習：テキスト『SNSって面白い？』SNSの発展を可能にしたテクノロジー を一読してくる
第12回	情報ネットワークとネットコミュニケーション④ SNSがもたらす私たちの暮らしの変化	（内　　容）SNSとわたしたちの暮らしや働き方について理解する （必要な準備）予習：テキスト『SNSって面白い？』SNSがもたらすもの を一読してくる
第13回	情報ネットワークとネットコミュニケーション⑤ SNSのより便利により有効に活用するためには	（内　　容）状況に応じたSNSの活用術を理解する （必要な準備）予習：テキスト『SNSって面白い？』経験者が語るSNS利用術 を一読してくる
第14回	情報ネットワークとIoT わたしたちの生活を支えるIoTの技術とその効果や影響について具体的な事例をあげながら説明することができる。	（内　　容）IoTの技術について、その特徴とわたしの生活に与える効果について学ぶ。 （必要な準備）IoTの技術について、新聞や雑誌、Webサイトなどの各記事のなかから、自身がもっとも興味関心を受けた内容について、発表できるように、資料をまとめてくる。
第15回	これまでの情報ネットワークに関する学習を踏まえて、メールはなぜ届くのか、なぜインターネットから情報を得ることができるのか、それぞれのもっとも興味をもった観点から説明することができる。	（内　　容）15回の学習を通して、情報ネットワーク技術のこれまでの発展とこれからの展望を自ら描く。 （必要な準備）授業を通してもっとも興味関心をもったテーマに沿って自ら学習した結果を発表できるようにまとめてくる。

授業名	**社会調査の基礎**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Basics of Social Survey	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	＜授業の概要＞ 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史的変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても教授する。
学習成果到達目標	1）社会調査の種類や方法・手順が理解できるようになる。 2）調査設計の流れが理解できるようになる。 3）新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	玉野和志,2008,『実践社会調査入門? 今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社.
参考書	適宜、紹介します。
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**社会調査の基礎**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	（内　　容）社会調査の内容について説明します。 （必要な準備）テキスト『第1章　社会調査にできること』を読んでおく（60分）。
第3回	社会調査の倫理について	（内　　容）社会調査における倫理について説明します。 （必要な準備）新聞などでおこなわれるアンケート調査など収集してみる（60分）。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	（内　　容）社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 （必要な準備）テキスト4ページから14ページの内容を整理しておく（60分）。
第5回	社会調査の種類Ⅰ 目的による分類について?	（内　　容）社会調査の3つの方法について説明します。 （必要な準備）テキスト「第2章　社会調査とはどんなものか」を読んでおく(60分)。
第6回	社会調査の種類Ⅱ 方法による分類について--量的調査?	（内　　容）アンケート調査について説明します。 （必要な準備）テキスト149ページから159ページまでを読んで整理してみる（60分）。
第7回	社会調査の種類Ⅲ 方法による分類について--質的調査?	（内　　容）インタビューなど質的調査について説明します。 （必要な準備）テキスト63ページから76ページまでを読んで整理してみる(60分)。
第8回	社会調査の種類Ⅳ 統計的研究について	（内　　容）統計的な検定の考え方などについて説明します。 （必要な準備）テキスト「第6章　サーベイ調査の方法」を読んでおく(60分)。
第9回	社会調査の種類Ⅴ 事例研究について	（内　　容）事例研究について説明します。 （必要な準備）テキスト77ページから88ページまでを読んで整理してみる(60分)。
第10回	社会調査の種類Ⅵ 調査対象による分類について?	（内　　容）社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します(60分)。 （必要な準備）テキスト「第3章　社会調査はどうやるか」を読んでおく(60分)。
第11回	聞き取り調査の方法と手順 インタビューについて	（内　　容）インタビューの方法と手順について説明します。 （必要な準備）雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてくる(60分)。
第12回	書かれた資料の収集と分析の方法と手順 文献調査について	（内　　容）文献調査の方法と手順について説明します。 （必要な準備）テキスト「第5章　書かれた資料の収集と分析」を読んでおく(60分)。
第13回	アンケート調査の方法と手順 アンケート調査について	（内　　容）アンケート調査の方法と手順について説明します(60分)。 （必要な準備）新聞の世論調査の記事など、きちんとサンプリングされているアンケート調査を収集する(60分)。
第14回	社会調査の実例Ⅰ コミュニティ調査など	（内　　容）「コミュニティ調査の実際」について説明します。 （必要な準備）配布資料を読んでおく(60分)。
第15回	社会調査の実例Ⅱ 家族調査など	（内　　容）「家族調査の実際」について説明します。 （必要な準備）配布資料を読んでおく(60分)。

授業名	**消費者調査法**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Consumer Survey	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	これまで、消費者は、製品の情報をテレビや雑誌などのマスメディアや知人から得ていました。それが今日では、全く会ったことのない人のブログを読み、その人のコメントにひかれてネットから簡単にモノを買うようになりました。インターネットの普及により、個人がアクセスできる情報は増え、情報は「企業から消費者」という流れだけでなく、「消費者から消費者」へと展開するようになっています。そのような時代になっても「欲しい」と感じてもらえる消費をつくるためには、どのようなニーズがあるのか分かる必要があり、リサーチはそのために有効な手段です。本授業では、リサーチの手順・仕方について学びます。
学習成果到達目標	1）マーケティングにおける調査設計の流れが分かるようになる。 2）マーケティングに関するデータを読むことができるようになる。 3）マーケティングに関わる妥当な資料を収集することができるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	玉野和志,2008,『実践社会調査入門-今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社.
参考書	適宜、紹介します。
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**消費者調査法**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	分析とは何か	（内　　容）分析とは何かについて説明します。 （必要な準備）自分の関心のあることを整理してきてください（60分）。
第3回	調査設計の準備について	（内　　容）調査設計の内容について説明します。 （必要な準備）「食」に関して、自分の関心のあることを整理してきてください(60分)。
第4回	観察・聞き取りの手順について	（内　　容）観察・聞き取りの手順について （必要な準備）自分の関心のあることについて、観察やインタビューをする対象について整理してきてください(60分)。
第5回	アンケート調査の進め方-手法について	（内　　容）アンケート調査の手法について （必要な準備）自分の関心のあることに関する調査票を収集してきてください(60分)。
第6回	データの捉え方	（内　　容）データの捉え方について （必要な準備）家計調査の内容について調べてきてください(60分)。
第7回	グラフ化について	（内　　容）データのグラフ化について （必要な準備）自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書果を比較してみて、どのようなグラフが示されているのか整理してきてください（60分）。
第8回	文章化について	（内　　容）データの文章化 （必要な準備）自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書の結果を比較してみて、どのようにまとめられているのか整理してきてください(60分)。
第9回	政府による統計データを利用するⅠ	（内　　容）信頼性の高いデータについての見極め方 （必要な準備）家計調査の中で、自分の関心のあることについて調べてみてください(60分)。
第10回	政府による統計データを利用するⅡ	（内　　容）統計データの加工の仕方について （必要な準備）家計調査以外の政府統計の中で、興味・関心のあるデータを、いくつか見つけてください（60分）。
第11回	政府による統計データを利用するⅢ	（内　　容）データの結果におけるディスカッション （必要な準備）収集してきたデータを整理して、そのデータが示す内容について記述してきてください(60分)。
第12回	仮説をたてる	（内　　容）仮説のたてかたについて （必要な準備）これまで整理してたデータを参照しながら、仮説をたててみてください(60分)。
第13回	検証する	（内　　容）検証の仕方について （必要な準備）仮説の検証をしてきてください。もし、仮説にあてはまらなかった場合、その原因も考えてきてください（60分）。
第14回	報告書の作成	（内　　容）報告書の作成について （必要な準備）仮説をたて、検証した結果について整理してきてください（60分）。
第15回	総括	（内　　容）総括 （必要な準備）これまでの学習を振り返ってきてください(60分)。

授業名	**経営学総論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Business Administration	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**大谷　和海**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	本講座では、受講生がはじめて経営学を学ぶことを意識して、経営学入門テキストを利用しわかりやすく講義をするようにつとめます。具体的には、経営学の対象である企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いて授業を展開します。受講者には、積極的な授業参加をお願いします。
学習成果到達目標	1）企業とは何か、株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。 2）企業や経営について、具体的にイメージし、意見提言できる力を身につける。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（授業での質疑応答による理解力と回答力　） □（　）
テキスト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス。
参考書	授業内で適宜紹介します。
留意事項	経営学に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q＆Aの力や、プレゼンテーション能力を身に着けてもらいます。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。

授　業　名	**経営学総論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス：経営学と現代家政学、経営学とはどんな学問か、会社の経営とはどんなことか（企業経営入門）（補章、第１章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業）（第２章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）（第３章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）（第４章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態）（第５章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）（第６章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか（生産管理）（第７章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	社員は仕事をどのように分担しているのか（職務構造と職務設計）（第８章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	社員はなぜ働くのか（モチベーションとリーダーシップ）（第９章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（雇用システム）（第10章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか（報酬制度）（第11章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度）（第12章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	会社はどのようにしてモノを売るのか（マーケティング）（第13章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営）（第14章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度）（第15章）	（内　　容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授業名	**循環型社会論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Resource-circulating Society	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。
学習成果到達目標	1）物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析してくことを試みられる力を身につけることができるようになる。 2）現代のライフスタイルを客観的に見ることができるようになる。 3）環境に関するデータを読むことができるようになる。
評価方法	定期試験（60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（　　） □（　　）
テキスト	授業時に資料を配布します。
参考書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ，『サスティナビリティ学③　資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住　明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会
留意事項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニッツペーペー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**循環型社会論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の内容と進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	環境問題の社会史Ⅰ　-産業公害から高速交通公害	（内　　容）まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 （必要な準備）自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください(60分)。
第3回	環境問題の社会史Ⅱ　-生活公害から地球環境問題	（内　　容）現代における環境問題を説明します。 （必要な準備）現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください(60分)。
第4回	開発と環境問題の歴史Ⅰ	（内　　容）今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 （必要な準備）現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください(60分)。
第5回	開発と環境問題の歴史Ⅱ	（内　　容）高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください(60分)。
第6回	開発と環境問題の現状	（内　　容）開発による環境問題の現状について説明します。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみてください(60分)。
第7回	地球環境問題Ⅰ	（内　　容）地球環境問題の概要について説明します。 （必要な準備）地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第8回	地球環境問題Ⅱ	（内　　容）地球環境問題の特徴について説明します。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、これまでの環境問題と地球環境問題との違いについて考察してみてください(60分)。
第9回	リスク社会	（内　　容）近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 （必要な準備）原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	（内　　容）科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 （必要な準備）自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください(60分)。
第11回	循環型社会への取組Ⅰ--生活様式の転換	（内　　容）循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 （必要な準備）自分の生活様式（ライフスタイル）を振り返りながら、「ごみ」をどのくらい出しているのか、消費のありかたについて整理してみてください(60分)。
第12回	循環型社会への取組Ⅱ-自然と社会をデザインする。	（内　　容）生物多様性の問題について考察します。 （必要な準備）生態系の問題について調べてきてください(60分)。
第13回	循環型社会への取組Ⅲ-コウノトリの野生復帰	（内　　容）豊岡市の事例について考察します。 （必要な準備）生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください(60分)。
第14回	効率よいエネルギー利用とは	（内　　容）効率よいエネルギー利用について考察します。 （必要な準備）省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください(60分)。
第15回	循環型社会の形成に向けて	（内　　容）総括として、循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 （必要な準備）授業で習ったことを適用・応用し、自分なりに循環型社会の形成に向けた課題について考察してみてください(60分)。

授業名	**多文化共生論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Multiculturalism	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**有井　晴香**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	世界中の多くの国々と同様に、現代日本社会は多文化社会である。人種・民族・言語・宗教・文化などの異なる多様な人々が一つの国・地域で共に生きるための「相互の承認と受容」はいかにして可能となるか。一方、経済活動や情報のネットワークがグローバル化した現代においては、地球全体を多文化社会とみなすこともできよう。本授業では、多文化共生のためのたしかな視座を得るための基礎概念について解説する。また、多文化状況に関する歴史的・現代的事象について概観し、現代日本社会の現状と将来について考察する。				
学習成果到達目標	1）「学習項目」と「学習内容」欄に記載のキーワードを正しく理解し、多文化状況がもたらしたさまざまな事象について知識を深める。 2）多文化共生のための方法について自ら考え、現代日本における多文化状況の将来を展望できるようになる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考力　　）　□（　　）			
テキスト	なし（プリント配布）				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	特になし。				
オフィスアワー	授業終了後に連絡をとる。				

授　業　名	**多文化共生論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション～文化について	（内　　容）本授業の進め方について、文化について （必要な準備）シラバスを読んでくる（5分）
第2回	文化とグローバリゼーション	（内　　容）文化の定義 （必要な準備）文化とは何か調べ、考えてくる（30分）
第3回	多文化社会	（内　　容）多文化状況の発生過程 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第4回	多文化共生の現状と課題	（内　　容）EU移民問題 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第5回	文化とマイノリティⅠ　難民・先住民	（内　　容）難民、先住民 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第6回	文化とマイノリティⅡ　セクシャルマイノリティ	（内　　容）LGBT （必要な準備）キーワード予習（30分）
第7回	宗教と共生	（内　　容）宗教多元主義 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第8回	移民と日本人	（内　　容）日本人移民、移民政策、移民国家 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第9回	在日外国人	（内　　容）在日コリアン （必要な準備）キーワード予習（30分）
第10回	国際結婚	（内　　容）国際結婚 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第11回	教育Ⅰ　識字・民族学校など	（内　　容）識字、民族学校、母語・継承語、ニューカマー （必要な準備）キーワード予習（30分）
第12回	教育Ⅱ　開発教育など	（内　　容）開発教育、国際理解教育 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第13回	政府・自治体	（内　　容）外国人施策、在留資格、国籍条項 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第14回	戦後保障問題	（内　　容）戦後保障、民族差別、ヘイトスピーチ （必要な準備）キーワード予習（30分）
第15回	外国人から見る日本文化	（内　　容）文化の相対化・客体化 （必要な準備）配布資料を読んで考えてくる。（30分）

授業名	**経済統計学**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Statistics for Business	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**中西　孝平**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	統計学をご存知ですか？みなさんも、新聞などでグラフや図表を見たことがあるでしょうし、アンケート調査だとか○○調査という言葉もよく耳にされていることと思います。また、○○調査と名前は付いていなかったとしても、私たちの社会では、商品の売れ行きを調べるなど、さまざまな調査が行われています。統計学は、このような調査を通して得られた数的なデータを分析して、その性質を調べる学問です。つまり、統計学があるからこそ、私たちは私たちの暮らす社会の姿や、そこで起きている現象について客観的に知り、さまざまな方策を考えることできます。この講義では、統計学の基礎的な知識を身につけると同時に、統計情報を分析できるようになることを目指します。難しい話は一切抜きにして、まずは統計に慣れることから始め、少しずつ統計学の考え方を身につけていきましょう。 ※　受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。				
学習成果到達目標	1）統計学の基礎がわかる。 2）統計学の基本的な考え方がわかる。 3）統計情報を分析できるようになる。				
評価方法	定期試験（60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（40 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　■実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（計算する力　　）　□（　　）			
テキスト	授業中に紹介します。				
参考書	授業中に紹介します。				
留意事項	一度欠席すると、次回の内容理解が困難になります。なので、できる限り、休まないでください。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**経済統計学**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	なぜ統計のことを勉強しなければいけないの？	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）
第2回	知ってるつもりの世界と統計でみる世界	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第3回	「びっくりグラフ」にご用心	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第4回	わかっているようで意外にわかっていない「平均」と「パーセント」	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第5回	平均だけで大丈夫？「代表値」と「ばらつき」のこと	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第6回	「関係がある」ってどういうこと？	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第7回	本当の原因を探してみよう	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第8回	その統計は信頼できますか？データの６Ｗ４Ｈ	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第9回	定義が変わると数値も変わる	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第10回	誰に聞くかで結果は変わる	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第11回	その結果は偶然？それとも・・・？	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第12回	聴き方しだいで答えは変わる	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第13回	統計の勘違いに気をつけよう（１）	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第14回	統計の勘違いに気をつけよう（２）	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。
第15回	「証拠に基づいた議論」を練習しよう	（内　　容）テキストの内容を基に、理解を進める。 （必要な準備）前回の内容を復習。

授業名	**都市と農村**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	City and Farming Village	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	「都市とは何か」という定義に関する歴史的な変遷と、日本の伝統的な農村社会のあり方についての把握を出発点として、地域社会の変容過程を理解していくために次のことを考察していく。講義形式の授業を通して、まず、日本の都市化の過程における都市－農村関係について、日本の農山漁村からの都市移住者の定住過程を視点に考察していく。次に、現在、グローバル化に伴う都市化の結果として生じた東京一極集中による地域間格差の問題が生じている中で、都市と農村は、どのような空間的・社会的な変容を遂げていったのかを考察していく。
学習成果到達目標	1）現代の地域社会の問題を、自分の日常生活の問題とつなげて考察することができるようになる。 2）自分の住んでいる地域の景観や人間関係のありかたについて、自分なりの分析ができるようになる。 3）地域社会に関するデータや資料などを読むことができるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
参考書	『都市の社会学　-社会がかたちをあらわすとき』町村敬志・西澤晃彦、2000、有斐閣アルマ
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もある）。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**都市と農村**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業についての説明 （必要な準備）
第2回	都市化とは何か？Ⅰ	（内　　容）都市を定義することについて説明します。 （必要な準備）「都会」の条件について考えてきてください（60分）。
第3回	都市化とは何か？Ⅱ	（内　　容）「都市」の定義について人間関係からのアプローチについて説明します。 （必要な準備）自分の住んでいる地域に人間関係について調べてください(60分)。
第4回	都市化とは何か？Ⅲ	（内　　容）「都市」の定義について、専門機関の立地からのアプローチについて説明します。 （必要な準備）ファッションなど流行を発信する機関は、どのような場所にあるか、整理してきてください(60分)。
第5回	伝統的な農村社会Ⅰ	（内　　容）自然村について説明します。 （必要な準備）「田舎」のイメージについて整理してきてください(60分)。
第6回	伝統的な農村社会Ⅱ	（内　　容）伝統的な農村社会における住民のまとまりのありかたについて説明します。 （必要な準備）自分の住んでいる地域において「田舎」的なことを整理してきてください(60分)。
第7回	日本社会における農村から都市への人口移動Ⅰ	（内　　容）日本社会における農村から都市への人口移動について、その実態を説明します。 （必要な準備）自分の家族のルーツを調べてきてください（60分）。
第8回	日本社会における農村から都市への人口移動Ⅱ	（内　　容）農村から都市への人口移動の結果、地域社会はどのように変容していったのか説明していきます。 （必要な準備）自分の住んでいる地域住民組織について調べてきてください(60分)。
第9回	郊外化Ⅰ	（内　　容）都市化から郊外化への展開について説明します。 （必要な準備）買い物など目的に応じて出かける場所を整理してきてください(60分)。
第10回	郊外化Ⅱ	（内　　容）ニュータウン開発が与える地域社会の影響について説明します。 （必要な準備）ニュータウンと呼ばれている地域を整理してきてください(60分)。
第11回	都心への人口回帰	（内　　容）郊外化から都心への人口回帰という過程について説明します。 （必要な準備）駅前など中心地域の特徴について整理してきてください(60分)。
第12回	グローバリゼーション	（内　　容）グローバリゼーションという現象について説明します。 （必要な準備）服や電化製品など日常品の製造元について整理してきてください（60分）。
第13回	都市再生の問題	（内　　容）地域格差の問題として、地方都市の現状について説明します。 （必要な準備）活性化している場と衰退していると思う場を整理してきてください(60分)。
第14回	世界都市の形成	（内　　容）世界都市について説明します。 （必要な準備）関西と関東の違いについて整理してきてください(60分)。
第15回	創造都市の形成	（内　　容）創造都市について説明します。 （必要な準備）現代芸術を取り込む試みを行っている地域を調べてきてください(60分)。

授業名	**現代企業論**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Modern Company	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**竹本　拓治**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	スタートアップからのステージごとの起業の成長戦略、企業組織、資金調達方法など、イノベーション主導型経済における企業のあり方について講義する。また、講義の内容を踏まえたディスカッションを通じて、受講者の様々な関心からのアウトプットによる課題解決型を目指す。 特に京都という地を活かしたビジネスを考えることを主たるテーマとする。				
学習成果到達目標	1）現代社会における企業の役割やあり方について理解する 2）意見口述、ディスカッションを通じて、課題解決能力の養成を図る。 3）プレゼンテーション能力の向上を図る。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	必要に応じ資料を配布する。				
参考書	三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年 （授業内容をより深く掘り下げたい場合に、おすすめする）				
留意事項	現代社会は刻一刻と変化し、多数の課題を抱えている。そのため、日頃より、報道番組やインターネット記事に着目して、現代社会の抱える課題の把握に努めてほしい。				
オフィスアワー	毎回授業終了後に実施する。				

授　業　名	**現代企業論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）企業の役割について事前に調べておく
第2回	アントレプレナーシップをもつこと	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）アントレプレナーシップについて事前に調べておく
第3回	イノベーションの概念と理解	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）イノベーションについて事前に調べておく
第4回	起業による社会的インパクト	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）起業が社会に与える好影響について事前に調べておく
第5回	現代社会におけるビジネスを考察する	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）この10年間で新しく生まれたビジネスについて事前に調べておく
第6回	マーケティングの基本	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）マーケティングの概念について事前に調べておく
第7回	販路開拓の考え方	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）ものがどのように消費者に届くかについて事前に調べておく
第8回	組織作りに必要なこと	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）企業内の組織について事前に調べておく
第9回	人材育成に関する考察	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）企業内研修の事例や内容について事前に調べておく
第10回	スタートアップの資金調達	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）資金調達の方法について事前に調べておく
第11回	現代社会とグローバルビジネス	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）海外と関係しているビジネスについて事前に調べておく
第12回	地域のビジネスの考察	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）京都独自のビジネスについて事前に調べておく
第13回	地域におけるビジネスの創造	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）これからの京都に適したビジネスについて考えておく
第14回	プレゼンテーション	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）与えられたテーマについてプレゼンテーションの準備を行う
第15回	これまでのまとめ	（内　　容）スライドを利用しながら、理解を進める。 （必要な準備）これまでの授業を総復習しておく

授業名	**和食調理学実習**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Food Cooking Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**塩田　二三子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	日本の食事スタイルは、その栄養バランスが優れていることから世界的にも注目されている。その一方で、国内では、和食文化の存在感が薄れつつあるという現実がある。本実習では、和食の基本的な調理技術とともに、その文化的価値や特徴について学び、これまで受け継がれてきた和食文化を次世代へつなぐ力、そして現代の生活スタイルにうまく取り入れる力をつけてもらいたい。
学習成果到達目標	①　調理理論に裏付けされた和食の調理法および調理技術を習得する。 ②　和食の献立を作成するための基礎知識とその調理法および盛り付けの技術を習得する。 ③　和食文化の特徴とその価値について理解し、次世代へつないでいける力を身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　■実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（主体性　）　□（　）
テキスト	これからの調理実習（基本手法から各国料理・行事食まで）　新調理研究会・編　オーム社 食生活実習を履修した人は、そのとき使ったテキストを使用してください。
参考書	
留意事項	４～５名を1グループとして実習を行います。 履修者の人数、調理技術の習熟度により、実習の内容や順番は変更します。
オフィスアワー	1回目の授業時で連絡します。

授　業　名	**和食調理学実習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）実習を履修するにあたっての注意 （必要な準備）
第2回	包丁法	（内　　容）和食の基本となる切り方、包丁の扱い方について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読んでおく（10分）
第3回	和菓子をつくる	（内　　容）和菓子づくり、日本茶について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第4回	和食の技術－味付飯	（内　　容）味付飯の種類や要領について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第5回	和食の技術－煮物	（内　　容）煮物の種類や要領について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第6回	和食の技術－揚げ物、和え物	（内　　容）揚げ物および和え物について、それぞれの種類や要領について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第7回	和食の技術－蒸し物	（内　　容）蒸し物の種類や要領について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第8回	和食の技術－魚の扱い方	（内　　容）魚のおろし方、焼き物の種類、串うちの基本について学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第9回	和食の技術－すし飯	（内　　容）すしについて、その種類と要領を学ぶ （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第10回	郷土料理	（内　　容）京のおばんざいについて調理を通して理解を深める （必要な準備）事前に配布する資料をよく読んでおくこと（30分）
第11回	精進料理	（内　　容）精進料理について調理を通して理解を深める （必要な準備）事前に配布する資料をよく読んでおくこと（30分）
第12回	おもてなし料理	（内　　容）松花堂弁当について調理を通して理解を深める （必要な準備）テキストの関連ページを読み、手順を確認しておくこと（30分）
第13回	懐石料理	（内　　容）懐石料理について調理を通して理解を深める （必要な準備）事前に配布する資料をよく読んでおくこと（30分）
第14回	おもてなし料理（自由献立）１・計画	（内　　容）次週の実施に向けて、献立の作成と手順の確認を行う （必要な準備）本時中に献立の完成、手順の確認ができるように、事前に資料を集め、ある程度グループで事前に相談を進めておくこと（60分）
第15回	おもてなし料理（自由献立）２・実施	（内　　容）おもてなし料理の調理と振り返り （必要な準備）手順の確認、材料の調達等、本時においてスムーズに調理が進められるように、グループで十分打ち合わせをしておくこと（60分）

授業名	**公衆衛生学ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Public Health	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**岩永　資隆・里村　一成**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。
学習成果到達目標	1）社会や環境と健康との関係が理解できる。 2）健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3）保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。
評価方法	定期試験（100 %）：■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ %）：□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（分析力　）　□（　）
テキスト	公衆衛生がみえる 2017-2018　医療情報科学研究所編　メディックメディア社(2018)
参考書	プリント配布
留意事項	日本、世界の健康情報に関心を持つこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。

授業名	**公衆衛生学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	公衆衛生と健康の概念	（内　　容）健康の概念、公衆衛生の定義 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション （必要な準備）健康の改善、公衆衛生について考えておく テキストの関連部分を読んでおく
第2回	疫学、保健統計	（内　　容）疾病・死亡の指標 統計解析の基礎 人口静態統計・人口動態統計 死因統計・疾病統計 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第3回	社会保障	（内　　容）社会保障制度 医療保障制度 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第4回	地域保健	（内　　容）保健所の機能 地域保健法 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第5回	成人保健と健康増進	（内　　容）健康増進法 健康日本21（第2次） 生活習慣病対策・がん対策 特定健康診査・特定保健指導 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第6回	母子保健	（内　　容）母子保健法・母体保護法・児童福祉法・児童虐待防止法 出産・育児に関わる制度 母子保健の統計 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく 現状について調べておく
第7回	高齢者保健	（内　　容）老人福祉法 高齢者医療確保法 介護保険法 在宅医療 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第8回	障害者福祉・精神保健福祉	（内　　容）障害者総合支援法 精神保健の統計 精神保健福祉法 精神障害者の社会復帰施策 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第9回	感染症対策１	（内　　容）感染症法 検疫法 予防接種法 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第10回	感染症対策２	（内　　容）主要感染症の動向 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく 現状について調べておく
第11回	食品保健	（内　　容）食品保健に関する法律 食品の表示 食品の種類と機能 食中毒 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第12回	学校保健 歯科保健	（内　　容）学校保健安全法 歯科保健 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第13回	産業保健	（内　　容）労働基準法 労働安全衛生法 労働者災害補償保険法 職業性疾病 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第14回	環境保健	（内　　容）地球環境の保全 公害対策 環境基本法 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第15回	国際保健	（内　　容）多国間協力 二国間協力 日本の経済協力 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく

授業名	**解剖・生理学Ⅰa・b**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Anatomy and Physiology Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**南山　求**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。　解剖・生理学Ⅰでは、身体の概要およびその構造と機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液・造血器・リンパ系、消化器系、呼吸器系および泌尿器系について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。 2）細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（　　%） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（判断力　　）　■（統合力　　）				
テキスト	高野廣子著　解剖生理学　南山堂				
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著　なるほど なっとく！ 解剖生理学　南山堂				
留意事項	学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	**解剖・生理学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	細胞　（細胞の基本構造とその機能）	（内　　容）細胞一般、細胞膜について （必要な準備）細胞について調べておく(60分)
第2回	組織　Ⅰ　（上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）	（内　　容）上皮細胞と支持組織について （必要な準備）細胞と組織について調べておく(60分)
第3回	組織　Ⅱ　（筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）	（内　　容）筋組織、神経組織など興奮性細胞について （必要な準備）興奮性細胞について調べておく(60分)
第4回	身体の概要　Ⅰ　（各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説）	（内　　容）体内の各臓器・器官の位置および構造について （必要な準備）臓器・器官の位置および構造について調べておく(60分)
第5回	身体の概要　Ⅱ　（骨格系および筋系の構造と機能の概説）	（内　　容）骨格系および筋系の構造と機能について （必要な準備）骨格系および筋系の構造と機能について調べておく(60分)
第6回	循環器系　Ⅰ　（心臓・血管の構造とその機能）	（内　　容）心臓および血管の構造と機能について （必要な準備）心臓および血管の構造と機能について調べておく(60分)
第7回	循環器系　Ⅱ　（血圧・循環調節機構）	（内　　容）血管と血圧の調節機能について （必要な準備）血管と血圧の調節機能について調べておく(60分)
第8回	血液・造血器・リンパ系　Ⅰ　（血液・造血器・リンパ系の構成と働き）	（内　　容）血液・造血器・リンパ系の構成と働きについて （必要な準備）血液・造血器・リンパ系の機能について調べておく(60分)
第9回	血液・造血器・リンパ系　Ⅱ　（血液・造血器・リンパ系の構成と働き）	（内　　容）血液型・血液凝固・線溶系について （必要な準備）血液型・血液凝固・線溶系について調べておく(60分)
第10回	消化器系　Ⅰ　（消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組み）	（内　　容）咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組みについて （必要な準備）咀嚼・嚥下の機構、消化管運動について調べておく(60分)
第11回	消化器系　Ⅱ　（肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能）	（内　　容）肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について （必要な準備）肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく(60分)
第12回	消化器系　Ⅲ　（食べ物の消化・吸収の仕組み）	（内　　容）食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて （必要な準備）食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて調べておく(60分)
第13回	呼吸器系　（呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構）	（内　　容）呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み （必要な準備）呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく(60分)
第14回	泌尿器系　Ⅰ　（腎臓の構造と尿の生成機構）	（内　　容）腎臓の構造と尿の生成機構について （必要な準備）腎臓の構造と尿の生成機構について調べておく(60分)
第15回	泌尿器系　Ⅱ　（腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構）	（内　　容）循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて （必要な準備）体液の恒常性維持について調べておく(60分)

授業名	**生化学ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Biochemistry	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**柴田　克己**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子レベルおよび遺伝子レベルで理解していく。				
学習成果到達目標	生体を構成する物質の性質および機能について理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（観察力　）　□（　）				
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第２版　薗田勝　編　羊土社				
参考書	使用しない。				
留意事項	栄養生化学の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	**生化学a・b**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生体を構成する成分について	（内　　容）生体を構成する成分の特徴を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	タンパク質の種類と構造	（内　　容）タンパク質の特性と構造を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	アミノ酸について	（内　　容）アミノ酸の種類と特性、反応性を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	必須アミノ酸	（内　　容）必須アミノ酸の化学構造の特徴と必要量を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	糖質の構造と機能	（内　　容）糖質の種類と構造特性と機能を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	脂質の構造と必須アミノ酸	（内　　容）脂質の種類と構造特性と機能を講義し，必須脂肪酸の名前と必要量を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	（内　　容）リン脂質の種類と構造特性と機能を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	ホルモンおよびホルモン様物質	（内　　容）ホルモンの化学的特徴を講義する．アミノ酸由来，ペプチド，コレステロール由来，脂肪酸由来について講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	多量必須栄養素	（内　　容）多量必須栄養素の化学的特性についてまとめて講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	ビタミンの名前と必要量	（内　　容）13種類のビタミンの名前と必要量を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	ビタミンの機能１	（内　　容）脂溶性ビタミン：A，Dのホルモン様機能，Eの抗酸化機能，Kの血液凝固機能と骨の硬質化機能．ビタミンC:抗酸化機能を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	ビタミンの機能２	（内　　容）B群ビタミン：補酵素機能を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	多量ミネラル（5種類）の名前と生理機能	（内　　容）5種類の多量ミネラル（電解質ミネラル：ナトリウム，カリウム．硬質ミネラル：カルシウム，マグネシウム，リン）の名前，必要量，生理作用を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	微量ミネラル（8種類）の名前と生理機能	（内　　容）8種類の微量ミネラル（鉄，亜鉛，銅，クロム，マンガン，ヨウ素，モリブデン，セレン）の名前，必要量，生理作用を講義する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	栄養素および生体成分のまとめ	（内　　容）1～14回の講義の内容を概説する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**栄養生化学ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Nutritional Biochemistry	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**田代　操**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本講義では、生化学で学んだ生体を構成する成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、解剖生理学で学ぶ個体レベルでの生体の機能とあわせ正常な人体の構造と機能について理解していく。				
学習成果到達目標	1）生体成分の代謝について相互の関連性を考慮しつつ理解できる。 2）生体成分の代謝と生体のホメオスタシスとの関連性を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用力　）　□（　）			
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第3版　薗田勝　編　羊土社				
参考書	使用しない。				
留意事項	生化学の復習をしっかりとしておくこと				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**栄養生化学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	代謝について	（内　　容）物質代謝（異化と同化）とエネルギー代謝 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	糖質の代謝（１）解糖系	（内　　容）解糖系とクエン酸回路 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	糖質の代謝（２）グリコーゲンの代謝	（内　　容）グリコーゲンの合成と分解 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	糖質の代謝（３）糖新生	（内　　容）糖新生と血糖値の調節 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	脂質の代謝（１）脂肪酸の代謝	（内　　容）脂肪酸の合成と分解 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	糖質の代謝（２）脂質の代謝	（内　　容）脂質の輸送と蓄積 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	タンパク質の分解とアミノ酸代謝（１）タンパク質の分解	（内　　容）タンパク質の分解とアミノ酸プール （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	タンパク質の分解とアミノ酸代謝（２）アミノ酸代謝	（内　　容）アミノ酸の炭素成分と窒素成分の代謝 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	生体エネルギー	（内　　容）呼吸鎖と酸化的リン酸化 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	中間代謝の概要	（内　　容）糖質代謝と脂質およびアミノ酸代謝の関連 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	ヌクレオチドの代謝	（内　　容）プリンヌクレオチドとピリミジンヌクレオチドの生合成と分解 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	遺伝子発現とその調節（１）セントラルドグマ	（内　　容）核酸とタンパク質の合成 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	遺伝子発現とその調節（２）調節	（内　　容）遺伝子発現の調節と遺伝子工学 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	ホメオスタシス	（内　　容）ホルモンと生体調節 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	生体防御機構	（内　　容）免疫の仕組みと特徴 （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**生化学実験ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Biochemistry	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**柴田　克己**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本科目では、生化学で学んだ個体を構成する成分について実験を通してその特質を確認し、正常な人体の仕組みについて理解を深めていく。また遺伝子多型に関する実験を通して遺伝子の発現に関する理解を深めていく。				
学習成果到達目標	1）生体を構成する成分について深く理解できる。 2）生体における遺伝子の発現について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（観察力　）　□（　）				
テキスト	生化学実験　田代操　編著　化学同人				
参考書	使用しない。				
留意事項	実験後レポートを作成し、次週 に提出する。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**生化学実験ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション（実験についての注意事項、レポート作成についてなど）	（内　　容）実験についての注意事項、レポートの作成法 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	実験の基礎事項（機器の取り扱いについて、データの処理についてなど）	（内　　容）実験機器の取り扱いとデータ処理 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	ニコチンアミドの定量１	（内　　容）ニコチンアミドの定量操作を通じて，天秤の操作，ミクロピッペットの操作，紫外分光口語系の操作方法を習得する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	ニコチンアミドの定量２	（内　　容）未知濃度のニコチンアミド水溶席の濃度を決定する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	アスコルビン酸の定量１	（内　　容）アスコルビン酸測定のための検量線を作成する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	アスコルビン酸の定量２	（内　　容）未知濃度のアスコルビン酸水溶席の濃度を決定する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	グルコースの定量１	（内　　容）グルコース測定のための検量線を作成する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	グルコースの定量２	（内　　容）未知濃度のグルコース水溶席の濃度を決定する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	遊離脂肪酸の定量１	（内　　容）遊離脂肪酸測定のための検量線を作成する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	遊離脂肪酸の定量２	（内　　容）飢餓状態と通常状態のラット血清中の遊離脂肪酸濃度を決定する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	酵素活性の測定１	（内　　容）ラット肝臓の3-ヒドロキシアンスラニル酸3,4-ジオキシゲナーゼ活性を測定方法を習得する． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	酵素活性の測定２	（内　　容）ラット肝臓の3-ヒドロキシアンスラニル酸3,4-ジオキシゲナーゼのKM値とVmax値を求める． （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	遺伝子多型分析①アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅	（内　　容）アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	遺伝子多型分析②電気泳動による分析とパッチテストによる確認	（内　　容）電気泳動による遺伝子分析とパッチテスト （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	全実験結果の考察	（内　　容）実験結果の考察 （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**食品学Ⅰa・b**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food Science Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**堀越　昌子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	食品中の成分や特性、また、食品の生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。また食品分類法、日本食品標準成分表の利用法を学ぶ。食品の栄養特性（タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）と物性を把握するとともに、機能性成分の構造と特性を理解する。				
学習成果到達目標	1）食品の分類と食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 2）食品の加工・貯蔵・調理における食品の取扱法、管理法が理解できる。 3）食品中の栄養成分、機能性成分から、食品の機能を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用力 ） □（ ）				
テキスト	栄養科学シリーズNEXT「食品学 食べ物と健康」辻 英明・小西洋太郎 編 講談社サイエンティフィク				
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）				
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかり読むこと。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**食品学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割	（内　　容）食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	食品成分表とその変遷	（内　　容）食品成分表とその変遷、七訂日本食品標準成分表とその利用法 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	食品の分類と食品群	（内　　容）食品の分類法を学び、食品群ごとの特性をつかむ （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	食品の機能性　食品中の機能性成分	（内　　容）食品の機能性　食品中の機能性成分 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	食品成分（1）食品中の水と水分活性	（内　　容）食品中の水の働きと特性、水分活性と微生物の増殖 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	食品成分（2）炭水化物と食物繊維	（内　　容）食品中の炭水化物、多糖類、少糖類、食物繊維 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	炭水化物に富んだ食品　穀類、芋類	（内　　容）炭水化物に富んだ食品　穀類、芋類 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	炭水化物・食物繊維を含む食品　豆類、海藻類	（内　　容）炭水化物・食物繊維を含む食品　豆類、海藻類 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	食品成分（3）脂質の化学と機能、特性と性状	（内　　容）食品中の脂質の特性と性状、生理作用 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	脂質に富んだ食品　食用油脂の種類と性状、利用	（内　　容）食用油脂の種類と性状、利用 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	食用油脂の化学特性（けん化価、ヨウ素価）、油脂の劣化の仕組み	（内　　容）食用油脂の化学特性（けん化価、ヨウ素価）、劣化の仕組みと管理 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	食品成分（4）タンパク質	（内　　容）タンパク質の種類、食品中のタンパク質 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	食品タンパク質の栄養価と必須アミノ酸	（内　　容）食品タンパク質の栄養価の評価法とアミノ酸価 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	タンパク質に富んだ食品　豆類、魚介類	（内　　容）タンパク質に富んだ食品　豆類、魚介類の特性と利用法を学ぶ （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	タンパク質に富んだ食品　肉類、卵類、乳類	（内　　容）タンパク質に富んだ食品　肉類、卵類、乳類の特性と利用法を学ぶ （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**食品学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food Science Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**堀越　昌子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	人間と食べ物のかかわりについて、食品の歴史的変遷と食物連鎖の両面から理解する。栄養成分のビタミンと無機質の特性を把握し、それらを含む食品と取り扱いを理解する。また嗜好性成分とその機能、微生物利用食品の成分と特性、利用法を習得する。食品成分の変化、調理特性、食品物性、食品の規格と表示を理解する。				
学習成果到達目標	1）ビタミン、無機質を含む食品の特性、加工、利用法が理解できる。 2）食品の嗜好性成分、食品の調理・加工特性、食品の規格・表示が理解できる。 3）食品が健康に与える影響と役割を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（汎用力 ） □（ ）				
テキスト	栄養科学シリーズNEXT「食品学　食べ物と健康」辻 英明・小西洋太郎 編　講談社サイエンティフィク				
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）				
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかり読むこと。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**食品学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食品成分　ビタミン　ビタミンの化学と機能 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン	（内　　容）ビタミンの化学と機能、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	食品成分　無機質　無機質の化学と機能	（内　　容）食品成分　無機質　無機質の化学と機能 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	ビタミンと無機質に富んだ食品　a.野菜類	（内　　容）ビタミンと無機質に富んだ食品　野菜類の分類と利用法 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	ビタミンと無機質に富んだ食品　b.果実類	（内　　容）ビタミンと無機質に富んだ食品　果実類の分類と利用 （必要な準備）の特性と利用テキスト該当部分の予習
第5回	ビタミンと無機質に富んだ食品　c.きのこ類 d．海藻類	（内　　容）ビタミンと無機質に富んだ食品であるきのこ類、海藻類の利用 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	食品中の嗜好性成分　色素成分の種類と特徴	（内　　容）食品中の嗜好性成分 色素の種類と特徴、および機能性 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	食品中の嗜好性成分　呈味成分	（内　　容）食品中の嗜好性成分 呈味成分の種類と特徴 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	食品中の嗜好性成分　香気成分	（内　　容）食品中嗜好性成分　香気成分の種類と特徴 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	食品中の有害成分と化学	（内　　容）食品中の有害成分の特徴と処理法、防御法 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	加工・保蔵における食品成分変化　酸化、加熱、酵素反応、アミノカルボニル反応	（内　　容）加工・保蔵における食品成分の変化　酸化、加熱、酵素反応、アミノカルボニル反応、成分間の反応、物性の変化 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	食品成分の調理特性	（内　　容）食品成分の調理特性と調理操作 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	食品物性　コロイド、レオロジー、テクスチュア	（内　　容）食品物性　コロイド、レオロジー、テクスチュア （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	食品の官能検査と評価法	（内　　容）食品の官能検査と評価法、嗜好試験 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	食品の規格と表示　国内規格と国際規格、表示	（内　　容）食品の規格と表示　国内規格と国際規格、表示 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	総まとめ　食品の摂取と健康	（内　　容）総まとめ　食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わり （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**食品学実験Ｉａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of food science Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**高村　仁知**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	食品中に存在する一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）の分析を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。食品分析試料を調製し、その成分を定性分析で検出するとともに定量する。				
学習成果到達目標	1）分析器具、機器の使用法、食品の一般成分の分析法を修得し、成分の理解ができる。 2）食品成分の分析と定量実験を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（観察力　　）　□（　　）			
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験　村上俊男編著　建帛社、配布プリント				
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）				
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**食品学実験Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、基本操作法	（内　　容）食品成分分析の基本操作 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	卵の比重測定と鮮度検査	（内　　容）卵の比重測定と原理 食品の鮮度 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	比色分析～検量線の利用	（内　　容）吸光度測定 検量線の作成と利用 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	pH試験紙を用いた固体食品のpH測定	（内　　容）pH試験紙 固体食品のpH測定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	pHメーターを用いた液体食品のpH測定	（内　　容）pHメーター 液体食品のpH測定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	中和滴定による牛乳の酸度の測定	（内　　容）中和滴定による牛乳の酸度の測定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離と同定	（内　　容）ペーパークロマトグラフィー アミノ酸の分離同定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	薄層クロマトグラフィーによる色素の分離と同定	（内　　容）薄層クロマトグラフィー 色素の分離同定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	キレート滴定法による水の硬度測定	（内　　容）キレート滴定 水の硬度測定 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	糖質の定性反応による構造決定	（内　　容）糖質の構造 糖質の定性反応 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	食品中のビタミンの分析～飲料に含まれるビタミンCの定性と定量	（内　　容）飲料に含まれるビタミンCの定性と定量 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	食品中のビタミンの分析～食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用	（内　　容）食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	食品中の機能性成分の分析～緑茶飲料に含まれる緑茶タンニンの定量	（内　　容）没食子酸エチルを用いた検量線の作成 緑茶タンニンの定量 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	食品中の機能性成分の分析～茶葉抽出液に含まれる緑茶タンニンの定量	（内　　容）茶葉抽出液の調製 緑茶タンニンの定量 （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ	（内　　容）食品中の成分検出と特性のまとめ （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**調理学ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Introduction on Cooking	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**塩田　二三子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史的変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。				
学習成果到達目標	1）調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2）献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得している。 3）食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得している。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（分析力　　）　□（　　）				
テキスト	エスカベーシック　食べ物と健康－調理学－　渋川祥子編著　同文書院				
参考書	使用しない。				
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授業名	**調理学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（内　　容）調理学で何を学ぶか、なぜ学ぶか （必要な準備）テキストp.1～2をよく読んでおくこと。（10分）
第2回	おいしさに関する要因１（食べ物の因子）	（内　　容）食べ物の化学的特性、物理的特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.15～33をよく読んでおくこと。（30分）
第3回	おいしさに関する要因２（食べる人の因子）	（内　　容）人の特性要因とそれを取り巻く環境要因 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.33～34をよく読んでおくこと。（30分）
第4回	調理操作１（予備操作）	（内　　容）計測、洗浄、浸漬などの操作について （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.37および47～48をよく読んでおくこと。（30分）
第5回	調理操作２（非加熱操作）	（内　　容）生食などの注意事項 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.48をよく読んでおくこと。（30分）
第6回	調理操作３（加熱操作）	（内　　容）湿式、乾式、誘電・誘導それぞれの加熱の特徴 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.38～47をよく読んでおくこと。（30分）
第7回	調理操作４（調味）	（内　　容）調味料の特徴と調理操作について （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.15～24をよく読んで復習しておくこと。（30分）
第8回	植物性食品の調理特性１（穀類）	（内　　容）米、小麦の成分と調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.63～82をよく読んでおくこと。（30分）
第9回	植物性食品の調理特性２（豆類、イモ類）	（内　　容）豆類、イモ類の成分と調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.82～91をよく読んでおくこと。（30分）
第10回	植物性食品の調理特性３（野菜類、果実類など）	（内　　容）野菜、果物の成分と調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.92～114をよく読んでおくこと。（30分）
第11回	動物性食品の調理特性１（食肉・魚介類）	（内　　容）食肉、魚介類の体組織の構造と調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.117～133をよく読んでおくこと。（30分）
第12回	動物性食品の調理特性２（卵類、乳・乳製品）	（内　　容）卵の構造・成分および乳の成分と調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.133～147をよく読んでおくこと。（30分）
第13回	成分抽出素材・調味料の調理特性	（内　　容）でんぷん、ゲル化剤、砂糖、塩などの調理特性 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.149～164をよく読んでおくこと。（30分）
第14回	日本の食生活の変遷	（内　　容）日本の食事の形態の変遷 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.2～8をよく読んでおくこと。（30分）
第15回	献立作成と食事計画	（内　　容）栄養のバランスと献立の作成 （必要な準備）前回の復習をしておくこと。 テキストp.8～13をよく読んでおくこと。（30分）

授業名	**調理学実験ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Cookery Science	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**塩田　二三子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的変化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、調理にかかわる食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身につける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。				
学習成果到達目標	1）実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明する能力を修得している。 2）調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を修得している。 3）官能評価や機器による物性測定についてその方法を修得している。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（分析力　　）　□（　　）				
テキスト	プリント配布、調理学のテキスト（エスカベーシック　食べ物と健康－調理学－　渋川祥子編著　同文書院）を復習のため用いる				
参考書	使用しない。				
留意事項	プリントに目を通し、実験方法等を予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成、次週に提出すること。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	**調理学実験ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）実験を行う上での注意、基本操作 （必要な準備）
第2回	植物性食品の調理特性１（米）	（内　　容）米の種類とデンプン （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第3回	植物性食品の調理特性２（小麦粉）	（内　　容）小麦粉の種類とグルテン、添加物の影響 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第4回	植物性食品の調理特性３（いも）	（内　　容）デンプンの観察と加熱方法による変化 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第5回	植物性食品の調理特性４（野菜）	（内　　容）生野菜の放水と吸水 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第6回	動物性食品の調理特性１（鶏卵①：起泡性）	（内　　容）卵白の起泡性と安定性 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第7回	動物性食品の調理特性２（鶏卵②：熱凝固性）	（内　　容）ゆで卵、希釈卵液の熱凝固 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第8回	動物性食品の調理特性３（乳）	（内　　容）生クリームの泡立て （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第9回	抽出素材の調理特性１（ゲル化剤）	（内　　容）寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第10回	抽出素材の調理特性２（砂糖）	（内　　容）砂糖の加熱による変化 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第11回	抽出素材の調理特性３（油脂）	（内　　容）エマルションの中の油脂 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第12回	食品の官能評価	（内　　容）官能評価の手法 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第13回	だし汁に関する実験	（内　　容）さまざまなだし汁のうま味の特徴 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第14回	食品の物性測定１（テクスチャー測定法）	（内　　容）機器を使用したテクスチャーの測定 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）
第15回	食品の物性測定２（物性に影響を与える因子）	（内　　容）温度、水分、経過時間等が及ぼす影響 （必要な準備）事前に配布するプリントをよく読んでおく。（15分）

授業名	**調理学実習Ｉａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Practical Exercise Cooking I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**塩田　二三子**	対象学生	食物栄養1回生		

授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的変化を確認および把握する。
学習成果到達目標	1）調理の基本的な操作と基礎知識を修得している。 2）安全・栄養・嗜好性も考慮した食事を提供できる力を修得している。 3）調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的変化を関連付けて説明できる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■（基本的な調理技術の習得 ） □（ ）
テキスト	これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）　新調理研究会・編　オーム社 調理のためのベーシックデータ　女子栄養大学出版部 新カラーチャート　食品成分表　教育図書
参考書	使用しない。
留意事項	５～６名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。

授業名	**調理学実習Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理等）	（内　　容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項 （必要な準備）テキストp.2～3をよく読んでおくこと。(15分)
第2回	調理の基本（計量・包丁法）	（内　　容）計量と廃棄率、庖丁の扱い方と切り方 （必要な準備）テキストp.3～6をよく読んでおくこと。（15分）
第3回	日本料理の基礎１（炊く、ゆでる、だしをとる）	（内　　容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.8～9,21,24,27,223
第4回	日本料理の基礎２（すし飯、蒸す）	（内　　容）ちらしずし、茶碗蒸し （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.10,13～14,56,60,186
第5回	日本料理の基礎３（揚げる、和える）	（内　　容）天ぷら、和え物、すまし汁 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.8,18～21,28,51
第6回	日本料理の基礎４（焼く、煮る）	（内　　容）魚の照り焼き、炊き合わせ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.10～13,14～16,57
第7回	西洋料理の基礎１（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（内　　容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.126～127,223
第8回	西洋料理の基礎２（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（内　　容）ムニエル、サラダ、ゼリー （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.22～23,55,114～115,123,133
第9回	西洋料理の基礎３（パスタの扱い方）	（内　　容）スパゲティ、クッキー （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.128,137
第10回	中国料理の基礎１（湯をとる、炒める）	（内　　容）炒飯、湯菜 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.68～73,95,100
第11回	中国料理の基礎２（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（内　　容）炸菜、炒菜、点心 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.76,96,104
第12回	中国料理の基礎３（特徴的な調理法）	（内　　容）溜菜、拌菜 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.76,88
第13回	食べる機能に合わせた食形態の展開の基本（離乳食・介護食）	（内　　容）離乳食・介護食づくり （必要な準備）配布プリントをよく読んでおくこと。（15分）
第14回	菓子づくりの基本	（内　　容）米粉を使った和菓子 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.63,66
第15回	パン生地づくりの基本	（内　　容）ピザ、ラタトゥイユ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.129,166

授業名	**調理学実習Ⅱａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Practical Exercise Cooking Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**塩田　二三子**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	調理学実習Ⅰで学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表に基づく献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。				
学習成果到達目標	1）日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解を深めている。 2）季節のもてなし料理や行事食、郷土食についての知識を持ち、提供できる力を修得している。 3）給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる力を修得している。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		
評価基準	主たる評価の観点 □知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（調理技術の習得　　）　□（　　）				
テキスト	これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）　新調理研究会・編　オーム社				
参考書	使用しない。				
留意事項	５～６名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授業名	**調理学実習Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）調理学実習を受講するにあたっての諸注意 （必要な準備）
第2回	日本料理１（煮物、でんぷんの種類と特徴）	（内　　容）鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.54,64
第3回	日本料理２（味付飯、和え物の応用）	（内　　容）栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.48,204
第4回	日本料理３（刺身）	（内　　容）刺身、あら煮 （必要な準備）配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分）
第5回	西洋料理１（魚介だし、油脂の調理特性）	（内　　容）ブイヤベース、パウンドケーキ （必要な準備）配布プリントおよびテキストp.139を読み、手順をよく理解しておくこと。（30分）
第6回	西洋料理２（塊肉の調理、シュー生地）	（内　　容）ボルシチ、サラダ、シュークリーム （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.125,138,169
第7回	西洋料理３（パイ生地）	（内　　容）アップルパイ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.141
第8回	中国料理１（パン生地の応用、砂糖の調理特性）	（内　　容）肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、抜絲地瓜 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.89,101,106
第9回	中国料理２（魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方）	（内　　容）炒墨魚、冷拌 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.76,90
第10回	中国料理３（点心）	（内　　容）粽子、水果西米露 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.83,171
第11回	行事食	（内　　容）正月吉例料理、雑煮 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.45,178～180
第12回	郷土料理	（内　　容）京都のおばんざい （必要な準備）配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分）
第13回	テーブルセッティングとマナー	（内　　容）テーブルセッティングとマナーの基本 （必要な準備）テキストをよく読んでおくこと。（20分） p.34～37,72～73,110～113
第14回	自由献立１（計画）	（内　　容）班ごとにメニューを考案 （必要な準備）参考にするレシピを集めておくこと。（30分）
第15回	自由献立２（調理と評価）	（内　　容）班ごとに調理、全体で評価 （必要な準備）材料の準備、手順の確認をしておくこと。（30分）

授業名	**基礎栄養学ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Basic Nutrition	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	**田代　操**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。				
学習成果到達目標	1）栄養の概念について正しく理解できる。 2）食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて理解できる。 3）健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について正しく理解できる。 4）体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（栄養の全体像の把握　）　□（　）				
テキスト	サクセス管理栄養士講座　基礎栄養学（第4版）　鈴木和春・真鍋祐之・上原万里子　著　第一出版				
参考書	使用しない。				
留意事項	予習復習を必ず行うこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**基礎栄養学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	栄養の概念	（内　　容）栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割について （必要な準備）教科書を読んでおく
第2回	食物の摂取	（内　　容）摂食行動について （必要な準備）教科書を読んでおく
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態（１）消化器系	（内　　容）１．消化器系の構造と機能 ２．消化の概要 （必要な準備）教科書を読んでおく
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態（２）消化の調節	（内　　容）１．管腔内消化と膜消化 ２．栄養素別の消化・吸収 （必要な準備）教科書を読んでおく
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態（３）栄養素の体内動態	（内　　容）１．門脈系とリンパ系 ２．食物繊維の作用 （必要な準備）教科書を読んでおく
第6回	タンパク質の栄養（１）代謝	（内　　容）１．タンパク質・アミノ酸の体内代謝 ２．アミノ酸の臓器間輸送 （必要な準備）教科書を読んでおく
第7回	タンパク質の栄養（２）栄養	（内　　容）摂取するタンパク質の量と質の評価 （必要な準備）教科書を読んでおく
第8回	糖質の栄養（１）代謝	（内　　容）糖質の体内代謝 （必要な準備）教科書を読んでおく
第9回	糖質の栄養（２）血糖	（内　　容）血糖とその調節 （必要な準備）教科書を読んでおく
第10回	脂質の栄養（１）代謝	（内　　容）脂質の体内代謝 （必要な準備）教科書を読んでおく
第11回	脂質の栄養（２）栄養	（内　　容）摂取する脂質の量と質の評価 （必要な準備）教科書を読んでおく
第12回	ビタミンの栄養	（内　　容）１．ビタミンの種類と構造 ２．ビタミンの栄養学的機能 （必要な準備）教科書を読んでおく
第13回	ミネラルの栄養	（内　　容）ミネラルの種類と機能 （必要な準備）教科書を読んでおく
第14回	水・電解質の意義	（内　　容）水の出納と電解質代謝 （必要な準備）教科書を読んでおく
第15回	エネルギー代謝	（内　　容）エネルギー代謝の概念と測定法 （必要な準備）教科書を読んでおく

授業名	**基礎栄養学実験ａ・ｂ**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Basic Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	**田代　操**	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	基礎栄養学で学んだ栄養の意義について実験を通して深く理解していく。まず栄養素の消化・吸収に関する実験や生体内の栄養素の測定を通して、栄養素の体内動態とその生理的な意義について理解する。さらにエネルギー代謝測定を行い身体の活動とエネルギー代謝の関連性について深く理解する。				
学習成果到達目標	1）栄養素の代謝と生理的な意義について理解できる。 2）エネルギー代謝と身体活動の関連性について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 70 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（計画力 ） □（ ）				
テキスト	生化学実験　田代　操　編著　化学同人、およびプリント				
参考書	使用しない。				
留意事項	基礎栄養学と共に生化学の内容についても復習しておくこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	基礎栄養学実験ａ・ｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション（１）実験の基礎	（内　　容）1.実験の心構え 2.実験器具と機器操作の説明 （必要な準備）教科書を読んでおく
第2回	オリエンテーション（２）基本操作	（内　　容）%濃度やモル濃度の溶液調製 （必要な準備）教科書を読んで濃度の単位を理解しておく
第3回	in vitro 酵素消化（１）糖質	（内　　容）パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 （必要な準備）教科書を読んでおく
第4回	in vitro 酵素消化（２）脂質とタンパク質	（内　　容）パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 （必要な準備）教科書を読んでおく
第5回	肝臓グリコーゲンの分離と定量（１）分離	（内　　容）ラット肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 （必要な準備）教科書を読んでおく
第6回	肝臓グリコーゲンの分離と定量（２）定量	（内　　容）グリコーゲンの定量 （必要な準備）教科書を読んでおく
第7回	肝臓脂質の分離と定量（１）分離	（内　　容）ラット肝臓からの脂質の抽出分離 （必要な準備）教科書を読んでおく
第8回	肝臓脂質の分離と定量（２）定量	（内　　容）ラット肝臓からの中性脂肪とコレステロールの定量 （必要な準備）教科書を読んでおく
第9回	尿中ビタミンの定量（１）前処理	（内　　容）尿中総ビタミンCの調製 （必要な準備）教科書を読んでおく
第10回	尿中ビタミンの定量（２）定量	（内　　容）尿中総ビタミンCの定量 （必要な準備）教科書を読んでおく
第11回	ミネラルの定性と定量（１）定性	（内　　容）尿中ミネラルの定性 （必要な準備）教科書を読んでおく
第12回	ミネラルの定性と定量（２）定量	（内　　容）尿中Clイオンの定量 （必要な準備）教科書を読んでおく
第13回	エネルギー代謝（１）行動調査	（内　　容）行動調査による消費エネルギーの算出 （必要な準備）エネルギー代謝について復習しておく
第14回	エネルギー代謝（２）食事調査	（内　　容）食事調査による摂取エネルギーの算出 （必要な準備）食事摂取基準について復習しておく
第15回	まとめ	（内　　容）行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する （必要な準備）行った実験の内容を確認しておく

授業名	**健康管理論ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Health Management	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**里村　一成・岩永　資隆**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。ＷＨＯでの健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。
学習成果到達目標	健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。
評価方法	定期試験（100 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ %）：□筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（分析力 ） □（ ）
テキスト	社会・環境と健康 健康管理概論 第３版　東あかね／關戸啓子／久保加織・編　講談社サイエンティフィック　(2017)
参考書	プリント配布
留意事項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること
オフィスアワー	授業終了後に実施

授　業　名	**健康管理論ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	世界の健康	（内　　容）健康の概念の変遷 （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第2回	日本の健康 １．日本における健康の概念の変遷	（内　　容）第一次国民健康づくり対策 第二次国民健康づくり運動 健康日本21 （必要な準備）健康日本21について調べておく
第3回	日本の健康 ２．日本における健康の現状	（内　　容）寿命と死亡 日本の健康管理システムの変遷と現状 日本の医療と福祉施設 （必要な準備）日本の健康管理システムについて調べておく
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	（内　　容）健康管理にかかわる施設 メディカルスタッフとコメディカルスタッフ 介護・福祉関連スタッフ （必要な準備）保健医療、介護・福祉施設について調べておく
第5回	胎児と妊婦の健康 １．胎児と妊婦の健康管理システム	（内　　容）母子保健法 妊婦健康診査 健やか親子21 （必要な準備）健やか親子21について調べておく
第6回	胎児と妊婦の健康 ２．胎児と妊婦の健康の現状と課題	（内　　容）胎児と妊婦の健康にかかわる指標 （必要な準備）胎児と妊婦における食育について調べておく
第7回	乳児の健康 １．乳児の健康管理システム	（内　　容）乳児健康診査と予防接種 （必要な準備）乳児健康診査について調べておく
第8回	乳児の健康 ２．乳児の健康の現状と課題	（内　　容）乳児の健康にかかわる指標 乳幼児突然死症候群 （必要な準備）乳児における食育について調べておく
第9回	幼児の健康	（内　　容）幼児の健康管理システム 幼児の健康の現状と課題 （必要な準備）幼児における食育について調べておく
第10回	児童の健康	（内　　容）児童の健康管理システム 児童の健康の現状と課題 （必要な準備）児童における食育について調べておく
第11回	生徒の健康	（内　　容）生徒の健康管理システム 生徒の健康現状と課題 （必要な準備）中学生、高校生における食育について調べておく
第12回	学生の健康	（内　　容）学生の健康管理システム 学生の健康の現状と課題 （必要な準備）学生における食育について調べておく
第13回	成人の健康 １．成人の健康管理システム	（内　　容）成人、就業者における健康管理システム （必要な準備）テキストの関連部分を読んでおく
第14回	成人の健康 ２．成人期における健康の現状と課題	（内　　容）ストレス、薬物、運動、喫煙 （必要な準備）成人における食育について調べておく
第15回	高齢者の健康	（内　　容）高齢者の健康管理システム 高齢者の健康の現状と課題 （必要な準備）高齢者における食育について調べておく

授業名	**健康栄養概論ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Health and Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	人間やその生活を生態系に位置づけて、理解を深めるとともに、人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解する。社会・環境が人間の健康に及ぼす影響や、健康を保持増進するためのライフステージ別の栄養のあり方を学び、地域の食生活を通して、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を理解する。
学習成果到達目標	1）人間やその生態系の理解と行動特性が理解できる。 2）健康増進や疾病予防の取組みについて理解できる。 3）社会や環境、栄養と健康のかかわりについて理解できる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	資料を配布する。
参考書	厚生労働白書（平成26～28年版）、栄養科学シリーズNEXT　社会環境と健康　健康管理概論　第３版（講談社）、管理栄養士・栄養士必携-データー・資料集（第一出版）
留意事項	個人や集団の身体、健康、疾病予防と栄養を考えながら、管理栄養士の役割を学ぶこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。

授　業　名	**健康栄養概論ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	私たちの求める健康の概念（個人と社会における健康等）	（内　　容）授業の進め方の説明、健康の概念について学ぶ （必要な準備）健康状態評価の調査の種類を調べておく（30分）
第2回	社会環境と人々の生活	（内　　容）社会環境と人々の生活の関連を学ぶ （必要な準備）社会環境とは何か、調べておく（30分）
第3回	生態系の理解	（内　　容）生態系を理解する（地球温暖化） （必要な準備）生態系について調べておく（30分）
第4回	人間の行動特性と基本的メカニズム	（内　　容）人間の行動特性と基本的メカニズムを学ぶ （必要な準備）人間の行動特性について調べておく（30分）
第5回	社会環境等の変化と生活行動の変化	（内　　容）社会環境等に伴う生活行動の変化を学ぶ （必要な準備）社会環境等と生活行動の関係を調べておく（30分）
第6回	社会、環境と健康問題	（内　　容）環境と健康問題を考える （必要な準備）環境と健康問題について調べておく(30分)
第7回	日本における健康づくり運動と健康日本21	（内　　容）健康増進法、健康日本21について学ぶ （必要な準備）健康づくり運動について調べておく(30分)
第8回	疾病予防の取り組み	（内　　容）疾病予防に対する公共の施策について （必要な準備）感染症について調べておく(30分)
第9回	「国民健康・栄養調査」の結果と食生活の課題	（内　　容）「国民健康・栄養調査」の結果を考察する （必要な準備）「国民健康・栄養調査」について調べておく（30分）
第10回	食育における課題－胎児期から乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内　　容）ライフステージ別の現状と課題－妊娠期、胎児期、乳幼児期 （必要な準備）胎児期から乳幼児期について調べておく（30分）
第11回	食育における課題－学童期から青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内　　容）ライフステージ別の現状と課題－学童期、青年期 （必要な準備）学童期、青年期について調べておく（30分）
第12回	食育における課題－成人期・高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内　　容）ライフステージ別の現状と課題－成人期、高齢期 （必要な準備）成人期、高齢期について調べておく（30分）
第13回	地域社会における食生活の課題（食環境の在り方と食事、調理、栄養）	（内　　容）地域社会における食生活の課題について学ぶ （必要な準備）地域社会における食生活の課題を調べておく(30分)
第14回	地域社会における健康づくりと管理栄養士の役割	（内　　容）地域社会における管理栄養士の仕事 （必要な準備）地域社会の管理栄養士の仕事を調べておく(30分)
第15回	健康と栄養のまとめ－地域社会の健康増進と栄養・食生活の課題解決	（内　　容）授業を振り返り意見交換を行う （必要な準備）これまでの授業を復習しておく（1時間）

授業名	**解剖・生理学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Anatomy and PhysiologyⅡ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**南山　求**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	解剖・生理学Ⅰに続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学Ⅱでは、生殖器系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。
学習成果到達目標	1）生殖器系、内分泌系、免疫系、運動器系、神経系、感覚器系および自律神経系の構造とその機能が理解できる。 2）日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。
評価方法	定期試験（100 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■（判断力　）　■（統合力　）
テキスト	高野廣子著　解剖生理学　南山堂
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著　なるほど なっとく！ 解剖生理学　南山堂
留意事項	解剖・生理学Ⅰで学んだことは復習しておく。 学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。

授業名	**解剖・生理学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	体液の恒常化　（体温の調節機能、生活環境への適応）	（内　　容）体液の恒常性維持、体温の調節機能、生活環境への適応について （必要な準備）体液の恒常性維持について調べておく(60分)
第2回	生殖器系　Ⅰ　（男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生）	（内　　容）生殖器の構造と機能および生殖器の発生について （必要な準備）生殖器の構造と機能について調べておく(60分)
第3回	生殖器系　Ⅱ　（性周期、排卵の機序、受精・分娩）	（内　　容）性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について （必要な準備）性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく(60分)
第4回	内分泌系　Ⅰ　（ホルモン分泌の調節機能）	（内　　容）視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について （必要な準備）視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能ついて調べておく(60分)
第5回	内分泌系　Ⅱ　（ホルモンの種類とその働き）	（内　　容）ホルモン分泌器の種類とその働きについて （必要な準備）ホルモン分泌器とそのホルモン作用について調べておく(60分)
第6回	免疫系　Ⅰ　（免疫系の構造とその機能）	（内　　容）免疫系の構造とその機能について （必要な準備）免疫系の構造とその機能について調べておく(60分)
第7回	免疫系　Ⅱ　（生体防御機構とアレルギー）	（内　　容）生体防御機構とアレルギーについて （必要な準備）生体防御機構とアレルギーについて調べておく(60分)
第8回	運動器系　（全身の骨格と筋肉の構造とその運動機能）	（内　　容）運動器系（全身の骨格と筋肉）の構造とその機能について （必要な準備）全身の骨格と筋肉の構造とその機能について調べておく(60分)
第9回	神経系　Ⅰ　（神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能）	（内　　容）神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について （必要な準備）神経系の電気生理学的特性や中枢神経系の構造と機能について調べておく(60分)
第10回	神経系　Ⅱ　（反射系および末梢神経系の構造と機能）	（内　　容）反射系および末梢神経系の構造と機能について （必要な準備）反射系および末梢神経系の構造と機能について調べておく(60分)
第11回	皮膚　（皮膚の構造とその機能）	（内　　容）皮膚の構造とその機能について （必要な準備）皮膚の構造とその機能についてついて調べておく(60分)
第12回	感覚器系　Ⅰ　（感覚器の構造とその機能）	（内　　容）体性感覚：感覚器の構造とその機能について 内蔵感覚：内蔵感覚の特徴とその機能について （必要な準備）体性感覚器の構造およびと内蔵感覚の特徴その機能について調べておく(60分)
第13回	感覚器系　Ⅱ　（味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚）	（内　　容）特殊感覚；味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について （必要な準備）味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能についてについて調べておく(60分)
第14回	日常生活と自律神経機能	（内　　容）日常生活と自律神経機能との関わりについて （必要な準備）日常生活に関わる自律神経機能について調べておく(60分)
第15回	摂食と栄養のバランスとその異常	（内　　容）摂食と栄養のバランスとその異常について （必要な準備）摂食と栄養のバランスについて調べておく(60分)

授業名	**解剖・生理学実験ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Anatomy and Physiology	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**堀江　登**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチ、ラットの解剖を通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。				
学習成果到達目標	1）哺乳動物の基本構造や機能を理解できる。 2）特に消化器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	プリントを配布、解剖生理学　　高野廣子著　南山堂				
参考書	解剖生理学テキスト　岩堀修明著　文光堂				
留意事項	解剖生理学で学んだことを復習しながら進めていく。配布する資料をよく理解し、積極的、主体的に参加する。レポートの提出は、期限を厳守すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**解剖・生理学実験ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション　実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など	（内　　容）オリエンテーション　「実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など」 （必要な準備）実験ノートの作成
第2回	顕微鏡の取り扱い方 組織標本の観察Ⅰ　消化管（胃と小腸）の観察	（内　　容）「顕微鏡の取り扱い方」「四つ組織（上皮組織、支持組織、筋肉組織、神経組織）」「消化管の一般的構造」 （必要な準備）実験ノートの作成
第3回	組織標本の観察Ⅱ　消化管（胃と小腸）の観察Ⅱ	（内　　容）「胃と小腸の構造と機能」「外分泌腺の構造」 （必要な準備）実験ノートの作成
第4回	組織標本の観察Ⅲ　消化管の付嘱器官（肝臓と膵臓）の観察Ⅰ	（内　　容）「肝臓における基本的構造体（肝小葉）の構造と機能」「三つ組」 （必要な準備）実験ノートの作成
第5回	組織標本の観察Ⅳ　消化管の付嘱器官（肝臓と膵臓）の観察Ⅱ	（内　　容）「膵臓における外分泌と内分泌」「ランゲルハンス島の構造」「膵液の分泌機序」 （必要な準備）実験ノートの作成
第6回	一般感覚Ⅰ 皮膚感覚と深部感覚に関する実験Ⅰ	（内　　容）「感覚神経系の特徴」「感覚点の検出」「二点弁別閾」 （必要な準備）実験ノートの作成
第7回	一般感覚Ⅱ 皮膚感覚と深部感覚に関する実験Ⅱ	（内　　容）「重量感覚」「ウェーバーの法則」「原始的感覚と判別的感覚」 （必要な準備）実験ノートの作成
第8回	特殊感覚Ⅰ 味覚に関する実験Ⅰ	（内　　容）「味覚に於ける感覚点の検出と分布」「ウェーバーの法則」 （必要な準備）実験ノートの作成
第9回	特殊感覚Ⅱ 味覚に関する実験Ⅱ	（内　　容）「味覚における閾値の検出と分布」「「対比効果」 （必要な準備）実験ノートの作成
第10回	血液に関する実験Ⅰ 貧血に関する実験Ⅰ	（内　　容）「ラットの解剖と各器官と器官系」「ヘマトクリット値」「赤血球数」「血色素量」「比重」「塗抹標本の観察」「赤血球膜の浸透圧抵抗と溶血」 （必要な準備）実験ノートの作成
第11回	血液に関する実験Ⅱ 貧血に関する実験Ⅱ	（内　　容）「貧血」「赤血球指数」「貧血のタイプの判定」 （必要な準備）実験ノートの作成
第12回	消化に関する実験Ⅰ たんぱく質の消化に関する実験Ⅰ	（内　　容）「消化管（食道、胃、小腸、大腸）の肉眼的観察」「胃液と腸液の採集」「ペプシンとトリプシン」 （必要な準備）実験ノートの作成
第13回	消化に関する実験Ⅱ たんぱく質の消化に関する実験Ⅱ	（内　　容）「消化管における食塊の移動と消化作用」 （必要な準備）実験ノートの作成
第14回	循環器系に関する実験Ⅰ 血圧に関する実験Ⅰ	（内　　容）「心音（第１音と第２音）の観察、「心臓における血液循環」 （必要な準備）実験ノートの作成
第15回	循環器系に関する実験Ⅱ 血圧に関する実験Ⅱ	（内　　容）「静水圧」「暑受容器反射」「化学受容器反射」「ホメオスタシス」「環境と血圧」「運動と血圧」 （必要な準備）実験ノートの作成

授業名	**栄養生化学実験ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Nutrition Biochemistry	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**田代　操**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	本科目では、生化学、栄養生化学において学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。				
学習成果到達目標	1）栄養素の代謝と生体成分の関連性について理解できる。 2）代謝にかかわる酵素の特性について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 70 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT)　加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士　編 講談社サイエンティフィク、およびプリント				
参考書	実験テーマごとに紹介する				
留意事項	「生化学」、「基礎栄養学」、「栄養生化学」の関連部分を読んで復習しておくこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**栄養生化学実験ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション（１）概観	（内　　容）実験項目の概略説明と実験手技の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく
第2回	オリエンテーション（２）試薬調製	（内　　容）各実験項目における基本的な試薬の調製 （必要な準備）テキストを読んでおく
第3回	血液成分の変化（１）グルコース	（内　　容）血糖の定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第4回	血液成分の変化（２）脂質	（内　　容）血清中性脂肪、遊離脂肪酸の定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第5回	血液成分の変化（３）鉄	（内　　容）血清鉄の定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第6回	血液成分の変化（４）カルシウム	（内　　容）血清カルシウムの定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第7回	血中タンパク質の定量（１）総タンパク質	（内　　容）ビウレット法による血清総タンパク質の定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第8回	血中タンパク質の定量（２）アルブミン	（内　　容）BCG法による血清アルブミンの定量、A/G比の測定 （必要な準備）テキストを読んでおく
第9回	血清酵素の測定（１）AST	（内　　容）アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの測定 （必要な準備）テキストを読んでおく
第10回	血清酵素の測定（２）ALT	（内　　容）アラニンアミノトランスフェラーゼの測定 （必要な準備）テキストを読んでおく
第11回	尿中窒素成分の変化（１）尿素	（内　　容）尿中尿素、クレアチニンの定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第12回	尿中窒素成分の変化（２）尿酸	（内　　容）尿中尿酸の定量 （必要な準備）テキストを読んでおく
第13回	糖質代謝（１）解糖系	（内　　容）肝臓グルコキナーゼ活性の測定 （必要な準備）テキストを読んでおく
第14回	糖質代謝（２）糖新生	（内　　容）肝臓グルコース‐６‐ホスファターゼ活性の測定 （必要な準備）テキストを読んでおく
第15回	まとめ	（内　　容）行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する （必要な準備）行った実験の内容を確認しておく

授業名	**病理病態学Ⅰａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Physiological Pathology Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武曾　惠理**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	病理病態学Ⅰでは、主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、内分泌系疾患等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。さらに臨床検査結果などによる病態の評価や診断について学び治療の基本的な考え方について理解する。				
学習成果到達目標	1）疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化が理解できる。 2）栄養学を理解し、疾病の予防やその病因と回復の促進などの基礎的な知識が理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　）　□（　）				
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ　臨床病態学　伊藤節子編 武曾惠理他著　第11刷版　　化学同人社				
参考書					
留意事項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。				
オフィスアワー	初回講義時に知らせます。				

授業名	**病理病態学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	疾患による細胞、組織の変化 （炎症と創傷治癒、変性、壊死とアポトーシス、萎縮、細胞の増殖と腫瘍）	（内　　容）疾患による細胞、組織の変化 （炎症と創傷治癒、変性、壊死とアポトーシス、萎縮、細胞の増殖と腫瘍について、疾病との関係を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第１章を読んでおくこと。
第2回	疾患の診断　（問診・診察、主な症候）	（内　　容）疾患診断の概要　（問診・診察、主な症候について、実地での状況を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第２章を読んでおくこと。
第3回	臨床検査I （種類と特性、基準値と基準範囲、検査値の読み方、考え方、検体の種類、採取法、保管法）	（内　　容）臨床検査I （種類と特性、基準値と基準範囲、検査値の読み方、考え方、検体の種類、採取法、保管法について、理解する） （必要な準備）事前にテキスト第４章（4.1-4.4）を読んでおくこと。
第4回	臨床検査II (一般検査、尿、糞便、喀痰など、血液学検査、生化学検査、微生物検査、機能検査、画像検査）	（内　　容）臨床検査II (一般検査、尿、糞便、喀痰など、血液学検査、生化学検査、微生物検査、機能検査、画像検査について理解する） （必要な準備）事前にテキスト第４章（4.5-4.10 を読んでおくこと。
第5回	疾患の治療I （種類と特徴、治療計画、治療の方法、末期患者の治療、救命救急医療、エビデンスに基づいた医療）	（内　　容）疾患の治療I （種類と特徴、治療計画、治療の方法、末期患者の治療、救命救急医療、エビデンスに基づいた医療） （必要な準備）事前にテキスト第3章(3.1-3.6)を読んでおくこと。
第6回	疾患の治療II （薬物代謝に及ぼす食品の影響）	（内　　容）疾患の治療II（ 薬物代謝に及ぼす食品の影響について実地の状況を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第３章（3.7）を読んでおくこと。
第7回	糖代謝とその異常I （血糖調節、糖尿病）	（内　　容）糖代謝とその異常I （血糖調節、糖尿病について、糖尿病の成り立ちと病態、診断を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第5章(5.1-5.2)を読んでおくこと。
第8回	糖代謝とその異常II （糖尿病続き、糖原病、低血糖）	（内　　容）糖代謝とその異常II （血糖調節、糖尿病について、糖尿病の診断に続く、治療を食事療法も含めてガイドラインに沿って理解する。さらにその他の糖代謝異常についても理解する） （必要な準備）事前にテキスト第5章（5.2-5.4）を読んでおくこと。
第9回	脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常）	（内　　容）脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第６章(6.1, 6.2）を読んでおくこと。
第10回	脂質代謝とその異常II （高脂血症（脂質異常症）の治療）	（内　　容）脂質代謝とその異常II （高脂血症（脂質異常症）、メタボリックシンドロームなどの食事療法、薬物療法の理解） （必要な準備）事前にテキスト第６章(6.3)を読んでおくこと。
第11回	蛋白質、核酸の代謝とその異常 （蛋白質の代謝とその異常、核酸代謝とその異常）	（内　　容）蛋白質、核酸の代謝とその異常 （蛋白質の代謝とその異常、核酸代謝とその異常、特に痛風などの治療の理解） （必要な準備）事前にテキスト第７章を読んでおくこと。
第12回	栄養障害 （肥満とやせ、蛋白質・エネルギー障害、ビタミン欠乏、過剰症、ミネラル欠乏、過剰症）	（内　　容）栄養障害 （肥満とやせ、蛋白質・エネルギー障害、ビタミン欠乏、過剰症、ミネラル欠乏、過剰症の病態と治療の理解） （必要な準備）事前にテキスト第８章を読んでおくこと。
第13回	摂食障害 （発症と進行の機序、症状、治療、食事指導の進め方）	（内　　容）摂食障害 （発症と進行の機序、症状、治療、食事指導の進め方を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第9章を読んでおくこと。
第14回	消化管の疾患 （口腔内から食道、胃、十二指腸、小腸、大腸疾患の病態と治療）	（内　　容）消化管の疾患 （口腔内から食道、胃、十二指腸、小腸、大腸疾患の病態、診断、と治療の理解） （必要な準備）事前にテキスト第10章（10.1-10.11）を読んでおくこと。
第15回	肝臓、胆道系、膵臓疾患 （肝、胆、膵臓の炎症、変性、癌などの病態と治療）	（内　　容）肝臓、胆道系、膵臓疾患 （肝、胆、膵臓の炎症、変性、癌などの病態、診断と治療の理解） （必要な準備）事前にテキスト第10章(10.12-10.21)を読んでおくこと。

授業名	**病理病態学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Physiological Pathology Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**武曾　惠理**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	病理病態学Ⅰに引き続き、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖器系などの主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解する。また、がんの発症のメカニズムや人体と微生物や毒性物質との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構についても理解する。
学習成果到達目標	1）　疾患の発症や進行を理解できる。 2）　疾患の症状や治療法を理解できる。 3）　疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。
評価方法	定期試験（100 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（　　%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ　臨床病態学　伊藤節子編　武曾惠理他著　第11刷　化学同人社
参考書	
留意事項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学Ⅰ」を理解しておく。
オフィスアワー	初回講義時に知らせます。

授業名	**病理病態学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	循環障害と循環器疾患I （循環障害）	（内　　容）循環障害と循環器疾患 （循環障害として、虚血、うっ血、血栓症、塞栓症、梗塞について病態を理解し、疾患との関連を学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第11章(11.1)を読んでおくこと。
第2回	循環障害と循環器疾患II （循環器疾患）	（内　　容）循環障害と循環器疾患II （循環器疾患として、高血圧、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全の病態、診断と治療を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第11章(11.2)を読んでおくこと。
第3回	脳血管障害と神経疾患I （老年者の疾患を中心に脳血管、神経疾患を学ぶ）	（内　　容）脳血管障害と神経疾患I （脳血管障害、神経系の老年変化、認知症、パーキンソン病などの病態、診断、治療を学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第12章を読んでおくこと。
第4回	腎・尿路疾患I （腎・尿路系の構造と働き）	（内　　容）腎・尿路疾患I （腎・尿路系の構造と働きを理解する） （必要な準備）事前にテキスト第13章(13.1）を読んでおくこと。
第5回	腎・尿路疾患II （腎・尿路疾患の分類）	（内　　容）腎・尿路疾患II （腎・尿路疾患の分類を学び、それぞれの疾患の診断と治療を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第13章(13.2)を読んでおくこと。
第6回	腎・尿路疾患III （腎不全、慢性腎臓病）	（内　　容）腎・尿路疾患III （腎不全と慢性腎臓病について学び、食事療法も含めた治療法の概要を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第13章(13.3, 13.4)を読んでおくこと。
第7回	内分泌疾患 （役割と調節機構、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、女性の疾患）	（内　　容）内分泌疾患 （役割と調節機構を理解し、、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、女性の疾患について病態と治療を学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第14章を読んでおくこと。
第8回	骨代謝と筋・骨格疾患 （骨と軟骨、カルシウムと骨の役割、骨粗鬆症、骨軟化症、クル病など）	（内　　容）骨代謝と筋・骨格疾患 （骨と軟骨、カルシウムと骨の役割、骨粗鬆症、骨軟化症、クル病などについて、食事療法を含めて理解する） （必要な準備）事前にテキスト第15章を読んでおくこと。
第9回	呼吸器疾患I （カゼ症候群、インフルエンザ、肺炎、肺結核などの感染症）	（内　　容）呼吸器疾患I （カゼ症候群、インフルエンザ、肺炎、肺結核などの感染症を中心に病態と治療について学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第16章(16.1-16.4)を読んでおくこと。
第10回	呼吸器疾患II （喘息、COPD,間質性肺炎、肺がん）	（内　　容）呼吸器疾患II （喘息、COPD,間質性肺炎、肺がんについて病態を理解し、治療を学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第16章(16-5-16.8)を読んでおくこと。
第11回	血液疾患 （血液成分と血球の機能、貧血、白血病、止血ー凝固-線溶系の異常と出血傾向）	（内　　容）血液疾患 （血液成分と血球の機能、貧血、白血病、止血ー凝固-線溶系の異常と出血傾向について学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第17章を読んでおくこと。
第12回	免疫・アレルギー疾患I （免疫現象の概要、アレルギー疾患）	（内　　容）免疫・アレルギー疾患I （免疫現象の概要、アレルギー疾患について食物との関係も含めて学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第18章（18.1, 18.2）を読んでおくこと。
第13回	免疫・アレルギー疾患II （自己免疫疾患、膠原病、免疫不全症候群）	（内　　容）免疫・アレルギー疾患Ⅱ （自己免疫疾患、膠原病、免疫不全症候群について診断と治療を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第18章（18.3、18.4）を読んでおくこと。
第14回	小児の疾患I （小児の成長と発達）栄養の特徴、小児の栄養における	（内　　容）小児の疾患I （小児の成長と発達の理解と診断について学ぶ） （必要な準備）事前にテキスト第19章（19.1, 19.2）を読んでおくこと。
第15回	小児の疾患II （小児の栄養の特徴と、栄養における病態と疾患）	（内　　容）小児の疾患II （小児の栄養の特徴と、栄養における病態と疾患について学び、治療を理解する） （必要な準備）事前にテキスト第19章(19.3-19.4)を読んでおくこと。

授業名	**微生物学ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Microbiology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**小川　順**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。				
学習成果到達目標	1）微生物と人間とのかかわりについて理解できる。 2）食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3）有用微生物の特性と利用法が理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　）　□（　）				
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ　微生物学　小林秀光、白石淳　編集　化学同人				
参考書					
留意事項					
オフィスアワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。				

授　業　名	**微生物学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	微生物学とは 微生物学の歴史	（内　　容）微生物学とは 微生物学の歴史 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第2回	微生物の基礎①　（種類、一般性状、分類）	（内　　容）微生物の基礎①　（種類、一般性状、分類） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第3回	微生物の基礎②　（代謝）	（内　　容）微生物の基礎②　（代謝） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第4回	食品中の微生物相と食中毒微生物	（内　　容）食品中の微生物相と食中毒微生物 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第5回	食品の腐敗と保存	（内　　容）食品の腐敗と保存 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第6回	微生物を利用した食品①（細菌）	（内　　容）微生物を利用した食品①（細菌） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第7回	微生物を利用した食品②（酵母、カビ）	（内　　容）微生物を利用した食品②（酵母、カビ） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第8回	病原微生物の感染機構	（内　　容）病原微生物の感染機構 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第9回	病原微生物　細菌①　（腸内細菌）	（内　　容）病原微生物　細菌①　（腸内細菌） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第10回	病原微生物　細菌②　（消化器系感染）	（内　　容）病原微生物　細菌②　（消化器系感染） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第11回	病原微生物　細菌③　（呼吸器系感染）	（内　　容）病原微生物　細菌③　（呼吸器系感染） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第12回	病原微生物　真菌　（真菌症）	（内　　容）病原微生物　真菌　（真菌症） （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第13回	病原微生物　ウイルス、原虫	（内　　容）病原微生物　ウイルス、原虫 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第14回	免疫の仕組みと微生物	（内　　容）免疫の仕組みと微生物 （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第15回	微生物のバイオテクノロジー	（内　　容）微生物のバイオテクノロジー （必要な準備）テキストの該当箇所を事前学習しておくこと

授業名	**微生物学実験ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of microbiology	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**小川　順**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2）食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3）有用微生物の形態、利用法が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	適時資料を配付する。				
参考書					
留意事項	微生物学を復習しておくこと。				
オフィスアワー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。				

授　業　名	**微生物学実験ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌	（内　　容）オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第2回	微生物の培養と形態観察（１）	（内　　容）培地調製、微生物の培養 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第3回	微生物の培養と形態観察（２）	（内　　容）細菌の培養、細菌の形態観察 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第4回	微生物の培養と形態観察（３）	（内　　容）酵母の培養、酵母の形態観察 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第5回	微生物の培養と形態観察（４）	（内　　容）糸状菌の培養、糸状菌の形態観察 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第6回	微生物の採集とコロニーの分離（１）	（内　　容）環境からの微生物の培養と単離 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第7回	微生物の採集とコロニーの分離（２）	（内　　容）空中落下菌、表面付着菌の測定、微生物の形態観察 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第8回	大腸菌の増殖観察（１）	（内　　容）培地調製、大腸菌の培養 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第9回	大腸菌の増殖観察（２）	（内　　容）大腸菌の生育の定量分析 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第10回	抗生物質による細菌の生育阻害（１）	（内　　容）培地調製、細菌の抗生物質処理 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第11回	抗生物質による細菌の生育阻害（２）	（内　　容）生育阻害の観察、定量分析 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第12回	食品からの発酵微生物の分離（１）	（内　　容）培地調製、食品微生物の培養 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第13回	食品からの発酵微生物の分離（２）	（内　　容）食品微生物の単離と形態観察 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第14回	乳酸発酵と乳酸の測定（１）	（内　　容）乳酸菌を用いた乳酸発酵 （必要な準備）テキストの予習とレポート
第15回	乳酸発酵と乳酸の測定（２）	（内　　容）乳酸発酵物中の乳酸測定 （必要な準備）テキストの予習とレポート

授業名	**食品学実験Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of food scienceⅡ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**高村　仁知**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	食品学実験Ⅰを踏まえて、主要な食品の特性を成分分析から捉えていく。また食品成分間の化学変化や脂質の酸化について学ぶ。食品加工や調理が栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高めることを理解して、加工方法を修得する。				
学習成果到達目標	1）食品ごとに含有成分の特性をつかみ、定性分析の方法を修得している。 2）食品成分の単離、精製、定量法を修得している。 3）食品の特性について理解し、加工方法を修得している。				
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（観察力　）　□（　）				
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験　村上俊男編著　建帛社、配布プリント				
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）				
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授　業　名	**食品学実験Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）食品成分の分析と加工実験に関するオリエンテーションを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第2回	食品加工実験①　微生物を用いた食品加工（味噌作り）	（内　　容）微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第3回	食品加工実験②　微生物を用いた食品加工（味噌作り）	（内　　容）微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第4回	食品加工実験③　水産物を用いた食品加工（ごぼう天作り）	（内　　容）水産物を用いた食品加工として、ごぼう天作りを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第5回	食品加工実験④　水産物を用いた食品加工（ごぼう天作り）	（内　　容）水産物を用いた食品加工として、ごぼう天作りを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第6回	非酵素的褐変①	（内　　容）非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べる （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第7回	非酵素的褐変②	（内　　容）非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べる （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第8回	酵素的褐変①	（内　　容）酵素的褐変として、リンゴのポリフェノールオキシダーゼによる褐変を調べる （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第9回	酵素的褐変②	（内　　容）酵素的褐変として、ダイコンのペルオキシダーゼによる褐変を調べる （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第10回	油脂の変敗試験①	（内　　容）油脂の変敗試験として食用油の酸価を測定する （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第11回	油脂の変敗試験②	（内　　容）油脂の変敗試験として食用油の過酸化物価を測定する （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第12回	デンプンの分離と確認①	（内　　容）ジャガイモからデンプンを分離する （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第13回	デンプンの分離と確認②	（内　　容）各種デンプンについて顕微鏡観察を行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第14回	食品加工実験⑤　微生物を用いた食品加工（味噌作り）	（内　　容）微生物を用いた食品加工として製造した味噌の評価を行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習
第15回	食品成分の分析と加工実験のまとめ	（内　　容）食品成分の分析と加工実験のまとめを行う （必要な準備）テキスト該当部分の予習

授業名	**食品衛生学ａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Food Hygiene	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**堀越　昌子**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	食物を介してもたらされる健康被害を予防するための知識と技術の体系、食品関連の衛生法規を学び、食品の変質、食中毒、感染症、環境汚染物質、微生物汚染の予防法、食品の安全性や衛生管理の基本を把握し安全な管理法を修得することにより食品の衛生的な管理や調理を理解することにつなげていく。				
学習成果到達目標	1）食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。 2）食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『カレント食べ物と健康 食品衛生学』川井英雄、丸井正樹、河村堅編著　建帛社				
参考書					
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかり読むこと。				
オフィスアワー	毎週１回（休耕期間を除く）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**食品衛生学ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食品衛生と法規	（内　　容）食品衛生に関する「食品安全基本法」、「食品衛生法」など関連法規と食品衛生行政の仕組みについて学ぶ。 （必要な準備）「食品の安全性の確保とリスク分析」について考えておく。
第2回	食品衛生と国際化	（内　　容）国際化が進行する中、世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などの国際機関の果たす役学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第3回	食品衛生と微生物	（内　　容）微生物の形態、構造、特性を捉えて、食品衛生のあり方を探る。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第4回	食品の変質とその防止	（内　　容）微生物、油脂の酸化、処理加工による食品の変質を把握し、その防止策を学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第5回	食中毒と発生状況	（内　　容）食中毒と発生状況を季節、病因物質別、施設別、年代別に分析していき、食中毒を起こさない予防策を学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第6回	病因物質別食中毒	（内　　容）細菌、ウイルスなど病因物質別に食中毒発生状況を把握していく。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第7回	自然毒、化学性食中毒	（内　　容）動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について、それぞれの特徴と危険度を学んでいく。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第8回	食品による感染症と寄生虫症	（内　　容）食品による経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第9回	食品中有害物質　カビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物	（内　　容）食品中の有害物質であるカビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物などとそれらの環境への影響について学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第10回	食品添加物使用の歴史と安全性の評価	（内　　容）食品添加物の歴史、働きとデメリット、分類と表示、用途について学び、安全性の評価法を知る。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第11回	食品添加物の分類と表示、用途	（内　　容）食品添加物の分類と表示、用途について学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第12回	食品衛生管理と対策	（内　　容）食品衛生管理と対策について、ＨＡＣＣＰ概念、衛生管理方法を学ぶ （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第13回	食品用の器具、容器包装材の安全性	（内　　容）食品用の器具、容器包装材の安全性を素材ごとに学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第14回	食品の新しい安全性問題	（内　　容）食品の新しい安全性問題「遺伝子組換え食品」、「放射線照射食品」、「アレルギー物質を含む食品」について学ぶ。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習
第15回	食品衛生をめぐる諸課題	（内　　容）食品衛生をめぐる諸課題をまとめ、対策についても考えていく。 （必要な準備）前回の復習とテキストの予習

授業名	**応用栄養学Ⅰa・b**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Applied Nutrition　I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	応用栄養学Ⅰでは、健康の維持増進や疾病の予防、治療・重症化予防を目指して、様々な対象者の栄養状態に応じた栄養管理のための基礎的な事項について学んでいく。また「日本人の食事摂取基準」についてその策定の理論について理解し、栄養管理において正しく活用するための基本的な事項について学ぶ。さらに応用栄養学Ⅱ、Ⅲを通して各ライフステージ別の栄養管理や特殊環境下の考え方について詳しく学んでいくが、応用栄養学Ⅰでは、その基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化およびその特徴について学んでいく。
学習成果到達目標	1）栄養管理の考え方を正しく理解できる。 2）食事摂取基準について正しく理解できる。 3）成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。
評価方法	定期試験（80 %）：■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20 %）：■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　）　□（　）
テキスト	カレント応用栄養学　辻 悦子　編　建帛社 日本人の食事摂取基準（2015年版）　菱田 明　佐々木 敏　監修　第一出版
参考書	
留意事項	予習のためのプリントを配布しますので、必ずやってくること。 単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。

授　業　名	**応用栄養学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	応用栄養学の位置づけ	（内　　容）応用栄養学の位置づけ （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第2回	栄養管理の概念と意義	（内　　容）栄養管理の概念と意義 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第3回	栄養管理の進め方	（内　　容）栄養管理の進め方 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第4回	栄養学的リスクと栄養スクリーニングについて	（内　　容）栄養学的リスクと栄養スクリーニングについて （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第5回	栄養評価・栄養診断について	（内　　容）栄養評価・栄養診断について （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第6回	目標設定と栄養管理計画の作成および実施について	（内　　容）目標設定と栄養管理計画の作成および実施について （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第7回	栄養モニタリングと評価・修正、アウトカム評価とその管理について	（内　　容）栄養モニタリングと評価・修正、アウトカム評価とその管理について （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第8回	食事摂取基準における必要量の科学的根拠	（内　　容）食事摂取基準における必要量の科学的根拠 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第9回	食事摂取基準の指標の概念と特徴	（内　　容）食事摂取基準の指標の概念と特徴 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第10回	食事摂取基準の活用の留意点	（内　　容）食事摂取基準の活用の留意点 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第11回	食事改善を目的とした食事摂取基準の利用	（内　　容）食事改善を目的とした食事摂取基準の利用 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第12回	成長・発達に伴う身体的変化	（内　　容）成長・発達に伴う身体的変化 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第13回	成長・発達に伴う栄養状態の変化	（内　　容）成長・発達に伴う栄養状態の変化 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第14回	加齢に伴う身体的変化	（内　　容）加齢に伴う身体的変化 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。
第15回	加齢に伴う栄養状態の変化	（内　　容）加齢に伴う栄養状態の変化 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと。

授業名	**応用栄養学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Applied Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	応用栄養学Ⅰで学んだ栄養管理のあり方および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学Ⅱでは、妊娠期・授乳期および新生児期から成人期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方およびその栄養管理について理解を深めていく。同時に健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について理解していく。				
学習成果到達目標	1）ライフステージ各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。 2）ライフステージ各期の栄養管理について理解できる。 3）リスク管理の基本的な考え方について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　　）　□（　　）				
テキスト	カレント応用栄養学　辻 悦子編　建帛社　（応用栄養学Ⅰで使用のテキスト）				
参考書					
留意事項	応用栄養学Ⅰを復習しておくこと。 予習のためのプリントを配布しますので、必ずやってくること。 単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりしておくこと。				
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	**応用栄養学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	妊娠期の胎児の成長と母体の変化	（内　　容）妊娠期の胎児の成長と母体の変化 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第2回	妊娠期・授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	（内　　容）妊娠期・授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第3回	乳児期①身体の成長・発達の特徴、健康障害について	（内　　容）乳児期①身体の成長・発達の特徴、健康障害について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第4回	乳児期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	（内　　容）乳児期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第5回	幼児期①身体の成長・発達の特徴	（内　　容）幼児期①身体の成長・発達の特徴 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第6回	幼児期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	（内　　容）幼児期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第7回	学童期①身体の成長・発達の特徴	（内　　容）学童期①身体の成長・発達の特徴 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第8回	学童期②栄養状態の評価と判定および栄養必要量について	（内　　容）学童期②栄養状態の評価と判定および栄養必要量について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第9回	学童期③学校給食の役割と栄養管理	（内　　容）学童期③学校給食の役割と栄養管理 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第10回	思春期①身体の成長・発達の特徴	（内　　容）思春期①身体の成長・発達の特徴 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第11回	思春期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	（内　　容）思春期②栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第12回	成人期①身体状況の変化および栄養状態の変化	（内　　容）成人期①身体状況の変化および栄養状態の変化 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第13回	成人期②更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化	（内　　容）成人期②更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化 （必要な準備）テキストを読んでおく。
第14回	成人期③生活習慣病のリスクと管理について	（内　　容）成人期③生活習慣病のリスクと管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。
第15回	成人期④栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	（内　　容）成人期④栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （必要な準備）テキストを読んでおく。

授業名	**栄養教育論Ⅰa・b**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Nutrition Education Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	栄養教育論Ⅰでは、栄養教育・指導の概念・定義、目的や沿革、歴史について学ぶ。また、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養うとともに、食行動の変容の指導に必要となる行動科学やカウンセリングについての理論と技法を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）栄養教育の必要性を理解できる。 2）栄養教育に必要な情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定する力がある。 3）食行動の変容の指導に必要となる行動科学やカウンセリングについての理論と技法を理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　）　□（　）				
テキスト	カレント　栄養教育論　杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著　建帛社				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	日頃から、食に関するニュースや話題に関心を持ち、情報を得るよう心掛けておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**栄養教育論Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の概要と栄養教育の概念について学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	栄養教育の概念、目的、歴史	（内　　容）栄養教育の目的、意義を学ぶ （必要な準備）テキストp.1～3を読んでおく（30分）
第3回	栄養教育の対象と機会	（内　　容）栄養教育の対象と機会について学ぶ （必要な準備）テキストp.3～8を読んでおく（30分）
第4回	行動科学理論と栄養教育	（内　　容）行動科学理論の概要について学ぶ （必要な準備）テキストp.9～11を読んでおく（30分）
第5回	行動科学の理論とモデル－刺激反応理論、ヘルスブリーフモデルなど	（内　　容）刺激反応理論、ヘルスブリーフモデル、合理的行動理論、計画的行動理論 （必要な準備）テキストp.11～16を読んでおく（1時間）
第6回	行動科学の理論とモデル－（社会的認知理論、プリシード・プロシードモデルなど	（内　　容）トランスセオレティカルモデル、社会的認知理論、ソーシャルサポートとソーシャルネットワーク、コミュニティーオーガニゼーション、プリシード・プロシードモデル （必要な準備）テキストp.17～36を読んでおく（30分）
第7回	行動変容技法と概念－刺激統制、オペラント強化など	（内　　容）刺激統制、反応妨害・習慣拮抗、行動置換、オペラント強化 （必要な準備）テキストp.17～36の復習（30分）
第8回	行動変容技法と概念－認知再構成など	（内　　容）認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約 （必要な準備）テキストp.17～36の復習（30分）
第9回	行動変容技法と概念－セルフモニタリング、自己効力感など	（内　　容）セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキル・トレーニング （必要な準備）テキストp.17～36の復習（30分）
第10回	健康・栄養に関する情報の収集・分析	（内　　容）食環境づくりとの関連 （必要な準備）テキストp.36～43を読んでおく（30分）
第11回	栄養カウンセリングの意義	（内　　容）栄養教育におけるカウンセリング （必要な準備）テキストp.43～44を読んでおく(30分)
第12回	栄養カウンセリングの基本技法	（内　　容）栄養カウンセリングの基本技法 （必要な準備）テキストp.44～47を読んでおく（30分）
第13回	栄養カウンセリングのための食行動変容にかかわる援助技法と理論	（内　　容）食行動変容にかかわる援助技法と理論を学ぶ （必要な準備）テキストp.47～51を読んでおく（30分）
第14回	栄養カウンセリングの技法と手順	（内　　容）栄養カウンセリングの技法と手順を学ぶ （必要な準備）テキストp.51～55を読んでおく（30分）
第15回	グループカウンセリングの意義と技法	（内　　容）グループカウンセリングについて学ぶ （必要な準備）カウンセリングについての復習（30分）

授業名	**栄養教育論Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Nutrition Education Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	栄養教育論Ⅰで学んだ行動変容技法やカウンセリングの方法等の事項を踏まえて、栄養教育マネジメントのＰＤＣＡサイクルやアセスメントといった、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な、健康・栄養教育の理論と方法を修得し、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。				
学習成果到達目標	1）栄養教育のマネジメントサイクルが理解できる。 2）栄養教育のアセスメントの種類と方法が理解できる。 3）栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる知識を修得している。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　）　□（　）				
テキスト	カレント　栄養教育論　杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著　建帛社				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	栄養教育論Ⅰを充分理解しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**栄養教育論Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の概要と栄養教育の概念について学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	栄養教育マネジメント－栄養教育マネジメントの概要、ＰＤＣＡサイクル	（内　　容）栄養教育マネジメントの概要を学ぶ（栄養教育マネジメントの概要、ＰＤＣＡサイクル） （必要な準備）テキストp.57～62を読んでおく（30分）
第3回	栄養教育マネジメント－栄養教育のためのアセスメントの種類	（内　　容）栄養教育のためのアセスメントの種類について学ぶ （必要な準備）テキストp.62～67を読んでおく（30分）
第4回	栄養教育マネジメント－栄養教育のためのアセスメントの方法	（内　　容）栄養診断について学ぶ （必要な準備）テキストp.67～69を読んでおく（30分）
第5回	栄養教育マネジメント－目標設定	（内　　容）栄養教育の目標設定について学ぶ （必要な準備）テキストp.70～72を読んでおく（30分）
第6回	栄養教育マネジメント－評価の意義と目的	（内　　容）栄養教育の評価の意義と目的について学ぶ （必要な準備）テキストp.72～78を読んでおく（30分）
第7回	栄養教育マネジメント－プログラム作成：学習者の決定、学習指導案の作成	（内　　容）プログラムの作成（学習者の決定と学習指導案の作成） （必要な準備）テキストp.78～79を読んでおく（30分）
第8回	栄養教育マネジメント－プログラムの作成：時間・場所の設定、実施者の決定	（内　　容）プログラムの作成（時間・場所の設定、実施者の決定） （必要な準備）テキストp.79～80を読んでおく（30分）
第9回	栄養教育マネジメント－プログラムの作成：教材の選択と作成	（内　　容）プログラムの作成（教材の選択と作成） （必要な準備）テキストp.80～85を読んでおく（30分）
第10回	栄養教育マネジメント－プログラムの作成：学習形態の選択	（内　　容）栄養教育における学習形態について学ぶ （必要な準備）テキストp.85～90を読んでおく（30分）
第11回	栄養教育マネジメント－プログラムの実施：コミュニケーション技術	（内　　容）栄養教育におけるコミュニケーション技術について学ぶ （必要な準備）テキストp.43～51の復習（30分）
第12回	栄養教育マネジメント－プログラムの実施：プレゼンテーション技術	（内　　容）栄養教育におけるプレゼンテーション技術について学ぶ （必要な準備）テキストp.43～51の復習（30分）
第13回	栄養教育マネジメント－参加者個人の評価、集団の評価	（内　　容）栄養教育における参加者個人の評価および集団の評価について学ぶ （必要な準備）テキストp.72～78の復習（30分）
第14回	社会生活と栄養教育	（内　　容）社会生活と栄養教育の関連を学ぶ （必要な準備）社会生活と栄養教育の関連について調べておく（30分）
第15回	組織づくり・地域づくり・食環境づくり	（内　　容）社会生活と栄養教育の関連を学ぶ （必要な準備）テキストp.36～43の復習（30分）

授業名	**栄養教育論実習Ⅰa・b**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Practice in Nutrition Education Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	本授業では、健常者や傷病者の集団を対象とし、教材・媒体を用いた模擬教育を体験することで、様々な場において、栄養問題のアセスメントからプログラムの作成・栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、グループカウンセリングなど集団を対象とした栄養教育に必要な技術を修得する。				
学習成果到達目標	1）健常者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。 2）病態者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	カレント　栄養教育論　杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著　建帛社				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	グループごとの実習にそれぞれが積極的にかかわって進めていくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**栄養教育論実習Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）実習の概要と進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	栄養教育のための食事計画	（内　　容）栄養価計算ソフトの使い方を学ぶ （必要な準備）栄養価計算の復習（30分）
第3回	栄養アセスメント	（内　　容）学習者の栄養状態・健康状態の把握 （必要な準備）テキストp.78～80を読んでおく（30分）
第4回	栄養教育の基本技術	（内　　容）栄養教育計画立案について学ぶ （必要な準備）テキストp.80～85を読んでおく（30分）
第5回	健常者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	（内　　容）グループごとに対象集団のプログラムを決める （必要な準備）栄養教育の対象集団を考えておく（1時間）
第6回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	（内　　容）グループごとに対象者別の媒体作成 （必要な準備）媒体作成の資料準備（1時間）
第7回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	（内　　容）媒体完成と模擬栄養教育の準備 （必要な準備）模擬栄養教育の準備（1時間）
第8回	健常者を対象とした集団教育：模擬集団教育リハーサル	（内　　容）模擬栄養教育リハーサルと仕上げ （必要な準備）模擬栄養教育の準備（1時間）
第9回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	（内　　容）模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う （必要な準備）模擬栄養教育の準備（1時間）
第10回	傷病者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	（内　　容）グループごとに対象集団とプログラムを決める （必要な準備）模擬栄養教育の対象集団を考えておく（1時間）
第11回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	（内　　容）グループごとに対象者別の媒体作成 （必要な準備）媒体作成の資料準備（1時間）
第12回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	（内　　容）媒体完成と模擬栄養教育の準備 （必要な準備）模擬栄養教育の準備（1時間）
第13回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育リハーサル	（内　　容）模擬栄養教育のリハーサルと仕上げ （必要な準備）模擬栄養教育の準備（1時間）
第14回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	（内　　容）模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う （必要な準備）模擬栄養授業の準備（1時間）
第15回	自分のグループの評価のまとめと改善点の検討	（内　　容）評価をまとめて改善点を検討 （必要な準備）模擬栄養教育全体を振り返っておく（30分）

授業名	**臨床栄養学Ⅰa・b**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Clinical Nutrition Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	傷病者を総合的に評価・判定するために必要な栄養スクリーニング・アセスメントについて学ぶ。 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。				
学習成果到達目標	1）様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2）傷病者の病態や栄養状態の特徴を理解できる。 3）栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について理解できる。 4）ライフステージ別の疾患について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	サクセス管理栄養士講座　臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ　第一出版				
参考書	・糖尿病食事療法のための食品交換表「第７版」日本糖尿病協会　編・著（文光堂） ・適宜、参考文献などを紹介する。				
留意事項	毎回の予習と復習をして授業に臨むこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。				

授　業　名	**臨床栄養学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、臨床栄養の概念について	（内　　容）授業の進め方。 臨床栄養の意義と目的、及び傷病者や要介護者への栄養ケア・マネジメントの理解。医療・福祉の制度、福祉・介護における栄養管理について学ぶ （必要な準備）教科書を予習して臨むこと。
第2回	傷病者・要介護者の栄養アセスメントの意義と目的、栄養ケア計画と実施について	（内　　容）栄養アセスメントの意義と目的（栄養スクリーニング・アセスメントから、臨床診査・検査、栄養・食事調査法と栄養必要量の算定） 栄養ケアの計画と実施について学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第3回	傷病者・要介護者への栄養・食事療法と栄養補給方法について	（内　　容）栄養・食事療法・栄養補給法（経口栄養補給法、経腸栄養補給法、静脈栄養補給法）について学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第4回	傷病者・要介護者への栄養教育とモニタリング・再評価について	（内　　容）傷病者・要介護者への栄養教育。臨床経過のモニタリングと再評価について学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第5回	薬と栄養・食事の相互作用及び栄養ケアでの記録について	（内　　容）医薬品が、栄養・食事に及ぼす影響と栄養ケアの記録について学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第6回	栄養障害（ＰＥＭ）、ビタミン、ミネラル障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）栄養障害（ＰＥＭ）及びビタミン・ミネラル欠乏症・過剰症を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第7回	肥満と代謝性疾患①（肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第8回	肥満と代謝性疾患②（糖尿病とその合併症）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）糖尿病とその合併症を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第9回	肥満と代謝性疾患③（糖尿病とその合併症）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）食事療法の実践における「糖尿病食品交換表」の使い方と、献立作成について学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第10回	肥満と代謝性疾患④（高尿酸血症・痛風など）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）高尿酸血症・痛風などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第11回	消化器系疾患①（口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症）などの栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第12回	消化器系疾患②（炎症性腸疾患：クローン病、潰瘍性大腸炎）過敏性腸症候群、便秘の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎、クローン病や過敏性腸症候群、便秘を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第13回	消化器系疾患③（肝炎・肝硬変、脂肪肝・ＮＡＦＬＤ、ＮＡＳＨ）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）肝炎・肝硬変、脂肪肝・ＮＡＦＬＤ、ＮＡＳＨを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第14回	消化器系疾患④（胆石症・胆嚢炎、膵炎など）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）胆石症・胆嚢炎、膵炎などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第15回	循環器系疾患（高血圧症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳出血・脳梗塞など）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）高血圧症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳出血・脳梗塞などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。

授業名	**臨床栄養学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Clinical Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	臨床栄養学Ⅰに引き続き、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。さらにライフステージ別の疾病・病態と栄養との関係についても学ぶ。				
学習成果到達目標	1）様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2）傷病者の病態や栄養状態の特徴を理解できる。 3）栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について理解できる。 4）ライフステージ別の疾患について理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	サクセス管理栄養士講座　臨床栄養学　Ⅱ　第一出版				
参考書	・腎臓病食品交換表「第９版」治療食の基準　監修：黒川清　中尾俊之、小沢尚、酒井謙　他編（医歯薬出版㈱） ・適宜、参考文献などを紹介する。				
留意事項	・臨床栄養学Ⅰを復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をして講義に臨むこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。				

授　業　名	**臨床栄養学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	腎・尿路・泌尿器疾患（①）における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）急性糸球体腎炎・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）予習して臨むこと。
第2回	腎・尿路・泌尿器疾患（②）における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）急性腎不全・慢性腎不全、糖尿病性腎症、ＣＫＤ、尿路結石症、血液・腹膜透析などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第3回	内分泌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第4回	神経疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）パーキンソン病・症候群などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第5回	摂食障害における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第6回	呼吸器疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）、気管支喘息や肺炎などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第7回	血液系疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）貧血や出血性疾患などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第8回	筋・骨格疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性膝関節症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなどを理解し治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第9回	免疫・アレルギー疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）食物アレルギー、膠原病、自己免疫疾患、免疫不全などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第10回	感染症、癌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）感染症、癌疾患など病原微生物、消化管系癌及び緩和ケア、終末期医療などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第11回	手術、周術期やクリティカルケアにおける栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）消化管の手術前・手術後や消化管以外の手術前・後及びクリティカルケア（外傷、熱傷時の集中治療）などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第12回	摂食機能障害、身体・知的障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）咀嚼・嚥下機能障害、口腔・食道障害、消化管通過障害及び身体・知的障害などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第13回	乳幼児・小児の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）消化不良症、周期性嘔吐症、アレルギー疾患、小児肥満、先天性代謝異常、糖尿病、腎臓病などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第14回	妊産婦・授乳婦の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群などの疾患を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第15回	老年症候群における栄養アセスメント・ケアプランについて	（内　　容）老年期における症候群についてを理解し治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。

授業名	**臨床栄養学実習Ｉａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Practical training for Clinical Nutrition I	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。				
学習成果到達目標	1）対象者にあわせた栄養ケアプランが立てられる。 2）病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　■実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	実践臨床栄養学実習　-栄養食事療法と献立の展開-　長浜幸子、西村一弘、宮本佳世子編　第一出版				
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省） 糖尿病食事療法のための食品交換表 第７版　日本糖尿病学会　編　文光堂 腎臓病食品交換表第９版 治療食の基準　黒川清監修　医歯薬出版				
留意事項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**臨床栄養学実習Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	病院食と管理栄養士	（内　　容）病院食と管理栄養士 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第2回	病院での栄養部門の組織と業務	（内　　容）病院での栄養部門の組織と業務 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第3回	病院食の種類と献立作成	（内　　容）病院食の種類と献立作成 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第4回	高血圧症患者の食事計画（高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）高血圧症患者の食事計画（高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第5回	高血圧症食の実習	（内　　容）高血圧症食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第6回	糖尿病患者の食事計画（糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）糖尿病患者の食事計画（糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第7回	糖尿病食の実習	（内　　容）糖尿病食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第8回	脂質異常症患者の食事計画（脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）脂質異常症患者の食事計画（脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第9回	脂質異常症食の実習	（内　　容）脂質異常症食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第10回	腎臓疾患患者の食事計画（腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）腎臓疾患患者の食事計画（腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第11回	腎臓疾患食の実習	（内　　容）腎臓疾患食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第12回	要介護者の食事計画（要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）要介護者の食事計画（要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第13回	介護食の実習	（内　　容）介護食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第14回	小児（食物アレルギー）の食事計画（アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（内　　容）小児（食物アレルギー）の食事計画（アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。） （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第15回	小児（食物アレルギー）食の実習	（内　　容）小児（食物アレルギー）食の実習 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。

授業名	**公衆栄養学Ⅰa・b**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Public Health Nutrition　I	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**竹市　仁美**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	人々の健康増進や疾病予防にかかわる公衆栄養の歴史や施策を学習し、公衆栄養学の目的と意義を理解する。 集団（家庭・地域・職域・諸外国）の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済的要因を把握し、食生活や栄養に関する情報の収集と分析、課題の抽出、総合的評価・判定法について学ぶ。 また、保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養上のハイリスク集団の特定と、総合マネジメント（適切な栄養プログラムの計画・実施・評価）に必要な理論と方法を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）公衆栄養の歴史と意義を理解できる。 2）地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスについて理解できる。 3）公衆栄養プログラムを作成し、提供・協同できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 □知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	NEXT第5版公衆栄養学　酒井徹・郡俊之編　講談社				
参考書	日本人の食事摂取基準（2015年版） 栄養士必携2018年度				
留意事項	教科書や配布資料をしっかり読むこと。 積極的に発言し、また他の意見への傾聴を心がけること。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	**公衆栄養学Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	公衆栄養学の概念と意義	（内　　容）公衆栄養学の考え方や生活の中でどのように役立つのかを考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第2回	公衆栄養学の歴史	（内　　容）公衆栄養学の歴史や背景について学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第3回	国民健康・栄養調査の実施と食生活の変遷	（内　　容）国の栄養データの基礎である国民健康・栄養調査の実施方法と日本人の食生活の変遷について学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第4回	国民健康・栄養調査と栄養問題	（内　　容）国民健康・栄養調査の結果を基に栄養課題について考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第5回	公衆栄養関連法規	（内　　容）公衆栄養活動に関わる法律や他職種との連携について学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第6回	健康政策：健康日本21（第二次）と健康づくり	（内　　容）日本人の健康づくり運動”健康日本21（第二次）”と健康づくりについて考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第7回	社会環境と健康・栄養問題	（内　　容）人々を取り巻く社会環境と健康・栄養問題のつながりについて考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第8回	食生活と健康栄養問題①　情報の収集と分析　総合的評価・判定法	（内　　容）身近な人々の食生活と健康や栄養の情報収集と分析の方法を学びます。また抽出された課題の総合的評価の方法を学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第9回	食生活と健康栄養問題②　地域の健康・栄養問題	（内　　容）地域の健康・栄養問題について考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第10回	食生活と健康栄養問題③　職域の健康・栄養問題	（内　　容）職域としてとらえた食生活と健康・栄養問題について考えます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第11回	地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用	（内　　容）地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第12回	わが国の健康栄養施策①　地域における保健・医療・福祉・介護システム	（内　　容）わが国の保健・医療・福祉・介護システムについて学び、他職種との連携の大切さを学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第13回	わが国の健康栄養施策②　ハイリスク集団への提供サービス	（内　　容）わが国の健康ハイリスク集団への考え方やプログラムについて学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第14回	諸外国の健康栄養問題と施策	（内　　容）諸外国の健康・栄養問題と施策について学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと
第15回	地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの展開	（内　　容）地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの計画や展開について学びます。 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと

授業名	**給食経営管理論Ⅰａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Food Service Management Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養2回生		

授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。
学習成果到達目標	1）給食の意義を理解できる。 2）給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3）マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。
評価方法	定期試験（ 80 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（思考・判断力　）　□（　）
テキスト	カレント給食経営管理論（第２版）　宮澤節子・松井元子　編著　建帛社
参考書	
留意事項	専門用語について充分理解しておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。

授　業　名	**給食経営管理論Ｉａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）オリエンテーション （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第2回	給食の概念Ⅰ（給食の概要）	（内　　容）給食の概念Ⅰ（給食の概要） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第3回	給食の概念Ⅱ（給食システム）	（内　　容）給食の概念Ⅱ（給食システム） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第4回	給食の概念Ⅲ（給食を提供する施設と関係法規）	（内　　容）給食の概念Ⅲ（給食を提供する施設と関係法規） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第5回	給食経営管理の概念Ⅰ（給食経営管理の概要）	（内　　容）給食経営管理の概念Ⅰ（給食経営管理の概要） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第6回	給食経営管理の概念Ⅱ（マーケティングの原理）	（内　　容）給食経営管理の概念Ⅱ（マーケティングの原理） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第7回	給食経営管理の概念Ⅲ（給食とマーケティング）	（内　　容）給食経営管理の概念Ⅲ（給食とマーケティング） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第8回	給食経営管理の概念Ⅳ（給食経営と組織）	（内　　容）給食経営管理の概念Ⅳ（給食経営と組織） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第9回	給食の生産（調理）Ⅰ（原価管理、食材管理）	（内　　容）給食の生産（調理）Ⅰ（原価管理、食材管理） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第10回	給食の生産（調理）Ⅱ（生産と提供）	（内　　容）給食の生産（調理）Ⅱ（生産と提供） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第11回	給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要と実際）	（内　　容）給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要と実際） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第12回	給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）	（内　　容）給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第13回	給食の施設・設備Ⅰ（生産施設・設備計画）	（内　　容）給食の施設・設備Ⅰ（生産施設・設備計画） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第14回	給食の施設・設備Ⅱ（食事環境の設計と設備）	（内　　容）給食の施設・設備Ⅱ（食事環境の設計と設備） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第15回	給食の人事・事務	（内　　容）給食の人事・事務 （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。

授業名	**給食経営管理論Ⅱａ・ｂ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Food Service Management Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養2回生		
授業の概要	給食経営管理論Ⅱでは、ＰＤＣＡサイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論Ⅰで得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。				
学習成果到達目標	1）各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 2）対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考・判断力　　）　□（　　）				
テキスト	カレント給食経営管理論（第２版）　宮澤節子・松井元子　編著　建帛社				
参考書					
留意事項	給食経営管理論Ⅰを復習しておくこと。 専門用語について充分理解しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**給食経営管理論Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論Ⅰの復習）	（内　　容）オリエンテーション（給食経営管理論Ⅰの復習） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第2回	栄養・食事管理Ⅰ（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（内　　容）栄養・食事管理Ⅰ（栄養・食事管理の概要・意義・目的） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第3回	栄養・食事管理Ⅱ（栄養・食事のアセスメント）	（内　　容）栄養・食事管理Ⅱ（栄養・食事のアセスメント） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第4回	栄養・食事管理Ⅲ（栄養・食事の計画）	（内　　容）栄養・食事管理Ⅲ（栄養・食事の計画） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第5回	栄養・食事管理Ⅳ（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（内　　容）栄養・食事管理Ⅳ（栄養・食事計画の実施、評価、改善） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第6回	給食の品質	（内　　容）給食の品質 （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第7回	給食施設別経営管理Ⅰ（病院給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅰ（病院給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第8回	給食施設別経営管理Ⅱ（高齢者・介護福祉施設給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅱ（高齢者・介護福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第9回	給食施設別経営管理Ⅲ（児童福祉施設給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅲ（児童福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第10回	給食施設別経営管理Ⅳ（障害者福祉施設給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅳ（障害者福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第11回	給食施設別経営管理Ⅴ（学校・幼稚園給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅴ（学校・幼稚園給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第12回	給食施設別経営管理Ⅵ（事業所給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅵ（事業所給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第13回	給食施設別経営管理Ⅶ（自衛隊給食・矯正施設給食）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅶ（自衛隊給食・矯正施設給食） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第14回	給食施設別経営管理Ⅷ（院外給食・配食サービス・その他）	（内　　容）給食施設別経営管理Ⅷ（院外給食・配食サービス・その他） （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（内　　容）健康増進法における特定給食施設の経営 （必要な準備）テキストの関連個所を読んでおくこと。

授業名	**食品衛生学実験ａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of food hygiene	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**堀越　昌子**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	食品の安全性の確保と衛生管理に必要となる測定・分析の基礎技術を修得する。食品の生物学的汚染（微生物）、食品の化学的汚染（農薬、重金属、毒物など）、食品添加物の検出、食品の腐敗、変質の検査法、環境水の安全管理について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）食品の安全確保と衛生管理のための実験手法を修得している。 2）食品の生物学的汚染、化学的汚染を検出し、安全管理ができる力を修得している。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	Nブックス実験シリーズ　改訂食品衛生学実験　後藤政幸　編著　建帛社				
参考書					
留意事項	食品衛生学を復習しておくこと				
オフィスアワー	毎週１回（休業期間を除く）オフィスアワーを設けます。				

授業名	食品衛生学実験ａ・ｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎	（内　　容）オリエンテーション　食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎 （必要な準備）第1章1-4.食品衛生学実験の基礎の項（1-9頁）の予習
第2回	飲料水の水質検査　①アンモニア生窒素　②亜硝酸性窒素　③硝酸性窒素	（内　　容）インドフェノール法によるアンモニア生窒素、ジアゾ法による亜硝酸性窒素、サリチル酸Na定量法による硝酸性窒素を測定する。 （必要な準備）第2章飲料水の水質検査の項、窒素形態別分析（11-13頁）の予習
第3回	飲料水の水質検査　残量塩素の測定	（内　　容）飲料水の水質検査の項、残留塩素をDPD法で測定する。 （必要な準備）第2章飲料水の水質検査の項、残留塩素の分析（16-19頁）の予習
第4回	油脂の変質試験 チオバルビツール酸価の測定	（内　　容）油脂の変質過程をチオバルビツール酸価で測定する。 （必要な準備）第2章2.油脂の変質試験の項（21-24頁）の予習
第5回	魚肉の変質・鮮度試験 ヒスタミンの検出	（内　　容）魚肉の変質をヒスタミンの検出で探り、新鮮度を測定する。 （必要な準備）第2章3.魚肉の変質・鮮度試験の項（25-29頁）の予習
第6回	牛乳の鮮度試験と規格 ①牛乳の比重測定　②乳脂肪測定	（内　　容）牛乳の比重と乳脂肪量を測定して、表示、規格に合致しているかを調べる。 （必要な準備）第2章4.牛乳の鮮度試験と規格の項（31-37頁）の予習
第7回	器具および容器・包装の有害化学物質の溶出 ホルムアルデヒドの検出	（内　　容）器具および容器・包装から有害化学物質を溶出し、ホルムアルデヒドを検出する。 （必要な準備）第2章7.器具・容器・包装の有害化学物質の項（48-50頁）の予習
第8回	食品添加物試験 ①保存料の検出 ②発色剤亜硝酸ナトリウム	（内　　容）食品添加物の保存料と発色剤を検出する。 （必要な準備）第3章1-4　食品添加物試験の項（53-67頁）の予習
第9回	食品添加物試験 ③酸性タール色素の抽出と検出	（内　　容）食品中の着色料の酸性タール色素を羊毛法で抽出し、クロマトグラフィで種類を同定する。 （必要な準備）第3章5.着色料の検出の項（68-70頁）の予習
第10回	食品中のアレルゲンの検出	（内　　容）イムノクロマト法による食品中のアレルゲンの検出 （必要な準備）第6章6.食品中のアレルゲンの測定の項（119-122頁）の予習
第11回	微生物検査 ①手指の細菌 ②スタンプ法 ③ふき取り法	（内　　容）微生物検査　①手指の細菌、②スタンプ法　③ふき取り法で行い、一般衛生管理手法を修得する。 （必要な準備）第5章1-2.衛生管理手法の項（105-113頁）の予習
第12回	清浄度検査 ①ＡＴＰ測定 ②たんぱく質測定法 ③マスターテーブル法	（内　　容）ＡＴＰ測定、たんぱく質測定法で清浄度を検査する。 マスターテーブル法の方法を学ぶ （必要な準備）第5章1-2.衛生管理手法の項（113-117頁）の予習
第13回	遺伝子組み換え食品の検査 ＰＣＲ法とＤＮＡ抽出	（内　　容）遺伝子組み換え食品の検査　ＰＣＲ法とＤＮＡ抽出 （必要な準備）第2章6.遺伝子組み換え食品の検査の項（105-113頁）の予習
第14回	HACCPシステムの構築（手順1～5，手順 6～12） ①重要管理点の設定 ②調理過程の内部温度測定	（内　　容）HACCPシステムの構築（手順1～5，手順 6～12） 重要管理点の設定、調理過程の内部温度測定 （必要な準備）配布資料の予習
第15回	食品の安全管理のまとめ	（内　　容）食品の安全管理のまとめ （必要な準備）食品の安全管理手法をのまとめる

授業名	**応用栄養学Ⅲａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Applied Nutrition Ⅲ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	応用栄養学Ⅲでは、ライフステージの中で特に高齢期の加齢による身体的・生理的変化とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）および栄養管理について学ぶ。さらに、運動や特殊環境下など身体への影響が考えられる状況でのリスク管理を踏まえた栄養管理のありかたについて学ぶ。				
学習成果到達目標	1）加齢による身体の変化について理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。 2）運動負荷や特殊環境下における生体の状態について理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	カレント応用栄養学　辻 悦子編　建帛社　（応用栄養学Ⅰ、Ⅱで使用のテキスト）				
参考書	応用栄養学　日本栄養改善学会監修　医歯薬出版（株）				
留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておくこと。 予習のためのプリントを配布しますので、必ずやってくること。 単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりしておくこと。				
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	**応用栄養学Ⅲａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	高齢期の栄養管理①	（内　　容）①高齢期の生理的特徴 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第2回	高齢期の栄養管理②	（内　　容）②高齢期の病態・疾患 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第3回	高齢期の栄養管理③	（内　　容）③高齢期の栄養アセスメント、食事摂取基準 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第4回	高齢期の栄養管理④	（内　　容）④高齢期の栄養ケア・マネジメント （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第5回	高齢期の栄養管理⑤	（内　　容）⑤後期高齢者の食事支援 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第6回	運動・スポーツと栄養①	（内　　容）①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第7回	運動・スポーツと栄養②	（内　　容）②健康づくりと運動 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第8回	運動・スポーツと栄養③	（内　　容）③運動と栄養ケア （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第9回	ストレス環境と栄養①	（内　　容）①ストレス環境下における生理的特徴 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第10回	ストレス環境と栄養②	（内　　容）②ストレス環境下における栄養ケア・マネジメント （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第11回	特殊環境と栄養①	（内　　容）①高温・低温環境下における代謝変化 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第12回	特殊環境と栄養②	（内　　容）②高温・低温環境下における栄養ケア・マネジメント （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第13回	特殊環境と栄養③	（内　　容）③高圧・低圧環境下における栄養管理 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第14回	特殊環境と栄養④	（内　　容）④無重力による影響と栄養管理 （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと
第15回	栄養管理の実践上の問題点について	（内　　容）栄養管理の実践上の問題点について （必要な準備）予習・復習を欠かさないこと

授業名	**応用栄養学実習ａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Practica l Applied Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**坂本　裕子**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化および特殊環境下での人体の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、対象者に応じた栄養リスクスクリーニング、栄養アセスメント、短期・中期・長期の栄養管理目標の設定と栄養ケアプランの作成、プランに即した献立の作成さらに計画の評価・判定などの実習を行い、栄養管理の方法について理解を深め遂行していく力をつけていく。				
学習成果到達目標	1）栄養アセスメントを理解し実践することができる。 2）栄養管理の考え方を理解し、対象者に応じた栄養管理が実践できる基本的な技能を修得する。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	応用栄養学実習　五関正江・小林三智子　建帛社				
参考書	カレント応用栄養学　辻 悦子編　建帛社　（応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで使用のテキスト） 応用栄養学実習ワークブック　山本由喜子編　みらい 日本食品標準成分表（文部科学省）				
留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの復習をしておくこと				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。				

授　業　名	**応用栄養学実習ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養マネジメントの概要	（内　　容）オリエンテーション 栄養マネジメントの理解 （必要な準備）事前にテキストを読んでおくこと。
第2回	栄養リスクスクリーニングと栄養アセスメントの実際	（内　　容）栄養リスクスクリーニングと栄養アセスメントの実際 （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第3回	栄養管理計画とその実践について	（内　　容）栄養管理計画とその実践について（適正栄養量の算定と献立作成） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第4回	妊婦を対象とした栄養管理	（内　　容）妊婦を対象とした栄養管理の実際（妊娠前期、中期、後期） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第5回	授乳婦を対象とした栄養管理	（内　　容）授乳婦を対象とした栄養管理の実際（授乳期） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第6回	乳児期の栄養管理	（内　　容）乳児期の栄養管理の実際（調乳、特殊ミルク） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第7回	離乳期の栄養管理	（内　　容）離乳期の栄養管理の実際（離乳食の進め方、食物アレルギーの場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第8回	幼児期の栄養管理	（内　　容）幼児期の栄養管理に実際（保育所給食、間食） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第9回	学童期の栄養管理	（内　　容）学童期の栄養管理の実際（肥満児、学校給食のある日とない日の食事、朝食欠食の場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第10回	思春期の栄養管理	（内　　容）思春期の栄養管理の実際（貧血、やせの場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第11回	成人期の栄養管理	（内　　容）成人期の栄養管理の実際（メタボリックシンドロームの場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第12回	高齢期の栄養管理①（低栄養の場合）	（内　　容）高齢期の栄養管理①（低栄養の場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第13回	高齢期の栄養管理②（嚥下困難、咀嚼力低下の場合）	（内　　容）高齢期の栄養管理②（嚥下困難、咀嚼力低下の場合） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第14回	運動負荷に対応した栄養管理	（内　　容）運動負荷に対応した栄養管理の実際 （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。
第15回	環境に対応した栄養管理	（内　　容）環境に対応した栄養管理の実際（高温、低温、災害時の栄養） （必要な準備）事前にテキストを読み、課題をしておくこと。

授業名	**栄養教育論Ⅲａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Nutrition Education Ⅲ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎知識を実践として活用する方法を修得する。特に、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ傷病者、要介護者への栄養教育、栄養ケアプランをもとに、身体的、精神的、社会状況等のライフステージ、ライフスタイルに必要な栄養教育について理解し、栄養教育論実習と関連付けながら、そのあり方、方法を修得する。				
学習成果到達目標	1）栄養教育を行ううえで必要となる情報を収集・分析し、問題点を明確にできる。 2）ライフステージ・ライフスタイル別に、個々人に応じた栄養教育の展開ができる。 3）栄養教育に関連する法律、ガイドラインを理解できる。				
評価方法	定期試験（100 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　）　□（　）				
テキスト	カレント栄養教育論　杉山みち子、赤松利恵、桑野稔子編著　建帛社				
参考書					
留意事項	自らの食生活・食習慣を見直し、そこから個々人にあった栄養教育についてその重要性に気づいて、授業に臨むこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください				

授　業　名	**栄養教育論Ⅲａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の概要とライフステージ別の栄養教育の概念について学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	妊娠・授乳期の栄養教育	（内　　容）　妊娠・授乳期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.99～108を読んでおく（30分）
第3回	乳児期の栄養教育	（内　　容）乳児期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.99～108を読んでおく（30分）
第4回	幼児期の栄養教育	（内　　容）幼児期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.109～112を読んでおく（30分）
第5回	子育て支援と栄養教育	（内　　容）　保育所における栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.112～116を読んでおく（30分）
第6回	学童期の栄養教育栄養	（内　　容）　学童期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.117～123を読んでおく（30分）
第7回	思春期の栄養教育	（内　　容）思春期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.123～127を読んでおく（30分）
第8回	成人期の栄養教育（ワーク・ライフ・バランスと栄養教育）	（内　　容）　成人期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.129～138の復習（30分）
第9回	成人期の栄養教育（勤務形態と栄養教育）	（内　　容）成人期の栄養教育の課題について学ぶ （必要な準備）テキストp.138～147の復習（30分）
第10回	高齢期（施設および在宅）の栄養教育	（内　　容）高齢期の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.149～160を読んでおく（30分）
第11回	傷病者の栄養教育	（内　　容）傷病者の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.161～174を読んでおく（30分）
第12回	障がい者の栄養教育	（内　　容）障がい者の栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.175～187を読んでおく（30分）
第13回	スポーツと栄養教育	（内　　容）アスリートの栄養教育について学ぶ （必要な準備）テキストp.188～195を読んでおく（30分）
第14回	社会生活と栄養教育	（内　　容）食環境と栄養教育について学ぶ （必要な準備）食環境の復習をしておく（30分）
第15回	食生活指針と栄養教育	（内　　容）食生活指針・食事バランスガイドと栄養教育の関連について学ぶ （必要な準備）食生活指針の復習をしておく（30分）

授業名	**栄養教育論実習Ⅱａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Practice in Nutrition Education Ⅱ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	本授業では、栄養状態や食行動などのライフスタイルに応じた個人への栄養教育のあり方や方法について学ぶ。個人を対象とする栄養マネジメントの実践力を養うため、自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、教材・媒体を用いた模擬教育を体験する他、食行動の変容が必要な個人を対象としたカウンセリングの実施については、講義で学んだ行動科学の理論を活用してその技術を身につけ、臨地実習で展開できる力を身につける。				
学習成果到達目標	1）健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析から、それらを総合的に評価・判定できる。 2）対象者に応じた栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート ■制作物 ■口述 ■実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	カレント　栄養教育論　杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著　建帛社				
参考書					
留意事項	グループごとの実習にそれぞれが積極的にかかわって進めていくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	**栄養教育論実習Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）実習の概要と進め方の確認 （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）
第2回	個人を対象とした栄養教育Ⅰ：対象者の選択と状態の把握（生活習慣病予防）	（内　　容）栄養アセスメント、食事調査について学ぶ （必要な準備）テキストp62～67を読んでおく（30分）
第3回	個人を対象とした栄養教育Ⅱ：プログラムの立案、指導案の作成（生活習慣病予防）	（内　　容）食事調査の聞き取り方体験 （必要な準備）前回の授業の復習（１時間）
第4回	個人を対象とした栄養教育Ⅲ：栄養カウンセリングの話し方・聴き方（生活習慣病予防）	（内　　容）　栄養カウンセリングについて学ぶ （必要な準備）テキストp.43～51を読んでおく（１時間）
第5回	個人を対象とした栄養教育Ⅳ：栄養カウンセリング実施（生活習慣病予防）	（内　　容）話し方・聴き方のロールプレイ （必要な準備）テキストp.51～55を読んでおく（1時間）
第6回	個人を対象とした栄養教育Ⅴ：模擬個人教育の実施　（生活習慣病予防）	（内　　容）教育者・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイ （必要な準備）前回の授業の復習（30分）
第7回	個人を対象とした栄養教育Ⅵ：模擬個人教育の振り返り（生活習慣病予防）	（内　　容）模擬個人教育の振り返りと評価 （必要な準備）前回の授業の復習（30分）
第8回	個人を対象とした栄養教育Ⅶ：模擬患者への面接技法（生活習慣病予防）	（内　　容）教育者・模擬患者・観察者のローテーションによるロールプレイと振り返り （必要な準備）前回の授業の復習（1時間）
第9回	個人を対象とした栄養教育Ⅰ：対象者の選択と状態の把握（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）在宅療養者への訪問栄養指導を学ぶ （必要な準備）テキストp.150～152を読んでおく（30分）
第10回	個人を対象とした栄養教育Ⅱ：プログラムの立案、指導案の作成（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）在宅療養者への訪問栄養指導のプログラムの立案、指導案の作成 （必要な準備）テキストp.152～157を読んでおく（30分）
第11回	個人を対象とした栄養教育Ⅲ：栄養教育の媒体作成（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）グループごとに対象者への媒体作成 （必要な準備）媒体作成の資料準備（1時間）
第12回	個人を対象とした栄養教育Ⅳ：模擬個人教育の献立作成（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）グループごとに対象者への献立作成 （必要な準備）模擬訪問栄養指導の準備（1時間）
第13回	個人を対象とした栄養教育Ⅴ：模擬個人教育リハーサル（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）模擬訪問栄養指導リハーサルと仕上げ （必要な準備）模擬訪問栄養指導の準備（1時間）
第14回	個人を対象とした栄養教育Ⅵ：模擬個人教育実施（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）模擬訪問栄養指導実施と評価 （必要な準備）模擬訪問栄養指導の準備（1時間）
第15回	個人を対象とした栄養教育Ⅶ：実施内容の評価（病室訪問、在宅療養者への訪問栄養食事指導）	（内　　容）評価をまとめて改善点を検討 （必要な準備）模擬訪問栄養指導を振り返っておく（30分）

授業名	**臨床栄養学Ⅲａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Clinical Nutrition Ⅲ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に臨床における管理栄養士が傷病者を対象とした適切な栄養管理について学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医療品の相互作用について修得する。さらに、チーム医療や在宅医療における栄養ケアについて理解する。				
学習成果到達目標	1）傷病者の病態や症状にあった栄養ケアプランが理解できる。 2）チーム医療や在宅医療における栄養ケアについて理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	・Visual 栄養学テキスト　臨床栄養学Ⅰ総論　監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店） ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第７版」日本糖尿病協会　編・著（文光堂）				
参考書	・腎臓病食品交換表「第９版」治療食の基準　監修：黒川清、中山俊之、小沢尚、酒井謙　他編（医歯薬出版㈱） ・適宜、参考文献などを紹介する。				
留意事項	・臨床栄養学Ⅰ、及びⅡを復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をして授業に臨むこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。				

授　業　名	**臨床栄養学Ⅲａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	医療の現状と管理栄養士の職務	（内　　容）医療の現状と管理栄養士の職務 （必要な準備）教科書を予習して臨むこと。
第2回	医療における栄養管理の意義	（内　　容）医療における栄養管理の意義 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第3回	カルテ（診療記録）の見方、読み方と情報	（内　　容）カルテ（診療記録）の見方、読み方と情報 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第4回	ＰＯＳと栄養管理	（内　　容）ＰＯＳと栄養管理 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第5回	クリニカルパスの基礎知識	（内　　容）クリニカルパスの基礎知識 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第6回	チーム医療	（内　　容）チーム医療 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第7回	ＩＴと栄養教育	（内　　容）ＩＴと栄養教育 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第8回	食事記録法による栄養摂取量の把握とその問題点	（内　　容）食事記録法による栄養摂取量の把握とその問題点 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第9回	栄養食事指導と食事療法の心理的要因	（内　　容）栄養食事指導と食事療法の心理的要因 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第10回	栄養補給法の種類と摘要	（内　　容）栄養補給法の種類と摘要 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第11回	食品と医薬品の相互作用	（内　　容）食品と医薬品の相互作用 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第12回	個別栄養管理と管理栄養士	（内　　容）個別栄養管理と管理栄養士 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第13回	治療基準と栄養ケア・マネジメント（ＮＣＭ）	（内　　容）治療基準と栄養ケア・マネジメント（ＮＣＭ） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第14回	在宅医療（地域連携）と栄養ケアⅠ（現状）	（内　　容）在宅医療（地域連携）と栄養ケアⅠ（現状） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第15回	在宅医療（地域連携）と栄養ケアⅡ（役割）	（内　　容）在宅医療（地域連携）と栄養ケアⅡ（役割） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。

授業名	**臨床栄養学Ⅳａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Clinical Nutrition Ⅳ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎にして、実際の疾患における栄養管理法の根拠と基本を学び、病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解する。さらに、発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターについて学ぶ。				
学習成果到達目標	1）病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解できる。 2）発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターを理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	・Visual 栄養学テキスト　臨床栄養学Ⅱ各論　監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店）				
参考書	・腎臓病食品交換表「第９版」治療食の基準　監修：黒川清、中山俊之、他編（医歯薬出版㈱） ・糖尿病治療ガイド（2018-2019）日本糖尿病協会編・著（文光堂） ・適宜、参考文献などを紹介する。				
留意事項	・臨床栄養学Ⅲを復讐しておくこと。 ・毎回の予習と復習をして授業に臨むこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。				

授業名	**臨床栄養学Ⅳａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	疾患・病態別栄養ケア・マネジメント	（内　　容）疾患・病態別栄養ケア・マネジメント （必要な準備）教科書を予習して臨むこと。
第2回	栄養障害	（内　　容）栄養障害 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第3回	代謝・内分泌系疾患の栄養管理①（飢餓、タンパク質、エネルギー栄養障害（PEM））	（内　　容）代謝・内分泌系疾患の栄養管理①（飢餓、タンパク質、エネルギー栄養障害（PEM）） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第4回	代謝・内分泌系疾患の栄養管理②（ビタミン、ミネラル欠乏症・過剰症）	（内　　容）代謝・内分泌系疾患の栄養管理②（ビタミン、ミネラル欠乏症・過剰症） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第5回	消化器系疾患の栄養管理①（クローン病）	（内　　容）消化器系疾患の栄養管理①（クローン病） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第6回	消化器系疾患の栄養管理②（潰瘍性大腸炎）	（内　　容）消化器系疾患の栄養管理②（潰瘍性大腸炎） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第7回	消化器系疾患の栄養管理③（肝炎、肝硬変）	（内　　容）消化器系疾患の栄養管理③（肝炎、肝硬変） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第8回	循環器系疾患の栄養管理①（本態性高血圧病、妊娠高血圧病）	（内　　容）循環器系疾患の栄養管理①（本態性高血圧病、妊娠高血圧病） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第9回	循環器系疾患の栄養管理②（動脈硬化症、心疾患）	（内　　容）循環器系疾患の栄養管理②（動脈硬化症、心疾患） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第10回	腎・尿路疾患の栄養管理①（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）	（内　　容）腎・尿路疾患の栄養管理①（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第11回	腎・尿路疾患の栄養管理②（慢性腎臓病、透析療法）	（内　　容）腎・尿路疾患の栄養管理②（慢性腎臓病、透析療法） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第12回	腎・尿路疾患の栄養管理③（糖尿病性腎症）	（内　　容）腎・尿路疾患の栄養管理③（糖尿病性腎症） （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第13回	内分泌疾患の栄養管理	（内　　容）内分泌疾患の栄養管理 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第14回	神経疾患の栄養管理	（内　　容）神経疾患の栄養管理 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。
第15回	摂食障害の栄養管理	（内　　容）摂食障害の栄養管理 （必要な準備）前回の内容を復讐の上、予習して臨むこと。

授業名	**臨床栄養学実習Ⅱａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Practical training for Clinical Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平　正人**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	臨床栄養学実習Ⅱでは、臨床栄養活動に必要な基本的技法を学び修得する。特に各種計測による評価・判定方法やベットサイドの栄養指導などについては実習を活用して学ぶ。また、医療・介護制度や医療チームにおける役割について理解する。				
学習成果到達目標	1）臨床栄養活動に必要な基本的技法が理解できる。 2）対象者に応じた栄養管理方針が計画できる。 3）栄養療法の計画と評価法ができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（グループワークにおける相互の協力と連携　）　□（　　）				
テキスト	・症例から学ぶ　臨床栄養教育テキスト「第３版」監修：川崎英二・他、編集：本田佳子・他　（医歯薬出版㈱） ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第７版」日本糖尿病協会　編・著（文光堂）				
参考書	・Ｎブックス　三訂臨床栄養管理「第３版」渡邉早苗、寺本房子　他共著（建帛社） ・腎臓病食品交換表「第９版」治療食の基準　監修：黒川清、中山俊之、他編（医歯薬出版 ㈱） ・適宜、参考文献などを紹介する。				
留意事項	・臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐しておくこと。 ・必ず事前準備を行って、授業に臨むこと。 ・グループワークを主体とする授業のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。（出席重視）				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。				

授　業　名	**臨床栄養学実習Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	栄養スクリーニングと栄養アセスメント	（内　　容）栄養スクリーニングと栄養アセスメント （必要な準備）臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐して臨むこと。
第2回	栄養アセスメントⅠ（身体計測・エネルギー必要量の算出）	（内　　容）栄養アセスメントⅠ（身体計測・エネルギー必要量の算出） （必要な準備）臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐して臨むこと。
第3回	栄養アセスメントⅡ（栄養・食事調査）	（内　　容）栄養アセスメントⅡ（栄養・食事調査） （必要な準備）臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐して臨むこと。
第4回	栄養管理計画書の作成	（内　　容）栄養管理計画書の作成 （必要な準備）臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐して臨むこと。
第5回	症例検討ー病棟訪問、栄養ケアプランの作成	（内　　容）症例検討ー病棟訪問、栄養ケアプランの作成 （必要な準備）臨床栄養学Ⅰ～Ⅲを復讐して臨むこと。
第6回	栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅰ（動脈硬化・２型糖尿病・非代謝性肝硬変）	（内　　容）栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅰ（動脈硬化・２型糖尿病・非代謝性肝硬変） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第7回	栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅱ（慢性腎不全・嚥下障害・クローン病）	（内　　容）栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅱ（慢性腎不全・嚥下障害・クローン病） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第8回	栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅲ（慢性閉塞性肺疾患・直腸癌・肺癌・熱傷）	（内　　容）栄養管理計画書の作成（各種課題症例）Ⅲ（慢性閉塞性肺疾患・直腸癌・肺癌・熱傷） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第9回	症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅰ（動脈硬化・２型糖尿病・非代謝性肝硬変）	（内　　容）症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅰ（動脈硬化・２型糖尿病・非代謝性肝硬変） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第10回	症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅱ（慢性腎不全・嚥下障害・クローン病）	（内　　容）症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅱ（慢性腎不全・嚥下障害・クローン病） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第11回	症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅲ（慢性閉塞性肺疾患・直腸癌・肺癌・熱傷）	（内　　容）症例検討ー病棟訪問（各種課題症例）Ⅲ（慢性閉塞性肺疾患・直腸癌・肺癌・熱傷） （必要な準備）疾病の特徴と栄養管理を整理の上、授業に臨むこと。
第12回	栄養ケアプランの作成	（内　　容）栄養ケアプランの作成 （必要な準備）授業課題を整理し、理解の上、授業に臨むこと。
第13回	食品構成表と献立作成	（内　　容）食品構成表と献立作成 （必要な準備）授業課題を整理し、理解の上、授業に臨むこと。
第14回	在宅療養者の食生活支援、咀嚼・嚥下障害者の栄養管理	（内　　容）在宅療養者の食生活支援、咀嚼・嚥下障害者の栄養管理 （必要な準備）授業課題を整理し、理解の上、授業に臨むこと。
第15回	模擬患者（SP）参加型実習	（内　　容）模擬患者（SP）参加型実習 （必要な準備）授業課題を整理し、理解の上、授業に臨むこと。

授業名	**公衆栄養学Ⅱａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Public Health Nutrition　Ⅱ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**竹市　仁美**	対象学生	食物栄養3回生		

授業の概要	地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連の各種サービス、プログラムの調整、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理など、総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から学び、人的資源など社会的資源の活用について理解する。
学習成果到達目標	1）地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムが作成できる。 2）プログラムを実施し、評価し、総合的にマネジメントする方法を修得している。 3）地域の健康、栄養課題を明確にして、施策を推進することの大事さに気づくことができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	NEXT第5版公衆栄養学　酒井徹・郡俊之編　講談社
参考書	栄養士必携平成30年度
留意事項	総合的に理解できるよう、公衆栄養学Ⅰで学んだ栄養の現状や法規を理解したうえで、実践の幅を広げるよう
オフィスアワー	最初の授業で案内します

授　業　名	**公衆栄養学Ⅱａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	栄養疫学の概要	（内　　容）栄養疫学について学び、栄養疫学の位置づけと必要性を知る。 （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと 公衆衛生学のテキストを持参
第2回	暴露情報としての食事摂取量	（内　　容）暴露情報としての食事摂取量や栄養素の考え方について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと 公衆衛生学テキストを持参
第3回	食事摂取量の測定方法	（内　　容）さまざまな食事摂取量の測定方法について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第4回	食事摂取量の評価方法	（内　　容）調査後の食事摂取量の評価方法について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと 公衆衛生学テキストを持参
第5回	公衆栄養マネジメント①　マネジメント	（内　　容）公衆栄養マネジメントとは何かについて考える （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第6回	公衆栄養マネジメント②　アセスメント	（内　　容）公衆栄養アセスメントの目的と方法について学ぶ また、食事摂取基準や既存資料の活用方法について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第7回	公衆栄養マネジメント③　目標設定	（内　　容）改善課題の抽出方法について学ぶ 改善目標の設定の方法について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第8回	公衆栄養マネジメント④　計画・実施	（内　　容）課題を改善するための計画を作成・実施の方法や留意点について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第9回	公衆栄養マネジメント⑤　評価	（内　　容）評価についてその方法や分析の視点について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第10回	公衆栄養プログラムの展開①　地域栄養の課題	（内　　容）地域栄養の課題について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第11回	公衆栄養プログラムの展開②　地域栄養マネジメント	（内　　容）現在実施されている施策について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第12回	公衆栄養プログラムの展開③　妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラム	（内　　容）公衆栄養プログラムの展開③　妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラムの実際について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第13回	公衆栄養プログラムの展開④　成長期、成人期のプログラム	（内　　容）公衆栄養プログラムの展開④　成長期、成人期のプログラムの実際について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第14回	公衆栄養プログラムの展開⑤　高齢者のプログラム	（内　　容）公衆栄養プログラムの展開⑤　高齢者のプログラムの実際について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと
第15回	地域における生活習慣病の発症予防と重症化予防、ハイリスク集団のプログラム	（内　　容）特定健診特定保健指導、在宅栄養、地域ネットワークなどの現状について学ぶ （必要な準備）テキスト必要箇所を読んでおくこと

授業名	**公衆栄養学実習ａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Practical training for Public Health Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**竹市　仁美**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	公衆栄養関連のサービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。地域や職域等の健康・栄養情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。「日本人の食事摂取基準」の活用法、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析などを行い理解する。				
学習成果到達目標	1）地域や職域等の健康・栄養情報を収集しそれを分析・診断し、集団の特性を把握できる。 2）情報の分析・診断の結果から問題点を把握し、適切な栄養改善計画を立てることができる。 3）地域の公衆栄養関連サービスに参加し、協力することができる。				
評価方法	定期試験　■筆記試験　□レポート　□制作物 （　50　%）　□口述　□実習　□実技		平常試験　□筆記試験　■レポート　■制作物 （　50　%）　■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	NEXT第5版公衆栄養学　酒井徹・郡俊之編　講談社 現場で役立つ公衆栄養学－学内編－　同文書院 配布プリント				
参考書	日本人の食事摂取基準2015年度版 栄養士必携　平成30年度 調理のためのベーシックデータ				
留意事項	班員と協力して積極的に課題に取り組み、時間内にまとめるよう努力すること				
オフィスアワー	最初の授業時に伝えます				

授　業　名	**公衆栄養学実習ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	公衆栄養学実習オリエンテーション	（内　　容）公衆栄養学実習オリエンテーション （必要な準備）
第2回	栄養プログラム計画の実際①　健康日本21	（内　　容）栄養プログラム計画の実際①　健康日本21 （必要な準備）
第3回	栄養プログラム計画の実際②　食育基本計画	（内　　容）栄養プログラム計画の実際②　食育基本計画 （必要な準備）
第4回	国民健康・栄養調査の実際と結果の分析	（内　　容）国民健康・栄養調査の実際と結果の分析 （必要な準備）
第5回	公衆栄養アセスメント　地域の実態把握とアセスメントの方法	（内　　容）公衆栄養アセスメント　地域の実態把握とアセスメントの方法 （必要な準備）
第6回	「日本人の食事摂取基準」の活用公衆栄養プログラム	（内　　容）「日本人の食事摂取基準」の活用公衆栄養プログラム （必要な準備）
第7回	公衆栄養マネジメント　ＰＤＣＡマネジメントサイクル	（内　　容）公衆栄養マネジメント　ＰＤＣＡマネジメントサイクル （必要な準備）
第8回	公衆栄養マネジメント　栄養指導	（内　　容）公衆栄養マネジメント　栄養指導 （必要な準備）
第9回	公衆栄養プログラム①　計画と目標の設定	（内　　容）公衆栄養プログラム①　計画と目標の設定 （必要な準備）
第10回	公衆栄養プログラム②　栄養改善計画実施	（内　　容）公衆栄養プログラム②　栄養改善計画実施 （必要な準備）
第11回	公衆栄養プログラム③　事業の評価	（内　　容）公衆栄養プログラム③　事業の評価 （必要な準備）
第12回	公衆栄養プログラム④　改善案	（内　　容）公衆栄養プログラム④　改善案 （必要な準備）
第13回	公衆栄養プログラム⑤　データ整備と解析	（内　　容）公衆栄養プログラム⑤　データ整備と解析 （必要な準備）
第14回	公衆栄養関連のプログラム	（内　　容）公衆栄養関連のプログラム （必要な準備）
第15回	公衆栄養関連サービスのプランと地域栄養ケアのためのネットワーク参加	（内　　容）公衆栄養関連サービスのプランと地域栄養ケアのためのネットワーク参加 （必要な準備）

授業名	**給食経営管理実習ａ・ｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Practice of Food Service Management	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**富安　広幸**	対象学生	食物栄養3回生		
授業の概要	本実習は、給食経営管理論ⅠおよびⅡで学んだ給食の経営の理論について、実習に取り組むことで理解を深め、ＰＤＣＡサイクルに基づいたマネジメントができる力を修得する。給食の運営だけではなく、組織づくり、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーションなどの全てが経営管理にとって不可欠なものであり、実習ではそれらの能力も養う。1クラスを３グループ(試作、管理、支援)に分け、グループごとにローテーションして全員が全ての役割を実習する。				
学習成果到達目標	1）給食業務を総合的に理解し、給食運営に対する実践力と応用力を修得している。 2）給食経営管理に関して臨地実習に生かす基本内容を修得している。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 ■実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎　坂本裕子・森美奈子　編　化学同人				
参考書					
留意事項	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ等関連科目の復習を十分しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。				

授　業　名	**給食経営管理実習ａ・ｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）オリエンテーション （必要な準備）給食の流れ等について復習しておくこと。
第2回	給食計画Ⅰ（給食対象者のアセスメント、献立作成）	（内　　容）給食計画Ⅰ（給食対象者のアセスメント、献立作成） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	給食計画Ⅱ（食材購入計画、調理作業手順書の作成）	（内　　容）給食計画Ⅱ（食材購入計画、調理作業手順書の作成） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	給食の実施運営Ⅰ（A班：試作、B班：試作の準備、C班：試作の準備）	（内　　容）給食の実施運営Ⅰ（A班：試作、B班：試作の準備、C班：試作の準備） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第5回	給食の実施運営Ⅱ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（内　　容）給食の実施運営Ⅱ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第6回	給食の実施運営Ⅲ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（内　　容）給食の実施運営Ⅲ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第7回	給食の実施運営Ⅳ（A班：試作、B班：管理、C班：支援）	（内　　容）給食の実施運営Ⅳ（A班：試作、B班：管理、C班：支援） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第8回	給食の実施運営Ⅴ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（内　　容）給食の実施運営Ⅴ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第9回	給食の実施運営Ⅵ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（内　　容）給食の実施運営Ⅵ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第10回	給食の実施運営Ⅶ（A班：試作、B班：管理、C班：支援）	（内　　容）給食の実施運営Ⅶ（A班：試作、B班：管理、C班：支援） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第11回	給食の実施運営Ⅷ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（内　　容）給食の実施運営Ⅷ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第12回	給食の実施運営Ⅸ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（内　　容）給食の実施運営Ⅸ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第13回	給食の実施運営Ⅹ（A班：支援、B班：管理、C班：支援）	（内　　容）給食の実施運営Ⅹ（A班：支援、B班：管理、C班：支援） （必要な準備）事前に自分の役割について考えておくこと。
第14回	評価	（内　　容）評価 （必要な準備）評価方法の検討をしておくこと。
第15回	報告会	（内　　容）報告会 （必要な準備）発表の準備をしておくこと。

授業名	**音楽の基礎（ピアノ・歌）**	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Fundamentals of Music (Piano and Song)	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	音楽のごく初学者向け。秋学期開講の音楽Ⅰ（基本的に児童学コース・保育士・幼小教免取得希望者対象）に先立ち、ピアノおよび発声の基礎を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）初歩的な楽譜が読譜（リズム、音高等の理解）ができる。 2）簡単な楽譜の基礎的歌唱ができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		平常試験（ 50 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（実技への取り組み　）　□（　）			
テキスト	『バーナムピアノ教本　Book1』全音楽譜出版社				
参考書					
留意事項					
オフィスアワー	火曜日12:10―13:00				

授　業　名	**音楽の基礎（ピアノ・歌）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	1. ト音記号の読譜および視唱 2. ピアノを弾く際の注意事項および試奏	（内　　容）ト音記号による読譜と視唱を行うとともに、ピアノを奏する際の諸注意事項（手の形・指番号・姿勢等）を学び、試奏する。また、試奏だけでなく、視唱も1回目以降同時に行う。 （必要な準備）教本を読んでおく。
第2回	ト音記号およびヘ音記号の読譜及び視唱・試奏	（内　　容）ト音記号およびヘ音記号による読譜を行い、ピアノでの各記号による音高の違いについて理解する。 （必要な準備）前回の復習
第3回	音価①導入	（内　　容）基本的な音価の違いを理解する。 （必要な準備）前回の復習
第4回	音価②基本	（内　　容）前回学習事項を復習するとともに、音価の相対的な違いを理解するために、簡単な小品の試奏を行う。 （必要な準備）前回の復習
第5回	音価③発展	（内　　容）音価の相対的な違いを理解するため、簡単な小品の試奏を行う。 （必要な準備）前回の復習
第6回	拍子①導入	（内　　容）子どもの歌によく用いられる拍子とその拍の取り方についてリズム打ちを行いつつ学ぶ。 （必要な準備）前回の復習
第7回	拍子②基本	（内　　容）前回事項の復習と理解の定着化を図るため、小品を奏する。 （必要な準備）前回の復習
第8回	拍子とリズム①4分の4拍子	（内　　容）4分の4拍子の小品の中での拍感と音価の捉え方について学ぶ。また簡単なリズム打ちも同時に行うことにより、これらを体感的に理解する。 （必要な準備）前回の復習
第9回	拍子とリズム②4分の2拍子	（内　　容）4分の2拍子の小品の中での拍感と音価の捉え方について学ぶ。また簡単なリズム打ちも同時に行うことにより、これらを体感的に理解する。 （必要な準備）前回の復習
第10回	拍子とリズム③4分の3拍子	（内　　容）4分の3拍子の小品の中での拍感と音価の捉え方について学ぶ。また簡単なリズム打ちも同時に行うことにより、これらを体感的に理解する。 （必要な準備）前回の復習
第11回	既学習事項の復習	（内　　容）既出の拍子・リズム・音部記号が用いられた小品を用いて、第10回迄に学習した事項の確認を行う。 （必要な準備）前回の復習
第12回	さまざまなリズム①シンコペーション等	（内　　容）既出のリズム以外のリズム型（シンコペーション等）について学ぶ。 （必要な準備）前回の復習
第13回	さまざまなリズム②応用	（内　　容）既出のリズムの総合練習 （必要な準備）前回の復習
第14回	加線による読譜（ト音記号・ヘ音記号）	（内　　容）加線が用いられた楽譜に慣れる。 （必要な準備）前回の復習
第15回	既学習事項の総復習	（内　　容）14回目の学習事項の総復習を行う。 （必要な準備）14回目までの総復習

授業名	**音楽Ⅰua・Ⅰub・Ⅰuc・Ⅰud**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	MusicⅠ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子・阿久津　啓・服部　さやか**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、以下の内容で授業を進める。 1．子どもの歌の歌唱　2．ピアノ教則本レッスンおよび子どもの歌の弾き歌い　3．基礎的な音楽理論の説明				
学習成果到達目標	1）子どもの歌の基本的な歌唱法やピアノ奏法の技術を習得することができる。 2）弾き歌いに慣れることができる 3）音楽の基礎的知識を習得することができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技	平常試験（ 30 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（実技　　）　□（　　）			
テキスト	『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他、『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）、				
参考書	使用しない。				
留意事項	授業に出席するだけではなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに合わせてクラス分けを行う。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	**音楽Ⅰua・Ⅰub・Ⅰuc・Ⅰud**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）ピアノのレベルチェック、進度確認。 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音階・音名」	（内　　容）①子どもの歌の歌唱②ピアノレッスン③音楽理論（音階・音名の説明) （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト音記号」	（内　　容）①（子どもの歌の歌唱）②（ピアノレッスン）③（ト音記号の説明） （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	（内　　容）①②および③４・８・16分音符の説明 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「調性」	（内　　容）①②および③主要な調性の説明、実践 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ハ長調とそのカデンツ」	（内　　容）①②および③ハ長調の音階とそのカデンツの説明、実践 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ヘ長調とそのカデンツ」	（内　　容）①②および③ヘ長調の音階とそのカデンツの説明、実践 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調とそのカデンツ」	（内　　容）①②および③ト長調の音階とそのカデンツの説明、実践 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「二長調とそのカデンツ」	（内　　容）①②および③ニ長調の音階とそのカデンツの説明、実践 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第10回	歌唱・ピアノレッスン・平行調・リズム打ち練習	（内　　容）①②、平行調の説明および単純な音符でのリズム打ち練習 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち練習小試験	（内　　容）①②およびリズム打ち小試験 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、リズム打ちの復習・練習(15分)
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(基本形)」	（内　　容）①②およびコードネーム（基本形）の説明 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(転回形)」	（内　　容）①②およびコードネーム（転回形）の説明 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、音楽理論の復習(15分)
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	（内　　容）歌唱の総復習、小試験の実施 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)、2回目～13回目までの歌唱復習(30分)
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	（内　　容）ピアノ実技の総復習、小試験の実施 （必要な準備）ピアノ練習(1日30分以上)

授業名	**図画工作Ⅰua・Ⅰub**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Arts and Crafts Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**平尾　隆史**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。				
学習成果到達目標	1）様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることができる。 2）作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることができる。 3）制作した作品のプレゼンテーションを３分間行うことができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 ■口述　■実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（発想力　）　■（技術・技法　）				
テキスト	新造形表現・実技編　花篤　實・岡田　敬吾　（三晃書房）　平成２５年３月１日発行				
参考書	使用しない。				
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**図画工作Ⅰua・Ⅰub**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の概要説明、受講のための諸注意 （必要な準備）テキストの全体に目を通しておく
第2回	水彩絵の具による表現　にじみ・ドリッピング	（内　　容）水彩絵の具の使い方や技法（にじみ絵など） （必要な準備）テキストP.18～.19を読んでおく
第3回	水彩絵の具による表現　デカルコマニー	（内　　容）水彩絵の具の技法（デカルコマニーなど） （必要な準備）テキストP.22などを読んでおく
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	（内　　容）制作した作品をスケッチブックにまとめる （必要な準備）学習した技法について調べておく
第5回	パスによる表現　スクラッチ	（内　　容）パスによる技法（スクラッチなど） （必要な準備）テキストP.25などを読んでおく
第6回	パスによる表現・作品のまとめ	（内　　容）制作した作品をスケッチブックにまとめる （必要な準備）学習した技法について調べておく
第7回	身近な作品の鑑賞（１） ～校内をそぞろ歩きながら鑑賞～	（内　　容）校内をそぞろ歩きながら、校内のまわりを観察し、いろいろな場面を造形的にとらえ直す （必要な準備）テーマを考えておく デジタルカメラなど
第8回	身近な作品の鑑賞（１） ～校内をそぞろ歩きながら鑑賞～	（内　　容）そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションを行い、鑑賞し合う （必要な準備）プレゼンテーション内容を準備しておく
第9回	動くおもちゃ制作の導入 しゃくとりむし・紙プロペラ制作	（内　　容）子どものための造形活動と課題の説明 （必要な準備）配布プリントを読む
第10回	動くおもちゃ制作 クルクルロケット・折紙だこ制作	（内　　容）感性と創造性を育てる活動を計画する 折紙による創作について （必要な準備）凧が飛ぶための条件を考えておく
第11回	動くおもちゃ制作　風車鳥	（内　　容）鳥の動きから発想する （必要な準備）鳥が飛ぶ様子を観察する 動く仕組みを理解しておく
第12回	ドリームカー制作（車体づくり）	（内　　容）ゴム動力で走る車の車体と車輪制作 （必要な準備）ドリームカーのデザインを考えておく 動く仕組みを理解しておく
第13回	ドリームカー制作（外装づくり）	（内　　容）ゴム動力で走る車の制作（外装デザイン） （必要な準備）外装デザインを考えておく
第14回	ドリームカー競技会・鑑賞会	（内　　容）ドリームカー競技会・鑑賞会の企画運営をする （必要な準備）プレゼンテーションの内容を考えておく
第15回	まとめ・プレゼンテーション	（内　　容）授業全体の振り返り　作品返却 （必要な準備）テキストのP.163～P.168などを読んでおく

授業名	**図画工作Ⅱｕａ・Ⅱｕｂ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Arts and CraftsⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平尾　隆史**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	この授業では、図画工作の意義について理解し、感性と創造性を育てる造形表現を学ぶ。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深め、自ら指導計画を立てるための土台となる力を養う。				
学習成果到達目標	1）子どもの表現に関心を持ち理解しようとする態度とさまざまな方法で自ら表現する力を学習する。 2）子どもの造形表現から、子どもの伝えたいことを理解できる感性を養う。 3）制作した作品のプレゼンテーションを５分間行うことができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 ■実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■（発想力 ） ■（技術・技法 ）				
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現　実技編』（三晃書房）（１回生春学期購入のもの）平成２５年３月１日発行				
参考書	使用しない。				
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	図画工作Ⅱｕａ・Ⅱｕｂ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	秋学期ガイダンス	（内　　容）子どものための造形活動と課題の説明 （必要な準備）さまざまな技法を復習しておく
第2回	オリジナル缶バッジの制作	（内　　容）学習した様々な技法などで表現 （必要な準備）デザインを考えておく
第3回	子どもデパート（子どもの理解と造形）の導入	（内　　容）華頂祭での子どもデパート企画運営の立案 （必要な準備）企画運営について考えておく
第4回	子どもデパート（子どもの理解と造形）	（内　　容）ディスプレーの立案 学習した様々な技法などでステッカー制作 （必要な準備）アイデアを考えておく
第5回	子どもデパート（子どもの理解と造形）の準備	（内　　容）華頂祭での子どもデパートコーナーの準備 （必要な準備）子どもデパートの予定を立てておく
第6回	子どもデパート（子どもの理解と造形）の発表	（内　　容）子どもと関わる（子ども理解） （必要な準備）子どもの発達について調べておく
第7回	身近な作品の鑑賞（２） ～そぞろ歩きながら鑑賞～	（内　　容）そぞろ歩きながら身のまわりを観察し、暮らしの中で出会ういろいろな場面を造形的にとらえ直す （必要な準備）テーマを考えておく デジタルカメラなど
第8回	身近な作品の鑑賞（２） ～そぞろ歩きながら鑑賞～	（内　　容）そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションを行い、鑑賞し合う （必要な準備）プレゼンテーション内容を準備しておく
第9回	木の葉で絵を描く	（内　　容）さまざまな木の葉を工夫して組み合わせて絵を描く （必要な準備）さまざまな紅葉した木の葉を準備しておく
第10回	自然材を使って制作 ～森からの贈りもの～	（内　　容）自然材（木の葉・枝・木の実など）から森の生き物たちを制作 （必要な準備）木の葉・枝・木の実などを準備しておく
第11回	自然材を使って制作・鑑賞会 ～森からの贈りもの～	（内　　容）作品を野外の気に入った場所に置き鑑賞会をする （必要な準備）自らの取り組みについて考えておく
第12回	木工作　ガリガリプロペラ制作	（内　　容）木の材料を使って制作・デザイン （必要な準備）自分の作品のアイデアを考えておく
第13回	木工作　ガリガリプロペラ制作	（内　　容）木の材料を使って制作・デザイン （必要な準備）前回の内容を完成させておく
第14回	作品のまとめ	（内　　容）制作した作品の鑑賞会をする （必要な準備）アピール文を考えておく
第15回	まとめ・プレゼンテーション	（内　　容）授業全体の振り返りをする （必要な準備）自らの活動について考えておく

授業名	**算数教育**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Mathematics	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**重松　敬一**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	算数指導において、関心・意欲・態度の目標をどう設定するか。数学的な考え方の目標をどう設定するかを中心として授業を進める。学習指導案を作る前段階となる目標分析について身につける。学習指導要領について数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。子どもを指導するときに、知識・理解にかかわる目標を教科書からとらえることができるような技術と表現について教授する。講義形式を中心に授業する。
学習成果到達目標	1）算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成での算数の内容を理解する。 2）数学的及び社会的な視点で算数の内容を考察し、算数科教育の意義を理解する。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版、242円）、講義中にプリントなども配布する
参考書	数学教育研究会：『新訂　算数教育の理論と実際』、聖文新社、2014
留意事項	
オフィスアワー	メールで対応します。

授　業　名	**算数教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに－算数の教科内容の学習の現状	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる （必要な準備）
第2回	数学と算数の内容：数学の特徴	（内　　容）自分の学習経験と算数の内容や考え方を比較する （必要な準備）自分の学習経験を振り返る
第3回	数学のいくつかの側面と算数の内容	（内　　容）算数の内容での数学的考え方など特徴を知る （必要な準備）数学の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	歴史的な視点からの算数教育：戦前・戦後の算数の内容の特徴	（内　　容）今日の算数の内容を戦前・戦後の歴史的な視点から振り返る （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第5回	現代的な課題からの算数教育（１）：自然数や整数に関する内容	（内　　容）ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第6回	現代的な課題からの算数教育（２）：自然数や整数に関する内容	（内　　容）ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第7回	現代的な課題からの算数教育（３）：整数の計算に関する内容	（内　　容）整数の計算に関する算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第8回	現代的な課題からの算数教育（４）：分数や小数とその計算に関する内容	（内　　容）分数や小数とその計算に関する算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第9回	現代的な課題からの算数教育（５）：自然数・整数・有理数に関するまとめ	（内　　容）数の持つ体系的な性質や考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第10回	現代的な課題からの算数教育（６）：図形に関する内容	（内　　容）図形に関する算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第11回	現代的な課題からの算数教育（７）：測定に関する内容	（内　　容）長さや広さなどに関する算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第12回	現代的な課題からの算数教育（８）：変化と関係、データの活用に関する内容	（内　　容）グラフなどに関する算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第13回	算数の内容と日常や社会との関係：生活的な視点から	（内　　容）身近な生活への活用の視点から算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第14回	算数の内容と日常や社会との関係：社会的な視点から	（内　　容）社会での活用の視点から算数の内容と考え方を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第15回	補足とまとめ	（内　　容）本講義の内容を振り返り算数の内容と考え方をまとめる （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する

授業名	**社会科教育**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Social Studies	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。				
学習成果到達目標	1）戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2）民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	授業時に資料を配布します。				
参考書	前田賢次・荒井眞一編『学力と教育課程の創造―社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社　2013年、また適宜、紹介する。				
留意事項	授業前に復習をしておくこと				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。				

授　業　名	**社会科教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　授業の概要と目標	（内　　容）授業の目的や、授業の進め方について説明する。 （必要な準備）
第2回	社会科の歴史（１）初期社会科と問題解決学習論	（内　　容）社会科とは、戦後教育改革と1947年版学習指導要領、社会科の本質と性格 （必要な準備）第1章　戦後教育と社会科の歩み１社会科略史の講読（60分）
第3回	社会科の歴史（２）民間社会科の実践と系統学習論	（内　　容）1955年版から1977年版までの社会科学習指導要領、文部省社会科と民間社会科の違い、民間社会科の歴史・地理教育の実践 （必要な準備）第1章戦後教育と社会科の歩み２社会科学力論の変遷の講読（60分）
第4回	社会科の歴史（３）社会科と生活科・総合学習の共存	（内　　容）1989年版学習指導要領以後の社会科、生活科・総合学習と社会科の総合性、現代的課題と社会科 （必要な準備）第3章現代の社会科の学力を問う　３生活科・総合学習と社会科の講読（60分）
第5回	社会科の歴史（４）現代の社会科の学力とシティズンシップ教育	（内　　容）2008年版学習指導要領と「生きる力」、シティズンシップ教育 （必要な準備）第3章現代の社会科の学力を問う　１今、問われる社会科の学力の講読（60分）
第6回	教材づくりについて	（内　　容）教科書研究から教材づくりと教材化 （必要な準備）第2章　２中学校社会科の授業づくりと学力の講読（60分）
第7回	地域学習について	（内　　容）地域に根ざす教材づくり （必要な準備）自分の住んでいる地域の魅力を紹介するレジュメの作成（60分）
第8回	産業学習について	（内　　容）産業学習と日本社会の産業構造 （必要な準備）第2章　１小学校社会科の授業づくりと学力の講読（60分）
第9回	グローバリゼーションと情報化社会の学習について	（内　　容）グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 （必要な準備）第2章　１小学校社会科の授業づくりと学力の講読（60分）
第10回	指導案づくりの実習（１）	（内　　容）各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う （必要な準備）授業プランの作成（60分）
第11回	指導案づくりの実習（２）	（内　　容）各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う （必要な準備）授業プランの作成(60分)
第12回	模擬授業（１）	（内　　容）担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する （必要な準備）学習指導案の作成（60分）
第13回	模擬授業（２）	（内　　容）担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する （必要な準備）学習指導案の作成（60分）
第14回	模擬授業（３）	（内　　容）担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する （必要な準備）学習指導案の作成（60分）
第15回	まとめ	（内　　容）グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 （必要な準備）第3章21世紀社会科の展望と課題の講読（60分）

授業名	**国語教育（書写を含む）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Japanese and Calligraphy	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**遠藤　純**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語科教育について学ぶ。言語と表現に関する問題について、教材研究を視野においた幅広い考察を行い、理解を深める。物語、詩歌、民話等、教材の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法を学習する。教科書教材となることも多い絵本をも取り上げ、その特質についても補足する。 基本的に講義形式で行うが、とりあげる題材により、具体的な授業の進め方は個人または共同でのワークや発表形式などを含む。
学習成果到達目標	1）国語科の授業内容および方法について理解する。 2）現在の子どもたちの言語環境について理解を深める。 3）物語や詩歌、民話、説明文など、それぞれの領域について教材研究の方法を理解し、実際の教科書教材を使って教材研究を行い、それぞれの教材の特徴について理解を深める。
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
留意事項	
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。

授　業　名	**国語教育（書写を含む）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　授業の概要と目標	（内　　容）当該科目の目的やねらい、授業の進め方についての説明 （必要な準備）
第2回	子どもの言語生活と国語力（１）	（内　　容）現代の子どもが置かれている物語環境について知り、教材としての児童文学について学ぶ。 （必要な準備）教科書で習った児童文学作品を思い出しておく。
第3回	子どもの言語生活と国語力（２）	（内　　容）児童文学が持つ教材性について考え、読解教材としての要件について学ぶ。 （必要な準備）教材としての児童文学に必要な要件は何か、考えておく。
第4回	読むことの内容（１）　絵本をよむ①	（内　　容）絵本とは何かについて学び、その特性を理解する。 （必要な準備）絵本の特徴について考えておく。
第5回	読むことの内容（２）　絵本をよむ②	（内　　容）視覚メディアとしての絵本の特性をふまえ、その教材性について考える。 （必要な準備）絵本を教材として活用する方法を考えておく。
第6回	読むことの内容（３）　絵本をよむ③	（内　　容）絵本の創作を行うことで、絵本の特徴をより把握する。 （必要な準備）絵本の特徴について復習しておく。
第7回	読むことの内容（４）　文学教材をよむ①	（内　　容）物語教材（リアリズム）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）リアリズムについて調べておく。
第8回	読むことの内容（５）　文学教材をよむ②	（内　　容）物語教材（ファンタジー）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）ファンタジーについて調べておく。
第9回	読むことの内容（６）　文学教材をよむ③	（内　　容）物語教材（ファンタジー）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）ファンタジー教材について調べておく。
第10回	読むことの内容（７）　古典教材をよむ	（内　　容）古典教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 （必要な準備）教材として古典作品について調べておく。
第11回	読むことの内容（８）　説明文教材をよむ	（内　　容）説明文教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 （必要な準備）現在活用されている説明文教材について調べておく。
第12回	書くことの内容　創作作文について	（内　　容）書くことの内容の教材研究の内容と方法について考え、学ぶ。 （必要な準備）「書くこと」の内容について調べておく。
第13回	話す・聞くことの内容　話し方・聞き方のスキル	（内　　容）話すこと・聞くことの教材研究の内容と方法について学ぶ。 （必要な準備）「話すこと・聞くこと」の内容について調べておく。
第14回	書写：書写の目的と内容	（内　　容）「書写に関する指導」の教材研究の内容と方法について学ぶ。 （必要な準備）「書写」の概要について調べておく。
第15回	授業のまとめ	（内　　容）授業のまとめを行い、国語科授業のありようについて自分なりの考えをまとめる。 （必要な準備）

授業名	**家庭科教育**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Home Economics	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教科「家庭」の教育理念、教育目標、教育内容を理解する。学習指導要領で示された「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」の４つの内容を基底に、家庭科を学ぶ意義を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）小学校で「家庭」を学ぶ意義を説明できる。 2）児童に「家庭」を教授するための基礎的知識が身につく。				
評価方法	定期試験（ 90 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 10 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（思考力　　）　□（　　）			
テキスト	『小学校学習指導要領解説　家庭編』文部科学省　東洋館出版				
参考書	随時紹介する。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。				

授　業　名	**家庭科教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）科目の概要と目的を理解する。 （必要な準備）シラバスを読み、テキストに目を通す。（20分）
第2回	家庭科教育の歴史1：戦後の家庭科	（内　　容）戦後の家庭科のについて知る。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第3回	家庭科教育の歴史2：家庭科の変化	（内　　容）家庭科教育の変遷について理解する。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第4回	家庭科教育の目的	（内　　容）家庭科教育の目的を理解する。 （必要な準備）テキストのP.8-9を読む。（30分）
第5回	教科の内容	（内　　容）家庭科で学ぶ内容を理解する。 （必要な準備）テキストのP.14-16を読む。（30分）
第6回	家庭生活と家族	（内　　容）現代の家庭生活について理解する。 （必要な準備）テキストのP.17-24を読む。（30分）
第7回	日常の食事と調理の基礎	（内　　容）食事の役割と栄養素の働きについて理解する。（30分） （必要な準備）テキストのP.25-36を読む。（30分）
第8回	快適な衣服1　衣服の機能	（内　　容）衣服の機能について （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第9回	快適な衣服2　衣服の材料	（内　　容）衣服の材料と特徴を知る （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第10回	快適な衣服3　衣服のサイズ表示	（内　　容）サイズ表示の規定を理解する。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第11回	快適な衣服4　衣服の洗濯と管理	（内　　容）取り扱い絵表示と洗濯方法を理解する。 （必要な準備）配付資料を読む。（30分）
第12回	住生活の基礎	（内　　容）住生活の基本知識を得る。 （必要な準備）テキストのP.41-43を読む。（30分）
第13回	消費生活の基礎	（内　　容）消費生活に関する基礎知識を得る。 （必要な準備）テキストのP.49-53を読む。（30分）
第14回	現代社会の身近な課題を探求する	（内　　容）身の回りの現象から課題をみつけ、問題点を考察する。 （必要な準備）テキストのP.54-62を読む。（30分）
第15回	総括	（内　　容）家庭科を教育するために必要な知識をまとめる。 （必要な準備）これまでの内容を整理する。（30分）

授業名	**理科教育**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Science	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山本　明美**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている４領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質の向上を図る。実験・観察に必要な基本的知識を教授し、効果的な実験技術・方法について具体例を挙げながら教授する。また、自然の中での科学的な事象について観察・分析し、アクティブラーニング形式でも行う。				
学習成果到達目標	１）自然の事物・現象についての実感を伴った理解ができる。 ２）見通しをもって観察・考察し、科学的な言葉や概念で表現できる。 ３）小学校理科の基本が理解でき、実際の指導が可能となる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	わくわく理科６、石浦　他　著、啓林館				
参考書	使用しない。				
留意事項	毎回の復習、予習は必要である。				
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授　業　名	**理科教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	わたしたちの地球	（内　　容）水、大気、生命、緑について考える。 （必要な準備）教科書ｐ1～7を一読しておくこと。(６０分)
第2回	ものが燃えるとき	（内　　容）燃焼時の空気の変化 （必要な準備）教科書ｐ8～21を一読しておくこと。（６０分）
第3回	動物の構造	（内　　容）消化と吸収のしくみ （必要な準備）教科書ｐ22～31を一読しておくこと。（６０分）
第4回	動物の機能	（内　　容）呼吸と循環のしくみ （必要な準備）教科書ｐ32～41を一読しておくこと。（６０分）
第5回	植物の構造	（内　　容）維管束のしくみ （必要な準備）教科書ｐ42～50を一読しておくこと。(60分)
第6回	植物の機能	（内　　容）光合成のしくみ （必要な準備）教科書ｐ51～59を一読しておくこと。（６０分）
第7回	生物のつながり	（内　　容）食物と空気によるつながり （必要な準備）教科書ｐ60～71を一読しておくこと。（６０分）
第8回	自由研究	（内　　容）課題を決め計画をたて、まとめる （必要な準備）教科書ｐ72～77を一読しておくこと。（６０分）
第9回	水溶液の性質	（内　　容）理科室の使い方や水溶液の性質 （必要な準備）教科書ｐ78～99を一読しておくこと。（６０分）
第10回	月と太陽	（内　　容）月の運動と太陽の動き （必要な準備）教科書ｐ100～113を一読しておくこと。（６０分）
第11回	大地のつくり	（内　　容）地層のでき方 （必要な準備）教科書ｐ114～129を一読しておくこと。（６０分）
第12回	大地の変化	（内　　容）火山と地震 （必要な準備）教科書ｐ130～143を一読しておくこと。（６０分）
第13回	てこのはたらき	（内　　容）てこの原理 （必要な準備）教科書ｐ144～157を一読しておくこと。（６０分）
第14回	発電と電気の利用	（内　　容）発電と蓄電、電気の変換 （必要な準備）教科書ｐ158～175を一読しておくこと。（６０分）
第15回	自然とともに生きる	（内　　容）自然の事象について科学的分析を行い、発表する。 （必要な準備）教科書ｐ176～207を一読しておくこと。（６０分）

授業名	**子どもの英語活動**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and English Activities	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松尾　章子**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	小学校における「英語活動」（小学校学習指導要領では「外国語活動」として高学年で必修）について学ぶことは、小学校教諭を目指す者にとっては必須の事項である。次に示す指導計画に沿って、必修化に至る経緯と教育課程上の位置付け、児童に英語を指導するために必要な理論を講義するとともに、小学校での優れた実践を紹介し、グループで意見交換し協同で活動を構想、発表すること等を通して、小学校英語活動への正しい理解を促す。担任主導授業のための教室英語練習も行う。
学習成果到達目標	1）小学校の外国語活動授業に関する基本知識を獲得し、指導時の注意点を指摘することができる。 2）様々な教授法や言語習得に関する知識を駆使し、テキストに内容に沿った指導案を書くことができる。 3）簡単な教室英語を使用して、生徒に指示を出すことができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	吉田研作監修　『小学校英語はじめる教科書』　mpi　2017年
参考書	文部科学省著　『Hi, friends!』　東京書籍　2012年 文部科学省著　『Let's Try! 1, 2』 文部科学省著　『We Can! 1, 2』 樋口忠彦他編著　『新編 小学校英語教育法入門』 研究者 2017年
留意事項	小学校の授業見学、ボランティアを積極的に行ってください。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。

授　業　名	**子どもの英語活動**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習指導要領に見る外国語活動と外国語	（内　　容）授業概要説明 学習指導要領、外国語活動、教科としての外国語他について （必要な準備）Unit 1を読んでまとめる
第2回	小・中の連携と小学校役割 児童や学校の多様性への対応	（内　　容）慣れ親しみ、連携、特別支援を要する児童他について （必要な準備）Unit 2と3を読んでまとめる
第3回	教員・ビデオによる模擬授業	（内　　容）教員、ビデオによる模擬授業に参加、視聴する （必要な準備）
第4回	言語使用を通した言語習得・音声によるインプット	（内　　容）コミュニカティブ・アプローチ、必然性のある活動他について （必要な準備）Unit4を読んでまとめる
第5回	コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動	（内　　容）主体的・対話的で深い学び、意味のあるやり取り他について （必要な準備）Unit5を読んでまとめる
第6回	音声から文字へ	（内　　容）音声言語、文字言語、理解しようとする態度他について （必要な準備）Unit 6を読んでまとめる
第7回	国語教育との連携	（内　　容）主語と述語、語順への気付き他について （必要な準備）Unit 7を読んでまとめる
第8回	Classroom English, Small Talk, Teacher Talk	（内　　容）コミュニケーション、既習表現他について （必要な準備）Unit 8を読んでまとめる
第9回	文字言語との出合わせ方、読む活動から書く活動への導き方	（内　　容）文字言語、インプット、音声で慣れ親しむこと他について （必要な準備）Unit 9を読んでまとめる
第10回	題材の選定と教材	（内　　容）題材の選定、興味、関心、国際理解教育他について （必要な準備）Unit 10を読んでまとめる
第11回	学習到達目標、指導計画（カリキュラム・マネジメント、短時間学習）	（内　　容）学習到達目標、領域別の目標、CAN-DO他について （必要な準備）Unit 11を読んでまとめる
第12回	学習指導案の作り方	（内　　容）年間指導計画、単元、学習指導案他について （必要な準備）Unit 12を読んでまとめる
第13回	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 ICT等の活用の仕方	（内　　容）学級担任、外国語指導助手、日本人英語指導者、視聴覚教材他について （必要な準備）Unit 13と14を読んでまとめる
第14回	学生による模擬授業	（内　　容）模擬授業発表 （必要な準備）模擬授業準備
第15回	学習状況の評価（パフォーマンス評価） 総復習	（内　　容）パフォーマンス評価、パフォーマンス課題、ルーブラック他について （必要な準備）Unit 15を読んでまとめる

授業名	**保育内容（造形表現）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：the Formative Arts for Expressions	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　隆**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	1）造形表現の様々な演習を通して造形的感性、表現力、創造力を養い、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る。 2）演習を通して幼児教育、保育における子どもの表現活動の発達をふまえた援助や指導方法について考察し理解を深める。 3）思いついたことを個人や共同で描いたり形に表す、試しをする、出来上がったものから新しい表現をするなど多様な学修を体験する。
学習成果到達目標	1）授業での取り組みを通して造形表現の多様性や豊かさ、自由さを体験的に理解する。 2）描いたり作ったり発表したりする楽しさ、友達の発想・構想、表現や取り組みから学び合うことの大切さを知る。 3）子どもの意欲を促し、表現力を育てる指導・支援のあり方についての知識・考え方を深める。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（造形表現力　　）　■（造形表現に関する考察力　　）
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現　実技編』（三晃書房）（１回生春学期「図画工作Ｉ」で購入のものを使用します）
参考書	使用しない。
留意事項	1）普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。 2）汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装で受講すること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**保育内容（造形表現）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）領域「表現」について、本科目の概要と学修の意義を知る （必要な準備）テキスト関連箇所（181ページ）に目を通しておく
第2回	材料体験：ねんど遊び	（内　　容）小麦粉でねんどを作り、つくったり遊んだりして子どもの造形について考える （必要な準備）テキスト関連箇所（33,133ページ）に目を通しておく
第3回	触覚体験を重視した描画活動	（内　　容）自分たちで絵の具を作り、フィンガーペインティングで大きな画面に描く （必要な準備）テキスト関連箇所（24ページ）に目を通しておく
第4回	友達とつくるソフトスカルプチュア	（内　　容）大量の新聞紙を用いた立体表現に挑む(共同制作) （必要な準備）テキスト関連箇所（49ページ）に目を通しておく
第5回	空間にかかわる造形遊び	（内　　容）荷造り用のナイロンテープで空間の変容に取り組み、身体の関わりを体験する（共同での表現） （必要な準備）テキスト関連箇所（48ページ）に目を通しておく
第6回	多様な平面表現①：凸凹を写し取る	（内　　容）いろいろなもの・場所の凸凹を発見しフロッタージュの技法で紙に写し取る （必要な準備）テキスト関連箇所（28ページ）に目を通しておく
第7回	多様な平面表現②：前回の制作物による展開	（内　　容）フロッタージュ作品をもとに構成し貼り絵の作品に仕上げる （必要な準備）テキスト関連箇所（29ページ）に目を通しておく
第8回	簡単な劇表現①（人形の構想）	（内　　容）ペープサートのアイデアを考える（グループでの取り組み） （必要な準備）テキスト関連箇所（86,87ページ）に目を通しておく
第9回	簡単な劇表現②（人形の制作）	（内　　容）ペープサートを制作する （必要な準備）人形のデザインを考えておく
第10回	簡単な劇表現③（人形の仕上げと発表練習）	（内　　容）ペープサートを完成し発表練習をする （必要な準備）発表内容を考えておく
第11回	簡単な劇表現④（人形を用いた発表）	（内　　容）ペープサートで発表する、鑑賞する （必要な準備）自己紹介のアイデアを考えておく
第12回	材料研究：上質紙を用いて	（内　　容）独自の紙の加工法を探求し、成果をまとめる （必要な準備）テキスト関連箇所（151,152ページ）に目を通しておく
第13回	ケント紙を用いた造形遊び	（内　　容）グループでアイデアを考え、高い塔をつくる（共同制作） （必要な準備）テキスト関連箇所（80ページ）に目を通しておく
第14回	身辺材を用いた造形遊び	（内　　容）不要になった大量のA4判チラシでつくる（共同制作） （必要な準備）テキスト関連箇所（45,74,76,77ページ）に目を通しておく
第15回	「保育内容・造形表現」学修のまとめ	（内　　容）各自の授業の振り返りと指導者のまとめ （必要な準備）自身の授業の取り組みを振り返っておく

授業名	**保育内容（音楽表現）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：Musical Expression	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそびや歌唱指導の実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）領域（表現）に含まれる様々な音（楽）的諸表現とその意義について理解する。 2）音（楽)的表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法および援助方法を理解する。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	『最新・幼児の音楽教育』幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導,井口太編著,朝日出版社				
参考書	『平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省				
留意事項					
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00				

授　業　名	**保育内容（音楽表現）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	（内　　容）授業運営上の注意事項等の説明 （必要な準備）
第2回	手あそび（春～夏）・鍵盤和声復習	（内　　容）季節の手あそびの実践とコードネーム・カデンツ復習 （必要な準備）主要三和音復習(15分)
第3回	手あそび（秋～冬）・鍵盤和声実践	（内　　容）季節の手あそびの実践と伴奏付け演習（和音進行の把握）・和声・非和声音の把握 （必要な準備）短3度・長3度の復習(15分)
第4回	手あそび小テスト	（内　　容）2組に分けて、手あそびの小テスト （必要な準備）手あそびの練習(15分)
第5回	簡易楽器を使った合奏	（内　　容）鈴・カスタネット等を用いた合奏の実践 （必要な準備）楽器奏法の基礎練習(15分)
第6回	音あそび	（内　　容）様々な音素材を扱った音あそび （必要な準備）楽器以外の音素材を探しておく(30分)
第7回	歌唱指導（基礎）	（内　　容）幼児に歌唱指導をする際の流れ・留意点等を説明する （必要な準備）歌唱指導の流れを把握する(30分)
第8回	歌唱指導（応用）	（内　　容）歌唱指導教材を年齢別に検討する （必要な準備）教科書の内容に目を通しておく(20分)
第9回	歌唱指導（発展）	（内　　容）実際に歌唱指導を実施する際の留意点を踏まえ模擬指導の流れを検討する 指導案の作成 （必要な準備）教科書の内容に目を通しておく(15分)
第10回	歌唱指導発表（基礎）	（内　　容）基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第11回	歌唱指導発表（応用）	（内　　容）第１回目の発表を踏まえた応用 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第12回	歌唱指導（発展）	（内　　容）第2回目の発表を踏まえたグループ発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第13回	歌唱指導（発展）	（内　　容）第3回目の発表を踏まえたグループ発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第14回	歌唱指導（討議）	（内　　容）全ての発表を終えての討議 （必要な準備）反省点等を予め書き出しておく(30分程度)
第15回	まとめ	（内　　容）歌唱指導をはじめとした表現（音楽）の指導に関する総括 （必要な準備）指導案の手直し(30分)

授業名	**保育内容（健康）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：Health	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	（1）健康とは、どのような状態のことかを考えることができる。特に、乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。 （2）保育者として、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。 （3）子どもにとって安心・安全・快適な生活を創出し、子どものいのちを守る保育者としての職業規範・意識についての自覚を深めることができる。
学習成果到達目標	（1）子どもの心身や運動機能の発達をめぐる現状を理解し、健康で安心・安全・快適な生活にむけての課題を考えることができる。 （2）領域「健康」についての基礎的知識を習得し、特に指導案の構造を理解し、具体的な保育場面を想定した「環境構成及び指導のポイント」を考えることができる。 （3）子どもが安心・安全・快適に過ごすために保育者が配慮すべき事項について、小学校との接続及び小学校以降における指導を考慮して、3分間でプレゼンテーションできる。
評価方法	定期試験（60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月
参考書	講義内でプリント等配布する。
留意事項	受講生の理解度に合わせ、充分な説明の上、シラバスの内容について柔軟に対応することがある。
オフィスアワー	初回授業終了後に知らせる。

授　業　名	**保育内容（健康）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）全体の流れについて理解する。保育者のあり方を「健康」の領域から学ぶ。 （必要な準備）シラバスの確認をする。（10分）
第2回	保育者の役割（その１） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（内　　容）「健康」領域についての保育課題を考える。 （必要な準備）「健康」領域を中心に『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んでくる。（20分）
第3回	保育者の役割（その２） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（内　　容）保育者の「健康」領域についての基本的知識を習得し、配慮や援助の仕方を考えることが出来る。 （必要な準備）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んで、「健康」領域のポイントを3分間で説明出来るようにしておく。（40分）
第4回	領域「健康」のねらいと内容（その１） ―五領域における「健康」―3歳未満児、3歳以上児―	（内　　容）保育制度改革の変遷を理解し、現代教育の課題を理解する。幼児教育の基本を踏まえ「健康」の領域の基本的知識を習得する。 （必要な準備）領域「健康」を読んで、保育場面のイメージできるように、その要点をまとめてくる。（30分）
第5回	領域「健康」のねらいと内容（その２） ―「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」―	（内　　容）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などを取り上げる。 （必要な準備）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んで、基本的知識を確認しておく。（30分）
第6回	心の健康と発達の課題―事例研究―	（内　　容）事例研究をもとに、幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点を学ぶ。健康に関する援助の仕方・配慮事項を理解する。 （必要な準備）「発達課題」「発達過程」について調べてくる（40分）
第7回	体の健康と発達の課題―事例研究―	（内　　容）事例研究をもとに、子どもの体の健康について発達の多様性を説明出来る。 （必要な準備）プリントをもとに、子どもの健康について、体・心・脳の関係を理解する。各自の生活環境を振り返り、発達を阻害する要因について3つ考えてくる。（30分）
第8回	脳の健康と発達の課題―事例研究―	（内　　容）事例研究をもとに、保育者として、脳の健康についての理解を深める。 （必要な準備）保育について、子どもの脳の健康について、簡潔な言葉で説明できるようにまとめておく。（30分）
第9回	保育指導案の構造（その1） ―「子どもの姿」をとらえる視点―	（内　　容）領域「健康」の専門的知識についての習得をもとに、実際の保育場面を想定し、「幼児の姿」を基に、保育者の「環境構成及び指導のポイント」を考える。 （必要な準備）配布プリントを読み返す。（30分）
第10回	保育指導案の構造（その2） ―「環境構成及び指導のポイント」の理解―	（内　　容）領域「健康」について、保育場面の実践的事例を通して、実践に沿った保育者の援助や環境の構成について理解を深める （必要な準備）具体的な保育場面を想定し、子どもが安心・安全・快適に生活できるための配慮・援助について箇条書きで3つ書いてくる。（30分）
第11回	保育指導案の構造（その3） ―導入・展開・まとめ―	（内　　容）「健康」のねらいにあった主活動を考え、指導計画の流れ(導入、展開、まとめ）を考える。チエックシートをもとに、指導案を完成する。 （必要な準備）領域「健康」をふまえた集団的活動の指導案の主活動（10分間）を考える。（30分）
第12回	安全・安心・快適な生活（その１） ―リスクマネジメント―	（内　　容）危機管理についての事例を通して、保育者の役割を理解する。保育場面での子どもの心身の健康や発達を阻害する要因・促進する要因について探求する。 （必要な準備）基本的な生活習慣や食育、防災を含む安全等、保育者として子どものいのちを守るための具体的課題を3つ考える。（30分）
第13回	安全・安心・快適な生活（その２） ―幼児の健康に関わる現代的課題―	（内　　容）健康管理に関する基本的な考え方の理解を深める。 （必要な準備）これからの社会で求められる危機管理で必要な観点を3つ考えてくる。（20分）
第14回	指導計画における「健康」（その1） ―プレゼンテーション―	（内　　容）プレゼンテーション① （必要な準備）模擬保育が出来るようプリントを参考に保育のシミュレーションしてみる。（60分）
第15回	指導計画における「健康」（その2） ―プレゼンテーションの振り返り―	（内　　容）プレゼンテーション② 小学校との接続及び小学校以降における指導を考慮して振り返りをすることが出来る。 （必要な準備）これまでの授業内容を振り返り、「健康」に配慮した指導計画を完成する。（60分）

授業名	**保育内容（人間関係）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：Human Relations	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**流石　智子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現在、子どものコミュニケーション能力の不足や自制心の不足などが指摘されている。人との関わる力の問題には、社会や家庭のあり方が関わっている。このような状況の中、乳幼児期の子どもたちの保育を担う幼稚園や保育所の役割は大きいものとなっている。ここでは、様々な体験を通して、人と関わる力をつけていくことができる保育や親等との愛着関係、その他、親子関係を構築するための保護者支援について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）保育領域としての「人間関係」の基本原理を理解することができる。 2）体験を通して成長、発達する子どもたちの人間関係について理解することができる。 3）家庭の変容から子どもたちの成長、発達において、人間関係をどのように獲得していくかを理解することができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	小櫃智子・谷口明子編著『実践　保育内容シリーズ２　人間関係』一藝社、2014年				
参考書	授業中に、随時、紹介する。				
留意事項	2回程度のレポート提出、ミニレポート（数回）を行う予定である。				
オフィスアワー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。（時間が取れない時は、調整して連絡します。）研究室に掲示するので、確認してください。				

授　業　名	**保育内容（人間関係）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育の基本	（内　　容）保育とは何かについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト9頁から18頁を読み、理解しておく。（30分）
第2回	領域「人間関係」	（内　　容）領域「人間関係」とは何かについて、ねらいと内容を理解する。 （必要な準備）テキスト19頁から28頁を読み、理解しておく。（30分）
第3回	新生児の「人への関心」	（内　　容）赤ちゃんが持つ優れて能力について学ぶ。 （必要な準備）テキスト29頁から37頁までを読み、理解しておく。（30分）
第4回	人との関係の始まり	（内　　容）人から情報を得ることについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト38頁から47頁を読み、理解しておく。（30分）
第5回	人との関わりの基盤	（内　　容）アタッチメント関係の形成について学ぶ。 （必要な準備）テキスト48頁から56頁を読み、理解しておく。（30分）
第6回	自我の発達	（内　　容）自我の発達によって獲得されるものと保育者との関わりについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト57頁から66頁を読み、理解しておく。（30分）
第7回	道徳性の芽生え	（内　　容）道徳性の定義と発達を学ぶ。 （必要な準備）テキスト67頁から76頁までを読み、理解しておく。（30分）
第8回	思いやりと社会性の発達	（内　　容）思いやりの心理と行動、共感性の発達について理解する。 （必要な準備）テキスト77頁から85頁までを読み、理解しておく。（30分）
第9回	家族との関わり	（内　　容）依存と自立、家庭の中で身につける様々なルールについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト86頁から95頁までを読み、理解しておく。（30分）
第10回	保育者との関わり	（内　　容）子どもを迎える時、日々の保育について学ぶ。 （必要な準備）テキスト96頁から105頁までを読み、理解しておく。（30分）
第11回	遊びの中での関わりの育ち	（内　　容）遊びの発達と人との関わりについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト106頁から116頁までを読み、理解しておく。（30分）
第12回	友達との関わり	（内　　容）友達との関わりの発達過程について理解する。 （必要な準備）テキスト117頁から126頁までを読み、理解しておく。（30分）
第13回	関わりが「気になる子」	（内　　容）特別な支援を必要とする子どもについて理解する。 （必要な準備）テキスト127頁から135頁までを読み、理解しておく。（30分）
第14回	関わりの育ちを支える	（内　　容）親子の関係づくりを支援することについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト136頁から145頁までを読み、理解しておく。（30分）
第15回	領域「人間関係」の新しい課題	（内　　容）「人間関係」の授業を受け、課題について考える。 （必要な準備）テキスト146頁から154頁までを読む。また、全体の授業を通して、一番印象に残った子どもたちの「人間関係」のあり方についてまとめておく。（1時間以上）

授業名	**保育内容（環境）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：Environment	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	1）子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考える。 2）保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わることができる。 3）「環境」の具体的指導場面を想定して、子どもの自発性を育てる保育を構想する方法を身につける。
学習成果到達目標	1）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「環境」のねらいと内容を理解できる。 2）子どもを取り巻く身近な環境と発達の意義を理解することができる。 3）子どもの発達や学びの過程を理解し、指導案の構造を理解し、具体的な指導場面を想定した保育計画を立案できる。 4）保育者として、身近な環境にかかわって指導する方法・配慮の仕方を身につけ、小学校以降の生活や学習への円滑な接続の必要性を理解できる。
評価方法	定期試験（60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月
参考書	適宜紹介する。
留意事項	授業への積極的な参加を期待する。日頃から各自日常生活への研究心をもち興味・関心を深めるように自らの五感を磨いておくこと。ワークを3回実施するので、実際に体験することで学びを深めてほしい。なおワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、実施日・時刻、場所等の都合により、授業時間外の曜日・時刻に変更することもある。やむを得ず欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなすので、くれぐれも注意すること。
オフィスアワー	初回の授業時に伝える。

授　業　名	**保育内容（環境）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	（内　　容）授業目標、進め方・評価方法を理解する。幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と幼児の発達の関係を理解する。 （必要な準備）シラバスを読み、全体の流れを確認しておく。（10分）
第2回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について ―保育内容の考え方―	（内　　容）改訂の要点と領域「環境」について理解できる。乳幼児期の認知的能力と非認知的能力の関係を理解する。 （必要な準備）保育の基本と環境について、要点を箇条書きでまとめる。（20分）
第3回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について ―子どもの環境と保育者の役割―	（内　　容）知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題ついて理解する。 （必要な準備）幼児と環境との関わり方についての話し合いのためのメモを作成する。（40分）
第4回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について ―子どもの活動や生活と「環境」―	（内　　容）乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ （必要な準備）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」 ―「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」―	（内　　容）乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ。10の学びの姿のうち「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」を取り上げる。 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第6回	園と地域社会とのかかわり ―ワーク①―	（内　　容）幼児が、発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設について1枚のポートフォリオでまとめる。 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第7回	季節の自然と保育活動 ―ワーク②―	（内　　容）幼児が、身近にある自然に関心がもてるような活動について地図を作成する。 （必要な準備）身近な自然とのかかわりについて、1枚のポートフォリオでまとめる。（60分）
第8回	身近な動植物と保育活動 ―ワーク③―	（内　　容）身近な動植物の生態や栽培・飼育方法を体験する。 （必要な準備）動植物とのかかわりについて、1枚ポートフォリオでまとめる。（60分）
第9回	身近なあそびと子ども①ー主活動をデザインするー	（内　　容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて発表する。 （必要な準備）発表を振り返り、保育を改善する視点を3つ書き挙げる。（20分）
第10回	身近なあそびと子ども②ー主活動をデザインするー	（内　　容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて発表する。 （必要な準備）発表を振り返り、保育を改善する視点を3つ書き挙げる。（20分）
第11回	身近なあそびと子ども③ー主活動をデザインするー	（内　　容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて発表する。 （必要な準備）発表を振り返り、保育を改善する視点を3つ書き挙げる。（20分）
第12回	保育指導案の作成と模擬保育① ―領域「環境」指導上の課題―	（内　　容）領域「環境」指導上のねらい及び内容についての留意点を学ぶ。領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を学ぶ。 （必要な準備）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第13回	保育指導案の作成と模擬保育② ―領域「環境」の留意事項―	（内　　容）領域「環境」について「環境構成及び指導のポイント」の書き方を学ぶ。 （必要な準備）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第14回	保育指導案の作成と模擬保育③ ―領域「環境」における保育者の役割―	（内　　容）領域「環境」における保育者の役割について学ぶ。 （必要な準備）ICTの活用で、効果的な提示を工夫したことを3つまとめる。（20分）
第15回	領域「環境」との関連を踏まえ、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実践例を学ぶ	（内　　容）領域「環境」と小学校以降の生活や学習との関連を取り上げ、小学校との円滑な接続の必要性を理解する。 （必要な準備）これまでの内容を振り返り、その要点をまとめる。（60分）

授業名	**保育内容（言葉）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Child Care：Language	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	ことばの特性を理解した上で、乳幼児期のことばの発達に基づいて、保育の留意点を解説する。その上で、絵本、ことばあそび、紙芝居、劇遊びなどの展開について体験的に学び、授業を進めていく。				
学習成果到達目標	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	①西川由紀子　子どもの思いにこころをよせて　０．１．２歳児の発達　かもがわ出版 ②西川由紀子　かかわりあって育つ子どもたち　２歳から５歳の発達と保育　かもがわ出版				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。				

授　業　名	**保育内容（言葉）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ことばとは何か	（内　　容）ことばのもつ機能について解説し、授業の展開を説明する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	０歳、１歳、２歳児のことばの発達	（内　　容）０歳、１歳、２歳児のことばの発達を解説する。 （必要な準備）①の０歳、１歳、２歳、②の２歳の部分のことばの発達の部分を読んでくる。
第3回	３歳、４歳、５歳児のことばの発達	（内　　容）３歳、４歳、５歳児のことばの発達を考える。 （必要な準備）②の３歳、４歳、５歳児のことばの発達の解説部分を読んでくる。
第4回	絵本の楽しみ　絵の楽しさ	（内　　容）子どもの視点に立って、絵本を見る経験をし、絵本の楽しさを解説する。 （必要な準備）さまざまな絵本を見てくる。
第5回	絵本の楽しみ　ものがたりを理解する力	（内　　容）ものがたりを理解する枠組みを説明し、絵本の楽しさを解説する。 （必要な準備）絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	書きことばの世界の展開	（内　　容）幼児にとっての文字の魅力を解説する。 （必要な準備）②の４歳、５歳児のことばの解説部分を読んでくる。
第7回	ことばあそび	（内　　容）おはなしつくり、しりとりをはじめとする、さまざまなことばあそびを体験しながら、幼児にとってのことばあそびの意義を解説する。 （必要な準備）ことばあそびについて、振り返ってくる。
第8回	絵本交流会	（内　　容）小グループで読み聞かせの体験をし、絵本の読み方のこつをつかむ。 （必要な準備）自分が子どもの頃好きだった絵本を探し出し、読み聞かせをする練習をしてくる。
第9回	紙芝居の読み方	（内　　容）紙芝居の読み方の基本を解説する。 （必要な準備）紙芝居を聞いた経験を振り返ってくる。
第10回	教材研究の方法	（内　　容）絵本や紙芝居の読み取りをどのように深めていくかを解説する。 （必要な準備）興味のある絵本や紙芝居を探し出し、読み深めてくる。
第11回	劇遊び　３歳児	（内　　容）３歳児の劇遊びの実際を見て、その展開の特性を解説する。 （必要な準備）３歳児の発達について復習しておく。
第12回	劇遊び　４歳児	（内　　容）４歳児の劇遊びの実際を見て、その展開の特性を解説する。 （必要な準備）４歳児の発達について復習しておく。
第13回	劇遊び　５歳児	（内　　容）５歳児の劇遊びの実際を見て、その展開の特性を解説する。 （必要な準備）５歳児の発達について復習しておく。
第14回	劇発表会	（内　　容）小グループで劇をつくり上演する。 （必要な準備）小グループで劇を練習してくる。
第15回	劇発表会のふりかえりとまとめ	（内　　容）劇発表会を通して感じた、ものがたりの力、演じる楽しさを確認し、保育でたいせつにすべきことを解説する。 （必要な準備）劇発表会の振り返りをまとめてくる。

授業名	**教育方法論（中・高・栄）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Teaching Method	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		
授業の概要	教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ることも重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。				
学習成果到達目標	1）教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2）教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	テキストは使用しない				
参考書	佐藤学『放送大学叢書011　教育の方法』（左右社）、田中耕治ほか著『新しい時代の教育方法』（有斐閣）				
留意事項	教育方法の理論部分を学ぶ授業ですが、応用としての発表をする場合があります。				
オフィスアワー	随時、メールなどで予約することが望ましい。				

授　業　名	**教育方法論（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	教育方法を学ぶことの意義	（内　　容）授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。 （必要な準備）シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。
第2回	学校機能の変化と教育方法	（内　　容）教育方法と学校機能の連動を踏まえ、近年の動向を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第3回	欧米に見る教育方法の変遷	（内　　容）欧米における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第4回	日本における教育方法の変遷	（内　　容）日本における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第5回	心理学に基づく教育方法の展開	（内　　容）行動主義・認知主義・活動主義にもとづく学習論の理解。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第6回	勉強から学びへの転換	（内　　容）勉強と学びの違いを知り、授業の基本的考え方を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第7回	授業の複合的性格	（内　　容）授業内で生起する諸過程の複雑さと曖昧さを知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第8回	授業をどう「デザイン」するか	（内　　容）授業づくりの過程について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第9回	授業をどう評価するか	（内　　容）授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第10回	授業分析の方法	（内　　容）コミュニケーション分析について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第11回	授業の言語とディスコース	（内　　容）授業言語とその文脈について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第12回	カリキュラムと単元の構成	（内　　容）カリキュラムと単元の構成について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第13回	反省的実践家としての教師	（内　　容）教育実践の主体である教師のあり方について考察する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第14回	教育方法の今後の展望	（内　　容）今後求められる教育像と教育方法を予測する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 （必要な準備）これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。（1時間程度）

授業名	**教育方法論（幼・小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Teaching Method	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ることも重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。				
学習成果到達目標	1）教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2）教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	佐藤学『放送大学叢書011　教育の方法』（左右社）、無藤隆『幼児教育のデザイン』（東京大学出版会）				
留意事項	テキストや資料の予習を前提に、質疑応答を含めた授業形式を取ります。理論を学ぶ授業ですが、応用としての発表をしてもらうことがあります。				
オフィスアワー	随時。メールなどで予約することが望ましい。				

授　業　名	**教育方法論（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	教育方法を学ぶことの意義	（内　　容）授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。 （必要な準備）シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。
第2回	学校機能の変化と教育方法	（内　　容）教育方法と学校機能の連動を踏まえ、近年の動向を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第3回	欧米に見る教育方法の変遷	（内　　容）欧米における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第4回	日本における教育方法の変遷	（内　　容）日本における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第5回	心理学に基づく教育方法の展開	（内　　容）行動主義・認知主義・活動主義にもとづく学習論の理解。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第6回	勉強から学びへの転換	（内　　容）勉強と学びの違いを知り、授業の基本的考え方を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第7回	授業の複合的性格	（内　　容）授業内で生起する諸過程の複雑さと曖昧さを知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第8回	授業をどう「デザイン」するか	（内　　容）授業づくりの過程について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第9回	授業をどう評価するか	（内　　容）授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第10回	幼児教育のデザイン①空間配置	（内　　容）幼児教育における空間配置の方法について知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第11回	幼児教育のデザイン②表現を楽しむ	（内　　容）幼児教育における音楽や造形の指導方法を考える （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第12回	幼児教育のデザイン③教材の準備	（内　　容）幼児教育における種々の教材の意味や取扱方法などを考える （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第13回	反省的実践家としての教師	（内　　容）教育実践の主体である教師のあり方について考察する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第14回	教育方法の今後の展望	（内　　容）今後求められる教育像と教育方法を予測する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 （必要な準備）これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。（1時間程度）

授業名	**保育原理Ⅱｕ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child CareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子ども子育て新制度について解説した後、保育の内容の歴史的な変遷を学ぶ。その後、保育の計画を立てる際に考慮すべきことを実際の指導計画を通して学んでいく。また、長時間保育、異年齢保育など、現代の保育ニーズに応える保育内容をどうつくっていくかを解説する。				
学習成果到達目標	1）保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2）保育内容の変遷を理解する。 3）保育の計画を立てるうえでたいせつにすべき点を理解する。				
評価方法	定期試験（ 55 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 45 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針」（フレーベル館）　保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」（ひとなる書房）				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**保育原理Ⅱｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育所保育における保育の特性　1	（内　　容）幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する （必要な準備）保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる（30分）
第2回	保育所保育における保育の特性　2	（内　　容）低年齢からの長時間保育における配慮事項 （必要な準備）保育所保育指針第１章を読んでくる（30分）
第3回	保育内容の変遷　1　明治期	（内　　容）明治期の保育 （必要な準備）明治期の生活を調べてくる（60分）
第4回	保育内容の変遷　2　大正から正和初期	（内　　容）大正から昭和初期の保育 （必要な準備）大正から昭和初期の生活を調べてくる（60分）
第5回	保育内容の変遷　3　系統的保育案の実際	（内　　容）系統的保育案の実際と現代の保育への継承 （必要な準備）配付資料を読んでくる（30分）
第6回	保育内容の変遷　4　戦時下	（内　　容）戦時下の保育 （必要な準備）戦時下の生活について調べてくる(60分)
第7回	保育内容の変遷　5　終戦後	（内　　容）戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ （必要な準備）終戦後の生活について調べてくる(60分)
第8回	保育内容の変遷　6　1950年代	（内　　容）戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ （必要な準備）配付資料を読んでくる(30分)
第9回	保育内容の変遷　7　1960年代以降	（内　　容）今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 （必要な準備）保育所保育指針第１章を読んでくる(30分)
第10回	保育の計画の実際　1　保育の計画とは	（内　　容）保育の計画の実際 （必要な準備）保育所保育指針第1章を読んでくる(30分)
第11回	保育の計画の実際　2　指導計画	（内　　容）年間計画・月案の実際 （必要な準備）テキストp54～、p147～を読んでくる(30分)
第12回	保育の計画の実際　3　保育の展開	（内　　容）生きた保育の展開と指導計画の関連 （必要な準備）テキストp184～を読んでくる(30分)
第13回	保育の計画の実際　4　保育の評価	（内　　容）自己評価・保育所の評価の実際 （必要な準備）テキストp40～を読んでくる(30分)
第14回	長時間保育における保育内容の構造	（内　　容）長時間保育における保育者連携と計画 （必要な準備）テキストｐ249～を読んでくる(30分)
第15回	異年齢保育における保育内容の構造	（内　　容）異年齢保育における生活作りと計画 （必要な準備）テキストp216～を読んでくる(30分)

授業名	**養護原理ｕ**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Corporate Parenting	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山川　宏和**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 １．補完・代替的養護について　２．児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について３．児童虐待の定義やその対応について ４．里親ケアの概要について				
学習成果到達目標	１）児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 ２）社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。 ３）児童養護施設等の入所施設や里親家庭で生活する児童の現状が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	独自に配布するプリント等を用いる				
参考書	随時指示する。				
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授　業　名	**養護原理ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会的養護について	（内　　容）日本と世界の比較、指針について （必要な準備）
第2回	児童虐待の理解	（内　　容）被虐待児童の行動特性について学ぶ （必要な準備）
第3回	家庭的養護について　養育里親と専門里親	（内　　容）里親ケアの登録、委託、手当について （必要な準備）配布した資料を確認しておく
第4回	家庭的養護について　養子縁組里親と親族里親	（内　　容）里親ケアの研修、里子について （必要な準備）厚生労働省の資料を読む
第5回	特別養子縁組について	（内　　容）特別養子縁組について （必要な準備）配布した資料を読む
第6回	乳児院について	（内　　容）乳児院のケアについて （必要な準備）
第7回	施設養護の実際　虐待対応	（内　　容）被虐待児の支援について （必要な準備）児童虐待の種類を調べておく
第8回	児童養護施設について①　家庭分離	（内　　容）児童養護施設に入所した家族について （必要な準備）配布した資料を読む
第9回	児童養護施設について②　入所の実際	（内　　容）児童養護施設でのケアについて （必要な準備）
第10回	児童養護施設について③　家庭復帰	（内　　容）入所中の家庭との関係と家庭復帰について （必要な準備）厚生労働省の資料を読む
第11回	少年非行の実際	（内　　容）少年非行の背景と実態について （必要な準備）
第12回	保護処分について（少年院送致）	（内　　容）少年院における処遇について （必要な準備）配布した資料を確認する
第13回	保護処分について（保護観察）	（内　　容）保護観察の仕組みと保護司のはたらき （必要な準備）保護観察の種別を調べておく
第14回	アタッチメント障がいについて	（内　　容）アタッチメント（愛着）障がいについて （必要な準備）発達障害の定義を調べておく
第15回	児童心理治療施設について	（内　　容）児童心理治療施設の役割と機能 （必要な準備）児童心理治療施設の設置数を調べる

授業名	**人間福祉論Ⅱ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Human WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。
学習成果到達目標	1）私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2）社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3）これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（論理的な展開力　）　□（　）
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。
参考書	授業時に紹介
留意事項	ノートをしっかり取ること。
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。

授　業　名	**人間福祉論Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会福祉の対象理解	（内　　容）生活問題の構造把握について （必要な準備）くらしの実態について考える(30分)
第2回	生活問題の構造	（内　　容）生活問題の構造と社会福祉の関係 （必要な準備）生活問題について考える(30分)
第3回	総合的体系的な生活保障とは？	（内　　容）総合的体系的な生活保障について （必要な準備）教科書第２章を読んでおく(30分)
第4回	総合的体系的な生活保障－労使関係制度と社会福祉－	（内　　容）労使関係制度の内容と課題について （必要な準備）労使関係制度と社会福祉との関連考察（30分）
第5回	総合的体系的な生活保障－雇用保障制度と社会福祉－	（内　　容）雇用保障制度について （必要な準備）家族の雇用実態を知る（30分）
第6回	総合的体系的な生活保障－労働者保護制度と社会福祉－	（内　　容）労働者保護制度について （必要な準備）家族の労働条件について知る(30分)
第7回	総合的体系的な生活保障－育児・介護休暇と社会福祉－	（内　　容）育児・介護休暇制度について （必要な準備）家族の育児・介護休暇制度を知る(30分)
第8回	総合的体系的な生活保障－最低賃金制度と社会福祉－	（内　　容）最低賃金制度について （必要な準備）家族の賃金について知る(30分)
第9回	総合的体系的な生活保障－年金保険制度－	（内　　容）年金保険制度について （必要な準備）高齢者に年金のことについて聴く(30分)
第10回	総合的体系的な生活保障－医療保険制度－	（内　　容）医療保険制度について （必要な準備）医療機関での実情を考える(30分)
第11回	総合的体系的な生活保障－介護保険制度－	（内　　容）介護保険制度について （必要な準備）高齢者に介護保険のことについて聴く(30分)
第12回	総合的体系的な生活保障－雇用保険と社会福祉－	（内　　容）雇用保険について （必要な準備）失業している（した）人を探し、実情を聞く(30分)
第13回	総合的体系的な生活保障－教育・医療・保健と社会福祉－	（内　　容）教育・医療・保健について （必要な準備）教育・医療・保健に関して実情を考える(30分)
第14回	総合的体系的な生活保障－住宅・生活環境施設と社会福祉－	（内　　容）住宅・生活環境施設について （必要な準備）住宅・生活環境施設について近隣の実情を考える（30分）
第15回	社会福祉の課題－財政問題を中心に－	（内　　容）社会福祉の財政問題について （必要な準備）政府予算に目を向け考察する（30分）

授業名	**小児保健Ⅱu**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant HealthⅡ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**中村　洋子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現在子どもの出生や発育を取り巻く環境は急速に変化してきている。子どもが本来持っている能力を十分発揮でき、その可能性を伸ばすことができるように、より良い環境や病気の予防等を学ぶ。また安全の確保、感染予防、事故予防等の基礎知識を学ぶ。				
学習成果到達目標	1）医学的基礎知識の理解 2）子どもの病気の看護、予防対策の獲得 3）子どもの健康増進のための対策				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	子供の保健（診断と治療社）				
参考書	精神医学・内科学・心理学の視点からメンタルヘルスを学ぶ（ミネルヴァ書房）				
留意事項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切である。また自分自身や子どもの健康について関心を持つこと。				
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいるときは対応します。				

授　業　名	**小児保健Ⅱｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健Ⅱの意義	（内　　容）小児保健Ⅱの目的と意義・授業の進め方 （必要な準備）
第2回	子どもをめぐる環境と脳の発達	（内　　容）保育における小児保健上の留意点・子どもの脳の発達 （必要な準備）該当する教科書・資料を読んでおくこと(30分)
第3回	新生児・低出生体重児の養護	（内　　容）新生児・低出生体重児の特徴と育て方 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第4回	子どもの育つ生活環境	（内　　容）子どもの育つ環境の現状と今後の課題 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第5回	子どもの精神保健と保育の多様化	（内　　容）子どもの精神保健について・保育の多様化の種類について （必要な準備）該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと（30分）
第6回	健康と病気とその症状	（内　　容）健康状態の確認と病気の症状は （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第7回	子どもの病気と看護	（内　　容）子どもの病気について、対応方法 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第8回	事故と応急処置	（内　　容）子どもの起こしやすい事故とその対応・応急処置 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第9回	感染症に対する対応と予防対策	（内　　容）子どもの特に多い感染症の症状と予防 （必要な準備）該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと（30分）
第10回	感染症と予防接種	（内　　容）感染症の対応・予防接種の仕方 （必要な準備）該当する教科書・資料を読んでおくこと（30分）
第11回	免疫とアレルギー性疾患	（内　　容）アレルギーの出る仕組みと対処法 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第12回	小児の生活習慣病	（内　　容）最近の子どもの生活習慣病について考える （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第13回	消化器系・呼吸器系の病気と看護	（内　　容）子どもにみられる特徴的な病気 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第14回	皮膚・運動器系の病気と看護	（内　　容）特に乳幼児期に多い病気と対応 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおくこと（30分）
第15回	母子保健と保育・全体のまとめ	（内　　容）地域での母子保健・これまでの総復習をする （必要な準備）教科書・配布資料を見直す（40分）

授業名	**地域福祉論Ⅱ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Community WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**藤井　伸生**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際とその推進方法について理解することを目的とする。地域における生活問題についての認識方法としての調査の方法、地域懇談会の手法、関係機関の連携の方法等、地域福祉として関係者が協力して取り組むべき課題を明らかにし、それぞれの機関・団体が果たしていくべき役割と課題について考えていくことになる。その際、地域福祉（活動）計画の実際を通して理解する。				
学習成果到達目標	1）地域福祉の課題をいかに把握するか、地域福祉調査の実際を知ることができるようになる。 2）地域福祉活動計画の実際を通して地域福祉推進の方向性を理解できるようになる。 3）地域福祉計画の実際を通して行政の果たすべき役割を理解できるようになる。				
評価方法	定期試験（ 70 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的な展開力 ） □（ ）				
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介				
留意事項	我がまちの地域福祉（活動）の実際及び計画を知ろう				
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にEメールしてください。				

授　業　名	**地域福祉論Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	地域福祉をいかに推進するか	（内　　容）地域福祉の推進方策 （必要な準備）地域福祉の推進について考える(30分)
第2回	地域福祉の実際－私のまちについて－	（内　　容）地域福祉の実際を考える （必要な準備）自分自身の地域福祉を知る（30分）
第3回	地域福祉の実際－広報誌から－	（内　　容）地域福祉の実際を広報誌から考える （必要な準備）自分自身の地域福祉の広報誌を見る（30分）
第4回	地域福祉の実際－参加者の声－	（内　　容）地域福祉の実際を参加者より考える （必要な準備）自分自身の地域福祉の参加者に話しを聴く（30分）
第5回	地域福祉調査の方法・枠組み	（内　　容）地域福祉調査の方法・枠組み （必要な準備）地域福祉調査について考える(30分)
第6回	地域福祉調査の実施・分析	（内　　容）地域福祉調査の実施を知る （必要な準備）地域福祉調査のデーターから考える（30分）
第7回	地域福祉の推進と計画	（内　　容）地域福祉と計画の関係 （必要な準備）我がまちの地域福祉（活動）計画を知る（30分）
第8回	地域福祉活動計画－事業－	（内　　容）地域福祉活動計画の事業内容 （必要な準備）我がまちの地域福祉活動計画を調べる（30分）
第9回	地域福祉活動計画－運動－	（内　　容）地域福祉活動計画の運動内容 （必要な準備）我がまちの地域福祉活動計画を知る（30分）
第10回	地域福祉計画－公民協同－	（内　　容）地域福祉計画における公民協同 （必要な準備）我がまちの地域福祉計画を調べる（30分）
第11回	地域福祉計画－ヒト－	（内　　容）地域福祉計画におけるヒトの重要性 （必要な準備）我がまちの地域福祉計画を知る(30分)
第12回	地域福祉計画－モノ－	（内　　容）地域福祉計画におけるモノの重要性 （必要な準備）我がまちの地域福祉計画の課題を考える（30分）
第13回	地域福祉計画－カネ－	（内　　容）地域福祉計画におけるカネの重要性 （必要な準備）我がまちの地域福祉計画を財源面で知る（30分）
第14回	地域福祉計画－情報－	（内　　容）地域福祉計画における情報の重要性 （必要な準備）我がまちの地域福祉計画を情報面で知る(30分)
第15回	地域福祉と自治体行政	（内　　容）地域福祉推進における自治体行政の役割 （必要な準備）我がまちの地域福祉と行政責務を考える（30分）

授業名	**高齢者福祉論Ⅱ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Elderly PeopleⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	少子高齢化がすすみ、高齢者福祉においても従来通りの福祉制度ではたちゆかなくなってきたため、2000年より介護保険制度が実施され、日本の介護保障システムは大きく転換しました。この講義では、介護保険制度が創設された経緯、介護保険制度の仕組みや介護保険サービスの体系、介護保険制度の変容について学びます。				
学習成果到達目標	1）介護保険制度の実施より日本の介護保障システムの中で大きく変わった点について説明できる。 2）介護保険制度の基本的な内容について説明できる。 3）これからの日本の介護保障システムのあり方について自分なりの考察を展開できる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的思考力 ） □（ ）				
テキスト	随時、プリントや新聞記事を配布する。				
参考書	随時指示する				
留意事項	授業を受講するにあたり、まず自分で予習する必要があります。予習していることを踏まえた授業構成にしています。				
オフィスアワー	1回目の授業後に紹介する				

授　業　名	高齢者福祉論Ⅱ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	介護保険制度の創設 制度の全体像と創設	（内　　容）介護保険制度創設の経緯 （必要な準備）社会福祉基礎構造改革について調べておく
第2回	介護保険制度の創設 制度の目的と理念	（内　　容）介護保険制度の目的と理念 （必要な準備）介護保険法第1条を説明できるようにしておく
第3回	社会保障の中の介護保険制度	（内　　容）社会保障と介護保険制度の位置づけ （必要な準備）我が国の社会保障制度にはどんなものがあるか調べておく
第4回	介護保険制度の仕組み１ 介護財政、保険者、被保険者	（内　　容）介護財政、保険者、被保険者について （必要な準備）介護保険のしくみ、財政、保険者、被保険者について調べておく
第5回	介護保険制度の仕組み２ 要介護認定、保険給付	（内　　容）要介護認定、保険給付について （必要な準備）要介護認定の流れを説明できるようにしておく
第6回	介護保険制度の仕組み３ 介護報酬	（内　　容）介護報酬、ケアプランについて （必要な準備）介護報酬とケアプランの関係性について調べておく
第7回	介護保険制度の仕組み４ 介護保険制度の動向	（内　　容）介護保険制度の現状に関する諸議論 （必要な準備）関連する新聞記事を読んで持参すること
第8回	介護保険サービスの体系１ 介護保険サービスにおける専門職	（内　　容）介護支援専門員の理解 （必要な準備）介護支援専門員の役割や資格について調べておく
第9回	介護保険サービスの体系２ 居宅サービス	（内　　容）居宅サービスの内容について （必要な準備）介護保険で利用できるサービス内容を調べておく
第10回	介護保険サービスの体系３ 施設サービス	（内　　容）施設サービスの内容について （必要な準備）介護保険の入所施設について調べておく
第11回	介護保険サービスの体系４ 介護予防サービス、地域密着型サービス	（内　　容）介護予防サービスと地域密着型サービスの内容と導入された経緯 （必要な準備）地域密着型サービス、地域包括支援センターについて調べておく
第12回	介護保険法における連携と実際①	（内　　容）他職種の理解 （必要な準備）他職種にどんな役割があるのかを調べておく
第13回	介護保険改正	（内　　容）介護保険制度の改正 （必要な準備）特に2008年改正について調べてくる
第14回	介護保険改正	（内　　容）介護保険の改正内容を吟味し、これからの高齢者福祉制度を考える （必要な準備）現在の介護保険制度について書かれている新聞記事等を用意しておくこと。特に2019年4月に改正された内容について
第15回	まとめ	（内　　容）これまでの学習内容の復習 （必要な準備）介護保険法の課題をまとめておく

授業名	**教育の方法と技術（中・高・栄）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Methods and Techniques	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		

授業の概要	学校教育制度に位置づけられる中学校と高等学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。変化の激しい時代を生きる子どがが生涯学び続ける力と習得するため、授業を設計し実践する教師の意識も「教える」から「学ぶ」重視への転換が求められる。本講義ではそのため主体的・対話的で深い学びの基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習する。 また、価値観の多様化、社会の複雑化により学校で教師が一人で解決できることは限界がある。そのため、さまざまな能力を持つ人々とチームになって新たな方法を（教えてもらうのではなく）自ら構想し、問題解決を図る力が必要となるため、本時において一人ひとりが役割をもち課題に取り組むチーム学習を行う。
学習成果到達目標	学習者中心主義に立つ授業の設計及び実践につなげる力およびチームで課題に取り組む力を獲得することが学習成果となる。そのため、テキストに沿ってショートレポート3回、チームレポート1回、最終レポート1回を受講生全員に提出を求める。情報提供、チームワーク・レポート・発表の相互評価等他者への貢献が重要となる。授業の特性上、実習，部活の公式戦，忌引，診断書発行の病欠（すべて届け出必要）以外の5回以上の欠席は評価対象にはならない。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	西之園晴夫・宮田仁・望月紫帆『学習ガイドブック教育の技術と方法第2版』ミネルヴァ書房
参考書	篠原正典・宮寺晃夫『新しい教育の方法と技術』ミネルヴァ書房
留意事項	「学習ガイドブック教育の技術と方法」はテキストであると同時に、先々を見通して計画的に自分たちですすめていくために欠かせないワークブックです。どんどん書き込んで汚すつもりで使用してください。ガイドブックを入手することで、授業全体の見通しをある程度もつことができますので、忙しい日々の中で課題に追われることもなく、自分のペースに合わせて調整しながら取り組むことができるようになります。
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。授業時に案内します。

授　業　名	**教育の方法と技術（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業内容と学習テーマについて知ろう （必要な準備）テキスト第1週を読んでくる
第2回	チーム学習の進め方と学校教育の変化	（内　　容）チームビルディング チームで取り組む課題への見通し （必要な準備）テキスト第2週を読んでくる
第3回	学校における教育課題	（内　　容）今日の学校が抱える課題を話し合い チームで取り組む教育課題の決定 （必要な準備）テキスト第3週を読んでくる
第4回	チームの学校を構想しよう	（内　　容）情報収集方法と発想法の活用し、 教育課題に対して効果的な教育を実践する理想の学校を構想する （必要な準備）テキスト第4週を読んでくる
第5回	チーム発表の準備をしよう	（内　　容）チーム発表に向けて模造紙を使って理想の学校をまとめる （必要な準備）テキスト第5週を読んでくる
第6回	学校説明会をしよう（チーム発表１）	（内　　容）準備した模造紙をもとにチーム発表をおこなう チーム間で相互評価をおこなう （必要な準備）チーム発表１の資料準備 テキスト第6週を読んでくる
第7回	前半のチーム学習を評価しよう	（内　　容）これまでのチームでの学習活動の振り返り、 後半に向けて見通しを立てる （必要な準備）ショートレポート１の提出 テキスト第7週を読んでくる
第8回	学力と学習指導方法	（内　　容）多様な学習者と読解力をキーワードに学力を定義する （必要な準備）テキスト第8週を読んでくる
第9回	学習指導方法をまとめよう	（内　　容）前週に定めた学力定義に基づきそれらの力を伸ばすための 学習指導方法を検討する （必要な準備）ショートレポート２の提出 テキスト第9週を読んでくる
第10回	教材を設計しよう	（内　　容）実際に50分1コマの授業を計画し、授業内で使用する教材を作成する （必要な準備）テキスト第10週を読んでくる
第11回	学習評価方法をまとめよう	（内　　容）目的に合わせた評価方法を学び、自分たちの授業計画の評価指標を作成する （必要な準備）ショートレポート３の提出 テキスト第11週を読んでくる
第12回	保護者懇談会の準備とリハーサル	（内　　容）来週のチーム発表に向けてこれまで検討してきた授業内容と方法についてまとめた発表資料を作成と発表の段取りを決める （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。 テキスト第12週を読んでくる
第13回	保護者懇談会で説明しよう　（チーム発表２）	（内　　容）チームで考えた授業案を発表する チーム間で相互評価を行う （必要な準備）チーム発表２の資料準備 チームレポートの提出 テキスト第13週を読んでくる
第14回	レポートの評価視点を獲得する	（内　　容）最終レポートの提出に向けて、評価視点を明確にし、 チーム内で共有する （必要な準備）テキスト第14週を読んでくる
第15回	最終レポートの相互評価　（※全体的に流れをみて再調整する可能性があります）	（内　　容）自らまとめた最終レポート初稿をチームメンバーにみせて本提出に向けた助言を得る。これまでのチーム学習をふりかえり学習成果を確認する （必要な準備）最終レポート初稿の提出（授業後、加筆修正。レポート試験提出期間に修学支援課に本提出）。テキスト第15週を読んでくる

授業名	**教育の方法と技術（幼・小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Methods and Techniques	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習することによって、情報発信型の教育に対応した授業設計・実践に関わる知識・技能を習得し、効果的な学習・教育を行うための方法について学ぶ。
学習成果到達目標	1）教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解している。 2）よい授業の構成の仕方を理解し、指導技術を身に付けている。 3）チームでの学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	随時指示する。
参考書	西之園晴夫『学習ガイドブック　教育の技術と方法』ミネルヴァ書房，2007年
留意事項	授業中に出された課題については、主体的に取り組み、必ず提出すること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。

授　業　名	**教育の方法と技術（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（内　　容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどの様なものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷①	（内　　容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷②	（内　　容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（内　　容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（内　　容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	教育方法・技術を考える基本的視点	（内　　容）完全習得学習について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	教育評価とは	（内　　容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	教育評価の方法	（内　　容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	学習指導方法を考える	（内　　容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （必要な準備）事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（内　　容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第12回	プレゼンテーション①（学習指導方法）	（内　　容）各チームが提案する学習指導方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第13回	学習評価方法を考える	（内　　容）各チームが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （必要な準備）各人がそれぞれのチームに合った学習評価方法を考えておくこと。
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（内　　容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第15回	プレゼンテーション②（学習評価方法）	（内　　容）各チームが提案する学習評価方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。

授業名	**室内デザイン実習**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Interior Design Training	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	快適な室内空間を作り上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。				
学習成果到達目標	1）基本的な室内空間の仕組みを把握する。 2）簡易な部屋を設計できる力を身につける。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	未定				
参考書	使用しない。				
留意事項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を				

授　業　名	**室内デザイン実習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）室内デザイン実習を学ぶ意義 （必要な準備）
第2回	寸法体系	（内　　容）寸法体系の話・畳の大きさ （必要な準備）教科書を読んでおく
第3回	部屋の構成	（内　　容）部屋の仕組み （必要な準備）教科書を読んでおく
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	（内　　容）室内の仕上げ・教室内で実地見学 （必要な準備）教科書を読んでおく
第5回	家具	（内　　容）家具の種類と特質 （必要な準備）教科書を読んでおく
第6回	室内環境工学	（内　　容）室内と採光・換気・空調・騒音の関係 （必要な準備）教科書を読んでおく
第7回	現地見学1	（内　　容）優れた室内空間の見学 （必要な準備）カメラ・メジャーなどの用意
第8回	インテリア製図・平面図	（内　　容）室内のプランニングの理解と図面作成 （必要な準備）製図道具
第9回	インテリア製図・展開図	（内　　容）室内の立体方向の図面の理解と図面作成 （必要な準備）製図道具
第10回	インテリア・パース作図	（内　　容）室内の完成予想図の作成 （必要な準備）製図道具
第11回	模型制作1	（内　　容）スチレンボードで室内の模型の制作 （必要な準備）模型道具
第12回	模型制作2	（内　　容）スチレンボードで室内の模型の制作 （必要な準備）模型道具
第13回	現地見学2	（内　　容）優れた商業空間の見学 （必要な準備）カメラ・メジャーなどの用意
第14回	部屋の設計	（内　　容）与えられた条件で部屋の内部空間の設計 （必要な準備）製図道具
第15回	設計作品の発表ならびに講評	（内　　容）プレゼンテーションと講評会 （必要な準備）各自がプレゼンテーションできる用意

授業名	**家庭工学演習**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Home Engineering Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**川島　智生**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたたず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的生活の維持ができる技術を学習する。				
学習成果到達目標	1）住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解し、用いられる電化機器の科学的内容を習得する。 2）理想的な設備計画の提案をおこなえる。 3）住まいの安全を総合的に考えることができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（図面解読能力 ） □（ ）				
テキスト	授業中に配布				
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社　柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)				
留意事項	住宅見学を実施する。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を				

授　業　名	**家庭工学演習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	（内　　容）家庭工学演習ガイダンス （必要な準備）
第2回	住まいの性能1安全	（内　　容）安全耐震・火災・防犯 （必要な準備）配布資料を事前学習
第3回	住まいの性能2設備	（内　　容）給排水・電気・ガス・照明計画 （必要な準備）配布資料を事前学習
第4回	設備図面	（内　　容）設備図面の読解ならびに簡単な作図 （必要な準備）定規類
第5回	家庭の電気と安全性	（内　　容）屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ （必要な準備）配布資料を事前学習
第6回	現地見学1	（内　　容）京都市内の住宅の内部見学 （必要な準備）方眼紙とメジャー、カメラなど
第7回	空調機器・家庭の機器	（内　　容）エアコン・冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ （必要な準備）配布資料を事前学習と自宅の様態を観察
第8回	照明のシステムと器具	（内　　容）照明器具の種類と選択のポイント （必要な準備）配布資料を事前学習
第9回	給排水システムと器具	（内　　容）湯沸かし機器・給湯システム・排水システム （必要な準備）配布資料を事前学習
第10回	現地見学2	（内　　容）京都市内の住宅の内部見学 （必要な準備）方眼紙とメジャー、カメラなど
第11回	インテリア材料	（内　　容）インテリア材料に要求される性能を学ぶ （必要な準備）配布資料を事前学習
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	（内　　容）シックハウス症候群 （必要な準備）配布資料を事前学習
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	（内　　容）与えられた条件で設備計画をおこなう （必要な準備）製図道具
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	（内　　容）与えられた条件で設備計画をおこなう （必要な準備）製図道具
第15回	計画作品の発表ならびに講評	（内　　容）プレゼンテーションと講評会 （必要な準備）各自がプレゼンテーションできる用意

授業名	**社会保障論Ⅱｕ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Social Security Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**髙岡　理恵**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	この講義では、日本の介護保険制度、医療保険制度などの社会保険制度などを取り上げる。少子高齢化や財政赤字が問題となっている現在、社会保障の在り方についても再考が求められている。その議論を理解するための基本となる各制度の内容や仕組み、そして現状と課題について解説する。				
学習成果到達目標	1）日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになる 2）少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになる				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（論理的思考力 ） □（ ）				
テキスト	随時、紹介する				
参考書	社会保障入門　中央法規				
留意事項	社会保障論Ⅰを履修済みであることが望ましい				
オフィスアワー	1回目の授業で紹介します				

授　業　名	**社会保障論Ⅱｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会保障Ⅰの復習	（内　　容）社会保障Ⅰで行った内容を復習する （必要な準備）社会保障Ⅰでの学びを復習しておいてください
第2回	介護保険制度の導入	（内　　容）介護保険制度創設の経緯を理解する 措置から契約への移行を学ぶ （必要な準備）社会福祉基礎構造改革について調べてくる
第3回	介護保険制度の概要	（内　　容）介護保険制度の法的根拠から介護保険の全体像を理解する （必要な準備）小六法「介護保険法」第1条を読んで説明できるようにしておく
第4回	介護保険のしくみ　サービスの手続き・流れ	（内　　容）サービス利用の流れについて理解する 介護保険財政について学ぶ （必要な準備）現在の介護保険財政について調べてくる。社会保障保険給付とそれぞれの(医療、年金、福祉その他)の社会保障給付について
第5回	介護保険のしくみ　利用できるサービス	（内　　容）介護保険制度で利用できるサービスと対象・内容について理解する （必要な準備）地域で配布されている「介護保険のしおり」をもらっておいて、持参すること
第6回	介護保険制度の改正	（内　　容）3年に1度改正する介護保険改正のポイントと国のねらいについて理解する （必要な準備）平成18年からの介護保険改正について調べまとめておいてください
第7回	介護保険制度の現状と課題	（内　　容）介護保険制度の現状と問題点および展望を考える （必要な準備）新聞記事やメディアで発信されている介護保険の課題を持ち寄る 何が書かれているのかを要約しておく
第8回	福祉サービス利用援助事業	（内　　容）契約しづらい利用者に対しての支援事業の一つである福祉サービス利用援助事業を理解する （必要な準備）配布したプリントを読んでおく
第9回	成年後見制度の成立と内容	（内　　容）成年後見制度ができた背景と法的根拠を理解する （必要な準備）配布したプリントを読んでおく
第10回	成年後見制度の課題	（内　　容）成年後見制度と任意後見制度を学ぶ （必要な準備）配布した事例(新聞記事)を読んでおく
第11回	医療保険制度の歩みと社会保障における役割	（内　　容）健康保険制度、国民健康保険制度のあゆみを理解する （必要な準備）前回配布した資料を熟読しておく
第12回	医療保険のしくみ	（内　　容）被用者保険と地域保険の仕組みを理解する （必要な準備）医療保険証を持参し、自分が加入している医療保険を理解しておく
第13回	後期高齢者医療制度のしくみ	（内　　容）後期高齢者医療制度ができた背景について学ぶ 後期高齢者医療制度の仕組みを学ぶ （必要な準備）後期高齢者医療制度ができあ背景について調べてくる
第14回	他国の医療制度の仕組み	（内　　容）アメリカにおける医療制度の仕組みを理解する （必要な準備）アメリカの医療制度及びオバマケアの概要を調べておく
第15回	様々な社会手当	（内　　容）日本における社会手当の現状について学ぶ （必要な準備）我が国の社会手当の内容について調べておく

授業名	**簿記演習**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Bookkeeping Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**平野　由美子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	個人商店や会社等は、儲け（利益）や財産、借金がどれだけあるのかを明らかにするために、日々行なう経済活動（取引）を記録して、最終的な儲け（利益）や財産等を計算している。この授業では、個人商店が日々行っている経済活動を記録する手段としての商業簿記について学習する。簿記の仕組みを演習を通して実践的に学び、損益計算書や貸借対照表の役割についても理解する。				
学習成果到達目標	1）複式簿記の基本原理を理解し、個人商店における諸取引の処理に適用できる。 2）帳簿の記入から財務諸表作成までの一連の流れを理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	スッキリわかる日商簿記３級第９版【テキスト+問題集】				
参考書					
留意事項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**簿記演習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス　簿記の意義	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 簿記とはなにか、なぜ必要なのかについて学ぶ （必要な準備）簿記がなぜ必要なのかについて予習する(30分)
第2回	簿記の基礎（１）	（内　　容）貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する （必要な準備）テキスト2-10頁「第１章　簿記の基礎」を読み、全体像をつかんでおく（30分）
第3回	簿記の基礎（２）	（内　　容）仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する （必要な準備）前回学習した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の５つの項目それぞれの役割を確認する（30分）
第4回	商品売買	（内　　容）商品売買取引の処理について説明する （必要な準備）テキスト12-17頁を読み、分記法・三分法の違いを把握する（30分）
第5回	現金と預金	（内　　容）簿記上の現金とは何か、小切手に関わる処理を説明する （必要な準備）テキスト30-37頁を読み、通貨代用証券・小切手について調べる（30分）
第6回	手形	（内　　容）約束手形、手形の裏書、手形の割引について説明する （必要な準備）テキスト57-61頁を読み、約束手形とは何か、小切手との違いを調べる（30分）
第7回	有価証券	（内　　容）有価証券について説明する （必要な準備）テキスト76-77頁を読み、有価証券とは何かを把握し、有価証券を買った時の仕訳を調べる（30分）
第8回	貸付金、借入金 その他の債権・債務	（内　　容）貸付金、借入金、未収金、未払金、仮払金、仮受金、立替金、預り金について説明する （必要な準備）テキスト68-71頁を読み、お金を貸したときと借りたときの仕訳を調べる（30分）
第9回	ミニテスト 貸倒れと貸倒引当金	（内　　容）第8回までの学習内容の範囲でミニテストを行なう 売掛金の貸倒れ処理と貸倒引当金の設定について説明する （必要な準備）第8回までの学習内容を復習しておく テキスト122-123頁を読み、貸倒れとは何かを調べる（15分）
第10回	固定資産と減価償却	（内　　容）固定資産の購入、売却と減価償却について説明する （必要な準備）テキスト132-133頁を読み、固定資産とは何かを調べる（30分）
第11回	資本金と引出金	（内　　容）資本金、引出金について説明する （必要な準備）テキスト148-155頁を読み、資本の元入れとは何かを調べる（30分）
第12回	収益と費用	（内　　容）費用・収益の繰延べと見越し、決算修正仕訳について説明する （必要な準備）テキスト158-171頁を読み、決算日をまたぐ取引仕訳を予習する（30分）
第13回	仕訳日記帳、総勘定元帳、補助元帳	（内　　容）仕訳日記帳、総勘定元帳、補助元帳（買掛金元帳と売掛金元帳）、商品有高帳を説明する （必要な準備）テキスト9-10頁の「勘定と転記」を復習する。テキスト178-179頁を読み、総勘定元帳への転記について予習する（30分）
第14回	伝票	（内　　容）３伝票制について説明する （必要な準備）テキスト212-224頁を読み、伝票制度について調べる（30分）
第15回	財務諸表の作成	（内　　容）決算手続きと財務諸表の作成、帳簿の締め切りについて説明する （必要な準備）決算修正仕訳（特に貸倒引当金、減価償却）について復習する。損益計算書と貸借対照表の役割について復習する（30分）

授業名	**会計演習**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Accounting Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**平野　由美子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	財務会計に関する基本的知識を身につけることを目標とした演習方式の授業である。公開されている企業の貸借対照表・損益計算書などから企業の経営活動の情報を読み解き、さらには財務諸表分析ができるレベルを目指す。「会計」は、民間企業のみならず、官公庁や地方公共団体、非営利組織など、あらゆる組織・団体で利用されている。社会人になったときにも実践的に役立つような会計知識を学習する。				
学習成果到達目標	1）貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を理解できる。 2）収益の認識基準、資産評価基準を理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	適宜プリントを配布いたします。				
参考書	『新版　会計学入門』千代田邦夫著　　中央経済社 『課長の会計道』千代田邦夫著　中央経済社				
留意事項	簿記演習も履修することが望ましい。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**会計演習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス 財務ディスクロージャー制度とは	（内　　容）本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財務ディスクロージャー制度とは何かについて学ぶ （必要な準備）興味のある企業のホームページを見ておく（30分）
第2回	財務諸表の体系	（内　　容）財務諸表の体系を説明する （必要な準備）興味ある企業のホームページで、公開されている財務諸表の体系を調べる（30分）
第3回	貸借対照表の構成	（内　　容）貸借対照表の構成を学ぶ （必要な準備）貸借対照表に記載されている勘定科目を予習する（30分）
第4回	資産	（内　　容）資産とは何かについて学ぶ （必要な準備）貸借対照表の構成を復習する（30分）
第5回	資産の評価基準	（内　　容）資産の評価基準について説明する （必要な準備）資産にある勘定科目について復習する（30分）
第6回	負債	（内　　容）負債とは何かについて学ぶ （必要な準備）取得原価主義、時価主義について復習する（30分）
第7回	純資産	（内　　容）純資産とは何かについて学ぶ （必要な準備）負債にある勘定科目について復習する（30分）
第8回	損益計算書の構成	（内　　容）損益計算書の構成を学ぶ （必要な準備）損益計算書にある勘定科目を予習する（30分）
第9回	収益・費用の認識と測定	（内　　容）収益、費用とは何か、いつ認識し、どのように評価するのかについて説明する （必要な準備）損益計算書の構成を復習する（30分）
第10回	キャッシュフロー計算書	（内　　容）キャッシュフロー計算書の意義を説明する （必要な準備）興味のある企業のホームページで、キャッシュフロー計算書を調べる（30分）
第11回	株主資本等変動計算書	（内　　容）株主資本等変動計算書の意義を説明する （必要な準備）興味のある企業のホームページで、株主資本について調べる（30分）
第12回	経営分析－収益性	（内　　容）企業の収益性の分析指標を説明する （必要な準備）興味のある企業の財務諸表を調べる（30分）
第13回	経営分析－安全性	（内　　容）企業の安全性の分析指標を説明する （必要な準備）興味のある企業の財務諸表を調べる（30分）
第14回	経営分析－成長性	（内　　容）企業の成長性の分析指標を説明する （必要な準備）興味のある企業の財務諸表を調べる（30分）
第15回	経営分析－付加価値	（内　　容）企業の付加価値分析の指標を説明する （必要な準備）興味のある企業の財務諸表を調べる（30分）

授業名	**情報処理論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	コンピュータ及びインターネットの発展に伴い社会生活も大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人とのコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割、性質について学ぶ。				
学習成果到達目標	1）情報処理技術についての基礎的な知識について説明することができる 2）情報処理システムの仕組みを理解し、知識を活用できるようになる				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書	随時指示する。				
留意事項	カタカナやアルファベットの専門用語が多く出てきますが、できるだけかみ砕いて説明したいと思います。予習必須。				
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授　業　名	**情報処理論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション～コンピュータとは	（内　　容）コンピュータの仕組み （必要な準備）シラバスを読んでくる（5分）
第2回	ハードウェアとソフトウェア	（内　　容）コンピュータを構成するパーツとプログラム （必要な準備）キーワード予習（30分）
第3回	プログラムとアルゴリズム	（内　　容）アルゴリズムとは何か、2進数と16進数 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第4回	コンピュータ言語	（内　　容）RUBY、C、BASIC、JavaScript、JAVAなど （必要な準備）キーワード予習（30分）
第5回	ユーザインタフェース	（内　　容）さまざまなUI、ユーザビリティ （必要な準備）キーワード予習（30分）
第6回	コンピュータネットワーク	（内　　容）LAN、WAN、PAN、通信インフラ （必要な準備）キーワード予習（30分）
第7回	インターネット	（内　　容）WWWの仕組み （必要な準備）キーワード予習（30分）
第8回	データベース	（内　　容）データベースの仕組みと活用 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第9回	情報セキュリティ	（内　　容）ウイルス、個人情報保護、暗号化 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第10回	インターネットリテラシー	（内　　容）SNS、情報の真偽、著作権、肖像権 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第11回	情報処理システム１	（内　　容）情報処理システムの概要と設計 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第12回	情報処理システム２	（内　　容）情報処理システムの開発 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第13回	情報処理システム３	（内　　容）情報処理システムの運用と管理 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第14回	情報（化）社会	（内　　容）暮らしと情報処理 （必要な準備）キーワード予習（30分）
第15回	これからのコンピュータ	（内　　容）AI、バーチャルリアリティ、感性情報処理 （必要な準備）キーワード予習（30分）

授業名	**音楽Ⅲｕａ・Ⅲｕｂ・Ⅲｕｃ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	MusicⅢ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	ピアノでの弾き歌いや初見、簡易伴奏法の習得を通して、保育、教育現場でのより高い実践力を身に付ける。				
学習成果到達目標	1）初見による弾き歌いを習得することができる。 2）子どものうたの弾き歌いに慣れる。 3）基本的な音楽理論を理解することができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（実技　　）　□（　　）				
テキスト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）				
参考書	使用しない。				
留意事項	毎回の授業の復習と練習が必要。レベルに合わせてクラス分けを行う。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授　業　名	音楽Ⅲｕａ・Ⅲｕｂ・Ⅲｕｃ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	初見の基礎（調）および実践・弾き歌い	（内　　容）基本的な調判定の方法及びカデンツ復習 （必要な準備）
第2回	初見の基礎（拍子）および実践・弾き歌い	（内　　容）初見課題のテンポ設定 （必要な準備）調判定の方法およびカデンツ暗譜（30分）
第3回	初見の基礎（リズム）及び実践・弾き歌い	（内　　容）理論的なリズム分割法 （必要な準備）授業課題曲の復習（30分）
第4回	第1回初見小試験・弾き歌い	（内　　容）初見課題を個別に与え、小試験を実施 （必要な準備）1回目から3回目までの授業内容の復習(30分)
第5回	第1回弾き歌い小試験	（内　　容）弾き歌い課題曲の小試験 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)
第6回	伴奏付け実践演習（ハ・ヘ長調）・コードネーム・弾き歌い	（内　　容）旋律譜への伴奏の付け方 （必要な準備）カデンツ復習(30分)
第7回	伴奏付け実践演習（ト・ニ長調）・コードネーム・弾き歌い	（内　　容）旋律譜への伴奏付けの方法 （必要な準備）カデンツ復習(30分)
第8回	伴奏付け応用実践演習・弾き歌い	（内　　容）基本的な調性による伴奏付けの実践 （必要な準備）伴奏付け課題の復習(30分)
第9回	伴奏付け小試験	（内　　容）旋律課題による伴奏付けの試験 （必要な準備）伴奏付け課題の復習(30分)
第10回	弾き歌い実践演習	（内　　容）弾き歌い小試験に向けた演奏上の注意事項確認 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)
第11回	第2回弾き歌い小試験	（内　　容）課題曲の弾き歌い小試験 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)
第12回	初見応用編（付点リズム）・弾き歌い	（内　　容）初見における付点リズムの克服 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)
第13回	初見応用編（シンコペーション・弱起）・弾き歌い	（内　　容）シンコペーションおよび弱起の説明 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)
第14回	初見・弾き歌い総合実践	（内　　容）今まで学習した内容の総復習および質問受付 （必要な準備）今までの学習内容の総復習（1時間）
第15回	第3回弾き歌い個人チェック	（内　　容）課題曲の弾き歌い小試験 （必要な準備）課題曲の練習(1日30分以上)

授業名	**音楽Ⅳua・Ⅳub・Ⅳuc**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	MusicⅣ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	ピアノ伴奏での子どものうたの音楽基礎力および表現力をより深く学ぶ。また。初見・伴奏付け等の実践も音楽Ⅲに引き続いて行う。また簡易楽器を使ったリズムうちの実践を行い、幼児に音楽指導する際のリズム指導のポイント等を学ぶ				
学習成果到達目標	1）子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やし、指導実践力をつけることができる。 2）初見でピアノの弾き歌いをすることに慣れ、止まらずに演奏することができる。 3）移調奏をすることができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		平常試験（ 30 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（実技　　）　□（　　）				
テキスト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学編）				
参考書	使用しない。				
留意事項	『子どものうた』は毎回必ず持参すること。レベルに合わせてクラス分けを行う。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認して下さい。				

授　業　名	音楽Ⅳua・Ⅳub・Ⅳuc

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の予定・課題等確認 （必要な準備）
第2回	リズム打ち（2・3・4・拍子）	（内　　容）手拍子・簡易楽器によるリズム打ち （必要な準備）シンコペーション・タイのリズムの理解(20分)
第3回	コードの応用・初見	（内　　容）カデンツと展開形の応用・初見での伴奏付け練習 （必要な準備）Ⅰ－Ⅳ－Ⅴ－Ⅴ７－Ⅰの理解と伴奏の習得(20分)
第4回	簡易楽器を用いた合奏	（内　　容）簡易楽器全般を使った合奏 （必要な準備）リズムの復習(20分)
第5回	生活の歌のリズム・運指における注意事項	（内　　容）弾き歌い演奏上の注意事項説明・実践 （必要な準備）簡易楽器奏法の復習(20分)
第6回	生活の歌のリズム・奏法における注意事項	（内　　容）弾き歌い演奏上の注意事項説明・実践 （必要な準備）正しい運指・リズムの復習(20分)
第7回	生活の歌および仏讃歌の奏法における注意事項	（内　　容）弾き歌い演奏上の注意事項説明・実践 （必要な準備）正しい運指・リズムの復習(20分)
第8回	生活の歌等小試験（暗譜）	（内　　容）生活の歌弾き歌い小試験 （必要な準備）生活の歌総復習(1時間程度)
第9回	初見テスト	（内　　容）2・3・4拍子の初見のテスト （必要な準備）初見の練習(30分)
第10回	弾き歌い①春・夏	（内　　容）実習頻出曲の実践演習 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)
第11回	弾き歌い②秋・冬	（内　　容）実習頻出曲の実践演習 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)
第12回	弾き歌い③その他	（内　　容）実習頻出曲の実践演習 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)
第13回	弾き歌い④生活発表会等	（内　　容）実習頻出曲の実践演習 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)
第14回	まとめ	（内　　容）実習頻出曲の実践総演習・質疑応答 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)
第15回	小試験	（内　　容）弾き歌い小試験 （必要な準備）弾き歌い練習(1日30分程度)

授業名	**教職論（中・高・栄）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Teaching	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		

授業の概要	教職は、日々成長する子どもの教育に携わり、子どもの可能性や個性の伸長を図る創造的な仕事であり、これを担う教師は、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼすという崇高な使命を負った存在である。教職の意義、教員の役割と使命、職務内容、教育制度や関係法規、服務規程等について認識を深めることを通して、教職に就く心構えやその責任について学ぶと同時に、教職を巡る課題、教師に求められる資質や能力を明らかにし、教職を志望する学生が、自身の進路選択とキャリア形成に関する課題意識をもてるようにする。
学習成果到達目標	1）教職の重要性、職務内容、その専門性について理解する。 2）教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の 資質・能力について理解する。 3）自己の理想の教師像を確立し、実現のための課題を明確にする。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	特になし。
参考書	授業時に適宜紹介する
留意事項	教職科目であるので、特に授業態度（協働的な学び、課題解決的な学び）を重要視する。
オフィスアワー	第１回目の授業で告知する。

授　業　名	**教職論（中・高・栄）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）科目のねらいと概要、授業の進め方について知る。各自の学校体験を振り返る。 （必要な準備）「教職について」の各自の考えをまとめておく。(60分)
第2回	教育の目的と教師の役割	（内　　容）学校教育の目的を理解する中で、教員の役割や教職の意義、教職の魅力について考える。 （必要な準備）印象に残った教師について考えてくる。(60分)
第3回	教育の今日的課題	（内　　容）教員を取り巻く社会の現状を、子ども・家庭・学校の視点から考え理解を図る。 （必要な準備）中・高校生の現状を示すデーターを収集し、課題を見つけてくる。(60分)
第4回	教師に求められる資質・能力①	（内　　容）これまでの教師に何が求められてきたのかを考え、その教師像を探る。 （必要な準備）教師に求められる資質能力について調べておく。(60分)
第5回	教師に求められる資質・能力②	（内　　容）現代の教師に求められている資質・能力について、関係答申から考える。 （必要な準備）平成24年及び27年答申の下調べをしてくる。(60分)
第6回	教員養成の制度	（内　　容）教員養成のための教育（教職課程）の仕組みや内容、教員免許制度について理解を深める。 （必要な準備）戦前と戦後の教員養成制度の違いについて下調べをしてくる。(60分)
第7回	教員の採用と研修	（内　　容）教員採用のしくみ、また採用後の研修制度の理解を通して教員としての人材確保及び養成について考える。 （必要な準備）自分の居住地の教員採用試験の内容を調べておく。(60分)
第8回	教員の職務と専門性	（内　　容）教科担任、学級担任、学校組織の一員としての教員等、多様な職務についての理解を図り、その専門性を考える。 （必要な準備）教師の１日の仕事や校務分掌について調べてくる。(60分)
第9回	教員の地位と身分	（内　　容）教員の服務上及び身分上の義務について関連法案をもとに考える。(（必要な準備）地方公務員法、教育公務員特例法について下調べをしてくる。(60分)
第10回	教師に求められる専門的力量①	（内　　容）学習と教授について理解し、授業計画や準備、実践と評価等について、次期学習指導要領改訂に向けた方向性から考える。 （必要な準備）教師の教科指導の留意点について調べておく。(60分)
第11回	教師に求められる専門的力量②	（内　　容）生徒指導の３機能、進路指導、教育相談等についての理解を図る。 （必要な準備）生徒指導、進路指導の留意点について調べておく。(60分)
第12回	教師に求められる専門的力量③	（内　　容）学級担任の職務について理解を図り、学級経営の基本について考えると同時に教科担任と学級担任の連携についての重要性についての理解を図る。 （必要な準備）学級担任の「しんどさ」がどこにあるのかを調べておく。(60分)
第13回	教師に求められる専門的力量④	（内　　容）学校の教員組織や学校運営協議会組織についての理解を図る中で「協働性」「コミュニケーション能力」について考える。 （必要な準備）配布資料（学校運営協議会資料）の下調べをしておく。(60分)
第14回	「私のめざす教師像」①	（内　　容）今までの授業をふりかえり、自己が目指す教師像を確立する。（信頼される教師、学び続ける教師など） （必要な準備）今までの学習資料の整理をしておく。(60分)
第15回	「私のめざす教師像」②	（内　　容）「私のめざす教師像」に迫るための自己の課題について考える。 （必要な準備）「私のめざす教師像」をまとめてくる。(60分)

授業名	**教職論（幼・小）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Teaching	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	保育者や教員に期待されている役割を理解したうえで、備えるべき倫理観、資質や能力を理解していく。また、保育者や教員が役割を推敲するために不可欠な連携の重要性を理解し、ひとりひとりが理想的な保育者像、教員像を思い描けるようにしてゆく。				
学習成果到達目標	保育者・教育者の存在意義を理解し,進路選択に向け、保育職・教育職の職業的特徴を理解している。保育者・教育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の職務を含めた保育者・教員の職務の全体像を理解している。保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。職場の同僚と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	矢野誠慈郎・天野珠路編　保育者論　中央法規				
参考書					
留意事項					
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。				

授　業　名	**教職論（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育者・教員の役割	（内　　容）保護者の立場から保育者・教員の役割を考える （必要な準備）
第2回	保育者・教員の役割　法的な位置づけ	（内　　容）法的な位置づけから保育者・教員の役割を考える （必要な準備）テキスト第1講を読んでくる
第3回	保育者・教員の倫理	（内　　容）保育者・教員のもつべき倫理観を解説する （必要な準備）テキスト第２講を読んでくる
第4回	保育者・教員の資格と責務	（内　　容）保育者・教員の資格と責務を解説する （必要な準備）テキスト第3講を読んでくる。
第5回	保育者・教員の資質と能力	（内　　容）保育者や教員に求められる資質と能力を解説する （必要な準備）テキスト第5講を読んでくる
第6回	専門的な知識・技術・判断	（内　　容）専門的な知識をどのようにいかすのかを考える （必要な準備）テキスト第6講を読んでくる
第7回	計画と実践・省察	（内　　容）指導計画の立案から省察までの流れを解説する （必要な準備）テキスト第7講、第8講を読んでくる
第8回	計画と実践・省察の実際	（内　　容）指導計画の立案から実践、振り返りを体験する （必要な準備）グループごとに指導計画を完成させてくる
第9回	保育者・教員の自己評価	（内　　容）保育者・教員の自己評価について解説する （必要な準備）テキスト第9講を読んでくる
第10回	保育者・教員の連携	（内　　容）保育者・教員の連携の在り方について考える （必要な準備）テキスト第10講を読んでくる
第11回	連携に必要な資質	（内　　容）連携に必要な資質をワークを通して考える （必要な準備）前の週の授業を復習しておく
第12回	保護者との連携	（内　　容）保護者との連携について考える （必要な準備）テキスト第12講を読んでくる
第13回	保育施設と小学校の連携	（内　　容）保育施設と小学校の連携について考える （必要な準備）テキスト第12講を読んでくる
第14回	保育者・教員に求められること	（内　　容）さまざまな事例から求められる資質を考える （必要な準備）これまでの授業を振り返っておく
第15回	自分の思い描く保育者・教員像	（内　　容）各自が自分のなりたい保育者・教員像を思い描く （必要な準備）これまでの授業を振り返っておく

授業名	**教育課程総論u（中・高・栄）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Curriculum	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生		

授業の概要	2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。 この授業では主に中学・高等学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。そこから、家庭科や栄養教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。
学習成果到達目標	1）教育課程の編成・実施・評価・改善の過程（カリキュラムマネジメント）について説明できる。 2）学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。 3）学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第２版（ミネルヴァ書房）
参考書	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「学習指導要領解説　総則編」
留意事項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。
オフィスアワー	第１回目の授業の時に告知します。

授　業　名	教育課程総論u（中・高・栄）

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　教育課程とは何か	（内　　容）授業を進めるうえでの留意点 （必要な準備）「教育課程」の意味を調べておく
第2回	カリキュラムの分類	（内　　容）これまでのカリキュラムの分類を概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第3回	カリキュラムと教育目標	（内　　容）リテラシーとコンピテンシーについて考える （必要な準備）OECDのEducation2030について調べておくこと
第4回	カリキュラムの編成原理	（内　　容）系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第5回	中等教育のカリキュラム原理	（内　　容）中学および高等学校におけるカリキュラム原理について考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第6回	子どもの発達とカリキュラム	（内　　容）発達の観点からカリキュラムを考える （必要な準備）「合理的配慮」について調べておく、テキストの該当箇所を調べておくこと
第7回	カリキュラムの社会学	（内　　容）隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える （必要な準備）「隠れたカリキュラム」について調べておくこと
第8回	カリキュラムを支える教育環境	（内　　容）「開かれた学校づくり」や学習環境について考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第9回	学習指導要領の変遷（１）1947年～1958年改訂	（内　　容）戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第10回	学習指導要領の変遷（２）1968年～1998年改訂	（内　　容）いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第11回	学習指導要領の変遷（３）2008年～2017年改訂	（内　　容）近年の学習指導要領の特徴について概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第12回	教科のカリキュラム	（内　　容）家庭科および特別な教科道徳のカリキュラムについて考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第13回	教科外のカリキュラム	（内　　容）総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導、進路指導について考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第14回	世界のカリキュラム	（内　　容）イギリス、アメリカ、フィンランドのカリキュラムを概観する （必要な準備）対象国のカリキュラムについて調べておくこと
第15回	まとめ　近年のカリキュラム改革の動向	（内　　容）我が国のカリキュラム改革の動向について概観する （必要な準備）中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べておくこと

授業名	**教育課程総論u（幼・小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Curriculum	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。 この授業では主に小学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。また、幼稚園教育要領の変遷も概観し、小学校とどのような点に違いがみられるのかにも言及します。そこから、小学校教諭・幼稚園教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。
学習成果到達目標	1）教育課程の編成・実施・評価・改善の過程（カリキュラムマネジメント）について説明できる。 2）学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。 3）学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。

評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　■制作物 ■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第２版（ミネルヴァ書房）
参考書	「小学校学習指導要領」「学習指導要領解説　総則編」「幼稚園教育要領」
留意事項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。
オフィスアワー	第１回目の授業にて告知する。

授　業　名	**教育課程総論u（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　教育課程とは何か	（内　　容）授業を進めるうえでの留意点 （必要な準備）「教育課程」の意味を調べておく
第2回	カリキュラムの分類	（内　　容）これまでのカリキュラムの分類を概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第3回	カリキュラムと教育目標	（内　　容）リテラシーとコンピテンシーについて考える （必要な準備）OECDのEducation2030について調べておくこと
第4回	カリキュラムの編成原理	（内　　容）系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第5回	初等教育のカリキュラム原理	（内　　容）小学校および幼稚園におけるカリキュラム原理について考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第6回	子どもの発達とカリキュラム	（内　　容）発達の観点からカリキュラムを考える （必要な準備）「合理的配慮」について調べておく、テキストの該当箇所を調べておくこと
第7回	カリキュラムの社会学	（内　　容）隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える （必要な準備）「隠れたカリキュラム」について調べておくこと
第8回	カリキュラムを支える教育環境	（内　　容）「開かれた学校づくり」や学習環境について考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第9回	学習指導要領の変遷（１）1947年～1958年改訂	（内　　容）戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第10回	学習指導要領の変遷（２）1968年～1998年改訂	（内　　容）いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第11回	学習指導要領の変遷（３）2008年～2017年改訂	（内　　容）近年の学習指導要領の特徴について概観する （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第12回	教科のカリキュラム	（内　　容）各教科および特別な教科道徳のカリキュラムについて考える （必要な準備）テキストの該当箇所を調べておくこと
第13回	教科外のカリキュラム	（内　　容）総合的な学習の時間、特別活動、生活指導、キャリア教育について考える （必要な準備）学校要覧作成に必要な資料を収集
第14回	世界のカリキュラム	（内　　容）イギリス、アメリカ、フィンランドのカリキュラムを概観する （必要な準備）対象国のカリキュラムについて調べておくこと
第15回	まとめ　近年のカリキュラム改革の動向	（内　　容）我が国のカリキュラム改革の動向について概観する （必要な準備）中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べておくこと

授業名	**中等教科教育法Ⅰ（家庭）**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School I	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	家庭科は、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、より良い生活のあり方を考え、創造していく力を培う教科である。家庭科教育の成立経緯や教育政策の歴史的変遷についても学び、中学・高校家庭科の教育内容の全体像を把握し、生活における課題や家庭科教育の現代的課題、家庭科の分野ごとの具体的な内容を習得する。				
学習成果到達目標	1）家庭科の教科としての特徴と独自性、意義を理解する。 2）中学校「技術・家庭科」の目標、内容を修得する。 3）高等学校「家庭科」の目標、内容を修得する。				
評価方法	定期試験（ 90 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 10 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『中学校高等学校家庭科指導法』中間美砂子・多々納道子編著　【建帛社書店】				
参考書	中学校「新しい技術・家庭科 家庭分野」教科書（東京書籍）、高等学校「家庭総合」「家庭基礎」東京書籍				
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。				

授　業　名	**中等教科教育法Ⅰ（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）科目の概要と目的を理解する。 （必要な準備）教科書の「はじめに」と「目次」を読む。（30分）
第2回	教科としての家庭科と独自性	（内　　容）家庭科の独自性を理解する。 （必要な準備）教科書p.1-8を読む。（30分）
第3回	家庭科で育成したい能力	（内　　容）家庭科で育成したい能力を理解する。 （必要な準備）教科書p8-16を読む。（30分）
第4回	家庭科の学習方法	（内　　容）家庭科の学習方法の特色を理解する。 （必要な準備）教科書p.16-24を読む。（30分）
第5回	家庭科の歩み	（内　　容）家庭科の歴史を理解する。 （必要な準備）教科書p.25-34を読む。（30分）
第6回	家庭科教育史から学ぶ	（内　　容）家庭科教育史から現在の家庭科の特色を理解する。 （必要な準備）教科書p.34-42を読む。（30分）
第7回	家庭科の教育課程	（内　　容）家庭科の教育課程の特色を理解する。 （必要な準備）教科書p.43-54を読む。（30分）
第8回	家庭科の教育課程の構造	（内　　容）中学校・高等学校家庭科の教育課程を理解する。 （必要な準備）教科書p.54-60を読む。（30分）
第9回	家庭科の授業づくり	（内　　容）家庭科の授業づくりを学ぶ。 （必要な準備）教科書p.61-78を読む。（30分）
第10回	家庭科の評価	（内　　容）家庭科の評価方法を学ぶ。 （必要な準備）教科書p.79-96を読む。（30分）
第11回	家族・家庭・地域	（内　　容）家族・家庭・地域の内容と生徒に付けたい能力を理解する。 （必要な準備）教科書p.97-108を読む。（30分）
第12回	子どもの成長と保育	（内　　容）子どもの成長と保育の授業内容と生徒に付けたい能力を理解する。 （必要な準備）教科書p.115-124を読む。（30分）
第13回	食生活・衣生活	（内　　容）食生活・衣生活の授業内容と生徒に付けたい能力 （必要な準備）教科書p.133-139・151-158を読む。（30分）
第14回	住生活・消費生活と環境	（内　　容）住生活・消費生活と環境の授業内容と生徒に付けたい能力を理解する。 （必要な準備）教科書p.167175・185-196を読む。（30分）
第15回	総括	（内　　容）これまでのまとめ （必要な準備）授業内容をまとめる。（30分）

授業名	**中等教科教育法Ⅱ（家庭）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅱ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**馬場　まみ**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	「家庭科教育Ⅰ」において明確化した、現代生活における課題をふまえ、現行家庭科の役割について考察する。また、学習指導要領の分析を通して教科指導に必要な基礎的知識の習得と、家庭科の特質を生かした授業について考えを深める。				
学習成果到達目標	1）学習指導要領を理解する。 2）生徒が主体的に学ぶことができる指導方法を工夫することができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	中等教科教育法Ⅰ（家庭）で使用した教科書				
参考書					
留意事項					
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。				

授　業　名	**中等教科教育法Ⅱ（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（内　　容）科目の概要と目的を理解する。 （必要な準備）中等教科教育法Ⅰの内容を振り返る。（30分）
第2回	学習指導要領	（内　　容）中学校・高等学校学習指導要領を理解する。 （必要な準備）学習指導要領の予習。（30分）
第3回	家族・家庭・地域の授業内容	（内　　容）家族・家庭・地域に関する授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ109-114を読む。（30分）
第4回	家族・家庭・地域の授業づくり	（内　　容）家族・家庭・地域に関する授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第5回	子どもの成長と保育の授業内容	（内　　容）子どもの成長と保育に関する授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ124-132を読む。（30分）
第6回	子どもの成長と保育の授業づくり	（内　　容）子どもの成長と保育に関する授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第7回	食生活の授業内容	（内　　容）食生活に関する授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ139-150を読む。（30分）
第8回	食生活の授業づくり	（内　　容）食生活に関する授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第9回	衣生活の授業内容	（内　　容）衣生活に関する授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ158-166を読む。（30分）
第10回	衣生活の授業づくり	（内　　容）衣生活に関する授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第11回	住生活の授業内容	（内　　容）住生活の授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ175-184を読む。（30分）
第12回	住生活の授業づくり	（内　　容）住生活の授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第13回	消費生活と環境の授業内容	（内　　容）消費生活と環境の授業内容を理解する。 （必要な準備）教科書ｐ196-202を読む。（30分）
第14回	消費生活と環境の授業づくり	（内　　容）消費生活と環境分野の授業内容を考える。 （必要な準備）資料の収集。（30分）
第15回	総括	（内　　容）これまでのまとめ。 （必要な準備）授業内容をまとめる。（30分）

授業名	**中等教科教育法Ⅲ（家庭）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅲ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**守野　美佐子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	家庭科の特質を活かした学習計画を立て、領域ごとの講義、実習の効果的な指導できるために、基本事項を理解し、具体的な授業設計ができる力をつけ、深く学習指導計画の立案と展開、評価に関する実践的な力を習得する。授業を作る視点とその方法を理解し、教育現場に活かせる、家庭科教員としての指導能力と資質の育成を図る。				
学習成果到達目標	1）実践的体験的学習を多く取り入れて授業が工夫できるようになる。 2）生徒自身が学習意欲を持ち、主体的に取り組める家庭科模擬授業をすることができる。 3）学習の評価を考えて指導計画が立てられる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ（家庭）で使用した教科書				
参考書	使用しない。				
留意事項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。				
オフィスアワー	毎週、授業終了後に実施する。				

授　業　名	**中等教科教育法Ⅲ（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション　学習の動機付けとは	（内　　容）学習指導要領の確認　家庭科の目標と評価　指導法の特徴を復習する　生徒の学習動機を引き出す工夫を考える （必要な準備）学習指導要領の内容を復習しておく 生徒が家庭科を学ぶ動機を考えておく
第2回	参加型アクション志向学習法とは	（内　　容）参加型アクション志向学習法について学ぶ 視聴覚教材の活用や情報機器の活用についても学ぶ （必要な準備）参加型学習法を調べてくる
第3回	実践例　家族、保育領域	（内　　容）家族・保育領域参加型アクション志向学習法 実践例から学び、授業の計画を立てる 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれる （必要な準備）家族・保育領域の学習内容を復習しておく
第4回	実践例　食生活	（内　　容）食生活領域の参加型アクション志向学習法 実践例から学び、授業の計画を立てる 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれる （必要な準備）食生活の領域の学習内容を復習しておく
第5回	実践例　衣生活・住生活	（内　　容）衣・住領域の参加型アクション志向学習法 実践例から学び、授業の計画を立てる 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれる （必要な準備）衣生活・住生活の領域の学習内容を復習しておく
第6回	実践例　情報、環境	（内　　容）情報・環境領域の参加型アクション志向学習 実践例から学び、授業の計画を立てる 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれる （必要な準備）情報・環境領域の学習内容を復習しておく
第7回	家庭科の教師としての資質、教育実習	（内　　容）教育実習に臨むにあたっての心構えと準備について話し合う （必要な準備）教育実習の目的、自分の目標を決めておく
第8回	実技、実習を含む授業の衛生と安全管理の指導	（内　　容）調理実習室や家庭科室の安全・衛生管理について考える 調理実習や被服製作実習の指導について学ぶ （必要な準備）実技・実習における事故と安全対策について考えておく 調理実習や被服製作の教材について考えておく
第9回	学習指導案の作成　消費生活	（内　　容）消費生活領域の主体的学習の計画　指導案の作成 （必要な準備）消費生活領域の内容を復習しておく。 授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる。
第10回	学習指導案の作成　衣生活	（内　　容）衣生活領域の主体的学習の計画　指導案の作成 （必要な準備）衣生活領域の内容を復習しておく。 授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる。
第11回	学習指導案の作成　住生活	（内　　容）住生活領域の生徒の主体的学習の計画　指導案の作成 （必要な準備）住生活領域の内容を復習しておく。 授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる。
第12回	模擬授業　１回目　消費生活　数名	（内　　容）作成した指導案に基づき模擬授業をする。 （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第13回	模擬授業　２回目　衣生活　数名	（内　　容）作成した指導案に基づき模擬授業をする。 （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第14回	模擬授業　３回目　住生活　数名	（内　　容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第15回	まとめ　学習集団とは	（内　　容）学習集団の保障と形成について考える （必要な準備）これまでの講義をふりかえっておく

授業名	**中等教科教育法Ⅳ（家庭）**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅳ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**守野　美佐子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。				
学習成果到達目標	1）生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2）視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3）生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　■実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（家庭）で使用した教科書				
参考書	使用しない。				
留意事項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。				
オフィスアワー	毎週、授業終了後に実施する				

授　業　名	**中等教科教育法Ⅳ（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション　教育実習の準備	（内　　容）教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ （必要な準備）自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備　　指導計画の立案	（内　　容）自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる （必要な準備）教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備　　指導詳案の作成	（内　　容）視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する （必要な準備）指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備　　指導詳案の発表と修正	（内　　容）指導詳案を発表し他者の意見を参考に修正する （必要な準備）発表の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントの作成　視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目　2名	（内　　容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備してくる
第6回	模擬授業2回目　2名	（内　　容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目　2名	（内　　容）模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （必要な準備）模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	（内　　容）実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする （必要な準備）実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究　環境・消費	（内　　容）環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考える （必要な準備）環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究　経済・生活設計	（内　　容）経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考える （必要な準備）ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究　家族・保育	（内　　容）家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考える （必要な準備）子どもの生活環境について復習しておく
第12回	教育実習報告会　現場で気づいたこと	（内　　容）教育実習を終えてと題し、現場で気づいたことの報告と意見交換をし、今後の自身の課題を明確にする （必要な準備）報告の準備をしてくる
第13回	教育実習報告会　研究授業報告	（内　　容）研究授業の報告と意見交換をし、生徒が学ぶ楽しさと充実感や達成感を得られる授業のあり方を考える （必要な準備）自身の教育実習を振り返り、報告の準備をしてくる
第14回	家庭生活の抱える問題	（内　　容）現代の家庭生活の抱える問題について復習する 伝統と伝承について考える 家庭科教育にできることは何か討議する （必要な準備）これまでのふりかえりと、生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく
第15回	まとめ　これからの家庭科の使命	（内　　容）これまでのまとめと、これからの家庭科の果たす使命について討議する （必要な準備）これまでのふりかえりと、家庭科の使命について考えておく

授業名	**特別活動（中・高）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Special Activities	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**藤村　法子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性慎重を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループ活動も取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導・ガイダンス機能との関連を踏まえながら理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。
学習成果到達目標	1）特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解している。 2）特別活動の目標と内容について理解している。 3）特別活動の指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	文部科学省「中学校指導要領解説　特別活動編」「中学校学習指導要領解説　総則編」平成29年
参考書	藤田晃之編　新学習指導要領の展開　特別活動編　明治図書 国立教育政策研究所　学級・学校文化を創る特別活動　東京書籍 適宜紹介する
留意事項	授業は教員学生双方で築きあげていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。

授　業　名	**特別活動（中・高）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動①	（内　　容）授業の進め方について知る。自己の経験してきた特別活動を想起する中で、学修課題を設定する。 （必要な準備）自己の経験してきた特別活動について考えてくる。(60分)
第2回	学校教育と特別活動②	（内　　容）特別活動の基本的性格と教育的意義について、学習指導要領をもとに生徒の現状をも踏まえ理解を図る。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」P.1～5，P.23～29を読み下調べをしておく。(60分)
第3回	特別活動の目標と内容	（内　　容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに特別活動の目標と内容の概要を考える。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」P.5～22を読みまとめておく。H.28.12.21中教審答申関連部分を読んでおく。(60分)
第4回	学級活動（ホームルーム活動）①	（内　　容）「学級」という集団の教育的機能を視点に学級活動の目標と内容についての理解を図る。 （必要な準備）自己が経験してきたホームルーム活動を想起し、その役割について考えてくる。(60分)
第5回	学級活動（ホームルーム活動）②	（内　　容）「学級づくり」について具体的な方法を通して、合意形成に向けた話し合い、意思決定、集団活動の意義の理解を図る指導のあり方を考える。 （必要な準備）「学級づくり」のためのコミュニケーションゲーム等を調べてくる。学習指導要領P.20～22までを読んでおく。（60分）
第6回	生徒会活動	（内　　容）自治能力を育てるための「生徒会活動」の具体的な進め方について考える。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」の該当する箇所の下調べをしておく。(60分)
第7回	学校行事①	（内　　容）学校行事（儀式的行事、文化的行事、体育的行事、宿泊的行事、奉仕的行事等）についての目標や具体的な指導についての理解を図る。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」の該当する箇所の下調べをしておく。(60分)
第8回	学校行事②	（内　　容）学校行事の簡単な指導計画を作成し発表する。 （必要な準備）学校行事の中で特に興味のある行事についての指導計画を考えてくる。
第9回	特別活動と道徳、生徒指導	（内　　容）特別活動と道徳の関連について、道徳的実践指導の場としての視点から考える。また、生徒指導の機能を活かした特別活動の実践について考える。 （必要な準備）中・高生の問題行動の移り変わりについて調べてくる。(60分
第10回	キャリア形成と特別活動	（内　　容）キャリア形成に生きる特別活動の役割について明らかにし、教育相談、進路相談等ガイダンス機能、インターンシップ、ボランティア等について考える。 （必要な準備）自己の経験してきたボランティア活動で学べたことをまとめてくる。(60分)
第11回	学級経営と特別活動①	（内　　容）これまでの学習をもとに特別活動の機能を生かした学級経営について考える。（学級経営案の作成） （必要な準備）学習指導要領P.114～116までを読んで、どのような学級を作りたいか考えてくる。
第12回	学級経営と特別活動②	（内　　容）学級づくりに生かす学級活動を考え、学習指導案を作成する。 （必要な準備）学級活動の実践事例を調べてくる。
第13回	学級経営と特別活動③	（内　　容）学級活動の模擬授業 （必要な準備）学習指導案の検討　教材準備（60分）
第14回	特別活動の評価	（内　　容）特別活動の評価の意義とその方法P-D-C-Aのマネジメントについての理解を図る。 （必要な準備）特別活動の評価方法について考えてくる。(60分)
第15回	まとめ	（内　　容）これからの特別活動のあり方について「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チーム学校」の視点からまとめる。 （必要な準備）今までの学修ノートをまとめておく。(60分)

授業名	**特別活動（小）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Special Activities	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**藤村　法子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、児童の個性伸長を図るとともに社会性の育成の場としての意義を持つ教育活動である。人間としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループ活動も取り入れ、学習指導要領を基に、教育課程上の位置づけ、特別活動の基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）及びその教育的意義の理解を図る。同時に、特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導との関連を踏まえながらその理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。				
学習成果到達目標	1）特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解している。 2）特別活動の目標と内容について理解している。 3）特別活動の実践的な指導の基本を理解し、簡単な指導計画が立てられる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説　特別活動編」平成29年				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	授業は教員学生双方で築きあげていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。				
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。				

授　業　名	**特別活動（小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動①	（内　　容）授業の進め方について知る。自己の経験してきた特別活動を想起する中で、学修課題を設定する。 （必要な準備）自己の経験してきた特別活動について考えてくる。(60分)
第2回	学校教育と特別活動②	（内　　容）特別活動の基本的性格と教育的意義について児童の現状や学習指導要領をもとに理解を図る。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」第2章第1節の下調べをしておく。(60分)
第3回	特別活動の目標と内容	（内　　容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに特別活動の目標と内容を概観する。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」第1章、第2章第2節の下調べをしておく。H.28中教審答申関連部分を読んでおく。(60分)
第4回	学級活動①	（内　　容）学級集団の教育的機能を視点に学級活動の目標と内容についての理解を図る。 （必要な準備）自己の経験してきた学級活動で印象に残っていることをまとめてくる。(60分)
第5回	学級活動②	（内　　容）学級活動における、合意形成に向けた話し合いや、意思決定について、またその実践についての具体的な指導法について理解する。 （必要な準備）学習指導要領第3章第1節の下調べをしておく。（60分）
第6回	学校行事①	（内　　容）学校行事の目標と内容（儀式的行事、文化的行事、体育・健康安全的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）についての理解を図る。 （必要な準備）学校行事の5類の中で特に興味のある行事について、内容やねらいを詳しく調べてくる。(60分)
第7回	学校行事②	（内　　容）学校行事の簡単な指導計画を作成し発表する。 （必要な準備）前時の学校行事の指導計画を発表するための準備をしてくる。(60分)
第8回	児童会活動　クラブ活動	（内　　容）児童会活動、クラブ活動の意義と指導の在り方について考え、具体的な活動計画を考える。 （必要な準備）自己の経験を想起し「クラブ活動から学んだこと」をまとめてくる。(60分)
第9回	道徳・生徒指導と特別活動	（内　　容）道徳的実践指導の場としての特別活動、児童理解の場としての特別活動のありようを考える。 （必要な準備）小学生の問題行動や教育課題について調べてくる。(60分)
第10回	指導計画の作成にあたっての配慮事項	（内　　容）特別活動の全体計画、年間指導計画の作成についての意義と配慮事項についての理解を図る。 （必要な準備）学習指導要領解説「特別活動編」第4章第1節1項について下調べをしておく。(60分)
第11回	学級活動と学級経営①	（内　　容）学級集団の教育的意義について理解を図り、学級経営における学級活動の果たす役割について考える。 （必要な準備）どのような学級を作りたいのか各自考えてくる。(60分)
第12回	学級活動と学級経営②	（内　　容）学級づくりに生かす学級活動を考え、具体的な学習指導案を作成する。 （必要な準備）発表のための準備をしておく。(60分)
第13回	学級活動と学級経営③	（内　　容）前時の「学級活動」の模擬授業を実践し、授業省察をする。 （必要な準備）発表のための準備をしておく。(60分)
第14回	特別活動の評価	（内　　容）特別活動の評価の意義とその方法PDCAサイクルについての理解を図る。 （必要な準備）評価方法について調べてくる。(60分)
第15回	まとめ	（内　　容）「れからの特別活動のあり方にについて「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チーム学校」の視点からまとめる。 （必要な準備）今までの学修ノートをまとめておく。(60分)

授業名	**教育実習事前・事後指導ｕａ（中・高）**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**林　静香**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイの等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。				
学習成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2）教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、 学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解する。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 □レポート □制作物 □口述 ■実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：□知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■（学習指導案作成能力 ） □（ ）				
テキスト	資料を適宜配布する。				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。				
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。				

授　業　名	**教育実習事前・事後指導ｕａ（中・高）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、 教育実習の意義を理解する。 （必要な準備）
第2回	学校文化の理解	（内　　容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （必要な準備）テーマについて、既存の知識をまとめておく。
第3回	教師に求められる資質・能力	（内　　容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （必要な準備）テーマについて、既存の知識をまとめておく。
第4回	子ども理解	（内　　容）幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （必要な準備）テキストの該当箇所の下調べをしておく。
第5回	人権と教育	（内　　容）「人権と教育」について、発達障害の児童生徒の理解を中心に考える。 （必要な準備）発達障害について調べてくる。
第6回	教育実習報告会	（内　　容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （必要な準備）これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。
第7回	観察実習記録の取り方	（内　　容）観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 （必要な準備）授業記録（資料）を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	（内　　容）実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 （必要な準備）前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	（内　　容）学習指導案の意義とその作成法について理解する。 （必要な準備）模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	（内　　容）グループごとに学習指導案の作成、教材研究をする。 （必要な準備）各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	模擬授業と教材研究	（内　　容）グループ毎に模擬授業をし、その省察をする。 （必要な準備）学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究（別グループ）	（内　　容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （必要な準備）前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	模擬授業と教材研究（別グループ）	（内　　容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （必要な準備）前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	（内　　容）実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （必要な準備）実習カードを作成してくる。
第15回	まとめ	（内　　容）授業を振り返り、４春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （必要な準備）実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	**教育実習事前・事後指導ｕａ（幼・小）**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理・渡邊　雄一・加藤　倫子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。実習のねらいと目的、概要を理解するとともに、演習形式の授業を通して、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイの等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。
学習成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2）教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、 学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解する。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（学習指導案作成能力　　）　□（　　）
テキスト	「教育実習ノート」のほか、資料を適宜配布する
参考書	適宜紹介する
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。
オフィスアワー	事前にメールなどで予約することが望ましい。加藤は学外教員なので授業前後が望ましい。

授　業　名	**教育実習事前・事後指導ｕａ（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、 教育実習の意義を理解する。 （必要な準備）シラバスを確認し、これまでの実習について振り返る。（30分）
第2回	学校文化の理解	（内　　容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （必要な準備）テーマについて、既存の知識をまとめておく。（30分）
第3回	教師に求められる資質・能力	（内　　容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （必要な準備）テーマについて、既存の知識をまとめておく。（30分）
第4回	子ども理解	（内　　容）幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （必要な準備）配布資料の該当箇所の下調べをしておく。（30分）
第5回	人権と教育	（内　　容）「人権と教育」について、発達障害の児童生徒の理解を中心に考える。 （必要な準備）人権理解についての事例や発達障害について調べてくる。（1時間）
第6回	教育実習報告会	（内　　容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （必要な準備）これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。（30分）
第7回	観察実習記録の取り方	（内　　容）観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 （必要な準備）授業記録（資料）を読み、記録の取り方を考えてくる。（30分）
第8回	実習記録作成と省察	（内　　容）実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 （必要な準備）前回の授業ポイントを整理しておく。（30分）
第9回	指導案作成の方法	（内　　容）学習指導案の意義とその作成法について理解する。 （必要な準備）模擬授業をする教科や活動の教材研究（1時間）
第10回	指導案作成の実際	（内　　容）グループごとに学習指導案の作成、教材研究をする。 （必要な準備）各自で学習指導案の構想を立ててくる。（1時間）
第11回	模擬授業と教材研究	（内　　容）グループ毎に模擬授業をし、その省察をする。 （必要な準備）学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究（別グループ）	（内　　容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （必要な準備）前回の授業省察記録をまとめてくる。（1時間）
第13回	模擬授業と教材研究（別グループ）	（内　　容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （必要な準備）前回の授業省察記録をまとめてくる。（1時間）
第14回	教師とコミュニケーション能力	（内　　容）実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （必要な準備）実習生カードを作成してくる。（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）授業を振り返り、４春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （必要な準備）実習ノートの該当箇所を考えてくる。（30分）

授業名	**教育実習事前・事後指導ｕｂ（中・高）**	開講学年	4回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討など今後の課題を明らかにする。
学習成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2）教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解する。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にする。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（授業力　）　□（　）
テキスト	「教育実習ノート」「教育実習にあたって」
参考書	適宜紹介する
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。

授　業　名	**教育実習事前・事後指導ｕｂ（中・高）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業のねらい、進め方を知る。 （必要な準備）テキストを読み返しておく
第2回	実習目標の策定	（内　　容）オリエンテーションに際しての注意事項を確認すると同時に、自己の実習目標を確かなものにする。 （必要な準備）実習生カードを仕上げておく。
第3回	オリエンテーション計画	（内　　容）オリエンテーションに際して実習校についての理解を図る （必要な準備）実習校の概要について調べておく
第4回	オリエンテーション結果考察	（内　　容）オリエンテーションの結果交流を図ることにより、さらに課題を明確にする。 （必要な準備）オリエンテーション報告を作成しておく。
第5回	模擬学級指導	（内　　容）実習校での子どもへの自己紹介等の模擬指導の実践及び省察をする。 （必要な準備）学級指導の略案を立ててくる。
第6回	授業実践①	（内　　容）略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （必要な準備）教材研究　略案の作成
第7回	児童・生徒実践的理解①	（内　　容）児童・生徒の参与観察をし、その省察をする。 （必要な準備）児童・生徒の観察記録の作成
第8回	授業実践②	（内　　容）細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （必要な準備）教材研究　学習指導案の作成
第9回	児童・生徒実践的理解②	（内　　容）児童・生徒の参与観察及びその省察をする。 （必要な準備）児童・生徒の観察記録の作成
第10回	教育実習の振り返り①	（内　　容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に教科指導）その成果と課題を明らかにする。 （必要な準備）教育実習ノート
第11回	教育実習の振り返り②	（内　　容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に児童・生徒理解）その成果と課題を明らかにする。 （必要な準備）教育実習ノート
第12回	教育実習報告会に向けて①	（内　　容）実習報告会の計画を立てる （必要な準備）教育実習ノート
第13回	教育実習報告会に向けて②	（内　　容）教育実習報告会の発表資料の作成 （必要な準備）教育実習ノート　成果物
第14回	教育実習から学んだこと	（内　　容）教育自習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 （必要な準備）成果物の整理
第15回	まとめ	（内　　容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる （必要な準備）履修カルテの作成

授業名	**教育実習事前・事後指導ｕｂ（幼・小）**	開講学年	4回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理・加藤　倫子**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方、保護者や地域との連携など近年の学校を取り巻く環境の変化など、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返って、課題を見出し、さらに良い教員を目指して、身につけるべき知識・技能を明らかにする。
学習成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2）教育実習に臨むにあたり、幼児・児童生徒の理解、保育・学習指導、学級経営、学校組織のあり方等の基礎的・基本的な事柄を理解する。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にし、事後にさらなる課題を見出す。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（主体的な取り組み姿勢　）　■（詳細な観察にもとづく授業力　）
テキスト	「教育実習ノート」のほか、必要な資料を適宜配布する
参考書	適宜紹介する
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。
オフィスアワー	随時。メールなどで事前予約することが望ましい。加藤は学外教員なので、授業時間の前後が望ましい。

授　業　名	**教育実習事前・事後指導ｕｂ（幼・小）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）担当教員紹介。授業の目的、進め方、評価方法を知る。 （必要な準備）テキストを読み返しておく。（30分）
第2回	実習意義の確認と実習目標の設定	（内　　容）これまでに学んできた実習の意義や各校種ごとの子どもに身につけさせたい力等を確認したうえで、自らの実習目標を設定する。 （必要な準備）実習生カードと各自の実習目標を書いてくる。（1時間）
第3回	オリエンテーションのねらい	（内　　容）実習前オリエンテーションについて、その意味を知り、事前準備を行う。 （必要な準備）実習校の概要について調べておく。（30分）
第4回	オリエンテーション事後確認と実習直前準備	（内　　容）オリエンテーション後の確認作業をもとに、実習前の最終準備を行う。 （必要な準備）オリエンテーション報告を作成しておく。（30分）
第5回	学級観察と子ども理解	（内　　容）実習校に溶け込もうとし、配属学級における授業や子どもの活動観察とその省察を行う。 （必要な準備）担当教員の授業記録をとり、授業の略案をたてる。（数時間）
第6回	授業実践①	（内　　容）略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （必要な準備）部分的な実習や略案による授業実践のためのシミュレーションなど。 （数時間）
第7回	児童・生徒実践的理解①	（内　　容）教員と子どもの関係性の理解、子どもどうしの関係性の理解。 （必要な準備）児童・生徒の観察記録の作成。（数時間）
第8回	授業実践②	（内　　容）細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （必要な準備）教材研究　学習指導案の作成。（数時間）
第9回	教育実習の振り返り①	（内　　容）実習直後の記憶を頼りに、自己設定目標との差異を明確にし、そのために必要な今後の課題を明確にする。 （必要な準備）振り返りシートの作成。（1時間）
第10回	教育実習の振り返り②	（内　　容）教育実習ノートをもとに、一定時間経過後の実習を振り返り（主に教科指導や研究保育などの）成果と課題を明らかにする。 （必要な準備）教育実習ノートの持参、客観的な振り返り。（1時間）
第11回	教育実習の振り返り③	（内　　容）グループによる話し合いによって、教員に必要な資質能力を高めるための今後の課題を見出す。 （必要な準備）振り返りシートと教育実習ノートの持参、事前課題をしておく。（30分）
第12回	教育実習報告会に向けて①	（内　　容）実習報告会の計画を立てる。 （必要な準備）教育実習ノートなど 事前課題をしておく（30分）
第13回	教育実習報告会に向けて②	（内　　容）教育実習報告会の発表資料の作成。 （必要な準備）教育実習ノート　成果物、事前課題をグループでしておく。（1時間）
第14回	教育実習から学んだこと	（内　　容）教育自習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 （必要な準備）成果物の整理。（1時間）
第15回	まとめ	（内　　容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （必要な準備）履修カルテの作成。（1時間）

授業名	**教職実践演習(中・高)**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Practice(Junior High School・High School)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとすることを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。
学習成果到達目標	1）教師としての使命感、責任感を身につける。 2）教師として必要な社会性、対人関係能力を身につける。 3）新任教師として必要な生徒指導力や学級経営力を身につける。 4）新任教師として必要な教科指導力を身につける。 5）教師として必要な表現力を身につける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	「教育実習にあたって」
参考書	適宜紹介する
留意事項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。

授　業　名	**教職実践演習(中・高)**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）演習の意義とその進め方を理解する。 （必要な準備）履修カルテの整理
第2回	自己のこれからの研修課題	（内　　容）履修カルテや教育実習から、各自の研修課題を策定する。 （必要な準備）自己の課題をまとめてくる。
第3回	求められる教師像	（内　　容）教師の使命感・責任感・情熱等について教育実習経験をふまえながらグループ討議し発表する。 （必要な準備）課題についての自己の経験をまとめてくる
第4回	生徒指導と学級経営①	（内　　容）校長経験者の講話をもとに生徒指導について考える。 （必要な準備）実習校の児童・生徒観をまとめておく。
第5回	生徒指導と学級経営②	（内　　容）生徒同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 （必要な準備）学級のルールや教室経営について調べる
第6回	生徒指導（場面指導①）	（内　　容）実際的な生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。（いじめ等） （必要な準備）課題について効果的な指導法を調べてくる。
第7回	生徒指導（場面指導②）	（内　　容）実際的な生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。（規範意識等） （必要な準備）課題について効果的な指導法を調べてくる。
第8回	教科指導	（内　　容）教育委員会指導主事（経験者）より「家庭科教育の現代的課題」についての講義を受け、授業法について考える （必要な準備）教育実習の授業省察をまとめておく
第9回	模擬授業①	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。① （必要な準備）教材研究　学習指導案作成
第10回	模擬授業②	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。② （必要な準備）教材研究　学習指導案作成
第11回	模擬授業③	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。③ （必要な準備）教材研究　学習指導案作成
第12回	教師と保護者の連携①	（内　　容）「教師と保護者の関係づくり」についてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （必要な準備）家庭との連携の必要性について考えてくる。
第13回	教師と保護者の連携②	（内　　容）「教師と保護者の関係づくり」についてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （必要な準備）地域との連携の必要性について考えてくる。
第14回	これからの教師	（内　　容）校長経験者の講義をもとに、自己の教師像を確立する。 （必要な準備）各教育委員会の重点取組について調べておく
第15回	まとめ	（内　　容）演習のまとめをする （必要な準備）履修カルテ

授業名	**初等科教育法（国語）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Elementary School Students（Japanese）	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**遠藤　純**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語科教育について学ぶ。小学校国語科の内容について解説、物語・民話・説明文等の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法等をふまえつつ、実際に教材研究および模擬授業を実施することで、小学校における国語科授業の実践的スキルを身につける。
学習成果到達目標	1）国語科の授業において求められるスキルとは何か、学習材研究や学習指導案の作成実習を通して自分なりの認識を持つ。 2）国語科教育全般に渡る系統的な指導法を扱い、最終的には模擬授業を行うことにより、現実の子どもの反応を想定した主な発問や表現活動についてプランを作成、より実践的なレベルで授業スキルを磨く。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　■実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）

テキスト	授業開始時に別途指示する。
参考書	授業開始時に別途指示する。
留意事項	実習や演習形式が主となる。積極的な受講態度で臨むこと。下記シラバスに記載されている実践教材名は予定であり、受講生の要望等により変更することがある。
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。

授　業　名	**初等科教育法（国語）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　授業の概要と目標	（内　　容）授業の目的や内容、取り組みについて詳述する。 （必要な準備）
第2回	国語科教育とは何か	（内　　容）国語科教育の全体像、領域、範囲について学ぶ。 （必要な準備）あらためて学習指導要領の国語を読んでおく。
第3回	学習指導案の作成	（内　　容）国語科学習指導案の作成について学ぶ。 （必要な準備）指導案作成の方法について学習しておく。
第4回	教材研究の内容と方法	（内　　容）教材研究の内容および方法について学び、実践事例を収集して教材研究を行う。 （必要な準備）実践事例の収集方法について調べておく。
第5回	模擬授業の実践①　「スイミー」	（内　　容）「スイミー」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「スイミー」の教材文を読んでおく。
第6回	模擬授業の実践②　「かさこじぞう」	（内　　容）「かさこじぞう」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「かさこじぞう」の教材文を読んでおく。
第7回	模擬授業の実践③　「わらぐつのなかの神さま」	（内　　容）「わらぐつのなかの神さま」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「わらぐつのなかの神さま」の教材文を読んでおく。
第8回	模擬授業の実践④　「おてがみ」	（内　　容）「おてがみ」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「おてがみ」の教材文を読んでおく。
第9回	模擬授業の実践⑤　「ひとつの花」	（内　　容）「ひとつの花」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「ひとつの花」の教材文を読んでおく。
第10回	模擬授業の実践⑥　「ちいちゃんのかげおくり」	（内　　容）「ちいちゃんのかげおくり」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「ちいちゃんのかげおくり」の教材文を読んでおく。
第11回	模擬授業の実践⑦　「モチモチの木」	（内　　容）「モチモチの木」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「モチモチの木」の教材文を読んでおく。
第12回	模擬授業の実践⑧　「スーホの白い馬」	（内　　容）「スーホの白い馬」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「スーホの白い馬」の教材文を読んでおく。
第13回	模擬授業の実践⑨　「ごんぎつね」	（内　　容）「ごんぎつね」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「ごんぎつね」の教材文を読んでおく。
第14回	模擬授業の実践⑩　「ありのぎょうれつ」	（内　　容）「ありのぎょうれつ」の模擬授業を実施する。 （必要な準備）「ありのぎょうれつ」の教材文を読んでおく。
第15回	授業のまとめ	（内　　容）授業のまとめを行う。 （必要な準備）

授業名	**初等科教育法（社会）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Elementary School Students (Social Studies)	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**木全　清博**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	1）小学校社会科の本質・目標等について論述するとともに，歴史的な変遷を踏まえて，今日的な社会科の諸課題について考察する。 2）学習指導案の作成や模擬授業等の作業を組み込みながら，授業づくりの方法を体験的に学ぶ。
学習成果到達目標	1）社会科の成立の歴史を理解して、学習指導要領の内容や民間社会科を説明できる。 2）目標と内容構成と授業展開を工夫した学習指導案が書けるようになる。 3）社会科の授業設計に，自分なりの見通しが持てるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	適宜配布するプリント資料を使って講義・模擬授業を行う
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社　2018年3月 臼井嘉一監修『戦後日本の教育実践』三恵社　2013年 前田賢次他編『学力と教育課程の創造ー社会認識を育てる教育実践とその歩みー』同時代社　2013年
留意事項	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する

授　業　名	**初等科教育法（社会）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会科とは何か、社会科と子どもの社会認識	（内　　容）社会科とはどんな教科か、社会科は戦後生まれの教科、小学校社会科の目標と公民的資質，社会科と社会諸科学/社会認識と市民的資質 （必要な準備）自分の「社会科体験」を書いてくる、自分の気に入った社会科の内容、面白くなかった社会科、学習指導要領に目を通しておく。
第2回	社会科の歩みと論争（１）1947年版・51年版学習指導要領から55年版・58年版・68年版・77年版までの変遷	（内　　容）戦後社会科の成立と問題解決学習論、文部省社会科と民間社会科の論争ー２つの系統学習の対立，社会科における道徳教育論争 （必要な準備）学習指導要領に目を通しておく。
第3回	社会科の歩みと論争（２）1989年版・98年版・2008版学習指導要領の変遷	（内　　容）生活科、地歴科・公民科の成立、総合的学習による問題解決学習の復権、21世紀の現代社会の学力論ー「生きる力」、国際化・情報化社会論 （必要な準備）前時の復習をしておく。
第4回	社会認識形成のための社会科学習（１）鈴木正気の地域に根ざす社会科論	（内　　容）民間社会科における地域に根ざす社会科学習論ー鈴木正気による教材づくりと授業方法、鈴木正気の授業記録を読む （必要な準備）前時の復習をしておく。
第5回	社会認識形成のための社会科学習（２）安井俊夫の「わかる」社会科教材づくりと授業	（内　　容）民間社会科における「わかる」社会科学習論ー安井俊夫による「わかる」・「できる」の意味と学び直し，子どもが「わかる」を探究する教材と授業過程 （必要な準備）前時の復習をしておく。
第6回	社会認識形成のための社会科学習（３）２つの「元寇」の授業を比較検討する	（内　　容）小学校６年歴史「元寇」授業の比較検討ー倉持祐二と平野昇の教材研究と授業方法、ビデオ視聴と授業記録で比較検討し、討論する （必要な準備）前時の復習をしておく。
第7回	学習指導案の作成（1）教科書研究の方法、単元の構成	（内　　容）各自作成する指導案で扱う単元をしぼり、社会科教科書の記述内容の分析を行う。単元案を書くことの意味，単元設定の理由，目標・展開・評価等 （必要な準備）作成したい指導案の学年の単元の教科書を選定してコピーして持参する
第8回	学習指導案の作成（2）本時の構成	（内　　容）指導案を実際に作成する。本時案を書くことの意味，本時の教材観/児童観/指導観，目標・展開・評価，板書・資料等を考える。 （必要な準備）前時の復習をしておく。
第9回	模擬授業（１）中学年社会科、社会認識を中心とした授業づくりの実際	（内　　容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （必要な準備）前時の復習をしておく。
第10回	模擬授業（２）中学年社会科、作業や活動を中心とした授業づくりの実際	（内　　容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。地図や歴史資料の扱い方・作業や活動の組み込み方 （必要な準備）授業分析用紙を提出できるよう準備する。
第11回	模擬授業（３）高学年社会科、討論や話し合いを中心とした授業づくりの実際	（内　　容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （必要な準備）授業分析用紙を提出できるよう準備する。
第12回	模擬授業（４）高学年社会科、歴史・地理の授業づくり	（内　　容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （必要な準備）授業分析用紙を提出できるよう準備する。
第13回	模擬授業（５）高学年社会科、社会科と評価	（内　　容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。評価観の変遷（相対評価と絶対評価，評価規準と評価基準，PISA型学力観の意味するもの （必要な準備）授業分析用紙を提出できるよう準備する。
第14回	社会科と生活科・総合的な学習（１）伊那小学校の実践	（内　　容）伊那小学校の総合学習の授業ビデオ視聴から、総合学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （必要な準備）授業の復習をしておく。
第15回	社会科と生活科・総合的な学習（２）奈良女子大附小の実践	（内　　容）奈良女子大附小の「しごと」学習の授業ビデオ視聴から、生活科学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （必要な準備）授業の復習をしておく。

授業名	**初等科教育法（算数）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Mathematics in Elementary School	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**重松　敬一**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	小学校算数科の目的・内容・方法・評価について、実際の授業の在り方を中心に、児童の数学的考え方の育成について考察する。これまでの算数科教育の歩みを概観し、低・中・高の各学年の算数指導のポイントについて理解を深める。よりよい授業について具体的に考察するため、指導要領に基づいて課題を想定した授業プランの作成を行う。授業は講義形式を中心に行う。
学習成果到達目標	1）小学校算数科の指導内容及び指導方法の基本的な事項を理解する。 2）小学校算数科の学習指導案の作成について理解する。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　）　□（　）
テキスト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版、242円）、講義中にプリントなども配布する
参考書	数学教育研究会：『新訂　算数教育の理論と実際』、聖文新社、2014
留意事項	
オフィスアワー	メールで対応します。

授　業　名	**初等科教育法（算数）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに－何のために算数を教えるのか	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる （必要な準備）
第2回	数学的活動とはどういうことか	（内　　容）算数的活動の趣旨を理解する （必要な準備）自分の学習経験を振り返る
第3回	算数科の目標を理解する	（内　　容）算数科の目標を理解する （必要な準備）算数の目標の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	算数科の内容構成とその概観	（内　　容）算数科の内容構成について自分の経験を生かして理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第5回	低学年の内容（数と計算）とその指導	（内　　容）算数科の低学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第6回	低学年の内容（図形、測定、データの活用）　とその指導	（内　　容）算数科の低学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第7回	中学年の内容（数と計算）とその指導	（内　　容）算数科の中学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第8回	中学年の内容（３学年の内容（図形、測定、データの活用）、４学年の内容（図形、変化と関係、データの活用））　とその指導	（内　　容）算数科の中学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第9回	高学年の内容（数と計算）とその指導	（内　　容）算数科の高学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第10回	高学年の内容（図形、変化と関係、データの活用）　とその指導	（内　　容）算数科の高学年の内容の指導を理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第11回	算数科の学習指導案をどのように作成するか	（内　　容）算数科の学習指導案の作成について理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第12回	算数科の授業をどのように設計するか	（内　　容）算数科の授業の設計について理解する （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する
第13回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その１）、授業１	（内　　容）算数科の模擬授業を実施する （必要な準備）あらかじめ分担準備した授業を実施する
第14回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その２）、授業２	（内　　容）算数科の模擬授業を実施する （必要な準備）あらかじめ分担準備した授業を実施する
第15回	補足とまとめ	（内　　容）本講義の内容を振り返り算数科の指導方法等をまとめる （必要な準備）あらかじめ配布するプリントを理解する

授業名	**初等科教育法（理科）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Science in Elementary School	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**中野　英之**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	実験・実習を中心に学習を進める。基本的な工具や実験器具の使用方法を習得し、ものづくりや実験・観察を柱とした教材開発・授業のあり方について考える。また、授業を通して、初等理科担当教員に必要な基礎知識の充実を目指す。				
学習成果到達目標	1）基本的な工具の使用方法を修得する。 2）基本的な実験・実習や観察方法のスキルを修得する。 3）今日的な初等理科教育の問題点や課題について理解することができる。				
評価方法	定期試験（ 70 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 30 %） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	特になし　毎回プリントを配布する				
参考書	特になし（自分で参考書を探すのも勉強のうちです）				
留意事項	天候・その他の理由により、授業内容を変更する場合がある。 はさみ、のり、カッターナイフは必ず持参すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**初等科教育法（理科）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス理科教育の役割、学習指導要領と理科の目標	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）受講者の理科に関するこれまでの経験をまとめる
第2回	「ふりこの運動」 物理・実験	（内　　容）ふりこの実験を通し、ふりこの単元の指導方法について解説する。 （必要な準備）ふりこに関連した身近なものについて調べてくる
第3回	「理科教育とものづくり」、「ペットボトルで動く車をつくる①」 ものづくり・物理	（内　　容）理科におけるものづくり経験の重要性を解説する。 （必要な準備）ハサミ、カッターナイフを持参
第4回	「ペットボトルで動く車をつくる②　～走行距離コンテスト～」 ものづくり・物理	（内　　容）よく走る車の条件について意見交換を通し理解を深める。 （必要な準備）ハサミ、カッターナイフを持参
第5回	問題解決型学習と教えて考えさせる授業	（内　　容）近年注目をされている教えて考えさせる授業について解説する。 （必要な準備）特になし
第6回	「水溶液と金属の反応」 化学・実験	（内　　容）水溶液と金属の反応について解説する、基本的な実験器具の使い方を指導する。 （必要な準備）特になし
第7回	「望遠鏡を用いて月までの距離を計る」地学・実習	（内　　容）天体望遠鏡の基礎的な使用方法を解説するとともに月までの距離を簡単な実験を通して求める方法について解説する。 （必要な準備）電卓と30 ㎝程度の直線定規を持参
第8回	「わらびもちをつくろう」 生物・実習	（内　　容）じゃがいもからでんぷんを取り出し、わらびもちをつくる。 （必要な準備）特になし
第9回	「酸とアルカリ」「身近な材料を用いた指示薬づくり」 化学・実験	（内　　容）酸とアルカリ、身近な材料を用いた指示役づくりの 解説と実験をおこなう。酸・アルカリの実験に用いる試薬の調整、廃液処理の方法について解説する。 （必要な準備）身近にある液体を5種類持参すること
第10回	「火山の噴火」「地学におけるモデル実験」地学・実験	（内　　容）日本の火山について解説をするとともに、チョークを用いた火山の噴火のモデル実験を行う。 （必要な準備）日本と世界の火山について調べておく
第11回	「マグマをつくろう」地学・実験・観察	（内　　容）マグマができるしくみを解説するとともに、七輪を用いたマグマの生成実験を行う。 （必要な準備）特になし
第12回	「地層のはぎ取り標本の観察」「地層の堆積実験」「京都の大地のつくり」 地学・実験・観察	（内　　容）地層のはぎ取り標本を用いて地層の観察を行うとともに、地層の堆積実験を通して、京都の大地の成り立ちを考える。 （必要な準備）特になし
第13回	「磁石で動くおもちゃづくり」　ものづくり・物理	（内　　容）マグネットシートの謎を解明しながら磁石について理解を深める。磁石を用いたおもちゃづくりを行う。 （必要な準備）特になし
第14回	「星座早見盤の作成」 地学	（内　　容）星座早見盤の作成を通して宇宙についての理解を深める。 （必要な準備）特になし
第15回	これまでの学習の振り返り	（内　　容）これまでの授業を振り返り、小学校における理科の指導について総括する。 （必要な準備）プレゼンテーションの準備

授業名	**初等科教育法（生活）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Elementary School Students (Life Environment Studies)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**木全　清博**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	生活科の成立から今日的課題に至る基礎的理解を深めるとともに、教科の目標、内容、方法および評価に関する理論と実践について学ぶ。生活科で育てるべき能力や態度についての理解を深めるとともに、生活科の指導計画、学習指導案の作成を含む実践的な指導力の向上を図る。生活科の特質について、成立の意義や現代的課題との関係に基づきながら理解を深め、実践的な知見を含めた学習指導案を作成することをめざす。				
学習成果到達目標	1）生活科の指導に必要な基礎的・基本的な教育論としての教育原理と実践を理解する。 2）目標や指導内容、指導方法、評価等に関する知識・技能等の総合的な習得を図る。 3）自分が教壇に立って生活科の指導ができる自信とスキルを身につける。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　■実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	テキスト　小学校学習指導要領解説生活編：2018年版【文部科学省】				
参考書	小学校学習指導要領【文部科学省】				
留意事項	教職を強く志望する学生の履修を望む。若干、授業計画の変更の可能性があり、それについては第1回の科目ガイダンスにて説明する。				
オフィスアワー	担当授業終了後				

授　業　名	**初等科教育法（生活）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生活科とは何か、生活科とはのどんな教科か、本授業「初等科教育法生活」の講義の概要を知らせる	（内　　容）「生活」の授業の概要ー15回の内容を知らせる。グループ活動・発表と提出物について説明。自分の生活科経験を書いて、発表する。 （必要な準備）学習指導要領「生活科」を読んでくる。
第2回	生活科の目標と内容ー2018年版学習指導要領「生活」の内容をつかむ	（内　　容）2018年版学習指導要領「生活科」を解説する。 （必要な準備）学習指導要領「生活科」を読んでくる。筆記具、ファイル
第3回	生活科の歴史（１）生活科誕生の背景、戦前からの低学年の生活教育の流れ	（内　　容）1989年に新設された生活科の歴史を知る。戦前の大正期からの低学年教育のれkしいを知る。1989年版学習指導要領は、どんな内容であったか。 （必要な準備）前回の講義内容をまとめてくる。筆記具、ファイル
第4回	生活科の歴史（２）1998年版、2009年版の学習指導要領の変化。八点をつかむ、その背景と教育方法学的意義	（内　　容）1998年版から2008年版へと学習指導要領の変化・発展をとらえる。社会的背景について、教育方法の視点からとらえる。 （必要な準備）前回の講義内容をまとめてくる。筆記具、ファイル
第5回	海外の生活科授業（１）子どもの体験活動の重視	（内　　容）海外の低学年の教育実践をビデオ視聴し、生活科における体験活動を考究する。 （必要な準備）前回の講義内容をまとめてくる。筆記具、ファイル
第6回	海外の生活科授業（２）生活科の教材開発1	（内　　容）海外の低学年の教育実践をビデオ視聴し、生活科における教材開発の意義をつかむ （必要な準備）前回の講義内容をまとめてくる。作成したレポートの提出。
第7回	生活科の授業づくり（１）生活科の実践活動と教師の役割	（内　　容）生活科の授業づくりの前提になる学校現場の実践活動を解説し、発展した展開を考える。 （必要な準備）事前に配布した資料をまとめてくる。筆記具、ファイル
第8回	生活科の授業づくり（２）生活科を実践・指導する上で必要な知識とスキル	（内　　容）テキストAのコラム（第Ⅲ章）から指導上必要な知識とスキルを解説する。 （必要な準備）事前に配布した資料をまとめてくる。筆記具、ファイル
第9回	生活科の授業づくり（３）生活科の評価と総合的な学習の時間へのつながり	（内　　容）生活科の評価はどうあるべきかを考えて発表するとともに、総合的学習との異同を解説する。 （必要な準備）事前に配布した資料をまとめてくる。筆記具、ファイル
第10回	生活科の模擬授業（１）生活科の授業と構想1グループ発表	（内　　容）グループごとに構想してきた単元・授業案を発表し、意見交換する。 （必要な準備）発表グループは学習指導案と発表のためのデジタル データ。筆記具、ファイル
第11回	生活科の模擬授業（２）生活科の授業と構想2グループ発表	（内　　容）グループごとに構想してきた単元・授業案を発表し、意見交換する。 （必要な準備）発表グループは学習指導案と発表のためのデジタルデータ、筆記具、ファイル
第12回	生活科の模擬授業（３）生活科の授業と構想3グループ発表	（内　　容）グループごとに構想してきた単元・授業案を発表し、意見交換する。 （必要な準備）発表グループは学習指導案と発表のためのデジタル データ。筆記具、ファイル
第13回	生活科の模擬授業（４）生活科の授業と構想4グループ発表	（内　　容）グループごとに構想してきた単元・授業案を発表し、意見交換する。 （必要な準備）発表グループは学習指導案と発表のためのデジタルデータ。筆記具、ファイル
第14回	模擬授業の反省と生活科の教材開発ーブレインストーミング	（内　　容）決められたグループごとにブレインストーミングを行う。 （必要な準備）個人で生活科の教材をイメージして、発表できるようにしてくる。筆記具、ファイル
第15回	本授業のまとめー生活科・総合的学習の授業を振り返る	（内　　容）生活科の講義全体のまとめをする。生活科授業づくりと模擬授業をお経験して、良い生活科授業がイメージできたかを討論する （必要な準備）生活科講義の内容のまとめをレポートにまとめてくる。

授業名	**初等科教育法（音楽）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Music in Elementary School	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山中　信子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	1)小学校における音楽教育の意義を踏まえ、音楽指導の内容等に関する知識および技術について習得する。 2)音楽科教育の諸活動（表現・鑑賞）について学習指導案を作成し、模擬授業を行う。				
学習成果到達目標	1)小学校における音楽科教育の学習内容や指導方法についての基本的な事項を理解することができる。 2)学習指導案を作成し、模擬授業を実施することで、音楽科授業の構成の仕方について理解することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 ■実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	『最新　初等科音楽教育法[改訂版]』（初等科音楽教育研究会編　音楽之友社）、『小学校学習指導要領解説　音楽編』（文部科学省）				
参考書	使用しない。				
留意事項	学ぶべき内容が多岐にわたるので、全時間出席することが望ましい。ソプラノリコーダーを準備しておくこと。				
オフィスアワー	研究室に日時を貼するので、確認してください。				

授　業　名	**初等科教育法（音楽）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の進め方の諸注意事項 （必要な準備）シラバスを読んでおく(5分)
第2回	小学校音楽科学習指導要領の概要	（内　　容）小学校音楽科学習指導要領の概要と、平成20年度以降の改定の要点を把握する。 （必要な準備）テキストを読んでおく(10分)
第3回	小学校音楽科学習指導要領の解説	（内　　容）改定のポイント「共通事項」「歌唱共通教材」に重点を置いて学習指導要領を理解する。 （必要な準備）「共通事項」「歌唱共通教材」の事前学習(15分)
第4回	歌唱教材を扱った活動	（内　　容）歌唱教材を扱った活動について、実践例を学ぶ （必要な準備）歌唱共通教材の事前学習(歌唱)(30分)
第5回	歌唱教材の指導実践（伴奏法）	（内　　容）歌唱教材を扱う際の伴奏法を実践する （必要な準備）歌唱教材のピアノ伴奏練習(30分)
第6回	歌唱教材の指導実践（歌唱法）	（内　　容）歌唱教材を扱う際の歌唱指導ポイントを学ぶ （必要な準備）歌唱共通教材の歌唱練習(30分)
第7回	グループによる器楽活動（リコーダー）	（内　　容）リコーダーの演奏実践と指導法 （必要な準備）リコーダー復習(30分)
第8回	グループによる器楽活動（鍵盤ハーモニカ）	（内　　容）鍵盤ハーモニカの演奏実践と指導法 （必要な準備）鍵盤ハーモニカ練習(15分)
第9回	音楽づくり	（内　　容）音楽づくり指導のポイントを学ぶ （必要な準備）学習指導要領解説「音楽づくり」を読んでおくこと(10分)
第10回	鑑賞指導	（内　　容）鑑賞指導教材を例示し、その指導のポイントを学ぶ。 （必要な準備）学習指導要領解説「鑑賞」を読んでおくこと(10分)
第11回	学習指導案の作成法	（内　　容）他教科との表記の相違点等を明確にし、指導案の書き方を学ぶ。 （必要な準備）指導案の素案の作成(1時間)
第12回	学習指導案発表と模擬授業（歌唱）	（内　　容）受講生各自が作成した音楽科の学習指導案の発表と討議 （必要な準備）発表準備（2時間）
第13回	学習指導案発表と模擬授業（器楽）	（内　　容）受講生各自が作成した音楽科の学習指導案の発表と討議 （必要な準備）発表準備[2時間）
第14回	学習指導案発表と模擬授業（音楽づくり・鑑賞）	（内　　容）受講生各自が作成した音楽科の学習指導案の発表と討議 （必要な準備）発表準備（2時間）
第15回	まとめ	（内　　容）発表を終えた振り返りと授業全体のまとめ （必要な準備）発表の振り返り(30分)

授業名	**初等科教育法（図画工作）**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Arts and Crafts in Elementary School	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山部　泰司**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	小学校図画工作科の指導にあたって必要となる基礎的な知識を修得するとともに、授業づくりの実践的技能を身につけるための科目である。講義と実際の創作体験を組み合わせた授業を通して、子どもの発達と造形活動の意味を理解し、学習指導要領で示されている図画工作科の目標や内容を理解したうえで、学習指導計画案の作成方法を学ぶ。また、児童が創作活動を通して表現することの喜びを感じることができるように、材料、道具などの環境構成についての知識や教科指導の工夫や動機づけについての力を養う。
学習成果到達目標	1）教師として必要な図画工作の知識と表現力、また、それを実際に指導できるコミュニケーション能力、指導計画を作成できる力などを身につけ、説明できるようにする。 2）小学校教育の中での図画工作科の意義についての考え方をプレゼンテーションできる力を養う。
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■（技術・技法　　）　□（　　）
テキスト	『小学校 図画工作科教育法』山口 喜雄著（建帛社）平成３０年３月発行
参考書	使用しない。
留意事項	教職を強く希望する学生の履修を望む。理論と実践力をむすびつけること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する

授　業　名	**初等科教育法（図画工作）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	図画工作教育の目的と課題	（内　　容）つくる喜びと感性について （必要な準備）テキスト該当箇所「図画工作科のベースと初授業」に目を通しておく（30分程度）
第2回	子どもの発達と造形活動	（内　　容）子どもの発達と図画工作で育てる力 （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第3回	学習指導要領における内容	（内　　容）表現および鑑賞の活動ほか （必要な準備）テキスト「学習指導要領の発展と図画工作」に目を通しておく（30分程度）
第4回	教育評価の視点	（内　　容）子どもの作品をどう評価するか （必要な準備）テキスト「共通事項をふまえた学習指導」に目を通しておく（30分程度）
第5回	教材研究・場所と関わる造形遊び	（内　　容）造形遊びとコミュニケーション （必要な準備）テキスト「子どもの造形と造形遊びの指導」に目を通しておく（30分程度）
第6回	教材研究・人と関わる造形遊び	（内　　容）造形遊びによるコミュニケーション （必要な準備）感性を豊かにしておく（30分程度）
第7回	教材研究・絵に表す活動　動きのおもしろさ	（内　　容）絵のおもしろさを楽しむ表現 （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第8回	教材研究・立体に表す活動	（内　　容）立体のおもしろさを楽しむ表現 （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第9回	教材研究・伝統美術文化と図画工作	（内　　容）身近な材料で動きのある工作を工夫する （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第10回	教材研究・鑑賞活動	（内　　容）制作した作品から見ること、感じること、調べることをつなぐ活動 （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第11回	指導計画について 作成の留意点	（内　　容）図画工作科における授業の特色と組み立てのプロセスについて学ぶ （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）
第12回	指導計画について　全体計画	（内　　容）制作した教材をもとに学習指導案計画作成(1) （必要な準備）テキスト「国内外の美術教育研究の動き」に目を通しておく（30分程度）
第13回	指導計画について　本時の細案	（内　　容）制作した教材をもとに学習指導計画案作成(2) （必要な準備）テキスト該当箇所に目を通しておく（30分程度）に留意し指導計画案について考えておく（30分程度）
第14回	指導計画について　学習指導案検討会	（内　　容）各自の学習指導計画案を持ち寄りグループ討議 （必要な準備）学習指導案を説明できるようにしておく（30分程度）
第15回	まとめと考察・プレゼンテーション	（内　　容）図画工作科の意義について5分程度でプレゼンテーションする （必要な準備）各自、授業を振り返っておくこと（30分程度）

授業名	**初等科教育法（家庭）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Home Economics in Elementary School	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**守野　美佐子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	小学校家庭科の各領域について基本的な内容を概説する。「子どもたちが家庭生活をみつめ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、創造していける基礎能力をつけていく」ために、小学校家庭科の指導や教材研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。生活課題を把握し、それに即した指導内容と指導方法を習得する。
学習成果到達目標	1）小学校家庭科の教科としての特徴と独自性を理解する。 2）小学校家庭科の目標、内容を把握して、教科指導ができる。 3）小学校家庭科で教える技能を習得し、それらを教えることができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	「新しい家庭5・6」東京書籍
参考書	「小学校学習指導要領」文部科学省、「小学校　新学習指導要領の展開」長澤由喜子編著　明治図書（2017）
留意事項	授業で配布するプリント資料もしっかり読むこと。
オフィスアワー	授業終了後に　オフィスアワーを設けます。

授　業　名	**初等科教育法（家庭）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	小学校家庭科の新学習指導要領	（内　　容）新学習指導要領の改訂のキーポイントを理解する 家庭科の目標と評価、内容構成について復習する （必要な準備）学習指導要領を読んでくる 家庭科で育てたい力について考えておくこと
第2回	家庭科の指導計画と授業の方法	（内　　容）主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業時数や題材構成を考慮して指導計画を立てる視点を学ぶ 多様な授業形態とその特徴について学ぶ （必要な準備）小学校の家庭科の教科書に目を通しておくこと
第3回	指導案の書き方と授業の工夫	（内　　容）ICT活用とプログラミング教育、実践的・体験的授業の充実、個に応じた指導、家庭や地域との連携、実習指導における配慮点などの視点を学ぶ （必要な準備）指導案の書き方を復習しておくこと
第4回	家庭科の内容　A.家族・家庭生活	（内　　容）A.家族・家庭生活　の内容についてと、家庭生活と家族の今日的課題について学ぶ 1時間の授業を計画する（グループ活動） （必要な準備）この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる
第5回	家庭科の内容　B.衣食住の生活　1.食生活	（内　　容）B.衣食住の生活　1.食生活　の内容についてと、食生活の今日的課題について学ぶ 調理実習の指導について学ぶ　調理実習の教材を考える （必要な準備）この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 調理実習の意義と調理実習の内容を考えてくる
第6回	家庭科の内容　B.衣食住の生活　2.衣生活・住生活	（内　　容）B.衣食住の生活　2.衣生活・住生活　の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学ぶ 布を用いた製作教材を考える （必要な準備）この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 布を用いた製作実習の意義と製作実習の内容を考えてくる
第7回	布を用いた製作	（内　　容）手縫いでできる作品作り 実技指導を含む授業について学ぶ （必要な準備）作品作りに必要な布、道具等を忘れず持参する
第8回	家庭科の内容　C.消費生活・環境	（内　　容）C.消費生活・環境　の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学ぶ 視聴覚教材を活用した授業の計画をする （必要な準備）この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 実生活で実践できることを考えてくる
第9回	模擬授業　A.家族・家庭生活	（内　　容）４回目の講義で計画した指導案を元に模擬授業をする（２グループ） 発表者以外は、教師の目で授業を評価する （必要な準備）模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしてくること
第10回	家庭科の新授業プラン　B.衣食住の生活	（内　　容）新授業プランの例から学び、自身の授業のアイデアを話し合う ５回目の講義で各自計画した調理実習の教材を展示し、意見交換する （必要な準備）この内容で自分が授業をするイメージをし、自身のアイデアが話せるようにしてくる
第11回	模擬授業　C.消費生活・環境	（内　　容）８回目の講義で計画した、視聴覚教材を活用した授業を発表する。（２～３名） 発表者以外は、教師の目で授業を評価する （必要な準備）模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしてくること
第12回	単元の導入にあたる授業の計画	（内　　容）学習の単元の導入（単元の1時間目）の授業の学習指導案を書く 学習の動機付けができるよう工夫する （必要な準備）指導案を書く単元を決めてくること 児童の学びたい気持ちを引き出せるような授業を考えてくる
第13回	児童が主体的に学べる授業の計画	（内　　容）アクティブラーニングの学習方法や、ICT活用、プログラミング教育、実践的・体験的授業などを効果的に取り入れた授業の学習指導案を書く （必要な準備）児童が主体的に学べる1時間の授業をイメージしてくる 参考になる実践例や必要な情報を調べておくとよい
第14回	単元の導入にあたる授業の発表	（内　　容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （必要な準備）発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりでくること
第15回	児童が主体的に学べる授業の発表	（内　　容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （必要な準備）発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりでくること

授業名	**初等科教育法（体育）**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Method of Physical Education in Elementary School	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山口　孝治**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	小学校体育教育の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健等）を理解することで教師として自己成長するための方法を探究する。学習指導要領作成の留意点や体育科評価の視点について学び、指導のポイントを習得する。授業は講義形式で行う。
学習成果到達目標	1）体育科の目標・内容を理解することができる。 2）体育科の学習指導案を作成することができる。 3）模擬授業を通して体育授業を行う上での留意事項を理解することができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	『新しい教職課程講座　教科教育編　体育科教育』（ミネルヴァ書房）
参考書	使用しない。
留意事項	運動の得意・不得意は評価に関係しません。積極的な参加を期待します。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。

授　業　名	**初等科教育法（体育）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	体育科教育の概念と歴史的変遷	（内　　容）体育科教育の意義と歴史的変遷を理解する。 （必要な準備）
第2回	体育の目標と内容	（内　　容）体育科の目標と領域内容を理解する。 （必要な準備）テキスト「体育科の目標」「内容」を読んでおく。
第3回	学習指導の実際Ⅰ体つくり運動，器械運動，　陸上運動の学習指導	（内　　容）体つくり運動，器械運動，陸上運動の内容や指導法の理解。 （必要な準備）テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第4回	学習指導の実際Ⅱ水泳，ボール運動の学習指導	（内　　容）水泳，ボール運動の内容や指導法を理解する。 （必要な準備）テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第5回	学習指導の実際Ⅲ表現運動，保健の学習指導	（内　　容）表現運動，保健領域の内容や指導法を理解する。 （必要な準備）テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第6回	学習資料，教育機器の活用	（内　　容）ＩＣＴを活用した授業展開を解説する。 （必要な準備）デジタル機器を活用した授業展開を考えておく。
第7回	実技指導の実際Ⅰ低学年の運動指導	（内　　容）低学年の実技指導の留意点について理解する。 （必要な準備）低学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第8回	実技指導の実際Ⅱ中学年の運動指導	（内　　容）中学年の実技指導の留意点について理解する。 （必要な準備）中学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第9回	実技指導の実際Ⅲ高学年の運動指導	（内　　容）高学年の実技指導の留意点について理解する。 （必要な準備）高学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第10回	体育科の年間指導計画	（内　　容）体育科における年間計画の作成の仕方について知る。 （必要な準備）テキスト「年間計画の作成」を読んでおく。
第11回	学習指導案の作成Ⅰ単元目標，指導計画	（内　　容）学習指導案の作成の仕方について理解する。 （必要な準備）事前に配布した資料を読んでおく。
第12回	学習指導案の作成Ⅱ本時の計画	（内　　容）学習指導案の作成（本時案）の仕方について知る。 （必要な準備）本時の展開部分を完成させておく。
第13回	体育の授業研究Ⅰ模擬授業の実際	（内　　容）模擬授業を通して，指導技術について理解する。 （必要な準備）授業のイメージ作りをしておく。
第14回	体育の授業研究Ⅱ模擬授業の実際	（内　　容）模擬授業を通して，特に評価のあり方を理解する。 （必要な準備）テキスト「評価の観点」を読んでおく。
第15回	優れた体育授業の創造をめざして（まとめ）	（内　　容）これまでの学習の総復習をする。 （必要な準備）これまでの学習内容を確認しておく。

授業名	**教職実践演習(幼・小)**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Practice(Kindergarten・Elementary School)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**松浦　真理・林　静香・加藤　倫子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を多角的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとすることを目的としている。現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。				
学習成果到達目標	1）教師としての使命感、責任感を身につける。 2）教師として必要な社会性、対人関係能力を身につける。 3）新任教師として必要な幼児・児童理解力や学級経営力を身につける。 4）新任教師として必要な教科・保育に必要な指導力を身につける。 5）教師として必要な表現力を身につける。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 50 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　■実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	適宜必要な資料を配布する				
参考書	適宜紹介する。				
留意事項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。				
オフィスアワー	随時。その他、研究室に日時を掲示する。非常勤教員については授業の前後やその指示に従うこと。				

授　業　名	**教職実践演習(幼・小)**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）演習の意義とその進め方を理解する。 （必要な準備）履修カルテの整理。（30分）
第2回	自己のこれからの研修課題	（内　　容）履修カルテや教育実習から、各自の研修課題を策定する。 （必要な準備）自己の課題をまとめてくる。（30分）
第3回	教師の役割の再確認	（内　　容）教師の使命感・責任感・情熱等について社会の現状や教育実習経験をふまえながらグループ討議し発表する。 （必要な準備）課題についての自己の経験をまとめてくる。（30分）
第4回	子ども理解と場面指導①	（内　　容）「支援を要する子ども」「課題のある子ども」への指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。 （必要な準備）課題について効果的な指導法を調べてくる。（30分）
第5回	子ども理解と場面指導②	（内　　容）学校での事故や災害などの場面における指導理解し、実際に訓練してみる。 （必要な準備）課題について効果的な指導法を調べてくる。（30分）
第6回	生徒指導と学級経営①	（内　　容）子ども同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 （必要な準備）学級のルールや教室経営について調べる。（30分）
第7回	生徒指導と学級経営②	（内　　容）校長経験者など講話をもとにこれからの学校経営の在り方について考える。 （必要な準備）実習時を振り返り、各自が校長になった場合の学校経営について考える。（30分）
第8回	教科・保育内容の指導	（内　　容）現場見学により主体的な子どもの学びについて学び、授業法について振り返る。 （必要な準備）教育実習の授業省察をまとめておく。（30分）
第9回	模擬授業①	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。① （必要な準備）教材研究　学習指導案作成。（1時間）
第10回	模擬授業②	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。② （必要な準備）教材研究　学習指導案作成。（1時間）
第11回	模擬授業③	（内　　容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。③ （必要な準備）教材研究　学習指導案作成。（1時間）
第12回	学校・地域・保護者の連携①	（内　　容）「教師と保護者の関係づくり」についてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （必要な準備）家庭との連携の必要性について考えてくる。（30分）
第13回	学校・地域・保護者の連携②	（内　　容）「教師と地域の関係づくり」についてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （必要な準備）地域との連携の必要性について考えてくる。（30分）
第14回	これからの社会と学校	（内　　容）現場経験者の講義をもとに社会の変化と学校の在り方、子どもの育ちなどの関連をし整理する。 （必要な準備）これまでの学びを踏まえ、各自が社会と学校、子どもの関連について考えておく。（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）演習のまとめをする。 （必要な準備）履修カルテのまとめを記入。（1時間）

授業名	**相談援助u**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Consultation Support	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**名賀　亨**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	相談援助の理論や意義を理解するとともに、相談援助の方法（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）に関して、発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法について保育と関連させながらその内容を学習する。
学習成果到達目標	1）相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について説明することができるようになる。 2）グループワークにおける相互作用を理解し、保育の現場で実践できるようになる。 3）学んだ技術を現場で総合的に応用実践することができるようになる。
評価方法	定期試験（ 70 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 30 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	「相談援助」　編著：大嶋恭二・金子恵美　　出版社：建帛社
参考書	「社会福祉援助技術論」　編：基礎からの社会福祉編集委員会　出版社：ミネルヴァ書房
留意事項	保育士も実践現場において相談援助の諸技術を活用し支援することが求められている。この授業では、相談援助の価値や原則、過程をワークショップなども交えて学ぶため、援助者としての保育士を意識して積極的にかつ主体的に授業に参加すること。
オフィスアワー	水曜日　昼休み

授　業　名	**相談援助u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業の内容と進め方、評価方法などを説明するとともに、15回の授業計画と概要を説明する。 （必要な準備）シラバスを読み相談援助を自分なりに整理し、15回の学びをイメージしておく。（30分）
第2回	相談援助の基本的な考え方	（内　　容）相談援助の必要性や専門性から相談援助を学ぶ意義、相談援助の定義と内容を学ぶ （必要な準備）保育現場での相談援助の必要性を整理しておく（30分）
第3回	相談援助の理論、意義、機能	（内　　容）保育業務と相談援助を関連させながら、相談援助の意義や機能について学ぶ。 （必要な準備）児童家庭福祉実践に特徴的な相談援助の視点を整理しておく。（30分）
第4回	相談援助とソーシャルワーク	（内　　容）ソーシャルワークとしての相談援助について、その意味や原理・原則について学ぶ （必要な準備）相談とは何か、援助とは何かについて整理しておく。（30分）
第5回	保育とソーシャルワーク	（内　　容）保育を通じたソーシャルワークの在り方や基本原理について学ぶ。 （必要な準備）保育実践に重要な子どもの最善の利益に関して、子どもの権利条約も含めて整理しておく。（30分）
第6回	相談援助の方法と技術　1　相談援助の対象	（内　　容）相談援助の対象理解の視点について、また、様々な場面での対象について学ぶ。 （必要な準備）個人・家族・集団といった対象について整理しておく。（30分）
第7回	相談援助の方法と技術　2　相談援助の過程	（内　　容）相談援助におけるプロセスの中で、受理、事前評価、計画といった具体的な過程についてその全体像を学ぶ。 （必要な準備）相談から始まる相談援助の流れを整理しておく。（30分）
第8回	相談援助の方法と技術　3　相談援助の技術とアプローチ	（内　　容）相談援助技術の枠組みについて、原理・原則を含めてその全体像を学ぶ。 （必要な準備）直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について整理しておく。（30分）
第9回	相談援助の方法と技術　4　個別援助技術	（内　　容）直接援助技術の一つとしてのケースワークについて、その内容、方法、原則について学ぶ。 （必要な準備）バイスティックの7原則について整理しておく。（30分）
第10回	相談援助の方法と技術　5　集団援助技術　1	（内　　容）直接援助技術の一つとしてのグループワークについて、様々な定義を理解しその内容について学ぶ。 （必要な準備）グループワークの考え方を整理しておく。（30分）
第11回	相談援助の方法と技術　6　集団援助技術　2	（内　　容）グループワークの実践方法、支援者としてのかかわり方、ファシリテーションの在り方などについて学ぶ。 （必要な準備）グループワークの原則、支援者と対象者との関係性について整理してお行く。（30分）
第12回	相談援助の方法と技術　7　地域援助技術	（内　　容）間接援助技術の一つの方法としての、コミュニティ・ワークについてその基本的な考え方と実際について学ぶ。 （必要な準備）コミュニティ・ワークについて整理しておく。(30分)
第13回	相談援助の方法と技術　8　その他の援助技術	（内　　容）その他の間接援助技術について、それらの意味と実際の支援について学ぶ。 （必要な準備）相談援助のアプローチを間接援助技術の視点で整理して、各種調査などの必要性について整理しておく。（30分）
第14回	相談援助の方法と技術　9　基本資料の作成	（内　　容）相談援助の基本となる資料の内容やその作成方法などについて学ぶ。 （必要な準備）自分これまで生きてきた「ライフヒストリー」を整理しておく。（30分）
第15回	まとめ　授業全体の振り返り	（内　　容）保育を軸にした相談援助に関する具体的な展開について、これまでの授業を振り返るとともに、これからの保育実践における相談援助の在り方について学ぶ。 （必要な準備）相談援助に必要な社会資源の活用や調整あるいは開発について整理しておく。（30分）

授業名	**小児保健実習ｕａ・ｕｂ**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**中村　洋子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	子どもの健康が守られ、保育をより豊かなものにするため、保育者は子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では小児の発育発達状態を理解するとともに、小児の病気の予防、健康教育、疾病の早期発見、救急処置、看護、安全な保育環境についての知識と技術を習得することを目標とする。 児童福祉施設等での保健活動について理解し、小児の成長・発達をサポートするうえでの基本的な知識と技能を習得する。				
学習成果到達目標	1）子どもの健康管理を適切にする乳幼児期の発育を理解する。 2）個々に応じた養護・看護ができる。 3）感染予防、事故の予防等の方法を理解し、実践できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 ■実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	「子どもの保健・実習」（同文書院）				
参考書	「赤ちゃんと子どもの健康相談」（婦人之友社）「保育保健の基礎知識」（日本小児医事出版社）				
留意事項	講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。				
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室に在室しているときは応じます。				

授　業　名	**小児保健実習ｕａ・ｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・授業の目的等	（内　　容）演習の目的と授業の進め方について 赤ちゃんの抱き方 （必要な準備）
第2回	身体測定の実際とその評価方法	（内　　容）身長・体重・頭囲等の測定、および評価法 （必要な準備）母子手帳持参のこと（各自のを見てくること20分）
第3回	バイタルサインの測定方法と健康状態の観察法 （体温・呼吸数）	（内　　容）体温・呼吸の測定法、一般状態の観察法 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第4回	バイタルサインの測定方法と健康状態の観察法 （脈拍数・血圧）	（内　　容）脈拍数・血圧の測定方法 （必要な準備）配布した資料を読んでおくこと（30分）
第5回	乳幼児健診（視力・聴力の測定方法）	（内　　容）乳幼児健診と視覚・聴覚の発達と測定方法 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第6回	身体の清潔と沐浴	（内　　容）身体清潔法、抱き方、着替え・沐浴の実際 （必要な準備）エプロン、上靴持参のこと 該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第7回	母乳の与え方と調乳・咀嚼機能の発達	（内　　容）母乳の与え方と調乳・哺乳瓶の消毒法。 子どもの咀嚼機能の発達と離乳食の与え方 （必要な準備）エプロン、上靴持参のこと 該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第8回	歯の健康と虫歯予防	（内　　容）歯の発育と歯磨き・うがいの指導方法（ブラッシング指導） （必要な準備）コップ、歯ブラシ・手鏡持参のこと 該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第9回	生活習慣の自立・生活リズムの確立・排泄の世話	（内　　容）脳の仕組みと生活リズムの作り方と排泄の自立について （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第10回	薬の与え方・手の洗い方・消毒法	（内　　容）薬の生理と取扱、正しい手洗いの方法,消毒の基本 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第11回	異常症状の把握の仕方とその手当法	（内　　容）発熱・ひきつけ・腹痛等異常症状の早期発見と手当 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第12回	感染症発生時の対処・予防	（内　　容）感染症発生時の対処や予防、経口補水療法・吐物の処理等 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第13回	事故予防と応急処置	（内　　容）子供の事故と応急処置（傷・怪我、骨折、打撲などの手当ての手当て法、やけど誤飲の対処） （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第14回	心肺蘇生法等救急法	（内　　容）AEDの使い方、誤飲の時の対処法等 （必要な準備）該当する教科書の部分を読んでおく事（30分）
第15回	保育環境と母子保健活動	（内　　容）母子保健活動と保育環境・保育士としての職場環境 （必要な準備）全体的な復習をする（40分）

授業名	**養護内容u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Social Corporate Parenting	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**山川　宏和**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	保育者としての実践力を育成するために、以下の内容で授業を進める。 1．施設や里親家庭での生活について　2．被虐待児童への対応について　3．コミュニケーション技法の習得について
学習成果到達目標	1）児童福祉施設での生活を理解することができる。 2）被虐待児童の行動特性を理解し、適切な援助とは何かが説明できる。 3）コミュニケーションの技法を理解し、少人数のグループで実践することができる。
評価方法	定期試験（ 70 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 30 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	安藤和彦・石田慎二・山川宏和　編著　「社会的養護内容演習」［建帛社］
参考書	随時指示する。
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を。

授　業　名	**養護内容u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	子どもの権利擁護と児童福祉施設	（内　　容）福祉施設と保育士の役割について （必要な準備）養護原理の学びを振り返る
第2回	入所児童の状況	（内　　容）入所施設の取り組みについて （必要な準備）入所理由を学ぶ
第3回	被虐待ケースへの関わり	（内　　容）被虐待児童の特性について （必要な準備）アタッチメントについて振り返る
第4回	家族との関わり	（内　　容）喪失体験をもつ子どもへの関わりについて （必要な準備）トラウマについて振り返る
第5回	里親との関わり　　アドミッションケア	（内　　容）里親制度の理解について （必要な準備）養育里親を復習する
第6回	里親との関わり　　インケア	（内　　容）里親と子どものかかわりについて （必要な準備）養子縁組を復習する
第7回	非行少年の自立　リービングケア	（内　　容）非行少年の心理、児童自立支援施設について （必要な準備）リービングケアを振り返る
第8回	非行少年の自立　アフターケア	（内　　容）自立援助ホームでの関わりについて （必要な準備）アフターケアを復習する
第9回	援助関係に必要なコミュニケーション　衣食住	（内　　容）基本的構成要素、マレービアンの法則 （必要な準備）言語コミュニケーションを振り返る
第10回	援助関係に必要なコミュニケーション　余暇活動	（内　　容）質問方法、明確化、要約 （必要な準備）質問用紙を作成する
第11回	障害児通所支援での養護実践	（内　　容）自閉症児との関わりについて（DVD視聴） （必要な準備）自閉症について復習する
第12回	施設のくらし　　アドミッションケア	（内　　容）施設入所の流れ、退行現象への理解 （必要な準備）試し行動について復習する
第13回	施設のくらし　　インケア	（内　　容）施設の規模、日課について （必要な準備）最低基準の内容を振り返る
第14回	対象者理解のための記録　　フェイスシート	（内　　容）記録の意味と目的について （必要な準備）一日を選び、行動を記録しておく
第15回	対象者理解のための記録　　自立支援計画	（内　　容）ケーススタディ、マッピング技法 （必要な準備）前回の記録を修正する

授業名	**保育実習指導Ⅰｕａ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Guidance on Child Care Training Ⅰ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子・山川　宏和・流石　智子・近本　佳子・芹澤　出・野田　隆生**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	保育実習を行うために必要な事項について学ぶ。児童福祉施設の理解、実習の意義、目的を中心に、実習の事前学習を行う。				
学習成果到達目標	1）保育実習を行うために必要な事項について理解する。 2）授業で学んだことが、実践できるようにする。 3）はじめての保育実習に出るにあたって、それぞれの施設の役割、保育士の果たすべき役割を理解して実習に臨む。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**保育実習指導Ｉｕａ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育実習とは	（内　　容）保育実習の目的を解説する （必要な準備）
第2回	保育実習について（保育実習全般について）	（内　　容）保育実習の全体像を解説する （必要な準備）先週の授業のまとめをレポートする（３０分）
第3回	保育実習について　（障害児施設について）	（内　　容）障害児施設における実習の特性を解説する （必要な準備）先週の授業のまとめをレポートする（６０分）
第4回	保育実習について　（養護系施設について）	（内　　容）養護系施設における実習の特性を解説する （必要な準備）先週の授業のまとめをレポートする（６０分）
第5回	実習ノートの書き方の講義	（内　　容）実習ノートの書き方を解説する （必要な準備）先週の授業のまとめをレポートする（６０分）
第6回	実習ノートの書き方の演習	（内　　容）先週の講義を受けて演習を行う （必要な準備）授業で出された課題を仕上げる（６０分）
第7回	実習についての質問の会	（内　　容）実習にあたっての質問を出す （必要な準備）諸手続を完了させる。実習ノートの課題の書き直しを行う（６０分）
第8回	施設実習を成功させるためのポイント	（内　　容）施設実習を成功させるためのポイントを解説する （必要な準備）質問の会で聞いたことをまとめて、次回の実習に行かせるようにする（３０分）
第9回	実習目標の立て方についての講義	（内　　容）実習目標の立て方について解説する （必要な準備）施設実習を成功させるために自分の目標を考える（３０分）
第10回	各自の実習目標を検討する	（内　　容）小グループで実習目標を検討する （必要な準備）実習目標をたててくる（６０分）
第11回	実習にあたっての諸留意事項	（内　　容）実習に対する心構え・諸手続を伝える （必要な準備）実習目標を立て直してくる。諸手続に必要なものを用意する（６０分）
第12回	春実習に向けての個人面談	（内　　容）個人面談を実施する （必要な準備）実習目標を仕上げる（３０分）
第13回	名札作製など実習準備	（内　　容）名札や自己紹介カードをつくる （必要な準備）名札や自己紹介カードをつくる準備をする（３０分）
第14回	課題に基づいた事前学習	（内　　容）自分の課題に基づいて事前学習する （必要な準備）自分の行く施設について調べる（３０分）
第15回	春実習直前指導	（内　　容）春実習の諸注意を確認する （必要な準備）実習の準備ができているか確認する（３０分）

授業名	**保育実習指導Ⅰｕｂ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Guidance on Child Care Training Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子・山川　宏和・近本　佳子・芹澤　出・野田　隆生**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	演習形式の授業を通して、保育実習を円滑にすすめていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化する。施設実習の事後指導としては、実習の評価をみながら、各自の課題を見つけ、新たな学習目標を明確化させていく。保育所実習の事前指導としては、講義で保育士の役割、保育実習の意義、目的、内容について伝えていく。また、設定保育の指導案の立て方の解説を行ったうえで、指導案の立案から実施、振り返りまでを体験する。こうした取り組みをとおして、保育所実習の目標を具体的にしていく。				
学習成果到達目標	1）保育実習を行うために必要な事項について理解する。 2）授業で学んだことが、実践できるようにする。 3）保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習Ⅰの単位が取得できることを条件とする。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**保育実習指導Ｉｕｂ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	施設実習の振り返りと今後の実習について	（内　　容）施設実習を振り返り、保育所実習の課題を考える （必要な準備）施設実習の振り返りに必要なものを用意する（３０分）
第2回	施設実習交流会	（内　　容）施設実習での体験を交流する （必要な準備）施設実習での体験をまとめておく（３０分）
第3回	施設実習事後面談	（内　　容）個人面談を実施する （必要な準備）施設実習を振り返る（３０分）
第4回	施設実習からの課題抽出	（内　　容）施設実習を経て自らの課題を抽出する （必要な準備）施設実習の学んだことをまとめる（３０分）
第5回	保育所についての事前学習	（内　　容）保育所について学習する （必要な準備）保育所での自分の課題を考えるための資料を集める（３０分）
第6回	保育士倫理綱領、実習目標の立て方	（内　　容）保育士倫理綱領と実習目標の立て方を学ぶ （必要な準備）保育士倫理綱領を読んでくる（３０分）
第7回	指導案の立て方・実習課題の再検討	（内　　容）指導案の立て方を学び実習目標を再検討する （必要な準備）実習目標を立ててくる（６０分）
第8回	指導案の立て方の実際①　乳児クラス	（内　　容）乳児クラスの指導案の展開を学ぶ （必要な準備）指導案についてイメージをつくってくる（３０分）
第9回	指導案の立て方の実際②　幼児クラス	（内　　容）幼児クラスの指導案の展開を学ぶ （必要な準備）指導案についてイメージをつくってくる 実習目標を立て直してくる（３０分）
第10回	保育所実習記録の配布・記録の書き方	（内　　容）実習記録の書き方を解説する （必要な準備）指導案を立案する（６０分）
第11回	指導案の実施①　製作活動	（内　　容）小グループで指導案を実施する （必要な準備）指導案が実施できるように準備する（６０分）
第12回	指導案の実施②　からだを使った遊び	（内　　容）小グループで指導案を実施する。 （必要な準備）指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する（６０分）
第13回	保育所実習にむけての面談	（内　　容）個人面談を実施する （必要な準備）指導案実施についてのコメントを書いてくる （３０分）
第14回	課題に基づいた事前学習	（内　　容）自分の課題に基づいて事前学習する （必要な準備）保育所実習の事前学習課題を実施する（３０分）
第15回	保育所実習直前指導	（内　　容）保育所実習の諸注意を確認する （必要な準備）提出書類に必要なものを用意する（３０分）

授業名	**総合演習ｕ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Senior Seminar	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山川　宏和**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	演習形式の授業によって、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得する。さらに、課題解決の過程と方法を学生自らが学習することをねらいとする。具体的には、保育実習によって得られた課題について、グループを形成し、資料やアンケートから分析・検討を行う。それに基づいて、ディスカッションやプレゼンテーションなどをとりいれ、保育実習の課題を整理する。最後に、保育実習や保育職について、カルタを作成して文章力を養い、全員で経験を分かち合う。				
学習成果到達目標	1）児童問題や保育の課題など、児童福祉全般の問題から興味ある内容を探索し、その解決のための方策を考える。 2）専門職として取り組むべき内容、保育士としての倫理が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 ■レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価の観点：□知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	各人の演習への積極的な参加を求める。				
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授　業　名	**総合演習ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	これまでの学修の振り返り　居住型	（内　　容）居住型福祉施設の役割を考える （必要な準備）実習等の体験を振り返る（30分）
第2回	これまでの学修の振り返り　保育所	（内　　容）保育所の機能を考える （必要な準備）これまでの学習を振り返る（30分）
第3回	自分の強みをいかす取り組み　ストレングス	（内　　容）ストレングス視点について学ぶ （必要な準備）自己の強みについてまとめておく（30分）
第4回	自分の強みをいかす取り組み　エンパワメント	（内　　容）エンパワメントについて学ぶ （必要な準備）保育士を志望した理由を考える（30分）
第5回	保育内容の研究（グループ演習）	（内　　容）保育の現状について意見を出し合う （必要な準備）これまでの学習を振り返る（30分）
第6回	保育方法の研究　　ディスカッション	（内　　容）出し合った意見を整理してポスターにまとめる （必要な準備）ポスター作成の案を考えておく（30分）
第7回	保育方法の研究　　ポスターセッション	（内　　容）ポスターをめぐって説明を聞き、質問する （必要な準備）説明する内容についてグループ内で話し合う（30分）
第8回	保育方法の研究のまとめ　　発表	（内　　容）保育方法についてまとめた意見を発表する （必要な準備）ポスターセッションを振り返る（30分）
第9回	小論文の作成①　効果的な小論文とは	（内　　容）小論文の書き方や意見の展開方法について （必要な準備）グループ演習を振り返る（30分）
第10回	自分の強みをいかす取り組み　PDCAサイクル	（内　　容）PDCAサイクルに従い自己課題を整理する （必要な準備）自己課題をまとめておく（30分）
第11回	小論文の作成②　小論文の執筆	（内　　容）みずから発表した内容を小論文にする （必要な準備）発表内容をふりかえる（30分）
第12回	保育カルタの作成①　歌を詠む	（内　　容）保育実習で得られた体験や知識を文章で表す （必要な準備）実習の体験をふりかえる（30分）
第13回	保育カルタの作成②　グループ演習	（内　　容）詠まれた歌について共有する （必要な準備）デザインを考えておく（30分）
第14回	保育かるたの作成③　カルタの作成	（内　　容）実際にカルタ作りを行う （必要な準備）作成した歌を整理する（30分）
第15回	まとめ	（内　　容）カルタ鑑賞とカルタ取りを行う （必要な準備）カルタ取りに適した服装（30分）

授業名	**ソーシャルワーク総論Ⅰ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Social Work Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武田　康晴**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	ソーシャルワークとは、狭義には相談援助を指し、講義には社会福祉援助全般を指します。社会福祉（援助）の資格には社会福祉士、保育士、介護福祉士などが含まれますが、この授業では、広い意味でのソーシャルワークの立場から、ソーシャルワークの基盤となる理論と方法、基本原則や歴史的展開、それを担う専門職について学びます。
学習成果到達目標	1）ソーシャルワークの概要、体系について理解する。 2）ソーシャルワークの基本原理、基本姿勢について理解する。 3）専門職としての価値、知識、技術について理解する。（福祉、保育の各領域）
評価方法	定期試験（ 80 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	必要に応じて紹介する。
留意事項	積極的な学習態度で授業に参加してほしい。
オフィスアワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00

授　業　名	**ソーシャルワーク総論Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス（導入）　社会福祉とソーシャルワーク	（内　　容）社会福祉の定義とソーシャルワークの実践活動について （必要な準備）シラバスに目を通しておく。
第2回	ソーシャルワークの価値基盤	（内　　容）ソーシャルワークの価値について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること
第3回	ソーシャルワークの価値基盤専門職倫理	（内　　容）専門職としての倫理について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第4回	ソーシャルワークの歴史的展開①　前史	（内　　容）ソーシャルワーク前史を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第5回	ソーシャルワークの歴史的展開②　発展史	（内　　容）ソーシャルワークの発展史について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第6回	ソーシャルワークの体系	（内　　容）専門援助技術の種類、概要、定義など体系を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第7回	ソーシャルワークの対象	（内　　容）ソーシャルワークの対象について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第8回	ソーシャルワークの担い手①　職種から	（内　　容）専門職と種類、範囲について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第9回	ソーシャルワークの担い手②　資格から	（内　　容）専門職特に社会福祉士、保育士について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第10回	ソーシャルワークの実践現場、機関	（内　　容）ソーシャルワークの諸機関の体系、種類について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第11回	ソーシャルワークの日本的展開①　導入～近代	（内　　容）歴史の中で代表的な実践モデルを学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第12回	ソーシャルワークの日本的展開②　近代～現代	（内　　容）現在も活用される実践モデルを学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第13回	ソーシャルワークの基本原理①国際ソーシャルワーカ連盟の定義	（内　　容）定義について、用語を含め内容を解説する。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第14回	ソーシャルワークの基本原理②自立と自立支援など	（内　　容）自己決定の尊重を含め利用者本位の原理を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第15回	ソーシャルワークの基本原理③ノーマライゼーションと社会的包摂など	（内　　容）理念形成の過程を含め現代における意義を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。

授業名	**ソーシャルワーク総論Ⅱ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Social WorkⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**武田　康晴**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	社会福祉の援助実践活動ソーシャルワークは、今日様々な実践現場において、非常に重要になってきている。その援助の方法としては、それぞれこの社会での構成単位である、個人（個別）、集団、地域等の支援をはじめとして非常に多様化してきている。この講義を通じて、ソーシャルワークの基盤となる方法とそれを担う専門職について学ぶ。
学習成果到達目標	1）社会福祉援助すなわちソーシャルワークの概要、体系、基本原理、理論構築の歴史的経緯などについて、その総体を理解している。 2）ソーシャルワークの現代的展開と実践の基礎を理解している。
評価方法	定期試験（ 80 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	授業の中で指示する。
参考書	必要に応じて紹介する。
留意事項	各講義のベースには「ソーシャルワークの視点」があるので、それを常に意識して授業に出席してほしい。
オフィスアワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00

授　業　名	**ソーシャルワーク総論Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　ソーシャルワークの視点（確認）	（内　　容）前期の振り返り。 （必要な準備）総論Ⅰを受講した人は内容を確認しておく。
第2回	ソーシャルワーク専門職の体系①専門職の全体像を把握	（内　　容）関連領域を含む専門職の体系を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第3回	ソーシャルワークに係る専門職の体系②社会福祉領域における専門職	（内　　容）専門職の役割と機能を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第4回	ソーシャルワークに係る専門職の体系③社会福祉関連領域における専門職	（内　　容）専門職の役割と機能を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第5回	専門職の倫理①　社会福祉士	（内　　容）社会福祉士会の倫理綱領等により学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第6回	専門職の倫理②　精神保健福祉士	（内　　容）介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第7回	専門職の倫理③　保育士、介護福祉士等	（内　　容）介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第8回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク①　理論的統合	（内　　容）総合的かつ包括的なソーシャルワークをめぐる動向。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第9回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク②　実践理論	（内　　容）包括的な実践理論を学ぶ （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第10回	ジェネラリストソーシャルワークの基礎	（内　　容）ジェネラリストソーシャルワークの基礎を学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第11回	ジェネラリストソーシャルワークの展開	（内　　容）ジェネラリストソーシャルワークの展開過程について学ぶ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第12回	事例研究①インテークからアセスメント	（内　　容）ソーシャルワークの視点から事例を読む。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第13回	事例研究②プランニングからインターベンション	（内　　容）ソーシャルワークの視点から事例を読む。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第14回	事例研究③モニタリングからエバリュエーション	（内　　容）ソーシャルワークの視点から事例を読む。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。
第15回	講義の総括	（内　　容）まとめ。 （必要な準備）事前配付資料を学習すること。

授業名	**保育実習指導Ⅱｕ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Guidance on Child Care TrainingⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**西川　由紀子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	保育実習Ⅱでは、保育所おいて二回目の保育実習を行う。そのために、保育実習Ⅰを振り返り、保育所の役割の理解、保育者の援助の方法の理解を深めた上で、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。				
学習成果到達目標	1）保育実習Ⅱを実施するために必要な事項について理解する。 2）授業で学んだことが、実践できるようにする。 3）保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習Ⅱの単位が取得できることを条件とする。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	保育実習指導Ⅱｕ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育実習Ⅰの振り返り	（内　　容）保育実習Ⅰを振り返り課題を明らかにする。 （必要な準備）
第2回	保育実習交流会	（内　　容）保育実習Ⅰでの体験を交流する。 （必要な準備）保育実習Ⅰでの体験を振り返っておく(30分)
第3回	保育実習事後面談	（内　　容）個人面談を実施する。 （必要な準備）保育実習Ⅰで学んだことを整理しておく(30分)
第4回	保育所実習からの課題抽出	（内　　容）保育所実習を経て自らの課題を抽出する （必要な準備）これまでの二回の実習を振り返っておく(30分)
第5回	発展的実習のための事前学習	（内　　容）抽出された課題を達成する方法を考える （必要な準備）2回目の保育実習での課題を考えるための情報を集める(30分)
第6回	保育所についての解説　保育制度	（内　　容）保育実習Ⅱの課題を理解する。 （必要な準備）保育所保育の制度について調べておく(30分)
第7回	２回生との交流	（内　　容）２回生と交流し実習での体験を伝える。 （必要な準備）保育実習Ⅰの学びを振り返る(30分)
第8回	保育所についての解説　保育内容	（内　　容）保育実習Ⅱの課題を理解する。 （必要な準備）保育所での実習について振り返る(30分)
第9回	保育実習Ⅰをふまえた実習目標の設定	（内　　容）作成してきた保育目標を相互に見直す。 （必要な準備）実習目標を作成してくる(60分)
第10回	保育実習Ⅱの留意点	（内　　容）実習にあたっての留意事項を解説する。 （必要な準備）実習目標を立て直してくる(30分)
第11回	公立・私立保育士の仕事の実際	（内　　容）公・私立の保育士の仕事の実際を現役の保育士から学ぶ （必要な準備）現役の保育士に聞きたいことをまとめておく(30分)
第12回	保育実習Ⅱに向けての個人面談	（内　　容）個人面談を行う。 （必要な準備）最後の保育実習で学びたいことを考えてくる(30分)
第13回	課題に基づいた事前学習	（内　　容）自分の課題に基づいて事前学習する （必要な準備）最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探しておく(30分)
第14回	保育士になるための講座	（内　　容）保育士になるために必要な学びを先輩から聞く。 （必要な準備）就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる(30分)
第15回	保育実習Ⅱ直前指導	（内　　容）保育実習Ⅱの諸注意事項を確認する。 （必要な準備）書類提出に必要なものをそろえておく(30分)

授業名	**保育実習指導Ⅲｕ**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Guidance on Child Care Training Ⅲ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**山川　宏和**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	保育実習Ⅲでは、児童館において保育実習を行う。そのために必要な事項として、保育実習Ⅰの振り返り、児童館の機能や対象者の理解、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。これまでの実習日誌の記述内容を自ら分析し、よりよい記録の作成を目指すほか、保育職になるために必要な資質についても、公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶなどして、さまざまな角度から考察する。
学習成果到達目標	1）保育実習Ⅲを実施するために必要な事項について理解する。 2）授業で学んだことが、実践できるようにする。 3）児童館の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。
評価方法	定期試験（ 60 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	使用しない。
参考書	使用しない。
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習Ⅲの単位が取得できることを条件とする。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。

授　業　名	**保育実習指導Ⅲｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育実習Ｉの振り返り	（内　　容）保育実習Ｉを振り返り課題を明らかにする （必要な準備）保育実習Ｉで使用したメモや制作物があれば持参する
第2回	保育実習交流会	（内　　容）保育実習Ｉでの体験を交流する （必要な準備）保育実習Ｉでの体験を振り返っておく
第3回	保育実習事後面談	（内　　容）個人面談を実施する （必要な準備）保育実習Ｉでの学びを振り返っておく
第4回	保育所実習からの課題抽出	（内　　容）保育所実習を経て自らの課題を抽出する （必要な準備）面談の内容をまとめる
第5回	発展的実習のための事前学習	（内　　容）抽出された課題を達成する方法を考える （必要な準備）保育実習Ｉの日誌を見直す
第6回	児童館についての解説	（内　　容）児童館の現状や機能を理解する （必要な準備）施設・保育所での実習について振り返る
第7回	２回生との交流	（内　　容）２回生と交流し実習での体験を伝える （必要な準備）保育実習Ｉの学びを振り返る。これまでの日誌を持参する
第8回	保育実習Ⅲの目標について説明	（内　　容）保育実習Ⅲの課題を理解する （必要な準備）児童館の機能について復習する
第9回	保育実習Ｉをふまえた実習目標の設定	（内　　容）作成してきた保育目標を相互に見直す （必要な準備）実習目標を作成してくる
第10回	公立・私立保育士の仕事の実際	（内　　容）公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ （必要な準備）関心のある項目をまとめておく
第11回	実習記録の書き方	（内　　容）実習施設にあわせた記録の書き方を学ぶ （必要な準備）これまでの実習記録を持参する
第12回	保育実習Ⅲに向けての個人面談	（内　　容）個人面談を行う （必要な準備）実習目標を持参する
第13回	課題に基づいた事前学習	（内　　容）自分の課題に基づいて事前学習する （必要な準備）個人面談の内容を振り返る
第14回	保育士になるための講座	（内　　容）保育士になるために必要な学びを知る （必要な準備）関心のある項目をまとめておく
第15回	保育実習Ⅲ直前指導	（内　　容）保育実習Ⅲの諸注意事項を確認する （必要な準備）実習に必要な事前準備を完了しておく

授業名	**ビジネス実務総論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Business Routine Concept	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**安本　貴子**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	ビジネスの概念、ビジネス環境の変化、ワークスタイルの変化について学習し、基本的なビジネス実務で必要な職務遂行にあたって求められる考え方・知識を身に付けていきます。社会人としてビジネスに必要なビジネス実務の基本知識を身につけ、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度を育成していきます。				
学習成果到達目標	1）ビジネス実務士の資格を取得し、ビジネス実務の基本を身につける。 2）組織の一員としての自分をイメージできる。 3）ビジネスに関する基本的な用語が理解できる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %） □筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『ビジネス実務総論　付加価値創造のための基礎実務』全国大学実務教育協会編　紀伊国屋書店				
参考書					
留意事項	企業で働くことを希望する学生が履修すること。教科書は常に用意し、予習・復習をする。 新聞の経済記事やニュースを見るようにすること。				
オフィスアワー	担当授業前後に実施する				

授　業　名	**ビジネス実務総論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画について。 （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく。
第2回	ビジネスの概念	（内　　容）営利企業と非営利企業の違い。ビジネスの6要素について。 （必要な準備）第1章を読んでおく(60分)
第3回	ビジネス環境をとらえる（1） 経済グローバル化、高度情報化	（内　　容）経済グローバル、高度情報化について。 （必要な準備）第2章を読んでおく(60分)
第4回	ビジネス環境をとらえる（2） 地球環境問題、少子高齢化	（内　　容）地球環境問題、少子高齢化について。 （必要な準備）第2章続きを読んでおく（60分）
第5回	ビジネス現場をとらえる（1） 日本的雇用システムの転換	（内　　容）日本的雇用システムの転換について。 （必要な準備）第3章を読んでおく(60分)
第6回	ビジネス現場をとらえる（2） ワークスタイルの変化	（内　　容）ワークスタイルの変化について。 （必要な準備）第3章続きを読んでおく(60分)
第7回	ビジネス実務を学ぶ	（内　　容）ビジネス実務学習のねらいについて。 （必要な準備）第4章を読んでおく(60分)
第8回	ビジネス実務の基本とは何か（1） 仕事の進め方	（内　　容）ビジネス実務の基本を学ぶ。 （必要な準備）第5章を読んでおく(60分)
第9回	ビジネス実務の基本とは何か（2） ビジネスとサービス・表現活動	（内　　容）サービス・表現活動について。 （必要な準備）第5章続きを読んでおく（60分）
第10回	ビジネス実務の基本とは何か（3） ビジネスと情報・組織活動	（内　　容）情報・組織活動について。 （必要な準備）第5章続きを読んでおく(60分)
第11回	ビジネス実務の活動をとらえる（1） オペレーション・マーケティング活動	（内　　容）オペレーション・マーケティング活動について。 （必要な準備）第6章を読んでおく(60分)
第12回	ビジネス実務の活動をとらえる（2） キャリア形成・コストパフォーマンス	（内　　容）キャリア形成・コストパフォーマンスについて。 （必要な準備）第6章続きを読んでおく(60分)
第13回	ビジネス実務を創造する（1） 選択と共生、自己管理・自己責任の時代	（内　　容）選択と共生、自己管理・自己責任の時代について。 （必要な準備）第7章を読んでおく(60分)
第14回	ビジネス実務を創造する（2） キャリアデザインを描く	（内　　容）自分のキャリアデザインを描く。 （必要な準備）第7章続きを読んでおく(60分)
第15回	ビジネス実務の事例研究	（内　　容）事例研究。 （必要な準備）第8章を読んでおく、今までの復習をしておく(60分)

授業名	**応用ビジネス実務論**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Applied Business Routine Concept	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	変化の厳しい現代社会の中にあって、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブリスニング、ビジネスプレゼンテーション、ＫＴ法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。				
学習成果到達目標	1）創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2）対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3）論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『2017年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター				
参考書	『ビジネス実務総論　付加価値創造のための基礎実務』全国大学実務教育協会編、紀伊國屋書店				
留意事項					
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**応用ビジネス実務論**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画・内容・注意事項等。 （必要な準備）シラバスを一読しておく。
第2回	ビジネスコミュニケーション：会話の基本	（内　　容）ビジネス会話の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキストの該当部分を読んでおく(60分)。
第3回	ビジネスコミュニケーション：職場の人間関係	（内　　容）職場の人間関係の心得について学ぶ。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第4回	アクティブリスニング：傾聴の基本	（内　　容）傾聴の基本的態度、相手を理解するポイント等について学ぶ。 （必要な準備）聞く、聴く、訊くの言葉の違いを知る(60分)。
第5回	アクティブリスニング：傾聴の技法	（内　　容）傾聴の技法と手順、質問技術等について学ぶ。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第6回	信頼に変えるクレーム対応	（内　　容）クレーム発生と顧客の心理、対処法について学び、事例から対処法を考える。 （必要な準備）企業のクレーム記事を収集する(60分)。
第7回	効果的なビジネスプレゼンテーション：会議の流れ	（内　　容）会議の基本的な流れ、進め方等について学ぶ。 （必要な準備）テキストの該当部分を読んでおく(60分)。
第8回	効果的なビジネスプレゼンテーション：会議の事前準備	（内　　容）会議におけるプレゼンテーション手順、リハーサルの重要性について考える。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第9回	仕事のマネジメント	（内　　容）チームワークと人のネットワークについて学ぶ。 （必要な準備）チームと個人の活動の相違点をまとめておく(60分)。
第10回	ＫＴ法による意思決定・問題解決	（内　　容）ＫＴ法とは何か、総論的に学ぶ。ラショナル・プロセス（合理的思考手順）の活用例。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第11回	ＫＴ法による意思決定とリスク分析	（内　　容）決定プロセス、潜在的決定プロセスについて学ぶとともに、実践例を観ながら考える。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第12回	ＫＴ法による問題解決と状況分析	（内　　容）問題分析プロセス、状況分析プロセスについて学びながら、実践例を観ながら考える。 （必要な準備）前講の復習(60分)。
第13回	メンタルヘルスと健康	（内　　容）職場における健康管理、メンタルヘルスケアのしくみを学び、ストレスチェック度を測定してみる。 （必要な準備）自己のストレス度をチェックしておく(60分)。
第14回	ビジネス法律と知識	（内　　容）ビジネス活動で必携となる情報倫理・守秘義務・コンプライアンスについて学ぶ。 （必要な準備）企業の謝罪記事を収集しておく(60分)。
第15回	ビジネス活動とキャリアデザイン	（内　　容）自己啓発とは、自己啓発の進め方について考える。 （必要な準備）レポートに向けた質問事項(60分)。

授業名	**ビジネス実務演習**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Business Manner Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**藤田　恵美子**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	IT化によるビジネス環境の変化とともに仕事の仕方も変化してきている。それに対応するビジネスワーカーの基礎能力を身につける。 ビジネスマナーをベースに電話・来客応対、メール・文書作成、情報分析、ビジネスワーカーとしての基礎知識などを問題と演習を通して身につけ、今後のキャリア形成に役立てる。
学習成果到達目標	1) ビジネスで必要なマナーやルールについて理解し、効率のよい仕事の進め方が実践できる。 2) コミュニケーションに関する知識を身につけ、状況に応じて適切な行動ができる。 3) 「知る」だけでなく「できる」ようになることを目標とする。
評価方法	定期試験（ 60 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 40 %）：□筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 ■実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）
テキスト	2018年度版 要点と演習「ビジネス能力検定　3級」（実教出版）
参考書	2018年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
留意事項	* 企業で働くことを希望する学生が履修すること。 * 教科書と配布プリントは常に用意すること。 * 次に学ぶ章の教科書部分を予習として読んでおく、また学んだ章の教科書演習問題を課題とし、復習を徹底すること。 * 恥ずかしがらず演習は積極的参加すること。 * 受講時の言動はオフィスワーカーにふさわしいように心掛けること。
オフィスアワー	担当授業前後に実施する

授　業　名	ビジネス実務演習

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス 第1編 キャリアと仕事へのアプローチ	（内　　容）本講義の目標理解。自分のキャリアについて （必要な準備）教科書の準備。第1編 演習1の問題を解く
第2回	会社活動の基本	（内　　容）組織人としての意識を理解する （必要な準備）第1編 演習2の問題を解く
第3回	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	（内　　容）服装と身嗜み、基本的なマナーについて （必要な準備）第1編 演習3の問題を解く
第4回	指示・命令の受け方と連絡・相談	（内　　容）仕事の基本の指示と報告について （必要な準備）第1編演習4の問題を解く
第5回	話し方・聞き方のポイント	（内　　容）話し方の基本を身につける （必要な準備）第1編 演習5の問題を解く
第6回	ビジネスの場にふさわしい言葉	（内　　容）尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使い分ける （必要な準備）第1編 演習5の問題続きを解く
第7回	電話応対－受け方(取り次ぎ)	（内　　容）声だけのコミュニケーションの特殊性を知る （必要な準備）第1編 演習6の問題を解く
第8回	電話応対－受け方(不在)、かけ方	（内　　容）不在電話応対の注意点を知る （必要な準備）第1編 演習6の問題続きを解く
第9回	来客応対と訪問の基本マナー	（内　　容）来客応対と名刺の扱いを知る （必要な準備）第1編 演習7の問題を解く
第10回	会食と冠婚葬祭マナー	（内　　容）慶事・弔事の留意点を学ぶ （必要な準備）第1編 演習8の問題を解く
第11回	第2編 仕事の取り組み、仕事の進め方	（内　　容）効率の良い仕事の進め方を身につける （必要な準備）第2編 演習1の問題を解く
第12回	ビジネス文書の基本	（内　　容）ビジネス文書作成の基礎知識を身につける （必要な準備）第2編 演習2の問題を解く
第13回	社内文書・メールの種類と作成ポイント	（内　　容）社内文書の特色と役割を知る （必要な準備）第2編 演習2の問題続きを解く
第14回	社外文書・メールの種類と作成ポイント	（内　　容）社外文書の特色と役割を知る （必要な準備）第2編 演習2の問題続きを解く
第15回	統計データーの作り方、会社の数字の読み方	（内　　容）表とグラフの読み方、会社の仕組みを知る （必要な準備）第2編 演習3・5の問題を解く

授業名	**ビジネス実務実践演習**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Business Manner Practice Seminar	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**足塚　智志**	対象学生	現代家政1回生		

授業の概要	ＩＴ革命はビジネスの進め方を根底から変えつつある。それによりオフィスでの仕事の進め方も様変わりしてきている。 このようなビジネス社会で活躍するには、さまざまな実務能力や法的な知識を身につけることが必要である。「ビジネス実務演習」で学んだことをベースに、まず、仕事の管理や問題解決の方法について概説し、それらに関する演習を行う。 さらにＰＤＣＡサイクルの演習を行う。
学習成果到達目標	1）社会人として必要な「ビジネス」や「仕事」の基本的視点を体得することができる。 2）組織の課題やニーズから、問題発見・問題解決に向けて論理的思考ができる。 3）目的に応じて情報収集ができ、統計的手法により分析ができる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■（チームワーク力　）　□（　）
テキスト	『2018年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター
参考書	『ビジネス実務総論　付加価値創造のための基礎実務』全国大学実務教育協会編、紀伊國屋書店
留意事項	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する

授　業　名	ビジネス実務実践演習

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、仕事のマネジメントとは	（内　　容）授業計画・内容・注意事項等。 （必要な準備）シラバスを一読しておく。
第2回	計画・スケジュール管理：時間管理の基本	（内　　容）時間管理の基本、スケジュールの組立て方。 （必要な準備）テキストの該当部分を読んでおく。
第3回	計画・スケジュール管理：出張の計画	（内　　容）出張の計画と手配、準備。 （必要な準備）効率的な出張の条件を調べておく。
第4回	ドキュメントコミュニケーション：社内文書の応用編	（内　　容）ビジネス文書の基本、社内文書の作成。 （必要な準備）社内文書と社外文書の相違点を調べておく。
第5回	ドキュメントコミュニケーション：報告書の作成	（内　　容）社外文書の作成、表現方法の理解。 （必要な準備）前回の復習を行う。
第6回	統計・データの読み方、まとめ方	（内　　容）統計・データに関する基本的な知識を理解し、データのとらえ方を検討する。 （必要な準備）テキストの該当部分を読んでおく。
第7回	情報収集とメディアの活用	（内　　容）各メディアの特徴と信頼性について考える （必要な準備）生活の中で利用するメディアの種類を知る。
第8回	データ分析と将来の予測	（内　　容）グラフのデータから問題点を探る。 （必要な準備）グラフの種類や特徴を予習しておく。
第9回	ファイリング管理	（内　　容）ファイリング管理を通じて情報収集の整理の仕方を学ぶ。 （必要な準備）
第10回	課題の明確化	（内　　容）課題を探り、課題の明確化を行う。 （必要な準備）ＰＤＣＡサイクルのプロセスを理解しておく。
第11回	実施計画と方策の立案	（内　　容）企画書の書式に基づき、実施計画案の作成を行う。 （必要な準備）企画書の書式を理解しておく。
第12回	実施のふりかえりと今後の課題	（内　　容）実施した内容をＰＤＣＡサイクルの視点からふりかえる。そして今後の課題を検討する。 （必要な準備）これまでの成果物を用意しておく。
第13回	ビジネスの応用事例Ⅰ	（内　　容）グループに別れて事例研究を行う。 （必要な準備）前回までのメモや資料等。
第14回	ビジネスの応用事例Ⅱ	（内　　容）グループに別れて事例研究を行う。 （必要な準備）前回までのメモや資料等。
第15回	結果のまとめと発表	（内　　容）グループ毎に事例研究のプロセスを発表する。 （必要な準備）発表資料の準備とリハーサルを行う。

授業名	**図書館概論u**	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Library	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。				
学習成果到達目標	1）図書館の概略を把握し、基本的な専門用語を覚えること。図書館司書資格を習得するための基礎的な知識を習得する。 2）図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について理解すること。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	『図書館概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ１）、塩見昇、日本図書館協会、2012年				
参考書	随時指示する。				
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**図書館概論ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	図書館とは	（内　　容）図書館の定義、種類について概説する。 （必要な準備）テキストP.13～P.20をよく読んでおくこと。
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	（内　　容）「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 （必要な準備）テキストP.57～P.64をよく読んでおくこと。
第4回	図書館の自由について考える	（内　　容）図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 （必要な準備）「図書館の自由に関する宣言」（テキストP.65～P.67）を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	（内　　容）公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 （必要な準備）「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開（欧米）	（内　　容）欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 （必要な準備）テキストP.225～P.228をよく読んでおくこと。
第7回	図書館の歴史的展開（日本）	（内　　容）日本の図書館の歴史的展開を概説する。 （必要な準備）テキストP.229～P.232をよく読んでおくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	（内　　容）「図書館法」の構成と性格を理解する。 （必要な準備）「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	（内　　容）公共図書館が提供するサービスについて概説する。 （必要な準備）テキストP.146～P.150をよく読んでおくこと。
第10回	公立図書館の管理運営について考える	（内　　容）公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 （必要な準備）指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	（内　　容）学校図書館の役割と機能について概説する。 （必要な準備）テキストP.161～P.168をよく読んでおくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	（内　　容）大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 （必要な準備）テキストP.177～P.183をよく読んでおくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	（内　　容）専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 （必要な準備）テキストP.190～P.193をよく読んでおくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	（内　　容）国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 （必要な準備）テキストP.203～211をよく読んでおくこと。
第15回	出版文化と図書館	（内　　容）出版文化と図書館の貸出サービスとの関係について考察する。 （必要な準備）テキストP.45～P.48をよく読んでおくこと。

授業名	**図書館制度・経営論u**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Library System and Management	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。				
学習成果到達目標	1）図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2）図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 □レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する				
留意事項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**図書館制度・経営論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	図書館の制度	（内　　容）図書館設置を規定する各法律について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	（内　　容）図書館法の条文を理解する。 （必要な準備）図書館法の条文を読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	（内　　容）学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 （必要な準備）学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	（内　　容）著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 （必要な準備）著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の管理運営の外部化①	（内　　容）指定管理者制度について解説する。 （必要な準備）指定管理者制度について調べておくこと。
第7回	図書館の管理運営の外部化②	（内　　容）PFIについて解説する。 （必要な準備）PFIについて調べておくこと。
第8回	図書館のサービス計画	（内　　容）図書館サービスの計画について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	図書館のマーケティング	（内　　容）図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館の建築計画	（内　　容）図書館建設手順の流れについて解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	レイアウト図をつくる①	（内　　容）ゾーニング計画をつくる。 （必要な準備）地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第12回	レイアウト図をつくる②	（内　　容）図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 （必要な準備）地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる③	（内　　容）図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 （必要な準備）地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する①	（内　　容）作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 （必要な準備）レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する②	（内　　容）作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 （必要な準備）レイアウト図を完成させる。

授業名	**図書館情報技術論ｕ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Library Information Technology	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**岡　紀子**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。 本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、データベース、コンピュータシステム、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。
学習成果到達目標	1）図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2）知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3）インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4）情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。
評価方法	定期試験（ 50 %）：■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技 平常試験（ 50 %）：□筆記試験 ■レポート □制作物 ■口述 ■実習 □実技
評価基準	主たる評価の観点：■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（課題遂行能力 ） □（ ）
テキスト	改訂 図書館と情報技改訂術（樹村房）2017 4月発刊
参考書	メディアリテラシ（上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15） 最新　情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-（監修：久野靖他）
留意事項	・自ら図書館に足を運び、図書館における情報技術を活用した業務について予め把握しておくこと。 ・自ら図書館に足を運び、学習した情報技術が具体的にはどのように活用・応用されているか確かめること。更に、図書館業務は情報技術を駆使することで、どのように改善できるか自分なりに考えること。 ・情報技術については、日々進化しているので教科書の記載だけでなく、最新の技術を自分で調べること。
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける

授　業　名	**図書館情報技術論ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	（内　　容）IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ （必要な準備）該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	（内　　容）コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 （必要な準備）該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	（内　　容）ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 （必要な準備）該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	（内　　容）情報技術について、情報化社会の特徴との関係について学習し、深く関わっていることを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 （必要な準備）該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	（内　　容）データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 （必要な準備）該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン（検索エンジン）の仕組み	（内　　容）ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 （必要な準備）該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	（内　　容）コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 （必要な準備）該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とIT　その１	（内　　容）最新の情報技術として、デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリー、ディスカバリーサービスなどについて学習する。 （必要な準備）該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とIT　その２	（内　　容）図書館で扱う電子資料とその管理技術を学習する。データベース、電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について学ぶ。 （必要な準備）該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	（内　　容）図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 （必要な準備）該当箇所の予習
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要	（内　　容）デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 ・最終レポートについて課題設定の説明。提出期限は13回目。 ・次回以降のＤＡＩＳＹ作成のためのアカウントとＰＷを配布。 （必要な準備）該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習（１）	（内　　容）障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。　演習取り組みとして、音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践学習する。 （必要な準備）特になし、配布したアカウントおよびPWを使う。
第13回	マルチメディアDAISY作成の演習（２）	（内　　容）mDAISY編集作業を継続 （必要な準備）適宜各自でDAISY作成を進める レポート提出期限
第14回	最終レポートのプレゼンテーション プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習（３）も進める	（内　　容）課題レポートの発表 （必要な準備）各自レポート発表 適宜各自でDAISY作成を進める
第15回	マルチメディアDAISY完成・提出（４）	（内　　容）各自進捗状況に応じて、mDAISY編集完成版を提出。 （必要な準備）・mDAISY提出

授業名	**図書館サービス概論u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Library Services	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**川瀬　綾子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報化社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。				
学習成果到達目標	1）現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を理解する。 2）図書館における様々な図書館サービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3）今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（授業への参加意欲 ） □（ ）				
テキスト	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012年				
参考書	授業にて指示する。				
留意事項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。 授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。 出席日数が３分の２に満たない者には、原則として単位は与えません。				
オフィスアワー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。				

授　業　名	**図書館サービス概論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	（内　　容）授業の概要（授業計画、内容、評価方法など。本講義の進め方等についての説明）及び図書館で行われている図書館サービスとはどのようなものであるか。 （必要な準備）今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念１	（内　　容）様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 （必要な準備）教科書第１章１・２項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念２	（内　　容）図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 （必要な準備）教科書第１章３－６項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷１	（内　　容）公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。? （必要な準備）教科書第２章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスの種類と方法	（内　　容）公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 （必要な準備）教科書第３章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	（内　　容）資料提供サービスについて理解する。 （必要な準備）教科書第４章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	（内　　容）レファレンスサービスを中心に解説する。 （必要な準備）教科書第５章を読んでおくこと。
第8回	利用者対象別サービス－児童サービス、ヤングアダルトサービスについて－	（内　　容）利用対象者が幼児や児童などの場合、どのような図書館サービスが行われているかを理解する。 （必要な準備）公共図書館で行われている児童向けのサービスに参加し、その感想や意見をまとめて授業にのぞむこと。 教科書第６章を読んでおくこと。
第9回	利用者対象別サービス－多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて－	（内　　容）外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 （必要な準備）教科書第６章を読んでおくこと。
第10回	図書館サービスとコミュニケーション	（内　　容）利用者に対する接遇・広報について理解する。 （必要な準備）公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。 教科書第７章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスと著作権１	（内　　容）著作権の意義と概要について学習する。 （必要な準備）教科書第８章を読んでおくこと。
第12回	図書館サービスと著作権２	（内　　容）図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 （必要な準備）教科書第８章を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスの協力と連携	（内　　容）図書館サービスにおける協力・連携の意義について理解する。 （必要な準備）教科書第９章を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	（内　　容）これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 （必要な準備）今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。 教科書第１０章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	（内　　容）これからの図書館の在り方について考える。 （必要な準備）教科書を再度通読すること。

授業名	**情報サービス論u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Information Services	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。
学習成果到達目標	1）図書館の情報サービスの種類・内容を学ぶ。 2）レファレンス事例発表を行い、図書館業務の理解を深める。
評価方法	定期試験（60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山﨑久道、樹村房、2012年
参考書	随時指示する。
留意事項	図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験してくることが望ましい。
オフィスアワー	初回の授業で提示します

授　業　名	**情報サービス論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと。（20分）
第2回	情報社会と図書館	（内　　容）図書館の役割について理解する。 （必要な準備）テキストP.1～P.18をよく読んでおくこと。（30分）
第3回	情報サービスの実際①	（内　　容）情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 （必要な準備）テキストP.24～P.33をよく読んでおくこと。（30分）
第4回	情報サービスの実際②	（内　　容）情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 （必要な準備）テキストP.33～P.37をよく読んでおくこと。（30分）
第5回	各種図書館と情報サービス	（内　　容）各種情報サービスの特徴を理解する。 （必要な準備）テキストP.37～P.40をよく読んでおくこと。（20分）
第6回	レファレンスプロセス	（内　　容）レファレンスプロセスの概念について学習し、情報 探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 （必要な準備）テキストP.41～P.65をよく読んでおくこと。（20分）
第7回	情報検索と情報検索システム①	（内　　容）情報検索の種類・内容について理解する。 （必要な準備）テキストP.100～P.112　をよく読んでおくこと。（20分）
第8回	情報検索と情報検索システム②	（内　　容）情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 （必要な準備）テキストP.112～P.119をよく読んでおくこと。（20分）
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	（内　　容）個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 （必要な準備）テキストP.185～P.196をよく読んでおくこと。（30分）
第10回	情報サービスと知的財産権	（内　　容）著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 （必要な準備）図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。（20分）
第11回	オンラインデータベース	（内　　容）オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 （必要な準備）図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。（20分）
第12回	電子ジャーナル	（内　　容）電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 （必要な準備）図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。（30分）
第13回	レファレンス事例発表①	（内　　容）レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 （必要な準備）発表レジュメを作成する。（60分）
第14回	レファレンス事例発表②	（内　　容）レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 （必要な準備）発表レジュメを作成する。（60分）
第15回	まとめ	（内　　容）今後の情報サービスあり方について考える。 （必要な準備）今までのところを復習しておく。（60分）

授業名	**児童サービス論u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child Services	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**岸　優子**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	1）児童図書館における児童サービスの理念や意義・役割について理解を深める。 2）IT時代を迎える現代の子どもたちにとって、より望ましい読書支援とはどうあるべきかを考える。 3）子どものための文化財としてある絵本や児童文学などを具体的にとりあげ、その特質をふまえて児童図書館の蔵書構成や選書について検討する。
学習成果到達目標	1）児童図書館の蔵書を構成する児童文化関連資料の全体像について基本的知識を習得できる。 2）1）を活用した利用者サービスの内容と方法について理解できる。 3）選書やブックトークの内容について知り、実践することができる。
評価方法	定期試験（60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　■実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	使用しない（適宜プリントを配布）。
参考書	使用しない。
留意事項	授業形態として、講義、実習、演習形式などを取り入れ、発表する機会を積極的に設ける。 なお、児童図書館や子どもの本についてのフィールドワークを4回実施するので、実際に見学をとおして体験することで学びを深めてほしい。フィールドワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、見学先の開館日・時刻、場所等により、授業時間外の曜日・時刻に実施することもある。やむを得ず見学を欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。見学当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなす。
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。

授　業　名	**児童サービス論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス　授業の概要および進め方	（内　　容）本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）
第2回	児童サービスとは何か	（内　　容）日本における児童図書館および児童サービスについて理解を深める。 （必要な準備）自分なりに児童図書館について考えをまとめておく。（30分）
第3回	児童関係資料の種類と特質 フィールドワーク①	（内　　容）児童に関連する資料について、その種類や特質について学び、理解を深める。 （必要な準備）児童図書館を構成する資料について予習しておく。（30分）
第4回	選書の内容と方法　（絵本）1	（内　　容）選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料（絵本）の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 （必要な準備）自分のすきな絵本を一冊よんでおく（30分）
第5回	選書の内容と方法　（絵本）2 フィールドワーク②	（内　　容）選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料（絵本）の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 （必要な準備）絵本の特徴について考えておく。（30分）
第6回	選書の内容と方法　（絵本）3	（内　　容）資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 （必要な準備）絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。（30分）
第7回	選書の内容と方法　（絵本）4 フィールドワーク③	（内　　容）資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 （必要な準備）絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。（30分）
第8回	中間まとめ	（内　　容）選書を行う際の重要な点を理解する。 （必要な準備）これまでのフィールドワークついて振り返り、各自、得たこと、気づいたこと、疑問に思ったことについてまとめておくこと。（30分）
第9回	選書の内容と方法　（読物）1	（内　　容）選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 （必要な準備）選書を行う際の重要な点について考えておく。（30分）
第10回	選書の内容と方法　（読物）2	（内　　容）資料をいかに評価するか、実際に読み物の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 （必要な準備）読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。（30分）
第11回	児童関係コレクションの収集と構築 フィールドワーク④	（内　　容）選書のありかた、蔵書構成などについて、実際の児童図書館をサンプルに分析し、そのありようを学ぶ。 （必要な準備）身近な児童図書館を見学して蔵書構成について考えておく。（40分）
第12回	子どもと本をつなぐ活動１	（内　　容）読み聞かせやブックトークなど、主な活動について理解し、その特質と役割を学ぶ。 （必要な準備）ブックトークについて調べておく。（40分）
第13回	子どもと本をつなぐ活動２	（内　　容）図書館の乳幼児サービス、特にブックスタート活動について理解を深める。 （必要な準備）ブックスタート運動について事前学習しておく。（40分）
第14回	子どもと本をつなぐ活動３	（内　　容）オンラインを活用した児童向け検索システムについて知り、子どもと本との関係について理解を深める。 （必要な準備）子どもの資料検索についてサイトを調べておく。（40分）
第15回	本授業を振り返り、次につながる課題を見出す	（内　　容）全回のまとめを行い、これからの児童サービスの課題について考える。 （必要な準備）授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像を考えておく。（60分）

授業名	**情報サービス演習ｕ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Information Service Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**河塚　幸子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習で行う。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学ぶ。				
学習成果到達目標	1）図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)の知識を習得する。 2）情報検索技術を習得する。 3）レファレンスインタビューにおける利用者とのコミュニケーションの理解とプレゼンテーションができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 ■実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	原田智子編『現代図書館情報学シリーズ７　改訂情報サービス演習』、樹村房、2017年11月(改訂第2刷)、\2000税別				
参考書	今まどこ編『図書館学情報学基礎資料』、樹村房、2016				
留意事項	毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。 検索演習は、データベースの変更などにより学習内容や講義の順番が変わることがある。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**情報サービス演習ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス、図書館探索	（内　　容）本講義の概要、目標の解説、 図書館で参考図書探索グループ演習 （必要な準備）テキストの監修者の言葉、序文、目次を読むこと
第2回	情報サービスの設計と評価	（内　　容）情報サービスの概論、レファレンスサービスの解説 （必要な準備）テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと
第3回	情報サービス演習準備、情報検索基礎	（内　　容）レファレンスインタビューの体験 検索理論、検索方式、検索語、トランケーションの基礎理論マスター、検索式作成の演習 （必要な準備）「検索」という言葉の意味を調べておくこと テキスト2章を読んで予習しておくこと
第4回	情報資源の探し方	（内　　容）さまざまな情報資源の種類、使い方 （必要な準備）前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと テキスト3章を読んで予習すること
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	（内　　容）Webページ、Webサイト、検索エンジン、検索演習 インターネット上の情報の探し方 （必要な準備）テキスト4章を読み予習すること
第6回	図書情報の探し方	（内　　容）図書情報の種類、特徴、探し方、検索演習 （必要な準備）テキスト5章を読み予習すること
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	（内　　容）雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方、検索演習 （必要な準備）テキスト6章を読み予習すること
第8回	新聞および新聞記事の探し方	（内　　容）新聞の種類、特徴、探し方、検索演習 （必要な準備）テキスト7章を読み予習すること
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	（内　　容）言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方 （図書館演習１） （必要な準備）テキスト8章を読み予習すること
第10回	人物、企業、団体の探し方	（内　　容）人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方、検索演習 （必要な準備）テキスト11章を読み予習すること
第11回	法律、判例、特許の探し方	（内　　容）法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方、検索演習 （必要な準備）テキスト12章を読み予習すること
第12回	発信型情報サービス	（内　　容）発信型情報サービス(パスファインダー）の構築、事例調査 （必要な準備）テキスト15章を読み予習すること
第13回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	（内　　容）歴史、日時、地理、地名、地図の種類、特徴、探し方 （図書館演習２） （必要な準備）テキスト9、10章を読み予習すること
第14回	レファレンスコレクションの整備	（内　　容）レファレンスコレクションの整備・評価、 Web上に公開されているデータベースの調査、評価演習 （必要な準備）テキスト14章を読み予習すること
第15回	パスファインダーの調査事例相互学習、 まとめ	（内　　容）パスファインダー調査成果発表 （必要な準備）各自調査結果の発表準備（要点整理）

授業名	**図書館情報資源概論ｕ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Library Information Resource	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**河塚　幸子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	情報の分化に伴って近年多様化している図書館資料について、その種類と特徴を理解するとともに図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する知識の基本を理解することを目的とする。実際の図書館の仕事に即して考察していく。				
学習成果到達目標	1）図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料）の種類と特性について理解し、説明できる。 2）図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3）ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験（ 40 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 ■実技			
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8）,学文社　2016年				
参考書	今まど子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論　JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ　8』日本図書館協会,2012				
留意事項	専門用語などわからないことは、図書館情報学事典（コトバンクhttps://kotobank.jp/）　、参考書などで調べておくこと。事前に次週の学習箇所のテキストを読むこと。 グループディスカッションによる知識の確認、定着を勧めるため積極的に発言すること。				
オフィスアワー	当授業の前、終了後に実施する。（講師控室）				

授　業　名	**図書館情報資源概論ｕ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス、図書館情報資源とは、知識と情報	（内　　容）授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について テキストの構成、見方 （必要な準備）テキストの緒言、巻頭言、目次、第1章を読んでおくこと
第2回	図書館情報資源の経緯	（内　　容）図書館資料全般の特質、歴史を概観 （必要な準備）テキスト2章p.12-17を読んでおくこと
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	（内　　容）資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、など （必要な準備）テキスト3章p.18-25 を読んでおくこと
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	（内　　容）電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料（CD-ROMなど）の種類と特質 （必要な準備）テキスト4章p.26-31を読んでおくこと
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	（内　　容）地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義。地域資料の収集、情報発信。地域の課題解決と地域資料など （必要な準備）テキスト5章p32-37を読んでおくこと。 自分の住んでいる地域や出身地の図書館はどのように地域資料に取組んでいるか、調べておくこと。。（フリーディスカッション）
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	（内　　容）出版の流通の過程、大まかな流れ、出版の企画・立案。 図書の制作にかかわる者、図書の制作の過程、出版と流通など （必要な準備）テキスト6章p．38-43を読んでおくこと。
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	（内　　容）図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて （必要な準備）「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。例）慶応義塾大学日吉メディアセンター：http://www.hc.lib.keio.ac.jp/services/copyright.html
第8回	コレクション形成の理論	（内　　容）コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開 デジタル情報資源とコレクション形成 （必要な準備）テキスト8章p．50-57を読んでおくこと。
第9回	コレクション形成の方法	（内　　容）蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持、発展 （必要な準備）テキスト9章p．58-63を読んでおくこと。
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	（内　　容）分野による研究特性、人文・社会科学(文系）、科学技術分野(理系）、各分野の学問的諸領域、研究者の視座、情報資源、情報資源へのアクセス、図書館ポータルの例 （必要な準備）テキスト10章p.64-71を読んでおくこと。
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	（内　　容）科学技術分野、生活分野の意味、科学技術に伺える科学技術に対する国家意思、科学技術情報のライフサイクル、科学技術コミュニケーション、科学技術、生活分野の学術文献の特色、研究者、研究成果の発表 （必要な準備）テキスト11章p.72-77を読んでおくこと。
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	（内　　容）資料の受入、除籍、保存、資料管理 （必要な準備）テキスト12章p.78-85を読んでおくこと。
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	（内　　容）「クラウド」という言葉、クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセス、情報生産の加速化 （必要な準備）テキスト13章p.86-91を読んでおくこと
第14回	電子書籍、電子ジャーナルー 図書館情報資源としての意義と課題	（内　　容）電子書籍の現状と意義、図書館での扱い、電子書籍の課題。 電子ジャーナルの現状と意義、電子ジャーナルを巡る動きと課題。 （必要な準備）テキスト14章p.92-97を読んでおくこと
第15回	まとめ、展望	（内　　容）総復習、展望 （必要な準備）テキスト15章p.98-117を読んでおくこと 図書館のデジタル化の事例をWebで閲覧

授業名	**情報資源組織論u**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Informational Resource Organization	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**喜多　祐子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などに関しても解説を行なう。				
学習成果到達目標	(1)　情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 (2)　情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 (3)　分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 (4)　主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 (5)　コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）				
テキスト	志保田務編『情報資源組織論　第2版　－よりよい情報アクセスを支える技とシステム』ミネルヴァ書房　2016年				
参考書	講義で紹介。				
留意事項	テキストは必ず持参すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	**情報資源組織論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	情報資源組織化の意義	（内　　容）情報資源組織の業務と意義 （必要な準備）テキスト1章（p.1-7）を読んでおくこと（10分）
第2回	目録の役割と種類	（内　　容）目録の役割、目録の種類 （必要な準備）テキスト2章（p.8-16）を読んでおくこと（10分）
第3回	目録記入の構成	（内　　容）書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 （必要な準備）テキスト3章（p.18-23)、7章（p.133-151)を読んでおくこと（30分）
第4回	標目の役割	（内　　容）標目の機能、標目の種類、典拠ファイル （必要な準備）テキスト3章（p.24-28）を読んでおくこと（10分）
第5回	書誌コントロールと標準化	（内　　容）書誌コントロールの種類と歴史 （必要な準備）テキスト4章（p.30-34）を読んでおくこと（10分）
第6回	主要な書誌記述規則	（内　　容）主要な目録規則の概要 （必要な準備）テキスト7章（p.114-133、p.151-153）を読んでおくこと（10分）
第7回	集中目録作業	（内　　容）書誌データの流通、MARC （必要な準備）テキスト4章（p.34-39、p.50）を読んでおくこと（10分）
第8回	共同目録作業	（内　　容）総合目録、書誌ユーティリティ （必要な準備）テキスト4章（p.39-45）を読んでおくこと（15分）
第9回	OPACの管理と運用	（内　　容）OPACの機能と管理、メタデータ （必要な準備）テキスト4章（p.45-52）、8章（p.155-164)を読んでおくこと（20分）
第10回	主題の分析と検索	（内　　容）主題分析の意義、自然語、統制語 （必要な準備）テキスト5章（p.53-64）を読んでおくこと（20分）
第11回	件名標目表とシソーラス	（内　　容）件名標目表、シソーラス、『基本件名標目表』の構成 （必要な準備）テキスト5章（p.64-73）を読んでおくこと（20分）
第12回	配架と分類作業	（内　　容）図書記号の付与と配架、別置 （必要な準備）テキスト6章（p.74-78、108－113）を読んでおくこと（20分）
第13回	日本十進分類法による分類作業	（内　　容）分類法の概要、「日本十進分類法」の構成 （必要な準備）テキスト6章（p.95-108）を読んでおくこと（20分）
第14回	多様な情報資源組織	（内　　容）図書館における情報資源の組織化の課題 （必要な準備）テキスト8章（p.176-194）を読んでおくこと（30分）
第15回	主要な分類法	（内　　容）主要な分類法の概要 （必要な準備）テキスト6章（p.81-95）を読んでおくこと（30分）

授業名	**情報資源組織演習ｕ**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Bibliographic Organization Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**喜多　祐子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。				
学習成果到達目標	1）情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2）書誌データを作成することができる。 3）ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4）主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	志保田務・高鷲忠美編『情報資源組織法　第2版』第一法規　2016年				
参考書	講義で随時紹介。				
留意事項	テキストは毎回持参すること。講義内容を復習すること。				
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授　業　名	情報資源組織演習ｕ

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	書誌データの作成	（内　　容）目録法及び記述に関する総則を解説 （必要な準備）「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと（60分）。
第2回	各書誌的事項の記述	（内　　容）和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第3回	書誌階層構造	（内　　容）集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第4回	継続資料の書誌データの作成	（内　　容）逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第5回	非図書資料の書誌データの作成	（内　　容）地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第6回	標目の付与	（内　　容）標目の表記方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第7回	書誌ユーティリティにおける目録作成	（内　　容）集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第8回	書誌データ管理・検索システムの構築	（内　　容）書誌データベースの構築。メタデータの作成。 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第9回	主題分析と分類作業の実際	（内　　容）主題分析の方法を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第10回	日本十進分類法の活用法	（内　　容）日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第11回	日本十進分類法による分類作業　形式区分	（内　　容）日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第12回	日本十進分類法による分類作業　地理区分、海洋区分	（内　　容）日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第13回	日本十進分類法による分類作業　言語区分、固有補助表	（内　　容）日本十進分類法の言語区分・言語共通区分・文学共通区分・その他の固有補助表に関する解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第14回	分類規程・図書記号の付与	（内　　容）分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。
第15回	基本件名標目表による件名付与	（内　　容）基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 （必要な準備）前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと（30分）。

授業名	**図書館基礎特論u**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Special Lecture on Library	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。各自でテーマを選択し、関連する文献資料を収集し、整理し、自己の見解をまとめ、発表する。各自の関心のあるテーマについて、適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げることにより、自らの意見を理論的に主張し、伝達できるようにする。				
学習成果到達目標	1）各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2）自らの考えを映像資料にまとめることができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	使用しない				
参考書	随時指示する。				
留意事項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**図書館基礎特論u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	図書館資料の探索と活用	（内　　容）図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 （必要な準備）図書館での情報検索の方法について考えておくこと。
第3回	レファレンスサービスを考える	（内　　容）図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 （必要な準備）図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。
第4回	レファレンス質問を考える	（内　　容）レファレンス質問を作成する。 （必要な準備）インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。
第5回	レファレンス回答をつくる	（内　　容）図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 （必要な準備）図書館に出向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。
第6回	図書館の広報活動について考える	（内　　容）図書館の広報活動の概要を説明する。 （必要な準備）広報の意義について考えておくこと。
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ①グループをつくる	（内　　容）レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 （必要な準備）レファレンス回答を完成させておくこと。
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ②シナリオをつくる	（内　　容）図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 （必要な準備）ストーリーを考えておくこと
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ③絵コンテをつくる	（内　　容）図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 （必要な準備）シナリオを完成させておくこと。
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ④仮撮影	（内　　容）仮撮影を行う。 （必要な準備）シナリオと絵コンテを完成させておくこと。
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ⑤シナリオ修正	（内　　容）図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 （必要な準備）仮撮影の内容を振り返る。
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ⑥本撮影	（内　　容）本撮影を行う。 （必要な準備）シナリオを完成させておくこと。
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する ⑦編集	（内　　容）撮影したビデオの編集作業を行う。 （必要な準備）サウンドトラックなどの準備をしておくこと。
第14回	発表	（内　　容）完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 （必要な準備）ビデオを完成させておくこと。
第15回	まとめ	（内　　容）授業を振り返り、レポートを作成する。 （必要な準備）これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。

授業名	**図書・図書館史u**	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	History of Books and Libraries	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	古代の文字の歴史を含めた図書の歴史的変遷を概観するとともに、活字資料の重要性を確認させる。また、公共図書館が急速に増えている現状を認識しつつ、古代から近代公共図書館誕生までの推移を西欧、中国、日本の視点から考察する。 授業は講義形式で行う。				
学習成果到達目標	1）図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を学ぶ。 2）図書館の歴史的意義、文化的意義を把握する。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）				
テキスト	『図書・図書館史』（現代図書館情報学シリーズ11）佃一可、樹村房、2012年				
参考書	随時指示する。				
留意事項	講義を中心に進めるが、適宜、ビデオなどの視聴覚資料を用いて、図書館の歴史について理解を深められるようにしていきたい。普段から図書館に出向くよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。				
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**図書・図書館史u**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	古代の図書館（西洋）	（内　　容）文字の発生と記録、古代の図書館について概説する。 （必要な準備）古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館（西洋）	（内　　容）修道院図書館や大学図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.62～P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館（西洋）	（内　　容）ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて概説する。 （必要な準備）テキストP.94～P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近代の図書館（西洋）	（内　　容）大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて概説する。 （必要な準備）テキストP.134～P.146をよく読んでおくこと。
第6回	現代の図書館（西洋）	（内　　容）20世紀以降の各国図書館の状況について概説する。 （必要な準備）テキストP.167～P.182をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史（古代）	（内　　容）紙の発明以前の図書について説明する。 （必要な準備）テキストP.27～P.40をよく読んでおくこと。
第8回	中国の図書の歴史（中世）	（内　　容）紙の発明、四部分類について説明する。 （必要な準備）テキストP.78～P.86をよく読んでおくこと。
第9回	中国の図書の歴史（近世・近代）	（内　　容）印刷時代の図書について説明する。 （必要な準備）テキストP.123～P.131をよく読んでおくこと。
第10回	古代の図書館（日本）	（内　　容）奈良時代・平安時代の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.50～P.60をよく読んでおくこと。
第11回	中世の図書館（日本）	（内　　容）鎌倉時代・室町時代の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.86～P.91をよく読んでおくこと。
第12回	近世の図書館（日本）	（内　　容）江戸時代の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.112～P.122をよく読んでおくこと。
第13回	近代の図書館（日本）①	（内　　容）明治期の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.147～P.161をよく読んでおくこと。
第14回	近代の図書館（日本）②	（内　　容）大正・昭和前期の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.161～P.166をよく読んでおくこと。
第15回	現代の図書館（日本）	（内　　容）昭和後期以降の図書館について概説する。 （必要な準備）テキストP.183～P.196をよく読んでおくこと。

授業名	**生涯学習概論Ⅰ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Lifelong Learning Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**堀出　雅人**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	いま地域では、健康・福祉、防災・減災、若者の就業、青少年の健全育成など多くの課題を抱え、それは我が国全体の課題であるといえる。その背景には、少子高齢化、核家族化、都市化など、急激な社会の変化がみられる。変化の激しい時代、わたしたちはこれまで経験したことのないさまざまな課題に対して、自分たちが住む地域の未来について住民同士が考えを出し合い協力し課題を解決していく姿勢が求められている。その学び場づくりをコーディネートするのが社会教育行政、なかでも社会教育主事に期待される役割である。「人づくり」「地域づくり」「住民ネットワークづくり」がキーワードとなる。そのために、今日、社会教育主事に求められる資質は実に多様である社会教育、生涯学習に関する基礎基盤的な知識、施策立案能力、把握・分析能力、ネットワーク構築力、学習環境設計能力、学習支援能力などがあげられる。特に、地域の学びを支援する立場として、ファシリテーション能力も求められる。本講義では、そこで我が国の生涯学習や社会教育のこれまでの歴史と実態を学び知識の基盤を作りながら、グループワークやフィールドワークを通して上記の社会教育主事に求められる資質とは具体的にどんなものなのか実体験を通して学び力をつけることを目標としている。これらは、将来、公務員をはじめ公的な仕事をめざすもの、民間企業をめざすもの、教員、保育士など、すべての職場や組織で求められる力でもある。「自分づくり」も視野に入れて受講することも可能である。
学習成果到達目標	1）生涯学習、社会教育の定義や具体的な内容を説明することができる。 2）社会教育主事に求められる資質について、地域の現状と照らし合わせて、具体的に説明することができる。 3）フィールドワークや学習プログラムの作成・発表などを通して、社会教育主事に求められる力を伸ばすことができる。 4）15回の授業の学習成果を最終レポートにまとめ説明することができる（最終レポートにつながるショートレポートの提出を5回目と10回目に課します）。

評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）	

テキスト	佐藤晴雄（2016）『生涯学習概論 第1次改訂版』 学陽書房
参考書	授業の進捗状況に合わせて適宜指示します。
留意事項	テキストは、生涯学習・社会教育を網羅したものを選びました。毎回のコメントカードや最終課題のレポートをまとめる際に必読です。また、社会教育主事（補）資格の課程のほかの授業の内容にも参考になると思います。
オフィスアワー	月曜日の昼休み

授　業　名	**生涯学習概論Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 社会教育主事の役割について	（内　　容）社会教育主事の資格と職務内容について、具体的な事例を踏まえながら、現場で求められる資質と能力 （必要な準備）シラバスを読んでくる
第2回	生涯学習と社会教育	（内　　容）生涯学習と社会教育の定義と意義の理解 （必要な準備）テキスト第1章「生涯学習と社会教育」を一読してくる
第3回	生涯学習と社会教育の歴史	（内　　容）生涯学習と社会教育が誕生してきた歴史的背景を理解する （必要な準備）テキスト第2章「生涯学習と社会教育の歴史」を一読してくる
第4回	生涯教育論の登場	（内　　容）これまで語られきた生涯学習論を理解する （必要な準備）テキスト第3章「生涯学習論の登場」を一読してくる
第5回	生涯学習と学校教育	（内　　容）学校教育と生涯学習の関係を理解する （必要な準備）テキスト第4章「生涯学習と学校教育」を理解する
第6回	フィールドワーク	（内　　容）社会教育施設として京都市学校歴史博物館を訪問し、社会教育主事にインタビューをおこなう（様々な状況を鑑み変更する場合もある） （必要な準備）京都市学校歴史博物館の概要についてホームページ等から情報を収集し基礎知識をおさえておく
第7回	生涯学習の方法と内容	（内　　容）学習プログラムの開発にむけて、生涯学習の方法や内容について理解する （必要な準備）テキスト第5章「生涯学習の方法と内容」を一読してくる
第8回	生涯学習と社会教育の計画	（内　　容）教育計画を策定するねらい、および長期的、中期的、短期的な計画のあり方について理解する （必要な準備）テキスト第6章「生涯学習と社会教育の計画」を一読してくる
第9回	学習プログラムの編成	（内　　容）教育計画の実現の実現に向けた学習プログラムの編成について理解する 実際に単発の学習プログラムを作ってみる （必要な準備）テキスト第7章「学習プログラムの編成」を一読してくる
第10回	学習プログラムの発表	（内　　容）自ら計画した学習プログラムを発表する 受講生同士で相互評価を行う （必要な準備）発表資料の作成
第11回	生涯学習関連行政の仕組み	（内　　容）生涯学習を支える行政の仕組みについて理解する （必要な準備）テキスト第8章「生涯学習関連行政の仕組み」を一読してくる。
第12回	生涯学習と社会教育職員	（内　　容）生涯学習の現場を支える社会教育職員について理解する （必要な準備）テキスト第9章「生涯学習と社会教育職員」を一読してくる。
第13回	生涯学習と社会教育施設	（内　　容）生涯学習が日々おこなわれている社会教育施設について理解する （必要な準備）テキスト第10章「生涯学習と社会教育施設」を一読してくる
第14回	生涯各期の教育課題	（内　　容）生涯発達について理解する （必要な準備）テキスト第11章「生涯各期の教育課題」を一読してくる
第15回	生涯学習と社会教育をめぐる課題	（内　　容）生涯学習と社会教育をめぐる課題を認識するとともに、自ら社会教育主事の資格を取得したあと、それらの課題にどのように貢献できるのか検討する （必要な準備）テキスト第12章「生涯学習と社会教育をめぐる課題」を一読してくる

授業名	**生涯学習概論Ⅱ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Lifelong Learning Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。				
学習成果到達目標	1）生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。 2）生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。				
評価方法	定期試験（ 60 %） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 40 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）				
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
留意事項	授業中に出された課題に対して主体的に取り組むこと。 ノートをしっかり取ること。				
オフィスアワー	毎週１回（休業期間を除く。）オフィスアワーを設けます。				

授　業　名	**生涯学習概論Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	生涯学習とライフステージ	（内　　容）ライフサイクルの概念を理解し、人間形成と学ぶことの意味について考察する。 （必要な準備）学習することの意味について考えておくこと。
第3回	学習者の特性と学習の継続・発展（子ども期）	（内　　容）ペダゴジーの概念を理解し、人生の子ども期における発達課題や特性と学びについて学習する。 （必要な準備）子ども期における人間の発達について調べておくこと。
第4回	学習者の特性と学習の継続・発展（中年期）	（内　　容）アンドラゴジーの概念を理解し、人生の中年期における発達課題や特性と学びについて学習する。 （必要な準備）中年期における人間の発達について調べておくこと。
第5回	学習者の特性と学習の継続・発展（高齢期）	（内　　容）ジェロゴジーの概念を理解し、人生の高齢期における発達課題や特性と学びについて学習する。 （必要な準備）高齢期における人間の発達について調べておくこと。
第6回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	（内　　容）最新の生涯学習世論調査における生涯学習の実践状況および、その特徴。 （必要な準備）身近なところから生涯学習に関わることがないかどうかを調べておくこと。
第7回	社会教育の官民連携	（内　　容）財政難のなかで、サービスの質を落とさないさまざまな工夫について。 （必要な準備）社会教育施設を訪問し、教育内容を調べておくこと。
第8回	学びの提供方法と内容	（内　　容）社会教育機関の学びの提供方法や工夫について。 （必要な準備）社会教育施設を訪問し、学習プログラムを入手しておくこと。
第9回	身近な地域の社会教育機関の現状	（内　　容）自分達が住む地域の中から、自分が最も関心を持つ社会教育機関を選び調べ、結果を報告する。 （必要な準備）身近な地域の社会教育施設の現状を調べ、まとめておくこと。
第10回	生涯学習の支援者に求められている力	（内　　容）各生涯学習の現場では、どのような力が必要とされているかを知り、自分が補うべき能力について説明する。 （必要な準備）生涯学習支援者の役割について考えておくこと。
第11回	生涯学習支援者の整理	（内　　容）さまざまな学びを実現するために、どのような支援者があり得るかを整理する。 （必要な準備）生涯学習支援者に求められる資質について考えておくこと。
第12回	生涯学習提供のための形態と手法	（内　　容）効果的に学びを支援するためのさまざまな学びの手法や形態について。 （必要な準備）生涯学習の学習形態にはどの様なものがあるかを調べておくこと。
第13回	よりよい生涯学習機会創造のために	（内　　容）国の施策を利用し、学習機会提供を実現する方法について。 （必要な準備）配布プリントを読んでおくこと。
第14回	我が国における生涯学習の展開と各種審議会答申について	（内　　容）社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯学習の理念と具体案について学習する。 （必要な準備）配布プリントを読んでおくこと。
第15回	まとめ　ふり返り	（内　　容）「生涯学習概論Ⅱ」で学んだことを整理し、わかったこととこれからまなぶべきことを説明する。 （必要な準備）これまで学習した内容を整理しておくこと。

授業名	**社会教育計画Ⅰ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Social Education Planning Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**内山　淳子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	教育というと学校教育をイメージしがちであるが、変化の速い現代社会を心豊かに生きるためには、生涯にわたって学び、さらに学んだ成果を社会に活かしていく視点が必要になっている。 この授業では「学校教育を除いたすべての組織的な教育（社会教育法第2条抄）」である社会教育について学習し、生涯学習を支える社会教育計画の基礎や実践を解説する。教育や行政分野の予備知識がない受講生にも理解しやすいよう、事例紹介を交えて社会教育の基礎的な知識を養う。				
学習成果到達目標	1）生涯学習・社会教育とは何か(概念）を把握する 2）社会教育の内容・方法を理解する 3）社会教育計画のしくみと実践の状況を習得する				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解 ■コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■（授業中の主体的な取り組み ） □（ ）				
テキスト	『社会教育の学習論―社会教育がめざす人間像を考える』鈴木眞理・青山鉄兵・内山淳子編、学文社、2016				
参考書	『社会教育計画の基礎［新版］』鈴木眞理・山本珠美・熊谷慎之輔編、学文社、2012 『よくわかる生涯学習［改訂版］』香川正弘ほか編、ミネルヴァ書房、2016				
留意事項					
オフィスアワー	講義時間後				

授　業　名	**社会教育計画Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の目標と進め方 社会教育主事任用資格の説明 （必要な準備）
第2回	社会教育概念の基礎的理解①　生涯学習と社会教育	（内　　容）生涯学習支援としての社会教育 （必要な準備）テキスト・教育基本法（配布）
第3回	社会教育概念の基礎的理解②　社会教育と学校教育	（内　　容）社会教育と学校教育の比較検討 （必要な準備）テキスト
第4回	社会教育概念の基礎的理解③　社会教育と家庭教育	（内　　容）社会教育と家庭教育の比較検討 （必要な準備）テキスト
第5回	社会教育計画の仕組み①　社会教育の内容	（内　　容）社会教育の内容 （必要な準備）社会教育法（配布）
第6回	社会教育計画の仕組み②　社会教育の実践方法	（内　　容）社会教育の実践方法 （必要な準備）配布プリント
第7回	社会教育計画の仕組み③　社会教育における学習プログラム	（内　　容）社会教育における学習プログラム （必要な準備）配布プリント
第8回	前半授業の復習とふりかえり	（内　　容）社会教育の特性についてのまとめ 確認小テスト・解説 （必要な準備）テキスト
第9回	社会教育における学習支援者①　行政関連の支援者	（内　　容）行政機関・社会教育主事・社会教育委員の役割 （必要な準備）テキスト
第10回	社会教育における学習支援者②　民間の支援者	（内　　容）民間企業・ＮＰＯによる社会教育 （必要な準備）テキスト
第11回	社会教育における学習支援者③　連携による支援	（内　　容）官民連携・学社連携による学習支援 （必要な準備）テキスト
第12回	社会教育施設の概要	（内　　容）社会教育施設の役割と課題 （必要な準備）配布プリント
第13回	社会教育における評価①　事業評価	（内　　容）施設評価・事業プログラムの評価 （必要な準備）配布プリント
第14回	社会教育における評価②　学習成果の評価	（内　　容）学習者の成果に関する評価 （必要な準備）配布プリント
第15回	全体の総括とふりかえり	（内　　容）社会教育計画の概要をふりかえり、課題を考察する （必要な準備）テキスト

授業名	**社会教育計画Ⅱ**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Social Education Planning Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**内山　淳子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	生涯にわたる学習を支援する社会教育は、子どもの野外教育から成人の職場教育、高齢者教育までと幅が広く、学習者のニーズに応じて教育計画が企画されている。この講義では生涯各期の発達を基軸として様々な学習者を理解し、それぞれの社会教育計画の立案・実施について検討する。				
学習成果到達目標	1）生涯学習社会における社会教育の役割を理解する。 2）様々な学習者と学習場面を理解する。 3）学習ニーズを事業プログラムの策定に活かすことができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 50 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（授業中の主体的な取り組み　　）　□（　　）			
テキスト	『社会教育の学習論－社会教育がめざす人間像を考える』鈴木眞理・青山鉄兵・内山淳子編、学文社、2016				
参考書	『よくわかる生涯学習［改訂版］』香川正弘ほか編、ミネルヴァ書房、2016				
留意事項					
オフィスアワー	講義時間後				

授　業　名	**社会教育計画Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の目標と進め方 社会教育主事任用資格の説明 （必要な準備）
第2回	社会教育の特性	（内　　容）社会教育の自律性について考える （必要な準備）テキスト
第3回	人間の発達と学習①	（内　　容）子どもの教育学と成人教育学 （必要な準備）テキスト
第4回	人間の発達と学習②	（内　　容）生涯にわたる発達と学習 （必要な準備）テキスト
第5回	乳児期の子どもと親を対象とした社会教育	（内　　容）親と子の学習ニーズと社会教育 （必要な準備）テキスト
第6回	幼児期を対象とした社会教育	（内　　容）幼児期の学習ニーズと社会教育 （必要な準備）テキスト
第7回	学童期・思春期を対象とした社会教育	（内　　容）学童期・思春期の学習ニーズと社会教育 （必要な準備）テキスト
第8回	青年期の課題と学習ニーズ	（内　　容）青年期の学習ニーズと社会教育 （必要な準備）テキスト
第9回	キャリア教育・職業教育	（内　　容）キャリア教育・職場教育についての理解 （必要な準備）テキスト
第10回	成人期の課題と学習ニーズ	（内　　容）成人期の学習ニーズと社会教育 （必要な準備）テキスト
第11回	ジェンダーの視点から見た社会教育	（内　　容）ジェンダーに関する理解と社会教育による支援 （必要な準備）テキスト
第12回	少子高齢社会の課題と社会教育	（内　　容）少子高齢社会の理解と社会教育へのニーズ （必要な準備）テキスト
第13回	高齢期の学習と社会教育の役割	（内　　容）高齢者を対象とした社会教育の理解 （必要な準備）テキスト
第14回	学習者のニーズに応じた社会教育計画	（内　　容）学習者を中心とした社会教育事業の検討 （必要な準備）テキスト
第15回	全体の総括とふりかえり	（内　　容）復習とレポートの提出 （必要な準備）テキスト

授業名	**社会教育演習Ⅰ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Social Education Practice Ⅰ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**内山　淳子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	この授業では、社会教育が実際に行われている社会教育施設をテーマとします。その歴史・制度・役割を理解した上で身近な地域での実践を調査し、今後の施設運営の課題ついても展望することを目指します。				
学習成果到達目標	1）社会教育施設の歴史的役割と現在の状況を理解する。 2）関心のある社会教育施設について文献で調べ、施設調査を行って成果を発表する。 3）今後の社会教育施設の課題を考察し、より良い施設運営のための提案を行う。				
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技		平常試験（ 40 %）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　■実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）				
テキスト	プリントを配布する				
参考書	『よくわかる生涯学習［改訂版］』香川正弘ほか編、ミネルヴァ書房、2016				
留意事項	基本的知識を習得した上で実地調査に臨む演習であるため、講義・視察とも出席することが望まれます。				
オフィスアワー	授業時間後				

授　業　名	**社会教育演習Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の目標と進め方の説明 （必要な準備）
第2回	社会教育における学習機会①	（内　　容）コミュニティの現状と社会教育活動 （必要な準備）
第3回	社会教育における学習機会②	（内　　容）在住地にある社会教育施設の所在地・役割を調べる （必要な準備）
第4回	社会教育施設についての総論	（内　　容）社会教育施設全般の解説 （必要な準備）
第5回	社会教育施設運営の課題	（内　　容）指定管理者制度・ボランティア等の論点 （必要な準備）
第6回	社会教育施設における学習機会①　公民館・生涯学習センター	（内　　容）公民館・生涯学習センター （必要な準備）
第7回	社会教育施設における学習機会②　図書館	（内　　容）図書館 （必要な準備）
第8回	社会教育施設における学習機会③　博物館	（内　　容）博物館 （必要な準備）
第9回	社会教育施設における学習機会④　男女共同参画センター・青少年教育施設	（内　　容）その他の社会教育施設 （必要な準備）
第10回	受講生による成果発表	（内　　容）現地調査報告 （必要な準備）
第11回	受講生による成果発表	（内　　容）現地調査報告 （必要な準備）
第12回	受講生による成果発表	（内　　容）現地調査報告 （必要な準備）
第13回	受講生による成果発表	（内　　容）現地調査報告 （必要な準備）
第14回	社会教育施設をめぐる課題	（内　　容）受講生によるふりかえり （必要な準備）
第15回	社会教育施設・職員の役割	（内　　容）講義者によるまとめ （必要な準備）

授業名	**社会教育演習Ⅱ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Social Education Practice II	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**内山　淳子**	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	これまでに修得した社会教育計画・社会教育施設の知識をもとに、地域に求められる社会教育の学習プログラムを実際に策定する。予備知識として行政計画の仕組みと策定方法について学び、対象となる学習者と実施施設を想定して生涯学習支援の立場から現代社会の課題に即したプログラムを考案する。				
学習成果到達目標	1）在住自治体の課題および行政計画を把握する。 2）計画実施の仕組みＰＤＣＡサイクルを理解し、策定方法について学ぶ。 3）実際に学習者・施設を設定して社会教育の学習プログラムを策定し、発表する。				
評価方法	定期試験（ 60 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 40 %） □筆記試験　□レポート　■制作物 ■口述　■実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	プリントを配布する				
参考書	『社会教育計画の基礎［新版］』鈴木眞理・山本珠美・熊谷慎之輔編、学文社、2012				
留意事項	演習形式で進めるため、積極的な授業参加が望まれる。				
オフィスアワー	講義時間後				

授　業　名	**社会教育演習Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の目標と進め方の説明 （必要な準備）プリントを配布する
第2回	地域社会での学習機会	（内　　容）社会教育の概念理解、学習履歴のふりかえり （必要な準備）プリントを配布する
第3回	地域社会の課題	（内　　容）少子高齢化・都市化など諸問題の提示 （必要な準備）プリントを配布する 教育振興基本計画（配布）
第4回	行政計画とは何か	（内　　容）在住自治体の基本計画、教育計画を調べる （必要な準備）プリントを配布する
第5回	行政計画の仕組み	（内　　容）自治体の理念・中長期計画・短期計画についての理解 （必要な準備）プリントを配布する
第6回	学習プログラムの理解	（内　　容）社会教育の個別事業についての理解 （必要な準備）プリントを配布する
第7回	計画実施のサイクルを学ぶ	（内　　容）計画から評価までの実施サイクルの理解 （必要な準備）プリントを配布する
第8回	活動事例の発表と考察	（内　　容）参考となる学習プログラムを調査する （必要な準備）プリントを配布する
第9回	活動事例の発表と考察	（内　　容）参考となる学習プログラムを調査する （必要な準備）プリントを配布する
第10回	策定方法の習得	（内　　容）企画の方法を学ぶ （必要な準備）プリントを配布する
第11回	学習プログラムの策定	（内　　容）考案する事業プログラムの学習者を設定する （必要な準備）プリントを配布する
第12回	学習プログラムの策定	（内　　容）事業プログラムの内容・方法を考案する （必要な準備）プリントを配布する
第13回	学習プログラムの発表	（内　　容）考案した事業プログラムの発表 （必要な準備）プリントを配布する
第14回	学習プログラムの検討	（内　　容）考案した事業に関する検討 （必要な準備）プリントを配布する
第15回	全体のまとめ	（内　　容）社会教育の役割と個別事業についてのふりかえり （必要な準備）プリントを配布する

授業名	**現代社会と社会教育**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Modern Society and Social Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**神部　純一**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	現代において私たちは、生きがいや自己実現はもちろん、急激に変化する社会や深刻化する地域課題への対処を通して豊かな人生を送るために、生涯にわたって多くの学びを必要としている。こうした生涯学習への関心の高まりの中で、その重要な部分を占めているのが社会教育である。 この授業では、１．現代における社会教育・生涯学習の展開、２．社会教育の内容・施設、３．高齢社会と社会教育、４．地域づくりと社会教育、５．家庭教育と社会教育、６．環境問題と社会教育、７．学習成果を生かす等について、具体的な事例も紹介しながら、社会教育・生涯学習の理解を深める。
学習成果到達目標	１）これからの人生を豊かにしていくために、生涯を通して学ぶことの重要性を理解できるようになる。 ２）社会教育・生涯学習は、学びを通して個人の成長を導くだけでなく、地域・社会の豊かさを実現するために不可欠なものであることを理解し、自らの学びを地域や社会の中で生かす意欲を高めることができる。
評価方法	定期試験（ 90 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 10 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	鈴木眞理、小川誠子編著『生涯学習をとりまく社会環境』学文社、2003年
参考書	
留意事項	
オフィスアワー	担当授業実施後に実施する

授　業　名	**現代社会と社会教育**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	1．現代における社会教育・生涯学習の展開 ①社会教育の概念	（内　　容）「社会教育」とは何なのか。社会教育の概念を理解する。 （必要な準備）
第2回	1．現代における社会教育・生涯学習の展開 ②生涯学習論の出現とその展開	（内　　容）「社会教育」とよく混同される概念に「生涯学習」がある。生涯学習の概念を理解するとともに、「社会教育」と「生涯学習」の違いを理解する。 （必要な準備）
第3回	1．現代における社会教育・生涯学習の展開 ③生涯学習とライフサイクル	（内　　容）生涯にわたって学ぶことの意義を、ライフサイクルの視点から理解する （必要な準備）
第4回	2．社会教育の内容・施設 ①社会教育の内容―「個人の要望」と「社会の要請」―	（内　　容）社会教育は「個人の要望」と「社会の要請」の両面に応える必要がある。この両者の内容について理解する。 （必要な準備）
第5回	2．社会教育の内容・施設 ②現代における社会教育施設の役割（公民館）	（内　　容）地域の学びの拠点であり、地域づくりの拠点が公民館である。この公民館の現代における役割について理解する。 （必要な準備）
第6回	2．社会教育の内容・施設 ③現代における社会教育施設の役割（図書館）	（内　　容）図書館は社会教育の代表的な施設である。図書館に求められる現代的な役割について理解する。 （必要な準備）
第7回	3．高齢社会と社会教育 ①高齢社会における高齢者教育の必要	（内　　容）高齢社会が進展する中で、高齢者のための社会教育の果たす役割が大きくなってきている。人びとが、高齢期に学ぶことの意味を理解する。 （必要な準備）
第8回	3．高齢社会と社会教育 ②高齢者教育の課題	（内　　容）人生80年時代の今、高齢期に何を学ぶべきなのか。高齢者教育の課題について理解する。 （必要な準備）
第9回	4．地域づくりと社会教育 ①生涯学習のまちづくりと社会教育	（内　　容）地域づくりを進めるために、注目されているのが「地域学」である。地域学の必要性と具体的な展開について理解する。 （必要な準備）
第10回	5．家庭教育と社会教育 ①社会教育による家庭教育支援	（内　　容）近年、子育てに悩む親が増えてきている。親として、子育てにどう取り組むのか。親が親として成長するための学びが必要となってきている。ここでは、社会教育における親育ての必要と具体的な展開について理解する。 （必要な準備）
第11回	6．環境問題と社会教育 ①現代の環境教育の理解	（内　　容）環境問題も現代の社会教育の重要な課題である。ここでは環境教育の基本的な考え方を理解する （必要な準備）
第12回	6．環境問題と社会教育 ②学校・地域における環境教育の実際	（内　　容）社会教育として、環境問題にどう取り組むのか。地域と学校現場の両方取り組みについて理解する。 （必要な準備）
第13回	7．学習成果を生かす ①生涯学習とボランティア	（内　　容）人びとが、学んだ成果を活用して、他者の社会教育・生涯学習をボランティアとして支援する「生涯学習ボランティア」が注目されている。学びをボランティアとして生かすことの意味と具体的な事例を理解する。 （必要な準備）
第14回	7．学習成果を生かす ②生涯学習ボランティアの活動	（内　　容）生涯学習ボランティアの具体的な活動について理解する （必要な準備）
第15回	7．学習成果を生かす ③学校支援ボランティア活動	（内　　容）生涯学習の成果を生かす場として、今、学校が注目されている。子どもたちの豊かな育ちのために、地域の力をボランティアとして生かす、学校支援ボランティアの活動について理解する。 （必要な準備）

授業名	**社会調査実習Ⅰ**	開講学年	3回生	単位数	
英文名	Social Survey Training I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは、職業、ファッション、余暇などに関することを予定している。本講義では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。 本授業は、調査の作業プロセスを授業の進行に伴って進める。社会調査実習ⅠとⅡと連続している。前期に開講される社会調査実習Ⅰに引き続き、1. 調査の実施、2. データの整理、集計、解析、3. 補充調査、4. 調査結果の分析と考察、5. 全体討論、報告書の執筆、6. 報告書の編集、調査のまとめの議論までを含む。
学習成果到達目標	1）調査設計ができるようになる。 2）アンケート調査の企画、実践ができるようになる。 3）変数間の相関関係など分析し、説明できるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	授業時に資料を配布します。
参考書	授業時に適宜紹介します。
留意事項	調査の企画、設計から実践までを、社会調査実習ⅠとⅡは別々の授業ではなく連続していますので、注意してください。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**社会調査実習Ⅰ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の目標や進め方について説明します。 （必要な準備）
第2回	社会調査の企画Ⅰ　--情報資源の発掘	（内　　容）図書館とインターネットの使いこなし方にについての実践 （必要な準備）新聞記事や雑誌などから、いくつか興味のあるものをとりあげ、キーワードごとに整理していく（60分）。
第3回	社会調査の企画Ⅱ　--問題設定への道程	（内　　容）問題設定していくための道筋について説明していきます。 （必要な準備）興味のあるものに関するキーワードを通して、先行研究を収集する（60分）。
第4回	社会調査の企画Ⅲ　--先行研究の整理	（内　　容）先行研究の整理の実践 （必要な準備）収集した先行研究において、どのような問題設定がされているのか、整理する（60分）。
第5回	社会調査の企画Ⅳ　--既存の統計データへのアクセス	（内　　容）既存の統計データのアクセスの実践 （必要な準備）収集した先行研究において、どのようなデータが使われているのか、整理する（60分）。
第6回	社会調査の企画Ⅴ　--統計データの加工について	（内　　容）統計データの加工の仕方についての実践 （必要な準備）配布資料を読んでおく（60分）。
第7回	社会調査の基本ルールⅠ　--仮説について	（内　　容）仮説とは何かについて説明する。 （必要な準備）収集した先行研究について、何を問題とし、何を明らかにしたのか整理する（60分）
第8回	社会調査の基本ルールⅡ　--仮説を使いこなすために	（内　　容）仮説の構成について説明します。 （必要な準備）収集した先行研究をとりあげ、どのような仮説が設定されているのか整理する（60分）。
第9回	社会調査の基本ルールⅢ　--クロス集計について	（内　　容）独立変数、従属変数について説明する。 （必要な準備）収集した先行研究をとりあげ、どのような表や図を用いて、どのような説明をしているのか、整理する（60分）。
第10回	社会調査の設計Ⅰ--質問文について	（内　　容）質問文の作成に関する実践 （必要な準備）興味のあることをテーマとした既存のアンケートの調査票を収集する（60分）。
第11回	社会調査の設計Ⅱ　--選択肢について	（内　　容）選択肢の作成に関する実践 （必要な準備）収集した調査票のなかで、興味のある質問、選択肢を抽出する（60分）
第12回	社会調査の設計Ⅲ　--調査票全体について	（内　　容）調査票の構成に関する実践 （必要な準備）調査票の全体構成を作成してみる（60分）
第13回	調査票の作成Ⅰ	（内　　容）調査票の作成に関する実践 （必要な準備）先行調査を参考にして、担当分の質問内容に関して作成する（60分）。
第14回	調査票の作成Ⅱ	（内　　容）調査票の作成に関する実践 （必要な準備）チームで、作成してきた質問内容をつき合わせて、調整する（60分）
第15回	調査票の作成Ⅲ	（内　　容）調査票の作成に関する実践 （必要な準備）再度、チームで、調査内容をつき合わせて、構成し、間違いなく回答できるものであるか、確認してみる（60分）。

授業名	**社会調査実習Ⅱ**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Social Survey Training II	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**湯浅　俊郎**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは、職業、ファッション、余暇などに関することを予定している。本講義では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。 本授業は、調査の作業プロセスを授業の進行に伴って進める。　まずは、1.統一テーマの決定からはじまって、2.先行研究・文献の収集と検討、3.既存の統計データなどの収集、分析、4.個人別のテーマの設定、調査方法の検討、5.個別テーマ、方法の精緻化、6.グループ・ディスカッションを経て、7.調査項目の確定、8.調査票の作成、　9.予備調査の実施まで進めていく。その中で、資料収集、仮説や分析枠組みの解説と議論、操作化、質問項目と選択肢の作成、レイアウトへの配慮などの調査票作成、挨拶文、お礼状などの作成に加えて、データ回収作業までを実際におこなう。
学習成果到達目標	1）調査設計ができるようになる。 2）アンケート調査の企画、実践ができるようになる。 3）変数間の相関関係など分析し、説明できるようになる。
評価方法	定期試験　□筆記試験　■レポート　□制作物 （　60　%）　□口述　□実習　□実技 平常試験　□筆記試験　□レポート　□制作物 （　40　%）　□口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	授業時に資料を配布します。
参考書	授業時に適宜紹介します。
留意事項	調査の企画、設計から実践まで、社会調査実習ⅠとⅡは別々の授業ではなく連続していますので、注意してください。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

授　業　名	**社会調査実習Ⅱ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内　　容）授業の進め方の説明と目標について （必要な準備）
第2回	サンプリングについて	（内　　容）調査対象者名簿の作成 （必要な準備）実査に用いる調査票の校正（60分）
第3回	調査票の配布から回収まで	（内　　容）調査票の配布から回収までの計画をたてる。 （必要な準備）調査票の配布から回収まで計画表を作成してみる（60分）。
第4回	エディティング	（内　　容）エディティングについて説明します。 （必要な準備）記入漏れなどをチェックする（60分）。
第5回	コーディング	（内　　容）コーディングについて説明します。 （必要な準備）有効票、無効票をチェックする（60分）。
第6回	データ入力の実践Ⅰ	（内　　容）エクセルへのデータ入力の仕方について説明します。 （必要な準備）コーディング・シートを作成してみる（60分）。
第7回	データ入力の実践Ⅱ	（内　　容）コーディング・シートへの転記とチェックの実践 （必要な準備）回収した調査票の数値をコーディングシートへ転記する（60分）。
第8回	データ入力の実践Ⅲ	（内　　容）コーディング・シートへの転記とチェックの実践 （必要な準備）回収した調査票の数値をコーディングシートへ転記する（60分）。
第9回	データ入力の実践Ⅳ	（内　　容）コーデイング・シートからエクセルへの入力とチェックの実践 （必要な準備）データのエクセルへの入力（60分）
第10回	データ入力の実践Ⅴ	（内　　容）コーデイング・シートからエクセルへの入力とチェックの実践 （必要な準備）データのエクセルへの入力（60分）
第11回	データ分析Ⅰ	（内　　容）単純集計について （必要な準備）講義資料を読んでおく（60分）
第12回	データ分析Ⅱ	（内　　容）クロス集計について （必要な準備）　担当する質問項目の単純集計の結果について、レポートにまとめる（90分）。
第13回	データ分析Ⅲ	（内　　容）各チームで、集計結果を報告し、議論する。 （必要な準備）　担当する質問項目のクロス集計の結果について、レポートにまとめる（90分）。
第14回	報告書の作成Ⅰ	（内　　容）報告書の作成の実践 （必要な準備）各チームで、調査から得られた知見を整理する（90分）
第15回	報告書の作成Ⅱ	（内　　容）報告書の作成の実践 （必要な準備）実際に、報告した上で、再度、報告書を修正する（90分）。

授業名	**データ解析**	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Data Analysis	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**浅田　瞳**	対象学生	現代家政3回生		

授業の概要	調査報告書やフィールドワーク論文などが読めるための知識・技術を習得することを目的とする。本授業では、質的調査、量的調査双方の基礎的な技能を実践するため、簡単な質問紙作成やインタビュー調査を行う。また、雑誌分析や、エクセルなどの統計ソフトを利用し、単純集計、クロス集計、グラフ作成など実際のデータを用いて、分析の仕方を学んでいく。特に文系学生において苦手な人が多い数学的な知識を有する量的なデータに関しては、変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、類似相関を理解しながらデータに慣れ、分析手法を身につけていく。
学習成果到達目標	1）自分の調査の必要に応じた質問紙を作成することができる 2）面接法の基本的な技能について実践できる 3）単純集計、クロス集計、検定についてエクセル等を用いて実践できる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（分析力　）　□（　）
テキスト	特になし。
参考書	授業中に適宜配布
留意事項	データ分析や質問紙作成のため、実際にPCで作業をする時間が多くなります。 なるべく欠席しないようにしてください。
オフィスアワー	第１回目の授業で告知

授　業　名	**データ解析**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス：講義のすすめかたについて	（内　　容）ガイダンス：講義のすすめかたについて （必要な準備）
第2回	質的調査と量的調査の違い	（内　　容）それぞれの調査法のメリットとデメリットについて考える （必要な準備）
第3回	質的データの読み方とまとめかた	（内　　容）参与観察、インタビュー、内容分析について違いを理解する （必要な準備）
第4回	質的調査：フィールドワークとは	（内　　容）フィールドワークとは何かについて説明します。 （必要な準備）前の時間に配布した資料に目を通しておくこと
第5回	フィールドワークの実例Ⅰ	（内　　容）参与観察の実例について理解する （必要な準備）
第6回	フィールドワークの実例Ⅱ	（内　　容）雑誌などを用いた内容分析の実例について考える （必要な準備）
第7回	フィールドワークの実例Ⅲ	（内　　容）インタビュー調査の実例について理解する （必要な準備）
第8回	統計資料の利用と読み取り	（内　　容）官庁統計の種類・収集の仕方、官庁統計の読み方について理解する （必要な準備）
第9回	量的調査のデータ分析Ⅰ	（内　　容）量的な調査の方法と特徴について理解する （必要な準備）質問紙を作成しておく
第10回	量的調査データの分析Ⅱ	（内　　容）単純集計、度数分布、代表値などの記述統計の読み方を理解する （必要な準備）
第11回	量的調査データの分析Ⅲ	（内　　容）散布度、クロス集計などの記述統計の読み方を理解する （必要な準備）
第12回	量的調査データの分析Ⅳ	（内　　容）因果関係について理解する （必要な準備）
第13回	量的調査データの分析Ⅴ	（内　　容）相関関係について理解する （必要な準備）
第14回	量的調査データの読解Ⅰ	（内　　容）数量データを用いて、表やグラフを作成する。 （必要な準備）
第15回	量的調査データの読解Ⅱ	（内　　容）数量データを加工する。 （必要な準備）

授業名	**フードスペシャリスト論u**	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Food Specialist	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	流通・販売分野においてフードスペシャリストが担っている専門的役割を明確にしていく。また、フードスペシャリストとして食品の品質評価判定や情報の提供など専門的な仕事に取り組むために必要な知識・技術について学んでいく。				
学習成果到達目標	1）フードスペシャリストの職責について理解できる。 2）食の専門家として必要な知識と技術について理解できる。 3）食の情報を正しく取捨選択することができる。				
評価方法	定期試験（ 50 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技	平常試験（ 50 %）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（汎用的能力　　）　□（　　）			
テキスト	『四訂フードスペシャリスト論第４版』日本フードスペシャリスト協会　著・編（建帛社）『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集2018年版』日本フードスペシャリスト協会　著・編（建帛社）				
参考書	使用しない。				
留意事項	資格認定試験過去問題を解き、これまでに学習したフードスペシャリスト必修科目の復習も同時におこなう。各教科のテキストの用意をしておくこと。				
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授　業　名	フードスペシャリスト論u

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	フードスペシャリストとは	（内　　容）フードスペシャリストの概念について （必要な準備）フードスペシャリストの資格科目の教科書・ノートを見直しておく（３０分）
第2回	フードスペシャリストの社会における責務	（内　　容）フードスペシャリストの業務内容、活躍分野と社会においてフードスペシャリストが果たすべき責務について （必要な準備）教科書p1-28を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく（６０分）
第3回	人類のあゆみと食物	（内　　容）人類の食物調達の変化について （必要な準備）教科書p29-46を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく（６０分）
第4回	世界の食①食作法、タブーについて	（内　　容）環境の違いによる食の多様性について概説する （必要な準備）教科書p47-54を読んでおく「フードコーディネート論」の復習をして過去問を解いておく（９０分）
第5回	世界の食②ヨーロッパ・アジアの食事情	（内　　容）ユーラシア大陸各国の食の現状について （必要な準備）世界の食糧事情について調べておく、「フードコーディネート論」の過去問を解いておく（３０分）
第6回	世界の食③アメリカ大陸・アフリカの食事情	（内　　容）南北アメリカとアフリカ大陸各国の食の現状について （必要な準備）教科書p55-62を読んでおく、「栄養と健康」の復習をして過去問を解いておく（３０分）
第7回	日本の食の変化①縄文時代から鎌倉時代の食	（内　　容）日本の古代から中世の食を概説し、食の伝統について考えていく （必要な準備）教科書p63-69を読んでおく、「栄養と健康」の過去問を解いておく（３０分）
第8回	日本の食の変化②江戸、明治・大正の食	（内　　容）日本の近世から近代の食を概説し、食の伝統について考えていく （必要な準備）教科書69-73を読んでおく、「食物学」の過去問を解いておく(６０分）
第9回	日本の食の変化③戦後から現代の食	（内　　容）日本の戦後から現代までの食の変化について概説し伝統食について考えていく （必要な準備）教科書p81-95を読んでおく、「食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく（６０分）
第10回	現代の食の問題点について	（内　　容）現代社会が抱える食の問題について （必要な準備）教科書p96-104を読んでおく、食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく（９０分）
第11回	食品産業の変遷と役割	（内　　容）我々の食生活を支えている食品産業について体系的に理解できるように概説する （必要な準備）教科書p105-124「食品流通・消費」の復習をして過去問を解いておく
第12回	食品の品質規格と表示①JAS法、食品表示法	（内　　容）食品表示の重要性と法制度について （必要な準備）教科書p125-156、「食品流通・消費」の過去問を解いておく（９０分）
第13回	食品の品質規格と表示②保健機能食品， 表示に関する法律	（内　　容）特別用途食品と保健機能食品の分類、そのほかの法律による表示について （必要な準備）教科書p156-172を読んでおく、「食品の安全性」の教科書を読みなおして過去問を解いておく（９０分）
第14回	食情報の信頼性	（内　　容）食情報の取捨選択について （必要な準備）教科書p174-189を読んでおく、「食品の安全性」の過去問を解いておく（９０分）
第15回	フードスペシャリストとして取り組むこと	（内　　容）これまでの学びからフードスペシャリストとしてどのような姿勢で食生活に取り組むかについて考える （必要な準備）これまでの復習を行うとともにこれからのあるべき食生活について考えておく（３０分）

授業名	フードコーディネート論u	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Food Coordination	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**豊原　容子**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	「食」とは生きるために必要な栄養の摂取のみならず、近年、心の栄養という面でもその重要性が注目されている。そのため演出することで、本当においしい状態や心地よい環境で食を提供することは大変重要であるといえる。そこでこの授業では、わが国および諸外国の食文化や調理文化、そしてテーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどについて学ぶとともに、食環境にも触れ、食生活をトータルにコーディネート出来る能力を養う。				
学習成果到達目標	1）「食」における精神的な意義を理解する。 2）これからの食生活を豊かなものにコーディネートできる力をつける。 3）「食」に関する企画を立てることができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技		
評価基準	主たる評価の観点 ■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■（企画力　　）　□（　　）				
テキスト	『三訂フードコーディネート論』日本フードスペシャリスト協会編 建帛社				
参考書					
留意事項	フードスペシャリスト資格認定試験を意識した授業内容となる。資格取得希望者は、12月の試験に備えて、毎時間、試験勉強のつもりで受講すること。				
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。				

授　業　名	フードコーディネート論u

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	フードコーディネートの基本理念	（内　　容）おいしさ、もてなしの意味を学ぶ （必要な準備）テキストp.1～13を読んでおく(1時間)
第2回	食事の文化－日本の食事の歴史	（内　　容）日本の食事文化について学ぶ （必要な準備）テキストp.15～27を読んでおく(30分)
第3回	食事の文化　－特別な日の食事	（内　　容）特別な日の食文化について学ぶ （必要な準備）テキストp.27～29を読んでおく(30分)
第4回	食事の文化－諸外国の食文化	（内　　容）諸外国の食事文化について学ぶ （必要な準備）テキストp.29～33を読んでおく(30分)
第5回	食卓のコーデイネート－日本料理の食卓	（内　　容）日本の食器・食具について学ぶ （必要な準備）テキストp.35～43を読んでおく(30分)
第6回	食卓のコーデイネート－中国料理、西洋料理の食卓	（内　　容）西洋および中国の食器・食具について学ぶ （必要な準備）テキストp.43～51を読んでおく(30分)
第7回	テーブルセッティング	（内　　容）テーブルセッティングの基本ルールとテーブルコーディネートのポイントを学ぶ （必要な準備）テキストp.51～55を読んでおく(30分)
第8回	食事のサービスとマナー－日本料理	（内　　容）日本料理のサービスとマナーを学ぶ （必要な準備）テキストp.57～66を読んでおく(30分)
第9回	食事のサービスとマナー－中国料理、西洋料理	（内　　容）中国料理、西洋料理のサービスとマナーを学ぶ （必要な準備）テキストp.67～80を読んでおく(30分)
第10回	メニュープランニング	（内　　容）献立作成に必要な知識を学ぶ （必要な準備）テキストp.81～98を読んでおく(1時間)
第11回	食空間のコーディネートの基礎	（内　　容）食空間のコーディネートの基礎を学ぶ （必要な準備）テキストp.99～121を読んでおく(1時間)
第12回	フードビジネスマネジメント	（内　　容）レストランビジネスの展開について学ぶ （必要な準備）テキストp.123～134を読んでおく(30分)
第13回	フードビジネスの投資・収支計画	（内　　容）投資計画、収支計画の作成について学ぶ （必要な準備）テキストp.134～143を読んでおく(30分)
第14回	食企画の実践ー企画案のたてかた	（内　　容）食企画のたてかたを学ぶ （必要な準備）テキストp.145～163を読んでおく(30分)
第15回	食企画の実践ー企画案作成 授業のまとめ	（内　　容）企画案のレポート提出、これまでの復習 （必要な準備）企画案をたてる（1時間）

授業名	**ファイナンシャル・プランニング論**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Financial Planning	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**安本　貴子**	対象学生	現代家政2回生		

授業の概要	充実した豊かな人生設計（ライフプラン）に欠かすことのできないのが、ファイナンシャル・プランニングである。講義では、そのファイナンシャル・プランニングに必要な「お金を基礎知識」を分かり易く説明する。担当者は実務家として家計に関する相談業務に携わっており、事例を交えた実践的な講義を行う。社会や人間への理解を深め、金融自由化の時代を健全に生き抜くために必要な能力を身に付ける。
学習成果到達目標	（1）お金に関する基礎知識を習得し、自分自身の人生設計を立てることができる。 （2）金融や経済の仕組みを知ることができる。 （3）3級FP技能士の資格取得のために必要な基礎知識を得ることができる。
評価方法	定期試験（ 80 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 20 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）
テキスト	滝澤ななみ著　2018－2019年版「みんなが欲しかった！FPの教科書　3級」TAC出版
参考書	授業にて指示する。
留意事項	常に動いている経済について新聞やニュースから情報を受け取る。金融用語に慣れるために、予習復習を習慣化する。
オフィスアワー	適宜、担当授業の前後に実施する。

授　業　名	ファイナンシャル・プランニング論

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）授業計画について。 （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく（30分）
第2回	ライフプランニングー社会保障	（内　　容）公的な保険である社会保険について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）自分自身の健康保険を確認する。
第3回	ライフプランニングー公的年金	（内　　容）公的な年金を学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第4回	リスクマネジメントー保険制度の概要	（内　　容）社会保険と任意保険の違いを学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第5回	リスクマネジメントー生命保険	（内　　容）色々な生命保険の種類について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分） 自分の生命保険について家族に聞いてみる。
第6回	リスクマネジメントー損害保険	（内　　容）損害保険について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分） ご家庭で加入の損害保険について家族に聞いてみる。
第7回	タックスプランニングー日本の税制	（内　　容）日本の税制と税金の種類について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第8回	タックスプランニングー所得税の基本	（内　　容）所得税の仕組みについて学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第9回	タックスプランニングー所得税の計算	（内　　容）所得税の計算方法について学ぶ。 （必要な準備）テキストP.91～P.151を読む（20分）
第10回	金融資産運用ー金融・経済の基本	（内　　容）経済・景気の指標、インフレとデフレについて学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第11回	金融資産運用ー金融商品	（内　　容）金融商品とリスク分散について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第12回	不動産	（内　　容）一般的な不動産の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第13回	相続・贈与	（内　　容）相続の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第14回	相続・贈与	（内　　容）贈与の基本について学ぶ。 （必要な準備）テキストの対応部分を読む（30分）
第15回	ライフプランと提案書	（内　　容）提案書について考える。 （必要な準備）理想のライフプランを考える（60分）

授業名	**ファイナンシャル・プランニング演習**	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Financial Planning Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**安本　貴子**	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	ファイナンシャル・プランニングとは、ライフプラン上の目標を達成するために、総合的な資産設計の提案を行うものであり、そのためには、教育資金・住宅資金・老後資金・社会保障・公的年金・生命保険・損害保険・金融商品・税金・不動産・相続など、あらゆる「お金の知識」が必要不可欠である。そうした実務的な事項を取り上げ、実践的な授業を行う。				
学習成果到達目標	（1）お金に関する基礎知識を習得し、自分自身の人生設計を立てることができる。 （2）金融や経済の仕組みを知ることができる。 （3）3級FP技能士の資格取得のために必要な基礎知識を得ることができる。				
評価方法	定期試験（ 80 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（ 20 %） □筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技			
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □（　　）　□（　　）			
テキスト	滝澤ななみ著　2018－2019年版「みんなが欲しかった！FPの教科書　3級」TAC出版				
参考書	授業にて指示する。				
留意事項	常に動いている経済について新聞やニュースから情報を受け取る。金融用語に慣れるために、予習復習を習慣化する。				
オフィスアワー	適宜、担当授業の前後に実施する。				

授　業　名	**ファイナンシャル・プランニング演習**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ファイナンシャル・プランニングとは	（内　　容）ライフイベント表作成について学ぶ。 （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく（30分） 自分の将来に起こり得るライフイベントを考える(30分)
第2回	ライフプランニングー社会保障	（内　　容）社会保険の保険料と保障内容について学ぶ。 （必要な準備）標準報酬月額とは何かを調べる（30分）
第3回	ライフプランニングー公的年金	（内　　容）公的年金の保険料と年金額について学ぶ。 （必要な準備）国民年金保険料の推移を調べる（30分）
第4回	リスクマネジメントー保険制度の概要	（内　　容）人の一生においてのリスクについて考える。 （必要な準備）「リスク」という言葉の意味を調べる（30分）
第5回	リスクマネジメントー生命保険	（内　　容）生命保険証券の読み取り方を学ぶ。 （必要な準備）生命保険の種類を調べる（30分）
第6回	リスクマネジメントー損害保険	（内　　容）損害保険証券の読み取り方を学ぶ。 （必要な準備）損害保険の種類を調べる（30分）
第7回	タックスプランニングー給与所得①	（内　　容）源泉徴収票の読み取り方を学ぶ。 （必要な準備）給与所得控除について調べる（30分）
第8回	タックスプランニングー給与所得②	（内　　容）源泉徴収票を作成する。 （必要な準備）各種所得控除について調べる（30分）
第9回	タックスプランニングー個人の所得	（内　　容）確定申告書の読み取り方を学ぶ。 （必要な準備）所得にはどのような種類があるか調べる（30分）
第10回	金融資産運用ー金融・経済の基本	（内　　容）過去の景気の指標読み取り方を学ぶ。 （必要な準備）経済指標の種類を調べる（30分）
第11回	金融資産運用ー金融商品	（内　　容）主な金融商品とその内容について学ぶ。 （必要な準備）金融商品の種類を調べる（30分）
第12回	不動産	（内　　容）不動産の税金について学ぶ。 （必要な準備）不動産にかかる税金の種類を調べる（30分）
第13回	相続・贈与	（内　　容）相続の税金について学ぶ。 （必要な準備）相続財産の種類を調べる（30分）
第14回	相続・贈与	（内　　容）贈与の税金について学ぶ。 （必要な準備）贈与財産の種類を調べる（30分）
第15回	ライフプランと提案書	（内　　容）キャッシュフロー表を作成する。 （必要な準備）平均寿命の推移を調べる（30分）

授業名	**ソーシャルワーク演習Ⅳ**	開講学年	4回生	単位数	1単位
英文名	Social Work PracticeⅣ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**武田　康晴**	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	演習形式の授業を通して、ソーシャルワークに係る専門性（価値観・知識・技術）身につけることを目標とする。福祉現場におけるコミュニケーションについては特に面接技術を様々な、ワークを体験することや、ロールプレイを通して、ソーシャルワークの過程にそって学び、毎回の演習の気づきを整理し、フィードバックする時間を持つ。				
学習成果到達目標	1）ソーシャルワーカーとしての専門的なコミュニケーションにとって必要とされることを理解する 2）ソーシャルワーカーとしての基本的な面接技術を身につける。 3）ソーシャルワークに係る専門性を身につける。				
評価方法	定期試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 50 %） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点	■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □（ ） □（ ）			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項					
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授　業　名	**ソーシャルワーク演習Ⅳ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内　　容）オリエンテーション （必要な準備）
第2回	ソーシャルワークの技法１	（内　　容）面接におけるコミュニケーション「待つ」を身につけるワークを行う。 （必要な準備）面接におけるコミュニケーション」「待つ」について自分の考えをまとめる。
第3回	ソーシャルワークの技法２	（内　　容）面接におけるコミュニケーション「聴く」を身につけるワークを行う。 （必要な準備）面接におけるコミュニケーション「聴く」について自分の考えをまとめる。
第4回	ソーシャルワークの技法３	（内　　容）面接におけるコミュニケーション「待つ・聴く・理解する・反射する」を身につけるワークを行う。 （必要な準備）面接におけるコミュニケーション「理解する。反射する」について自分の考えをまとめる。
第5回	ソーシャルワークの技法４	（内　　容）身に付けた技術の、面接場面への応用をロールプレイで行う。 （必要な準備）「待つ・聴く・理解する・反射する」を振り返っておく。
第6回	ソーシャルワークの技法５	（内　　容）応答技法4例を身につけるワークを行う。 （必要な準備）応答技法4例を調べておく。
第7回	ソーシャルワークの技法６	（内　　容）応答技法4例を事例の中で体験する。 （必要な準備）応答技法4例をまとめる。
第8回	ロールプレイ１	（内　　容）事例を作成する。 （必要な準備）事例を考えておく。
第9回	ロールプレイ２	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）作成した、事例を理解しておく。
第10回	ロールプレイ３	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。
第11回	ロールプレイ４	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。
第12回	ロールプレイ５	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。
第13回	ロールプレイ６	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。
第14回	ロールプレイ７	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う。 （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。
第15回	ロールプレイ８	（内　　容）各自作成したケースでのロールプレイを行う （必要な準備）前回の事例から学んだことを振り返っておく。

授業名	**ソーシャルワーク演習Ⅴ**	開講学年	4回生	単位数	1単位
英文名	Social Work PracticeⅤ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	**武田　康晴**	対象学生	現代家政4回生		

授業の概要	ソーシャルワーク実習によって得た個別の体験を一般化、理論化して修得することを目的とする。実習で得た個別の体験を材料とした演習を通じて相談援助の専門性を学ぶ。自分の体験や他者の体験を共有し合う中で、再現可能な形で理論化して修得していく。事例報告の準備として、福祉現場の課題の整理、サービス内容に関する課題の整理、実習評価表を材料にした課題の整理を行う。そして事例報告を行う。最後に、模擬ケースカンファレンスを行い、ソーシャルワーク演習の全体総括を行う。
学習成果到達目標	1）これまで学んできた理論学習を根拠に、ソーシャルワーク実習での体験を分析・解説することができる。 2）ソーシャルワーク過程の各項目の意義について、事例に事例を用いて解説できるようになる。 3）ケース会議、ケース検討会の材料を揃え、ケース検討会を仕切ることができるようになる。
評価方法	定期試験（ 60 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　）　□（　）
テキスト	適宜資料を配付する。
参考書	適宜資料を配付する。
留意事項	とにかく演習への参加を重視する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00

授　業　名	**ソーシャルワーク演習Ⅴ**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーションと演習の体験	（内　　容）演習内容の解説 （必要な準備）シラバスを読んでおく。
第2回	インテークでの演習　シート・事例	（内　　容）インテークシートを使った演習と事例検討 （必要な準備）事前配布した事例を読んでおく。
第3回	インテークでのケース会議	（内　　容）インテークシートを使った模擬ケース会議 （必要な準備）前回の事例を復習しておく。
第4回	アセスメントでの演習①　シートの検討	（内　　容）アセスメントシートを使った演習 （必要な準備）事前配布したシートに目を通しておく。
第5回	アセスメントでの演習②　事例検討	（内　　容）アセスメントシートを使った事例検討 （必要な準備）事前配布した事例を読んでおく。
第6回	アセスメントでのケース会議	（内　　容）アセスメントシートを使った模擬ケース会議 （必要な準備）前回、前々回の事例を復習しておく
第7回	プランニングでの演習①　シートの検討	（内　　容）ケアプラン、個別支援計画などシート確認 （必要な準備）事前配布したシートに目を通しておく。
第8回	プランニングでの演習②　事例検討	（内　　容）「計画表」を使った事例検討 （必要な準備）事前配布した記入済み「計画表」を見ておく。
第9回	プランニングでのケース会議①　計画作成	（内　　容）アセスシートと計画表を使ったケース会議 （必要な準備）事前配布した事例に目を通しておく。
第10回	プランニングでのケース会議②　計画の検討	（内　　容）ケアプラン、個別支援計画を使ったケース会議 （必要な準備）第7回～前回の事例を復習しておく。
第11回	モニタリングでの演習　事例検討	（内　　容）モニタリングシートを使った演習と事例検討 （必要な準備）事前配布した「計画表」を見ておく。
第12回	モニタリングでのケース会議	（内　　容）モニタリングシートを使ったケース会議 （必要な準備）ケアプラン、個別支援計画を見ておく。
第13回	エバリュエーションでの演習	（内　　容）最終評価と効果測定に関する演習 （必要な準備）事例概要に目を通しておく。
第14回	スーパービジョンに関する演習	（内　　容）スーパービジョンに関する短い講義と演習 （必要な準備）事例概要に目を通しておく。
第15回	ソーシャルワーク演習の総括	（内　　容）講義、演習、実習を関連づけて総括 （必要な準備）これまでのまとめ及び振り返りシートに目を通しておく。

授業名	**総合演習Ⅰ（管理栄養士）**	開講学年	3回生	単位数	1単位
英文名	Integrated Study Ⅰ (national registered dietitian)	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	**饗庭　照美・竹市　仁美・富安　広幸・平　正人**	対象学生	食物栄養3回生		

授業の概要	専門分野の各講義や実習で学習した内容を発展させ理解を深めるために、少人数のグループで、臨地実習を想定した課題設定、情報収集、研究実践を行い、解決策を考案し、実践的に課題解決に取り組むことで、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。また、臨地実習の事前指導を行うことで、実習を効果的に行う準備とし、管理栄養士としての実践力をつける。
学習成果到達目標	1）管理栄養士としての基礎を修得して、実践的な力をつける。 2）臨地実習に向けて、総合力、応用力をつける。
評価方法	定期試験（ 60 %）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（ 40 %）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価の観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□（　　）　□（　　）
テキスト	適宜プリント配布 栄養士必携　平成30年度
参考書	
留意事項	臨地実習における専門的知識および技術の統合を図るための事前指導を含む。
オフィスアワー	授業の最初に伝えます

授　業　名	**総合演習Ⅰ（管理栄養士）**

授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	管理栄養士の役割と業務について	（内　　容）オリエンテーション 管理栄養士の役割について確認する （必要な準備）
第2回	グループごとに臨地実習を想定した課題を設定	（内　　容）福祉施設について学ぶ （必要な準備）
第3回	情報収集	（内　　容）担当分野の問題点について現状を調べる（グループワーク） （必要な準備）
第4回	研究実践	（内　　容）担当分野の課題解決策を調べてまとめる（グループワーク） （必要な準備）
第5回	グループごとに発表	（内　　容）担当分野の現状と課題への取り組みを発表する （必要な準備）
第6回	臨地実習の目的と意義	（内　　容）臨地実習の目的と意義について詳しく学ぶ （必要な準備）
第7回	臨地実習の心構え	（内　　容）実習生としてのマナーについて考える （必要な準備）
第8回	特定給食施設における給食運営について	（内　　容）特定給食施設における給食業務の実際について学ぶ （必要な準備）
第9回	臨地実習「給食の運営」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（内　　容）臨地実習での目標等を設定する （必要な準備）
第10回	臨床現場での栄養食事指導の現状	（内　　容）栄養指導における管理栄養士の役割と使命について学ぶ （必要な準備）
第11回	「臨床栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（内　　容）栄養管理計画の作成と評価、チーム医療活動の実際について学ぶ （必要な準備）
第12回	公衆栄養行政の現状と事業の実際	（内　　容）栄養行政を取り巻く現状の課題と法律や施策との関係を学ぶ （必要な準備）
第13回	「公衆栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（内　　容）臨地実習に出向く際の準備や各自のテーマについて考える （必要な準備）
第14回	特定給食施設における給食マネジメントについて	（内　　容）臨地実習先で確認・検討する点等をグループでまとめる （必要な準備）
第15回	「給食経営管理臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（内　　容）給食の運営に関してのグループディスカッションを行う （必要な準備）

実習名	**教育実習Ⅰ（中・高）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**渡邊　雄一**		
実習の概要	教育実習とは教職に必要な単位数を満たしているものが、一定期間学校現場に身をおき、教師（見習い）として実際の教育活動に取り組むことである。単に現場を体験するのとは異なり、大学で学んだ理論と知識・技術を活かしながら、実習先の教員の指導のもと、あらゆる教育活動に取り組まねばならない。子ども一人ひとりの発達特徴やクラスの雰囲気をつかみ、クラス活動や授業を計画実施するだけでなく、組織としての学校とその中での教員の役割の全体像を学ぶことが求められる。実習を通して、教員としての自覚と責務の重さを新たにし、さらなる資質向上を目指してほしい。		
備考	本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習にでる要件である。実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。		

実習名	**教育実習Ⅰ（幼・小）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**松浦　真理・加藤　倫子**		
実習の概要	教育実習は教員になることを希望し、免許取得を目指す一連の学びの最終段階として、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修と連動して行われるものである。学校現場で幼児・児童とともに過ごして彼らの発達段階や特性を観察・理解し、保育や授業実践に関わって学級経営を学び、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。幼稚園・小学校は4週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、幼児・児童を育てる意味と方法だけでなく学校組織の一員としての役割と責任を見出すことが期待されている。観察・参加・授業実習の3段階が主な内容である。(前半部分の実習に該当する。)		
備考	本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習にでる要件である。実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。		

実習名	**教育実習Ⅱ（中）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**渡邊　雄一**		
実習の概要	教育実習は、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修の一端として行われるものである。教員の仕事、授業の進め方、児童・生徒の理解、保護者・地域の願い等、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。中学校・高等学校は３週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、児童・生徒を育てる意味とその方法はもちろん、学校組織の一員としての役割と責任を見出すことを期待している。観察・参加・授業実習の3段階が主な内容である。		
備考	本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習要件である。 教育実習は、教員を目指そうとする高邁な意志をもつ学生の支援をしようという実習先の好意によって実現されていることをしっかり自覚し、真摯な態度で臨むことが期待される。		

実習名	**教育実習Ⅱ（幼・小）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**松浦　真理・加藤　倫子**		
実習の概要	教育実習は教員になることを希望し、免許取得を目指す一連の学びの最終段階として、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修と連動して行われるものである。学校現場で幼児・児童とともに過ごして彼らの発達段階や特性を観察・理解し、保育や授業実践に関わって学級経営を学び、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。幼稚園・小学校は4週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、幼児・児童を育てる意味と方法だけでなく学校組織の一員としての役割と責任を見出すことが期待されている。観察・参加・授業実習の3段階が主な内容である。（後半部分の実習該当する。）		
備考	本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習にでる要件である。実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。		

実習名	**保育実習Ⅰ（施設）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**山川　宏和**		
実習の概要	保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。その専門性を実地（現場）経験を通して知り、保育士として必要な基礎的知識・技能を習得することを目的としている。実習先は、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所支援、障害者支援施設であり、いずれかの施設を１か所配当する。期間は、２回生秋学期の春休み（２～３月）のうち10日間（休みを除く）であり、実習時間は、80時間以上を行わなければならない。実習形態は、原則宿泊による実習であるが、一部は通勤になる場合がある。入所・通所の違いはあっても、利用者の生活の場での実習であるため、生活援助に必要な保育士の資質について、中心的に学ぶ。児童・障害児（者）の日常生活に参加し、児童（利用者）の理解を深めるとともに、施設の機能と保育士の職務、他の関係機関等との連携についても学ぶ。		
備考	保育実習指導で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習することができなくなることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。心構えと努力を特に必要とする。保育実習Ⅰの単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。		

実習名	**保育実習Ⅰ（保育所）**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**西川　由紀子・近本　佳子・芹澤　出**		
実習の概要	保育実習は、それまでに習得した保育に関する知識・技能を総合し、現場で応用・実践する機会である。学生自身が保育の専門性についてさらに具体的に理解するとともに、自己の課題や目標を明確化していくことが期待される。保育所の機能を学んだ上で、現場に赴き、生活の流れを理解する。そこでの子どもたちの姿から発達段階を把握し、それに応じた保育者の援助のあり方を学ぶ。また、設定保育を実施することによって、指導計画の大切さを実感する。		
備考	保育実習指導で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習することができなくなることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。心構えと努力を特に必要とする。保育実習Ⅰの単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。		

実習名	**保育実習Ⅱ**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**西川　由紀子・近本　佳子・芹澤　出**		
実習の概要	保育実習Ⅰで学んだことに基づいて、さらに保育士として必要な資質・能力・技術を習得する場とする。個々の子どもと関わりつつ、子ども集団全体に目配りをして保育をすすめていく技術や保育者連携を学んだり、障害のある子どもとの関わりを考える。また、保護者の子育て支援のありよう、また地域の福祉ニーズにこたえる保育所の役割についても理解し、常に子どもの最善の利益を求める保育士としての姿を学ぶ機会とする。		
備考	保育実習指導Ⅱで事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習することができなくなることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導Ⅱへの積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。心構えと努力を特に必要とする。保育実習Ⅱの単位を取得するには、保育実習指導Ⅱの単位を取得することを条件とする。		

実習名	**保育実習Ⅲ**	対象学生	現代家政学部現代家政学科
担当者	**山川　宏和**		
実習の概要	保育実習Ⅰにおける入所施設での学びを踏まえ、児童館で実習を行う。社会福祉施設の養護を実際に実践することによって、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。児童のみならず、さまざまな困難をもつ家庭への援助のあり方、関係機関との連携のあり方などを現場で学び、児童福祉の担い手としての力を養う機会とする。 （内容）　1．支援計画について理解し、立案・実践を行う。　2．障害のある子どもの対応や、養護技術について学ぶ。　3．地域や公私の関係機関との連携を学ぶ。　4．家庭への支援やコミュニケーションの方法を学ぶ。　5．保育士の倫理と専門性について学ぶ。　6．養護技術の習得と、個別のニーズに基づいた支援について学ぶ。		
備考	保育実習指導で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習することができなくなることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。心構えと努力を特に必要とする。保育実習Ⅲの単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。		

実　習　名	**給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）**	対象学生	現代家政学部食物栄養学科
担　当　者	**富安　広幸**		
実習の概要	給食経営管理論の講義および実習で学んだ食事の計画や調理、衛生管理等を含めた給食サービス提供に必要な知識や技術を、事業所、福祉施設等の特定給食施設において実践的に体験する。そこで実践活動の場における課題を発見、解決していくことで、これまで学んできた専門的知識とその技術との統合を図り、管理栄養士として具備すべき給食運営に必要な力を体得する。 ○オリエンテーション 　臨地実習先（社会福祉施設、介護老人保健施設、事業所等）による注意事項 ○給食センターの概要と役割 　給食センター、事業所、福祉施設の概要と役割、給食の目的・目標 ○給食システムを学ぶ 　献立作成から提供までの実務業務を体験学習 ○集団の栄養管理 　大量調理特性など ○給食の安全・衛生 　安全・衛生管理、事故・災害時対策の実際 ○衛生管理の実際 　適時適温配膳の実際、施設設備・機器を観察学習、食中毒、異物混入等の防止のための衛生管理、衛生教育など ○食材管理 　食品の発注、検収等の管理 ○作業管理 　調理、配膳、供与、洗浄、消毒、保管等の管理 ○個人対応の実際 　喫食者アンケートや行事食など ○現場を知る（連携、コミュニケーション） 　調理師や調理員とのコミュニケーションの実際 ○実習のまとめ 　報告書作成と反省会		
備　　考	総合演習Ⅰで学んだ臨地実習の留意事項をよく確認しておくこと。 実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。		